SMITHSONIAN INSTITUTION LIBRARIES
3 9088 01109 9884

SHOUT
SHARE
IT

The Botanical magazine

植物學雜誌

v. 6 1892

第六卷

vol. 6

自第五十九號至第七十號

東京植物學會編輯所發行

明治二十五年

QK1
.B33

Sm. 18/XII/27

めだけのあかごろも 頁 34. 211. 261.
めひぢば 頁 169.

も之部

もう(毛)根ノ生長 頁 107.
もう(孟)宗竹 頁 198.
もくたちばな 頁 157.
もくらんノ蕾ニ就キ 頁 240.
もさしろさう 頁 101.
もんぢさう 頁 134.

や之部

やまかんぴよう 頁 167.
やしほ 頁 167.
やく(役)員撰擧當撰者姓名 頁 209.
やぐるまぎく 頁 163.
やはずまんねんぐさ 頁 152.
やふでまり 頁 160.
やまでらばうず 頁 159.
やぶやなぎ 頁 49.
やまゑんごさく 頁 99.
やまおだまき 頁 97.
やまたさきりさう 頁 27.
やまふだう 頁 168.
やまでまり 頁 160.
やまもゝ 頁 161.

ゆ之部

ゆう(有)尾菌(Uromyces)ノ新稱 頁 106.
ゆう(有)用植物小記 頁 159.
ゆきみぎく 頁 155.
ゆきわり草ノ花 頁 144.

ら之部

Lactuca 頁 56.
ら(裸)子植物ノ胚囊內ニ於ケル胚乳ノ發生 頁 40.
らん(蘭)山翁の博識 頁 139.

り之部

りいろしあ(Leersia) 頁 48.
りうせん 頁 168.
りく(陸)中ノ海藻ニ就テ 頁 258.
りごすちかむ(Ligosticum) 頁 51
りばりす 頁 48.
りよう(旅)行談 頁 278.
りよく(綠)藻類 頁 113. 369.

る之部

Rubus 頁 53.

れ之部

れん(蓮)子 頁 260.
れんぷくさう 頁 163.

ろ之部

ろう(老)利兒結兒斯葉 頁 28.
ろどごてんさろん(Rbododendron) 頁 53.
ろどまりあ(Lomaria) 頁 45.
ろにせら(Lonicera) 頁 55.

わ之部

わかめ 頁 259.
わさびノ病害 頁 266.
わたすげ 頁 169.
わたなへさう 頁 7. 43.
われもかうのどゆすかび日本ニ產ス 頁 106.

質問應答

頁 110. 145. 146. 205. 207. 208. 250. 251.

寄送書目

頁 110. 147. 209. 251. 278. 375.

ぷるねす 頁 52. 257.
ぷれくとらんそす(Plectranthus) 頁 54.
ふりつ,みゆーれる 頁 142.
ふんふく 頁 163.

へ之部

べにひば 頁 149.
べにかやらん 頁 48.
へすべりさう 頁 101.
へみのき 頁 160.
Berchemia 頁 51.
へん(變)化ノ原因 頁 352.
へんさう 頁 311.
へん(扁)桃油 頁 349.

ほ之部

ぼあ(Poa) 頁 46.
ぼう(茅)慈姑 頁 399.
ぼう(房)州の海藻ニ就テ 頁 392.
ほうのかはしだ 頁 46.
ほ(補)骨脂 頁 306.
ほざきいちえふらん 頁 48.
ほざきのみゝなぐさ 頁 28.
ほそえかへで 頁 292.
ほそばいぶきしもつけ 頁 348.
ほそばのえんごさく 頁 99.
ほそばのぼたんづる 頁 96.
ほそばやまぶきさう 頁 308.
ほそめ 頁 258.
ほさこ 頁 162.
Polygonum 頁 49. 29.
ほん(本)草字典 頁 374.
ほんめ 頁 258.

ま之部

まこんぶ 頁 259.
まつばさたけ 頁 168.
まつばはこべ 頁 134.
まつらん 頁 48.
まめふぢ 頁 164.
まゆはけすげ 頁 169.
まるばすみれ 頁 30. 134.
まるばぎしぎし 頁 19.
まるみのへびのぼらず 頁 98.
まるみのやまごばう 頁 49.

み之部

みせはやの名語 頁 146.
みづおとぎりさう 頁 25.
みづがらし 頁 100.
みづばごしゆ 頁 157.
みつばてんなんしよう 頁 47.
みづひきぐさ 頁 166.
みつやなぎ 頁 25.
みどりわらび 頁 46.
みゝかきぐさ 頁 28.
みやまいらくさ 頁 109.
みやまおとぎりさう 頁 27.
みやまかうもり 頁 55.
みやまかまつぶし 頁 64.
みやまがんぴ 頁 52.
みやまけまん 頁 99.
みやまみゝなぐさ 頁 32.
みやましゝがしら 頁 45.
みやますみれ 頁 30.
みやまにがうり 頁 54.
みやまひきおこし 頁 180.
みやまふぢき 頁 53.
みやまめぎ 頁 98.
みやまもみぢいちご 頁 53.
みやめぎ 頁 98.

む之部

むかごさんぼ 頁 48.
むかごみどり 頁 48.
むぎがらがやつり 頁 47.
むくみ 頁 164.
むつばあかね 頁 163.
むめ(梅)鉢草ニ於ケル假雄蕊ノ本性ハ如何 頁 29.
むらさきすゝき 頁 109.
むらさきなつふぢ 頁 379.
むらさきまゆみ 頁 179.
むらさきみゝかきぐさ 頁 28.

め之部

めあかんふすま 頁 134.

Paspalum 頁 128. 48.
Berberis 頁 50.
ばあうぶニ就テ 頁 28.
Viola 頁 50.
Hydrocotyle 頁 51.
はい(胚)ニ綠素アリ 頁 29.
ばく(麥)角發見 頁 35.
はくさんもち 頁 155.
ばくちのき 頁 283.
ばくてりあ之効用 頁 360.
ばく(麥)角奴ノ豫防法 頁 105
はく(白)皮綠紫柴 頁 160.
はしぽ 頁 161.
はたかき 頁 164.
は(巴)且杏さ壽星桃 頁 385.
はゝきゞ 頁 166.
はないたや 頁 167.
はな(花)の色香 頁 22. 74.
はな(花)の黑色 頁 433.
はなひりのき 頁 164.
は(葉)ノ刷印法 頁 32.
はへさりばな 頁 66.
Habenaria 頁 48.
はまさぢ 頁 206.
はまにんにく 頁 167.
はまもくこく 頁 166.
はむぶりー氏及ビわりうゐろ氏ノ生藥品及經濟植物學ニ係スル突擊 頁 431. 275. 302. 339.
はやましだ 頁 45.
ばらもみ 頁 168.
はりぎり 頁 167.
はりぶき 頁 162.
はりもみ 頁 168.
はるばりうむ(Herbarium)(植物標)ノ語原 頁 105.
ばん(萬)國理學家人名錄 頁 374.

ひ之部

ひいらきノ神社 頁 366.
ひかげわらび 頁 46.
ひうがつるうめもどき 頁 59.
ひきをこし 頁 294.
ひぐるま 頁 160.
ひこさんひめしやら 頁 134.
Vicia 頁 53.
ひ(被)子植物分類法ノ一大變革 頁 241.
ひせんもち 頁 158.
びたりあ(Vittaria) 頁 47.
ひざらすちす之說 頁 51.
ひなちどり 頁 48.
ひ(批)評英文千島植物論 頁 108.
ひまはり 頁 160.
Hypericum 頁 51.
ひめわさぎりさう 頁 27.
ひめかちまつさう 頁 97.
ひめちやせんしだ 頁 45.
ひめなるこゆり 頁 279.
ひめのやがら 頁 48.
ひめのき 頁 168.
ひめみやますみれ 頁 130.
ひなしやぢん 頁 54.
びやくしんのあかきくらげ 頁 249.
びようやなぎ 頁 24.
びろうどしだ 頁 293. 344.
ぴろうどさむらさき 頁 181.
ひろはこんろんさう 頁 100.

ふ之部

ふうてふさう 頁 102.
ふく岡縣粕屋郡ニ於テ九月中ニ開花ヲ目擊シ得ベキ自生ノ植物 頁 420.
ふくぢゆろう 頁 197.
ぶ(武)甲山ノ樹 頁 318.
ふ(富)士山植物彙報 頁 21. 89. 135.
ふぢ山麓樹木小錄 頁 221.
ふぢつゝぢ 頁 53.
ふぢわちがひ 頁 133.
ふぢ 頁 167.
ふぢ(藤)井氏 頁 306.
ぶちろた(Ptilota) 頁 260.
ふひさらつくか(Phytolacca) 頁 49.
ふひんぶりすちりす(Fimbristylis) 頁 47.
ふやう 頁 165.
ふもさすみれ 頁 129.

つちとりもち 頁 159.
つちもち 頁 159.
つちやまもち 頁 159.

て之部

てい(帝)國大學總長ヨリノ謝狀 頁 148.
てう(朝)鮮國ノ有用植物 頁 105.
てう(朝)鮮釜山浦ノ海藻 頁 117.
Deutzia 頁 52.
てばこわらび 頁 46.
てふとりかづら 頁 32.
てんき 頁 167.

と之部

とう(冬)期中原形質ノ運動ヲ觀察スル方法 頁 102.
とう(東)京植物學會會員ノ卒業論文 頁 374.
とう(荳)科植物ノ種子ニ於ケル無窒素貯蓄養料 頁 30.
とが 頁 168.
とがとつ 頁 168.
とがもみ 頁 168.
ときはかへで 頁 167.
と(土)佐國羊齒科植物目錄增補 頁 127.
とさしもつけ 頁 6.
とさのもみぢさう 頁 115.
とさむらさき 頁 54.
とちのき 頁 168.
とべらノ名義 頁 263.
ともゑさう 頁 25.
とりがたはんせうづる 頁 50.
Trichosanthes 頁 54.
Trichomanes 頁 45.

な之部

なか(中)津川村 頁 323.
ながはのあをつゝらふぢ 頁 98.
ながはのすみれさいしん 頁 50.
ながはのたちつぼすみれ 頁 131.
ながはのつめくさ 頁 133.
ながはのやまぐるま 頁 98.
ながねのあをつゝらふぢ 頁 98.
ながみしゝらん 頁 47.
なたくまけやき 頁 265.
なづなノ異狀果實 頁 241.
なゝ(七)種ニ就テ 頁 41.
なにはづ 頁 162.
なすび 頁 305.
なんぶいぬなづな 頁 101.
なんぶわちがひ 頁 133.

に之部

にう(入)會者姓名 頁 148. 209. 404.
にく 頁 168.
にくけいさう 頁 161.
にくこり 頁 164.
に(二)三藥用植物化學的實驗ニ就テ 頁 404.
にちりんさう 頁 160.
につくわらからまつさう 頁 96.
につくわうまゆみ 頁 159.
にはとこ 頁 166.
にほん(日本)海藻ノ分布 頁 56. 113.
に(日)本產焦燥菌 頁 211.
に(日)本植物新稱 頁 18.
に(日)本植物新名 頁 95. 129. 156. 292.
に(日)本植物報知 頁 45. 128. 169. 180.
に(日)本釀造上ノ植物學的驗究 頁 113.
に(日)本藥局方植物篇 頁 14. 91. 119. 171. 187. 217. 225. 281. 311. 349. 388.

ぬ之部

ぬまがや 頁 167.

ね之部

Nepenthes ハ肉食植物ニ非ス 頁 36.
ねむろかはほね 頁 99.
ねむろはこべ 頁 134.

の之部

のう(農)業植物ノ變化 頁 191.
のう(農)業植物論 頁 152. 191. 352.
のう(濃)原ナル海水ノ海藻ノ成長ニ及ホス作用 頁 195.
のぢしや 頁 164.
のにがな 頁 56.
のぼろぎく 頁 163.

は之部

しよく(植)物學夏季講習會 頁 339.
しよく(植)物學雜誌体裁變更ニ付キテ 頁 8.
しよく(植)物學ノ進化 頁 243. 267. 296. 366. 397.
しよく(植)物學教化書 頁 207.
しよく(植)物葉ノ防雨法 頁 248.
しよく(植)物ニ生ヘル毛ノ話 頁 182.
しよく(植)物ノ模型 頁 272.
しよく(植)物標本(Herbariun)ノ語原 頁 105.
しよく(植)物ノ類化幷ニ蒸散作用 頁 195.
しよく(植)物分類ト解剖學トノ關係 頁 141. 207.
しよく(植)物分類餘錄 頁 60.
しよく(食)用バクテリア 頁 36.
しらたひはこべ 頁 133.
しらつが 頁 168.
しら(白)井光太郎氏 頁 306.
しろいぬなづな 頁 101.
しろばなのいぬなづな 頁 101.
しん(新)刊批評 頁 107.
しん(震)燒木 頁 322. 366.

す 之 部

すい(西)瓜 頁 338.
Swertia 頁 53.
Scutellaria 頁 54.
すごり 頁 167.
すしめ 頁 254.
すゝめのいひ 頁 261.
すゝめのこびゑ 頁 48. 128.
すゝめのまご 頁 261.
Stuartia 頁 134.
Stellaria 頁 132. 133.
Stephanotis 頁 53.
するがらん 頁 274.

せ 之 部

Senecio 頁 55.
Sedum 頁 52.
せつ(雪)上ノ黴菌 頁 249.
せのき 頁 167.
せりはわうれん 頁 96.
せりやはん 頁 162.
せん(川)芎 頁 399.
せんにちぎく 頁 162.

そ 之 部

そくづ 頁 166.
Sophora 頁 53.

た 之 部

たい(退)會者姓名 頁 404.
たい(大)木數種 頁 264.
だいこんさう 頁 164.
たう(當)歸 頁 400.
たうなす 頁 166.
たうなす類果實の氣孔性 頁 39.
たうはくか 頁 162.
たかねたさきり 頁 51.
たちすみれ 頁 50.
たちでんだ 頁 46.
たちれこのめさう 頁 52.
たちはこべ 頁 49.
たにじやかうさう 頁 54.
たびらこ 頁 162.
Daphne 頁 52.
たまからまつさう 頁 307.
たまりんご 頁 17.
Damnacanthus 頁 55.

ち 之 部

ちゑ(枳)椇子 頁 343.
ちがや 頁 167.
ちく(筑)前國植物俗名通知 頁 369.
ち(千)島植物誌 頁 140.
ちゝぶしろかれさう 頁 97.
ちさせかづら 頁 53.
ぢむかでノ產地 頁 32.
ちやんちんの寄生菌 頁 35.
ちやんちんのくろしぶ 頁 214.
ぢんちやうげ 頁 52.
ちんれうゑり一旗那 頁 171.

つ 之 部

つが 頁 168.
つがもみ 頁 168.
つきぬきたさぎりさう 頁 26.
つたもめぢ 頁 167.

けんぼなし 頁 343.

こ之部

こあぜてんつき 頁 47.
こうぐひすかぐら 頁 55.
こう(紅)藻類 頁 117. 259.
こう(紅)皮綠柴 頁 160.
こうまごやし 頁 293.
こねさきりさう 頁 26.
こからすざんせう 頁 51.
ごきす 頁 164.
Cocculus 頁 98.
Cochlearia 頁 101.
こけねさぎりさう 頁 27.
こけしのぶ 頁 128.
こけほらごけ 頁 45.
こしやうばい 頁 158.
こたちすみれ 頁 131
こつ(骨)狀澱粉 頁 19.
こつるむめもどき 頁 159. 292.
こ(蝴)蝶戲珠花 頁 160.
こなでしこ 頁 132
こなら 頁 164.
ごれづ 頁 160.
こばなかへで 頁 292.
こまつなぎ 頁 293.
こみやまみすれ 頁 130.
こむぎのゑんごう 頁 278.
Corydalis 頁 99.
ごりんばな 頁 163.
こんろんさう 頁 100.

さ之部

さい(埼)玉縣下採集土產 頁 315.
Cyperus 頁 47.
さう(皂)角 頁 343.
Saccarobium 頁 48.
さぎすげ 頁 169.
Saxifraga 頁 52.
さくらの氣根 頁 295.
さく(作)物病名 頁 330.
さゝげノ學名 頁 310.
さゝばにんごさく 頁[illegible]99.
Sagittaria 頁 49.
さつ(殺)蟲粉功驗 頁 33.
さつ(殺)蟲粉末 頁 30.
さはぐるみ 頁 169.
Salix 頁 49.
Sarcochilus 頁 48.
さるすべり 頁 168.
さるなめ 頁 168.
Thalictrum 頁 96.
さん(三)月下旬志州鳥羽ノ開花植物 頁 199.
Zanthoxylon 頁 51.
さん(酸)類及ビアルカリ類ノ花瓣色素ニ於ケル反應ノ實驗 頁 231.

し之部

しぎんからまつ片山村ニ產ス 頁 364.
じ(磁)石草 頁 143.
Schizopepon 頁 54.
したきさう 頁 53.
しづ(靜)岡近傍ノありごほしとねず 頁 250.
しづ(靜)岡縣下採集土產 頁 261.
しづ(靜)岡縣產植物錄 頁 284. 334. 407.
しづ(靜)岡縣ノはまばう 頁 250.
こでがやつり 頁 47.
しなのねさぎりさう 頁 27.
しなのき 頁 163.
しなのなでしこ 頁 132.
しなのはうちはかへで 頁 292.
しはいすみれ 頁 129.
しばつこ 頁 167.
しほじ 頁 167.
しほぜ 頁 167.
しまゑんじゆ 頁 345.
しやくじやうさう 頁 162.
しやらめ 頁 259.
しやりんばい 頁 166.
じゆ(樹)木大小 頁 333.
しゆろ 頁 169.
しよく(食)蟲草ノ消化作用 頁 34.
じよう(丈)菊 頁 160.
しようじようだけ 頁 159.
しよう(莊)內植物一般 頁 364 384.

おらんだせんにち 頁 162.
をん(溫)泉中ノ水藻 頁 266.

か 之 部

かい(海)金砂 頁 343.
がう(濠)州產バンクシア、オルナータノ話 頁 372.
かう(香)水木トハ如何ナルモノカ 頁 295.
かうぼく 頁 135.
カシア 頁 94. 121. 184.
かじノ種類 頁 331.
かしは 頁 167.
かつ(褐)藻類 頁 118. 396.
が(芽)ノ保護 頁 248.
Cardamine 頁 100.
Callicarpa 頁 54. 181
カルル、井ルヘルム、フオン、オーゲリー氏の傳 頁 203.
Carex 頁 47.
かわらけな 頁 162.
かん(甘)蔗ノ寄生害菌 頁 196.
かん(甘)扁桃 頁 313.
かんぼく 頁 163.

き 之 部

きうりさう 頁 162.
きうりな 頁 162.
きゝやうかたばみ 頁 156.
きざみばすみれ 頁 131.
き(寄)生植物ノ變遷 頁 195.
きつかうつげ 頁 158.
きづた 頁 163.
きつねさゝげ 頁 165.
きつねのひばし 頁 165.
きばなのはうちはかへで 頁 293.
きばなのはたざを 頁 18. 102.
きふぢ 頁 164.
きむらたけ 頁 168.
ぎやうじやぶき 頁 162.
きやう(杏)仁 頁 391.
きやう(杏)仁水 頁 416.
きよすみひめわらび 頁 46.
ぎよ(魚)類ニ有毒ナル植物 頁 31.
きりしまゑひね 頁 253.
きれはすみれ 頁 131.
きん(近)刋植物書 頁 196.
ぎん(銀)杏ノ化學的性分 頁 337.

く 之 部

くさすきかづら 頁 295.
くさたづ 頁 166.
くさごう 頁 167.
くさびよう 頁 25.
くさめのき 頁 164.
くしやみのき 頁 164.
くしろわちがひ 頁 133
くぬぎ 頁 164.
く(苦)扁桃 頁 351.
く(苦)扁桃水 頁 351.
く(苦)扁桃油 頁 388.
くまだら 頁 162.
くもらん 頁 48.
Krascheninikowia 頁 133.
くらら 頁 165.
Chrysanthemum 頁 19.
Chrysosplenium 頁 52.
くるまばさう 頁 162.
Cleome 頁 102.
くれをめさう 頁 102.
Clematis 頁 50. 96. 170.
くろがねしだ 頁 45. 128.
くろこむぎ 頁 277.
くろまつ 頁 168.
くわい(槐) 頁 206.
くわい(會)員彙報 頁 112.
くわい(會)員死亡 頁 344.
くわう(光)菇 頁 299.
くわにんがやつり 頁 47.
くわ(花)粉ニ付ヘライユ氏ノ研究 頁 37.
くわ(花)粉ノ發育法 頁 29.

け 之 部

Chelonopsis 頁 54.
けん(研)究ノ衝突 頁 144.
げん(顯)花植物分科撿索表 69號附錄 1, 70號 5.
げん(原)形質及感應性 頁 428.

い、ゐ之部

いぎす科 頁 259.
いさ葉ノ色素粒 頁 141.
いす 頁 164.
いろぎく 頁 19.
いろつゝじ 頁 161.
Isopyrum 頁 97.
いたがし 頁 164.
いたごり 頁 166.
いたや 頁 167.
いたやかへで 頁 167.
いちゐがし 頁 164.
いてうニ付テ 頁 148.
いてうノ化學性分 頁 237.
いぬうめもごき 頁 158.
いぬざんせう 頁 165.
いぬすみれ 頁 131.
いぬせんぶり 頁 53.
いぬたうき 頁 51.
ゐ(猪)子吉人氏 頁 273. 376.
いはかんすげ 頁 47.
いはつくばねうつぎ 頁 55.
いはゆきのした 頁 343.
Evodia 頁 156. 157.
いまめがし 頁 165.
Euonymus 頁 159. 179.
Elatine 頁 134.
いらもみ 頁 168.
Ilex 頁 158. 157.

う之部

うすばしらくちづる 頁 134.
うちだしみやましきみ 頁 157.
うなぎつかみ 頁 49.
うみすげ 頁 169.
うらじろうつぎ 頁 52.
うらじろごしゆゆ 頁 156. 157.
うらぼしのこぎりしだ 頁 46.
うるい 頁 167.
うる(得)撫島探撿 頁 107.
うんらん 頁 344.

え、ゑ之部

えい(英)國ノ朝顔 頁 343.
えぞおさきりさう 頁 27.
えぞこすみれ 頁 100.
えぞしやくなげ 頁 161.
えぞのじやにんじん 頁 100.
えぞのたちつぼすみれ 頁 100.
えぞのはまはたざを 頁 100.
えぞはこべ 頁 132.
えぞはたざを 頁 100.
えぞふうろ 頁 156.
えぞふすま 頁 133.
ゑちごひめうづ 頁 97.
ゑさはむし 頁 162.
ゑんじゆ 頁 165. 206.

を、お之部

をう(應)用植物 頁 325.
をがさだけ 頁 168.
をがのり 頁 163.
をか(岡)村金太郎氏 頁 306.
をか(岡)山縣產被害小麥ノ實驗 頁 277.
Oxalis 頁 156.
をき(興)津蜜柑病名 頁 265.
をぢころし 頁 164.
をさぎりさう 頁 24.
をさこしだ 頁 46.
をさこぶだう 頁 51.
おにく 頁 168.
おにせん 頁 167.
おほあみがさだけ 頁 249.
おほいぬふぐり 頁 186. 199.
おほひめわらび 頁 47.
おほくさぼたん 頁 50. 170.
おほくぼしだ 頁 364.
おほくまやなぎ 頁 51. 170.
おほみやすみれ 頁 102.
おほもみぢがさ 頁 55.
おぼばのきはだ 頁 157.
おほばむらさき 頁 181.
おほばめぎ 頁 50.
おほやましろかねさう 頁 97.
おやりはぐま 頁 55.

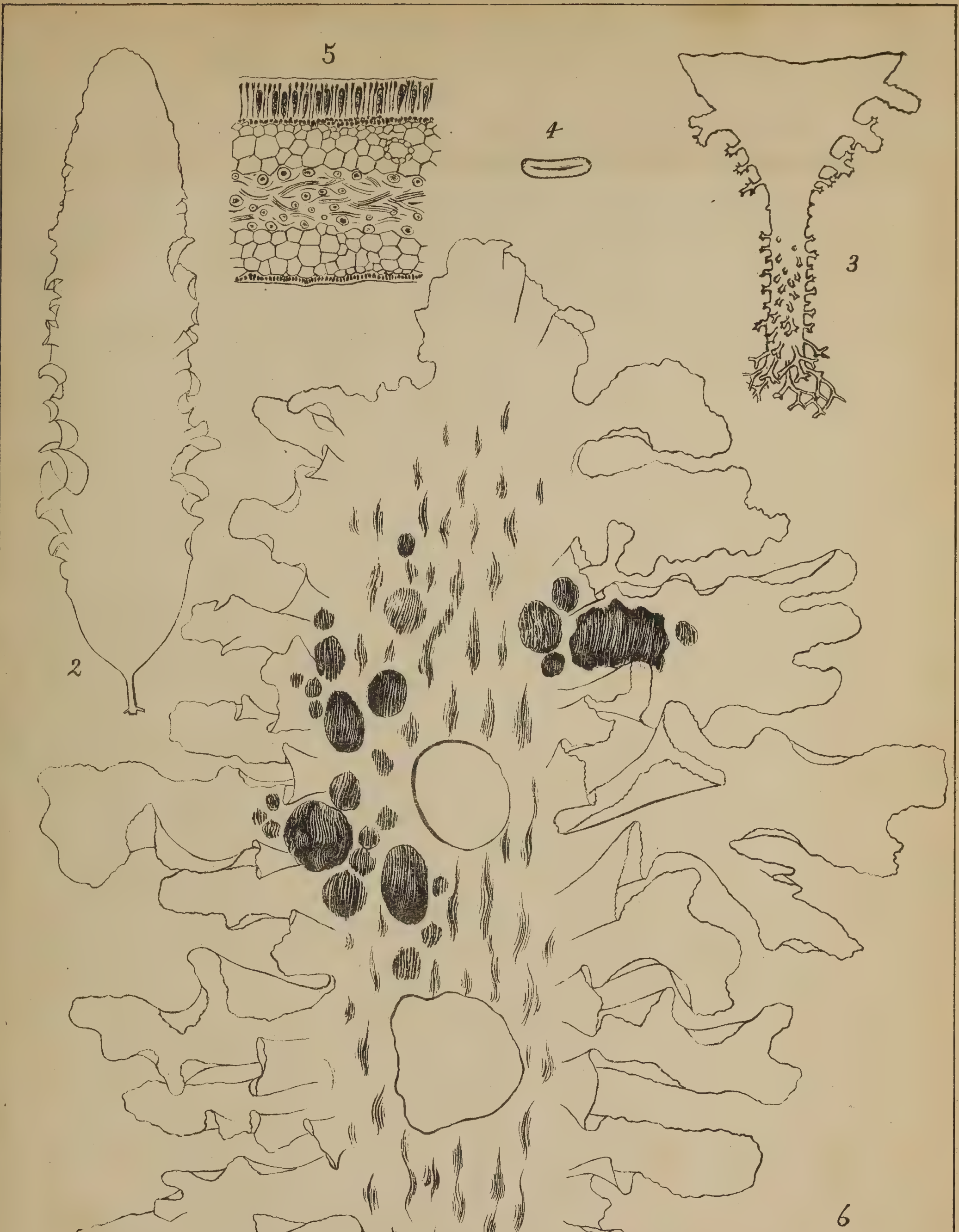
植物學雜誌第六卷目錄

Articles in ENGLISH.

Ecklonia radicosa. By K. Okamura p. 1.
Saxifraga Watanabei, nov sp. By R. Yatabe, Sc. D. 43.
Notes on Japanese Plants. By Mr. T. Makino. p. 45. 180.
Senecio Makineanus, Nov. sp. By R. Yatabe. Sc. D. p. 115.
Ptilota dentata, sp. nov By Mr. K. Okamura. p. 149.
Machilus Thunbergii, Sieb. et Zucc. var. japonica, By R. Yatabe, Sc. D. p. 177.
Euonymus lanceolatus, nov. sp. By R. Yatabe. Sc. D. p. 179.
Puccinia corticioides, Berk. et Broome. By Mr. S. Hori. p. 211.
Calanthe kirshimensis, nov. sp. By R. Yatabe, Sc. D. p. 253.
Polygonatum amabile, nov. sp. By R. Yatabe, Sc. D. p. 279.
Thalictrum Watanabei, nov. sp. By R. Yatabe, Sc. D. p. 307.
Stylophorum lanceolatum, nov. sp. By R. Yatabe, Sc. D. p. 308.
Cladratis Tashiroi, nov. sp. By R. Yatabe, Sc. D. p. 345.
Spiræa dasyantha, Bunge, By R. Yatabe, Sc. D. p. 348.
Milletia purpurea, nov. sp. By R. Yatabe, Sc, D. p. 379.
Eugenia Cleyeæfolia, nov. sp. By R. Yatabe. Sc. D. p. 405.

あ之部

あいぬノ植物名ノ組織 頁 209.
あいぬト日本語對照北海道植物名一斑
附錄 61號頁 1.62號 7.
あゐたで 頁 49. 129.
Ainsliæa 頁 55.
あをがし 頁 135. 177.
あを(青)けや赤けや 頁 332.
あをたで 頁 168.
あをだも 頁 168.
あをてんつき 頁 47.
あをさんぼ 頁 48.
あをぼもみ 頁 168.
あかき 頁 168.
あかしあ(Acacia) 頁 187. 189.
あかつゝじ 頁 53.
あかぬま原 頁 296.
あかばなはうちはかへで 頁 293.
あかまつだけ 頁 328.
あか(赤)松ノ兩性花叢 頁 238.
あかわし 頁 164.
あぎなし 頁 49.
あくまよざ 頁 164.
Actinodaphne 頁 135.
あくちにぢあ(Actinidia) 頁 134.
あさだノ產地 頁 32.
あしかき 頁 48.
Aspidium 頁 46. 47.
Asplenium 頁 45. 46.
Aster 頁 55.
あぜたさぎり 頁 51.
Acer 頁 51. 292. 293.
あぢさゐ 頁 294.
Adenophora 頁 54.
あなめ 頁 259.
あはだん 頁 157.
Abelia 頁 55.
あま(天)城山方言 頁 262.
あまも 頁 169.
Araujia 頁 33.
あらびす(Arabis) 頁 100.
あ(亞)拉畏亞護謨 頁 190.
Arisæma 頁 47.
ありつすむ 頁 101.
Ardisia 頁 53. 133. 134.
あれきさんごりあ產旃那 頁 94.
Arenaria 頁 49.
あんず 頁 391.
あんさくめ 頁 1.



K. OKAMURA, DEL.

ECKLONIA RADICOSA, OKAMURA.

植物學雜誌第六卷第五十九號　（明治廿五年一月十日）

THE BOTANICAL MAGAZINE.

[Vol. VI. January 10, 1892. **No. 59].**

Ecklonia radicosa.

Nom. Jap. *Antoku-me.* アントクメ.

Laminariaceæ.

(Plate I.)

By Kintarō Okamura.

Laminaria radicosa, Kjellman, Jap. Lamin., in Vega-Exped. Vitensk. Iakttag., vol. iv., p. 263, tab. 10, fig. 1.

Root fibrous, repeatedly subdi-tri-polychotomous, densely intermixed and more or less connate, forming a depressed subglobose mass. Stipe very short, solid, compressed, of subequal thickness, presenting in the cross section a row of minute muciferous lacunæ in the submarginal portion, when young mostly without appendages, when old mostly emitting from the margin and sometimes from the surface numerous short root-like processes, which are simple or branched. Frond rather thick, coriaceous, coarsely and longitudinally rugose, with a few muciferous lacunæ in the cortical portion. Young frond lanceolate or oblong-lanceolate, entire and ovate or cuneate at the base, undulate-plicate at the margin. Mature frond ovate in outline, pinnately lobed; the lobes irregular, sometimes simple, sometimes pinnately lobulate, sometimes sub-bifurcate, undulate and crispate at the margin; the basal lobes reduced to short-toothed processes. Sori on both surfaces of the frond, at first distinct and roundish, at length more or less confluent into irregular patches.

This alga grows along the southwest coasts of Japan, chiefly in the provinces of Tosa and Iyo in the island of Shikoku. According to Mr. Kjellman it is also found in the Gotō Islands (Hizen) and at the Cape Nomo (Nagato).

The root forms a mass 2-6 cm. in diameter. The stipe is short, flattened, somewhat convex on one side and concave on the other, usually 0·5-3 cm. long, sometimes 5 cm. long, 5-10 mm. broad and 1·5-2·5 mm. thick. The processes on the upper portion of the stipe are short, but those on the lower are longer and pass into root-fibres The frond when young has a close resemblance to that of *Laminaria;* but as it grows older, lateral lobes are gradually formed, which ultimately attain a length of 20 cm. or more and a breadth of 5 cm. or more, and the whole frond becomes irregularly pinnatifid. The lobes when young are oblong, entire, and rounded at the apex, but become when mature irregularly lobulate. The basal portion of the young frond is entire, but that of the old has marginal toothed processes; the lower lobes of the frond have also similar processes. The sori are formed not only in the median portion of the frond but also at the base of the lobes. The zoosporangia are linear and densely packed among cuneiform paranemata; they are 50-70μ. long and 10μ. broad.

The present alga is collected on the coast of Iyo and Tosa from March to June, and is sold as an article of food under the name of *Antoku.*

Mr. F. R. Kjellman's *Laminaria radicosa* is, no doubt, the same as my plant. I would rather place it in the genus *Ecklonia* on account of the decidedly pinnate division of the frond. Mr. Kjellman also distinguishes two forms of the species; viz., f. *elongata* and f. *latifolia.* The frond of the latter is ovate, cordate or subreniform, and proportionally shorter and broader than that of the former. The latter is perhaps a form growing in shallow water.

The present species differs widely in the character of the frond and the stipe from the three Japanese species of *Ecklonia* thus far known; , viz., *E. bicyclis*, Kjellm., *E. cava*, Kjellm., and *E. latifolia*, Kjellm., all of which are closely allied to each other. The young stage of all these three species is more or less like *Laminaria* in form, but not so much so as that of the present alga. Mr. Kjellman remarks that *Laminaria radicosa* presents a connecting form between the two groups *Saccharinæ* and *Apodæ* on account of the root-like appendages sent forth from the stipe and the base of the frond. It seems to me, however, that among our four species of *Ecklonia*, the present species is most closely allied to the genus *Laminaria.*

Plate I.—Fig. 1, mature frond with sori ($\times\frac{1}{2}$); fig. 2, young frond ($\times\frac{1}{3}$); fig. 3, stipe and basal portion of mature frond (nat. size); fig. 4, cross section of stipe (nat. size); fig. 5, cross section of frond and sorus showing a muciferous lacuna (×95); fig. 6, portion of sorus (×230).

* * *

あんとくめ(Ecklonia radicosa こんぶ科)　第一版

理學士　岡村金太郎

Syn. *Laminaria radicosa*, Kjellman. Om Jap. Lamin. vol. iv., p. 263, tab. 10, fig. 1.

根ハ纖維狀、數回叉狀若クハ許多分岐シ、密ニ相錯綜シ、且ツ多少癒着シテ稍扁圓ノ塊ヲナス、莖ハ甚ダ短ク、實質、扁壓稍同一ノ厚サナリ、莖ノ横截面ニハ皮部ニ小サキ粘液腔ノ一列アリ、幼莖ハ概ネ平ニシテ突起ナケレドモ、老莖ハ概ネ其兩緣若クハ表面ヨリ單一又ハ分岐セル根ノ如キ短キ突起ヲ生ズ、体ハ稍厚ク、革質ニシテ、縱ニ粗ク宿皺ヲ存シ、皮部ニ僅少ノ粘液腔アリ、幼キモノハ披針狀若クハ長楕圓形、基部全緣、卵形若クハ楔形ニシテ、兩緣波狀ニ皺アリ、成長シタルモノハ全形卵圓狀ニシテ、羽狀ニ分裂シ、裂片不整ニシテ、或ハ單一、或ハ羽狀ノ小裂片ヲ有シ、若クハ分叉シ、兩緣波狀ニ宿皺シテ又小皺アリ、下部ノ裂片ハ短小ナル齒狀ノ突起ト成ル、實群ハ体ノ兩面ニ生ジ、始ハ判然タル圓形ノ斑點ヲナセドモ、遂ニ多少相集リテ不整ノ斑紋ヲナス

此海藻ハ本邦西南ノ沿岸ニ生ジ、殊ニ土佐及ビ伊豫ニ多シ、クエルマン氏ノ說ニ依レバ、又五島及ビ長州野茂

崎ニモアリト云フ

根ハ直徑二乃至六「セ、メ」ノ圓塊ヲナシ、莖ハ短クシテ、扁壓、一面稍凹形ニシテ一面凸形ヲナシ、長サ通常半乃至三「セ、メ」、時トシテ五「セ、メ」、巾五乃至十「ミ、メ」ニシテ、厚サ一半乃至二半ナリ、莖ノ上部ノ突起ハ短小ナレ圧、下部ノモノハ稍長クシテ根トナル、体ハ幼キ𪜈ハ外形甚ダこんぶニ類スレ圧、成長スルニ從テ兩縁ヨリ漸ク裂片ヲ生ジ、遂ニ二十「セ、メ」若クハ以上ノ長サニ達シ、五「セ、メ」乃至以上ノ巾トナリ、全体不整ナル羽狀ニ分裂ス、裂片ハ幼キ𪜈ハ長楕圓形ニシテ、全縁、鈍頭ナレ圧、長ズルニ至テ不整ニ小裂片ヲ生ズ、幼キ体ノ下部ハ全縁ナレ圧、老成セルモノヽ下部ハ兩縁ニ齒狀ノ突起ヲ存ス、体ノ下部ナル裂片ニモ亦同一ノ齒狀突起アリ、實群ハ体ノ中央部ノミナラズ裂片ノ下部ニモ生ズ、游走子囊ハ線狀ニシテ、契形ノ毛狀体ノ間ニ密集シ長サ千分ノ五十乃至七十「ミ、メ」、巾千分ノ十「ミ、メ」アリ

此海藻ハ三月ヨリ六月ノ間伊豫土佐ノ海岸ニテ採集シ、あんとくト稱シテ食用トシ販賣ス、曩ニクエルマン氏ノLaminaria radicosa ト命ゼシ者ハ全ク此種ニシテ、氏ハ之ヲこんぶノ一種トナシタレ圧、余ハ其羽狀ニ分裂セルニ依リ、之ヲあらめ屬ノ一種トセリ、氏ハ又此種ニ二樣ノ形狀ヲ區別セリ、即チ f. elongata (長キ方)及 f. latifolia (廣キ方)之ナリ、此廣キ方ノモノハ形狀卵圓形若クハ心臟形又ハ腎臟形ニシテ、長キ方ノモノヨリ割合ニ短クシテ廣シ、此モノハ多分淺所ニ生ズルモノナルベシ

此種ハ其莖ト体トノ性質ヲ以テ見ルニ從來本邦ニテ既ニ知ラレタルあらめ屬ノ三種ト大ニ異ナレリ、三種トハ即チあらめ、かちめ、ひろはかちめ之ナリ而シテ此等三種ノ幼形ハ多少こんぶニ類似スレ圧、此種ノ幼者ノ如クナラズ、クエルマン氏ハ此種ヲ以テ其莖及ビ体ノ下部ヨリ根ノ如キ突起アルニ由リテこんぶ科ノ二部ナ

あんとくめ第一版

ル Saccharinæ 及ビ Apodæ ノ中間ニ立ツモノト論シタレ𪜈、余ヲ以テ考フルニ、此種ハ本邦ニ産スルあらめ屬ノ四種中最モこんぶ屬ニ近縁ナルモノナリ

第一版　第一圖　實群アル老成ノ体（二分一）　第二圖　幼キモノ（三分一）　第三圖　老成ノ莖及ビ体ノ下部（自然大）　第四圖　莖ノ横截面（自然大）　第五圖　体ノ横截面ニシテ一個ノ粘液腔ト實群ヲ示トス（九十五倍）　第六圖　實ノ一部（二百三十倍）

New or Little Known Plants of Japan.

No. 17.

Ryōkichi Yatabe, Sc. D.

Spiræa tosaensis, nov. sp.

Nom. jap. Tosa-shimotsuke.　トサシモツケ.

A much branched shrub with a grey bark, 4-5 feet high; branches subangulate. Leaves alternate, exstipulate, oblanceolate or cuneate, coriaceous, glabrous, 3-4-costate, 3- or sometimes more-toothed at the apex, entire at the margins, narrowed into short petioles at the base, glaucescent and with conspicuous reticulated veinlets on the under surface, ½-1 inch long, 1½-3 lines broad; petioles 1-2 lines long. Corymbs terminating branchlets, 5-20-flowered; pedicels 3-8 lines long; bracteoles on the pedicels linear, 1-2 lines long. Calyx persistent, obconical, 1-1½ lines across in fruit; its lobes 5, deltoid, erect and about ½ line long in fruit. Follicles 5, alternate with the lobes of the calyx, inserted at its base, sessile, glabrous, subfusiform, 3-angled, few-seeded, with the persistent and hardened subterminal style turned outward, dehiscing by the ventral suture, 2 lines long. Seeds pendulous, linear, exalbuminous, pale, 1½ lines long; testa membranaceous, thin.

Specimens of this plant were collected by Mr. Kanō Watanabe on the bank of the river Watari-gawa (渡川) in the province of Tosa, on the 15th. of October, 1891. The specimens have fruit only, but there is no doubt that the plant is a new species. It is related to *Spiræa bracteata*, Zabel (*S. nipponica*, Maxim., in Mél-Biol., vol. xii., pp. 455 et 934), which have orbiculate-obovate or broadly elliptical leaves. It seems to be also allied to *S. mongolica* of Maximowicz (Mél. Biol., vol. xi., p. 216), as may be inferred from his description.

No. 18.

Saxifraga Watanabei, nov. sp.

Nom. jap. Watanabe-sō. ワタナベサウ.

This is a new species of *Saxifraga* discovered by Mr. Kanō Watanabe at Nanokawa-mura in the province of Tosa, on the 12th. of July, 1889. It is nearly related to *Saxifraga tellimoides*, Maxim., but the leaves of the former are more deeply lobed than those of the latter; and the petals of the former are linear, whereas those of the latter are spathulate. In the next number of this magazine a figure and description of the former will be given.

It may be remarked here that the southern part of the island of Shikoku, especially the province of Tosa, which has remained until recently quite unexplored in regard to its botany, has given us a number of new species. Several of these were described by the late M. Maximowicz in the *Mélanges Biologiques*, vol. xii. The two new species here given are also from the same part of the country.

植物雜誌体裁ノ變更ニ付テ

堀　正太郎

明治二十年二月本雜誌發兌以來歲ヲ閱スル六號ヲ重ヌル五十又九其間記事論說ノ精粗紙數ノ多少ナキニシモアラスト雖𪜈幸ニ此學ノ盛運ニ伴侶シテ其發兌ノ時期ヲ誤ラサリシハ讀者ノ已ニ了知スル處ナリ方今日本ノ植物學ハ駸々乎汪盛ノ傾向ヲ呈セリト雖𪜈飜テ眼ヲ日本ノ植物界ニ於テ微細ニ是カ看察ヲ下セハ原野山嶺河海沼湖至ル處尙ホ未タ研究ノ材試驗ノ料依然トシテ人ノ耳目ニ觸レサルモノ夥多而シテ徒ニ放棄シテ顧ミルモノナク外邦人ニ其探驗ヲ專ラニセシメ其攻究ヲ掌握セシムル豈憾ナキヲ得ンヤ嗚呼日本ノ植物學ハ最早外人ノ指導ヲ俟タスシテ獨立獨步スヘキナリ最早彼輩ノ啓發ヲ要セサルナリ歐州ノ新智識ハ自ラ進ンデ求ムルノ智アリ而シテ我ヨリ進ンテ新事項ノ發見ヲ吹聽スルノ才アリ而シテ我植物雜誌ハ現今日本植物學進步ノ衝ニ當リテ之レカ透掖者トナリ之レカ燈明臺トナリ之レカ指南車タランヿヲ期スルモノナリ而シテ又本邦植物學ノ研究考察シタル新事實或ハ成跡結果ヲ報告スルノ機關タルヲ期スルモノナリ故ニ其責任ヤ重大其希圖ヤ雄遠ナリ

此責任ヲ負ヒ此希圖ヲ抱テ今日迄テ發刊シ來リタル處ノ本雜誌ハ初メヨリシテ今日ニ至ル迄体裁ヲ變更スル

ヿ三回ニ及ヘリ第二卷ニ至リ表裝紙ノ變更字數ノ增加ヲナセリ是レ編輯ノ業大ニ整頓スルト共ニ記事ノ增加ニ促カサレタルノ結果ナリ爾來明治二十四年ニ至ル迄漸々紙數ノ增加ヲ來シ第二卷ヲ以テ第一卷ニ第三卷ヲ以テ第二卷ニ第四卷ヲ以テ第三卷ニ比スレハ大ニ其册ノ厚ヲ增加セリ是レ亦此學ノ進歩ニ因由スト謂ハサル可ケンヤ下テ第五卷ニ至リ本紙体裁ニ大改革ヲ行ヘリ則チ日本植物學ノ進歩ヲシテ廣ク世界ニ發揚シ歐州人ノ注目ヲ促サンカ爲メニ特ニ歐文ヲ以テ草シタル論說ヲ掲クルヿトナシ且邦文ヲ以テ草スルモ彼參考引用書目ヲ記載スルニ當リ一文章ノ結尾ニ記スルハ大ニ對照ニ不便ヲ感スルヲ以テ即チFoot noteヲ記スルニ最モ便利ナル記載法ハ之レヲ横書ニスルノ最モ便利ナルヲ以テ遂ニ第五卷ハ之レヲ横書ニシテ歐洲文字ノ如ク左ヲ頭ニシテ右ニ終ルノ法ニ則レリ而シテ又雜誌上如何ナル名論卓說ノアルカヲ知ラシメンカ爲メ歐文ノ目錄ヲ附記シタリ實ニ滿一年間ノ試驗ハ其便否成跡結果ヲ判定スルニ充分ナリキ意外ナル哉本邦人縱讀ニ慣レタルノ眼ハ邦文ノ横讀實ニ不便加フルニ假名字ノ連續セルモノ假令ハ假名字ヲ以テ書キタル植物或ハ人名ノ如キハ恰モ羅馬字雜誌ヲ讀ムノ思アリテ大ニ閱覽上不便ヲ免レス又從來ノ慣習ヲ蹴破シ狂テ邦文ヲ歐化セシメントシタルカ故ニ活版印刷上ニ當初大ナル不便ヲ感セリ又數字ノ一ト「—」(タッシユ)假名ノ「ー」ト共ニ混淆スル事尠カラス斯ノ如キ類例擧テ數フ可カラザルナリ此等ノ不便不体裁ノ依テ起ル所以ハ一ハ縱文ニシテ一ハ横文ナリ一ハ右ヨリ初メ一ハ左ヨリ初ム之レヲ一定ノ規矩準繩ニ從ハシメント欲セハ必ス此ノ不便不体裁ニ傾クヤ炳乎トシテ明晰ナリ此故ニ歐文幷ニ邦文ヲ一册ノ内ニ綴ラント欲セハ必ス一方ニ其常態ニ變更スルノ已ムヲ得サルモノアリ本紙ハ外國人ニ日本植物學ハ如何程ノ進歩ヲ來シタルカ如何ナル事項ヲ考究シツヽアルカヲ知ラシムルノ方針ヲ採レリ故ニ歐洲有名ノ學術雜誌特ニ植物學ニ關スルモノ其英タリ米タリ佛タリ

獨タルヲ問ハス一時ハ凡ソ三十有餘ノ雜誌社ニ向テ本雜誌ノ寄送ヲナセリ如斯ノ主義ヲ以テ終リノ一年ヲ經過シタルニ大ニ其功驗ノ顯著ナルヲ發見セリ外國雜誌上ニ我植物雜誌目錄轉載ヲ見ル一ニシテ足ラス故ヲ以テ續々ト外國書店或ハ一私人或ハ植物園ヨリシテ本雜誌ノ注文ヲ受ケ又ハ交換ヲ申込ムモノ甚タ多シ然レドモ歐文ノ目ヲ掲載スルニ付キテハ會員中異論アリ其論點ノ大略ヲ掲クレバ「甲曰其歐文ニ草スルモノニ至リテハ素ヨリ之ヲ日本ノ小天地ニ跼蹐シテ滿足スルモノニアラズ大ニ世略ニ廣告發揚セント欲スルノ意ニ出テタルモノナレバ其目錄ヲ掲載スルヲ可トス然レドモ邦文ヲ以記載セルモノニ至リテハ目錄ノミ歐文ナルモ何ノ益カ是アラン寧譯サヾルヲ勝レリトス乙曰假命文ハ邦語ナルモ其目錄ヲ歐文トナシ掲出スル何ノ妨カアランヤ」ト余ハ其是非ヲ論スルヲ欲セズ此等ハ一々寄稿者ノ意ニ放任シテ目錄中ニ記載スルト否トハ編輯者自身ニ其責任ヲ免ル事トセリ

予ハ屢々本雜誌カ常ニ外人ニ研究事蹟ノ結果ヲ吹聽スルノ主義ヲ採ルヿヲ明言セリ然リ而シテ予ハ又讀者ニ向テ其誤解ナカランヿヲ一言注意セサル可ラス本雜誌ハ時ニ或ハ分類ノ論説ニ富ムヿアリ爲メニ讀者ハ一時本雜誌ハ生理解剖ヲ捨テヽ專ラ分類ノ植物學雜誌ト變シタル如ク思考セサルモノナキニアラス是レ大ナル誤認ニシテ寄稿者ノ論文偶然分類ニ關スルモノ多キヲ致シタルノミ如此遍頗ノ論文ハ成ルヘク編者注意シテ紙上ヲシテ乾燥無味ナラサランヿ常ニ苦慮シテ已マサル處常ニ讀者ト共ニ紙上燦然爛熳ノ花ヲ咲カシメンヿヲ勉ムル者ナリ而シテ本雜誌ハ前ニ謂フ如ク本邦植物學ノ指導者トナリ透掖者トナランヿヲ期スルモノナルカ故ニ紙上必ス普通理想的ニ解ス可キ所ノ論文ヲ掲載シ以テ普通植物學ヲ注入的ニ知ラシメント欲スルモノナリ

以上ノ不便ヲ以テ以上ノ理由ヲ以テ以上ノ主義ヲ以テ本紙第六巻ヨリシテ其体裁ヲ變更セリ其可否ハ讀者ト共ニ試驗ノ上判斷ヲ俟ツノミ

ヒドラスチス之説

會員　澤田駒次郎

ヒドラスチスハ羅甸名ヲHydrastis Canadensis, Linn. 又Warnera Canadensis, Miller. ト稱シ毛茛科ニ屬スル細小ナル宿根草本ニシテ花ヲ有スル莖ハ直立圓柱形ニシテ高サ五六寸乃至尺餘下部ハ褐色細小ノ鱗片ニ因テ覆ハレ上部ハ毛茸ヲ帶フ而シテ其毛茸ノ先頂鋭尖ニシテ下方ニ鈎曲ス莖葉二片下方ノ一片ハ柄ヲ有シ上部ノ一片ハ之ヲ缺如ス葉面ハ其外線圓形ヲナシ五個乃至七個ニ缺刻シ其截片不整ノ鋸齒ヲ有シ濃緑色ヲ呈シ脉管著明ニシテ毛茸ヲ帶ブ基立葉ハ其柄長クシテ頂端一葉ヲ有シ其形チ殆ンド同一ナリ花ハ細小ニシテ直立シ莖ノ頂端一花ヲ開ク蕚三片形チ均一ニシテ屋瓦狀ニ並列シ其色緑白花瓣狀ヲナシ開花ノ後直チニ墜落シ花瓣ハ缺如ス多雄蘂花床ヨリ生シ蕚片ト殆ンド其長サヲ均フシ花絲扁平ニシテ其葯細小內向シ花時分綻シテ花粉ヲ吐出ス雌蘂十二個餘實礎ハ單房ニシテ二個ノ卵子アツテ其內壁ニ附着シ外面毛茸ヲ帶ブ花柱矮短柱頭扁平ニシテ二個ニ缺刻ス果實ハ漿果ニシテ細小形チ長圓其頂端花柱ヲ存シ稔熟シテ鮮赤色ヲ呈シ數個聚集シテ長圓形ノ果頭ヲナス種子二個罕レニハ一個倒卵圓形ニシテ硬固黒色ヲ呈シ光輝アリ胚子ハ細小ニシテ許多ナル肉質蛋白中ニ在リ地下莖ハ鮮黄色ニシテ地中ニ横走シ不整ノ間節ヲ有シ其上面ニハ莖ノ痕跡ヲ存シ裏面ヨリ鬚根ヲ生ス

本植物ハ北亞米利加ニ自生シ加拿他ヨリ合衆國北部ニ蕃殖シ殊ニ若耳治、南喀爾勒那、北喀爾勒那ノ押罷拉旣

俺山脉中ニ多ク春月莖ヲ抽キ開花シ第七月ニ至ニリテ果實稔熟ス形チ覆盆子ニ似タリ此時期ニ方リ充分發育シタル葉ヲ有ス其幅五六寸乃至七寸五六分其ノ形狀稍々蓬虆ニ似タリ

藥品　ヒドラスチス根　Rhizoma Hydrastis.

ヒドラスチス根ハ本植物ノ根ニシテ合衆國藥局方ニハ藥用トス其根ノ色彩ニ因テ通常之ヲ Yellow root, Orange root, Yellow puccoon, Golden seal 等ノ名ヲ以テ販賣ス

性狀　藥用及ヒ工業ニ用フル部分ハ通常根ト稱スレトモ之ヲ精密ニ言ヘバ鬚根ヲ有シタル地下莖ナリ而シテ坊間ニ鬻賣スルモノハ鬚根ノ一部ハ此莖ニ附着シ他ノ一部ハ脫離シテ混和ス

本品ハ通常單一ニシテ捩轉シ結節ヲ有ス故ニ極メテ不整ノ形狀ヲ顯ハシ其上面稍々圓形ニ膨起ス是レ莖ノ殘痕ニシテ鱗痕ト稱シ間々殘莖ノ一部分ヲ存スルコトアリテ其長サ四分餘乃至一寸二三分其平均八分五厘許厚サ六七厘乃至四分二三厘平均二分餘罕レニハ分岐シ外面縱皺ヲ有シ其ノ裏面ヨリ數多ノ鬚根ヲ生ズ又上面及ヒ兩側ニモ多少鬚根ヲ有ス而シテ之ヲ有セザル部分ハ黃色隆起ノ鱗痕ヲ現出ス今新鮮ナル根ヲ橫斷シ「ルーペー」ヲ以テ檢スレバ其中心鮮黃色ヲ呈シ之ヲ圍繞スルニ稍々濃色ノ一帶ヲ以テスルヲ明視スベシ是レ脉管ヲ有スル木部ニシテ其外部ニ於テ黃色ノ皮部ヲ有ス又其截片ヲ顯微鏡下ニ照シ檢スレハ木部ニハ數個ノ脉管ヨリ成レル十個ノ放線狀脉管アツテ鮮黃色ヲ呈シ其各間ニハ髓線ヲ有シ皮部モ亦同數ノ髓線アリ又根ノ組織中ニハ細小ナル澱粉ノ存在スルヲ認ムベシ

鬚根ハ長サ一寸六七分乃至二寸五六分通常針大ニシテ多少捩轉シ外面黃褐色ヲ呈シ或ハ平滑或ハ縱皺ヲ有シ其破碎面ハ緻密ニシテ內部ハ鮮黃色ヲ呈シ其年限ニ因リ褐色ノ雲影ヲ現ハシ稍々濃色ト爲ル其橫斷面ハ細小

ナル木部ヲ有シ之ヲ被覆スルニ皮部ヲ以テス

ヒトラスチス根ノ新鮮ナルモノハ黄褐色ヲ呈シ麻醉臭ヲ帶フト雖𪜈久時之ヲ貯藏スレハ濃褐色ト爲リ年ヲ經ルニ從ヒ其臭氣大イニ消失シ稍々甘草ニ類スル特異ノ香氣ト阿片ニ似タル弱キ苦味ヲ有ス而シテ其破碎面ハ緻密ニシテ樹脂狀ヲ顯出ス但シ鬚根ノ氣味ハ本根ニ同ジ

成分　ヒドラスチス根ノ主成分ハ二種ノ亞爾加魯乙度ヨリ成ルモノトス Durand, Tilden, Mahla 諸氏等ノ分折ニ據レハ一ハ「ベルペリア」ニシテ一ハ「ヒドラスチア」トス又近來 A. K. Hale 氏ハ上記二種ノ他ニ一種ノ亞爾加魯乙度ヲ發見シ其成蹟は John C. Burt 氏ニ因テ確定セリ又 Perrinus 氏ノ試驗成蹟ニ據レバ本根中ニハ「ベルベリア」大約四「ペルセント」「ヒトラスチア」一、五「ペルセント」ヲ含有スト

「ベルベリア」ハ尋常伏牛花中ニテ初メテ發見セラレ本根中ニ存在スルノミナラス各種植物殊ニ黄連、古倫僕、等其他毛莨科目木科防己科等ニ屬スル植物ノ黄色苦味ノ物質中ニ存在ス

「ヒドラスチア」(Hydrastia) ハ稜柱方形ノ結晶ニシテ光輝ヲ有ス其純粹ノモノハ無色無臭殆ンド無味ニシテ水ニハ殆ンド溶解セズ酒精、依的兒、哥囉仿謨ニハ容易ク溶解ス又酸類ト抱合シテ鹽類ヲ生ズ其鹽類及ヒ「ヒドラスチア」ノ溶液ハ苦味苛辣ナリ但シ「ヒドラスチス」根ノ苦味ナルハ此二種ノ亞爾加魯乙度ニ基因ス第三ノ亞爾加魯乙度ハ「キサンゾプシン」(Xanthopucin) ト云フ但シ合衆國ニテ「ヒトラスチン」(Hydrastin) ト稱スルモノハ硫酸「ベルベリア」ト硫酸「ヒドラスチア」ノ混和物トス

混和物　薑黄根ヲ混和スルコトアリ依的兒ヲ加ヘ振盪シ後チ依的兒ヲ除去シ那篤倫滷液ヲ加ルモ變化セズ暗赤色ヲ呈スルモノハ薑黄ノ徵トス又依的兒ニテ濕シタル後苛性加里滷液ヲ注クモ亦此反應ヲ呈スト其他洋種

青木香、血根、剝度比爾謨根、洋種鬼督郵根等ヲ混和ス是レ恐ラクハ採收ノ際偶然ニ混淆セシモノナラン

醫治效用　強壯ノ一良藥トス此藥粘液膜ニ特異ノ衝動ヲナスニ因リ輕瀉、發汗、利尿ノ一藥トス或ハ截切虐藥トシテ規尼涅ニ代用シ或ハ古倫僕ノ如ク強壯藥トス又便、秘、痔疾ニハ輕瀉藥トシ加答兒、白帶下、淋疾等ノ如キ粘液膜ノ諸症ニハ變質藥トス此等粘液膜ノ諸病ニハ浸劑又ハ煎劑ヲ用フ又本藥ハ注射藥トシ用フルコトアリ

本根ハ近來貴重スル所ノ新藥ニシテ麥角ニ代用シ頗ル効驗アリト云フ

ヒトラスチス根ハ藥用ノ外北米西部ノ土人ハ顏料トス又 Durand 氏ノ說ニ據レハ此根ヲ以テ染色シタル麻布ハ鮮黃色ニシテ褪色スルコトナシ又重鹽化錫ト混和シ製シタル本根ノ「ラック」ハ油繪ノ具及ビ水繪ノ具トシテ大イニ用フト

第五十八號正誤　(403)ノ第七行廿八字目務ハ稀ノ誤第十一行四字目背ハ基ノ誤

日本藥局方植物篇　（前號ノ續キ）

會員　澤田駒次郎

第五十八號正誤　(404)ノ第廿二行十五字目スノ字ノ下モノ字ヲ脫ス(405)第一行一字目間ノ前中ニ拔爾撒謨ヲ含有ス而シテ此管ハノ十六字ヲ加フ同二字目マノ字ノ下直徑ノ二字ヲ脫ス同十字目リノ字ノ下或時ハノ三字ヲ脫ス同廿八字目困ハ因リノ誤(407)第十二行六字目ノハパノ誤

生理的作用　骨湃波拔爾撒謨ヲ過量ニ用ヒ或ハ其用ヒヲ繼續スレハ消化ヲ阻メ食欲ヲ減シ噯氣、惡心、下痢ヲ生シ尿液中ニ水分ヲ増加シ濃色トナリ稍々香氣ヲ帶ヒ多少溷濁シ其表面ニ虹霓彩ノ膜ヲ生ズ是レ樹脂ノ存在

スルニ基因ス此尿液ヲ取リ之ニ硝酸ヲ加フレハ溷濁ノ沈澱ヲ生ス此沈澱ハ酒精ニ溶解セザルニ因リ其蛋白質ニアラザルヲ知ルベシ又大量ニ用ヒテ繼續スレバ膀胱ヲ刺衝シ尿液ノ排泄ヲ頻繁ナラシメ時トシテハ徵熱ヲ起シテ出血スルコトアリ

骨湃波拔爾撒謨ハ肺及ヒ皮膚ヨリ蒸發スルモノヽ如シ其肺ヨリ發散スルモノハ呼吸ノ際發出スル香氣ニ因テ知ルヲ得ベシ又皮膚ヨリ蒸發スルトキハ間マ薔薇疹等ヲ發スルヲ以テ其徵候トス又華澄茄ニ伍用シ用フレバ一種ノ疹ヲ生ズ又本品ハ乳汁ヲ混和シテ分泌ス故ニ乳婦ニ服用セシムレバ乳兒其乳汁ヲ嫌惡スルコト有リト云フ

骨湃波拔爾撒謨ハ罕レニハ痙攣ヲ發シ諸筋强直間マ痿痺スルコトアリ但シ皮膚及ヒ神經ヲ刺衝スルハ揮發油ニ基因シ粘液膜ノ變狀ハ樹脂及ヒ酸ノ存在ニ因ルモノトス

骨湃波拔爾撒謨ノ利尿藥トシ効驗アルコトハ Monro 氏始メテ發見シ爾後一千八百二十七年ニ於テ Richter. Dixon 諸氏之ヲ驗查シ一千八百三十二年ニ於テ Wibmer 氏之ヲ確定シ其後 Pereire. Strumpf. Garrod 諸氏其確實ナル報告ヲナシ一千八百六十九年以來 Duffin. Thompson. Lineing 諸氏臨床講義錄ニ記載シ報告セリ一千八百七十三年 Wilks 氏ノ說ニ據レバ樹脂ヲ用フルトキハ骨湃波拔爾撒謨ヲ用フルヨリモ下痢ノ効ヲ奏スルコト著ルシト又一千八百七十五年 Dixon氏ハ水腫病ニ三回試シニ一回ハ八写半ヨリ八十二写ニ增加シ一回ハ十五写ヨリ百八写ニ增加シ一回ハ八写ヨリ九十三写ニ至リ効驗アリト又 Frederick Taylor 氏ハ實驗上ヨリ其効驗アルコトヲ決定セリ氏ハ六十餘回各種ノ水腫病ニ樹脂ヲ試用セシト云フ

醫治効用　骨湃波拔璽撒謨ノ衝動藥トシ効驗アルハ的列並底油ニ同ジト雖ㇾ本藥ハ主トシテ粘液膜殊ニ泌尿

器ヲ刺衝ス又胃ニ投ズレバ呼吸及ヒ尿液ノ香氣ニ因リテ之ヲ撿出シ得ルナリ但シ尿中ニハ樹脂酸（Resinous acid）ヲ存在ストス又肺臓弛弱シテ水ノ壅滯スル因リ發スル胸水ニ用ヒテ肺ヲ健運シ停水ヲ驅散ス又 Carter 氏ハ心臓及ヒ腎臓健全ナル腹水病患者ニ利尿瀉下ノ藥劑ヲ投スト雖ドモ効驗ナシ依テ本藥ヲ投シテ兩度マテ効ヲ奏ストス又氏ハ一脚ノ皮膚赤斑ヲ患ヒ大イニ困苦シ他ニ病徵ナキ一男子ニ用ヒテ効驗アリ氏ハ七瓦ヲ一日三回ニ用ヒシニ服用後二十四時間ハ尿量ヲ增加スルコト二十二弖ヨリ三十八弖終ニ八十二弖ニ至リ其比重ハ一〇一九ヨリ一〇一四ニ減少シ固形分ハ一六、二五瓦蘭謨ヨリ四〇、四八瓦蘭謨ニ增加シ其ノ增量中一八、四八瓦蘭謨ハ有機物ニシテ二二、〇瓦蘭謨ハ無機物ナリ故ニ尿量ハ四倍ノ增加ニシテ固形分ハ五分ノ四即チ一八、〇瓦蘭謨ヲ增加ストス遠西醫方名物考ニ云此ノ拔爾撒謨ハ性熱シテ衝動シ的列並底那油ニ代用ス、故ニ一切焮衝ヲ兼ル病、並ニ多血ノ症アル者ハ甚ダ害アリ又妄リニ肺病欬嗽等ニ多ク用レバ發熱苦悶シ或ハ吐血ヲ誘發スルヿアリ、唯粘液質ノ勞瘵或ハ粘液壅滯スルヨリ發スル肺病ニ大効アリ是レ肺ノ纖維弛弱〆其運營、衰弊セルヲ衝動〆健運シ壅滯セル粘液ヲ驅散スレハナリ、此症ハ毎服十滴ヨリ四十滴マテ其症ニ隨テ加減シ毎日三四次、適宜ノ飲液ニ點服ス、ベシ」トアリ〇淋疾、白帶下、腎、膀胱、尿道ノ膿アル諸病ニ特効アリ然レドモ戒愼シテ施スベシ殊ニ淋疾、膀胱炎ニハ急性焮衝ヲ抑制シ其毒ヲ驅除シテ後用フルニアラザレハ其毒ノ排泄ヲ濾閉シ或ハ焮衝ヲ增發スルノ害アリト又曼性氣管枝炎ノ特効藥トシ肺及ヒ氣道ノ分泌過量ナル症ニ効アリ〇痳瘋、乾癬等曼性皮膚病、直腸粘液謨ノ諸病ニ殊効アリ Garrod 氏ノ說ニ據レハ肝臓收縮ヨリ發スル腹水病ニシテ蛋白尿ヲ分泌セザル症ニ効驗アリト或云急性腎炎及ヒ曼性腎炎ヨリ發スル水腫病ニハ効驗ナシ故ニ其利尿ノ効驗アルハ腎臓ノ組織ヲ刺衝スルニ因ルモノトス

廿七　タマリンド

羅甸名　Tamarindus indica, *Linn.* Syn. Tamarindus officinalis, *Hook.*

荳科

印度等ニ自生スル喬木ニシテ高サ六十尺乃至八十尺枝杪ヲ繁茂シ幹ノ皮部ハ粗糙ニシテ暗色ヲ呈シ若枝ハ其皮部或ハ平滑或ハ微ニ毛茸ヲ帶ブ葉ハ偶性翼狀ニシテ互生シ其長サ二寸五六分乃至三寸四分餘小葉八對ヨリ十六對ニ至リ對生シ長サ四分二三厘乃至八分四五厘葉柄ヲ有セズ形チ長圓平緣ニシテ先頂鈍ク基部不同其質厚ク裏面ハ脉管著明ニシテ葉柄椎ヨリ斜メニ生ジ稍々重疊ス托葉ハ線狀ニシテ細小直チニ墜落ス花梗椎ハ側方ニ在ル短キ枝杪ノ葉腋及ビ頂端ヨリ生ジ十二三花ヲ着キ弛緩ナル總狀花ヲ綴ル萼四出其基部狹隘ニシテ漏斗狀ヲ爲シ其截片卵披鍼形ニシテ平緣紫赤色ヲ呈シ開展ス上部ノ一片ハ極メテ大イナリ是レ二片ノ互ニ癒着セシモノトス花瓣三片其一片ハ上部ニ位シ他ノ二片ハ左右ニ在リテ形チ長圓若クハ卵圓萼ノ截片ト殆ンド其長サヲ均フシ白色或ハ暗黃色ニシテ其脉絡鮮赤色ヲ呈シ上部ノ一片ハ狹隘ニシテ萼ノ截片ト附着シ其邊緣間マ捲縮ス而シテ雄蕊ノ前面ニ發育セザル二個ノ花瓣アツテ細小ナル針狀ヲナス雄蕊ハ花絲ノ下部互ニ附着シテ鞘狀ヲナシ其上部ハ游離シ萼ノ筒口ヨリ生ズ其三個ハ發育完全ニシテ花絲延長シ葯ハ長圓形ヲナシ花時縱線ニ因テ分綻シ花粉ヲ吐出ス發育不完全ナルモノハ之レト互生シテ花絲ノ痕跡ヲ存ス實礎ハ單房ニシテ數個ノ卵子ヲ有シ稍々上方ニ彎曲ス花柱延長シテ鈎曲ス花後莢果ヲ結フ殼質ニシテ懸生シ稍々扁平長サ二寸五六分乃至五寸餘幅八分四厘許通常彎曲シ稍々平滑其色暗褐ニシテ攎古聿ニ似タリ子殼ハ非薄疏脆分開セズ而シテ其內部ハ柔軟ナル果肉ヲ以テ充塞シ果肉ノ外面ニハ強靱分岐ノ纖維樣脉管束三條ヲ有シ基部ヨリ起リ上部

ニ走行ス種子ハ形チ方圓扁平中央凹陷シ平滑ニシテ紫褐色チ呈シ各々果肉ノ空虚中ニ在リ胚子ハ大イニシテ子葉厚ク根芽ハ細小ニシテ蛋白質チ有セズ種子ノ數ハ莢ノ大小ニ因リ二個ヨリ八個ノ差異アリ

本植物ハ各熱帶諸地ニ產シ殊ニ亞弗利加ニ多ク努比阿、阿比西尼亞等尼羅河上沿岸ノ諸國塞內加爾、ザムビシ、ランド（Zambesi-land）等ニ蕃殖ス又印度、爪哇、濠洲、太平洋諸島ニモ自生スト亞米利加ニ在ルモノハ移植セシモノヽ如シ然レトモ現今牙買加ヨリ多量ノ答滿林度チ產出ス其他西印度諸島、亞米利加中部、巴西ヨリモ亦產出スト

本植物ハ現今温暖ノ諸地ニ大イニ栽植ス是レ子實チ得ル爲メニアラズ土地裝飾ノ爲メナリ

本植物ハ佳綴ニシテ花時芳芬タル香氣ヲ發シ夏時炎熱ノ候日光ヲ遮斷シ樹陰チ生スルチ以テ栽植ス余ハ明治十九年五月三十一日種子チ得テ播下スト雖ﾄﾓ發芽セザリキ

（以下次號）

日本植物新稱

松村任三

Hesperis lutea, *Mx.*

キバナノハタザホ

信州乘鞍山麓ニ產ス

此草ハ本年夏會員藤井健二郎君ノ同地ニ於テ發見セル所ニ係ル

マキシモウヰツチ氏（露國ノ植物家）ハ曾テ相州箱根地方ニ於テ之チ撿出シ以テ此學名ヲ附シタリキ而シテ爾來數十年未之ヲ再見スルモノアラズ今信州ニ於テ之ニ會フ珍奇ナル品トイフベシ ハナハタザホ ハ紅花ニシテ狹葉、キバナノハタザホ ハ黃花ニシテ濶葉ナリ共ニ十字花族ニ屬ス

Sceptrocnide macrostachya, *Mx.*

ミヤマイラクサ　日光ニ產ス

近道路傍ニ產セズ葉形穗狀イラクサニ彷彿タリ

Chrysanthemum marginatum, *Miq.*

イソギク　相州江ノ島、三崎等海邊ニ產ス

Miscanthus purpurascens, *Anders.*

ムラサキスヽキ　筑前粕屋郡大川村ニ產ス

長野菊次郎君ノ採集ニ關ル尋常ノスヽキニ似テ花毛渾テ紫色ナリ

Oxyria reniformis, *Hook.*

マルバギシギシ　越中立山ニ產ス

蓼科ニ屬ス葉ハ截頭腎臟形ニシテ其基底ニ膜樣ノ托葉ヲ具フ奇品ナリ明治廿三年八月大島多計比古氏ノ採集ニ關ル

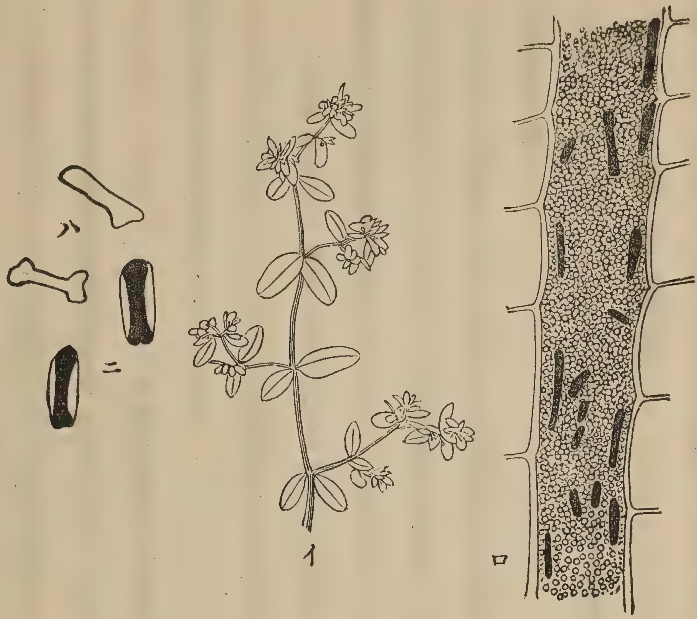
骨狀澱粉

大久保三郎

はなきりん若クハなつとうだいノ葉ヲ切リ又ハ莖ニ傷ヲ付スレバ共ニ白乳出ス、乳ヲ硝子板（スライドグラス）上ニ移シ小量ノ水ヲ加ヘ最薄キ硝子板（デッキグラス 18 mm.）ニテ覆ヒ五六百倍ノ顯微鏡下ニ撿スレバ乳汁中ニ一種奇形ノ者ヲ見ルベシ其狀恰上膊骨ニ似タリ亦莖ヲ縱斷シ以テ細薄片ヲ作リ同上ノ如クシ顯微鏡下ニミルベシ其組織中

骨狀澱粉

ノ乳管內ニ骨狀ノ物躰ヲミルヿ切口ヨリ流出セシ乳中ニ存セシモノト異ナルナシ若之レニ稀薄ナル「ヨード」液ヲ加フレバ菫菜色ヲ呈スルヿくず、じやがたらいも等ノ澱粉ニ於ルガ如シ（「ヨード」濃液ヲ加フレバ始メハ菫菜色ヲ呈スルモ瞬間ニシテ殆黑色トナルハ何レノ澱粉モ同ジ）故ニ其澱粉ナルハ敢疑フヿナシ、其充分發育セシモノヽ形骨狀ナルヲ以テ骨狀澱粉トイフ



骨狀澱粉ハ前述ノ二植物ニ止マルヤ曰然ラズ、ソモ乳管ヲ有スル植物ニシテ大戟科中ノ植物ニ於テ見ルコトヲ得ベシ故ニ之ヲ撿サント欲スル者ハ宜シク其地方々々ノ便宜ニヨリ最モ得易キモノニ就キテミルベシ

因記ス　たんぽぽ、のげし其他菊科ニ屬スル植物中ニハ乳管ヲ有スルモノ多シ又白前科、瞿粟科中ノ植物ニ在リテモ乳管ヲ有スルモノ少シトセズ然レ𪜈余ハ未嘗テ大戟科植物外ニ此骨狀澱粉ノ存スルヿヲ聞カザルナリ

此ニ掲載セル植物ハにしきさう（ちゝくさ、あかくさ、さうあみさう等ノ方言アリ）ト稱スル普通ノモノナリ本植物ハ庭園田野ニ生ズル纖弱ナル小草ニシテ根際ヨリ多枝ニ分レ其枝ハ開出シ傾臥ス、葉ハ對生楕圓ニシテ細鋸齒アリ、花ハ腋生ニシテ葉腋ニ一花ヲ生ズ、莖ニ毛茸アリ（本植物ノ最盛ナルハ秋季ナリ）

圖中(イ)ハ自然形植物ノ一部分(ロ)ハ乳管及ビ骨狀澱粉ノ乳汁中ニ存スルモノニシテ「ヨード」液ノ反應ヲ澱液ニ呈セシ狀(ハ)ハ骨狀澱粉二個ヲ示セシモノ(ニ)ハ澱粉形成躰ノ存スルモノナリ此物ハCrüger氏ノ所謂中間物(Uebergangssubstanz)ト稱スルモノニシテ頗ブル觀難キモノトハ氏ノ說クトコロナリ然レ𪜈Potter氏ノ說ニ依レバ成長部ノ尖端ニ近キ大戟屬ノ乳管內ニ在リテハ容易ニ撿スルコトヲ得トイフ、元來此物ハ「ヨード」液ヲ加フルモ反應ヲ呈スルヿナク而シテ水アヘハ膨脹ス余ハにしきさうノ莖ヲ切リ其切口ヨリ流出セシ白乳ヲ子板ニ採リ「デッキグラス」ニテ覆ヒ水ヲ加ヘ然ル後水ノ稍々黃色ヲ呈スル立ニ「ヨード」液ヲ加ヘシニ澱粉ハ美麗ナル菫菜色トナリ澱分形成躰ヲ明瞭ニ觀ルヿヲ得タリ（最充分ニ發育セシモノニ在リテハ澱分形成躰ヲミズ）

富士山植物彙報 (前號ノ續キ)

會員 渡邊協
仝 松田定久

正誤 前號ニ揭ゲタル彙報中山蘿蔔科ノ內ニ記入スベキ者ニテ Dipsacus Japonicus, *Miq.* ナベナ (矢野) ヲ脫セリ

Ericaceae. 石楠科

Vaccinium vitis-idaea, *L.* コケモヽ(ハマナス)(大)
Vaccinium hirtum, *Thunb.* スノキ (大)
Cassiope lycopodioides, *Don.* イハヒゲ (三)
Leucothoe Grayana, *Max.* ハナヒリノキ (大)

Andromeda nikoensis, *Max.* アブラツヽジ (大)
Pieris japonica, *D. Don.* アセビ
Rhododendron brachycarpum, *Don.* シヤクナゲ(大)
Rhododendron sinense, *Sweet.* レンゲツヽジ (大)
Rhododendron dilatatum, *Miq.* ミツバツヽジ

Pyrola rotundifolia, *L.* イチヤクサウ (大)
Pyrola minor, *L.* コイチヤクサウ (大)
„ secunda, *L.* コバノイチヤクサウ (大)
„ media, *Sw* マルバノイチヤクサウ
Clethra canescens, *Reinw.* リヤウブ
Monotropa uniflora, *L.* ギンリヤウサウ (大)

Primulaceae 櫻草科

Lysimachia davurica, *Willd.* クサレダマ (三)
Trientalis europaea, *L.* ツマドリサウ (大)

Styracaceæ. 齊敦果科

Styrax japonica, *Sieb. et Zucc.* エゴノキ

Oleaceæ. 木犀科

Fraxinus longicuspis, *Sieb. et Zucc.* アヲタゴ (大)
Fraxinus pubinervis, *Blume.* トネリコ (矢野)
Ligustrum Ibota, *Sieb.* イボタノキ

Asclepiadaceæ. 白前科

Cynanchum caudatum, *Max.* イケマ

Gentianaceæ. 龍膽科

Crawfurdia japonica, *Sieb. et Zucc.* ツルリンドウ
Swertia rotata, *Thunb.* センブリ (大島)
Swertia bimaculata, *Sieb. et Zucc.* アケボノサウ (三)
Halenia sibirica, *Borckh.* ハナイカリ

Convolvulaceæ. 旋花科

Cuscuta japonica, *Chois.* ネナシカヅラ

Solanaceæ. 茄科

Chamaesaracha Watanabei, Yatabe.(一名 C. Savatieri, Makino.) フジホヽヅキ、アヲホヽヅキ(共ニ新稱)

Scrophulariaceæ. 玄參科

Veronica longifolia, *L.* ルリトラノヲ (三)
„ spicata, *L.* ヒメトラノヲ (大)
„ murorum, *Max. var.* glabrior, *Miq.* クワガタサウ
Euphrasia officinalis, *L. var.* vulgaris, *Benth.* コゴメグサ (三)

Pedicularis resupinata, *L.* シホガムギキ (三)

〃 gloriosa, *Biss. et Moor.* ハンクワイシホガマ (三)

Orobanchaceæ. 列當科

Aeginetia indica, *Roxb.* オモヒグサ

Boschniakia glabra, *C. A. Mey.* オニク (大)

Verbenaceæ. 馬鞭草科

Phryma Leptostachya, *L.* ハヘドクサウ

Labiatæ. 唇形科

Plectranthus longitubus, *Miq. typica,* ハコチキリツボ (三)

Comanthosphace barbinervis, *Miq.* フシテンニンサウ (大)

Lycopus europaeus, *L.* シロネ (三)

Calamintha gracilis, *Benth.* タフバナ (大)

〃 multicaulis, *Max.* ヤマタフバナ

〃 chinensis, *Benth.* クルマバナ

Salvia japonica, *Thunb. var.* bipinnata, *Fr. et Sav.* アキノタムラサウ (三)

Brunella vulgaris, *L.* ウツボグサ

Stachys aspera, *Michx. var.* japonica, *Max.* イヌゴマ (大)

Teucrium japonicum, *Willd.* ニガクサ

Plantagineæ. 車前科

Plantago major, *L.* オホバコ (三)

(未完)

日本金絲桃科

矢田部良吉

Hypericineæ. 金絲桃科

草本又ハ灌木、稀ニハ喬木。葉ハ對生。往々透明又ハ暗色ノ腺點アリ。全邊又ハ腺狀ノ齒アリ。托葉ハナシ。

花ハ單出又ハ聚繖花叢ヲナス、頂生、稀ニハ腋生、整齊、兩性。蕚片ハ五個、稀ニハ四個、覆瓦樣。花瓣ハ蕚片ト同數、雌蕋下位、覆瓦樣又ハ往々回旋樣。雄蕋ハ數多、雌蕋下位、往々合同シテ三束又ハ五束ヲナシ、稀ニハ獨生又ハ悉ク合同ス。葯ハ丁字樣、稀ニハ内生、二胞、縱ニ裂開ス。子房ハ三乃至五心皮ヲ有シ、一胞又ハ三乃至五胞ヲナス。花柱ハ三個乃至五個、絲形、獨生又ハ合生。胚珠ハ少ナシ又ハ數多、側壁又ハ中軸胎座ニ着ク、珠脊ハ側又ハ上ニアリ。果實ハ蒴又ハ漿果樣。種子ハ胚乳ナシ。胚ハ直又ハ彎曲ス。幼根ハ臍ニ接近ス。—温帶地方、及ビ熱帶地方ノ山ニ產ス。屬數八、種數凡ソ二百十。

一 Hypericum, *L.* おとぎりさう屬

蕚片ハ五個。花瓣ハ五個。子房ハ一胞ニシテ三個又ハ五個ノ側壁胎座ヲ具シ、又ハ三至乃四胞ニシテ中軸胎座ヲ具ス。花柱ハ分離シ又ハ合同ス。胚珠ハ數多、稀ニハ僅少。蒴ハ胞間裂開又ハ胎座ニテ裂開ス。種子ハ翅ナシ。草本又ハ灌木、又ハ外國ニハ小喬木アリ。葉ハ通常毛柄、花ハ單生又ハ聚繖花叢ヲナシ、頂生又ハ腋生、黃色、稀ニハ白色。—温帶及ビ熱帶ノ山ニ產ス。種數凡ソ百六十。

* 雄蕋ハ五体、花柱ハ五個。

† 小灌木ニシテ花瓣及ビ雄蕋ハ早落性

一 H. chinense, *L.* （びようやなぎ金絲桃） 枝多シ。葉ハ長楕圓形、鈍頭、長サ一寸乃至三寸、幅三四分乃至七八分。花ハ大。蕚片ハ披針形。花瓣ハ稍々倒卵形。花絲ハ數多ニシテ細長。花柱ハ合同シ、上端五裂ス、(*H. monogynum*, L. i *H. salicifolium*, Sieb. et Zucc.; *H. aureum*, Lour.; *Norysca aurea*, Blume; *n. punctata'* Blume,)—庭園ニ栽培ス、眞ノ自生品アルヤ否ヤ未詳ナラズ。六月。

二　H. patulum, Thunb.（きんしばい金絲梅）枝多シ。葉ハ卵形、鈍頭又ハ稍鋭頭、長サ七八分乃至一寸五分、幅三分乃至六七分。花ハ大。萼片ハ廣卵形。花瓣ハ倒卵形。花絲ハ前種ノ如ク細長ナラズ。花柱ハ五個相分離ス。（*H. uralum*, Ham.; *H. oblongifolium*, Wall.）—本島、九州、四國。庭園ニ栽培ス。六月ヨリ八月。

‡　草本ニシテ花瓣及ビ雄蕋ハ宿存性。

三　H. Ascyron, *L.*（ともゑさう　くさびよう湖南連翹）莖ハ方形、高サ三尺餘。葉ハ長橢圓狀披針形、鈍頭又ハ稍鋭頭、大ナルハ長サ三寸。花ハ大。萼片ハ卵形。花瓣ハ歪形ニシテ捩曲ス。花柱ハ五個分離ス。（*H. pyramidatum*, Air.; *Roscyna, japonica*, Blume; *R. Gmelini*, Spach. *R. americana*, Spach.）—內地、北海道。七八月。—var. genuinum, Maxim. トハ通常ノ品ヲ云ヒ、var. longistylum, Maxim. トハ葉甚細クシテ花柱ノ長サ子房ノ二倍ナルモノヲ云フ。

＊＊　雄蕋ハ三体、花柱ハ三個。

†　蒴ハ三胞。

‡　雄蕋体ノ間ニ橙黃色ノ腺アリ。

四　*H. virginicum*, L. var. *asiatica*, *Maxim.*（みづおとぎりさう　みづやなぎ）莖ハ高サ一二尺。葉ハ長橢圓形、甚鈍頭、基脚廣クシテ毛柄、又ハ稍抱莖、長サ一二寸。花叢ハ頂生及ビ腋生。花ハ淡紅ヲ帶ブ。雄蕋ハ九個ニシテ三体。（*H. petiolatum* Miq.; *Elodes virginica*, Nutt.; var *asiatica*, Maxim.; *E.* crassifolia, Bl.; *E.* japonica, Bl.）—沼地ニ生ズ。內地諸山、北海道。七八月。

‡‡　雄蕋体ノ間ニ腺ナシ。

＝ 葉ハ基脚相合同ス。

五 *H. Sampsoni*, Hance.（つきぬきおとぎりさう元寶草）莖ハ高サ尺餘。對生ノ雙葉基脚併合シテ一体トナリ莖之ヲ貫穿スルガ如キ狀ヲ呈ス、兩葉併セテ大ナルハ長サ三四寸幅一寸。花ハ小。頂生聚繖花叢ヲナス。蕚片ハ長楕圓形。花瓣ハ楕圓形。—山地ニ生ズ。九州。六七月。

≡ 葉ハ基脚合同セズ。

六 *H. hakonense*, Franch.et Sav.（こおとぎりさう）莖ハ高サ五寸乃至尺許。葉ハ長楕圓形。圓頭。基脚漸ク細クシテ短柄ヲナス、下面白色ヲ帶ブ、透明ノ小點密布ス、長サ五六分乃至一寸。聚繖花叢ハ花少ナシ。花ハ小。蕚片ハ長楕圓形。花瓣ハ狹披針形、蕚片ヨリ長キヿ殆ド二倍。—內地諸山。夏。

七 *H. erectum*, Thunb.（おとぎりさう小連翹）莖ハ高サ一尺乃至二三尺。葉は披針形、長楕圓形、又ハ卵形、鈍頭、基脚抱莖又ハ單ニ無柄、黑色ノ小點アリ、長サ五分乃至二寸餘。聚繖花叢ハ往々花多シ。蕚片ハ披針狀長楕圓形。花瓣ハ披針形（*H. attenuatum*, F. Schmidt.）—內地、北海道。夏。—變化多キ種ナリ。Blume 氏ハ左ノ四變種ヲ記セリ、然レ𪜈其區域分明ナラズ。

var. Thyrsoideum. 莖ハ圓錐花叢樣ニ分枝ス、枝ハ直立

var. divaricatum. 莖ハ基脚ヨリ疎ニ分枝ス。枝ハ開出ス。

var. obtusifolium. 莖ハ單又ハ枝叢出ス。葉ハ基脚稍心臟形ニシテ卵狀長楕圓形、鈍頭、下面及ビ蕚ハ黑點アリ

var. flaccidum. 莖ハ疎ニ分枝ス。枝ハ軟弱。葉ハ基脚稍心臟形、卵形又ハ卵狀長楕圓形、透明ノ點

アリ、下面及ビ縁邊ハ黒點アリ。

八　*H. senanense*, Maxim.（みやまおとぎりさう　しなのおとぎりさう）莖ハ高サ五寸乃至一尺。葉ハ卵狀長楕圓形、鈍頭、基脚心臟形、透明ノ小點アリ、下面白色ヲ帶ブ、長サ五分乃至一寸。花ハ頂生、一個乃至三個。萼片ハ披針狀線形。花瓣ハ倒卵形、黒色ノ點及ビ線アリ、萼片ヨリ長キヿ殆ンド二倍。―七八月。―余ノ檢シタル標品ハ信州駒ヶ嶽中復及ビ御嶽ノ產ナリ。

‡‡　蒴ハ一胞。

九　*H. japonicum*, Thunb.（ひめおとぎりさう）莖ハ方形、高サ一二寸乃至尺餘。葉ハ卵形、鈍頭、基脚少シク抱莖、透明ノ小點アリ、長サ一分乃至三四分。花ハ小。萼片ハ線狀披針形、鋭頭。花瓣ハ萼片ト同長。（*H. mutilum*, Maxim.; *H. Thunbergii*, Franch. et Sav.; *H. nervatum*, Hance; *H. Thunbergii*, Franch. et Sav.; *Brathys japonica*, et *B. laxa*, Blume.）―隨處ニ多シ。内地、北海道。春夏。―形小ニシテ高サ二三寸ニ過ギザルモノハこけおとぎりさうノ名アリ。

十　*H. oliganthum*, Franch. et Sav.（やまおとぎりさう）莖ハ細シ。直立、枝ナシ。葉ハ長楕圓形、鈍頭、基脚漸ク細クシテ短柄ヲナス。透明ノ小點アリ。又縁邊ニ黒色ノ小點アリ。聚繖花叢ハ花少ナシ、頂生又ハ腋生。萼片ハ長楕圓形、鈍頭、長短不同。花瓣ハ萼片ヨリ短シ。花柱ハ二三個。―九州。

十一　*H. yezoense*, Maxim.（えぞおとぎりさう）莖は稍方形、高サ三四寸乃至尺許。葉ハ卵狀長楕圓形、鈍頭、透明ノ小點アリ長サ三分乃至七分。葉腋ヨリ小葉ヲ生ズ。花ハ頂生、僅少。萼片ハ長楕圓狀披針形。花瓣ハ卵狀長楕圓形。片萼ヨリ長キ十二倍除。―七月。―余ノ檢シタル標品ハ信州淺間山、函館、根室ノ產ナ

り。

雜錄

○ほざきのみゝかきぐさ並ビみゝかきくさノ產地

余ハ前年十月三日松村敎授三本貞守氏ト共ニ筑波山ニ趣キシガ筑波町ノ近傍ノ野山ニテむらさきみゝかきくさ並ビみゝかきくさノ開花セルモノヲ採集セリ

○ばあそぶニ就テ

大久保三郎

ばあそぶノ事ハ飯沼翁著草木圖說草部第三巻十葉　つるにじんノ條ニ「一種草稍小ニメ毛茸アルモノ木曾ニ產ス方言バアソブト云」トアリ又伊藤翁著日本產物志美濃ノ部下ニばあそぶノ圖說ヲ載セタリ、マキシモウヰクズ氏ハ「メランジービヨロギー」十二巻四百八十七頁ニ Glossocomia ussuriensis, Rupr. et Maxim. ナルモノヽ形狀ヲ記載シ日本名ヲばあそぶトイフトアリ伊藤翁ノ產物志ヲ引ケリ

マクス氏ばあそぶノ形狀ヲ左ノ如ク記載セリ

「小ナリ葉緣ニ小剛毛アリ、裏面通常毛茸ヲ有ス、花冠ハ狹漏斗狀ノ鐘狀ニメ其基部雄蘂ノ間ニ五溝アリ、種子ハ無翅ニシテ光澤ヲ有スル褐色ナリ」

此植物ハ甚つるにんじん（奶樹）ニ似タリ、其異ナル點ハつるにんじんハ前者ヨリ大ナリ、葉通常無毛（稀ニ少シク微毛ヲ有スルヿアリ）花冠廣漏斗狀ノ鐘狀ニメ其基脚雄蘂ノ間ニ五角條ヲナセリ、子種有翼其色乳樣白ナリ

ベンサム並ビニフーカー兩氏共著「ジエネラプランタールム」ニハ Glossocomia lanceolata 即つるにんじんヲ Codonopsis lanceolata トシ別ニ Glossocomia ノ屬ヲ立ツルヿヲセズ然ル時ハばあそぷノ學名ハ何ト稱スベキカト思ヒシニヘムスレー氏ハ支邦植物目錄中ニ於テ Codonopsis ussuriensis, Hemsl. トナセリ

○胚ニ綠素アリ

胚トハ種子內ニ含メル幼稚植物ヲイフ植物學上ノ語ナリ米國ニシナノキノ一種ニシテ學名ヲ Tiliaamericana トイフ樹木アリ其種子內ノ胚トマルパアサガホノ胚トニ綠素アルヿヲ研究セル米人アリ名ヲアットウルヱト呼ブ此人ノ報道スル所ニ據レバ以上ノ二種ハ其熟スル前ニ當テハ綠色極メテ深濃ナレ𪜈其成熟乾燥スルニ迨デハ愈々其綠色ヲ滅スルニ至ルナリト又夫ノ未熟ニシテ綠色ヲ呈スル種子ヲ土壤ニ播スト𪜈ハ暫クモ休憩スルコトナクシテ倏チ尋常普通ノ植物ト成ルナリト

○花粉ノ發育法

佛國ノ人ニシテマンジヤントイフモノ玄參科ニ屬スル實芰荅利斯ノ花粉ニ付テ其發育ノ模樣ヲ極メ殊ニ其母細胞ノ狀態ト花粉粒ノ狀貌トヲ明カニセリ其記述スル所ニ據レバ夫ノ花粉トナルベキ母細胞ノ膜ハ細胞膜質ノ反應ヲ一モ呈現スルコトナクシテ「ペクチン」化合物ノ質タルコトヲ示シ膜ニ其物質ヲ堆積シテ漸ク增厚スルニ及デハ又「ペクチン」ノ反應ヲ呈現セズシテ夫ノ維管束ノ組織ノ一部ニ居レル篩管中ニ存セル塊質ト類似ノ物質タルヿヲ示セリ是ニ依テ之ヲ觀レバ夫ノ塊質狀ノ物質ハ初生ノ膜上ニ堆積スルモノト見ユ然レ𪜈竟ニ花粉粒ヲ成シ各々離脫スルニ迨ンデハ其物質ハ失セテ留マラズ

○梅鉢草ニ於ケル花雄蘂ノ本性ハ如何

梅鉢草ハ學名ヲ Parnassia palustris. ト云フ其花ハ白色ニシテ宛モ梅花ノ如シ而シテ其花ニハ蜜腺ノ如キ物躰ヲ備フ此物タル形態學ニ於テ如何ナル見解ヲ下スベキカ或人ハ一個ノ蜜槽ヲ以テ單一ナル雄蘂ノ變形セルモノナリト曰ハン、或人ハ蜜槽ニ數莖ノ腺毛ヲ生スルヲ以テ其全躰ヲ指稱シテ數莖ノ雄蘂ガ結合シテ所謂多躰ヲ成セルモノナリト曰ハン孰レガ是ニシテ孰レガ悲ナルカ吾人ハ唯臆測ニ委スベカラザルナリ

近頃獨乙ノ人ウェットスタインハ或ル處ニ於テ梅鉢草ノ異常種二株ヲ發見セルニ其蜜槽ハ多少雄蘂ニ變化セルヲ認メタリ因テ彼是ヲ比較考究セシニ蜜槽全躰ハ一莖ノ雄蘂タルコト敢テ疑フベカラサルニ至レリ蓋シ一個ノ蜜槽中或ル腺毛ハ花糸ノ狀ヲ存シ或ル腺毛ハ葯形ヲ或セリ是以テ夫ノ蜜槽ハ數雄蘂ノ連合セルニアラサルコトハ明白トナレリ梅鉢草ノ假雄蘂ハ一莖ノ雄蘂ガ變形シタルモノナリト知ルベシ

○荳科植物ノ種子ニ於ケル無窒素貯蓄養料

從來荳科植物ノ種子內ニ存在セル貯藏養料ト知ラレタル物質ハ含水炭素性ノモノニテハ即チ澱粉、纖維素アミロイド、粘液ノミナリシガ近頃獨乙人シエルツェハ尙ホ他ノ無窒素物質アルコトヲ發見セリ何ゾヤ(第一)蠶豆及大豆ニ在リテハ豌豆ニ於ケルガ如ク甘蔗糖ノ存在スルコト是レナリ(第二)水中ニ溶解シ得ル含水炭素ニシテ稀薄ナル硫酸ヲ用テ熱スレバ「ガラクトーセ」ヲ生シ又硝酸ヲ用テ酸化セシムルトキハ粘液酸ヲ生スルコト是レナリ

此ノ如キ含水炭素ハ苜蓿、蠶豆、大豆、大巢菜等ノ種子ニ存在スルモノニシテ又想フニ大豆豌豆ニモ存在スルナラム斯クテ氏ハ水中ニ液解セザル含水炭素ヲバ「パラガラクタン」ト名ケタリ

○殺虫粉末

殺虫菊ニ二種アリ一ヲ Chrysanthemum cinerariaefolium, Benth. et Hook トイヒ、一ヲ Chrysanthemum roseum, Weber. et Mohr. トイフ共ニ近年舶來シテ東京ノ植物園ニ植ヱ曾テ シユレンク、トイフ人其二種ノ構造ヲ顯微鏡的ニテ研究セリ前種ノ莖ニ在リテハ「コレンキマ」細胞單獨ニ存在シ「スクレンキマ」細胞ハ莟中ニ少量ヲ存在ス後種ニ在リテハ「コレンキマ」及「スクレンキマ」細胞共ニ多分ニ存在スルコト是レナリ以テ兩種ノ異ナレルヲ知ルベシ時ニ此等ノ僞物ナキコト能ハズ宜シク兩種ノ構造ヲ明ニスヘキナリ

○魚類ニ有毒ナル植物

我ガ日本ニ產スル植物中ニテモ醉魚草(ドクウツギ)ナド云フ草ハ其名ニ負ヘルガ如ク魚類ニ有毒ナルモノト見ユルガ凡テ魚類ニ有毒ナル者ヲ調ブル𪜈ハ頗ル種類モアルモ哉

獨乙人エルンストノ記述スル所ニ據レハ凡ソ三十三種アリ左ニ二三ノ例ヲ擧クベシ

Calophyllum Inophyllum. （ヤラボ）（小笠原島ニ產ス葉有毒ナリ）

Caesalpinia Bonducella. （シロツプ）（亦小笠原島ニ產ス果實有毒ナリ）

Buddleya verticillata 醉魚草ノ一種ニシテ哥西ニ產ス枝條有毒ナリ

Euphorbia pulcherrima シヤウジヤウボク支那ニ產ス

Securinega obovata カンコノキ 厚皮（コルテツキス）有毒ナリ東印度ニ產ス

Agave Americana リウゼツラン葉有毒ナリ

以上ノ植物ヲ捕魚ノ用ニ供ス我ガ日本ニテモ川魚ヲ殺スニ「サンセウ」秦椒ノ厚皮烟草ノ葉等ヲ用ウルハ皆人ノ知ル所ナリ東印度ニ於テモ Xanthoxylum hastile (秦椒ノ一種) ヲ此目的ニ供ス即チ種殼ト種子ト是レナ

り

○アサダノ産地

該植物ハシデソロ等ニ類似スル喬木ニシテ學名ヲOstrya Virginica, *W.*ト稱ス北米合衆國ニモ産ス曾テ白井光太郎氏ハ日光中禪寺ニ於テ之ヲ撿出シ以テ當時ノ本雜報ニ掲ケシヿアリシガ松村任三氏ハ又本年夏野州鹽原ニ於テ之ヲ採集シタリト云フ葉形ケヤキニ似テケヤキニアラズシデニ似テシデニモアラズ又ソロニモアラズ自ラ是レアサダノ風態アリ採集スル人多クハシデト誤認スルヲ免レズ

此アサダタル北海道ニ産スルコトハ夙ニ人ノ熟知スル所ニシテ渡島國茅部郡ノ森林中ニハ之ガ良材多クエブキエルプニ等ノ土名アリ

○ヂムカデノ産地

該植物ハ石南科ニ屬スル小木本ナリ其圖ハ草木圖説木部第二卷ニアリ藤井健二郎氏ハ本年信州乘鞍山ニ於テ之ヲ採集セリ學名ヲCassiope stelleriana, *DC.*ト稱ス

○テフトリカヅラ

此蔓草ハ元亞非利加ノ産ニシテ白前科ニ屬ス鐘狀ノ白花ヲ放ク本邦ニ來リテヨリコヽニ數年帝國大學植物ニ植栽サレテ能ク蔓延ス其顯著ナルハ蛾蝶小蟲類來リテ其花冠内ニ入レバ感角手足等ヲ花内ノ或ル器官ニハサマレ七顚八倒シテ死ヲ致スニ在リ故ニ此和名アリ夏月花アリ學名ヲAraujia albens, Don ト曰フ

○葉ノ印刷法

植物ノ葉ノ全体ヲ印刷スルハ左迄テ實用ニ益ナシト雖ドモ時ニ或ハ葉脉ノ分岐網絡スル狀又ハ邊緣鋸齒ノ狀

態又ハ葉ノ面積ヲ調査スルニ當リテ必要ヲ感スルモノナリ或ハ之カ印刷シタル各種植物ノ葉圖ヲ一小册子トナシ保存スルモ亦一快事ニアラスヤ故ヲ以テ今左ニ其印刷ノ方法ト之カ印刷ヲナスニ當リテノ注意ヲ記述ス可シ

葉ヲ印刷セントスルニ當リテハ(1)小形ノ「インキ」捧(活版印刷ニ用フル處ノモノ)(2)一枚ノ玻璃盤（平滑ニシテ大ナルヲ可トス）ヲ稍大ナル大盤上ニ固着シタルモノ(3)綠色ノ活版用「インキ」若干量(何色ヲ撰ハス)以上ハ則チ葉ノ印刷ニ要スル器具ニシテ今一葉ヲ印刷センニハ活版用「インキ」ヲ玻璃盤上ニ置キ「インキ」棒ヲ以テ一樣ニ盤上ニ分布ス可シ次ニ葉ヲ採リ之ヲ紙上ニ置キ「インキ」ノ附キタル「インキ」棒ヲ以テ二三回葉面ヲ廻轉ス可シ是ニ依リテ「インキ」ハ葉ノ細脉上ニ附着スルヲ以テ直チニ此葉ヲ以テ白紙上ニ置キ暫時强ク壓力ヲ加フ可シ而シテ葉ヲ取リ去レハ白紙面鮮明ナル葉ノ全体ヲ印刷セルヲ見ル可シ

葉脉ノ微細ナルモノニアリテハ葉ノ裏面ニ「インキ」ヲ塗リテ印刷ス可ク而シテ之ニ反シテ脉絡粗造ナル時ニハ表面ヲ印ス可シ又葉ノ多肉或ハ損シ易シキ性質ヲ有シ「インキ」ヲ塗抹シ難キモノニアリテハ暫時之ヲ放置シテ凋萎セシメ然ル後着手スヘシ數回印刷ノ後最モ美麗ノ圖ヲ得、印刷ニ用井ル處ノ洋紙ハ膠水ヲ塗ラサルモノニシテ少シ濕氣ヲ帶ヒタルモノ最モ能其用ニ適ス然レ𪜈平常ノ記載用ニ供スル處ノ膠ヲ塗リタル洋紙ニ於テモ亦能ク明瞭ニ印刷シ得ルナリ

○殺虫粉ノ功驗

ダーマシヤ菊花ノ粉末ハ藥舗ニ蝨取粉ト稱シ販賣スル處ノ者ニシテ蝨害ヲ防クニハ實ニ無類ノ珍藥タルヿハ使用者ノ能ク知ル處ナリ然レ𪜈之ヲ植物ノ嫩芽ヲ害スル處ノ植物ノ蝨即チあぶらむしニ振リ掛テ試ミタル

ニ其切驗一層顯著ナルモノ丶如シ或人予ニ之レカ切驗ヲ說クヲ以テ頃日之カ實驗ヲナセリ菊薔薇等わぶらむしノ害最モ甚シク大ニ其驅除ニ困難苦心シタルモノ一朝此殺虫粉ヲ用ヰテ又其害ヲ見ス今若シ適當ノ滲器ヲ發明シ無益ニ飛散ヲ防キ以デ害虫ノ群巢ニ滲洒スル樣工夫セハ實ニ園藝上ニ有益ナルヿ疑ヲ容レズ

○めだけノ赤衣　Puccinia cortioides B. et Br. 發生ス

めだけノ赤衣ハ五月中旬ヨリ焦燦胞子ヲ生シテ六月中旬頃ニハ竹莖ヨリ落離シテ全ク菌ノ痕跡タモ見サルニ至ル然ルニ十一月上旬ニ至リ又々竹莖通常綠色ヲ失テ稍〻蒼白トナリ遂ニ表皮ノ剝離スルヲ見ル是レ即チ表皮下ニ終局胞子ノ發生ニ基ク者ニシテ漸々生長シテ持有ノ杏色ヲ呈シ竹莖ヲ包圍ス予ハ一年間ノ實見ヲ以テ此菌ノ發生ノ順序ヲ略〻知得セリ此菌ハ當年生ノ嫩竹ヲ害セサルモノ丶如シ否表面ニ胞子ノ發生ヲ見サルモ其實菌系ハ業ニ已ニ其組織ヲ侵害セルヤ否ヤ未タ知ル可カラス其二年生以上ノモノニ彼害スルヿ確實ナリ而シテ此菌ハ地中根部ヨリ菌系ノ侵入シテ竹莖適當ノ部位ニアツテ胞子ヲ生スルモノカト思ハル近傍僅ニ二三間ヲ隔テ植ヘタル處ノめだけハ少シモ此菌ノ害ヲ受ケサルニ同藪中ノモノハ皆其害ヲ被ムル處ヲ以テ見レハ必スヤ一種ノ關係アルヿ疑フ可カラス此菌ノ詳細ナル記錄ハ近刊ノ矢田部良吉氏著日本植圖篇中ニ揭載シアレハ就テ見ル可シ又本雜誌上ニモ時機ヲ俟テ登載ス可シ

○食虫草ノ消化作用

もふせんでけ、むしとりすみれ又ハ外國產ノ有名ナル Pitcher plant 捕蠅草ノ如キハ種々ノ方法ヲ以テ小虫ヲ捕獲シ之レヲ消化シテ以テ含窒素物ヲ吸收ス今本邦ノもふせんでけ、いしもちさう等ノ例ヲ以テ一層明瞭ニ說明セシニ葉面數多ノ腺毛アリテ毛端粘質ノ液ヲ分泌ス若シ小虫ノ來リテ之ニ觸ル丶トキハ腺毛ノ粘液ニ

附着シテ自ラ飛ビ去ルヿヲ得サラシム腺毛ハ次第ニ屈折シテ虫体ヲ圍繞シ分泌ノ液汁ハ少時ノ後遂ニ虫体ヲ分解ス此事實ハ已ニ世人植物學書ヲ繙キタルモノハ皆知ル處ナリ然レモ此腺毛ノ分泌セル粘液ハ恰モ人体ニアリテ胃ノ食物ヲ受ケ胃液ノ分泌ニ依リテ之カ消化ヲナスモノト同一ナルヤ疑ナキ能ハス多クノ植物書ハ皆食虫草ノ腺毛ヨリ分泌スル處ノ液汁ハ酸性ニシテ動物体ノ胃中ニアル「ペプシン」ト同シク含室素物ヲ消化スルノ作用アリト說明セリ然レモ近時歐州植物雜誌ノ報スル處ニ依レハ食虫草ノ小虫ヲ消化スルハ腺毛ノ分泌スル粘液ニアラスシテ腺毛ノ小虫ヲ捕獲スルヤ粘液ノ分泌ヲ促シ小虫ヲ濕潤ス是ニ依リテ大氣中ノバクテリアハ適度ノ濕氣アルニ依リ直チニ是ニ棲息シ繁殖シ以テ小虫体ノ分解ヲ促スナリ是レ通常物ノ腐敗ト同一理ニシテ依テ以テ植物ハ其分解セル含室素液ヲ吸收スルモノニシテ粘液ハ胃液ノ如キ消化力ヲ有セサルナリト去歲初夏ノ候、歐州植物諸雜誌ノ報スル處ナリ

○椿ノ寄生菌

帝國大學植物園幷ニ府下本所ニ於テ明治廿四年十月中採集セル所ノちやんちん（Cedrela sinensis, A. Juss.)ノ生葉ニ寄生スル處ノ一種ノ菌ハ之ヲ驗スルニ新種タルモノヽ如シ依テ Triphragmium Cedrelæ, ちやんちんのくろしぷト名命セリ(詳細ノ記述ハ近刊ノ日本植物圖解ニアリ)此菌ハ焦燥菌科 (Ustilagineae) Triphragmium 屬ニ屬スルモノニシテ Saccardo 氏菌譜中ニ見サル處ノ新種ナリ

（以上五件　堀正太郎報）

○麥角發見

麥角ハ一種ノ客生菌ニシテ毒性アリ人畜之ヲ食ヘハ手足ノ脫疽ヲ起シ又ハ胎兒ヲ殺シ頗ル恐ルベキ結果ヲ生スルコトアルハ余曾テ西書中ノ說ヲ抄シ之ヲ本誌第六號ニ揚載シ諸君ノ注意ヲ請タルヿアリ但此物ノ本邦

ニ產スルヤ否ヤハ當時吾徒ノ未ダ深ク探究セザル所ナリシヲ以テ之ヲ明言スルコト能ハサリシナリ然ルニ昨年十一月三十日即チ先々月第四日曜日余始メテ之ヲ農科大學構內ニ於テ發見シ此物ノ我邦ニ產スルヲ確認シ得タリ余ノ始メテ此物ノ寄生ヲ發見セルハ八丈島ノ產ナル方言まぐさト稱スル一種ノすゝきノ花穗ナリシガ其會員外山氏ノ探究ニヨリ校內及校外ノすゝき、ばれんしばノ諸草ニモ此物ノ生ルヲ知レリ農科大學近傍ノすゝきハ之ヲ寄生セザルモノ殆ント稀ナリ此物ノ廣ク本邦ノ各地ニ產スルヤ否ヤハ地方會員諸氏ノ探究ヲ煩ハシ度モノナリ然シ最早時期後レタルヲ以テ本年ノ秋頃マテ待ツノ外ナシすゞきニ生スル麥角ハ長三分巾一分弱ナリばれんしばノ物ハ長二分巾五厘位ナリ此物ハ牧畜上藥物學上ニモ關係有スルヿ多ケレバ尙ホ研究ノ上得ル所アレバ追テ報告スル所アルベシ

○食用バクテリヤ

食用バクテリヤヲ食用トスル者アリト言ハヾ人或ハ其說ノ奇ナルニ驚カン然レ𪜈余ハ言ハン納豆ヲ食スル人ハバクテリヤヲ食用トスル者ニアラスシテ何ゾヤト誠ニ納豆ノヌラ〳〵ヲ取リ顯微鏡ヲ以テ之ヲ見ルニ全体バクテリヤノ群衆ヨリナリ百千萬億ノ楕圓形バクテリヤヲ見ルベシ又豆ヲ切リ其內部ヲ見ルニ細胞間ニモバクテリヤ充滿セリ納豆ヲ嗜食スル人ハヌラ〳〵ノ中ニ言フ可ラザル美味アリト然ラバ則チバクテリヤニモ亦一種ノ味アルモノナリ記シテ以テ一粲ニ供ス

○ Nepenthes は肉食植物に非ズ (Bot. Centh. Bd. XLVI. p. 199)

ダルトン、フッケルの說に因れば Nepenthes 屬の植物は肉食植物なり然れども果してその說當を得たりや否やこれ佛人ラファエル、ジユボワ氏の研究せる所なり氏が實驗に供したる種はその數七にしてその內には本邦

に舶來せるウツボカヅラ（前號の雜錄欄內を見よ）もあり此の屬植物の葉の瓶子はその蓋の未だ開かざる時は一種澄淸にして糸を引き且弱き酸性ある液を有す瓶子の旣に開きたるときはその內の液濁り昆虫の死屍等を有しその臭氣甚し今若し瓶子の未だ開かずこれより將に開かんとするに當りこれより消毒したるピペツト以てその液を取り之に空氣中の么微有機体の芽胞の入るを防げばその液は數月を經るも澄淸にして更に混濁せず、凝固したる蛋白質を骰目に切り之をその液中に入れ溫度を空氣中の溫度と同一にし或は体溫と同一にするも蛋白質は依然變ぜず液は數時間を經るも澄淸にしてペプトーンを有せず數日を經るも么微有機体（バクテリアの如き）の痕跡だになく更に腐敗の徵なし且蛋白質の骰目の角度は毫も變ずることなし然れども瓶子の旣に開きたるものゝ液は通常の溫度にても速に蛋白質を分解し溫度体溫と等しければ尙更速なり故に骰目に切りたる蛋白質を之に入るれば骰目は膨脹して透明となり粘液狀となり遂にその角を失ふに至る液は濁り腐敗の臭氣を發す又ペプトーンの反應を呈す、瓶子の開きたるものには昆虫あれども決して消化さるゝをなく只腐敗するのみ以上の試驗に因れば么微体ある瓶子に蛋白質を入るゝれは分解し之なければ分解せず是に因て之を觀れば Nepenthes 瓶子內の液はペプシンに比すべき消化液を有せず故に此の屬の植物は肉食植物に非ず（第一）フツケルの觀たる蛋白質の分解は外氣より入り來りたるバクテリアの如き么微体の所爲にして植物自身の分泌液の所爲に非ず（第二）

○花粉ニ付ヘライユ氏の研究 (Beihefte z. Bot. Centb. Bd. I. p. 272.)

佛人エル　ヘライユ氏の研究に因れば花粉粒の最上なるは Myosotis campestris にしてその直徑五、五ミクレン、（一ミクレンは一ミリメートル千分の一）、最大なるは Lavatera にしてその直徑二百ミクレンなりその發

芽力を保つ力は植物の種類に因て異り又光線、濕氣等外界の有樣に關す發芽力を保つ時間左のごとし

ミヤマカタバミ	一日
ミヽナグサ	三日
ヒメスイバ	五日
オホバコ	十二日
ヒナゲシ	廿日
アマドコロ	卅日
アトロパ、ベラドンナ	卅四日
ニチニチサウ	五十五日
アグラフヰス、ヌタンス	七十日
西洋ズヰセン	八十日

光線が花粉管の生成に如何なる影響を及ぼすやは次の表を見て知るべしこれは Nymphaea alba といへる西洋のヒツジグサにて爲したる試驗なり表中花粉管の長生はミクレンにて示す

發芽時間	花粉管の長さ	
	暗黑中	光明中
十八時後	一五—二〇	五—八
卅時後	四〇—六〇	一〇

四十五時後　七〇—八〇　一二

○タウナス類果實の氣孔性 (Beibefte z. Bot. Centb. Bd I. 271)

その容の大なる果實の內部に位する細胞は如何にして呼吸に必要なる酸素を得るやこれ佛人ドオー氏のタウナスの一種 Cucurbita maxima に於て試みたる所なり此の果實の內部は空にしてこの中空部の周圍に厚き組織ありその厚さ時には廿サンチに及ぶ位なればこの空內の空氣と外部の空氣とは更に交通なかるべしとはこれ誰も考ふる所ならん然るにその實大に然らざるものあり中空內の空氣は百分中七九、一九の窒素、一八、二九の酸素、二、五二の炭酸より成る故に外部の空氣とその組立更に異らず故に中空內外の空氣は容易に交換し得るものと知るべし、水マノメートルにて檢するに內外の空氣はその壓力同一にして若し一方の壓力を試に減ずれば他の空氣は一分時を出ずして左の壓力を仝一にするに至る是內外空氣交換の容易なる證なり今果實を水中に齎しその中空に空氣を吸込めばその表面より大小の氣泡のブク〳〵と出づるを見るこの氣泡の出づるは表面の白き小高き所より出づこれ他ならずレンチセルなり

氣孔あるは啻に果實の表面のみならず其內部にもこれあり蓋し果實の組織には空氣の通路アチラコチラにあり此等の通路相互に交通し以て空氣通路の一システムを爲す果實の肉の海綿狀なるは蓋しこれに因るなり

他のタウナス類には通常レンチセンなし然る時には空氣は果實の壁の呼吸孔を出入す、例へば一個の果實の中空內の空氣に一サンチの水の壓力を一時間施せば三、二一立方サンチの瓦斯外出す、呼吸孔の領する面積は左のごとしといふ即ち六十平方サンチに付八萬個の呼吸孔あり呼吸孔はその表面平均一九二平方ミクレンあり

(以上四件イ譯す)

○課子植物ノ胚囊内ニ於ケル胚乳ノ發生

課子植物ニ於ケル胚乳ノ發生ニ就キテハ研究甚ダ不十分ニシテ未其胚囊ノ發生ヲ終結スル時期マデノ模樣ヲ分明ニ探求セシモノアラズ是レ吾人ガ智識上此肝要ナル問題ニ於ケル一大欠點ト云フベキナリ然ルニ近頃露國ノ人ヨコラワ氏ハ之ヲ研究シテ左ノ如キ結果ヲ得タリ

抑〻胚乳ノ發生タルヤ既ニ胚囊内ニ存在セル細胞核ノ數ト同ク其原形質ガ分裂スルヲ以テ其發端トス而シテ此分裂ニ由リテ起レル新細胞ハ其始メ胚囊ノ中心ニ向ヘル方ニ在リテハ未ダ膜壁ヲ生成スルニ至ラズシテ只僅ニ胚囊膜ヨリ生セル側壁ノミヲ形成スルモノナリ凡テ之等ノ新細胞ノ側壁ハ皆胚囊本壁ヲ基トシ胚囊ノ中心ニ向ヒ放射ノ方向ニ發達スルガ故ニ勢ヒ中心ニ近寄ルニ從ヒ次第ニ相近接スルニ至リ各細胞ハ宛モ四邊形ノ尖端ヲ切斷シタルガ如キ狀ヲ成シ其頂端ハ各〻胚囊ノ中心ニ向フモノナリ

斯クテ胚囊ノ周圍ヨリ發生セル側壁中ニハ未ダ其中心ニ達スルニ至ラズシテ交互衝突スルモ多シトス故ニ此等ハ茲ニ其生長ヲ止メ以テ其頂端ハ夫ノ絶エズ生長スル所ノ細胞間ニ挾マルヲ見ル然レ𪜈斯ク生長スル所ノ細胞ハ大抵其内方ニハ尙ホ細胞壁ヲ欠キ遂ニ中心ニ相集リ相合スルニ及テ其細胞ト細胞トノ間ニ於テ共有ノ隔壁ヲ生スルモノナリ隔壁既ニ成レルノ後ト雖モ細胞ノ分裂增殖ハ尙ホ止マザルモノトス然レ𪜈此レ敢テ奇ト云フベカラズ

爰ニ特筆セズンバアルベカラザル一事ハ夫ノ細胞ト細胞壁發生トノ關係ニ於テハーベルランド氏ガ曾テ陳述セル所ト相應同スル是レナリ何ゾヤ細胞ガ發生スル間ハ其核ハ常ニ胚囊ノ中心ニ向ヘル部分ニノミ其位置ヲ占メ以テ細胞壁ノ造成ヲ完結スルニ至レバ其核ハ移轉シテ外部ニ歸リ又生長スル所ノ細胞壁ハ常ニ原形質ノ

細微ナル絲線ニ由リテ核ト相連絡スルコト是レナリ想フニ此絲線ハ營養物質ヲ運輸スルノ用ニ供スルナラム

ヨコロウ氏ノ説ニ據レバ細胞壁ヲ形成スル所ノ原形質ノ細粒ハ皆細胞核ヨリ生スルモノナリト

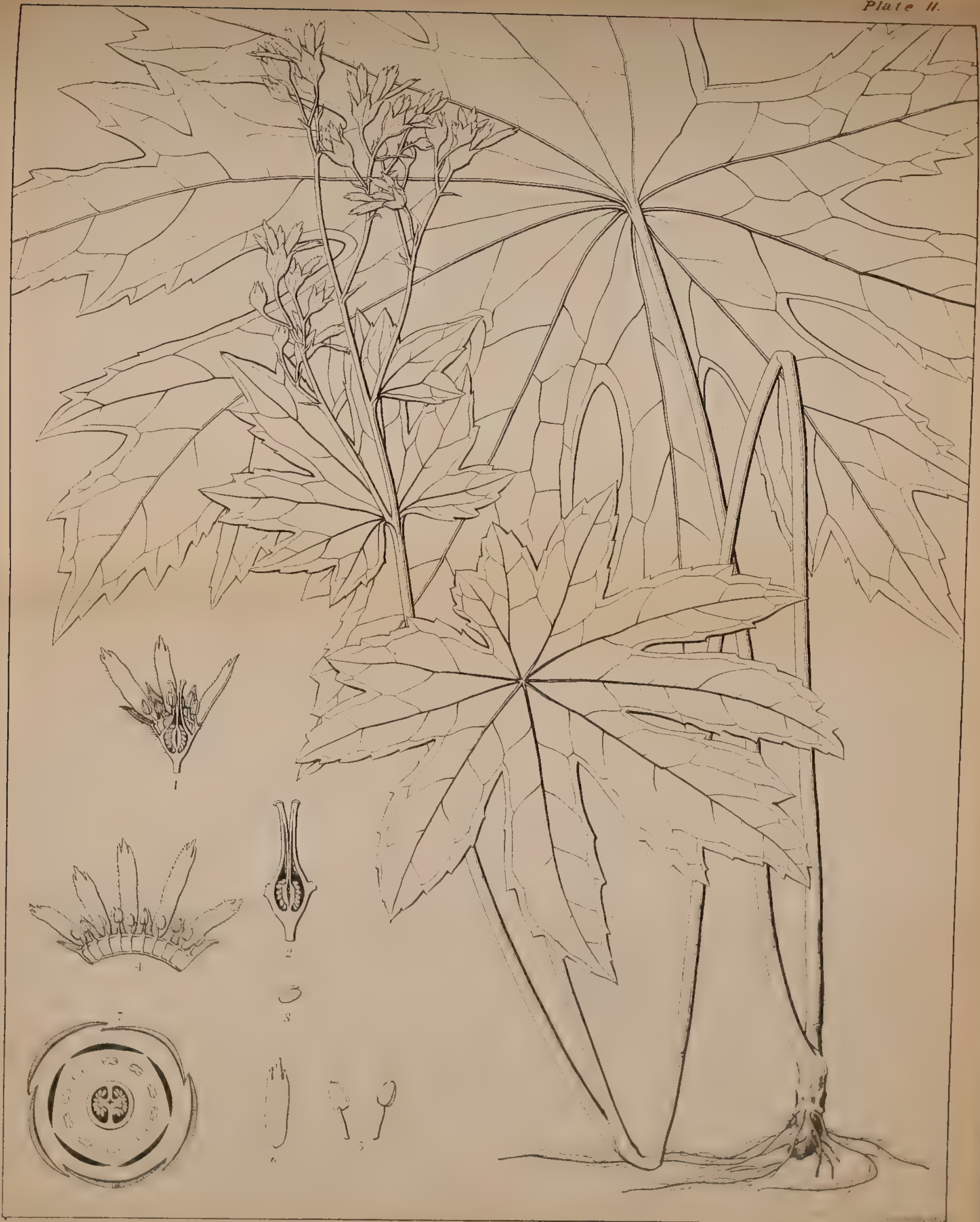
（セントラルブラット）藤井健二郎抄譯

K. S.

〇七種ニ就テ

理齋隨筆ニ正月七日ノ七種ハ稻麥豆粟小豆黍小麥此七種ヲ以テ奉ルコトナリ夫故ニ七種ト書テなゝくさト訓スルナリ宇多天皇ノ御時改テ芹、薺、鼠麹艸（ゴゲウ）（一名母子草）蘩（ハコベラ）、佛ノ座（一名田平子）菘（青菘ナリ）蘿蔔（大根ナリ）右七草ヲ用ヒラレシナリ古ハ上ノ子ノ日ニ奉リシ七ツノ字ニ作リテ七日ヲ用ル事トハナリシトゾ」ト又一説ニハ七種ハ　宇多帝寛平二年正月六日ニ始リ都ノ七野ヨリ一種宛ヲ獻納ス其村々ハ即チ左ノ如シ

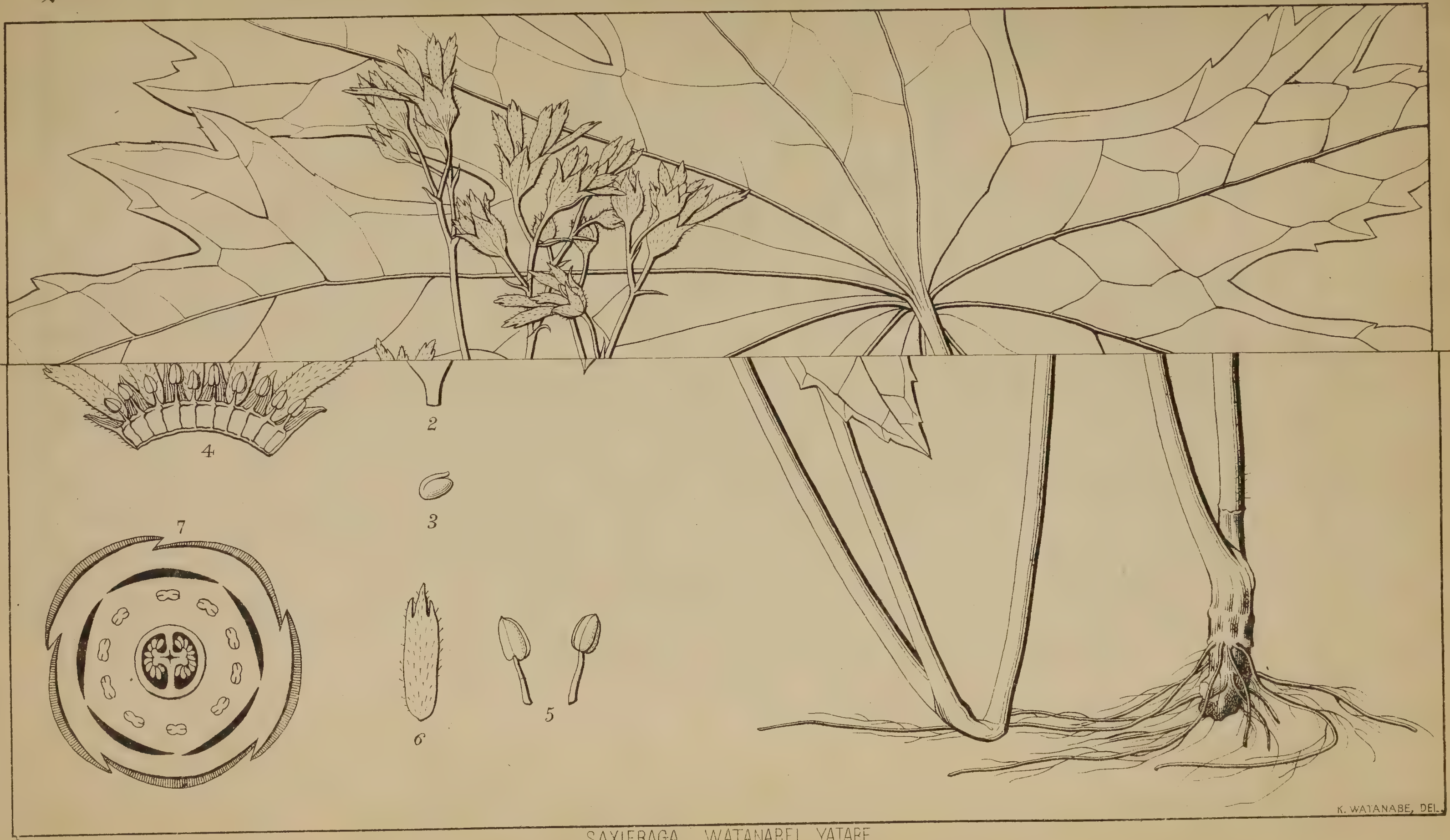
一ごぎやう	よもぎ也	れんだい野
一たびらこ	はこべ也	朱雀野
一ほとけの座	つくし也	かも野
一すゞな	かぶ菜也	紫野
一すゞしろ	大根也	ときやう野
一せり	芹也	平野
一なずな	薺也	内野



[illegible] WATANABEI. YATABE.
WATANABESŌ. ワタナベサウ.

第二版

Plate II.


4
2
3
7
6
5
K. WATANABE, DEL.

SAXIFRAGA WATANABEI, YATABE.
WATANABESŌ. ワタナベサウ.

植物學雜誌第六卷第六十號　(明治二十五年二月十日)

THE BOTANICAL MAGAZINE.

[Vol. VI. February 10, 1892. No.60.]

New or Little Known Plants of Japan.

No. 18.

Ryōkichi Yatabe, Sc. D.

Saxifraga Watanabei, nov. sp.

Nom. jap. Watanabesō. ワタナベサウ.

Saxifrageæ.

(Plate II.)

Rhizome short. Stem robust, smooth or very slightly hairy, 2-3-leaved, 2 feet or more high. Radical leaves long-petioled, smooth, peltate, orbicular, pale on the under surface, palmately 8-10-ribbed, cut into 8-10 subcuneate lobes, about 10 inches in diameter; lobes 2-3-lobulate, the lobules acuminate and coarsely and unequally toothed; petioles sheathing at the base, more than a foot long. The lowest stem-leaf like the radical, but smaller; the upper short-petioled or sessile, small, few-lobed, passing into lanceolate or linear-lanceolate bracts. Cymes several-flowered, axillary and terminal, lower ones with peduncles of 2-3 inches, upper ones with much shorter peduncles; pedicers 1-3 lines long; bracteoles linear-lanceolate, acuminate, 1-3 lines long. Calyx-tube

明治二十五年二月十日發兌

subcampanulate, 10-nerved glandular-hairy, adnate to the ovary at the base, 3 lines long and broad; its limb 5-lobed; the lobos deltoid, acute, glandular-hairy, 2-lines long, 1 line broad. Petals 5, inserted on the calyx-tube at the base of its lobes, unequal, linear, 2-3-toothed at the apex, glandular-hairy, slightly yellowish, 4-5 lines long, about 1 line broad. Stamens 10, inserted with the petals on the calyx-tube, those alternate with the petals somewhat longer than the rest; filaments subulate, about 1 line long; anthers basifixed, 2-celled, ovate, acutish at the apex, cordate at the base, somewhat shorter than the filaments. Ovary semi-inferior, 2-celled, 2-lobed at the apex; styles 2, 1½ lines long; stigma capitate; seeds numerous, anatropous, attached to axile placentæ.—Hab. moist woods in mountain. Fl. July.

Specimens of this plant were collected by Mr. Kanō Watânabe at Nanokawa-mura in the province of Tosa, on the 12th. of July, 1889.

This species is nearly related to *Saxifraga tellimoides*, Maxim. (Mél Biol , vol. vii., pp. 6 et 603.), but can be at once distinguished by the character of the leaves and petals. The leaves of the latter are somewhat hairy and not so deeply lobed as those of the former, and the petals of the latter are decidedlly spathulate.

Plate II. Fig. 1, flower cut vertically; 2, vertical section of pistil; 3, ovule; 4, free portion of calyx laid open

with petals and staments; 5, dorsal and ventral views of stamens; 6, petal; 7, floral diagram:—*all enlarged.*

Notes on Japanese Plants, XV.

日本植物報知　第十五

Tomitaro Makino.

Descriptions of the new species and varieties in the following list will be given in the next number.

FILICES.　しだ科

Trichomanes acuta sp. nov. Jap. Kokehoragoke. コケホラゴケ Tosa: Shiraishi, Nanokawa (T. Makino).

Lomaria castanea sp. nov. Jap. Miyamashishigashira. ミヤマシヽガシラ Kōduke: Shishimidutōge (T. Makino). Rikuchū: Mt. Kurikoma (T. Makino).

Asplenium Miyoshii sp. nov. Jap. Himechasenshida. ヒメチヤセンシダ Yamato: Mt. Yamato (K. Mori).

Asplenium Toramana sp. nov. Jap. Kuroganeshida. クロガ子シダ Tosa (S. Tsuki, Torama Yoshinaga).

Asplenium shikokianum sp. nov. Aspl. Wrightii Eat. var., Bot. Mag., Tōkyō Bot. Soc. vol. III, no. 24, p. 69. Aspl. bulbiferum Forst. var., l. c. vol IV, no. 46, p. 453. Jap. Hayamashida. ハヤマシダ Tosa:

Suginokawa (Y. Yoshinoga, T. Makino), Usa (J. Doi).

Asplenium Naganumana sp. nov. Jap. Hikage-warabi. ヒカゲワラビ Tosa: Kōchi, Mt. Yokogura (T. Makino).

Asplenium viridifrons sp. nov. Jap. Midori-warabi. ミドリワラビ Tosa: Mt. Yokogura (T. Makino).

Asplenium microsorum sp. nov. Jap. Tebako-warabi. テバコワラビ Tosa: Mt. Tebako (T. Makino, Yoshinaga, I. Doi).

Aspidium tosaense sp. nov. Jap. Tachidenda. タチデンダ Tosa: Tokano (T. Makino), Nanokawa (K. Watanabe).

Aspidium Yoshinagæ sp. nov. Jap. Otokoshida. オトコシダ Tosa: Mt. Hōnokawa (Y. Yoshinaga, T. Makino).

Aspidium Matsumuræ sp. nov. Jap. Kiyozumihime-warabi. キヨズミヒメワラビ Tosa: Mt. Yokogura (T. Makino).

Aspidium shikokianum sp. nov. Jap. Hōnokawa-shida. ホウノカハシダ Tosa: Mt. Hōnokawa, Mt Imano (T. Makino).

Aspidium polypodiforme sp. nov. Jap. Uraboshi-nokogirishida. ウラボシノコギリシダ Tosa: Kawado (T. Makino), Tokano (T. Yoshinaga, T. Makino), Ōhira (Y. Yoshinaga).

Aspidium Okuboana sp. nov. Jap. Ōhimewarabi. オホヒメワラビ Tosa: Nanokawa (Musashi: Chichibu (T. Makino).

Vittaria Fudinoi sp. nov. Jap. Nakamishishiran. ナカミシヽラン. Tosa: Mt. Kurotaki (Y. Yoshinaga).

ARACEÆ. てんなんしよう科

Arisæma ternatipartitum sp. nov. Jap. Mitsuba-tennanshō. ミツバテンナンシヨウ Tosa: Mt. Yokogura (T. Makino), Hirose (S. Yano).

CYPERACEÆ. かやつりぐさ科

Cyperus tosaensis sp. nov. Jap. Mugigaragaya-tsuri. ムギガラガヤツリ Tosa: Kashiratsudoi (T. Makino).

Cyperus Pseudo-Haspan sp. nov. Tosa: Sakawa (T. Makino).

Cyperus Iwasakii sp. nov. Jap. Kwanwengayatsuri. クワンエンガヤツリ Musashi: Tōkyō (T. Makino).

Cyperus Eragrostis Vahl. var. **spectabilis** Makino. Jap. Shidegayatsuri. シデガヤツリ Tosa: Ōsaki. Asakura (T. Makino).

Fimbristylis nipponensis sp. nov. Jap. Awotentsuki. アヲテンツキ Hitachi: Mito (T. Makino). Rikuzen: Iwakiri (T. Makino).

Fimbristylis tokyoensis sp. nov. Jap. Koazetentsuki. コアゼテンツキ Musashi: Tokyō (T. Makino).

Carex shikokiana sp. nov. Jap. Iwakansuge. イハカンスゲ Tosa: Ochi (T. Makino).

GRAMINEÆ. 禾本科

Paspalum Thunbergii Kunth. var. **minor** Makino. Jap. Suzumenokobiye. スヾメノコビエ Tosa: Misaki, Yōrō, Hira-yama (T. Makino).

Leersia japonica sp. nov. Jap. Ashikaki. アシカキ Tosa: Kōchi (T. Makino). Musashi: Iyoda

Poa tuberifera sp. nov. Jap. Mukagotsuduri. ムカゴツヾリ Tosa: Mt. Torigata (T. Makino).

ORCHIDACÆ. らん科

Liparis bambusæfolia sp. nov. Jap. Sasabaran, Sōmoku-Dusetsu, vol. XVIII, fol. 42. Tosa (T. Makino)

Liparis inconspicua sp. nov. Jap. Hozakiichiyōran. ホザキイチエフラン Suruga; Mt. Fuzi. (S. Matsuda).

Saccolabium Matsuran sp. nov. Jap. Matsu-ran, Benikayaran. マツラン、ベニカヤラン Tosa: Mt Yokogura (T. Makino).

Sarcochilus aphyllus sp. nov. Jap. Kumoran. クモラン Tosa: Sakawa, Ikenouchi (T. Makino).

Gastrodia shikokiana sp.nov. Jap. Himenoyagara. ヒメノヤガラ Tosa: Mt. Hōnokawa (S.Tsuduki).

Habenaria tosaensis sp. nov. Jap. Awotombo. アヲトンボ Tosa: Sakawa (T. Makino).

Habenaria(Gymnadenia)Chidorisp. nov. Jap. Hinachidori, ヒナチドリ Sōmoku-Dusetsu, vol. XVIII. fol.81. Tosa (K. Watanabe).

Habenaria flagellifera—Cœloglossum flagellifarum Maxim. Jap. Mukagotombo ムカゴトンボ

Makino, Illustr. Fl. Jap. vol. 1, no. 3, plate XVII. Tosa (T. Makino).

ALISMACEÆ. おもだか科

Sagittaria sagittæfolia Linn. var. **Aginashi** Makino. Jap. Aginashi. アギナシ Iwaki (T. Makino).

SALICACEÆ. やなぎ科

Salix shikokiana sp. nov. Jap. Yabuynaagi. ヤブヤナギ Tosa: Nanokawa (K. Watanabe).

POLYGONACEÆ. たで科

Polygonum flaccidum Roxb. var. **lætevirens** Makino. Jap. Awitade. アヰタデ Tosa: Sakawa (T. Makino), cultivated.

Polygonum sagittatum Linn. var. **aestivum** Makino. Jap. Unagitsukami. ウナギツカミ Tosa: Sakawa, Tokano (T. Makino). Musashi: Ōmiya (T. Makino).

PHYTOLACCACEÆ. やまごばう科

Phytolacca japonica sp. nov. Jap. Marumino-yamagobō. マルミノヤマゴバウ Tosa (T. Makino K. Watanabe).

CARYOPHYLLACEÆ. なでしこ科

Arenaria platysperma—Möhringia platysperma Maxim. Mél. biol. vol. IX, p. 35; Bot. Mag., Tōkyō Bot. Soc. vol. 11, no. 21, p. 221. Jap. Tachihakobe. タチハコベ Tosa: Fukui (T. Makino), Kusugami (T. Makino, K. Watanabe).

BERBERIDACEÆ. めぎ科

Berberis Thunbergii DC. var. **sikokiana** Makino B. sikokiana Yatabe, in Bot. Mag., Tōkyō Bot. Soc. vol. v, no. 55, pp. 283—284. Jap. Obamegi. オホバメギ Tosa: Mt. Tebako (T. Makino, 1885, T. Yoshinaga, 1888), Mt. Torigata (T. Makino).

RANUNCULACEÆ. うまのあしがた科

Clematis heracleæfolia DC. var. **speciosa** Makino. Jap. Ōkusabotan. オホクサボタン Tosa: Asō (T. Makino).

Clematis tosaensis sp. nov. Jap. Torigatahanshō-duru. トリガタハンセウヅル Tosa: Mt. Torigata (T. Makino). Suruga: Mt. Fuzi (S. Matsuda).

VIOLACEÆ. すみれ科

Viola Patrinii DC. var. **minor** Makino. Jap. Hime-sumire. Tosa: Sakawa (T. Makino).

Viola Raddeana Regel var. **japonica** Makino-V. deltoidea Yatabe, in Bot. Mag., Tōkyō Bot. Soc. vol. V, no. 56. p. 318. Jap. Tachisumire, タチスミレ Sōmoku-Dusetsu, vol. XVII, fol. 60.

Viola Bisseti Maximowicz—V. vaginata Maxim. var. angustifolia Yatabe, in Bot. Mag., Tōkyō Bot. Soc. vol. v, no. 56, p. 319. Jap. Nagabanosumiresaishin. ナガバノスミレサイシン (T. Makino). Tosa: Mt Yokogura, Nanokawa (T. Makino). Musashi: Mt. Takawo (T. Makino).

HYPERICACEÆ. おとぎりさう科

Hypericum hakonense Franch. et Savat. forma **elegans** Makino. Jap. Takaneotogiri. タカネオトギリ Tosa: Mt. Tebako (T. Makino).

Hypericus erectum Thunb. var. **obtusifolium** Bl. Jap. Azeotogiri, アゼオトギリ Bot. Mag., Tōkyō Bot. Soc. v. IV, no. 38, p. 151. Tosa (T. Makino). Musashi: Tōkyō (T. Makino).

RUTACEÆ. へんるうだ科

Zanthoaylum shikokianum sp. nov. Jap. Kogarasuzanshō. コガラスザンセウ Tosa: Isa (T. Makino)

ACERACEÆ. もみち科

Acer pictum Thunb. var. **angustilobum** Makino. Tosa: Nanokawa (T. Makino).

VITACEÆ. ぶだう科

Vitis flexuosa Thunb. var. **japonica** Makino. Jap. Otokobudō. オトコブダウ Tosa: Sakawa (T. Makino).

RHAMNACEÆ. くろうめもどき科

Berchemia racemosa Sieb. et. Zucc. var. **magna** Makino. Jap. Ōkumayanagi. オホシマヤナギ Tosa: Yotsu (T. Makino).

UMBELLIFERÆ. 繖形科

Hydrocotyle asiatica Linn. var. **cristata** Makino. Tosa: Amadi (T. Makino).

Ligusticum shikokiauum sp. nov. Jap. Inutōki. イヌタウキ Tosa: Ochi (T. Makino).

SAXIFRAGACEÆ. ゆきのした科

Chrysosplenium tosaense sp. nov. Jap. Tachinekonomesō· タチ子コノメサウ Tosa: Nanokawa (T. Makino).

Deutzia Maximowicziana D. discolor Maxim. Jap. Uraziroutsugi. ウラジロウツギ Tosa (T. Makino).

Saxifraga madida—S. cortusifolia Sieb. et Zucc. β. madida Maxim. in Mél. biol. vol. VIII, p. 600. Jap. Zinzisō. ジンジサウ Tosa: Nanokawa (T. Makino).

CRASSULACEÆ. べんけいさう科

Sedum tosaense sp. nov. Jap. Yahazumannengusa. ヤハズマン子ングサ Tosa: Tokano (T. Makino).

THYMELÆACEÆ. ぢんちやうげ科

Daphne kiusiana Miq. var. **odora**—D. odora Thunb. Jap. Dinchōge. ヂンチヤウゲ Musashi: Tōkyō (T Makino), cultivated.

Wikstrœmia gynopoda Maximowicz—W. albiflora Yatabe, in Bot. Mag·, TōkyōBot. Soc., Vol. V. no. 53, p. 217. Jap. Miyamagampi. ミヤマガンピ l.c. vol. IV. no.39, p. 173. Tosa: Mt. Tebako (T. Makino, 1885). Mt. Yokogura, Nanakawa (M. T.)

ROSACEÆ. いらば科

Prunus Pseudo-Cerasus Lindl. var. **humilis** Makino. Jap. Wakakinosakura. ワカキノサクラ Tosa: Sakawa (T. Makino).

Rubus Pseudo-Acer sp. nov. Jap. Miyamamomidiichigo. ミヤマモミヂイチゴ Tosa: Mt. ebkaoT (T. Makino, 1885).

PAPILIONACEÆ. 蝶形花科

Vicia sativa Linn. var. **normalis** Makino. Tosa: Sakawa (T. Makino). Musashi: Shinagawa (T. Makino).

Sophora shikokiana sp. nov. Jap. Miyamafudigi. ミヤマフヂキ Tosa: Nawokawa (T. Makino).

ERICACEÆ. しやくなん科

Rhododendron shikokianum sp. nov. Jap. Akatsutsuzi. アカツヽジ Tosa: Sakawa (T. Makino).

Rhododendron tosaense sp. nov. Jap. Fuditsutsuzi. フジツヽジ Tosa: Sōdayama, Kimibun (T. Makino)

MYRSINACEÆ. やぶかふじ科

Ardisia Tachibana sd. Karatachibana. カラタチバナ Tosa: Sakawa (T. Makino), cultivated.

GENTIANACEÆ· りんだう科

Swertia chinensis Francht. var. **tosaensis** Makino· Jap. Inusenburi· イヌセンブリ Tosa (T. Makino).

LOGANIACEÆ. ふぢうつぎ科

Gardneria multiflora sp. nov. Jap. Chitosekadura. チトセカズラ (T. Makino),: Musashi: Tōkyō (T. Makino.) cultivated.

ASCLEPIADACEÆ. すゞめのおごけ科

Stephanotis japonica sp. nov. Jap. Shitakisō. シタキサウ Tosa (T. Makino).

LABIATÆ. 唇形花科

Plectranthus inflexus Vahl. var. **verticillatus** Makino. Sagami (Y. Muraoka).

Plectranthus excisus Maxim. var. **shikokianus** Makino. Tosa: Mt. Tebako (T. Makino).

Scutellaria shikokiana sp. nov. Jap. Miyamanamiki, in Bot. Mag., Tōkyō Bot. Soc. vol. III, no. 23, p 4. Tosa: Mt. Yokogura (T. Makino), Nanokawa (T. Makino), Mt. Kurotaki (K. Watanabe).

Scutellaria tosaensis sp. nov. Tosa: Susaki (T. Makino).

Scutellaria nipponica sp. nov. Musashi: Chichibu (T. Makino). Tosa: Sakawa (T. Makino).

Chelonopsis moschatus Miq. var. **longipes** Makino. Jap. Tanizyakosō. タニジヤカウサウ Tosa (T. Makino).

VERBENACEÆ. くまつゞら科

Callicarpa shikokiana sp. nov. Jap. Tosamurasaki. トサムラサキ Tosa: Iburi, Mt. Imano (T. Makino.

CAMPAǸUCLAEÆ. きゝやう科

Adenophora Maximowicziana sp. nov. Jap. Hinashazin. ヒナシヤジン Tosa: Mt. Yokogura (T Makino), Mt. Irazu (Y. Yoshinaga).

CUCURBITACEÆ. うり科

Trichosanthes shikokiana sp. nov. Tosa: Iburi (T. Makino).

Schizopepon bryonæfolius Maxim. Jap. Miyamanigauri. ミヤマニガウリ Kōduke: Shimidutōge

(T. Makino).

RUBIACEÆ. わかねさう科

Damnacanthus indicus Gærtn. var. **microphyllus** Makino. Tosa (T. Makino).

CAPRIFOLIACEÆ. すひかつら科

Abelia shikokiana sp. nov. Jap. Iwatsukubaneutsugi. イハツクバネウツ Tosa: Ogawa (T. Makino), Mt. Yokogura (T. Makino, Y. Yoshinaga).

Lonicera Torigatayamaensis sp. nov. Jap. Kouguisukagura. コウグヒスカグラ Tosa: Mt. Torigata (K. Watanabe, T. Makino).

COMPOSITÆ. きく科

Aster semiamplexicaulis sp. nov. Jap. Inakagiku. イナカギク Tosa: Mt. Yokogura (T. Makino).

Senecio Iimumæ sp. nov. Jap. Ōmomidigasa. オホモミヂガサ Momidigusa, Sōmoku-Dusetsu, vol. XVI, fol. 13. Tosa: Nanokawa (T. Makino). Musashi: Chichibu (T. Makino).

Senecio hibernus sp. nov. Jap. Yukimigiku. ユキミギク Tosa: Koyaika (T. Makino), Heshima (Y. Yoshinaga).

Senecio farfaræfolius Maxim. var. **lobata** Makino. Jap. Miyamakōmori. ミヤマカウモリ Tosa: Mt. Tebako (T. Makino).

Ainsliæa triloba sp. nov. Jap. Oyarihaguma. オヤリハグマ Iwashiro: Moniwa (T. Makino). Iwaki

(T. Makino).

Lactuca Matsumurae sp. nov. Jap. Nonigana. ノニガナ Tosa: Ochi (T. Makino). Sanuki (T. Makino) Musashi (T. Makino).

Lactuca amagawaensis sp. nov. Jap. Kawaranigana. カハラニガナ Musashi (T. Makino).

日本海藻ノ分布

理學士　岡村金太郎

本邦海藻ノ分布ハ未ダ各地ノ調査充分ナラザルヲ以テ玆ニ之ヲ論スルハ少ク早ニ失スルノ嫌ナキニ非レ圧余ノ既ニ研究シタル區域ハ南ハ琉球ヨリ北ハ千島ウルップ島迄ニ亘ルヲ以テ其大体ニ就テ分布ノ狀況ヲ論ズルモ亦故ナキニ非ズ因テ左ニ之ヲ概論セントス然圧尙ホ他日詳細ノ調査ヲ遂ルニ至テ或ハ修正スル所アルベシ玆ニ海藻ノ分布ヲ論ズルニ當テ先ヅ本邦ノ地勢ト潮流トヲ説カザル可ラズ盖シ海藻ノ分布ハ緯度ト潮流トニ關スルヿ大ナレバナリ抑モ本邦ノ南端琉球石垣島ハ北緯二十四度ニ起リ北端千島占守島ハ五十一度ニ達シ此間廿八度ニ亘ル而シテ本邦ヲ圍繞スル海流中暖流ハ呂宋ト台灣トノ間ニ起リ琉球諸島ヲ洗テ九州ノ南端ニ至リ玆ニ本支二派ニ分レ其本流ハ中土ニ沿フテ遂ニ犬吠崎以北ニ達シ漸ク東向シテ數派ニ散ズ又支流ハ九洲ノ西岸ヲ經テ對馬流トナリ中土ニ沿フテ遂ニ北海道ノ北端宗谷岬ヲ廻リ漸ク消滅ス而テ寒流ハ其源ヲオコック海トベーリング海トニ發シカムサツカ半島ノ東西兩海岸ニ起ルモノ合一シテ千島流即チ親潮トナリ千島ヲ洗フテ北海道ニ沿ヒ南向シテ往々安房半島ヲ迂回ス彼ノ露領黒龍河口ニ起リ南向シテ露領ニ沿フ所ノリマン流ハ本邦ニ對シテ差シタル影響ナク黒龍江ノ吐水力ノ爲ニ樺太島ノ北端ヲ迂回シテ全島ノ東岸ニ沿フ所ノ樺太

流ハ其南端ニ於テ踪跡ヲ失フト云

斯ク本邦ノ地勢ハ南西ヨリ北東ニ亘リ加フルニ寒暖二流アルヲ以テ實際温帶中ニアリナガラ海藻ノ景況ハ稍寒帶温帶及ビ熱帶地ノ狀況ヲ呈セリ即チ琉球諸島及ビ小笠原諸島ハ稍熱帶地ノ海藻ニ富ミ九洲ヨリ四國ヲ經テ陸前金華山ニ至ル迄ノ間ハ稍温帶地ノ狀況ヲ呈シ金華山以北北海道千島諸島ハ稍寒帶地ノ種類ニ富メリ而シテ日本海沿岸ハ只暖流ノ一支流アルノミナルヲ以テ各地大差ナク陸奥國艫造崎以北ニハ稍寒帶地ノ種類ヲ見ルト雖モ未ダ以テ北海道ノ東海岸ノ如クナラズ要スルニ本邦中土ニ於テハ兩海岸共大差ナク山陰諸國ノ海ノ如キハ能ク豆相ノ海ニ似タリ

本邦ニ産スル海藻中或ハ大西洋ニ産スルモノアリ或ハ地中海等ニアルモノアリ而シテ此等諸種ノ分布ハ一意海流ニ歸スベカラズト雖モ其明ニ暖流ノ爲ニ南洋諸島ヨリ齎ス所ノモノヲ擧グレバ Phacelocarpus, Leviellea, Sporochnus, Martensia, Delisea 等ノ如キ其種類頗ル多シ而シテ此等ノ多數ハ概ネ本邦ノ中土伊豆諸島等ニ多シトス又北米ノ北部太平洋沿岸ノ者ヲ以テ我北海道ニ産スル者ト比スルニ概ネ彼我相類セリ蓋シ寒流ハベーリング海ニ起リ一ハアリユーシアン群島ヲ經テ北米ノ西岸ニ沿ヒ一ハ我千島ニ沿フテ流ルヽヲ以テナリ

今本邦ノ北部ニ産スル種類ヲ以テ之ヲ大西洋北部ノ者ニ比スルニ多少相類スル者ナキニ非ズト雖モこんぶ科植物ノ如キニ至リテハ我大平洋ハ大ニ此科ノ者ニ富ミ彼大西洋ニ在テハ我ノ如ク多カラズ即大西洋ニアリテハ概ネ Sacchorhiza 様ノ種類多シト雖モ大平洋ニ在テハ Eggregia, Peragophycus, Eisenia, Postelsia, Lessonia, Pterygophora, Ecklonia, Ulopteryx, Arthrothamnus, Macrocystis, Thalassiophyllum. 等ノ諸屬極メテ多シ

斯ク本邦ノ海藻ハ或ハ亞米利加ノモノト同ジキアリ或ハ南洋ノモノト等シキアリト雖モ又本邦別ニ特殊ノ發

達チナシタルモノ頗ル多シ彼ノわかめ (Ulopteryx pinnatifida kjellm.) ノ如キ海ノ北スルニ隨テ漸ク大ナリト雖モ南西遙ニ長門ニ至ル迄之チ產スルチ以テ見レバ其分布啻ニ寒流ノ爲ノミニ非ルガ如シ又ひらさいみ (新稱 Gymnogongrus pinnulatus Harv.) ゆひきり (Acanthopeltis japonica Okamura) かちめ (Ecklonia cava kjellm.) 等ノ如キモ未ダ他ニ見ザル所ニシテ只本邦ニノミ固有ナルモノ其數尙ホ多シトス

今海藻ノ種類ニ從テ本邦大平洋ノ沿岸ヲ區劃スレバ概子左ノ如シ

第一、金華山以北北海道東岸ニ沿フテ千島ニ至ル間　此沿岸ノ種類ハ概子寒帶ノ類ニ富ミ殊ニこんぶ科ノモノヲ以テ多シトス而シテ千島諸島ハ余ノ研究未ダ充分ナラズト雖モ Thalassiophyllum, Macrocystis, Arthrothamnus, Alaria 諸屬等大ナル海藻多ク北海道東岸ハ最モこんぶ屬ノ種類ニ富メリえながこんぶ、みつひしこんぶ、ほんこんぶ等先ヅ多數チ占メざるめ、じやらめノ如キモ亦多シ而シテ紅藻類中ニハ Constantinea, Ptilota asplenioides Trun., P. plumosa var. serrata k g., Odonthalia obtusangula Harv., Delesseria violacea J. Ag., D. crassifolia Rupr. 等皆北地ノモノナラザルハナシ又 Fucus 屬ノモノチ擧グレバ F. Wrightii Harv., F. evanescence Ag. 等アリ尙ホ北スルニ從テ其種類多シトスざるめ、じやらめノ如キモ三陸地方ニ至レバ漸ク小ニシテ且少ナクこんぶノ如キモ其肉薄クシテ小トナリ終ニ松島邊ニ至テ終ルほんだわら屬ハ其種類甚ダ少ナク僅ニ一二種ニ過ギズ然レ𪜈ひじき屬ノモノハ少シク存スレ𪜈內地ノモノトハ大ニ異ナレリわかめハ此間ノモノ最モ大キク概子五六尺ニ達シ遙ニ內地ノモノニ勝レリかちめ屬ノモノハ未之アルヲ知ラズ

第二、金華山以南大隅佐多岬ニ至ル間　北海特有ノ種類ハ全ク跡チ絕チ之ニ代ルニ種々鮮美ナル紅藻類ヲ以テシ概子溫帶ノ種類ニ富メリひらさいみノ如キハ房總相豆ノ特産ニシテさゝはのり（新稱 Phyllophora sp.）モ亦然リ而シテ Martensia, Delisea, Phacelocarpus, たまみる等ノ如キ南洋產ノモノハ概ネ東海道沿岸ノ海ニ在リはんだわら屬ハ三陸地方ニモ既ニ存スレ𪜈此ニ至テ殊ニ繁殖シ其種類ノ如キ實ニ夥シかちめ屬ノモノモ金華山近傍ヨリ漸ク現ハレ東海道ノ海ニ至テ最モ能ク蕃殖シ其最大ノ成長ヲナセリ只あらめノ一種ナルあんとくめ(Ecklonia radicosa (Kjellm.) Okamura)ハ土州及ビ伊豫ニ限リ未ダ豆相等ノ海ニ見ズてんくさ科ニ屬スルゆひきりハ專ラ此間ノ海ニ多ク殊ニ志洲房總等ニ多シおごのりハ北地ニモ產スレ𪜈此ニ至テ最モ大トナリ往々三尺余ノ大サニ達スルモノアリ之ニ反シテわかめノ如キハ遙ニ北海ノモノヨリ小ニシテ海水ノ温暖ナル爲ニ其結實期稍早シトス只房洲及ビ相洲ノ沿岸十二三尋ノ所ニあをわかめト稱スル一種ノてんぷアリテ對洲ノわにうらてんぷト同一ナルガ如クナレ𪜈莖稍短キモノアリ蓋シ此種ノ房相邊ニ產スルハ親潮ノ末流尙ホ海底ニ流ルヽアリテ爲ニ深處ノ水温ノ低キガ故ナラン此他尙ホ數多ノ種類アリト雖モ一々枚擧スルノ要ナキヲ以テ之ヲ掲ゲズ只一般ヲ示スノミ

第三、大隅佐多岬以南琉球諸島及ビ小笠原島

此部ノ海藻ハ概ネ熱帶若クハ亞熱帶地ノ景況ヲ呈シ南スルニ從テ彌々多ク稍々第二部ノモノト異ナレリ尤モ此部ノモノト雖モ亦北海道ニ產スルモノヽ如キナキニ非ズト雖モ第一部ノモノハ甚ダ少ナク專ラ熱帶地ノ種類ニ富メリ先ヅ其最ナル者ヲ擧グレバかいにんさう、りうきうつのまたノ如キ其特產ナリかいにんさうノ如キハ土洲ノ南島及ビ九洲沿岸ニモ產スレ𪜈未ダ此地ノ如ク多カラズ Liagora ノ諸種即チ L. leprosa, L. pulverulenta, L. distenta, L. viscida 等ノ如キ專ラ琉球ニ產シ又小笠原島ニモアリ Microdictyon, Acetabularia 等ノ屬ハ專ラ熱帶ノモノニシテ琉球小笠原島等ニアリ又 Delesseria Lepriurii ノ如キ熱帶地ノモノモ小笠原島ニ產ス此他尙ホ詳細ノ調査ヲ經ルニ至レバ多々

益々多カルベキナリ

以上ハ大平洋沿岸ノ景況ナレ𪜈日本海ノ狀況ハ概ネ第二部ノモノト異ナラズ日本海ニハ只暖流ノ支流即チ對島流ノアルノミニシテ別ニ海岸ヲ洗フ所ノ寒流ナキヲ以テ比較上緯度ノ高キ地方ト雖モ敢テ豆相邊ノモノト大差アルヿナシ而シテ大平洋沿岸ニアルモノニシテ日本海ニナキモノハアレモ日本海ノ特產タルモノハ今日ノ所未ダ之アルヲ見ズ故ニ余ハ日本海ノ沿岸ヲ區劃スルニ當テ之ヲ二部ニ分タントス其一ハ即チ薩南佐多岬ヨリ日本海ニ出テ陸奥國艫造崎ニ至ル迄ヲ以テ限リトシ其二ハ艫造崎ヨリ北海道西岸ニ沿フテ宗谷岬ニ至ル迄ヲ以テ限リトス此區劃ヲナス所以ノモノハ北海道西岸ニ於テこんぶノ產スルヲ以テナリ然レ𪜈此地ノこんぶハ只一種東海岸ニ產スルはんこんぶニシテ肉厚ク稍細シ而シテざるめノ如キハ禮文島ニ至テ始メテ之アルヲ見ル水溫ノ北海道東海岸ヨリ高キニ因ルヿ知ルベキナリ（正誤　前號四頁末行長洲野茂崎トアルハ肥前野母崎ノ誤）

植物分類餘錄

理科大學教授博士　松村任三

毛茛科ハ被子部雙子葉類ニ屬ス之ニ近似セル關係ヲ有スル者ヲ木蘭、蕃茘枝ノ二科トス共ニ多雄蘂ヲ有シ分離セル子房ヲ具フ然レ𪜈毛茛科ハ其構造中ニ蓄油器ヲ缺キ又其雄蘂ノ構造ヲ異ニスルヲ以テ以上ノ二科ト異ナレリ而シテ目木科モ亦之ニ類似セル點ナキニ非スト雖其子房ハ單一ナルヲ以テ容易ニ區別スルヿヲ得ベシ

近世ノ分類家ハ毛茛科ヲ左ノ三族ニ大別ス

骨葖、漿果若クハ蒴ヲ結ブ
- 牡丹族 Paeonieae.　外部ノ種皮ハ内部ノ者ヨリ長シ
- 兎葵族 Helleboreae.　外部ノ種皮ハ内部ノ者ヨリ長カラス

瘦果ヲ結ブ｛白頭翁族 Anemoneae.

大凡毛茛科ニ屬スルモノハ二十七屬千百七十五種トス就中多種ノモノハ毛茛屬(Ranunculus)トス共種數二百五十種アリ

○牡丹族ニ左ノ三屬アリ

Glaucidium palmatum S. Z.

シラネアフヒ

Hydrastis jezoensis S. Z.

トチナ　本草圖譜二十三卷九葉ノ表　（子房許多アリ花被早ク脫落ス）

Paeonia albiflora Pall.

Paeonia lacteo flore Amm.

Paeonia edulis Salisb.

シヤクヤク　芍藥（本草綱目芳草）

エビスグサ（延喜式）

エビスグスリ（和名鈔）

ヌミグスリ（和名鈔）

カホヨグサ（歌書）

古方藥品考一卷二十五葉ノ裏、本草圖譜九卷十二葉ノ表、草木圖說十卷ノ廿一圖

普通栽培スル所ノ品ヲ此種名トス

Paeonia obovata *Mx.*

Paeonia oregoton S Moore.

ヤマシヤクヤク　草芍藥（崔豹古今注）

クサボタン

ボタングサ

ヤマシヤクジヤウ（信州）

ノシヤクヤク（備後）

本草圖譜九卷十三葉ノ表、草木圖說十卷ノ二十二圖、日本產物志武藏下三葉ノ表

山中ニ自生スルモノ是レナリ白花ノ品アリ之ヲ Paeonia albiflora, Pall. トスベキカ

Paeonia Moutan *Sims.*

Paeonia officinalis Lour, Thunb.

Paeona papaveracea Andr.

Paeonia arborea Don.

Paeonia fruticosa Don.

ボタン　牡丹（本草綱目芳草）

ハツカグサ（詞花集）

フカミグサ（延喜式）
ナトリグサ（萬葉集）
ヤマタチバナ（萬葉集）
テリサキグサ（萬葉集）
ヨロヒグサ（古歌）
トナリグサ（古歌）

古方藥品考二卷三十葉ノ裏、本草圖譜九卷十四葉ノ表、草木圖説木部六卷三十九葉、小石川植物園草木圖説一卷一ヨリ二ノは圖アシガシタボタン、ギンフクリンボタン、カンボタン（温牡丹）フユボタン等ノ變種アリ

○菟葵族ニ左ノ諸屬アリ

Caltha palustris *L.*

エンコウサウ

リウキンクワ

草木圖説十卷四十八圖及四十六圖

支那、朝鮮ニモ之ヲ產ス獨乙語ニ此草名ヲ Schimirgel 又 Butterblume ト云フ

Trollius Ledebeuri *Reich.*

= *Trollius Japonicus Miq.*（マキシモウヰツチ氏ノ説ニ據ル）

キンバイサウ

キンクワサウ

本草圖譜二十四巻九葉ノ表、草木圖說ノ五十五圖日本產物志近江下

支那ニハ同屬異種ノ品ヲ產ス之ヲ Trollius asiaticus, *L.* ト云フ

Callianthemum

此屬日本ニナシ支那ニ一種アリ Cachemirianum, *Camb.* ト云フ

Helleborus

此屬日本ニ產セズ歐洲ニアリ藥物家ハ之ヲ音譯シテ歇列僕里ト稱シ又 Helleborus albus ヲ白藜蘆 Helleborus niger ヲ黑藜蘆トス本來藜蘆ハ百合科ノ品ナリ混ズベカラズ

Eranthis Pinnatifida *Mx.*

セツブンサウ　菟葵（本草綱目　濕草）

本草圖譜十七巻十九葉ノ裏、草木圖說十巻ノ三十三圖、日本產物志山城下十八葉ノ裏

支那ニ此屬アリ、Eranthis stellata *Mx.* ト云フ

Nigella damascena *L.*

クロタ子サウ

此ハ元來歐洲ノ產ナリ植物園ニ栽植ス獨乙語ニ此草名ヲ Jungfer im Grünen ト云フ

Isopyrum dicarpon *Miq.*

Isopyrum Japonicum S.Z.

サバノチ

Isopyrum adoxoides *DC.*

ヒメウヅ

トンボサウ

本草圖譜三十九卷五葉ノ裏

支那ニモ產ス

Isopyrum stoloniferum *Miq.*

シロカネサウ

Isopyrum Raddeanum *Mx.*

Enemion Raddeanum Regel.

又シロカ子サウト云フ

支那ニモ產ス

Isopyrum trachyspermum *Mx.*

和名詳ナラズ日光ニ產スト云フ

Isopyrum nipponicum *Franch.*

和名詳ナラズ

Coptis trifolia (*L.*) *Salisb.*

ミツバワウレン

カタバミワウレン　（野州）

本草綱目啓蒙圖譜九巻四葉ノ裏、本草圖譜七巻六葉ノ裏草木圖說十巻ノ三十八圖

Coptis quinquefolia *Miq.*

バイクワワウレン

ゴカエフウレン

本草綱目啓蒙圖譜九巻四葉ノ表、本譜圖譜七巻七葉ノ裏草木圖說十巻ノ三十七圖

Coptis anemonaefolia *S. Z.*

ワウレン　黃連　（本草綱目山草）

ヤマクサ　（延喜式）

カクマグサ　（和名鈔）

キクバワウレン

本草綱目啓蒙圖譜九巻一葉ノ表、古方藥品考三巻十一葉ノ表、本草圖譜七巻二葉ノ表裏三葉ノ表裏草木圖說十巻三十六圖

Coptis brachypetala *S. Z.*

セリバワウレン

オホバワウレン

ナガバワウレン

ホソバワウレン

本草綱目啓蒙圖譜九卷二葉ノ表裏及三葉ノ表裏本草圖譜七卷四葉ノ裏五葉ノ表裏六葉ノ表

西書中ニハ本邦尙ホ此他ニ Coptis occidentalis *Nut.* 及 Coptis orientalis *Mx.* ノ二種ヲ産スルガ如ク記スルモノアリ想フニ皆以上ノ變種ナラム

Anemonopsis macrophylla *S. Z.*

レンゲショウマ

クサレンゲ

草木圖說十卷ノ二十六圖、本草圖譜七卷二十一葉ノ裏、日本産物志武藏上二十七葉ノ裏

Actaea spicata *L.*

ルヰエウショウマ

日本産物志美濃下ノ十葉

支那亦此種ヲ産ス外ニ彼ニハ Actaea davurica *Franch* トイフモノアリ

Actaea micifuga *L.*

Cimicifuga simplex Worm.

サラシナショウマ

クロショウマ

アハボ

古方藥品考一卷十一葉ノ裏、草木圖說十卷ノ十二圖、本草圖譜七卷ノ二十一葉

Actaea Japonica *Th.* **var. ternata** *Mx.*

Pityrosperma acerinum S. Z.

Cimicifuga Japonica Miq.

ミツバショウマ　升麻　（本草綱目山草）

ミヅフテ　（肥前肥後）

イヌショウマ

アハボ

Var. biternata *Mx.*

ミヤマショウマ　牧野氏所命

本草綱目啓蒙圖譜九卷十七葉ノ裏、本草圖譜七卷十九葉ノ裏、草木圖說十卷ノ十三圖及十四圖、花彙草ノ四十三葉ノ表

Actaea obtusiloba （*S. Z.*）

Pityrosperma obtusilobum S. Z.

Cimicifuga obtusiloba Miq.

オホバシヨウマ

キケンシヨウマ

ミツフデ

本草綱目啓蒙圖譜九卷十九葉ノ表、本草圖譜七卷二十葉ノ表、草木圖說十卷ノ五圖、質問本草內篇二卷ノ十三葉

Aquilegia viridiflora *Pall.*

Aquilegia atropurpurea Willd.

チダマキ 耬斗菜（救荒本草）

草木圖說十卷ノ二十七圖、本草圖譜三十九卷三葉ノ表

Aquilegia Buergeriana *L. f.*

= *Aquilegia glandulosa Fisch.*（マキシモウヰツ氏ノ說ニ據ル）

ヤマヲダマキ

草木圖說十卷ノ二十八圖、本草圖譜二十九卷二葉ノ裏、及四葉ノ表裏

一種**ホウカゾウ**ト云フアリ本草圖譜二十九卷五葉ノ表、草木圖說十卷二十九圖是レナリ Forma stellata トス

Delphinium

ヒエンサウ

支那ニ八種アリ日本ニハ一モ之ヲ産セズ歐洲産ノ品ヲ移シテ植物園ニ植ユ、此和名アリ月下參及小草烏ノ二種ハ植物名實圖考ニ見ユ共ニ毒草卷之二十三ノ六十九及七十葉

似益母草而小、發細莖擎膏葖、宛如飛鳥、昂首翹尾登枝欲鳴、開五瓣藍花……………雙鸞菊烏頭一類云々雙鸞菊ハ和名トリカブトニシテ即チ下ニ擧グル屬ナリ

Aconitum Fischeri *Reich.*

Aconitum sinense S. Z.

Aconitum autumnale Lindl

Aconitum Carmichaeli Debeaux.

トリカブト　附子　烏頭　（木草綱目毒草）

イフス　（和名鈔）

ヲフ　（古歌）

カブトギク

カブトバナ

ブス　（佐州）

タウ　（本草和名）

古方藥品考一卷三十葉ノ裏、本草圖譜二十四卷十五葉ノ表、又二十二卷十葉ノ裏十一葉ノ裏、十三葉ノ裏、質問本草內篇四卷ノ二葉及三葉ノ圖モ此種ナルベキカ

支那ニ之ト同種ノ品アリ

Aconitum lycoctonum *L.*

Aconitum barbatum Patr.

Aconitum Cynoctonum Reich.

Aconitum Vulparia Reich.

Aconitum Lamarkii Reich.

レイジンサウ　牛扁（本草綱目毒草）

本草圖譜二十四卷十二葉ノ表、草木圖說十卷二十四圖支那ニモ産ス

Aconitum Napellus *L.*

ホソバトリカブト

Aconitum volubile *Pall.*

ツルウヅ

本草圖譜二十四卷十四葉ノ表裏、草木圖說十卷二十三圖ノbノハナカヅラ又ハナヅルモ之ト同物ナルカ西書ニ Aconitum uncinatum ト云フ名ヲ以テ之ニ充ツルアリ未タ其當否ヲ知ラズ又本草圖譜二十四卷十二葉朝鮮種ナリトテ黄白色ノ「レイジンサウ」ヲ圖ス想フニ Aconitum Kusnetzowi *Reich.* ナラム此ハ支那及朝鮮ニ産スルモノナリ Aconitum villosum *Mx.* ノ異名アリ

○白頭翁族ニ左ノ數屬アリ

Anemone cernua *Th.*

オキナグサ （和名鈔） 白頭翁 （本草綱目山草）

ナカグサ （和名鈔）

ゼガイサウ （信州、筑前）

シヤグマザイゴ

シヤグマグサ （石州）

チヽカウ

チゴバナ （加州、播州）

チンコバナ （信州）

チチンコ （仙臺）

チチコ （野州）

カハラチゴ （野州）

チンゴ （但州）

チゴノマヒ （越中）

オチゴバナ （水戸）

カハラバナ （仙臺）

カハラザイコ （炮炙全書）

ガクモチ（濃州）
カヅラ（濃州）
ガクサウ（濃州）
ツハブキ（參州）
ネコグサ（筑前）
ネゴバナ（筑後）
ゲジゲジマナイタ（加州）
ダンゼウドノ（讚州）
ダンゼウ（阿州）
ゼウドノ（四國）
カブロ（木曾）
カブロサウ（伊州）
ヒメバナ（大坂）
オニゴロ（越中）
テングノモトドリ（越中）
ウナイコ（花家）
ウチコ（薩州）

ヲナイコ（肥後）
ウバガシラ（松前）
チバガシラ（津輕）
ヤマブシバナ（石州）
シヤンゴバナ（播州龍野）
ホウコグサ（播州姫路）
コラコラ（播州木梨村）
コマノヒザ（仙臺）
ケイセンクワ（備前、作州）
ケイセイサウ（甲州、備中）
ヌスビトバナ（肥前）
ヌスドバナ（和州）
ハグマ（泉州）
キツ子コンコン（備後）
ラカンサウ
モノグルヒ（飛州）
カツチキ（飛州）

ガンボウシ　（上野）

ジイガヒゲ　（藝州）

本草綱目啓蒙圖譜八卷四十二葉ノ表、本草圖譜六卷二十三葉ノ表、草木圖說十卷ノ三十四圖、古方藥考三卷二十一裏

支那、朝鮮ニモ産ス

Anemone Japonica *S. Z.*

シウメイギク　秋牡丹　（秘傳花鏡）

キブネギク

トヨノギク　（江州上野村）

カブロギク　（勢州）

カハギク　（紀州熊野）

ミツバギク　（紀州熊野）

タウギク　（大和本草）

エゾギク　（常陸）

草木圖說十卷ノ四十圖、日本産物志山城下十四葉ノ表

支那ニモ産ス

Anemone dichotoma *L.*

アウシナキ（蝦夷）

Anemone flaccida *Fr. Sch.*

フクベライチゲ

ニリンサウ

クワシヤウサウ

フクベラ（佐州）

カラスノハナ（飛州）

フキニラ（飛州）

コモチバナ（信州）

フクニラ（木曾）

ガシヤウサウ

草木圖説十卷ノ三十四圖本草圖譜十七卷十九葉ノ表、日本植物圖説卷二十九葉

支那ニモ產ス

Anemone nikoensis *Mx.*

イチゲサウ　雙瓶梅、（清俗）

イチリンサウ

ウラベニイチゲ

ヒガンバナ（信州）
フクニラ（木曾）
草木圖說十卷三十圖本草圖譜十九卷二十葉ノ裏、日木植物圖說一卷二十八葉
朝鮮ニモ產ス

Anemone altaica *Fisch.*

キクザキイチリンサウ

カザフキサウ（越中）
草木圖說十卷三十一圖、日本植物圖說一卷ノ三十一葉

Anemone Keiskeana *T. Ito.*

ルリイチゲ

ユキワリ（和州多武峯）
日本植物圖說一卷ノ三十四葉、本草圖譜十九卷二十一葉表ノ中圖

Anemone stoloninfera *Mx.*

ギンサカヅキイチゲ

サンリンサウ
トキハイチゲ
日本植物圖說一卷ノ三十葉

植物分類餘錄

Anemone debilis *Fisch.*

Anemone gracilis Fisch.

ヒメイチゲサウ

ブクシヤキナ　（北海道）

日本植物圖說一卷ノ三十葉、本草圖譜十九卷二十一葉表ノ左圖

Anemone Raddeana *Regel.*

コイチゲサウ

日本植物圖說一卷ノ三十二葉

支那朝鮮滿州ニモ產ス

Anemone narcissiflora *L.*

ハクサンイチゲサウ

支那ニモ產ス

Anemone Hepatica *L.*

スハマサウ　獐耳細辛　（本草綱目及己釋名）

ミスミサウ

ミスミグサ

サンカクサウ

ユキワリサウ

草木圖說十卷ノ三十五圖、本草圖譜十七卷十九葉ノ表支那朝鮮ニモ產ス

Clematis Pierotii *Miq.*

コバノボタンヅル

Clematis lasiandra *Mx.*

ワクノテ

Clematis fusca *Turcz.*

Clematis kamtschaticum Bong.

クロバナノハンシヨウヅル

Clematis stans *S.Z.*

ツリガネサウ

クサボタン

クツワガラ

ハクトウワラ

本草圖譜二十九卷五葉ノ表裏、碧紅花ト白花トノ二種アリ

Clematis apiifolia *DC.*

ボタンヅル　女萎　（木草綱目蔓草）

ワクツル

シンデンカヅラ（丹州）

ワクノテ（仙臺）

ナベカラマリ（仙臺）

スクモカヅラ（仙臺）

チヤカヅラ（石州）

ドンドロ（勢州）

カラクサ

草木圖說木部六卷ノ五十、本草圖譜二十九卷四葉ノ表、支那琉球ニモ產ス

Clematis paniculata *Th.*

センニンサウ　大蓼（救荒本草）

ハボロシ

タカタデ

フツクサ

質問本草外篇三卷ノ二十四、草木圖說木部六卷ノ四十六

別ニ **Clematis Maximowieziana** *F. S.* ホソバノセンニンサウ　トイフアリ此種疑フベキモノナリ

支那朝鮮ニモ產ス

Clematis Tashiroi *Mx.*

ヤヘヤマセンニンサウ（田代氏所命）

琉球產ナリ

Clematis Benthamiana *Hemsl.*

ミヤコジマボタンヅル（田代氏所命）

琉球產ナリ此種疑ハラクハ Clematis chinensis *Retz.* ナルベキカ未確定スル能ハズ

支那ニモ產ス

Clematis uncinata *Champ.*

タニモダマ

ムイワラカヅラ

草木圖說木部六卷四十九ノ博物舘增補ノ圖

支那ニモ產ス

Clematis Meyeniana *Walp.*

Clematis oreophila Hce.

Clematis hedysarifolia DC.

ヤンバルセンニンサウ（田代氏所命）

支那ニモ產ス

Clematis florida *Th.*

Clematis hakonensis F.S.

テッセン　鐵線蓮　(秘傳花鏡)

質問本草外編三巻二十五葉

Clematis patens *Morr. Decne.*

Clematis coerulea Lindl.

カサグルマ

本草圖譜二十九巻十六葉ノ裏草木圖説木部六巻ノ四十五

Clematis ovalifolia *T. Ito.*

未詳

Clematis japonica *Th.*

ハンショウヅル

ツリガチカヅラ

本草圖譜二十九巻六葉ノ表、草木圖説木郎六巻ノ五十四

Clematis williamsii *A. Gr.*

シロバナノハンショウヅル

本草圖譜二十九巻六葉ノ裏

Clematis eriopoda *Mx.*

未詳

Clematis alpina *Mill.*

Atragene alpina L.

ミヤマハンショウヅル

支那ニモ産ス

Trautvetteria palmata *Fisch. et Mey.*

モミヂカラマツ

モミヂショウマ

草木圖說十卷ノ四十五圖

Ranunculus Ficaria *L.*

コバノリウキンクワ

草木圖說十卷ノ三十三圖

Ranunculus aquatilis *L.*

ウメバチモ

バイクワモ

本草圖譜三十四卷十六葉ノ表

支那ニモ產ス

Ranunculus Flammula *L.*

イトキンポウゲ

Ranunculus pensylvanicus U. **var. japonicus** *Mx.*

Ranunculus japonicus Langs.

キツチノボタン

コマノアシガタ

オホゼリ （仙臺）

カハミツバ （播州）

イタチノアシ （勢州）

草木圖說十卷ノ五十圖及五十一圖、本草圖譜廿四卷七葉ノ裏

支那ニモ產ス

Ranunculus pensylvanicus *L.* **var. Tashiroei** (*F. S.*)

Ranunculus Tashiroei F. S.

チトコゼリ

草木圖說十卷五十四圖

Ranunculus pensylvanicus *L.* **var. chinensis** *Mx.*

コキツネノボタン

是レ上種ト同物ナラムカ

支那ニモ產ス

Ranunculus ternatus *Th.*

Ranunculus Zuccarini Miq.

ヒキノカサ　（大和本草）

コキンボウゲ

草木圖說十卷ノ五十二圖、本草圖譜二十四卷七葉ノ表

支那ニモ產ス

Ranunculus acer *L.* **var. japonicus** *Mx.*

Ranunculus Japonicus Th.

ウマノアシガタ　毛茛　（本草綱目毒草）

金鳳花銀鳳花ハ千葉ノ品ナリ

コマノアシガタ

オニゼリ　（備後）

オホゼリ　（備後）

オコリオトシ　（江州）

テマリグサ　（江州）

カハミツバ　（江州）

カイルコグサ　（江州彦根）

ウマノパンジヤウ　（河内）

ヒトデ

ウマゼリ　（播州）

本草圖譜二十四巻八葉ノ裏

支那ニモ產ス

Ranunculus acer *L.* **var. Steveni** *Regel*

ミヤマキンポウゲ

Ranunculus repens *L.*

ハヒキンポウゲ

ウマノアシガタ

キンポウゲ

草本圖說十巻ノ四十九圖、本草圖譜二十四巻八葉ノ表

此圖尋常ノ「キンポウゲ」ナルカ疑ハシ

支那ニモ產ス

Ranunculus sceleratus *L.*

タガラシ　石龍芮（本草綱目毒草）

タゼリ（攝州、仙臺、江戸）

タヽナベ（讃州、豫州）

キチキチ（豫州）

タヽラビ（下總）

ゲジケジ（尾州）

タンガラ

タヽロベ（備前）

ドブゴセウ（江戸）

カヘルノキツケ（上總）

草木圖說十巻ノ五十三圖

支那ニモ産ス

Ranunculus Sieboldi *Miq.*

琉球ニ産ス

Thalictrum aquilegifolium *L.*

カラマツサウ

草木圖說十卷ノ四十一圖

Thalictrum Baicalense *Turcz.*

ハルカラマツ

Thalictrum Rochebrunianum *F. S.*

シキンカラマツ

Thalictrum actaefolium *S. Z.*

シギンカラマツ

Thalictrum tuberiferum *Mx.*

ミヤマカラマツ

草木圖說十卷ノ四十二圖

Thalictrum simplex *L.*

ノカラマツ

キカラマツ

草木圖說十卷ノ四十三圖

支那ニモ産ス

Thalictrum minus *L.*

アキカラマツ

草木圖説十卷ノ四十四圖、本草綱目啓蒙圖譜九卷二十葉ノ裏

支那ニモ産ス

Thalictrum alpinum *L.*

シロカネサウ

支那ニモ産ス

Thalictrum integrifolium *Mx.*

ヒメカラマツ

Adonis vernalis *L.*

フクジユサウ

グワンジツサウ

草木圖説十卷ノ三十九圖

支那、朝鮮ニモ産ス

富士山植物彙報（前號ノ續キ）

理科大學　渡邊協
高等師範學校敎諭　松田定久

正誤　第五十八號本項中 Campanumæa japonica, *Max.* ツルギキヤウ ハ Codonopsis lanceolata, Benth. et Hook. *f.* ツルニンジン ノ誤

Polygonaceæ. 蓼科

Polygonum cuspidatum, *S. et Z.* イタドリ (三)

„ strigosum, *R. Br.* ウナギツカミ (三)

„ Thunbergii, *S. et Z.* var. Maackianum, *Max* サデクサ (三)

„ Polymorphum, *Ledeb* var. japonicum, *Max.* オンタデ (大)

„ debile, *Meisn.* var. triangulare, *Meisn* ミヤマタニソバ

Piperaceæ. 胡椒科

Houttuynia cordata, *Thunb.* ドクダミ (三)

Chloranthaceæ 金粟蘭科

Chlorantus serratus. *Rœm. et Sch.* フタリシヅカ

Laurineæ. 樟科

Lindera præcox, *Blume* アブラチヤン

„ hypoglauca, *Max.* クロモジ (大)

„ obtusiloba, *Blume.* ダンカウバイ

Thymelæaceæ 瑞香科

Daphne Pseudo-mezereum, *A. Gray.* オニシバリ

Wikstrœmia canescens, *Meisn.* var. Ganpi, *Miq.* コガンピ (三)

Elæagnaceæ. 胡頽子科

Elæagnus umbellata, *Thunb.* アキグミ (大)

„ longipes, *A. Gray.* ナツグミ

Urticaceæ. 蕁麻科

Humulus Lupulus, *L.* var. cordifolius, *Max.* カラハナサウ (大)

Bœhmeria longispica, *Steud, var.* tricuspis, *Hance.* アカソ (三)

Pouzolzia hirta, *Hassk.* ツルマナ (矢野)

Cupuliferæ. 殼斗科

Betula alba, *L.* var. vulgaris, *D. C.* シラカンバ (三)

Alnus virdis, *D. C.* var. Sibirica, *Regel.* ミヤマハンノキ (大)

〃 incana, *Willd.* var. glauca, *Ait.* ヤマハンノキ（大）

〃 firma, *S. et Z.* var. multinervia. *Regel.* ヒメハンノキ

Carpinus japonica, *Blume.* クマシデ

〃 cordata, *Blume.* シバシデ

Corylus rostrata, *Ait. var.* Sieboldiana, *Max.* ツノハハシバミ

Quercus crispula, *Blume.* オホナラ（大）

〃 grosseserrata, *Blume.* ミヅナラ（矢野）

Fagus sylvatica, *L. var.* asiatica, *D. C.* ブナノキ（三）

Salicineæ. 楊柳科

Salix japonica, *Thunb.* シバヤナギ（大）

〃 Miquelii, *Anders.* ミヤマキナギ（大）

〃 gracilistyla, *Miq.* オホサルコヤナギ（大）

Populus tremula, *L. var.* villosa, *Wesmael* ヤマナラシ

Coniferæ. 松柏科

Cephalotaxus drupacea, *S. et Z.* イヌガヤ（大）

Pinus pentaphylla, *Mayr.* ゴエフマツ（三）

Picea Alcockiana, *Carr.* トウヒ（三）

Abies firma, *S. et Z.* モミ（三）

〃 Veitchii, *Henk. et Hochst.* シラビソ（大）

〃 Mariesii, *Masters* トヾマツ（大）

Larix leptolepis, *Gord.* フジマツ（大）

（未完）

日本藥局方植物篇（前號ノ續キ）

會員　澤田駒次郎

第五十九號正誤(15)ノ第二行四十六字目徵ハ微ノ誤同第六行十四字目チハニノ誤

藥品　答滿林度　Pulpa Tamarindorum.

答滿林度ハ本植物ノ莢果ヨリ得タル柔靱黑褐色ノ果泥ニシテ東印度諸國及ヒ東印度諸島ニ於テ製造シ麻打拉薩、孟買等ヨリ輸出ス日本藥局方ニ規定ノモノハ此等ノ諸國ヨリ產出スルモノトス

東印度諸國ニ於テハ果實ノ外皮ヲ剝除シ數個一集ニ壓搾シテ一塊トナシ製造スト

性質　本品ハ東印度產答滿林度或ハ黑色答滿林度ト稱シ柔靱黑褐色ノ果泥ニシテ果肉及ヒ種子ヨリ成リ强靭纖維樣脉管束及ヒ果殼ノ碎片ヲ混淆ス顯微鏡下ニ照シ之ヲ撿スレハ此等ノ碎片等ヲ明視スベシ又精製品ハ果泥ヨリ種子ヲ除キ布片ニテ漉過シタルモノニシテ果殼ノ碎片等ヲ有スルコト無シ醫藥ニハ此精製品ヲ用フ

本品ハ强キ酸味ヲ有ス改正日本藥局方ニ云答滿林度ハ本植物ノ莢果ヨリ得タル粘靱黑褐色ノ果泥ニシテ特異ノ微臭及强キ酸味ヲ有シ多クハ堅硬栗褐色ノ種子、纖維樣ノ脉管束、羊皮樣ノ果房竝果殼ノ破片ヲ僅微ニ混有ス

本品ニ少量ノ水ヲ加ヘテ軟化シタル後磨光セル鐵板ヲ挿入スルモ之ニ類赤色ヲ呈ス可カラス

其黴菌ヲ生シ或ハ醱酵セルモノハ供用ス可カラス」トアリ又生藥學ニ云（醫科大學教授下山順一郎氏編纂）凡ソ藥用ニ供スル答滿林度ハ脉管及種子ヲ混有スルモ多キニ過キズ又銅ヲ混有セサルヲ要ス即チ本品ニ少量ノ水ヲ加ヘ攪拌セル後硏磨セル鐵板ヲ之ニ挿入シテ永ク放置スルモ其鐵板ニ赤色ヲ呈セザルヲ期ス又黴菌ヲ被ムリ或ハ醱酵ニ陷リ異味異臭ヲ有スルモノハ擯棄スベシ」トアリ

歐羅巴諸國殊ニ獨乙國ニテハ東印度產答滿林度ヲ以テ藥用ニ供ス

西印度諸國ヨリ產出スルモノハ西印度產答滿林度或ハ褐色答滿林度又赤色答滿林度ト稱シ英國及ヒ合衆國藥局方ニハ之ヲ以テ藥用ニ供ス

西印度ニテ答滿林度ヲ製造スル方法ハ其產地ニ因リ多少差異アリト雖モ普通ノ法ハ稔熟セル果實ヲ採集シ外皮ヲ剝除シテ之ヲ桶或ハ他ノ器物ニ並列シ其上ヘ砂糖ヲ撒布シ更ニ果實ヲ並ヘテ砂糖ヲ撒布ス斯ノ如ク並列スルコト數層然ル後煮沸シタル舍利別ヲ注入シテ桶或ハ其器物ヲ充盈ス或ハ外皮ヲ剝除シタル果實ヲ桶或ハ他ノ器物ヲ納レテ之ニ舍利別ヲ注キテ製造ス

性質　西印度產答滿林度ハ赤褐色ノ果泥ニシテ强靭纖維樣脉管束及ヒ鮮褐色ノ種子又ハ果殼ノ碎片ヲ混淆シ强キ酸味ヲ有ス

本品ハ銅製ノ器物ヲ用ヒ製造スルニ因リ間〻銅ヲ混有スルコトアリ然レトモ前說ノ試驗ニ因テ銅ノ存否ヲ確定スルコト容易ナリ但シ本品ハ英國及ヒ合衆國ニテ專ラ之ヲ販賣スト

其他埃及ヨリ產出スルモノアリ埃及產答滿林度ト稱シ歐羅巴南部ニテ間〻販賣スルモノアリ之レ答滿林度ノ柔軟ナル部分ヲ溶化シ製シタル扁圓形ノ塊ニシテ厚サ一寸七分乃至二寸五分餘直徑三寸三四分乃至六寸六七分ニシテ黑色ヲ呈ス

本品ハ埃及及ヒ亞弗利加ノ或ル部分ニ於テ多量ニ消費スト云フ

成分　答滿林度ノ成分ハ枸櫞酸、醋酸、酒石酸、植物膠質、粘液質、澱粉、砂糖等ニシテ其酸類ハ加留謨ト抱合シテ存在スルヲ通常トス或云酒石酸ハ通常重酒石酸加留謨トナリ存在スト或ハ醋酸ハ砂糖ノ醱酵ヨリ生シ種子膜ニハ單寧ヲ含有スト一千八百八十二年ニ於テ C. Mueller 氏ハ東印度產答滿林度ヨリ林檎酸ノ極小量枸櫞酸四乃至六「ペルセント」重酒石酸五・三乃至八・八「ペルセント」重酒石酸加留謨四・七乃至六「ペルセント」ヲ得タリト又果肉中一二乃至二〇「ペルセント」種子膜ニハ一・五乃至三・八「ペルセント」即チ平均一三・九「ペル

セント」ノ不溶解物ヲ含有ス但シ本藥ニ瀉下ノ効驗アルハ何ナル成分ニ基因スルヤ未ダ詳カナラズ

醫治效用　清涼輕瀉ノ一良藥トス本藥ハ其性酸涼收歛津液ヲ生ジ渴ヲ止ムルニ因リ一切ノ壯熱ニ用ヒテ解熱ノ効アリ又果肉ハ旃那ノ如キ緩下劑ニ伍用シ緩下劑トシ或ハ食物ニ混和シ爽快ナル清涼藥トス○果肉ノ浸劑ハ快活ナル解熱藥トシ効驗アリ又果肉二兩ヲ取リ乳汁二「パイント」（一「パイント」ハ十二兩）ニ加ヘ煮沸シタル溶液ハ解熱ノ一藥トス○種子ハ鞣酸ヲ含有スルニ因リ印度ニテハ收歛藥トス其他亞弗利加内部熱帶地ニ於テハ清涼飲料ノ原質トシ大イニ之ヲ貴重ス又久時煮沸シ皮膜ヲ除キタル核ハ柔軟ナルニ因リ印度土人ハ凶年ニ於テ之ヲ食料トス

廿八　カシア、アキユチホリア

羅甸名　Cassia acutifolia, Delile. Syu. Senna acutifolia, Batka.

荳　科

亞弗利加ニ自生スル小灌木ニシテ莖直立シ高サ二尺許其色暗綠長キ枝梢ヲ擴張ス葉ハ偶生翼狀ニシテ互生シ小葉四對乃至五六對葉柄矮短葉体鍼形若クハ卵披鍼形ニシテ兩端尖リ長サ六分強乃至一寸餘平緣ニシテ先頂尖リ底部不同或ハ纖毛ヲ帶ビ或ハ殆ンド平滑其色暗綠花ハ「チンネウエリー」旃那ニ似テ細小、花瓣ハ其基部ニ於テ稍々廣濶ナル柄ヲナス花後莢果ヲ結フ其莢ハ長圓形ニシテ扁平廣濶長サ一寸五六分幅七分餘柄ヲ有シ其下部稍々狹隘殆ンド直立或ハ平滑或ハ微ニ纖毛ヲ有シ莢中大約六個ノ種子ヲ有ス

本植物ハ亞弗利加熱帶地主モニ努北阿、塞那爾(Sennaar)哥爾多番ニ自生シ西土ニ蕃殖ス

藥品　アレキサンドリア」産旃那　Folia Sennae.

日本藥局方ニハ本植物ノ葉及ヒ「チンネウエリー」產旃那ヲ以テ藥用ニ供ス

採收　本品ハ努北阿ニ於テ採集シ亞勒散得港ヲ經テ歐羅巴ニ輸出ス Nectour 氏ノ說ニ據レバ努北阿ニ於テ旃那ヲ採集スルハ年ニ二回ニシテ多量ニ收穫スルハ雨後即チ第九月トス其他ハ第四月ニ採集ス此時期ニ在テハ大氣乾燥ナルニ因リ其品位稍々劣レリ土人ハ本植物ヲ根際ヨリ芟取シ其儘散布シテ炎熱ナル日光ニ曝露シ其小葉ノ充分乾燥スルニ及ンテ葉柄椎ヲ去リ小葉ノミヲ椰子葉ニテ製シタル囊ニ納メテ駱駝ニテイスソーアン(Essouan)ダラヲ(Darao)ニ輸シ此等ノ場所ヨリ尼羅河ヲ下シ加義羅ヲ經テ亞勒散得ニ達スト或云本品ハ Senna jebeli 或ハ Mountain Senna ト稱シ紅海沿岸諸國馬蘇阿(Massowah)ソーキン(Soukin)ヲ經テ加義羅及ヒ亞勒散得ニ輸シ亞勒散得ニ於テ荷作リヲ爲シテ歐羅巴ニ輸出ス故ニ亞勒散得產旃那ト云フ又亞弗利加內地ヲ遊歷セシ Ignatius Pallme 氏ノ說ニ據レバ本品ハ努北阿ノ當哥辣(Dongola)ニテ專賣特許ヲ得テ採集ス故ニ哥爾多番ニテハ本植物ノ自生多シト雖モ其葉ヲ採集セスト云フ

（以下次號）

日本植物新名

New Names of Japanese Plants.

矢田部良吉

Ryōkichi Yatabe, Sc. D.

余ハ元來植物ニ新名ヲ付スルヿヲ好マズ。然レドモ日本植物圖解及ビ日本植物編ヲ編輯スルニ方リ、止ムヲ得ズ新ニ學名及ビ俗稱ヲ付スルニ至レリ。其未ダ本誌ニ掲ゲザルモノ數個ヲ此ニ集錄セリ。余ノ淺學ナル或ハ既ニ名稱アルヲ知ラズシテ新名ヲ付シタルモアラン。讀者之ヲ恕シ、併テ敎ヲ埀レタマハヾ幸甚。但シ新

名ヲ付セザルモ是迄名稱ノ確定セズト思考スルモノノ一二ヲモ亦併セ記セリ。

Ranunculaceæ. 毛茛科

1. Clematis eriopoda, Maxim.

Nov. nom. jap. Hosoba-no-botanzuru.

此種ハSiebold氏ガ初メテ本邦ヘ來リシ時採取シタルモノニシテ、其後Savatier氏ハ花ナクシテ葉ノミノモノヲ箱根山ニテ採取シタリト云フ。珍キ植物ナリ余之ヲほそばのぼたんづるトセリ。

2. Thalictrum baicalense, Turcz.

Nov. nom. jap. Nikkō-karatsusō

此種ハ日光山蓼ノ海ニ産ス。余之ヲにつくわうからまつさうトセリ。此種からまつさうノ如シト雖モ、甲ノ瘦果ハ卵形ニシテ數條ノ凸線ヲ有シ殆ド無柄。乙ノ瘦果ハ突出セル三稜角ヲ有シ膨脹シテ長柄ヲ具ス。

3. Thalictrum alpinum, L.

Nom. jap. Hime-karamatmatsusō.

甲州八ヶ嶽ニ生ス。高二三寸乃至七寸。からまつさう屬中ノ小ナルモノナリ。余之ヲひめからまつさうトセリ。

4. Coptis anemonæfolia, Sieb. et Zucc., var. dissecta, Yatabe.

Nom. jap. Seriha-ōren.

This variety differs from the type in the divisions of the leaves being twice pinnatifid

せりはわうれんハ葉ノ部分二回羽状に深裂スルヲ以テわうれん即チ C. anemonæfolia ト異ナリ。

5. Isopysum nipponicum, Franch.

nov. nom. jap. Echigo-himeuzu

越後ニ生ズ。ゑちごひめうづトセリ

6. Isopyrum trachyspermum, Maxim.

nov. nom. jap. Ōyama-shirokanesō.

尾州、日光山、相州大山ニ生ズ。おほやましろかねさうトセリ。

7. Isopyrum Raddeanum, Regel.

nov. nom. jap. Chichibu-shirokanesō.

秩父ニ生ズ。ちゝぶしろかねさうトセリ。

8. Aquilegia Buergeriana, Sieb. et Zucc.

Nom. jap. Yama-odamaki.

此種ノ日本名ハやまをだまきナリ。此種ノ變形ニシテ花瓣ニ距ナキモノヲはうかうト云フ。

日光山等ニ生ズ。やまえんごさくトセリ。

Magnoliaceæ. 木蘭科

9. Trochodendron aralioides, Sieb. et Zucc., var. longifolium, Maxim.

Nov. nom. jap. Nagaha-no-yamaguruma.

本種即チやまぐるまノ葉ハ倒卵形菱形ナレドモ此變種ノ葉ハ披針形ニシテ長シ。之チながはのやまぐるまトセリ。余ノ撿シタル標品ハ紀州ノ產ナリ。

Menispennaceæ 防已科

10. Cocculus diversifolius, Miq.

Nov. nom. jap. Nagae-no-aotsuzurafuji.

本島及ビ九州ニ生ズ。ながえのあをつゞらふぢトセリ。

Berberideæ. 伏牛花科

11. Berberis Ischonoskiana, Regel.

Nov. nom. jap. Miyama-megi.

日光山ニ生ズ。みやまめぎトセリ。

12. Berberis Sieboldi, Miq.

Nov. nom. jap. Marumi-no-hebinoborazu.

富士山、日光山、北海道等ニ生ズ。まるみのへびのぼらずトセリ。

Nymphæaceæ. 睡蓮科

13. Nuphar pumilum, Smith.

Nov. nom. jap. Nemuro-kōhone.

根室國もとしりニ生ズねむろかはほねトセリ。

Papaveaceæ 罌粟科

14. Corydalis ambigua, Cham. et Schlect. var. angustifolia, Yatabe.

Nov. nom. jap. Hosoba-engosaku.

The ultimate divisions of leaves linear or cuneate-linear; bracts of the involucre linear. Otherwise similar to the type.

此變種ハ北海道ニ生ズ。ほそばえんごさくトセリ。

15. Corydalis senanensis, Franch et Sav.

Nov. nom. jap. Sasaba-engosaku.

余ノ撿シタル此種ノ標品ハ日光ノ產ナリ。さゝばえんごさくトセリ。

16. Corydalis laxa, Franch. et Sav.

Nov. nom. jap. Yama-engosaku.

17. Corydalis pallida, Pers., var. tenuis, Yatabe.

Nov. nom. jap. Migama-keman.

The whole plant smaller and the divisions of leaves much finer than the type.

此變種ハ日光山、武甲山等ニ生ズ。みやまけまんトセリ。

Cruciferæ　十字花科

18. Nasturtium offecinale, R. Br.

Nov. nom. jap.　Mizugarashi.

此種ヲみづがらしトシテ、Cardamine lyrata, Bunge. 即チみづたがらしト區別セリ。

19. Arabis Stelleri, DC., var. genuina, Schmidt.

Nov. nom. jap.　Ezo-no-hamahatazao.

北海道十勝ニ生ズ。えぞのはまはたざをトセリ。

20. Arabis pendula, L.

Nom. jap.　Ezo-hatazao.

北海道ニ生ズ。種名今明ナレバ此ニ掲ク。

21. Cardamine macrophylla, Willd.; var. appendiculata, Yatabe. (=C. appendiculata, Franch et. Sav.)

Nom. jap. Hiroha-konronsō.

此ひろはこんろんさうハ獨立ノ一種トスベキホドこんろんさう即チ C. macrophylla ト異ラズ。故ニ其變種トセリ。

22. Cardamine yezoensis, Maxim.

Nov. nom. jap.　Ezo-no-janinjin.

北海道ニ生ズ。にがのじやにんじんトセリ。

23. Alyssum maritimum, Lam. (Cultivated.)

Nov. nom. jap. Arissumu.

輓近舶載シテ庭園ニ栽ウ。ありつすむトセリ。

24. Draba japonica, Maxim.

Nov. nom. jap. Nambu-inunazuna.

盛岡地方ノ高山ニ生ズ。なんぶいぬなづなトセリ。

25. Draba borealis, DC., var. kurilensis, Turcz.

Nov. nom. jap. Shirobana-no-inunazuna.

北海道ニ生ズ。此植物既ニしろいぬなづなノ稱アレドモ、Arabis pubicalyx, Miq. モ亦同稱ナレバ、其區別ヲ明ニセンガ爲メニしろばなのいぬなづなトセリ。

6. Cochlearia oblongifolia, DC.

Nov. nom. jap. Motoshirisō.

根室國もとしりニ生ズ。依テもとしりさうトセリ。

27. Hesperis lutea, Maxim.

Nov. nom. jap. Hesuperisō.

相州箱根山ノ森林中及ビ信州乘鞍山ノ麓ニ生ズ。之ヲへすぺりさうトセリ。是レ松村任三氏ガ本誌第五十九

號ニ於テさばなのはたざほ(を？)ト命名セシモノナリ。松村氏ノ名ノ方美ニシテ宜シ。

Capparideæ.　白花菜科

28. Cleome pungens, Willd. (Cultivated.)

Nov. nom, jap.　Kureomesō.

南米ノ產ニシテ庭園ニ植ウ。くれおめさうトセリ。既ニふうてふさうノ名アレドモ、是ハ Gynandropsis pentaphylla, DC.ノ邦名ナリ。

Violarieæ　菫菜科

29. Viola phalacrocarpa, Maxim., var. paelida, Yatabe.

Nom. jap.　Ōmiyama-sumire.

Leaves larger than those of the type, densely hairy. Flowers pale-purple or nearly white.

本島及ビ北海道ニ生ズ。おほみやますみれ。

(未完)

冬期中原形質ノ運動ヲ視察スル方法

大久保三郎

原形質ノ運動ヲ本邦普通ノ植物ニテ視察スベキモノヽ例ニ就キテハ已ニ本誌第五卷三百四拾五頁ニ載出シ置キタリ然レ𪜈其掲出セシモノヽ如キハ冬期中ニ在リテハ得ル能ハズ然ラバ此氣節中ニハ其運動ヲ觀ルヲ得ザルヤ原形質ノ運動ヲ視察スルハ春夏秋ノ三期ニ止マルカ果シテ然リトセバ不便ヲ感ズルヿアラン故ニ余ハ此事ニ就キ本年一月中ニ聊カ研究セシ處ノ决果ヲ報セント欲スルハ敢テ無用ニハアラザルベシ

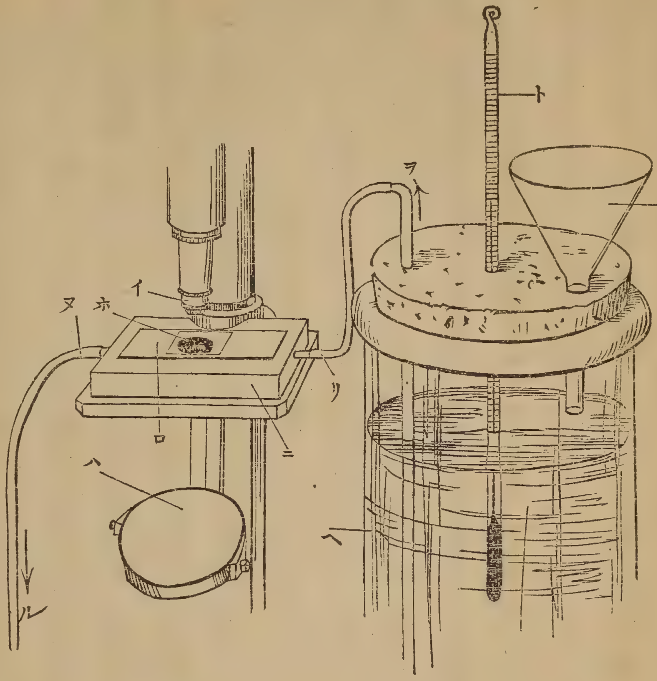
余一日散歩ノヲリ垣根ギシニ生ゼシみゝなぐさ Cerastium vulgatum, var. glandulosum ヲ採リ來リ視察セシニ葉ノ下部ノ兩側ニ長キ毛茸ノ生ゼルヲ見タリ依リテ針ニテ少シ上皮ノマヽ取リ顯微鏡下ニ撿セシニ此ノ毛ハ數細胞一列ヲナシ各細胞内ニハ原形質ヲ存セリ而メ往々其原形質ハ僅ニ細胞膜ノ周邊ニノミアリテ殆ドナキモノモアリタレ𪜈大概ハ原形質網狀ヲナシ網股中核ヲ存セリ股ハ細キアリ太キアリ何レモ無色透明ニシテ内ニ顆粒ヲ有セリ此顆粒ハ原形質ト共ニ運動ナスヲ以テ譬ヒ原形質ハ透明ナルモ其運動ヲ觀ルヿ難カラズ而シテ余カ視シ處ノモノハ少シモ動ク狀ヲ呈セザリシ其運動ナキハ全ク余リ寒氣ノ強キガ爲メナルベシト考ヘ若シ之ニ温度ヲ與フレバ如何ト思ヒタレバ顯微鏡ノ硝子板ヲ載スル處ノ臺上ニ硝子製皿ヲ置キ皿ノ上ニ毛ヲ載セタル硝子板ヲ渡シ而シテ皿ノ中ヘハ湯ヲ入レ置キ如此クシテ湯氣ニテ硝子板ヲ温メタルニ二三分時ニシテ原形質ハ運動ヲ始メタリ然レ𪜈皿中ニハ少量ノ湯ヲ入レシ事ナレバ冷メ易ク其ノ冷ムルニ從ヒテ運動モ止リタリ

余ハ右ノ試驗ニテ温氣サヘ充分ナレバ運動ヲナスヲ知レリ故ニ温度ヲ繼續セシムレバ運動モ繼續ナスベシト次ニ左ノ圖ニ於テ示セル如キ方法ニテタエズ温度ヲ與ヘシニ果シテ余ガ考ヘノ如クナリシ

圖中(ヘ)ノ器ニ三十五度乃至四十度(攝氏)ノ湯ヲ入レ(ル)ノ一端ヲ吸フ時ハ(ヘ)ノ湯(チ)ニ昇リ(ニ)ノ傳温器ニ入リ(ル)ノ管ヨリ流出ス如此クシテみゝなぐさノ毛(ホ)ヲ温メ觀察セシニ充分ニ原形質ノ運動ヲ研究スルヲ得タリ

みゝなぐきノ毛ノ運動ハむらさきつゆくさノ雄蕊ノ毛ノ運動ニ似タリ原形質ハ網狀ヲナシ核ノ周圍ニアル原形質ハ運動他ヨリ大ナリ而シテ或ルモノハ絶エズ上方ニ運動シ或ル網糸ハ下行スルアリ或ル時ハ一方ニノ

冬期中原形質ノ運動ヲ視察スル方法



ミ行クアリ網狀モ漸次變行シ網糸モ次第ニ細ク成リ終ニ他糸ニ合スルアリ等種々ノ變遷ヲ呈スルヲミトム而シテ其運動ノ方行ヲ知ルハ原形質内ニ存スル顆粒即 Microsomata ノ共ニ上行下行ナスヲ以テ明瞭ニ視察スルヲ得ルナリ

附記ス　みゝなぐさノ毛茸ノ原形質ハ冬中傳温器ヲ用ヒザルモ運動ヲナスヿアリ一月下旬或ル温暖ノ日之ヲ視察セシニ微々タル運動ヲナスモノヲミトメリ

圖解　（イ）ハ物視鏡（オブヂェクチイブ）（ロ）ハ硝子板ニシテ中央ニ毛ヲ置キ小量ノ水ヲ加ヘ薄キ硝子板（テツキグラス）ヲテ覆ヒタルモノ（ハ）ハ反射鏡（ニ）ハ銅製傳温器ニメ（リ）ト（ヌ）ニゴム管ヲ附スル處アリ中央ニ穴アリコレヨリ反射鏡ノ光線ヲ（ホ）ノ物躰ニ傳フ（ヘ）ノ器ハ湯入ナリ（ト）ハ寒暖計（チ）ハ漏斗（ル）ハゴム管ニメ一端ハ（ヌ）ニ附シ一端ニハ先ヲホソクナセシ硝子管ノ太キ方ニ附ス此硝子管ノ一端ヲ細クセシハ湯ノ流出ヲ余リ速ニセラザンガ爲ナリ（チ）ハ湯ヲ擧グル爲メノ管ニシテ（リ）ニ附セルゴム管ノ一方ニ附ス

◎雜錄

○朝鮮國ノ有用植物

松村任三

ゴッチェ氏ガ Ueber Land und Leute in Korea ニ記述スル所ニ據レバ朝鮮國ニ產スル有用植物ハ六十有餘種ニシテ就中米、稷（キビ）、大麥、小麥、蕎麥、菉豆、玉蜀黍等ヲ其顯著ナルモノトス而シテ其北地ニ在リテハ馬鈴薯ヲモ栽培ス西瓜ハ夏月第一等ノ果實タリ香味ニハ胡麻、蕃椒ヲ用ヒ殊ニ蕃椒ハ國內廣ク栽培スルガ如シ大麻、草綿、蕁麻ノ三種ハ編織ノ用ニ供シ藍、紫草及紅藍花ハ染料ニ充テ蓖麻子蕁麻胡麻草綿子ヨリ油ヲ搾リ桑及楮（カウゾ）ノ二種ハ製紙用トス彼地ニ在リテハ男女共ニ幼少ヨリ喫煙ノ風アルガ故ニ煙草ハ頗ル栽培スル所タリ砂糖ト茶トニ至リテハ全ク缺ケルガ故ニ蜜ヲ砂糖ニ代用シ山櫨葉ヲ茶トシテ以テ薑或ハ榧實ヲ交ヘテ香味ヲ附ス但シ榧實ハ日本ヨリ輸入スルモノナリ海松子モ食料ノ一タリト云フ

○植物標本(Herbarium)ノ語原

ジー、シー、ドルース氏ハ藥劑雜誌紙上ニ說ヲナシテ曰ク (Herbarium) ナル語ハ乾燥シテ見本用ニ調製セル植物ノ謂ナルヿ誰シモ知ル處ナリト雖𪜈其起原ハ未タ確乎ナラス古代學者ハ時々 Herbarium ナル語ヲ用ヰタルヿ書籍ニ散見スル處ナリト雖𪜈ソハ只植物ニ關シタル書籍特ニ植物ノ圖解ヲ記載シタル書ヲ指シタルモノニシテ現時謂フ處ノ植物腊葉見本ニアラス氏カ近來オツクスフオルド大學所藏ノ古キ植物見本ヲ撿セシニ其保存誠ニ完全ニシテ今ヨリ二百八十六年前千六百〇六年 Gregory of Reggiso ノ調製シタルモノナリ其標本ハ ‘‘**Herbarium** Diversarum Naturalium’’ ノ記標アリ是レ恐ラクハ此語ヲ標本ノ意味ニ用ヰタル嚆矢ナランカ

○麥奴ノ豫防法

米國カンサス州農事試驗場植物主任プロフェッソル、ケルラマン氏及ヒスヰングル氏ハ麥奴豫防法ニ關シ試驗ノ報告ヲナシタルモノヲ見ルニ五十一ノ試驗中三ノ試驗多少種子ノ生活力ニ影響セリト雖モ明ニ麥奴ヲ撲滅シタルモノヽ如シ其三ケノ方法ハ別チ左ノ如シ

一、五度ノ硫酸銅溶液中ニ二十四時間種子ヲ浸漬ス

二、ボルドウ液（硫酸銅一ポンド一分ノ三、石灰五ポンド水四ガルロン）中ニ三十六時間浸漬ス

三、五度ノ重クローム酸加里溶液中ニ二十四時浸漬ス可シ、

以上三箇ノ方法ハ孰レモ其功驗著シク他ノ六ノ方法モ亦多少驗アリタルモノヽ如ク其最モ短簡ナル方法ハ華氏百三十二度ノ熱湯中ニ十五分時間浸スニアリ

○有尾菌（Uromyces）ノ新種

ぬるで Rhus semi-alata, *Murr.* var. Osbeckii, *DC.* ノ葉ニ寄生スル處ノ一種ノ菌ハ甚タ Uromyces Therebinthi (DC.) Winber ニ近似スト雖モ其焦操胞子ノ外皮ニ螺旋狀ナル細條アルト終局胞子柄ノ附屬點ニ於テノ相異ハ重ナル分別ノ條件ニシテ素ヨリ新種ノ値價アリ依テ Uromyces spiralis,nov. sp. ノ學名ヲ附シ和名ヲぬるでのくろしぶト命セリ詳細ノ解說ハ他日論說欄ニ載ス可シ

○Xenodochus carbonarius, Schlecht. われもかうのじゆずかび日本ニ産ス

此菌ハサツカードー氏ノ菌譜ニ依レハ世界ニ一屬一種ニシテ獨逸ベルヂアム、英國、ボヘミヤ、シベリア、ニアリテわれもかう Sanguisorba officinalis 及ヒ *S. carnea* ノ莖、葉、幷ニ葉柄ニ寄生スル處ノ菌ナリ日本ニアリテ予ハ明治二十四年八月十一日日光赤沼ケ原ニ於テ全シクわれもこうニ寄生セルモノヲ採集セリ是ヲ以テ

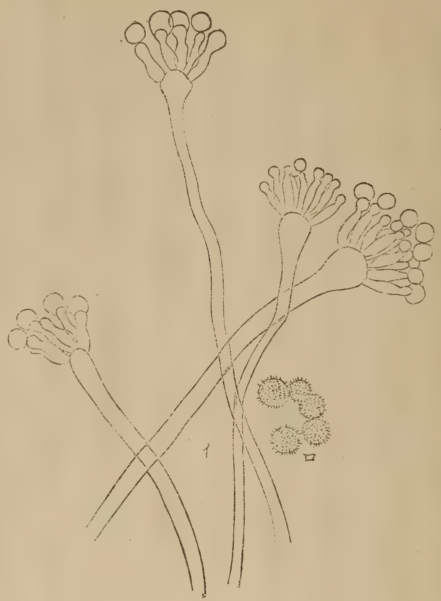
見レハ東大陸ノ北部ニハ廣ク撒布セルモノヽ如シト雖モ未タ米國ニ產スルヲ聞カサルナリ

○毛根ノ生長

毛根ノ生長ニハ光線最モ關係アリ M. H. Devaux 氏カ Lolium perenne. ノ根ヲ以テ看察シタルニ根ノ生長ハ正午ヨリ午後二時ニ至ルノ間最モ遲々トシテ之ニ反シテ毛根ハ日中ニ生シタル根ニ最モ多ク生長シ夜中ニ生シタル部ニアリテハ最モ少シ故ヲ以テ根ト毛根ノ生長ノ平均ヲ保ツヿ明ナリ

○酒麴菌

酒釀造用ニ供スル米麴ハ蒸米ヲ室内ノ中ニ置キ一定ノ温度ト濕氣ニ依リ黴菌ノ寄生ヲ俟テ麴トナルモノナリ此黴菌ハ Aspergillus Oryzae ト稱スル黴ニシテ麴ノ白色ナルハ菌糸ノミニシテ其黃綠色トナルハ胞子ノ發生ニ基ツクモノナリ



○得撫（ウルツプ）島探撿

農學士内田靜氏ハ北海道廳ノ命ヲ受ケ昨明治二十四年五月二十八日札幌ヲ發シ六月十四日得撫島ニ着シ調査セラレタル報文ハ載セテ北海之殖產第十四號ニアリ今其植物ニ關スルモノヲ抄記スルニ該島ノ山岳ニハ多ク矮少ノ樺及ヒ赤楊等點々發生スレトモ全ク無木ノモノ亦少カラス概ネ皆突兀トシテ高起シ山腹急ナル故ニ山

間ニ深溪ヲ見ルヲ常トス西岸「アナマ」東岸「イシンコタン」ノ間ニ小平地アリ海岸ヨリ高キヿ六十尺乃至一百尺長サ凡ソ二里半ニシテ西南灣ハ幅凡ソ三十町ニシテ東北ニ進ムニ從ヒ漸々狹隘トナリ三角形ヲナス此地四面開濶故ニ風甚タ強ク植物暢茂セス樺及赤楊ハ凡ソ四尺五葉松僅ニ三尺ノ高ニ達シ石南及ヒ楊ハ各處ニ散在スルモ皆地上ニ匍匐スルカ如クハナウドノ如キハ本道內ニ於テハ一丈乃至一丈二尺ノ高ニ達スレ𪜈此地ニアリテハ僅ニ二尺半而〆楊ノ如キハ根部ヨリ上端ニ至ル迄ヲ一尺半ニ過キス植物ノ內ニモ最モ多キヲ葦（ヨシ）トス其莖葉枯死シ腐朽全カラスシテ年々堆積シ足之ヲ蹈メハ地上彈力アルヲ覺ユ

又當時氏ノ採集セル植物ハ顯花植物合計百十五隱花植物三十ナリ得撫島ハ植物ハ矮小性ノモノ多ク又氷帶性ノモノアリ樺及赤楊ノ周圍五寸及至一尺高サ五尺及至十五尺ノモノ多ク所在ノ山岳ニ生長ス幽邃ノ溪間ニハ尚ホ大形ノモアリト雖𪜈其數少ク且ツ樹枝ノ破碎シタルモノ多シ全島中一ノ落葉松ナシ蓋シ其生長ノ區域ハ擇捉島「チリツプ」山ニ於テ盡クレハナリ又ハイマツ各處ニ生育スナヽカマドノ山腹ニ生長スルヲ見ス楊又其數少カラサレ𪜈皆多クハ小形ニシテ根ヨリ枝端ニ至ル僅ニ一尺半ニ過キサルモノアリ

○新刊批評

◎批評英文千島植物論

千島ハ我ガ北海ノ一大群島ナリ其土ニ產スル植物ノ狀況ハ如何之ヲ硏討スルハ最モ興味アル事ニシテ而モ我カ日本人ノ當ニ爲スベキ業務ナリ豈之ヲ外國ノ博物家ニ委ネテ可ナランヤ札幌農學校敎授宮部金吾君夙ニ玆ニ看ルアリ明治十六年ノ夏ヲ以テ夫ノ群島ヲ跋涉シ大ニ其地ノ植物ヲ探討採集セリ

曾テ君ノ米國ニ遊ベルヤ他ノ緊要ナル硏究ヲ成セルノ傍ラ彼ノ地大家グレー氏ノ學室ニ入リテ萬國許多ノ植

物原品ト之ニ關スル文書トヲ參照考覈シ君ノ得意ナル英文ヲ以テ一編ノ千島植物論ヲ著述セリ題シテThe Flora of the Kurile Islandsト曰フ米國ボストン博物學會（千八百九十年）ノ出版ニ關ル其書中掲グル所ノ植物種類ハ凡テ三百十七種ナリ即チ

雙子葉部	四十一科	百三十九屬	二百九十三種
單子葉部	七科	三十三屬	五十三種
裸子部	一科	五屬	六種
羊齒部	四科	十屬	十八種

就中許多ノ種屬ヲ包含スルモノヲ

菊科	十五屬	三十種
薔薇科	十二屬	二十三種
百合科	十二屬	
石南科	十六種	等トス

Parrya, Tetrapoma, Claytonia, Lupinus, Armeria, Dopecatheon ノ五屬ハ內地ニハ無キモノニシテ而モ夫ノ島嶼植物錄中更ニ增加ノモノト謂フベシ又日本植物錄中未發ノ品凡テ二十五種アリ北海道ノ植物ヲ研究セムト欲スル人ハ一本ヲ坐右ニ置キテ可ナリ

松村任三

◎質問應答

名倉闇一郎氏ヨリ本會名命ヲ依頼セラレタル植物標品九種左ニ名稱ヲ掲ケテ以テ仝氏ニ答フ

編者誌

(一) にえきさう
(二) うこぎ（一名）はくもううこぎ
(三) ゆうれいたけ
(四) のみのふすま
(五) はなひりのき
(六) ねなしかづら
(七) やぶそてつ
(八) ほらしのぶ
(九) へらしだ

◎寄送書目

國本	自五號至六號	二册	殖産協會(岡山)
大日本山林會報告	自第百五號至第百八號	四册	大日本山林會(東京)
東京醫學會雜誌	自第五卷第廿號至仝上第二十四號	五册	東京醫學會(東京)

東京氣象集誌	（自第十年第九號至第十年第十二號）	四冊	東京氣象學會(東京)
東京人類學會雜誌	（自第六十七號至第六十九號）	三冊	東京人類學會(東京)
北水協會報告	（自第六十六號至第六十七號）	二冊	北水協會(北海道)
仝上	號外	一冊	仝上
動物學雜誌	（自第三十七號至第三十八號）	三冊	東京動物學會(東京)
牧畜雜誌	（自第六十七號至第七十號）	四冊	牧畜雜誌社(東京)
地學雜誌	（自第三十四號至第三十六號）	三冊	地學會(東京)
北海之殖産	（自第十四號至第十五號）	二冊	勸農協會(北海道)
擴農會雜誌	第二十六號	一冊	擴農會(岐阜)
日本園藝會雜誌	（自第三十號至第三十一號）	二冊	日本園藝會(東京)
藥劑誌	（自第三十一號至第三十二號）	二冊	東京藥劑師會(東京)
藥業雜誌	（自第十一號至第十二號）	二冊	精々藥館(神戶)
仝上號外	一、二、三、四	四冊	仝上
日本蠶業雜誌	（自第四十三號至第四十四號）	二冊	日本蠶業雜誌社(東京)
農事新報	第三十七號	一冊	有隣堂(東京)
北海時論	第四號	一冊	北海時論社(北海道)
出版書籍目錄		一冊	敬業社(東京)

帝國大學一覽　一册　帝國大學(東京)

The Journal of Botany No.346-347.

Bulletin of the Torrey Botanical Club. Nol.XVII. No. 8-10

Revisio Generum Plantarum Pars 1. By Dr. Otto Kuntze.

Bulletion of Miscellaneous Information. Royal Garden, Kew

Bulletin menceul des nouvilles publications de la Librairie. T.—B. Baillière et Fils.

◉東京植物會錄事

明治二十四年十一月以後本會ニ入會セラレタル諸氏ハ左ノ八名ナリ

早田文造君　秀城竹三郎君
高倉卯三麿君　入江辰次君
協山三彌君　中野眞助君
名倉闇一郎君　小岩井清次君

○會員彙報　堀正太郎氏は舊臘十二月十三日出發香川縣ヘ學術上取調ノ爲メ旅行本年一月六日歸京セラレタリ池野成一郎氏ハ豆州ニ安江豐太郎板植千嘉衛ノ兩氏ハ房總地方ヘ孰モ冬期休業中漫遊セラレタリ

○一月二十三日第四土曜日午後第二時ヨリ東京理科大學植物學敎室ニ於テ植物學會ヲ開キ來會者十六名左ノ演說アリタリ

日本釀造上ノ植物學的驗究（麴之部）

理學士 堀 正太郎君

酒醬油等ノ麴製造方法室ノ構造幷ニ温度ノ實見說ヲ演ヘ醬油麴ハ Aspergillus glaucus 則チ通常ノ黴ノ寄生ニ依リテ麴トナナリ酒麴ハ A. Oryzae ノ寄生ニ依リテナルモノナリ酒麴ニアリテハ黴ノ寄生ニヨリ蒸米ノ澱粉ヲ葡萄糖ニ變化スル事明ナリト雖𪜈醬油麴ニ至リテハ如何ナル變化ヲ來スヤ未タ之ヲ知ルニ由ナシ云々

日本海藻ノ分布

理學士 岡村金太郎君

日本海ノ潮流ヲ詳說シ以テ海藻分布ノ一大原因タルヲ證シ其大平洋ニ面スル沿海ヲ三帶ニ區劃シ其日本海ニ面スル方面ヲ二帶ニ分チ各其特產ノ海藻ヲ標本ニ依リテ說明セラレタリ

○帝國大學總長ヨリ本會ニ向テ左ノ謝狀ヲ送ラレタリ

左記の雜誌本學へ御寄贈被成正に領收御厚意致深謝候即本學圖書館に於て之を悠久に保存し學問の資料に可供候敬具

明治二十四年十二月廿四日

帝國大學總長 文學博士 加藤弘之

東京植物學會長 理學博士 松村任三 殿

植物學雜誌 自第五十二號 至第五十八號

◎社告

○本會々費御送付相成候諸君ニシテ往々神田裏神保町敬業社又ハ千住南組六番地舊植物學會宛テニ御送付被下不都合尠カラス候ニ付キ會費ハ必ス本會幹事宛東京本郷郵便電信局仕拂トシテ御拂込被下度候

○會員諸君ニシテ宿處御變更ノ節ハ其都度御通報被下度間々雜誌送達ノ御督促ニ接シ候得共宿處ノ不分明ヨリシテ時々送達方遲延又ハ之ヲ見合候事モ在之候間念ノ爲メ御注意致置候

○雜誌送達上間々脫漏致候事ナキモ不爲計候間遲延又發送ナキ節ニハ御一報被下候

○本會々員又ハ購讀者諸君ニシテ植物學上ニ關シタル事項ヲ御通報又ハ質問被下候得者本雜誌ハ好ンテ掲載應答可致候乍去事項ノ如何ニ依リ編輯員或ハ取捨スルヿアル可シト存候

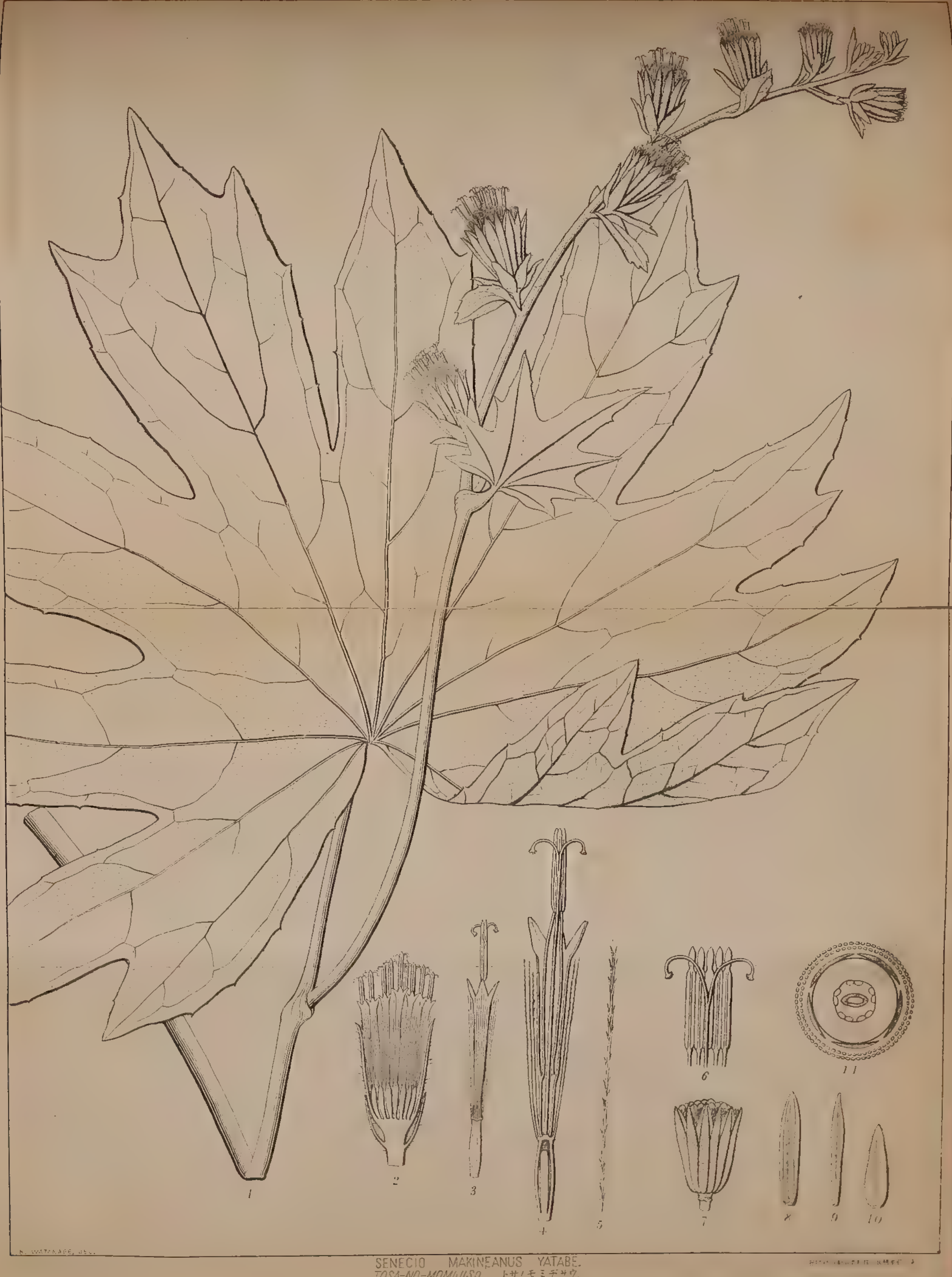
○本會ヘ報告又ハ質問ハ編輯上ノ都合在之候間幹事堀正太郎（宿所東京本所區綠町三丁目四十七番地）宛ニ御送付被下候

○植物雜誌本會處藏ノ分左記ノ番號欠本ニ相成候間貴需ニ應シ難ク候

第一號　第二號　第三號　第四號　第十九號　第廿號　第廿一號　第二十二號　第二十三號　第二十四號

第二十五號　第二十六號　第二十七號

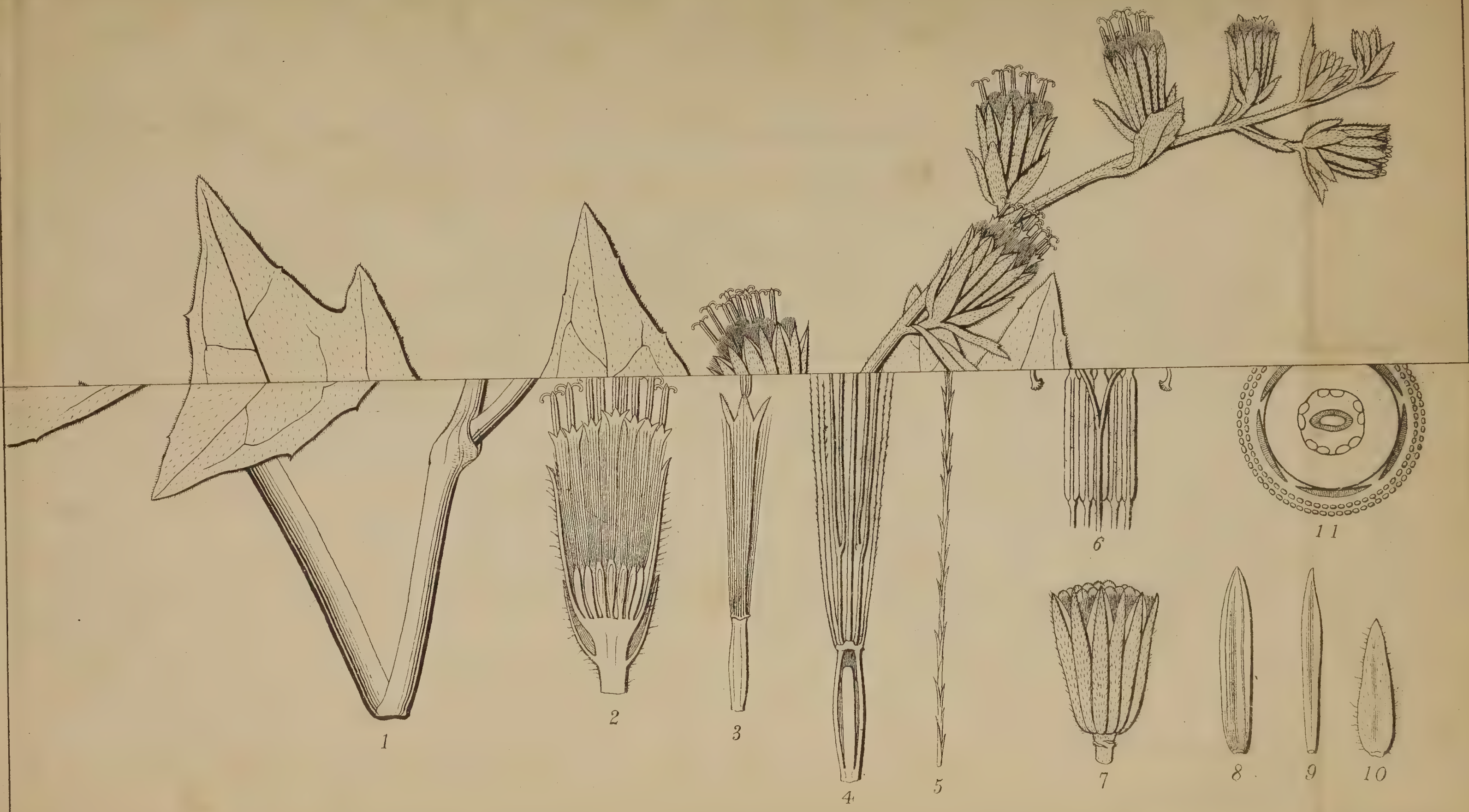
○會員諸君ニシテ會費未納ノ御方ハ本會會計整理上甚ダ不都合不尠候ニ付キ御手數ナカラ至急御送付被下度候


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11

K. WATANABE, DEL.

SENECIO MAKINEANUS YATABE.
TOSA-NO-MOMIJISO. トサノモミヂサウ.

[illegible]


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11

K. WATANABE, DEL.

SENECIO MAKINEANUS YATABE.
TOSA-NO-MOMIJISO. トサノモミヂサウ.

東京日本橋區呉服町東京刷版社印行

植物學雜誌第六卷第六十一號　(明治二十五年三月十日)

THE BOTANICAL MAGAZINE.

[Vol. VI. March 10, 1892. No.61.]

New or Little Known Plants of Japan.

No. 19.

Ryōkichi Yatabe, Sc. D.

Senecio Makineanus, nov. sp.

Nom. jap. Tosa-no-momijisō. トサノモミヂサウ.

(Plate III.)

Stem nearly smooth, simple, 3-4 feet high. Leaves petiolate, reniform or cordate, palmately 7-15 lobed, minutely hairy on both surfaces, tomentose with brown hairs on the veins on the under surface, finely ciliate at the margins; the lobes oblong, acuminate, coarsely dentate and also scattered with small mucronate teeth, 2-3-lobulate, the lobules acuminate; petioles shortly sheathing at the base; lower leaves 16 inches across the petioles about a foot long; upper leaves 8 inches across, the petioles 2 inches long; the uppermost much reduced in size, passing into ovate or lanceolate bracts of the inflorescence. Heads homogamous by the want of the rays, campanulate, 7-9 lines long, 4-6 lines broad, in terminal racemes; the axis of the inflorescence tomentose with brown hairs, about $\frac{1}{2}$ inch long, the pedicels of the heads also tomentose with brown hairs, 2-4 lines long. Bracteoles at the base of the heads about 5, lanceolate, acute, hairy especially at the margins, 3-4 lines long, about 1 line broad. Scales of the involucre 11-13, in a single series, of two forms, the narrower outer overlapping both margins of the broader inner; both linear, acute, 5-6 lines long; the outer $\frac{3}{4}$ line broad; the inner membranaceous at the margins, $1\frac{1}{4}$ line broad. Receptacle flat, naked. Florets white, about 25 in each head. Pappus-hairs copious, brown, about as long as the corolla, minutely barbellate under the lens. Corolla narrow, 5-lobed at the apex, about 5 lines long; its lobes ovate-lanceolate or deltoid-lanceolate, acute, minutely hairy towards the apex. Anther-bases obtuse. Style-arms recurved, penicillate at the apex. Ovary linear, $1\frac{1}{2}$-2 lines long; ovules solitary, erect.—Hab. Moist woods in mountains. Fl. July-August.

I have examined only two specimens of this plant collected at two different times by Mr. Kanō Watanabe at Tsueyama in Nanokawa-mura in the province of Tosa. One of the specimens was collected in 1884, and the other on the 3d. of August, 1889. I have the pleasure of naming this plant in honor of Mr. T. Makino, who has devoted much time to the study of Japanese plants, especially those of Tosa, his native province.

Among the Japanese species of *Senecio*, *S. Zuccarini*, Maxim., seems to be most nearly allied to the present species. But the heads of the former are usually paniculate and much smaller than those of the latter. The

bracteoles at the base of the heads of the former are also very small, whereas those of the latter are large and conspicuous.

Plate III. Fig 1, upper part of plant with flower-heads; 2, flower-head cut vertically; 3, floret; 4, floret cut vertically; 5, pappus-hair; 6, anther-tube laid open showing the style-arms; 7, young flower-head with the bracteoles at the base removed; 8, broader scale of involucre (inner side); 9, narrower scale of involucre (inner side); 10, bracteole (inner side); 11, floral diagram:—*all except 1 enlarged.*

朝鮮釜山浦ノ海藻

理學士　岡村金太郎

去夏大學院學生理學士金田楢太郎氏ガ地質調査ヲ兼テ朝鮮ニ漫遊セラレタル際一日釜山浦ニ於テ採集セル海藻十數種ヲ齎シ余ニ贈ラレタリ氏ハ七月廿四日ヲ以テ東京ヲ發シ釜山ヨリ京城仁川ヲ經テ元山津ニ至リ十二月十日ヲ以テ歸京セラレタリ氏ガ釜山ニテ採集セシハ八月五日ニシテ其標品ハ同所ニテ採集セル介類海綿類ト共ニアルコールヲ以テ二個ノ小瓶ニ固ク詰メタル故概ネ其形狀ヲ損シ完全ナルモノハ甚ダ少ナク之ヲ調ブルニ當テ頗ル困難セリ然レ𪜈漸ク之ヲ調査セシニ其種類大略左ノ如シ

紅藻類

Gelidium corneum.　（てんぐさ）本邦各地ニ産ス

Ceramium rubrum.　（いぎす）本邦各地ニ産ス

”　clavulatum.　房州磐城佐渡等ニ産ス

Gracilaria confervoides.　おごのり　本邦各地ニ産ス

Laurencia paniculata.　本邦各地ニ産ス

Corallina officinalis.　本邦各地ニ産ス

”　pilurifera.　本邦各地ニ産ス

Gloeopeltis tenax.　ほんふのり　專ラ九洲ニ産ス四分胞子ヲ熟セリ

Gigartira tenella Harv.　すぎのり　九洲ニ多シ相豆房總邊ニモアリ囊果ヲ熟セリ

Halosaccion Wrightii Harv.　伯耆、函館、志摩、明石、神戸等ニ産ス

Polysiphonia sp.　本邦ニモ産スルモノ

褐藻類

Padina Durvillaei.　本邦各地ニ産ス

Dictyota dichotoma.　本邦各地ニ産ス

Cystophyllum Thunbergii Harv.（とらのを）本邦各地ニ産ス

此他二三ノほんだわら類アレ𪜈只枝ノ一部分ニシテ甚ダ不完全ナルヲ以テ種詳ナラズ

綠藻類

Ulva latissima.　あをさ本邦各地ニ産ス

Enteromorpha compressa.　あをのり本邦各地ニ産ス

Codium tomentosum.　みる　本邦各地ニ産ス

以上列記スルモノヽ如シ氏ハ元ヨリ其目的ニアラズ又僅々數時間ノ採集ナレバ元ヨリ多カルベキ筈ナシ而シテ之ト共ニ詰メタル動物ハほや、ぢいがせ、よめがさら、海綿、うに、其他普通見ル所ノ介類ナリシ此等標品ヲ以テ見ルニ概ネ本邦ノモノト大差ナク敢テ奇ナルモノナシ尤モ此等少數ノ標品ヲ以テ一般ヲ推スルニハ足ラザレ𪜈嘗テ外人ノ同陸上植物ヲ調査シタル處及ビ教授松村任三氏ガ同國ノ植物ニ就テ研究シタル成績等ヲ以テ見ルニ朝鮮ノ植物ノ景況ハ本邦ノモノト大差アルヿナシ聊カ記シテ以テ他日調査ノ資ニ供ス

日本藥局方植物篇（前號ノ續キ）

會員　澤田駒次郎

性狀　亞勒散得産旃那ハ尖卵圓形ノ小葉ニシテ長サ三「センチメートル」廣サ九「ミリメートル」ニ過キス其基部均等ナラズ其質剛強非薄帶黃綠色或ハ帶藍綠色ヲ呈シ平緣ニシテ先頂尖リ枝脉弧線狀ニ分出シ其裏面ニ微毛ヲ有シ葉柄極メテ矮短或ハ之ヲ缺如スルモノアリ又旃那葉中ニハ扁平ナル莢果ヲ混淆スルコトアリ

亞勒散得産旃那中ニハ往々白前科植物即チ Cynanchum Argel, Hayne. ノ葉及ヒ花部ヲ混淆スルコトアリ藥用ニハ成ルベク莢果及ビ「アルゲル」葉ヲ除キテ用フベシ英國ニテハ此等ノ混淆物ヲ除去シタルモノヲ精撰亞勒散得産旃那ト云フ但シ「アルゲル」葉ハ其質稍々厚ク強靱鞣革樣ニシテ帶灰綠色ヲ呈シ其基部均等ニシテ表裏兩面ニ毛茸ヲ帶フルヲ以テ識別スルコトヲ得ルナリ然レドモ近來其品位大イニ改良セシニ因リ此等ノ葉ヲ混淆スルコト減少スト又亞勒散得産旃那中ニハ往々小量ノ意太利亞産旃那ヲ混淆スルコトアリト雖𪜈其

形狀ニ因リ之ヲ區別スルコト容易ナリ

改正日本藥局方ニ云本品ハ Cassia acutifolia ノ葉ニシテ尖卵圓形ヲナシ其基部不同ナリ長サ一乃至三「センチメートル」廣サ六乃至十二「ミリメートル」全ク毛茸ヲ帶ヒズ或ハ邊緣及ヒ脈理上ニ於テノミ僅微ノ毛茸ヲ帶フ」本品ハ小枝及莢果或ハ「アルゲル」(Cynanchum Argel, Delile. ノ葉)ヲ夾雜スルコトアルモ多キニ過ク可カラス「アルゲル」葉ハ厚ク帶灰綠色ニシテ硬毛ヲ密布シ疣狀ノ隆起ヲ帶ビ其基部均等ナルモノナリ」トアリ

成分　旃那葉ハ一千八百六十四年 Dragendorff, Kubly. ノ兩氏之ヲ調査シ一千八百六十八年 Groves 氏モ亦試驗セリ此等ノ諸氏ノ試驗成蹟ニ據レバ旃那ニ瀉下ノ効驗アルハ主トシテ「カタルチン」酸 (Cathartic acid) ノ存在スルニ因ルモノトス

本品ハ黑色無晶形ノ塊ニシテ弱キ酸性ノ反應ヲ呈シ味ハ稍々收斂性ナリ依的兒、哥囉仿謨ニハ隨意ニ溶解スト雖モ水及ヒ强酒精ニハ溶解セズ稀薄ナル温酒精ニハ溶解ス又葉中ニハ加爾曳謨及ヒ麻偏涅曳謨ト抱合シテ鹽類トナリテ存在スルヲ通常トス此等ノ鹽類ハ水ニハ容易ク溶解スレドモ强酒精ニハ溶解セズ故ニ Buchheim 氏ノ試驗說ニ據レバ旃那ハ酒精ニ浸出スルモ猶ホ瀉下ノ性質ヲ保有スト歐羅巴諸國ニテ數年間旃那丁幾ヲ用ヒシコトアリト云フ酒精ノ作用ハ旃那ヨリ惡心ヲ生スル成分ヲ溶解スルモ「カタルチン」酸ヲ溶解セザルニ因リ一度酒精ニ浸出シタル葉ヨリ製シタル水溶液ハ性温和ニシテ効驗著シク氣味爽快ナリ英國及ヒ合衆國ニテハ此法ヲ以テ溶液ヲ製造スト然レドモ L. Siebold 氏ノ試驗ニ據レバ酒精ハ旃那ヨリ有効成分ヲ著シク浸出セザルモ之ヲ浸出セザル葉ニ比スレバ其効驗稍々劣レリ故ニ酒精ニ浸出シタル葉ノ三分ハ浸出セザル葉ノ

二分ト同一ノ効驗アルモノトス氏又云强酒精ハ之ヲ用フルモ瀉下ノ効驗ナシト雖𪜈一回旃那葉ヲ浸シタルモノハ瀉下ノ効アリ是レ有効成分ノ一分餘ヲ酒精中ニ浸出セシニ因ルモノトス此等ノ經驗ニ因リ製藥上一層注意スルニ至レリ Groves 氏云旃那酒精溶液ハ腹痛ヲ生スルコト無シト日本藥局方註解ニ云（醫科大學教授藥學士下山順一郎氏著）旃那葉ノ有効成分ハ未ダ其純淸ナルモノヲ製出スルコトヲ得ス旃那ヲ水ニ浸漬スレバ「カタルチン」酸（Cathartinsäure）ノ加爾叟謨鹽及ヒ麻偏涅叟謨鹽ヲ溶出ス而メ此諸鹽類ヨリ遊離セシメタル「カタルチン」酸ハ無晶形ノ塊ヲ爲シ瀉利ノ効力ヲ有ス云々トアリ又旃那酒精溶液ニ鹽酸ヲ加ヘテ煮沸スレバ「カタルチン」酸ハ分解シテ配糖質十「ペルセント」Cathartogenic acid 六十五「ペルセント」ヲ生ス此酸ハ黄褐色ノ粉末ニシテ水及ヒ依的兒ニハ溶解セス又葉中ニハ一種ノ黄色素ト一種結晶性ノ砂糖ヲ有ス此黄色素ハ Chrysoretin ト稱ス或云 Chrysophanic Acid ト同物トス砂糖ハ Cathartomannit ト稱シ醱酵性ヲ有セストス又 Ludwig 氏ノ説ニ據レバ旃那ハ二種ノ苦味質ヲ有ス一ヲ Sennacrol ト云ヒ一ヲ Sennapicrin ト云フ甲ハ依的兒ニ溶解スト雖𪜈乙ハ之ニ溶解セス其他許多ノ酒石酸鹽類等ヲ含有ス

醫治効用　チンチウエリ産旃那ニ均シ

廿九　カシア、アンガスチホリア

羅甸名　Cassia angustifolia, Vahl.

豈科

亞剌伯等ニ自生スル小灌木ニシテ葉ハ偶性翼狀ヲ爲シ互生ス小葉四對ヨリ七對ニ至リ長サ六「センチメートル」廣サ二「センチメートル」ニ至リ平縁披鍼形ニシテ鋭尖ヲ有シ其基部均等ナラス帶黄綠色乃至帶藍

綠色ヲ呈シ其裏面ニ於テ微ニ毛茸ヲ帶ヒ枝脈弧線狀ニ分出シ葉柄極メテ矮短ナリ花ハ稍々大イニシテ花梗椎ハ纖長矮短ナル毛茸ヲ有シ數花聚集シテ總狀花ヲ綴ル蕚五片大イサ均等ナラス外部ノ二片ハ細小ニシテ廣濶ナル長圓形ヲナシ鈍頂ヲ有シ暗綠色ヲ呈ス花瓣五片均等ナラズ上部ノ一片ハ短小下部ノ二片ハ延長シ各片卵圓箟形ニシテ表面凹陷シ暗橙黃色ヲ呈シ脉絡鮮明ナリ雄蕊十個上部ノ三個ハ矮短ニシテ其發育完全ナラズ故ニ花粉ヲ稔熟セス左右ノ四個ハ稍々延長シテ直立シ下部ノ三個ハ延長彎曲シテ弓形ヲナシ葯ノ頂端ニ孔穴ヲ生シ花粉ヲ吐出ス實礎ハ延長無柄ニシテ屈曲シ兩側毛茸ヲ密生シ花柱延長其先頂狹小ト爲リ上方ニ彎曲ス花後莢果ヲ結フ扁平ニシテ微ニ彎曲シ濃褐色ヲ呈シ平滑或ハ毛茸ヲ疎生シ其頂端花柱ノ殘基ヲ存シ莢中八個若クハ九個ノ種子ヲ有ス扁平倒卵槪形ニシテ胚子肥大蛋白質ノ基部ニ直立シ根芽ハ矮小子葉ハ大イニシテ稍々眞葉狀ヲ爲セリ

本植物ハエーメン(Yemen)ハアドラモート(Hadramaut)（共ニ亞刺伯地名）亞弗利加東部海濱ノ諸國、印度西北部ノ諸地等ニ自生シ東ハ信地(Scinde)等ニ蕃殖シ印度南部諸地ニ於テ之レヲ栽培セシニ極メテ善ク繁茂スト云フ

(以下次號)

花ノ色香　（前號ノ續キ）

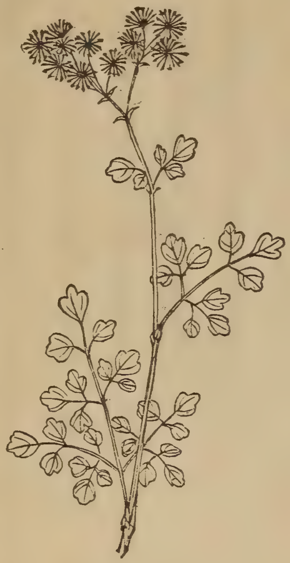
理學士　堀正太郎

(挿圖ハ理學博士矢田部良吉氏ノ厚意ニ依リ氏ノ著日本植物誌(未上梓)中ヨリ摸寫改描又ハ參考シタルモノナリ)

夫レ花ノ最モ單簡ニシテ始原ノ形狀ヲ存スルモノハ實礎常ニ分離シテ單一ナリ双子葉植物ニアリテハ毛茛科

幷ニ薔薇科ノ諸屬單子葉植物ニアリテハ澤瀉科ノ花則チ此始原ノ形体ヲ存スル者ナリ此ノ如キ始原花ニ〆其形狀正整平等且開放セル者ニアリテハ種々雜多微細ノ昆虫ノ媒助ニ依リテ受精シ其花常ニ白色又ハ黄色ナリきんぽうげ又ハきぢむしろノ花是ナリ又かはらなでしこノ如キハ花瓣稍々圓筒狀ヲナシ特異ノ体形アル昆虫ニアラサレバ來ル能ハス而〆其花色多クハ赤或ハ淡紅ナリ其最モ變化甚タシク不正形ニ〆一方ニ傾斜セル多瓣花則チすみれ豌豆ノ如キ又ハ正形合瓣花ナルりんだう、きゝやうノ如キ或ハ合瓣ニ〆不正形且ツ一方ニ傾斜セルたむらさう、るりとらのをノ如キ皆其花紫又ハ碧色ニ〆花ノ最モ進步シタル者ナリ予ハ今日本普通植物ヲ以テ一層是カ詳細ノ說明ヲナサンニ毛莨科植物ハ日本ニアリテ十八屬アリ就中からまつさう(Thalictrum aquilegifolium, L.) 恐ラクハ毛莨科中最モ單簡ナル者ニ〆花ノ原形 (primitive form) ヲ存スルモノナラン此ノ花ハ花瓣ヲ欠キ四五箇ノ小ナル萼片アリテ雌雄蕋ヲ圍繞シ花ノ破綻スルニ從ヒ凋落ス故ヲ以テ花ノ裝飾美麗ノ觀ハ全ク蒼白色ノ雄蕋束ニアリ是ヲ以テ全態甚タ風媒花ニ類似ス花ノ始原ハ風媒花ナリ而シテ進ンテ蟲媒トナルモ其初メハ昆虫未ダ充分色感 (color sense) ノ發達セサルヲ以テ從テ花ニ色彩ノ以テ彼カ誘引ニ必用アルヿナシ此ノ故ヲ以テ最モ單簡ニシテ特異變形ノ發達ヲナサヽル花ニアリテハ其色白ニ〆繖形科植物其一例ナリ故ニ香氣ヲ以テ昆虫ヲ牽吸スル處ノ花ニアリテハ亦色彩ノ必要ヲ見スシテ多クハ白色ナリ梅ノ如キ是レナリ

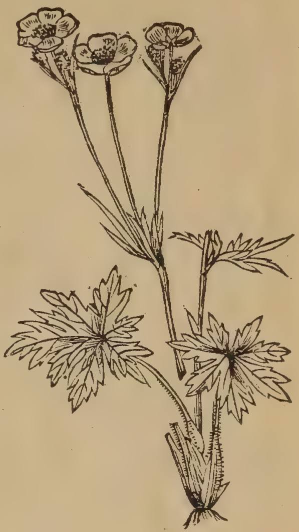
第一圖



カラマツサウ.

察スルニからまつさうハ其花ノ造構甚ダ簡ニシテ風媒花ノ形態ヲ備フルト雖モ是レ或ル狀態ニ制セラレテ一旦虫媒花ニ發達セシモノヨリ再ヒ風媒花ニ退化シタル者ナル可シ此花ハ蜜槽ヲ有セス故ヲ以テ花蜜搜索ノ爲メ來ル處ノ昆虫ヲ見スシテ花粉ノ掠食ヲ事トスルモノニヨリテ孳胎ノ媒助ヲ受ク「ミユーレル」氏ノ經驗ニ依レハ此種ノ花ニ來ル處ノ昆虫ハ綱翅虫（Hymenopetera）三種双翅虫(Diptera) 五種甲虫(Coleoptera) 一種ニシテ蜂又ハ胡蝶ノ如キ蜜食虫ノ類一モ來ルコトナシ

第二圖



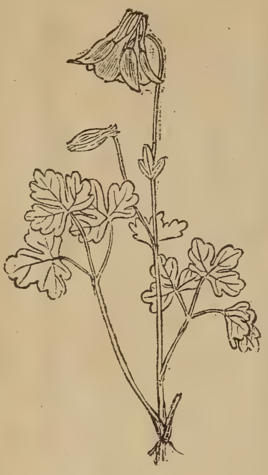
キンポウゲ.

からまつさう花ニ一歩ヲ進メタルモノハきんぽうげ(Ranunculus acris,L.)ニ乄此花ノ構造幷ニ裝飾ハ遙カニ前者ニ勝リテ一段ノ進化ヲナシタルモノナリ花ハ黃色ニシテ五箇ノ扁平ニ開放セル花瓣アリ而シテ又各花瓣ノ基脚部ニハ蜜槽ヲ備ヒ蜜ヲ分泌ス黃色ハ花色進化ノ初程以テ色感アル昆虫ノ誘引ニ便ニス是レ初メテ色彩アル原花ニシテ且蜜槽ヲ備ヒ開放セル多瓣花ナルヲ以テ是ニ來ル處ノ昆虫ハ自ラ其種類ニ富マサルヲ得ス今「ミユーレル」氏ノ調査ヲ見ルニ果シテ左ノ如シ

雙翅虫(Diptera)	23	62
甲翅虫 (Coleoptera)	11	
綱翅虫(Hymenoptera)	24	
鱗翅虫 (Lepidoptera)	4	

合計六十二種ノ多キニ達ス此屬ニアリテいときんぽうげ (R. Flammula, L. var. reptans,Sm.)はいきんぽうげ (R. redens, L.) たがらし (R. scelaratus, L.) 等アリ皆多少きんぽうげニ類似ス然ルニ一種ノむめばちも(R. aquatilis, L. var. flacsidus, Pers. foma Drouetii, Hiem)ナル者アリ前者ト異リ水中ニ生シ水面ニ花ヲ泛ヘテ開ク水若シ多クシテ花梗水面ニ達スル能ハサレハ蕾破綻スルヿナク自殖シテ實ヲ結ブ花ハ白色ニシテ其全体きんぽうげ花ニ似ル花瓣ノ基部稍黄色ナル處蜜槽アリ水中ニ生育スルヲ以テ常ニ水邊ニ徘徊スル處ノ昆虫ノ媒助ニ依リテ受殖ス歐洲ニアリテハ雙翅虫最モ多ク其數六種網翅虫二種甲虫一種ナリ

第三圖

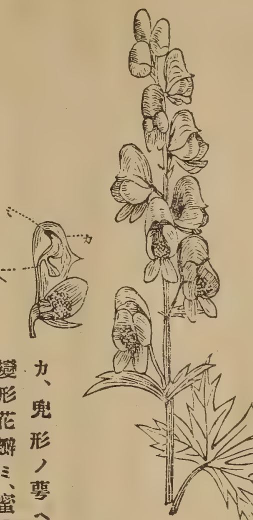


ヤマヲダマキ.

をだまき耬斗菜 (Aquilegia atropurpurea, Willd)ハ毛莨科植物中甚タ特異變形ヲナセルニメ花ノ形式ハきんぽうげ花ニ異ナルヿナク五箇ノ紫色ナル花瓣并ニ蕚片ヲ有スレモ蕚片ハ畸形變態シ屈曲シテ鉤狀ヲナシ基底ニ於テ蜜ヲ分泌ス實礎ハ五箇アリ之ヲ要スルニ全体ノ構造形態并ニ色彩之ヲ前者ニ比スレハ著シキ進化ヲナシタルモノナリをだまきノ種類一ニメ足ラスやまをだまきハ淡黃色ノモノアリ紫ノモノアリ又あめりかをだまきノ如キ碧色ノ者アリ其形狀ニ差異尠ナシト雖モ色彩ニアリテ數等ノ階段アリ斯ノ如ク花形花色ニ特異ノ變化ヲ來シタルカ故ニ此ノ花ニ來テ花蜜ヲ捜索スル昆虫ハ亦其体形ニ特異ノ形アラサレハ能ハス「ミユーレル」氏カあめりかをだまき(A. vulgaris, L.)ニ於テ調査シタル處ヲ見ルニ Bombus 二種アルノミ此花ニアリテハ五箇ノ蕚片ハ其附着点ヨリシテ上部凡ソ十五乃至二十「ミ、メ」ノ長ニ鉤曲セル空筒

ノ距ヲナシ其基底ニ蜜槽アリ蜂ハ距ノ邊縁ニ自巳ノ頭ヲ置キproboscisヲ延長シテ鉤曲セル距底ノ蜜ヲ掠食ス可シ斯ノ如キ花ノ構造ナルヲ以テ昆虫ノproboscisハ少クモ長サ十五乃至十七「ミ、メ」ナカル可カラス故ヲ以テproboscis ノ短キモノニアリテハ遂ニ花蜜ヲ得ルヿ能ハス

第四圖



カ、兜形ノ萼ヘ、變形花瓣ミ、蜜槽

トリカブト.

をだまきニ一歩ヲ進メタルモノハとりかぶと(Aconitum Fischeri, Reich.)ナリ其色碧色二箇ノ上蕚片ハ互ニ癒合シテ一箇トナリ兜形ニ彎曲シテ雄蕋幷ニ蜜槽ヲ隱蔽ス二箇ノ下蕚片ハ蜂ノ飛下ス中後足立脚ノ便トナリ四箇ノ花瓣中前面二箇ハ貴要機關ヲ左右ヨリ擁護シテ以テ全花ノ美觀娟艶ヲ增シ他ノ二箇ハ細長ナル蜜槽トナリ兜形ノ蕚ニ蔽ハレ外面ヨリ見ル可カラス斯ノ如キ復雜ナル構造斯ノ如キ特異ノ裝置ハproboscis ノ長キ則チ「くまばち」ノ如キ者ニアラサレハ達シ能ハス花ノ孳殖論ニ有名ナルスプレンゲル氏ハ既ニ此事實ヲ確認セリ又ジヨン、ラボツク氏モ亦とりかぶとハBombus hortorum(くまばちノ一種)ノ媒助ニ依リテ受胎スルナラント謂ヘリミユーレル氏ハれいじんさう(A. lycoctonum, L.) ニ就テバアデルボールン(Paderborn) 近傍テユーレ(Thülle) ノ林中ニ實驗シタルニ此花ニハ一モ他虫ノ來ルコトナク常ニBombus hortorum (proboscis ノ長二十一「ミ、メ」) ニ依リ又アルプス山ニテハBombus hortorum (proboscis長二十二「ミメ」)ニ限ルヿヲ實見セリ

結論．毛茛科ニアリテハ花ノ美觀ハ其處在各屬皆異リきんほうげ屬毛茛(Ranunculus)しやくやく屬芍藥(Poeonia)

ニアリテハ花瓣ニアリいちりんさう屬鷄掌草(Anemone)りうきんくわ屬立金花(Caltha)しらねあふひ屬白根葵(Glaucidium)てつせん屬鐵線(Clematis)ニアリテハ萼片ニアリをだまき屬耬斗菜(Aquilegia)とりかぶと屬附子(Aconitum)ニアリテハ花瓣並ニ萼片ニアリからまつさう屬唐松草(Thalictrum)ニアリテハ雄蕋きんばいさう屬金梅草(Trollium)ニアリテハ雄蕋幷ニ花瓣ニアリ斯ノ如ク毛茛科ニアリテハ其色彩其形狀雜多ニシテからまつさう、るゐえふしようまノ如ク無瓣ニシテ只タ白色ナル小萼片ヲ有スルモ花ノ開綻スルト共ニ脫落シ只白色ノ雄蕋ノミヲ以テ全花ノ裝飾ヲナスガ故ニ此小萼片ハ美色ヲ備ヘテ虫ノ誘引ヲナスニアラスシテ只蕾ノトキ内部ノ貴要機關ヲ防護スルニ止マリ開花ト共ニ其用途ヲ終リテ脫離ス故ヲ以テ其全体ノ形狀恰モ風媒花ノ如ク最モ單簡ナルモノナリきんぽうげ花ニアリテハ花瓣ヲ具有シ黄色ニシテ花ノ構造前者ニ一歩ヲ進メタルモノニシテ色ノ進化ハ牡丹芍藥ニ至リテ又一歩ヲ進ム其やまをだまきハ紫色ニシテとりかぶとハ碧色ナリ故ニとりかぶとハ花色ノ最高等ニ發達シタルモノニシテ而メ此二種ノ其形狀前ノ開放セル正形花ニ比シテハ非常ノ特異發達ヲ遂ケ不正形トナリきんぽうげ花ノ如キハ飛來スル處ノ昆虫六十二種ノ多キニ達スト雖𪜈をだまき、とりかぶとニアリテハ通常ノ昆虫食ヲ求ムルニ由ナク只長キproboscisヲ有スルくまはちノ獨占スル處トナル是ヲ以テ見レハ花形花色ト昆虫ノ關係自ラ明燎タリ要スルニ毛茛科植物ハ花瓣ヲ擴大シテ誘引ノ方便トスルモノ尠ク花瓣ノ形狀幷ニ配置ニ依リテ昆虫ノ飛來ニ適應シタルモノ多シ

（未完）

土佐國產羊齒科植物目錄增補第三

吉永悅卿

一昨廿三年八月以來予ガ鄕里土佐ニ於テ採集セシ羊齒積デ二種トハナレリ左ニ之ヲ記シ目錄增補第三トス

Hymenophyllum Wrightii, V. D. Bosch.

こけしのぶ

右ノ羊齒ハ一昨廿三年八月弟虎馬ト豫州ニ赴キタル時土佐郡本川村寺川ニ於テ採集セルモノナリ然レ𪜈當時頗ル疑シキ點アリテ未ダ其種名ヲ詳ニセザリシヲ以テ目錄增補第二ニ載セザリシ所ノモノナリ

Asplenium Toramana, Makino

くろがねしだ（吉永虎馬新名）

右ノ羊齒ハ昨廿四年四月弟虎馬ガ長岡郡上倉村ニ於テ創見セル所ノモノナリ

Notes on Japanese Plants XVI.

日本植物報知　第十六

Tomitarō Makino.

GRAMINEÆ. 禾本科

Paspalum Thunbergii Kunth. **var. minor** Makino, in Bot. Mag., Tōkyo Bot. soc. vol. VI. no. 60. P.48. Jap. Suzumenokobiye. スヾメノコビエ

Spikes 2-5c.m. long. Glumes smooth, about $1\frac{1}{2}$—2 m. m. long, densely arranged. Leaves naked, except at the base of the blade and sometimes at the margins of the sheath.

Tosa: Misaki, Yōrō, Hirayama (T. Makino).

POLYGONACEÆ. たで科

Polygonum flaccidum Roxb. **var. lætevirens** Makino, l. c. p. 49. Jap. Awitade. アヰタデ

Leaves flaccid, thin, oblong-lanceolate, entire, obtuse or rather acute, smooth, ciliated at margins, quite green (pale green when dry), with numerous very minute gland-dots; petiole very short. Cultivated in Tosa, never found in wild state.

Tosa: Sakawa (T. Makino).

(*To be contiuned.*)

日本植物新名

New Names of Japanese Plants.

(*Continued from p.* 102.)

Ryokichi Yatabe, Sc. D.

30. Viola variegata, Fisch.

Nom. jap. Shihai-sumire.

本島、四國、九州ニ生ズルしはいすみれハ此種ナルベシ

31. Viola Sieboldi, Maxim.

Nom. jap. Fumoto-sumire.

九州、四國ニ生ズ。ふもとすみれ。

32. Viola Selkirkii, Goldie.

Nom. jap. Hime-miyama-sumire.

內地及ビ北海道ニ生ズ。ひめみやますみれ。

33. Viola Besseti, Maxim.

Nom. jap. Miyama-sumire.

本島ニ生ズ。みやますみれ。

34. Viola yezoensis, Maxim.

Nov. nom. jap. Ezo-kosumire.

北海道ニ生ズ。えぞこすみれトセリ。

35. Viola serpens, L.

Nov. nom. jap. Ko-miyama-sumire.

本島及ビ四國ニ生ズ。こみやますみれトセリ

36. Viola mirabilis, L.

Nom. jap. Maruba-sumire.

本島ニ生ズ。まるばすみれハ此種ナリ。

37. Viola sylvestris, Kit.

Nov. nom. jap. Ezo-no-tachitsubo-sumire.

北海道ニ生ズ。えぞのたちつぼすみれトセリ。

38. Viola canina, L., var. acuminata, Regel.

Nov. nom. jap. Inu-sumire.

本島ノ北部及ビ北海道ニ生ズ。いぬすみれトセリ。

すみれ屬中未詳ノモノ

39. Viola incisa, Turcz., var. acuminata, Fr. et Sav.

Nov. nom. jap. Kizamiba-sumire.

下總ニ生ズ。きざみばすみれトセリ

40. Viola incisa, Turcz., var. multifida, Fr. et Sav.

Nov. nom. jap. Kireha-sumire.

下總ニ生ズ。きれはすみれトセリ。

41. Viola sylvertis, Kit., var. montana, Yatabe, (=V. mantana, L.)

Nov. nom. jap. Nagaba-no-tachitsubo-sumire.

攝州、和州、阿州等ニ生ズ。ながばのたちつぼすみれトセリ

42. Viola Thibaudieri, Fr. et Sav.

Nov. nom. jap. Ko-tachi-sumire.

産地不明。こたちすみれトセリ

Caryophyllaceae. 石竹科

43. Dianthus barbatus, L., var. shinanensis, Yatabe.

Nov. nom. jap. Shinano-nadeshiko.

Leaves lanceolate or linear-lanceolate.

信州ニ生ズ。しなのなでしこトセリ。

44. Dianthus chinensis, L. (Wild form.)

Nov. nom. jap. Ko-nadeseiko.

本島及ビ九州ニ生ズ。こなでしこトセリ。此種ノ栽培品ハからなでしこ(石竹)ナリ。

45. Celastium schizopetalum, Maxim.

Nov. nom. jap. Miyama-miminagusa.

甲州駒ケ嶽ニ生ズ。みやまみゝなぐさトセリ。

46. Stellaria humifusa, Rottb., var. oblongifolia, Fenzl.

Nov. nom. jap. Ezo-hakobe.

根室ニ生ズ。えぞはこべトセリ。

47. Stellaria ruscifolia, Willd.

Nov. nom. jap. Nemuro-hakobe.

根室ニ生ズ。ぬむろはこべトセリ。

48. Stellaria yezoensis, Maxim.

Nov. nom. jap. Shiraoi-hakobe.

北海道ニ生ズ。余ハ之ヲ白老ニテ採集シ、Maximowicz氏ハyezoensisノ種名ヲ付セリ。しらをひはこべトセリ。

49. Stellaria longifolia, Muehlenb.

Nov. nom. jap. Nagaba-no-tsumekusa.

釧路ニ生ズ。ながばのつめくさトセリ。

50. Stellaria Maximowicziana, Yatabe. (=Krascheninikowia Maximowicziana, Fr. et Sav.)

Nov nom. jap. Fuji-wachigai.

富士山ニ生ズ。ふじわちがひトセリ。

51. Stellaria sylvatica, Yatabe. (=Krascheninikowia sylvatica, Maxim.)

Nov. nom. jap. Kushiro-wachigai.

釧路ニ生ズ。くしろわちがひトセリ。

52. Stellaria heterophylla, Yatabe. (=Krascheninikowia heterophylla, Miq.)

Nov. nom.jap. Nambu-wachigai.

盛岡地方ニ生ズ。なんぶわちがひトセリ。

53. Arenaria platysperma, Yatabe. (=Mœhringia platysperma, Maxim.)

Nov. nom. jap. Ezo-fusuma.

函館邊等ニ生ズ。ゑぞふすまトセリ。

54. Arenaria merckioides, Maxim.

Nov. nom. jap. Meakan-fusuma.

釧路雌阿寒山ノ巓ニ生ズ。めあかんふすまトセリ。

Portulaceæ. 馬齒莧科

55. Montia fontana, L.

Nov. nom. jap. Monchisō.

本島ニ生ズ。もんちさうトセリ。

Elatineæ 松葉繁縷科

56. Elatine Alsinastrum, L.

Nov. nom. jap. Matsuba-hakobe.

本島ニ生ズ。まつばはこべトセリ。

Ternstrœmiaceæ. 厚皮香科

57. Actinidia Kolomikta, Rupr.

Nov. nom. jap. Usuba-shirakuchizuru.

内地及ビ北海道ニ生ズ。うすばしらくちづるトセリ。

58. Stuartia serrata, Maxim.

Nov. nom. jap. Hikosan-himeshara.

豐前彥山ニ生ズ。ひこさんひめしやらトセリ。

Laurineæ.　樟科

59. Actinodaphne acuminata, Meissn.

Nov. nom. jap. Kōboku.

大久保三郎氏ハ此種ヲ八丈島ニテ採集シ、渡邊協氏ハ土州幡多郡ニテ採集セリ。Blume氏ハ其日本名チKoobokiナリト云ヒ、Miquel氏ハKoobokナリト云ヘリ、依テ余ハ之チかうぼくトセリ。Siebold氏ハ其標品一個チ薩摩ヨリ得タリト云フ

60. Machilus Thunbergii, Sieb et Zucc., var. japonica Yatabe. (=Machilus japonica, Sieb. et Zucc.)

Nom. jap. Aogashi.

Forbes and Hemsley兩氏ハあをがしチMachilus Thunbergii ニ併セタリ。然レドモ余ハ其一二ノ異ナリタル點ヨリシテ一ノ變種トセリ。其形質ノ詳細ハ日本植物圖解第一册第三號ニ掲載スベシ　（未完）

* * *

富士山植物彙報　（前號ノ續キ）

會員　渡邊協

同　松田定久

Orchideæ　蘭科

Liparis inconspicua, *Makino*　ホザキイチエフラン　（大）

〃　auriculata, *Miq*　クモキリサウ　（三）

Ephippianthus sachalinensis, *Reichenb. f.*　コイチエフラン

Sarcochilus japonicus, *Miq.*　カキラン

Listera cordata, *R. Br.* フタバラン (大島)

Goodyera Schlechtendaliana, *Reichenb. f.*
ミヤマウヅラ (三)

Epipactis gigantea, *Hook.* スメラン

Aceras angustifolia, *Lindl. var.* longicruris, *Miq.*
ムカゴサウ (三)

Habenaria cyclochila, *F. et S.* イチエフラン (大)

Gymnadenia conopsea, *R. Br.* ussuriensis, *Regel.*
チドリサウ (矢野)

,, cuculata, *Rich.* ミヤマモヂズリ (三)

Platanthera Reinii *F. et S.* キソチドリ (大)

,, hologlottis, *Max.* ミヅチドリ

,, tipuloides, *Lindl. var.* ussuriensis. *Regel.*
et Maack. オホヤマサギサウ (三)

,, oreades, *F. ct S.* ヤマサギサウ

Cypripedium macranthum, *Sw.* アツモリサウ (三)

Hæmodoraceæ 即心蘭科

Ophiopogon japonicus, *Gawl.* ジヤノヒゲ

,, ,, *var.* Wallichianus, *Max.*
オホバジヤノヒゲ

Iridaceæ 鳶尾科

Iris sibirica, *L. var.* orientalis, *Thunb.* アヤメ

Amaryllidaceæ. 石蒜科

Lycoris Severzovii, *Regel.* キツネノカミソリ (三)

Liliaceæ 百合科

Smilax herbacea, *L. var.* nipponica, *Max.* シホデ

,, higoensis, *Miq.* ホソバシホデ

Polygonatum canaliculatum, *Pursh.* ナルコユリ (大)

Streptopus ajanensis, *Tiling.* タケシマラン (大)

Maianthemum bifolium, *D. C.* マヒヅルサウ (大)

Funkia Sieboldiana, *Hook. var.* longipes, *F. et. S.*
イハギバウシ (大)

Allium japonicum, *Regel.* ヤマラツキヤウ (大)

Scilla chinensis, *Benth.* ツルボ (大島)

Lilium avenaceum, *Fisch.* クルマユリ

" cordifolium, *Thnnb.* ウバユリ

" Maximowiczii, *Regel.* コオニユリ

Metanarthecium foliatum, *Max.*

ネバリノギラン (大)

Disporum sessile, *Don.* ハウチヤクサウ

Clintonia udensis, *Traut. et Mey.* ツバメオモト (大)

Trillium erectum, *L. var.* japonicum, *A. Gray.*

エンレイサウ (大)

Paris quadrifolia, *L. var.* obovata, *Regel*

クルマバツクバネサウ (大)

Veratum album, *L. var.* grandiflorum, *Max.*

バイケイサウ (矢野)

" Maximowiczii, *Baker* アヲヤギサウ (大)

Commelineae 鴨跖草科

Commelina communis, *L.* ツユクサ (三)

Juncaceæ. 燈心草科

Juncus sp. イトヰ (三)

Luzula campestris, *DC.* スズメノヒエ (大)

Aroideæ. 天南星科

Arisæma japonicum, *Blume. var.* serratum, *Engl.*

マムシグサ (大)

Cyperaceæ 莎草科

Fimbristylis japonica, *S. et Z.* ヤマヰ (三)

" squrrosa, *Vahl.* アゼテンツキ (三)

Carex forficula, *F. et S.* コタヌキラン (大)

" nikoensis, *F. et S.* アブラシバ (大)

" stenantha, *F. et S.* イハスゲ (三)

" filipes, *F. et S.* オホイトスゲ (三)

Gramineæ. 禾本科

Eriochloa villosa, *Kunth.* ナルコビエ (三)

Arundinella anomala, *Steud,* トダシバ (大)

Saccharum tinctorium, *Miq.* カリヤス (大)

Arthraxon ciliare, *Beauv.* コブナグサ (三)

Setaria viridis, *Beauv.* エノコログサ (三)

Anthoxanthum odoratum, *L. var.* ハルガヤ (大)

Milium effusum, *L.* イブキヌカボ (大)

Calamagrostis Halleriana, *DC.* イハガリヤス (大)

" nipponica, *F. et S.* (三)

" Onœi, *Fr. et Sav.* ヤマアハ

Deyeuxia sachalinensis, *Fr. Schm.* ヒメノガリヤス (三)

" robusta. *F. et S.* ノガリヤス (三)

Deschampsia flexuosa, *Trin.* コメススキ (三)

Brylkinia caudata, *Fr. Schm.* ホガヘリガヤ (大)

Festuca remotiflora, *Steud.* キツネガヤ (三)

" parvigluma, *Steud.* トボシガラ (三)

" Ovina, *L.* ウシノケグサ (大)

Brachypodium sylvaticum, *Rœm. et Sch.* ヤマカモジグサ (大)

" japonicum, *Miq.* カモジグサ (三)

Bambusa tesselata, *Munro.* クマザサ (三)

Lycopodiaceæ 石松科

Lycopodium serratum, *Thunb.* タウゲシバ

Selaginella Kraussiana, *A. Br.* クラマゴケ (矢野)

Filices. 羊齒科

Botrychium lanceolatum, *Angst.* ミヤマハナワラビ (大)

" Lunaria, *Sw.* ヒメハナワラビ (大)

Trichomanes japonicum, *F. et S.* ホラゴケ (三)

Hymenophyllum paniculiflorum, *Presl.* フシコケシノブ (大)

Onoclea sensibilis, *L.* カウヤワラビ (三)

Davallia Wilfordii, *Baker.* ワウレンシダ

" bullata, *Wall.* シノブ

Adiantum pedatum *L.* クジヤクシダ

Onychium japonicum, *Kunze.* タチシノブ (三)

Pteris aquilina, *L.* ワラビ (三)

Lomaria spicent, *Desv.* シノガシラ

Asplenium, nipponicum. *Metten.* イヌワラビ（大）

,, incisum, *Thunb.* トラノヲシダ

,, japonicum, *Thunb.* シケシダ（三）

,, yokoscense, *F. et S.* コイヌワラビ（三）

Aspidium Filix-mas, *Sw.* ミヤマイノデ（大）

,, tripteron, *Kunze.* シユモクシダ（大）

,, polylepis, *F. et S.* ミヤマクマワラビ（大）

,, callopsis, *F. et S.* ナンタイシダ（大）

,, spinulosum, *Sw. var.* dilatatum. *Hook.* シラネワラビ（大）

Polypodium Phegopteris, *L.* ミヤマワラビ（大）

,, lineare, *Thunb.* ノキシノブ

,, *var.* simplex. *Hook.* オホノキシノブ（三）

,, Onœi, *F. et S.* ミヤマイツマデグサ

余等ガ去年富士山ヘ採集ニ赴キタル頃會員安江豐太郎氏モ同地ニ採集ヲ試ミラレタリ又余等ガ登山ノ後兩三ケ月ヲ經テ會員藤井健次郎氏モ同地ニ赴ムカレ殊ニ松柏科類ヲ多ク採集セラレタリ余等ノ漏ラシタルモノニシテ兩氏ノ採集セラレタルモノヲ録シテ他日本編ヲ補正セラレンヿハ余等ノ最モ希望スル所ナリ

彙報者　識

◎雜　録

○蘭山翁の博識

閑窓自語に松前よりちかき海中に、小島といふ所あり、その所に、おたまき草（耬斗菜）といふくさの、るりの色にさけるあり、そのたねを安永中に、たかの入道中將隆口朝臣のもとへ、松前守護のものゝふよりおくりしをうゑて、近ごろ世に多くなれり、故主殿權助佐伯職朝臣の第に、蘭山といひて、博識のものあり、このくさ

世に忘れぬうちに、見せける人のありしが、いづかたよりきたれるやらんめづらしき草なりといふ、たづぬる人しらずといへりければ、つら〳〵なほ見て、この色は海邊に生ずるなるべし、花の色を見るに、東國のものならんといへり、その道をにし人の見るところ、いさゝかたかはさりけりと、見せし人大に感ぜしなり」とあり蘭山は小野氏なるべし

○みせばやの名語

Sedum Sieboldi, *Sweet.* にみせばやの名あるは君に見せばやとの詞より名付けしものなりと云ふ閑窓自語に云く故民部卿入道爲村卿かたられしは、今世に見せばやといへるくさ（鎮火の種）をうゑもてあそぶ、これはかの卿の父大納言爲久卿の和歌の門弟に、吉野山の法師にてあなるが、奥山にて見侍りしくさとて、和歌をそへて贈りし、そのうたの句に、君にみせばやとの詞あり、これによりて、見せばやとなつけおくよし、爲村卿の返事ありしを、たしかにみられけるとなむ」とあり

（以上二件　澤田駒二郎君報）

○千島植物誌 (The Flora of the Kurile Islands. By K. Miyabe.)

此書ハ札幌農學校教授農學士ドクトル宮部金吾氏カ明治十七年六月二十七日根室港出帆千島群島中「シコタン」島及ヒ「エトロフ」島ヲ跋渉シテ得タル處ノ植物幷ニ露國植物家 Ledebour, Maximowicz, Herder, Fr. Schimit. 等ノ諸氏カ物シタル千島植物百〇四種ヲ加テ合計三百十七種ノ産地幷ニ分布ヲ記述セルモノニシテ千八百九十年十月米國ボストン府博物學會ノ報文トシテ出版セラレタリ

昨年夏期内田瀞氏「ウルップ」島探撿ノ際採集セラレタル處ノ植物中新見出ノモノ二十種アリ是レ宮部氏ノ千

島植物誌中ニ加フ可キモノニメ名稱ハ次號ニ掲ク可シ

○植物分類と解剖學との關係

從來植物學者が植物を分類するの法たるや花の形狀、果實の種類莖葉の模樣等の如き外形を基礎とはなしたり然るに近來植物學の漸次進步するに隨ひ單に外形にのみ依りて分類するの偏固なるを悟り解剖學的の性質をも分類的標徵と爲すの至當を論ずる學者輩出するに至れりされば近來此等の攻究に從事する學者の數も少からず此等に關したる書も亦多し左に掲ぐるドクトル、ソレ、ーデル氏の研究のごときは以て植物解剖學の分類學上必要なるを證明するに足らん

Hymenocnemis と稱する一屬ありこの屬の植物たるやその外形他と大に異るによりその所屬につき二說あり即ベンザム、フーケルの兩氏は之をアカネ科に入れ、ベーケル氏は之をマチン科に入れたり此の兩說の內孰れが果して是なるや、ソレ、ーデル氏は解剖學的にそのアカネ科に屬すべきことを斷定したりその證次のごとし抑マチン科にては莖の維管束に於て材質部內に柔靭皮あり（Intraxyläres Weichbast）アカネ科に於てはこれなきを定則とす然るに此の屬は之を有せず（第一證）又此の屬の葉のパレンキマ組織に於ては針狀結晶体の束あり然るに此はマチン科には決して無きものにしてアカネ科は大に之に富むものなり（第二證）又此の屬にては呼吸孔の保護細胞の傍には呼吸孔の割れ目に平行したる二乃至四個の Nebenzell ありこれアカネ科中最も此屬に類似せる Gaertneria屬の造構に酷似せるものなり（第三證）

○褪色葉の色素粒

(Dr. A. Zimmermann, Über die Chromatophoren in panachierten Blättern. Beiträge zur Morphologie und Physiologie der Pflanzenzelle. Heft II. 1891.)

ドクトル、アー、チンメルマン氏は二十一科三十四屬の植物の褪色葉の色素粒を研究したりその研究の方法及び成蹟左のごとし

褪色葉を生のまゝ撿するには常に五ペルセントの砂糖の溶液を用ゐたり此の液を葉の組織内に一種のポンプ仕掛を以て注射し然る後にその葉を截斷したり又之を固むるには常に昇汞のアルコール溶液を用ゐ之を染むるにはヨード綠若くはフクシンのアンモニア溶液を使用したり、此の法に因りて褪色葉を研究するに從來人の唱道する所と大に異るものあり蓋從來の說に因れば褪色葉の白色たる部分には色素粒全く撲滅せられたるものなりとあり然るに氏の研究に因れば多くは判然たる顆粒ありてたゞ古き褪色葉の全く白色なる部分のみ之なしといふ扨此等の顆粒は常の葉綠粒とは大にその趣を異にし殊にその大小及び濃淡に就き異るあり或る色素粒は常の葉綠粒より僅に小なれども或るものはその大さの半に等しく或は半にも及ばざるものあり色に於ても綠色なるより全く無色なるに至る迄差等ありて一樣ならず又綠と云はんより寧黃色なるもの屢これあり右の外褪色葉の顆粒は葉綠粒と毫も異ることなく形はレンズ形若くは球形にして原形質と判然區劃あり試藥及び染料に對する反應は更に異ることなしこの外にこの顆粒は一種特異の變化を受くることありこれ從來學者の知らざりし所なり即ち顆粒内に一個乃至一個以上の虛胞を生じ顆粒をして恰も水にて膨脹したる葉綠粒のごとき觀を呈せしむ云々

○フリッツ、ミューレル (Fritz Müller)

フリッツ、ミューレル氏がビオロギー的研究に於て大功あることは人の能く知る所なり氏は今南米ブラジル國

にあり本年三月卅一日を以て將に滿七十の高齡に達せんとすこゝに於てドイツ國植物家アッシェルソン、ベーム、ブシェナウ氏以下總計廿六人發起人となり氏が學術を追慕するものゝ寫眞を聚め之を氏に贈るの期圖ありといふ我々學術界に遊ぶものはミユレール氏の高齡を賀し併せて氏の萬歲を祈るミユーレル氏萬歲！

○磁石草(Compass-Plant)

植物がその含む所の水分の蒸發を適度ならしむる爲の方法品々ありと雖も北米に產する Silphium laciniatum の如きはその方法の奇なるに因りて名ありこの植物はキク科に屬し北米ミシガン及びヰスコンシン邊より南はアラバマ及びテキサス邊に至る平原に產す其地の獵師は夙に其莖の下部より生ずる葉の一定の方向を取りて誤まらざるを知れり即ちその葉は常の如く水平ならずしてショウブの如く直立し其廣き兩面を東西即日出と日沒の方位に向けその狹き兩面を南北に向く植物は常にこの方位を取りて違ふをなし故に獵師の雨天に逢ふやこの植物の葉の方向を觀て以てその向ふ所を定むと云ふ故に土人之を Compass-Plant 即磁石草と稱す蓋斯く植物が一定の方法を取るは蒸發に關係あるをならんそれ日沒日出には大陽の熱度温和なればその廣き面を光線に觸るゝも害を受くるをなし然れども日中大陽の南にある頃その廣き面の光線に觸るゝをあればその葉の枯死する患あり故に南北の方位には狹き面を向けて廣き面を向けず狹き面なれば熱度如何に劇烈なればとて光線を受くるを遂に少きを以てその植物は害を受くるをなし造化の妙こゝに至て極まると云ふべし以上は磁石草は乾燥にして光線の當る所に生ずる時のをにして若し此の草が濕洳なる日影の地に生ずるとき此の現象を見ずといふ又以てその蒸發作用に關するを知るべし(以上四件　在京都　植物學會員某投)

○ユキワリ草ノ花

ア、キ、報

此節東京ニテ緣日ニ出ル植物中ユキワリ草（Anemone Hepatica）アリ葉ハ殆ントナク只花莖ノミヲ抽ク狀ヤヤ福壽草ニ似タリ其花ハ晝夜ニ於テ著シク開閉ノ度ヲ異ニスルヲ見ル晝間ハ花輪十分ニ開展スレ𪜈夜ニ入レバ閉合シテ殆ト蕾カト疑ハルヽ程ナリ此花ニ就テ外界ノ事情ニ因リ閉開スル度チ撿スレバ面白カラン歟

○研究ノ衝突

堀　正太郎

前號雜錄欄內ニ有尾菌ノ新種ト題シ予カ小石川植物園ニ採集セルぬるでノ寄生菌ハ新種ナルニ依リUromyces spiralisノ新學名チ下シタリ然ルニ曩日札幌同窓ノ學友宮部金吾氏ヨリ左ノ書翰ニ接ス其大意ニ曰ク

ヌルデに寄生するUromycesに付き其御記載相成候處該菌ハ先年上野公園八王子北海道札幌錢函等に於て採集致Uromyces levispiralis, Miyabe. MMs.の新名を附し拙著“Contribution to the Mycological Flora of Japan”と題する論文中へ掲載の積りに有之已に圖をも出來は致居候處貴君に先鞭を着けられ致方無御座甚た遺憾に奉存候云々

予ハ斯ノ如キ理由ノアルヲ以テ前號記載ノUromyces spiralisチ取リ消シ宮部氏ノ命名Uromyces levispiralisニ從ヒ以テ同窓ノ友誼此學ノ親友ニ對スルノ實チ擧ケント欲ス

○質問應答

●問　或ル隱花植物ヲ取リ其名稱學名ヲ知ラントセハ如何ナル書籍ニ依リテ研究ス可キヤ

早田文藏

答

堀正太郎

隱花植物ハ其區域廣大ニシテ羊齒、蘚苔、地衣、藻類、黴菌其數非常ニ多ク各專門ノ分類書アリテ「ラテン」、英、佛、獨語一々擧クルニ遑アラス而〆今野外ニアリテ一隱花植物ヲ採集シ直ニ之カ草名ヲ知ランヿ中々容易ノ業ニアラス設ヒ其人隱花植物ノ分類大家ニナルモ各專門ノ分類書ニ付カサル可カラス今隱花植物ノ一端ヲ窺フタル人ニシテ各分類書ニ付キテ名稱ヲ搜索スルヿ出來可カラサルノ業ナリ乞フ問者再考アレ

一書ニ據リテ全隱花植物ノ分類ヲ書キタル書物ハ Engler氏ノ Pflanzen Familien（獨逸書未完成）Leunis氏ノ Synopis der Botanik（獨逸書）ガ宜シカラン

●問

編者誌

早田文藏氏ヨリ命名ヲ依賴サレタル植物標品左ノ番號ニ從ヒ名稱ヲ揭ク

(1) べにしだ(Aspidium erythrosorum, Eat.

(2) Fegatella sp.?

(3) Jungermanuia?

(4) やぶくじやく(Asplenium Wichuræ, Mett.)

(5) Hypnum sp.

(6) Pogonatum sp.

(7) Atrichum sp?

(8) わらび(Pteris aquilina, L.)

(9) しゝがしら(Lomaria spicanta, Desv.)

(10) つめわらび(Asplenium nigripes, Bl.)

(11) みやまのこぎりしだ(Asplenium Textroi. Miq.}

(12) やつめらん又のきしのぶ(Polypodium lineare, Thunb.)

(13) 標品不完全

(14) くじやくしだ(Adiantum, pedatum, L.)ノ切片カ

(15) Synechoblastus nigrescens, Auzi.)

標品多分ハ不完全ニシテ多クノ羊齒ハ皆全葉ノ一半ヲ切リ取リタルモノ種名ヲ定ムルニ由ナシ地衣ノ標本ハ多クハApotheciaナクシテ種名ヲ定メ難シ之ヲ要スル種名ヲ定ムルニハ完全ナル標品潤澤ナラサレハ能ハス

●會員名倉闇一郎氏ヨリ命名ヲ依頼セラレタル植物標品番號ニ從ヒ左ニ名稱ヲ掲ケテ以テ仝氏ニ答フ　　編者誌

(10)Aspidium erythrosorum, D. C. Eat.べにしだ(標本不完全)
(11)Lycopodium serratum, Thunb.たうげしば
(12)Aspidium varium, Sw.いたちしだ
(13)A. falcatum, Sw.やぶそてつ
(14)A. sophoroides, Sw.ほしだ
(15)Vittaria lineata Sw.しゝらん
(16)Pteris serrata, L.f.ゐのもとさう

●問　　上州前橋　村上啓三

第一　白桐 Paulownia imperialis ハ有毒植物ナルカ此ノ木ノ下ニ生セル野菜類ハ生育甚タ惡シク又此ノ木ノ下ニアル桑葉ヲ摘ミテ蠶ニ飼ヘハ蠶ニ害アリト云フ又先年埼玉縣某町ノ小學校ニ視學官來リ遊歩場ノ周圍ニ此樹アルヲ見テ此木ハ毒氣ヲ吐ク故兒童ニ害アリ衛生上之ヲ除クベシト云ヘリト聞ク白桐ニハ果シテ右樣ノ性質アリヤ如何

第二　蘇鐵ハ殊ニ鐵ヲ好ミテ其枯レントスル物ニ鐵釘ノ類ヲ與フレハ能ク活スト聞ク果シテ實説ナル歟

答　　會員　澤田駒二郎

第一　白桐ハ有毒性ヲ有スルヤ否ハ精密ニ調査スルニアラザレバ之ヲ確言スルコト能ハズト雖𪜈該樹ノ下ニ生ズル蔬菜類ノ生育充分ナラザルハ有毒性ニ基因スルモノニアラズシテ點滴ノ甚シキト光線ノ直射充分ナラザル等ニ因ルモノナリ殊ニ栗樹ノ下ニハ蔬菜類ヲ栽培スルモ其生育充分ナラサルハ一證ニシテ普ネク人ノ知ル所ナリ又白桐樹下ニ產シタル桑葉ヲ以テ蠶兒ヲ飼養スレバ害アリトハ從來上野地方ニ拾テ傳稱スル所ナリ然レトモ此桑葉ヲ以テ蠶兒ヲ飼養スルモ害ナキノミナラズ仍ホ成繭ヲ獲ルハ船津傳次平氏ノ經驗ニ因テ明瞭ナリ但シ樹下ニ生ジタル桑樹ハ光線ノ射照、大氣ノ流通等宜シカラズ又肥糞ヲ施スモ之ヲ他樹ニ分取セラルヽガ爲メニ其葉ノ滋養分缺乏スルコトアリ故ニ往々良繭ヲ得ルコト能ハザルナリ又該樹ヨリ毒氣ヲ吐キ兒童ニ害アルコトハ無カルベシ總テ葉綠植物ハ同化ト排泄ノ作用ニ因リ毒氣ヲ吐出セシコトアルヲ聞カズ呼吸作用ノ成績体トシテ炭酸ヲ放出スルハ白桐ニ限ラズ凡百ノ植物皆ナ然リ故ニ余ハ白桐ニハ毒氣ヲ吐出スル性質ナキモノト思考ス

第二　蘇鐵ハ殊ニ鐵ヲ好ミテ其枯レントスルノ際鐵釘ヲ打付レバ枯死ヲ免ルヽト俗間常ニ傳稱スル所ナリト雖𪜈余ハ未ダ之ヲ經驗セシコトナシ然レトモ鐵ハ植物ノ生活ニ緊要ナルモノニシテ土地鐵分ヲ缺乏スレハ茲ニ栽植セシ植物ノ葉ハ漸次白黃色ヲ呈シ終ニ枯死セントス此際鐵ノ溶液ヲ施用スレハ直チニ綠色ヲ呈スト是レ鐵ハ葉綠粒ヲ形成スルニ必要ナルモノナルコト詳明ナリ此理由ヨリ考フレバ蘇鐵ニ鐵釘ヲ打付スルハ害ナクシテ益アルモノトス

○寄送書目

國本	自七號至八號	二冊	殖産協會（岡山）
大日本山林會報告	第百九號	一冊	大日本山林會（東京）
東京醫學會雜誌	自第六卷第一號至第三號	三冊	東京醫學會（東京）
東京氣象集誌	第十一年第一號	一冊	東京氣象學會（東京）
東京人類學會雜誌	第七十號	一冊	東京人類學會（東京）
北水協會	自第六十八號至第六十九號	二冊	北水協會（北海道）
動物學雜誌	自第三十九號至第四十號	二冊	東京動物學會（東京）
牧畜雜誌	自第七十二號至第七十四號	三冊	牧畜雜誌社（東京）
地學雜誌	自第三十七號至第三十八號	二冊	地學會（東京）
日本園藝會雜誌			日本園藝會（東京）
藥劑誌	自第三十三號至第三十四號	二冊	東京藥劑師會（東京）
藥業雜誌	第十三號	一冊	精々藥館（神戸）
日本藥業新誌	第二百卅八號	一冊	衛生社（東京）
日本蠶業雜誌	第四十五號	一冊	日本蠶業雜誌社（東京）
東洋學藝雜誌	第一百二十五號	一冊	東洋學藝社（東京）

The Journal of Botany, British and Foreign. no.349.

Agricultural Grasses of the United States.

Grasses of the Southwest.

Contributions From the National Herbarium, Vol. I, Nos. 1—4 ;Vol. II. Nos. 1.

Journal of Mycology Vol. V and VI, Vol. VII, No. 1.

Gardeners Chronicle, No. 265—Vol. XI.

Bulletin of Miscellaneous Information, Royal Garden, Kew. No. 61 and appendix I.

○東京植物學會錄事

左ノ諸氏ハ本會ノ隆盛ヲ翼賛シ寄附金ヲセラレタリ

金壹圓也	拓植千嘉衛君
金四圓也	矢田部良吉君
金參拾錢也	岡村金太郎君
金貳圓也	齋田功太郎君
金五圓也	松村任三君
金五拾錢也	松田定久君

○去二月中本會ニ入會者セラレシハ

松平齊君

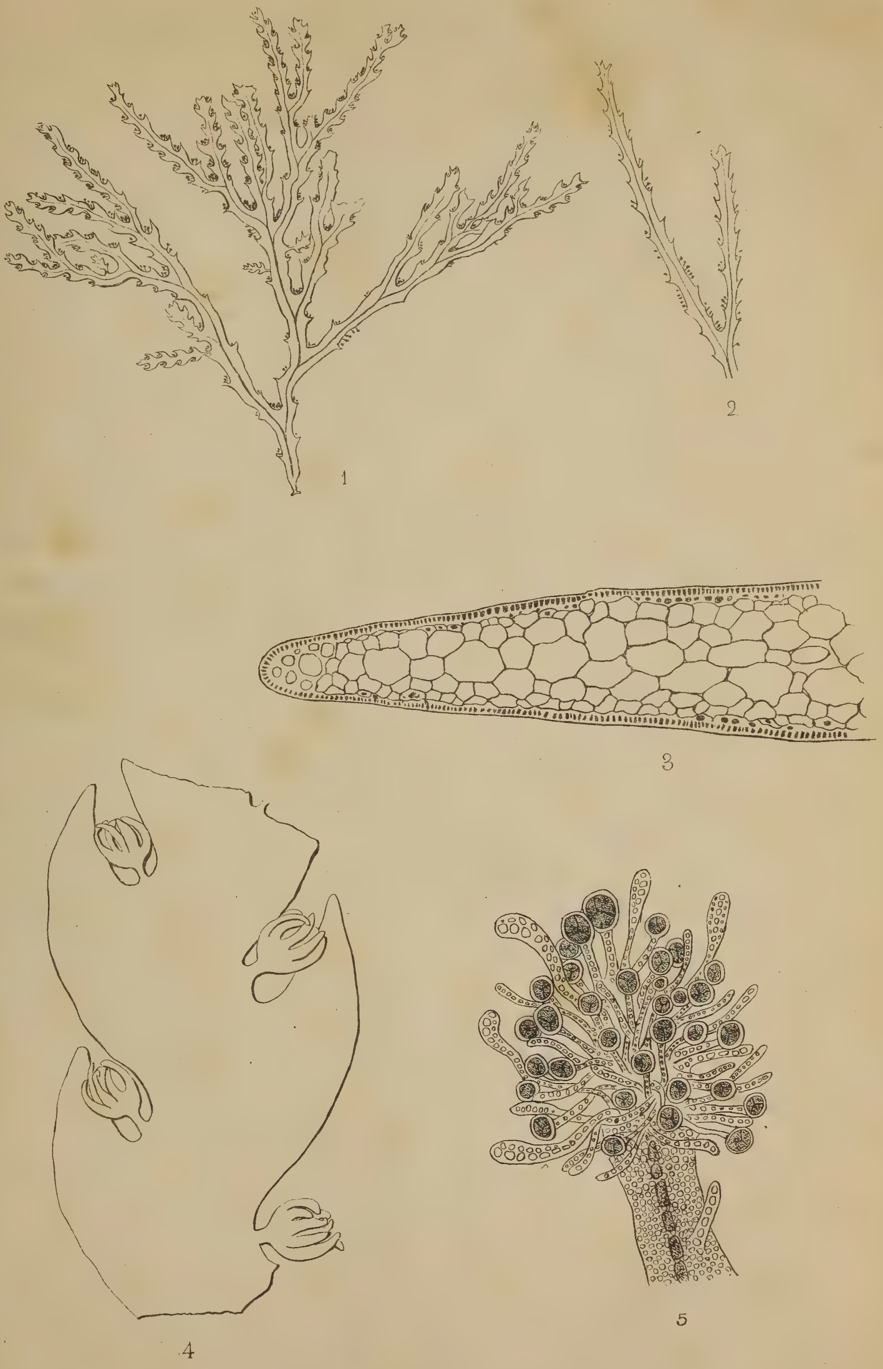
○二月廿七日第四土曜日午後第二時ヨリ本會月次例會ヲ本郷理科大學植物教室ニ於テ開會シ來會員二十名左ノ演舌アリタリ

公孫樹（いてう）ニ付テ

藤井健二郎君

公孫樹ノ自生地ハ支那ノ北部ナラン西洋諸國ニテハ地質時代ニアリテハ存生シタレドモ現今ハ自生ナシ枝ニ二種アリ一ハ普通ノ枝ニシテ一ハ距(spur)ト稱シ花ハ常ニ距ノ頂端ニ生ス雌雄ノ花蕾ハ各肉眼的ニ差異アリ公孫樹ニ一種奇妙ナル垂乳ト稱スルモノアリ是ハ樹ノ雌雄ニ關セス自由ノ生長ヲ妨ケラレタルモノ凡ソ三百年以上ノ老樹ニ生ス此乳ト稱スルモノハ氣根ナルカ將タ枝ノ變形ナルカ未タ知ルニ由ナシ彼植物雜誌第五十六號ニ掲載セル甲州産ノ公孫樹ノ奇果ニ論及シテ曰ク公孫樹ハ地質時代的ノ植物發生史及ヒ公孫樹ノ葉ハAdiantumナル羊齒ノ葉ニ似ルヲ以テSalisberia adiantifoliaノ舊名アルヿ又オーストラリア産ノPhyllocladus（裸子植物）ノ果實ハ葉上ニ生スルヿ羊齒ノ胞子群ハ葉面ニ生スルヿ等ノ理由ニ基キ種族進化上ヨリ立論シテ甲州公孫樹ノ奇果ハ結局公孫樹カ其祖先ノ狀態ヲ遇然ニ顯出セルモノナリト論セリ

第四版 **PL. IV.**



PTILOTA DENTATA, sp. nov.

植物學雜誌第六十三號附錄（明治廿五年五月九日印刷 仝十日出版）

Our office and our printer's shop were burnt down on the 10th April by a great fire in Jimbō street, Kanda; and the plate No. 4. together with the eight pages containing miscellaneous notes, queries, proceedings of the Society, and table of the contents in English, &c. were entirely lost. We must therefore ask our readers' pardon that we could not publish our magazine at the usual day of the month. The lost plate and pages will be found in the present number.

編輯兼發行人 東京府平民 井上蘇吉
東京神田小川町五十壹番地
印刷者 滋賀縣士族 熊田宜遜
東京神田區松下町十三番地
發行所 東京植物學會編輯所
東京神田區裏神保町一番地

植物學雜誌第六十二號附錄 （明治廿五年四月十日發兌）

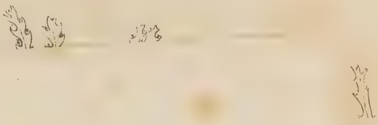
去ル十日本雜誌發兌ノ當日黎明火ヲ神田區猿樂町ニ失シ本學會編緝所發行所ナル敬業社ハ瞬時ニシテ類燒ノ災ニ罹リ西北ノ烈風猛威忽チ松下町ナル本學會雜誌印刷所ナル熊田活版所ヲ類燒セシメタリ此災害ニ依リテ本紙第四版圖並ニ第百七十七「ペーシ」(花ノ色香ノ後半)ヨリ雜錄。質問。應答。學會錄事等凡ソ八「ペーシス」並ニ二三ノ廣告英文目次ノ印刷セルモノ盡ク灰燼トナリ爲ニ定期ノ發刊日ヲ誤リタルメタルハ深ク讀者ニ謝スル處ナリ次號ニ於テハ這度燒失ノ原稿ハ無論登錄ス可ク又定期ノ刊行日ヲ誤ラサル可シ讀者諒察ヲ乞フ

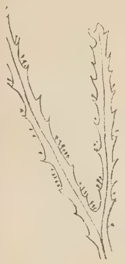
明治廿五年四月九日印刷
明治廿五年四月十日出版

東京植物學會

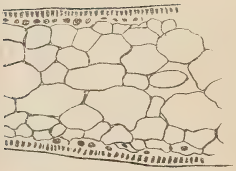
編輯兼發行者　東京府平民　井上蘇吉
東京神田區小川町一番地

印刷者　滋賀縣士族　熊田宜遜
東京神田區松下町十三番地

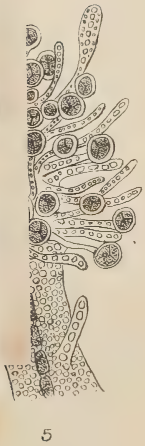




2



3



5

PTILOTA DENTATA, SP. NOV.

植物學雜誌第六卷第六十二號 (明治二十五年四月十日)

THE BOTANICAL MAGAZINE.

[Vol. VI. April 10, 1892. No. 62.]

Ptilota dentata sp. nov.—Pl. IV.

New Jap. Name Benihiba.

by K. Okamura.

Frond compressed, two-edged, midribbed, decomposito-pinnate; branches distichous, alternate; pinnules alternate, deltoid-acuminate, incurved or erecto-pa. Cystocarps single in the axils of pinnules, or several in a row along the margin of branches, short-pedunculate, involucrate. Tetraspores tripartite, each with a confervoid pedicel, mixed with clavate multicellular filaments, collected in a dense sorus on the apex of short peduncles produced from similar positions as cystocarps.—Fruit in August.

This alga is rather common along our Pacific coast. The specimens I have examined are from Iwaki, Hitachi, Bōshū, Tōtōmi, &c.

Ptilota dentata sp. nov.

Ptilota dentata sp. nov.

The root is a small disc. The frond is cespitose, compressed, 4-10 cm. high, 2-3 mm. broad, compressed, and has a more or less distinct immersed midrib which becomes gradually fainter upwards. The branches are erecto-patent with rounded axils; the proliferous branchlets, which are always narrowed at the base, issue from the axils of pinnules. The pinnules are broad at the base, pointed at the apex, and about 1 mm. long. They are incurved when young, but erecto-patent or somewhat recurved when old. They have on excentric monosiphonous axis, and are corticated to the apex. The involucre of the cystocarp consists of 7 or 8 ramuli which are cylindrical and tapering towards the apex. The spores are mostly in two or sometimes three roundish masses surrounded by a colorless membrane. The color of the frond is deep-red or brownish-red, turning dark-red on drying. Its substance is cartilaginous, and it adheres imperfectly to paper except the younger soft portion.

Pl. IV.:—Fig. 1. Mature frond with cystocarps (nat. siz.); Fig. 2. Portion of frond with tetrasporic sori. Fig. 3. Half of the cross-section of frond. (×38). Fig. 4. Portion of frond with single cystocarp in the axiles of pinnules. (mag.) Fig. 5. Sorus of tetraspores.

* * *

べにひば（新稱）Ptilota dentata sp. nov. 第四版　いぎす科 (Ceramiaceae)

理學士　岡村金太郎

体ハ扁壓ニシテ、兩縁薄ク、不規則ニ複羽狀ニ分岐ス、枝ハ兩縁ヨリ互生ス、小羽片ハ互生ニシテ、基部廣ク、上端尖リ、内方ニ灣曲シ、或ハ廣ク離開ス、嚢果ハ小羽片ノ腋ニ單一、若クハ枝ノ縁邊ニ沿テ數多列生シ、短柄ヲ具シ、苞枝ヲ以テ圍マル、　四分胞子ハ三角錐樣ニ分裂シ、各一列ノ細胞ヨリ成レル小柄上ニ存シ、往々棍棒狀ナル多細胞ノ糸ト混在シ、嚢果ト同一ノ位置ヨリ生ズル短枝ノ上端ニ密集ス、八月頃實ヲ結ブ、

此種ハ太平洋沿岸中普ク產スル所ニシテ、余ノ研究シタル標品ハ磐城、常陸、房州、遠州等ヨリ得タルモノナリ

根ハ小吸盤狀ヲナス、体ハ扁壓ニソテ、一所ヨリ發生シ、高サ四－十「セ、メ」、巾二－三「ミ、メ」ニシテ、多少明ナル中肋ヲ存シ、上部ニ至ルニ從テ漸ク細微トナル、枝ハ廣ク離開シ、或ハ斜ニ上向シ、腋圓シ、又所々小羽片ノ腋ヨリ副枝ヲ生ジ、基部常ニ細ジ、小羽片ハ基部廣クシテ、上端尖リ、長サ凡ソ一「ミ、メ」ニシテ、幼キ𪜈ハ内方ニ灣曲シ、老フルニ至テ斜ニ上向シ、或ハ稍下方ニ灣曲ス、而シテ稍偏倚リタル一列ノ細胞ヨリ成レル軸ヲ有シ、上端ニ至ルマデ皮細胞ヲ存ス、嚢果ノ苞枝ハ七乃至八個ニシテ圓柱狀ヲシテ漸々上端ニ細シ、胞子ハ概ネ二個時トシテハ三個ノ圓塊ヲナシ、無色ノ粘質ナル膜ヲ以テ包圍セラル、色ハ紅色又ハ紅褐色ニシテ、乾燥スル𪜈ハ暗紅色トナル、質ハ軟骨質ニシテ幼キ柔軟ナル部分ノ他ハ能ク紙ニ附着セズ

圖解　第一圖、嚢果ヲ有スル体ノ全形、第二圖　四分胞子ヲ有スル枝ノ一部（自然大）第三圖　体ノ横截面ノ中半部ヲ示ス（三十八倍）第四圖　枝ノ一部ニシテ小羽片ノ腋ニ一個ノ嚢果ヲ有スルヲ示ス（廓大圖）第五圖　四分胞子ノ小枝上ニ群集スル狀ヲ示ス（九十五倍）

農業植物論

農學士理學士　堀　正太郎

第一章

始原農業　Primitive agriculture.

農業ノ目的ハ人間衣食ニ必需ナル處ノ植物幷ニ動物ノ生産ニアリ而シテ植物ノ生産ハ其目的中最モ大ナルモノトナス天然ニアリテハ數千萬種ノ植物地球表面ニ生育シ吾人ニ衣食ヲ供給ス吾人ハ野ニ山ニ只採集ノ勞ニ依リテ纎緯以テ衣ヲ編織シ寒暑冷熱乾濕ヲ防クニ足リ澱粉以テ吾人ノ饑ヲ凌クニ足ル可シ近ク引例以テ是カ證明ヲナサンニ我國北海道土人「アイヌ」ハ楡をひやうノ樹皮ヲ剝離シテ其纎緯以テ彼レカ「アツシ」ヲ製シひしノ結實うばゆりノ宿根彼カ饉食ナリ即チ彼輩ハ天然ノ植物ヲ採集シ以テ衣食ニ供ス然レ𪜈文化開明人口ノ增加ト共ニ野生ノ植物ハ以テ吾人ノ需用ニ不足欠乏ヲ告ケ吾人ノ必需ト吾人ノ嗜欲ニ應スル爲ニ一種ノ術ヲ以テ植物ノ種類ヲ繁殖セシメ又ハ多量ノ産出ヲ希圖計畫セサル可カラス是ニ至リテ初メテ吾人ハ即チ農業ノ起源ヲ見ルモノナリ

人常ニ謂フ農業ハ天人ノ敎フル處ナリト又謂フ部落ノ一偉人卒先シテ是ヲ傳導シタルモノナリト即チ支那農業ノ神農ニ於ケル日本農業ノ大國主命ニ依リテ發達シタリトナスモノ是レナリ然レ𪜈予ハ信ス今日植物ヲ栽

培シ家畜ヲ飼養スルモノ之ヲ天人ノ敎ニ基スルハ抑モ無稽ノ論ノミ而ソ其部落ノ酋長又ハ人傑ノ初メテ發明シタル如キモ亦之ヲ解スルニ苦シマスンハ得ス然レ圧彼ノ輩カ原始農業（プリミクブ、アグリカルテュア）ノ進歩改良ヲ計畫シ自身ノ經驗ヲ部下ニ敎ヘタルヿアルハ疑ヒナシ故ニ今日見ル處ノ發達改良進歩シタル處ノ農業ナルモノハ必スヤ其初メ今日見ル處ノ蠻民ノ採集業ニ初リタルモノナル可シ

蠻民種族ハ野生植物ノ採集野獸ノ獵殺河海沼湖ニ鱗介ノ漁獲則チ天然ノ生物ヲ採集スル是レ彼輩ノ職業ナリ彼ノ食彼ノ衣彼ノ器具皆其材料ハ自然ニ需ムルモノナリ是レ實ニ今日發達セル處ノ凡テノ職業（インダストリー）ノ始源ト云フ可シ農業モ則チ其一ニシテ彼蠻族カ日常採集シ來リタル處ノ果實、種子、又ハ根部ノ如キモノ彼ノ茅屋草廬ノ四圍ニ遺棄シタル後再ヒ發芽シテ生シタル處ノ植物其結果其種子其根部又ハ莖葉カ彼輩カ嚮ニ野外ニ採集シタル處ノモノト同一ナルヿヲ見撃シタル時ハ則チ蠻族カ初メテ野生植物ノ種子又ハ根部ヲ採集シテ土中ニ埋メハ他日同一ノ植物發生スルヿヲ知得スルノ時期ナリトス其他種々ノ方法ニ依リテ種子ヨリ同一樣ノ植物生シ宿根ノ發芽ハ毎歲同一樣ノ植物ヲ見ルヿヲ得知スルナラン然レ圧彼輩ハ此ノ知識ヲ以テ實際實地ニ應用スルノ時期ハ必ス或ル年處ノ經過ノ後ナラサル可カラス則チ蠻族居住卑近ノ山野ニ需用ノ植物欠乏ノ時即チ是レナリ遊牧ノ民族ニアリテハ農業ノ發達最モ遲シト雖圧定住土着ノ人種ニアリテハ勢ヒ需用植物ノ繁殖策ヲ講セサル可カラス抑モ農業ノ發達ハ種々ノ源因ニ左右セラル、モノニソ若シ彼ノ氣候炎熱ナル地方ノ如キ椰子、濱郎子、date palm, banana, bread fruit 即チ棕櫚科植物ノ繁茂シ天然ニアリテ衣食ノ料潤澤野ニ鳥獸河海ニ魚類ノ漁獲アリテ人口ノ數此等供給ノ賜ニ餘裕アルノ地方ニアリテハ農業發達シ能ハサルナリ否農業ノ必用ヲ感セサルナリ土地廣大沃野千里人口稀薄水草ヲ逐フテ轉移シ漁獲盡シテ又居ヲ移轉スルノ蠻族ニアリテハ

農業起ラサルナリ奪掠爭闘是レ事トシ殺戮絶ユルヿナキ蠻族ニアリテハ農業發達シ能ハサルナリ故ニ農業ハ氣候温和ニシテ平和ノ民族居住スルノ地ニ初メテ發達シタルヤ疑ヒナシ斯ノ如キ原因斯ノ如キ事情ニ制セラレテ今日猶世界ニ或地方ハ今猶遊牧民族ノ棲息地タリ之ニ反シテ或地方ハ數千年前ヨリ既ニ栽草牧畜ノ業起リテ農業ノ民族棲居スルヲ見ル自然力ノ人智ニ影響スル亦大ナリト謂フ可シ

既ニ述フル如ク農業植物ノ栽培ハ其初メ蠻族ノ野生有用植物ノ種子宿根等ノ彼輩カ住居ノ四邊ニ遺棄シタルモノヨリ發芽生育シタルヨリ初メテ知得シタル處ノ智識ヲ實地ニ應用スルモノトセハ各農業植物ハ必ス其始原地ナカル可カラス而ソ一旦野生有用植物ノ栽培ニ着手スルヤ其收獲僅少其勞力ニ報ヒサルカ又ハ近隣ノ民族栽培スル處ノ植物遙カニ自己ノモノニ優等ナレハ之カ栽培ヲ放棄シテ彼ノ種子ヲ移植スルヤ必然ナリ故ニ彼ノ小麥、玉蜀、黍。煙草等ノ有史前ニ已ニ世界各地ニ播布セル所以ノモノ此ノ理ニ外ナラス

彼ノ部落ノ偉人カ鋭意其民族ノ農業發達ヲ企圖シタルモノアル可シトハ全ク所以ナキニアラス彼ハ智識ニ於テ他同輩ニ優レタリ彼ハ種々ノ經驗ニ依リテ以テ耕作ノ方法ヲ發見シタルモノアル可シ他地方ニ遊歷シテ彼ノ良種ヲ得テ是ヲ自己ノ落部ニ分配シタルヿアル可シ彼ノ威力ハ以テ部下ニ耕作ヲ命令シタルヿアル可シ祭天祠神ニ栽培シタル一種ノ植物ヲ供スルヿノ風習ヲ創設シタルヿアル可シ故ニ蠻族中ノ酋長又ハ一偉人ハ農業ノ發達ニハ至大ノ關係ヲ有シタルヤ疑ヒナシ

農業植物　Agricultnral plants.

農業植物トハ一種特異ノ植物ニアラサルナリ皆其初メ山野ニ自生シタル處ノモノ或ハ現ニ自生スル處ノ植物ニシテ種々ノ原因ニ基ツキ植物ハ「第一」其生育機關(vegetative organ)ノ何タルヲ問ハス其形狀(大根蕪菁ノ

根ニ於ケルキャベーヂ(Cabbge)ノ葉ニ於ケル如ク)内容物(甘蔗ノ砂糖分ニ於ケル如ク)等ヲ變ス「第二」種子ノ數ハ生育機關ノ増大ト反比例ヲナス即チ多量ノ肥料ヲ施セハ莖葉ノ増大ヲ來シ反テ種子ノ數ヲ減ス換言スレハ生殖作用ニ影響ス「第三」果實ハ種子ノ周邊ヲ圍繞スル處ノ花ノ機關ノ變化ニ依リテ其大サ又ハ形狀ヲ變ス「第四」植物生育ノ狀態ヲ變更ス即チ木質的或ハ多汁的ノ植物トナリ或ハ一年生二年生又ハ重年生植物トナルモノナリ故ヲ以テ有用野生植物ハ以上ノ變化ヲ經由シテ初メテ今日ノ農業植物トナリタルモノナリ夫レ始原農業ニアリテハ人、農業植物變種(variety)ノ撰擇ヨリモ種類(species)ノ撰擇行ハレタルヿ疑フ可カラス蠻族若シ大麥ヲ栽培シタルモノト假定セヨ彼一タビ小麥ノ利ヲ見レハ直ニ彼ヲ捨テ是ヲ取ル可シ馬鈴薯又ハ玉蜀黍ノ利ヲ見タランニハ又然ル可シ然レ𪜈彼輩ハ決シテ馬鈴薯ノレツドロースヲ捨テスノーフレーキヲ撰擇セサル可ク小麥ノグレートチャンピオンヲ捨テ、ゴールンデンメロンヲ取ラサル可シ如何トナレハ始原農業ノ時期ニアリテハ理論上栽培變種(cultivated variety)アラサレバナリ今日見ル處ノ種々ノ栽培變種ハ數千百年間農家カ栽培ニ依リテ生出シタルモノナレハナリ日本ニアリテ稻ニハ少クモ三百有餘ノ變種アリ然レ𪜈其初メハ恐ラクハ只一種ノ稻ナリシノミ

農業植物ハ自然野生ノ有用植物ヲ栽培シテ益々其功用ヲ増進シタルモノナリ故ニ今日栽培ノ葡萄ヲ以テ之ヲ野生葡萄Vitis veniferaニ比スレハ其差豈些少ナランヤ而メ人多クハ如何シテ野生葡萄ノ今日食用或ハ葡萄酒釀造用ニ栽培スル處ノ者ニ變化シタルヤヲ疑フ然レ𪜈一タヒ栽培植物ヲ放任シテ毫モ肥料ヲ與ヘス培養ヲナサヽレバ其形狀殆ント野生ニ類似ス而メ又田畝ニ栽培スル處ノ植物ノ散逸シテ森林又ハ原野ニ生育スルモノニ至リテハ原來野生植物ナルヤ或ハ栽培種ノ野生トナリタルヤヲ識別シ難キニ至ル彼ノ蜜柑、梨、林檎等ノ秧

ヨリ生長シタルモノハ其果實食フ可カラス故ニ接木ノ法アリ斯ノ如ク農業植物ハ野生植物ニ復歸スルノ性質ヲ有スルモノナリ

次回ニ於テハ農業植物ノ變化及ヒ之カ原因ヲ論述ス可シ　（未完）

日本植物新名

矢田部良吉

New Names of Japanese Plants.

(*Continued from p.* 135.)

Ryōkichi Yatabe, Sc. D.

Geraniaceæ.　風露草科

61. Geranium dahuricum, DC.

Nov. nom. jap. Ezo-fūro.

北海道ニ生ズ。えぞふうろトセリ。

62. Oxalis violacea, L.

Nov. nom. jap. Kikyō-kotobami.

北海道ニ生ズ。きゝやうかたばみトセリ。

Rutaceæ　芸香科

63. Evodia glauca, Miq.

Nov. nom. jap. Urajiro-goshuyu.

四國九州ニ生ズ。うらじろごしゆゆトセリ。

64. Evodia triphylla, DC.

Nov. nom. jap. Mitsuba-goshuyu.

內地ニ產スト云フ。恐クハ南方ニ限ルナラン。余ハ琉球產ノ標品ヲ見タレドモ、未ダ內地產ノモノヲ見ズ。みつばごしゆゆトセリ。琉球方言ハ田代氏ノ說ニ依レバあはだんナリ。

65. Phellodendron japonicum Maxim.

Nov. nom. jap. Ōba-no-kiwada.

富士山ニ生ズ。おほばのきはだトセリ。

66. Skimmia japonica, Thunb., var. obovata, Yatabe.

Nom. jap. Mokutachibana.

Leaves oblong-obovate, usually rounded at the base. This variety attains a laryer size than the type.

67. Skimmia japonica, Thunb., var. rugosa, Yatabe.

Nom. jap. Uchidai-miyamashikimi.

Leaves with veins much depressed on the upper and very prominent on the under surface.

余ノ撿シタルうちだしみやましきみノ標品ハ豆州大室山麓幷ニ房州淸澄山ノ產ナリ。

Ilicineæ 冬青科

68. Ilex crenata, Thunb., var. nummularia, Yatabe.

(= I. nummularia, Franch. et Sav.)

Nom. jap. Kikkō-tsuge.

庭園ニ栽培ス。きつかうつげ。

69. Ilex Buergeri, Miq.

Nov. nom. jap. Hakusan-mochi.

加州白山ニ生ズ。はくさんもちトセリ。

70. Ilex subpuberula, Miq.

Nov. nom. jap. Hizen-mochi.

肥前ニ生ズ。ひぜんもちトセリ。

71. Ilex serrata, Thunb.

Nov. nom. jap. Inu-umemodoki.

本島、四國、九州ニ生ズ。いぬうめもどきトセリ。

72. Ilex Sieboldi, Miq., var. subtilis, Yatabe.

(=J. subtilis, Miq.)

Nom. jap. Koshōbai.

余未ダこしやうばいノ自生品ヲ見ズ。

Celastrineæ. 衛矛科

73. Euonymus nipponicus, Maxim.

Nov. jap. Nikkō-mayumi.

日光山ノ森林中ニ生ズ。稍にしきぎノ如クナレドモ、花五數ヲ以テナリ、花梗及ビ小花梗ハ伸長シテ軟弱、枝ニ翅ナシ。につくわうまゆみトセリ。

74. Celastrus Kiusianus, Franch. et Sav.

Nov. nom. jap. Hiuga-tsurumemodoki.

日向ニ生ズ。ひうがつるうめもどきトセリ。

75. Celastrus articulatus, Thunb., var. punctata, Maxim.

Nov. nom. jap. Ko-tsurumemodoki.

本島及ビ九州ニ生ズ。こつるうめもどきトセリ。

（未完）

有用植物小記

會員 大沼宏平

ツチトリモチ、ヤマデラバウズ 土佐 シヨウジヨウダケ 仝上 ツチヤマモチ 日向 ツチモチ (Balanophora dioica, R. Br.?) 土州幡多山中、日州高千穗并ニ霧島山等ノ深林ニ産ス細葉冬青（モチノキ）、地錦（ツタ）及山礬（ハヒノキ）等ノ根ニ寄生ス特生アリ叢生アリ堅實ニシテ蹈ドモ破レズ頭色赤〆朱ノ如ク粒立テ蛇苺（ヘビイチゴ）ノ實ニ似タリ莖本ニ土筆（ツクシ）ノ袴ノ如キモノアリテ鱗甲狀ノ如シ根ノ形色山藥ニ似タリ肌理薑（シヤウガ）ノ如ニシテ堅シ根ニ粘バリ多キ故土人根ヲ水ニ浸シ搗キテ黐膠（トリモチ）ニ製ス其色黑シ叉此植物ヲ土佐高知ノ市上ニ持來リ賣ルアリ是レ赤朱色美麗愛スベキニヨル之ヲ盆栽シテ數

日間生活スベシ老ルニ從ヒ暗褐色トナリ其美觀ヲ失ス又ジヤワ產(B. elongata, Bl., B. globosa, Bl., B. alutacea, Bl. 及ビ B. maxima, Bl.)ヨリ該島ノ土人一種ノ蠟ヲ壓搾シテトリ寺院ノ燈用ニ供スル蠟燭ヲ製スト云フ又同科ニ屬スル新（ニー）グラナダ產ノ(Langsdorffia hygaea, Hook.)ヨリモ蠟ヲトリ寺院用ノ蠟燭ヲ作ル此蠟燭ヲSiejosト云フ

支那ニテ紅皮綠柴(Rhamnus utilis, Decaisne.)及ビ白皮綠柴(R. chlorophorus, Decaisne)ヨリ甚ダ美ナル綠色ノ染料ヲ製ス之ヲ「ローカヲ」ト稱シ專ラ之ヲ以テ上等官吏ノ綠色ノ官服ヲ染ムルト云フ

ヤブデマリ、ヘミノキ、ヤマデマリ、ゴチヅ、ウシノヒタヒ蝴蝶戲珠花(Viburnum tomentosum, Th.)丹波ノ土人コノ木ヲ以テ牛ノ鼻木ヲ製ス又杖ニモ作ル

ヒマハリ、ニチリンサウ、ヒグルマ向日葵、丈菊(Helianthus annus, L.)英人ノ說ニ印度ノ西北ノ地ニ之ヲ植ウルヿ多ク〆土人ノ言ニ此草ハ濕地中ヨリ發スル瘴氣ヲ噏收シ瘧疾疫病ノ症ヲ免カレシムト云又此草ニ五益アリト云其種子ハ六畜ニ喰ハシムベシ又油ヲ搾ルベシ此油ハ略々阿利襪（オレイフ）油ニ同ジ一畝每ニ子五十斗ヲ得ベク每斗ツノ油一升ヲ得ベシ(此油ヲ近來支那譯ニ葵子油トアリ)是其一也」其子ノ仁ヲ搗キ碎ケハ漿汁ヲ出シ膏油ノ如シ之ヲ肌膚ニ擦リ用フレバ滑潤ナラシムベシ是其二也」又西洋諸地ニ於テ恒ニ此仁ヲ以テ煮テ糊トナシ孩童ニ之ヲ食ハシムル者アリ能ク長大ニ育ツベシト是其三也」米國ノ土人此仁ヲ研磨シ饅（パン）トナシ食フ是其四也」此葉ハ牛馬羊諸畜ニ喰ハシムベシ其梗ハ薪ニ充ツベシソノ燒タル灰ハ水ニ淹シ濾過シタノ渣滓ニハ又水ヲ加ヘ之ヲ熬乾セシムレハ鹼ヲ得テ肥皂ノ用トナスベシ是其五也」又洋說ニ其仁味佳ニシテ禽類ヲ飼フニ其嗜ミテ之ヲ啄ムト云又此仁ヲ炒レバ架非（コーヒー）ノ香アリテ佳味ノ飲料ヲ得ベシト云ヘリ又花鏡ニハ向日葵可ニ炒

食一ト又植物名實圖考ニモ其子可ニ炒食一微香シ多食ヘハ頭暈ス滇黔與ニ南瓜子一同售ニ於市一トアリ」又米國「ポトマツク河岸ノ濕地幷ニ和蘭ノ「シエルト」海邊ニ於テ近來向日葵ヲ栽植シテヨリ泥沼熱（マラリヤチツ）ノ傳染病ハ殆ンド跡ヲ斷ニ至レリト云向日葵ノ効能ハ成長速ニシテ盛ナルガ爲ニ濕地ノ毒氣ヲ吸取リ有益ナル酸素ヲ吐出スルヿ大ナル故ナリト云リ又向日葵ニハ解熱ノ効アリ露國ニテハ汎ク之ヲ用ルヨシ其用法ハ向日葵ノ莖及ビ花一分ニ（アルコール）五分ヲ加ヘテ浸シ十一歳迄ノ小兒ニハ一日三回毎回十滴乃至二十五滴ヲ服用セシムルヲ量トス此丁幾ハ其味ヒ良キヲ以テ特ニ小兒ニ應用スルニ適セリト云フ又向日葵ノ若キ柔軟ナル枝及肉狀ノ花郡ヲ煮テ食ス然𪜈味佳ナラズト云又南米巴西（ブラジール）産キクイモ（Helianthus tuberosus, L.）ノ根（即塊莖）ハ煮食フベシ味稍馬鈴（ジヤガタラ）薯（イモ）ニ似タリ然𪜈歐洲ニテ專ラ家畜ヲ飼フト云此根ニ地林檎及地梨子等ノ名アリ或ハ火酒モ製スベシト云フ

イソツヽジ、エゾシヤクナゲ、ニツケイサウ、ハシポ蝦夷（Ledum palustre, L.）蝦夷土人ハ此ヲ煎シテ風藥ニ呑ムト云フ又此葉及ヒ枝ハ多量ノ（タンニン）ヲ含有シ麻醉毒アリ故ニ歐洲ニテ屢之ヲ以テ麥酒（ビール）ヲ僞造スル者アリ又歐洲北方ノ諸洲ニ於テ此ヲ麻醉劑ニ供スト云

ヤマモヽ、楊梅（Myrica rubra, S. Z.）ズミ（楊楊皮ナリ）トヤシヤブシヲ煎シ明礬ヲ加ヘ紙ニヌレバ淡褐色トナル今賣買ノ唐本表紙是ナリ又阿州ニテ皮ヲ煎シテ赤茶色ヲ染ム果實ハ食フベシ紀州若山ニ白實ノモノアリ方言シロモヽト云阿州ニモアリ方言シロモヽ又ダンゴモヽ𪜈云フ漢名水精楊梅又エゾヤマモヽ（M. Gale, L.）北海道函館、仝苫小牧、北米、北歐、及ビ北西歐等ノ沼地ニ産ス此木ニ最烈ノ藥味ノ如キ麻醉性ノ香アリ故ニ之ヲ衣服簞笥中ニ入レ置ケバ蠹魚（シミ）敢テ近寄ラスト云フ又此ノ枝及ヒ葉ヲ煎ジ膏トナシホウ（虫名）ニ刺サレタル時ニ用ユト云フ又北米合衆國ノ沼地ニ自生スル（M. cerifera, L.）ノ果實ヲ煮テ佳香アル綠色ノ蠟ヲ采リ蠟燭

トナス又北米人ハ之ヨリ藥用ノ膏藥ヲモ製ス又根ハ齒痛ニ用テ効アリ今世ニ於テ又此ヲ吐劑及ビ下劑トナス」又(M. carolinensis, L.)此ヨリモ蠟ヲトル又アフリカ喜望峯產(M. quercifolia, L. 及ビ M. codrifolia, L.)ノ實及ビ枝ヲ煎シテ綠色ノ蠟ヲトリ食用ニ供ス其味稍乾酪ニ似タリ」又チープル產ノ(M. sapida, Wall.)果實ハ食フベシ味美ナリト云

シヤクジヤウサウ(Hypopithys multiflora, Scop.)北歐ノ農夫之ヲ用テ羊牛ノ咳喇ノ諸病ノ藥トナス

センニチギク、オランダセンニチ、セリヤバン、タウハクカ 花戶 (Spilanthes oleracea, Jacq.)歐州ニテ此草ノ生汁ヲ酒精ニ和シ丁幾トナシ齒痛ニ用テ効アリト云

タビラコ、カワラケナ、キウリナ、キウリサウ 薩州 附地菜 (Eritrichium pedunculare, A. DC.)(八日七種菜中ノ「ホトケノザ」是ナリ) 萊菔（ダイコン）ヲ瓜揉ミノ如クニシテ此ノ草ノ生汁ヲ加レバ胡瓜（キウリ）ノ香アリ薩人常ニ之ヲ食フ又歐州ニテモ同科ノルリチサ (Borago officinalis ,L.) ノ嫩葉ヲトリ酢ト油トヲ是ニ和シ萵苣（チシヤ）ト共ニ生食ス其味胡瓜（キウリ）ノ如シ故ニコレニモ(Gurkenkraut)キウリサウノ名アリ此草ハ南歐ニ自生ス

ナニハヅ、エトハムシ 蝦夷 (Daphne jesoensis, Mx.)函館札幌等ノ林中ニ多ク自生ス元日草ト共ニ黃花ヲ開ク花ニ香氣アリ此ノ木ノ內皮ヨリ紙ヲ製ス雁皮紙ニ異ナラズ

クルマバサウ(Asperula odorata, L.) 此草ニ强キ香氣アルヲ以テ獨乙人ハ一種ノ酒ヲ造ル之ヲ五月酒ト云フ

ハリブキ、クマダラ 野州 ギヤウジヤブキ 吉野 ホトコ、酒中花樹 花戶 (Fatsia horrida, Sm.)此木ノ隨片ヲ以テ東京市上ニ賣ル所ノ酒中花ヲ製スルモノ是ナリ

ヲカノリ(Malva crispa, L.)此ノ生菜ヲトリ焙リテ末トナシ食用ニ供シ乾苔（アヲノリ）ニ代用ス故ニヲカノリト名アリ

シナノキ(Tilia cordata, Mill. var. japonica, Miq.)此ノ樹皮ヲ用テ布ヲ織ルヲ「マダヌ」（南部）索ヲ綯ヒタルヲ「マダナハ」（南部）又建子縄陸中閉伊郡安家村ト云フ相州ノ山民ハ綌ヲ製ス之ヲ「カンサウ」ト云フ

カンボク雪珠(Viburnum Opulus, L.)歐州ニテ堅キ材ナルヲ以テ種々ノ小細工ニ用ユ本邦ニテハ楊枝ヲ製ス又赤色ノ果實ハ食スベカラズ然𪜈吐劑トナスベシ又シベリアニ於テハ此ノ果實ヨリ酒ヲ造ルト云

キヅタ百脚蜈蚣(Hedera Helix, L.)昔時ハ此ノ幹ニ切レ目ヲ付ケ脂膠（ヤニ）ヲトリ藥用ニ供セシト云フ果實ハ人間ニ害アリト云フ

ムツバアカネ(Rubia tinctorum, L.)根ハ紅色ノ染料ニ供ス子ハ珈琲ニ代用スベシ又昔ハ此植物ヲ骨髓ノ病ニ用ヒシト云此ヲ人間及ビ動物ガ久シク服用スレバ骨、尿、乳、汗、津唾等ヲ皆紅色ニ染ムルノ性質有リト云フ又此ノ七種ノ(アカネ茜草(R. cordifolia, L.),R. peregrina, L., R. lucida, L., R. chilensis, Mol. 南米チリーニ産ス R. hypocarpica, DC. 西印度ニ產ス R Relboun, Schl. et Cham. 及ビ R. angustissima, Schl. et Cham. 此ノ二種支那ニ産ス)等ノ根ヨリモ紅色ノ染料ヲ製スベシ

レンプクサウ、ゴリンバナ、フンプク(Adoxa Moschatellina, L.)此小草全部ニ烈シキ麝香ノ香アリト雖𪜈殊ニ花ニ著シキ香アリト云故ニ歐洲人ハ之ヲ麝香艸ト名ク昔ハ根ヲ藥用ニ供セシト云フ又綠色ノ果實ハオランダイチゴノ如キ香氣ヲ有スト云フ

ノボロギク(Senecio vulgaris, L.)歐洲ニテ此花ヲ以テ福島鳥（カナリヤ）ヲ飼フニ甚ダ嗜ミテ啄ムト云故ニ獨乙國ニテ之ヲ鳥草ト名ク又此草ヲ今昔共ニ藥用ニ供スト云

ヤグルマギク(Centaurea Cyanus, L.)歐洲ニテ昔ハ此草ヲ藥用ニ供セリト云フ又今ハ歐洲ニテ只烟草ニ美觀

チソヘル爲ニ混合シテ用ユト云

ノヂシヤ(Valerianella olitaria, Moench.)此草チトリ獨乙人ハ冬春ノ節油ト酢トヲ交ゼ生食スト云フ

コナラ枹(Quercus glandulifera, Bl.)及ビクヌギ櫟(Q. serrata, Th.)ノ嫩芽ヲ摺リ煎ジ詰メ無患子（ムクロジ）ノ大サニ丸シ灰ヲマブシ晒シ乾セバ外ハ堅シ內ハ膏藥ノ如シ奧羽人コレチ鬻グ其土ノ婦人之チ用テ五倍子ニ代フ

イス蚊母樹(Distylium racemosum, S. Z.)此木理密ニシテ櫛及ビ器物ニ用ユ地ヨリ堀出シ亦久シク地上ニ置クモノハ材色殆ンド黑色ナリ今多ク櫛ニ造ル是蚊母樹ノ心ナリ

マメフヂ 京畿 キフヂ、ムクミ 薩州 旌節花(Stachyurus praecox, S. Z.)此ノ木ノ根チ取テ紙チ製ス雁皮紙ノ如シ又酒樽及ビ醬油樽ノ呑口ハ此ノ木チ以テ造ルト云フ又山家ノ村婦ハ鉄醬ニテ齒チ染ムル時此ノ實チ五倍子ニ代用ス因テマメブシト呼ブ又木心ニ白瓤アリ和方ニ水腫ニ用テ効驗アリト云ヘリ

ハナヒリノキ、チジコロシ 信州 クシヤミノキ 仝上 ミヤマカツブシ 伊吹 ハダカキ 江州上州 アクショギ 會津 ゴキス 勢州菰野 アカワン 相州箱根、 米澤 ニシコリ 米澤 クサメノキ 仝上 (Leucothoe Grayana, Mx.)此ノ葉チ揉ミ嗅バ嚔チ發ス頭風諸症ニ効アリ乎ハ乾キタルモノ別テヨク嚔チ發スト云又米澤ニテ紫ヲ染ムルニ此ノ木ノ灰汁チ用ヒザレバ江戸紫ノ如ク鮮麗ナラズト云フ

ダイコンサウ水楊梅(Geum japonicum, Th.)此ノ根葉莖トモ食スベシ根ノ性強壯ニシテ收斂スル功アリ男女陰部チ強クス是レチ以テ人チシテ子有ラシム或ハ麥酒ニテ調ヒ用ユ又此一種ノ(G. urbanum, L.)根チ指ニテ揉メバ丁子ノ香アリ故ニ丁子根(Nelkenwurzel)ト稱シテ獨乙國ノ農夫ハ火酒ニ和メ胃弱ノ藥トナス

イタガシ、イチヰガシ石櫧(Quercus gilva, Bl.)此ノ材ハ舟車ノ用ニ供ス槍ノ柄ニ著明ナル薩州ノ赤樫ハ即チ

是ナリ

イマメガシ(Quercus phyllireoides, Ait. Gr.)紀州ニテハ此ノ葉ヲ以テ茶ヲ製ス之ヲ「バメチヤ」ト云材ハ舟車ヲ造ルニ用ユ之ヲ燒キタル炭ヲ「ビンチヤウ」ト稱シ鰻店等ニ用フルモノ是ナリ又飛彈吉城郡ニテモミヂヲ用テ茶トナス是ヲ「マイラチヤ」ト云又山民カハラケツメイ(山扁豆)ノ葉ヲ乾燥シテ茶ニ代用ス是ヲ「カウボウチヤ」ト云フ又阿州ニテフヂ(紫藤)ノ葉ヲ以テ茶ヲ製ス是ヲ「フヂノチヤ」ト云フ又同處ニテ飯ニ交ゼ焚テ食ス「フヂメシ」ト云又クマヤナギノ葉ヲ會津ニテ茶トナスト云(方言「クマゴヅル」)

クラヽ、「キツネノサヽゲ苦參、土槐(Sophora flavescens, Ait. var. galegoides, Hemsl)此ノ草ヲトリ敷物ノ間ニ入レ置ケバヨク蚤ヲサクルト云又會津方言キツネノヒバシト云之ヲトリ厠中ニ入ルレバ臭氣止トナルノミナラズ能ク屎中ニ生ズル蛆ヲモ殺スト云又カラタチ(枸橘)一ツ持夜々抱キ寢レバ蚤ヨルヿナシト云又棘蓼（タデ）ヲ乾シテ床ノ下ヘ敷テヨシ又枳實（カラタチノミ）ヲ澤山煎ジ繻胖ヲ浸シ能ク干シ着用スレバ蚤ヨラヌナリト云

クズ葛(Pueraria Thunbergiana, Bth.)冬月根塊ヲ掘リ取リテ搗キ爛シ葛粉ヲ製ス莖皮ハ布袴トナス花ハ藥用ニ供ス

エンジユ槐(Sophora japonica, L.)新葉ヲ采リ煠キ熟メ食用トスベシ或ハ茶ニ代ヘ用ユ花實嫩葉皆食フベシ材ハ器床緣等ニ作リテ用ヲナスモノ是ナリ又材ハ黄色ノ染料ニ供ス

フヤウ木芙蓉(Hibiscus mutabilis, L.)皮ヲトリ線トナシ織テ綢衣トナシテ暑月ニ服シテ汗臭ナシト又コノ皮ヲ以テ紙ヲ抄キタルヲ小皮紙ト云池塘ニ木芙蓉アレバ獺敢テ來ラズト云フ

イヌザンセウ崖椒(Xanthoxylum schinifolium, S.[Z.)木曾ノ山民ハコノ果實ヨリ神佛ニ供スル燈油ヲ搾リ取ル

ト云フ方言ホソギ

シヤリンバイ、ハマモクコク（Raphiolepis japonica, S. Z.）薩州ニテハ之ヲヘバル又ベバルト云樹皮ハ琉球紬ヲ染ムルニ用ユ

タウナス南瓜（Cucurbita Pepo, L.）歐州ニテハ專ラ家畜ノ食用トシテ栽培ス然圧匈牙利國ニテハ此果實ヲ重ニ砂糖ヲ製スル爲ニ用ユト云フ

ニハトコ接骨木（Sambucus racemosa, L.）和方打撲ノ洗藥トス琉球ニテハ此ノ熟實ヲ搗キ碎キ綿布ヲ以テ絞リ其汁ヲトリ煎熬シテ膏トナシテ貯置キ痘兒ニ與ヘ其毒ヲ解スト云フ又歐洲ニテ花ヲ詰テ枕トス又茶トシテ用フレバ發汗劑トナルコレヲ「ニハトコチヤ」ト云フ實ノ越幾斯ハ感冒「リウマチス」等ニ用テ効アリ實ノ汁ハ葡萄酒ヲ赤色ニ染ムルニ用ユ材ハ堅硬ナルヲ以テ彫刻及ビ轆轤細工ニ用ユベシト云フ又コノ一種ニソクヅ一名クサタヅ蒴藋（S. javanica, Bl.）ト云フモノアリ此ノ莖葉根トヲウデ水ニ浸シ食スベシ又打撲傷損ヲ治スルニ極テ効アリト云フ

ハヽキヾ地膚（Kochia Scoparia, Schrad.）嫩葉ヲトリ食フ又秋田ニテ此ノ實ヨリ一種ノ食料品ヲ製ス方言「トンブリ」ト稱ス味甚美ニ且滋養分ヲ含有ス重ニ烹テ晩餐ニ供スルモノナリ

ミヅヒキグサ、ハヘトリバナ（勢州）金線草（Polygonum virginianum, L.）勢州ニテ此根ヲ搗キ麥飯ニ交テ蠅ニ食サスレバ皆醉テ死スルモノナリト云フ

イタダリ虎杖（Polygonum cuspidatum, Th.）此ノ莖ヲ生食又鹽藏シテ食ス又妊婦食スレバ脫胎スト云フ又妊婦食スレバ其子腋臭アリト云フ

カシハ槲(Quercus dentata, Th.)樹皮ハ漁網ヲ染ムルニ用ユト云フ

ウルイ(玉箱（タウギバウシ）ヲ指シテ云カ將又紫蕚（ギバウシ）類ノ總稱ナルカ未ダ詳ナラズ)奥羽及甲信山中ニ多シ葉ノ未ダ開カザルモノヲトリテシルノミトス味甚佳ナリ暴乾スレバ色白シテ久ク貯ベシ是ヲヤマカンピヨウト云礦夫抔山カセギノモノ常ニ味醬ヲ貯ヘ此葉ヲトリ汁トナシ食フト云

チガヤ、シバツコ 上州 白茅(Imperata arundinacea, Cyr.)花即ツバナ(茅針、茅筍)及ビ根(即チ地下莖)ヲ煎ジテ癰疾ニ呑バ効アリト云フ又此地下莖(アマメ 阿州 アマンボウ 相州七里濱)ヲ小兒好ンテ嚼ミソノ汁ヲ嚥ム味ヒ甘蔗（サタウキビ）ノ如シト云フ又此花ヲ染メ乾シテ火口（ホクチ）トス

ヌマガヤ 日光赤沼ノ原ニ產ス方言スゴリ (Molinia caerulea, Moench.) 日光ニテ此莖ヲトリ紙漉ノ簾ヲ作ル又歐洲ニテ此ノ莖ヲ以テ煙筒斗（キセルラヲ）ノ掃除ヲナスニ供ス故ニ獨逸人此ヲキセルヰ (Pfeifenbinse.) ト名ク又種々編物幷ニ夏帽子等ヲ造ルニ用ユ

ハマニンニク、クサドウ、ブナ 秋田 テンキ 北海道 (Elymus arenarius, L.)此ヲ以テ秋田ニテ席（ムシロ）ヲ製ス之ヲ方言(ブナムシロ)ト云稱ス又歐洲依蘭（アイスランド）人ハ此實ヲ硏磨シテ饅（パン）ヲ製シ食フト云フ

ツタモミヂ、トキハカヘデ、イタヤ、イタヤカヘデ、シラキカヘデ、ハナイタヤ (Acer pictum, Th.) 此樹ノ液汁ヨリ淡茶色ノ砂糖ヲトリ得ベシ外觀ハ餘リ美ナラズト雖𪜈結晶粒ハ大ニシテ味ヒ水晶糖（ゴホリザトウ）ノ如シト云フ

コエウラクツヽジ、ヤシホ 日光 (Menziesia pentandra, Mx.)此ヲ日光ニテ茶臺、木地、挽物或ハ床柱、床緣等ニ用ユト云フ

ハリギリ、セノキ 日光 オニセン シホゼ又シホジ(俗ニ其材ヲイフ稱)(Acanthopanax ricinifolium, S. Z.)日光

ニテ膳、重箱等ヲ作ル

ヤマブダウ(Vitis Coignetiae, Pulliat.)日光ニテ此皮ヲ剝テ簑ヲ作ル又木曾ノ山民此皮ヲ以テ脚絆ヲ製ス又此皮ヲ野州鹽谷郡栗山村ニテ方言「ヒツラ」皮ト稱シテ用ユ

オニク、キムラタケ、オカサダケ、マツカサダケ、キマラダケ日光ニク木曾(Boschniakia glabra, C. A. Mey.)日光ノ土人ノ言ニ鹿ノ孳尾スルトキ其精地ニ落テ生ス因テキマラダケト云ヨシ湯本(ユモト)ノ奥ニ金勢(キマラ)明神ノ祀アリ弓削道鏡ヲ祀ト云其山ヲ金勢(キマラ)峠ト稱ス按スルニキマラダケハ地ニ因テ名ケタルニモノメ鹿ニ關係セス本草ニ肉蓯蓉野馬之精落地所生ト云同謬ナリ世人其ノ名ノ雅馴ナラザルヲ嫌テキムラタケト改メ呼ナルベシ又木曾ノ山民ハ之ヲ用テ切疵(キリキツ)ヲ治スト云又腎ヲ補スルノ功アリト云

トチノキ七葉樹(Aesculus turbinata, Bl.)越前山中此ノ木ノ實ヲ取リ水ニ漬(ヒタ)スヿ卅日皮ヲ去リ灰汁ニ煮テ糯米(モチゴメ)ニ和シ餅トメ食スルヲ栃餅ト云ナリ或ハ又此實ヲ乾メ皮ヲ去リ水中ニ浸シ赤汁出ルヲ度トメ馬ノ眼疾ニ吹ケバ速ニ治スト云ヘリ又日光ニテ此木ヲ以テ椀ノ上等品ヲ作ル

ハリモミ日光ツガモミ(略シテ單ニトガ又ツガト呼ブ)トガモミ、トガトツ、イラモミ木曾バラモミ富士クロマツ尾州(Picea polita, Carr.)日光ニテ曲物、木釘、材木等ニ用ユト云フ

アチボウモミ、リウセン、シラツガ日光(Abies brachyphyllata, Mx.)其用前ニ仝シ

アヲダコ、ダモ　アチダモ(Fraxinus longicuspis, S. Z.)皮ハ剝テ箕ヲ作リ或ハ繩ヲ爲スト云フ

ヒメシヤラノキ、サルナメ日光アカギ　サルスベリ豆州(Stuartia monadelpha, S. Z.)材ヲ床柱、床緣等ニ用ユト云フ

サハグルミ、カハグルミ(Pterocarya rhoifolia, S. Z.)日光ニテ此木ノ皮ヲ以テ簑ヲ作ルト云フ

メヒヂハ　馬唐(Panicum sanguinale, L.)獨乙國ボヘミアノ諸處ニ於テ盛ニ此ヲ培養ス而シテ其ノ實ヲ搗キ籾（モミ）ヲ去リタルヲ(Managütze 或ハ Himmelthau)ト稱シ滋養且ツ美味ナル食料品ヲ製ス其味ヒ稍稷（キビ）ニ似タリト云フ

シユロ　棕櫚(Trachycarpus excelsus, Wendl.)皮毛ヲ以テ網、索、箒、篩等ヲ造ル葉ハ近來晒シテ下駄ノ表ニ用ユト云フ又材ハ床柱ニ用ユト云フ

ワタスゲ、サギスゲ(Eriophorum gracile, Koch.)及ビマユハケスゲ(E. vaginatum, L.)歐州ニ於テ此實ノ綿毛ヲ以テ洋燈（ランプ）ノ心又ハ羊毛、綿ヲ混合シテ織物、手笠（テブクロ）、毛ノスキ物(帽子抔ノ如キ)等ヲ製ス又是ヲ以テ紙ヲ作ルト云フ又コノ他ノ諸種ヲモ用ユト云フ

ヰ　燈心草(Juncus effusus, L.)歐州ニテ此根ニ利尿ノ効アルヲ以テ石痳及腎臟病ニ用ユト云フ又此ノ髓(即燈心)ヲ洋燈（ランプ）ノ心トナスト云フ

アマモ、ウミスゲ　秋田　大葉藻(Zostera marina, L.)歐州ニ於テ此ノ莖及葉ヲ乾シ敷蒲團、安樂椅子（ソーファー）、椅子等ノ詰物トナス又歐州海岸地方ニテハ屋根ヲ覆（フ）クト云又和蘭ニテハ堤ヲ築クニ用ユ又秋田ニテ簑ヲ製スト云フ

Notes on Japanese Plants XVI.

日本植物報知　第十六

Tomitarō Makino.

RANUNCULACEÆ. うまのあしがた科

Clematis heracleæfolia DC. **var. speciosa** Makino, l. c. p. 50. Jap. Ōkusabotan. オホクサボタン

Leaves large, ternate, with cuspidate-dentate margins, tomentose on nerves of the under surface; terminal one oval-oblong, acuminate, cuneate-rounded at the base, sometimes trilobed, lateral lobes oblong-ovate, acuminate, with oblique base, and smaller than the terminal one. Peduncles, bracts, calyx tomentose. Calyx 4, linear 2-$2\frac{1}{2}$ c. m. long, strongly reflexed backwards at the upper portion. Stamens shorter than half the length of the corolla. Fl. October.

Tosa: Asō (*T. Makino*).

RHAMNACAÆ. くろうめもどき科

Berchemia racemosa Sieb. et Zucc. **var. magna** Makino, loc. cit. p. 51. Jap. Ōkumayanagi. オホクマヤナギ

Branches stout. Leaves ovate or elliptical-ovate, entire, obtuse, rounded at the base, about 4-8 c. m. long, 2-5 c. m. broad, with 8-12 regular and distinct lateral veins on each side; petiole about 1-2 c. m. long. Cluster of racemes large. Sepals deltoid, acute.

Tosa: Yotsu (*T. Makino.*)

(*To be Continued.*)

日本藥局方植物篇（前號ノ續キ）

會員　澤田駒次郎

藥品　チンネウエリー旃那　Folia Sennae.

日本藥局方ニハ本植物ノ葉及ヒ亞歟散得産旃那ヲ以テ藥用ニ供ス

本品ハ一名印度産旃那（Senna Indicae）ト稱シ之ニ二種有リ一ハ亞拉毘亞産旃那或ハ東印度産旃那又孟買産旃那等ト稱シ一ハチンネウエリー旃那ト稱ス英國及ヒ印度藥局方ニハ亞拉毘亞産旃那葉ヲ以テ藥用ニ供シ合衆國藥局方ニハ此兩種及ヒ他ノ旃那葉ヲ以テ藥用ニ供ス

第一　亞拉毘亞産旃那　Folia Sennae Arabiae.
（F. Sennae Mochae.）

本品ハ本植物ノ小葉ニシテ亞拉毘亞ニ於テ採集シ(Mocha)亞丁其他紅海沿岸ノ諸國ヨリ孟買ヘ運搬シ然ル後歐米諸國ヘ輸出ス

性狀　本品ハ狹長ニシテ形チ稍々長鎗ニ似タルニ因リ之ヲ識別スルコト容易ナリ佛蘭西ニテハ Séne de la pique ト稱ス但シ乾燥ニ注意セザルモノハ褐色チ呈シ或ハ其葉腐爛セシモノアリ下等品ハ花部、莢果、及ヒ枝杪等チ混淆ス Livingstone 氏ハ稍々類似ノ小葉ヲ亞弗利加南東部ヨリ携帶セシコトアリ當時英國藥學雜誌ニ之チ載セリト

第二　チンネウエリー旃那　Folia Sennae Tinnivelly.

本品ハ本植物ノ小葉ニシテ亞拉毘亞産ノ種子ヨリ發芽セシモノナリ然レドモ印度南部ニ於テ培養シチユチコリン（Tuticorin）ヨリ輸出スルモノハ亞拉毘亞ノ乾燥地ニ産スルヨリハ大イニ繁茂シ現今藥用ニ供スル「チン

ネウエリー旃那ヲ産出ス

性狀　チンネウエリー旃那ハ鋭尖披鍼形ノ小葉ニシテ平縁非薄其基部均等ナラス表面黄綠色ニシテ裏面ハ其色稍々暗色ヲ帶ヒ長サ六「センチメートル」廣サ二「センチメートル」ニ至リ葉柄矮短ナリ

本品ハ清潔ニシテ莢果、枝杪等ヲ混淆スルコト稀レナリ其氣味ハ殆ンド亞勒散得産旃那ニ似タリ改正日本藥局方ニ云本品ハ(Cassia angustifolia)ノ葉ニシテ甲品ニ比スレバ迥カニ長ク長サ六「センチーートル」廣サ二「センチメートル」ニ至ル旃那葉ノ類褐色或ハ類黄色ヲ有スルモノハ供用ス可カラス」トアリ

一千八百七十五年第一月英國龍動府ニ於テ Fine Senna. ト稱シ一種ノ旃那葉ヲ販賣セシ者アリ其大イサ及ヒ彩色ハ「チンネウエリー旃那ノ變種ニ類似スト雖モ少シク注意スレバ容易ク之ヲ鑒別スルヲ得ウ E. M. Holmes 氏ノ説ニ據レバ此葉ハ哥斯德爾黎加(Casta Rica)巴拿馬(Panama)等ニ産スル Cassia brevipes, D C. ノ葉ナリト

本品ノ顯著ナル徵候ハ葉脉ニ在リ其小葉ハ三條ノ脉管葉底ヨリ起リ殆ンド其先頂ニ達シ細小ナル枝脉ヲ左右ニ分岐シテ翼狀ヲナシ鋭角ヲ有ス此等ノ性狀顯著ナルニ因リ爾後輸入セサリシト

本品ハ瀉下ノ効驗ナシト云フ

成分　チンネウエリー旃那ノ成分ハ亞靱散得産旃那ニ同ジ

製劑

第一　旃那舍利別　Syrupus Sennae.

日本藥局方ニ據レハ其製法左ノ如シ

旃舍利別ハ
剉截セル旃那　十分
ヲ取リ
熱湯　四十分
ヲ注キ六時間冷浸シタル後壓漉シ靜定シテ沍滓ヲ除キ
其漉液　三十五分
ニ
白糖　六十五分
ヲ溶解シ製スベシ

本品ハ澄明褐色舍利別ナリ

第二　旃那舐劑　Electuarium Sennae.

日本藥局方ニ據レバ其製法左ノ如シ

旃那舐劑ハ
答滿林度
ヲ取リ小量ノ熱湯ニ混和シテ軟化セシメ全質均等ノ果泥ヲ得ルニ至リ毛篩ニ研磨シ篩過シ
其果泥　五十分
ヲ取リ之ニ

單舍利別　　四十分
旃那細末　　十分

ヲ親密ニ混和シ重湯煎上ニ温メテ舐劑ノ稠度ト爲シ製スベシ

本品ハ帶綠褐色ノ舐劑ナリ

乾燥冷涼ノ處ニ貯フベシ

醫治効用　旃那ハ温和爽快ノ瀉下藥トナシ瀉下ノ後便秘ノ患ナシ故ニ通常小兒老人及ヒ性質虛弱ナル婦人ニ用フ其嫌厭スベキハ間々腹痛ヲ發シ或ハ刺戟ヲ生ズルコトアリ舍利鹽ヲ伍用スレバ腹痛等ヲ減少ス○營養管鋭敏ナル症ニハ禁戒スベシ但シ舍利鹽ヲ伍用スレバ害ナシト○旃那ハ變化スルコトナク其有効成分ヲ體外ヘ分泌ス故ニ乳母ニ服用セシムレバ其乳兒モ亦瀉下スト或云亞勒散得產旃那ハ其効力顯著ニシテ「チンネウエリー旃那之ニ亞キ亞拉毘亞產旃那ヲ其次トス然レモ本品及ヒ亞勒散得產旃那ハ其効驗殆ンド同等ナルヲ以テ共ニ藥用トス

莢モ亦瀉下ノ一藥トシ用フ其性緩和ニシテ惡心腹痛ヲ生スルコトナシ故ニ之ヲ用フルコトアリト云フ

（以下次號）

花の色香　（前號ノ續キ）

理學士　堀　正太郎

睡蓮科(Nymphaceae)植物ハ日本ニ五屬五種アリひつじぐさ子午蓮(Nymphæa tetragona, G. *Bennet. var.* angusta, *Casp.*)ハ沼池ニ生シ水面ニ白花ヲ開クかはほね萍蓬草(Nuphar joponica, DC.)は同シク沼池ニアリテ萼ノ內

面弁ニ花瓣ハ黄色ニシテ雄蕊ト共ニ黄花ノ美觀ヲ呈スはす蓮(Nelumbium speciosum, Willd.)ハ花大ニシテ白色ノモノアリト雖モ多クハ淡紅色ナリ此花ハ花冠ノ凋落スルヿ速ニシテ充分昆虫ノ媒助ヲ受クルヿ難シかはほねニモ亦赤色ノ花ヲ開クモノアリおにばす芡(Euryale feror, Salisb.)及ビじゆんさい蓴(Brasenia peltata, Pursh.)ハ此科ニアリテ尤モ進化シタル處ノ花ニシテ其色紫ナリ

罌粟科(Papaveraceæ)ニアリテ其變化ノ度最モ少キモノニアリテハ其色黄色ニシテ且花小ナリ即チ彼ノくさのわう白屈菜(Chelidonium majus, L.)ノ如キ是レナリ此花ハ實礎單箇ニシテ花瓣小ニ黄色ナルヿ彼ノ毛茛科中ノきんぽうげ花ニ汸沸タリ

此花花密ヲ分泌セス故ニ花粉ヲ掠奪スル處ノ昆虫ニノミ其受胎ヲ依頼スルモノニ〆ミユレル氏ノ實見ニ依レハ綱翅類七種雙翅類五種ナリトス普通花園ニ栽培スル處ノ罌粟屬(Papaver)ハ日本固有ノモノニアラス此ノ花ハ皆花瓣廣大ニシテ其色白紅紫アルヿけし罌子粟(P. Semniferum, L.)ひなげし草虞美人(P. Rhoeas, L.)ニ常ニ見ル處ナリ以上ノ諸屬ニテハ花色ニ左迄ノ變化ヲ見サルナリ

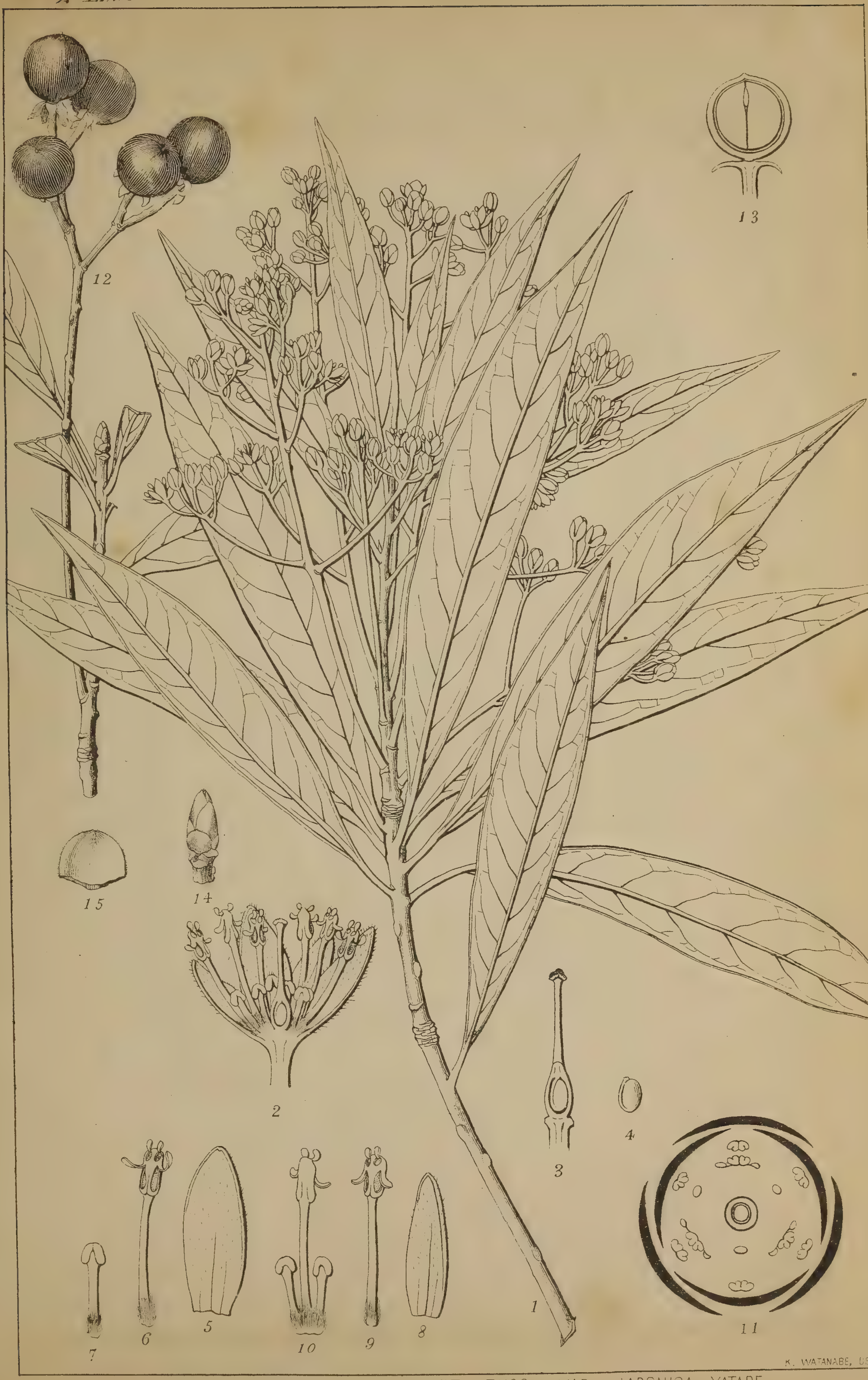
十字科(Crucifereae)植物ハ花ノ形状ニ就テハ左迄變化ヲ見ス皆四ケノ萼弁ニ瓣ト六ケノ雄蕊アリテ全科花ノ形状畧同一ナリ然レ𪜈蒴ノ種類蜜槽ノ位置及ヒ數ニ於テ各種著シキ變化ヲ見ルはたざほ屬南芥呆(Arabis)ノ諸種たねつけばな碎米薺(Cardamine hirsnta, L. var. sylvatica, Link)なづな薺(Capella bursa-pastosis, Moench.)ノ如キハ皆白色ノ小花ナリ　かぶら蕪菁(Brassica campestris, L)なたね菜(B. chinensis, L.)からしな芥 (Synapis cernua, Thuunb.(やまがらし(Barbarea vulgaris, R. Br. var. stista, Regel)ノ如キ(Cardamne)諸種ハ其花黄色ナリ日本ニアリテハ赤色ノ十字科植物殆ントナシ大根 (Raphanus. sativa, L.)ハ稍赤紫ニ變セントスルノ傾アリ之

ヲ要スルニ十字科植物ノ花ハ白色幷ニ黄色ノ者多ク以テ其發達ノ度少ナキヲ知ルニ足ル可シ

而〆此花二ケヨリ六ケノ蜜槽ヲ有シ又芳氣ヲ發スルモノアリ明ニ昆虫透引ノ具備ハルト雖𪜈花ノ鮮研美麗ノ觀ニ乏シク昆虫ノ蜜槽ニ容易ニ達シ得ルヿノ事實ハ大ニ昆虫ノ來飛ニ影響ヲ來スモノニシテ或ル花ニアリテハ全ク昆虫ノ力ヲ假ラス自殖スルモノ甚タ多シ

予ハ多瓣正形花ニ就キテ說述シタリ是ヨリ多瓣不正形花ノ例ヲ以テ說明セン

菫菜（すみれ）科植物ハ僅すみれ菫菜(Viola)一屬ヨリナリ少ク𪜈十八種日本ニ產ス萼片五ケ花瓣五ケ多少不同ニ〆下位ノ瓣ハ囊狀ノ距ヲス雄蕊五ケアリテ內下位ノ二ケハ延長シテ距ヲナシ其末端ニ蜜柑ヲ備ヒ花蜜ヲ分泌ス距狀ノ瓣ハ之ヲ貯蓄スル處ノ囊ヲナス花ハ多クハ黄色ナリト雖𪜈白色ナルアリ即チしろばなすみれ又まるばすみれ(Viola Keiskei, Miq.)つぼすみれ(V. verecanda, A. Gray.)えぞたちつぼすみれ(V. canina, L. var. acuminata, Regel.)ノ如キ是レナリ黄色ナルアリ即チをほばきすれ(V. glabella, Nutt.)きばなのこまのつめ(V. biflora, L.)ノ如キ是レナリ稍々赤色ノモノわかねすみれ(V. phalocrocarpa, Max.)是レナリ藤色ノモノ其數多シ即チたちつぼすみれ菫菜(V. sylvestris, Kit, var grypoceras, Λ. G.)其一ナリ其最モ高等ナル花色ヲ有スルモノハすみれ又すもとりばな(V. Patrinii, DC. var chinensis, Ging.)トス斯ノ如ク野生ノすみれニアリテモ花色ノ進化階段アルヲ見ル可クシテ菫科ノ花ハ實ニ白色ヨリ進ンテ濃紫色ニ至レルモノナリ故ニヘルマン、ミユーレル氏モ既ニ菫色花進化ヲ是認シテ菫花ハ種々ノ事實ヨリ推シテ其始原彩ハ黄色ナル可シト斷言セリ此ノ故ニ外國產ノさんしきすみれ(V. tricolor, L.)ハ實ニ一花ニ花色進化ノ有樣ヲ顯ハスモノナリ或ルモノハ全色殆ント黄色ナルアリ或ルモノハ綻蕾ノ際ニハ黄色ニシテ後紫ニ變スルアリ或者ハ三色ノ咲分ヲナスモノアリ是一花ニシテ花色


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
K. WATANABE, DEL.

MACHILUS THUNBERGII, SIEB. ET ZUCC., VAR. JAPONICA, YATABE.

AOGASHI. アヲガシ

植物學雜誌第六卷第六十三號　(明治二十五年五月十日)

THE BOTANICAL MAGAZINE.

[Vol. VI.　May 10, 1892.　No. 63.]

New or Little Known Plants of Japan.

No. 20.

Ryōkichi Yatabe, Sc. D.

Machilus Thunbergii, Sieb. et Zucc., var. japonica, Yatabe.

Nom. jap. Aogashi. アヲガシ.

(Plate V.)

Machilus japonica, Siebold et Zuccarinii, Fam. Nat., n. 705.—Blume, Mus. Ludg. Bat., vol. i., p. 331.—Miquel, Prol. Fl. Jap., p. 127.—Franchet et Savatier, Enum. Pl. Jap., vol. i., p. 412.—Maximowicz, in Mél. Biol., vol. xii., p. 536.—*Machilus longifolia* (non Machilus? longifolia, Blume), Catal. Pl. Science college, Imp. Univ., Tōkyō, p. 166.—Catal. Pl., Bot. Gard., Imp. Univ., Tōkyō, p. 186.

A tree 20-30 feet high. Leaves evergreen, petiolate, alternate, crowded towards the apex of branches, chartaceo-coriaceous, smooth, lanceolate or oblong-lanceolate, entire, tapering towards the apex and base, glaucescent on the under surface, 2-5 inches long, ½-1½ inches broad; petiloles 3 lines to 1 inch long. Scales of the leaf-bud imbricate, semicircular, smooth on both surfaces, minutely ciliate at the margin. Panicles terminal. Flowers numerous, slightly yellowish, about 3 lines across; pedicels smooth, 1½-2 lines long. Perianth-segments 6, in 2 series, ovate or ovate-lanceolate, obtuse, slightly hairy, the inner 3 somewhat larger than the outer 3, 1½-2 lines long. Stamens 9, in 3 series, about as long as the perianth-segments; the first and third series alternate with, and the second opposite to the inner perianth-segment; filaments somewhat subulate, hairy at the base; anthers 4—celled, opening by uplifted valves, the upper 2 cells smaller than the lower 2. Stamens of the first and second series without glandular appendages, their anthers introrse; those of the third series with a pair of deeply cordate and stalked glands at the base of each, their anthers extrorse. Staminodes or imperfect stamens of the fourth series 3, opposite the stamens of the second series, consisting of deeply cordate and stalked glands, hairy at the base and apex, shorter than the stamens. Ovary 1, 1-celled, ovoid; style filiform; stigma capitate, slightly 3-lobed, ovule 1, pendulous, anatropous. Berry globose, with the peristent and deflexed perianth-segments at the base, dark, about 5 lines across. Seed large, aromatic, exalbumimous; testa thin; cotyledons hemispherical, filling the seed; plumule conspicuous.—Fl. May. Hab. Mountain woods.

Specimens of this plant with flowers were collected by Mr. Kanō Watanabe at Nanokawa-mura in the province of Tosa on May 19, 1887; and those with ripe fruit were collected by him at Befu-mura in the same province on October 8, 1891. I collected specimens of this plant with immature fruit on Mt. Kirishima in the province of Hiuga, on August 3, 1882.

Forbes and Hemsley in their *Index Floræ Sinensis* (Journ. Linn. Soc., vol. xxvi., p. 377.) include this plant in *Machilus Thunbergii*, Sieb. et Zucc. But as it differs in some respects from the type, which can be at once distinguished by its thicker and broader leaves, I have considered the present plant as a variety of the species.

Plate V. Fig. 1, branch with flowers; 2, flower cut vertically; 3, vertical section of ovary showing the ovule; 4, ovule; 5, inner perianth-segment; 6, stamen of the second series; 7, staminode; 8, outer perianth-segment; 9, stamen of the first series; 10, stamen of the third series; 11, floral diagram; 12, berries; 13, vertical section of berry showing the two large cotyledons; 14, leaf-bud; 15 scale of leaf-bud:—*all except 1 and 12 enlarged.*

No. 21.

Euonymus lanceolatus, nov. sp.

Nom. jap. Murasaki-mayumi. ムラサキマユミ.

Branches smooth, quadrangular. Leaves opposite, oblong-lanceolate, acuminate at the apex, acute at the base, appressed-serrate with mucronate serratures, deep-green above, pale and with rather prominent veins beneath, 3-4 inches long, 10-15 lines broad; petioles narrowly winged, 2-4 lines long. Peduncles axillary, 3-6 flowered, about 1 inch long; pedicels 3-4 lines long. Flowers 5-merous. Calyx-lobes short, rounded, entire. Petals suborbicular, concave, dark-purple, about 2 lines long. Anthers subsessile.

I have examined only a few specimens of this plant in flower, collected on August 5, 1881, at Oharagoe in the province of Echizen.

Notes on Japanese Plants, XVI.

日本植物報知　第十六

Tomitaro Makino.

LABIATÆ. 唇形花科

Plectranthus excisus Maxim. **var. shikokianus** Makino, l.c. 54. Jap. Miyamahikiokoshi. ミヤマヒキオコシ.

Leaves ovate, acuminate, serrate, very slightly hairy. This plant differs from the typical form by the tailless leaves having teeth of the margin not acutely pointed.

Tosa: Mt. Tebako (T. Makino).

VERBENACEÆ. くまつゞら科

Callicarpa tomentosa Willd. Enum. Pl. Hort. Berol. p. 158; Schauer in DC. Prodr. XI. p. 647; Hook. et Arn. Bot. Beech. Voy. p. 205; Benth. Fl. Hongk. p. 269; Maxim. in Mél. biol. XII. p. 505; Forbes et Hemsl. in Joun. Linn. Soc. vol. XXVI n. 175 p. 255. Jap. Birōdomurasaki. ビロウドムラサキ

Tosa: Ryūmura, Godaisan (T. Makino, 1884).

Callicarpa tosaensis sp. nov. Jap. Ōbamurasaki. オホバムラサキ

Shrub, branches when young beset with dense and soft hairs. Leaves oblong, acuminate, cuneate at the base, about 12-21 c.m. long, 4-$7\frac{1}{2}$ c.m. broad, not deeply dentate, under surface, slightly tomentose and the upper naked; petiole tomentose, $1\frac{1}{2}$-2 c.m. long. Cyme tomentose, somewhat longer than the petiole, divaricate, dense-flowered; bracts subulate. Flowers small, with short pedicel. Calyx campanulate, obsoletely 4-dentate, $1\frac{2}{3}$ m.m. long, tomentose, persistent. Corolla campanulate, slightly tomentose, twice as long as the calyx, about 4 m.m. long; lobes 4, rounded, erect-patent, one third as long as the tube. Stamens 4, distinctly exserted; filament filiform, inserted at the base of the corolla tube; anther ovate-oblong. Style thrice as long as the corolla; stigma capitate. Ovary minute, globular.

This species nearly coincides with C. tomentosa Willd., except in the character of the calyx.

Tosa: Isa. (T. Makino, 1888).

植物に生へる毛の話

理科大學教授理學博士　松村任三

植物には毛が生へて居ります、長い毛もあれば短い毛もあり、剛い毛もあれば軟かな毛もあり、鋭い毛もあれば鈍い毛もあり圓きもあれば匾きもありて實に千態萬狀でござります、其毛は葉に生へるもあり花に生へるもあり根に生へるもあり組織の中に生へるもあり種子に生へるハ綿でござりまして吾人の衣服を織る必要なる原料でござります、

大概の植物には毛の生へぬものはござりませぬ、高等の植物で毛の生へぬものは僅に指を屈するほどです、高等の植物とは維管束（筋、又木材）を具備して居ります植物で毛の生へぬものは木賊（トクサ）、問荊（スギナ）の類、松柏の類、浮萍（ウキクサ）の類位でござります、同じ種類の植物で種々樣々の毛を生するものさへござります、なんと植物は毛に富みて居るではありませぬか、左樣かと思ひば紫草（ムラサキ）の類は皆芒狀を爲して居る毛ばかりを生じ、萊菔（ダイコン）、薺（ナヅナ）の類は星狀を爲して居る毛ばかりを生じ、黃蜀葵（アフヒ）の類は房狀を爲して居る毛ばかりを生ずるといふようなこともござります、植物の毛の論ばかりでも精く御話すれば數頁の紙面を塡充するに足ります、

さりながら此等の毛の効用は如何と尋ぬれば殆と解釋に困ります或る者は其効用も十分明白であるもあり、なきもあります、凡そ毛の中で植物の爲に効用著しきものは根に生へる根毛と申すものでござります、其構造は極めて簡單でござりまして根の表面より少しばかり突起する所のものに過きませぬが何故に植物に大効あるかといふに植物が吸收する水その水中に含有する鑛物は皆此毛より入りますからです、陸に生する草木は此毛を置て他より水液を吸收する器官はござりませぬ此根毛ハ諸君御承知の通り土中にあるものですが空氣に暴露する所の枝とか葉とかに在りましては毛の形も樣々である代りに其効用も隨て種々でござります、

或るものは汁液を含蓄して居り或るものは空氣のみを含有して居り或るものは永く生存し或るものは早く脱落するなどの違ひがあります、或るものハ單一の長細胞より出來、或るものは數多の細胞より出來て且枝を分つものもあります、嫩枝嫩葉に生へるものは外界より來る所の障碍を防くの効用あるよふに思はれます、玆に腺毛と稱しまする毛の類はその末端に球狀の首頭を戴きまして長柄若くは短柄を具へ件の首頭より揮發油、脂液（ヤニ）、護謨其他芳香の物質などを分泌いたします、嫩芽に生へる此類の毛は水氣に遇ひまするど脂液又護謨を洩出しますが其嫩芽全く開展するやうになりますと脱落して仕舞ひます、此等の毛に混雜して刺狀の毛が生へることがあります其形も色々ですが重ふ先の尖るが常です、中には其細胞壁に多量の硅酸を堆積して堅くなりて居るものもござります、吾人が藪の中でチクリと刺されることのあるイタ〳〵グサ（蕁麻）の螯毛などは其一例でござります、此螯毛は其本ふ膨起する部分がありまして枝葉に着いて居ります、カナムグラに生へる毛は鉤狀を爲して居ります、此は支柱に纏着する用を爲します、食蟲植物の葉に生へる毛はペプトン性の消化液を分泌して動物を消化し以て其營養の一助といたします即ちマウセンゴケ、ムシトリスミレなどの葉に生へるものは其一例です、

種子若くハ果實などに密生する毛は其質柔軟でござりまして中に空氣ばかりを含有いたします綿は前にも申した通り種子に生へる毛で即ち中には空氣を含みて居りますそこで眞白に見えます俗に云ふパンヤ即ち牛皮（イケ）消（マ）、蘿藦（ガガイモ）などの種子に生へて居る毛は綿の如く柔軟ではありませぬ是れ種子を四方に散布する用に供するのです蒲公英（タンポヽ）の花が過ぎて仕舞ひますと白毛が澤山遺留して風が吹くと空中に飛んだり舞ふたりします此は種子の末端に生へる毛の御影です箇樣の毛を冠毛と唱ひます敗醬の類にも此冠毛があります誠ふ美麗な毛でご

ざります

薔薇などに生へる刺（トゲ）は尋常の毛と異ひまして其組織が木質を爲して居りますから仲々堅うござります、此は大きな動物の侵襲を防禦する爲めに効用あるものです加之或る植物は刺を以て支柱に纒着する用に供します刺は時としては表皮よりも一層深く其組織を植物躰中に造成し維管束をさへ雜ゆることがあります羊齒の類にハ其葉柄又は葉脈などに薄く扁平なる毛を生します此等は大抵早くより中に含める汁液を亡失して仕舞ひます

以上申述べたる如く毛に種々様々の形狀あるは全く植物躰の表面に生へるものあるが故に障碍なく氣儘に生長が出來るに由ります植物躰の表面でなく其躰中組織に寛なる間隙のあるものには一個の細胞が種々な形狀を爲して一種の毛狀を呈することがあります是れ即ち細胞組織間の毛です、水中に生ずる睡蓮類の莖又芋類の葉柄などには星狀を爲す所の毛が澤山生へて居ります凡て毛は組織中表面を成す所の表皮より生ずるものですから表皮の無き下等植物ふ至りては毛の生へようがありませんそこで或る藻類は其枝莖の頂端にのみ長毛を生します

カシア、マリランディカ之説

會員　澤田駒次郎

カシア、マリランディカ（Cassia Marilandica, Linn.）ハ北米合衆國ニ自生スル宿根草本ニシテ莖直立シ高サ三四尺圓柱形ニシテ平滑或ハ殆ンド平滑縱溝ヲ有ス葉ハ偶性翼狀ニシテ互生擴張ス葉柄椎ハ圓柱形ヲナシ上部漸ク纖小上方ニ彎曲シ内方ノ基部ニ有柄卵圓形ノ線ヲ有ス而シテ葉柄椎ハ硬毛ヲ粗生ス托葉ハ葉柄樣ニシテ長

サ大約三分强毛茸ヲ有シ速落ス小葉ハ對生シ其柄矮短大約八對長サ八分四五厘乃至一寸二三分長卵圓形ニシテ平縁先頂尖リ表面淡綠色ニシテ光澤アリ裏面ハ其色稍稀薄下部ノ葉ハ細小ニシテ擴張シ上部ノ葉ハ下垂ス花ハ稍々大イニシテ花梗椎ハ纖長短毛ヲ帶ビ葉腋及ヒ枝杪ノ頂端ヨリ生ジ數花聚集シテ有梗穗狀花ヲ綴ル花梗矮短ナリ花芽ハ彎曲シ抱花小葉ハ腺狀ニシテ其先頂彎曲シ嫩芽ヲ超過シ開花ノ際墜落ス蕚五片大イサ不等外部ノ二片ハ細小形チ長圓ニシテ廣濶鈍頂ヲ有シ暗黃綠色ヲ呈シ之ヲ開張スレバ强キ彈力ヲ以テ舊位ニ復常ス花瓣各片不等上部ノ一片ハ矮短下部ノ二片ハ延長シ各片卵圓箆形ニシテ表面凹陷脉絡鮮明暗橙黃色ヲ呈シ凋萎スレバ白色ニ變ス雄蕋十個花絲游離シ扁平ニシテ黃色其葯濃紫褐色上部ノ三個ハ極メテ短小剪頭樣ヲ爲シ分綻セス下部ノ三個ハ長サ大約二分强上方ニ彎曲シ左右ノ四個ハ大サ一分强殆ンド直立シ共ニ上端ニ孔穴ヲ生ジ花粉ヲ咄出ス實礎ハ纖長無柄ニシテ屈曲シ其兩側ニ白色ノ長毛ヲ密生シ花柱圓長先頂狹小平滑ニシテ上方ニ彎曲ス花後莢果ヲ結ブ長サ大約二寸五六分線狀ニシテ懸生樣ヲ爲シ微ニ彎曲シテ兩側扁平其色濃褐或ハ平滑或ハ毛茸ヲ粗生シ其先頂彎曲シタル花柱ノ痕跡ヲ有シ種子ノ間陷微ニ凹陷ス種子四十個餘細小扁平形チ頭大楔樣濃褐色ニシテ平滑ナリ

本植物ハ北米合衆國砂地及ヒ河堤等ニ產シ繁茂シ第七八月ノ頃開花シ第十月ニ至リテ果實稔熟ス

本植物ハ一千七百二十三年ニ於テ英國ヘ移植シ現今主モニ庭園ニ栽植スト

藥品亞米利加產旃那　Cassia Marilandica.　亞米利加產旃那ハ本植物ノ小葉ニシテ合衆國藥局方ニハ藥用トス但シ日本藥局方ニハ用ヒズ

採收　第八九月ノ頃葉ヲ採集シ注意シテ乾燥ス

性狀　亞米利加產旃那ハ長サ八分四五厘乃至一寸五六分幅二分餘乃至四分二三厘形チ長卵圓若クハ長披鍼ノ小葉ニシテ平縁其先頂刺ヲ有シ非薄柔軟暗緑色ヲ呈ス

本品ハ微臭ヲ帶ヒ味ハ苦クシテ後稍々甘味ヲ生シ惡心ヲ生ズルコト殆ント亞勒散得產旃那ニ似タリ坊間鬻賣スルモノハ小葉、葉柄、花部ヲ壓搾シテ長圓形ノ乾糕トスルヲ通常トスト云フ

成分　亞米利加產旃那ハ精密ニ分析セシ人アルヲ聞カス其生理的作用ニ因リ考フレバ他ノ旃那葉ノ如ク主成分ハ「カタルチン」酸ナラント云フ

醫治効用　合衆國治療家ハ瀉下ノ一良藥トシ應用ス其効アルハ殆ンド亞勒散得產旃那ニ均シ故ニ本品ヲ以テ代用ス○本品ハ間マ腹痛ヲ生スルニ因リ香竄藥或ハ舍利鹽ヲ伍用シ殊効アリ或云本品ハ其効驗アルコト亞勒散得產旃那ヨリ劣レリ故ニ同一ノ効ヲ奏スルニハ三分ノ一多量ニ用フルヲ緊要トス其用法ハ六「ドラクム」ヲ半「パイント」ノ沸湯ニ浸出シ重湯煎ニ上セ滓ヲ去リ其半量ヲ用フルヲ通常トス

れほいぬふぐり

大久保三郎

玄參科ニ屬スル一小草アリ其形狀些いぬふぐりニ似タル處アルヲ以テれほふぐりノ名アリ本草ハ元外國ノ產ナリ然レ𪜈東京ノ氣候地質ハ此小草繁殖ニ適セシモノト見ヘ現今ハ府下處々ニ產スルニ至レリ（大渡氏ノ報告參照）帝國大學校內植物學教室前ノ松林中ニモ三四年前迄ハ一株モ見シヿアラザリシニ今ハ自生同樣盛ニ繁茂セリ

花ハ葉腋ヨリ長花梗ヲ抽出シ其頂端ニ一ノ青花ヲ着ク花冠ハ單瓣四裂ス萼亦四片ヨリ成ル而シテ內二片ハ他二片ヨリ小形ナリ此花ハ一日生即チ午前ニ開キ午後ニハ落花ス其花冠花托ヲ脫スルノ際ニハ小形二萼片急ニ上

行シ恰モ花冠ヲ投出スガ如キ狀ヲ呈ス而シテ花冠ハ蕚ノ爲メニ花托ヲ飛出サレ留針頭狀柱頭ニ達ス然レ𪜈花冠ノ筒內ニ細毛密生セルヲ以テ柱頭ニ支ヘラレ蕚ノ外部ニ下垂ス

蕚ノ上行運動ハ中々急ナリ試ニ充分ニ開花セル花冠ヲ引キ採リ見ルベシ小蕚片直チ上方凡四五十度程行クヲ認ムベシ而シテ大ナル二片モ漸次上行シ後全ク子房ヲ覆閉スベシ

扨何故蕚片ハ上方ヘ急行シ花冠ヲ脫出セシムルヤ未詳ナリ只余ノ考ヘニハ元來Veronica屬中ノ植物ハ蟲媒植物ナルモ亦自花授精即一花中ノ花粉ヲ以其雌蕊ヲ登ラスヿアル者ナレバ此おほいぬふぐりモ蟲媒ノミニアラズシテ自媒ヲモナスベク而シテ花冠ヲ上行セシメ柱頭ニ觸レシムルモ或ハ花冠筒內ノ毛ニ花粉ノ附着セルモノヲ柱頭ニ送ル爲メニテモアラント思ハル然レ𪜈未タ充分成跡ヲ見ザレハ確言シカタシ記シ以テ讀者諸君ノ教示ヲ乞ハントス

附言ス本邦產ナルいぬふぐり、かはぢさノ蕚片モ亦同樣ノ運動ヲナセリ

日本藥局方植物篇（前號ノ續キ）

會員　澤田駒次郎

三十　アカチヤ、ウェレック

羅甸名　Acacia verek, Guill. & Perr.

荳科

亞弗利加ニ自生スル小喬木ニシテ幹直立高サ二十尺許皮部ハ殆ンド平滑褐色枝抄ハ纖長圓柱形ニシテ紆曲シ若枝ハ其皮部暗綠褐色若クハ類白色ヲ呈シ節目膨脹シ三個ノ刺ヲ有シ此刺ハ鈎狀ヲ爲シ其一個ハ葉柄ノ下部

ニ位シ他ノ二個ハ柄ノ左右即チ托葉ノ位置ニ在リテ下部膨脹表面平滑ニシテ褐色ヲ呈ス葉ハ重翼狀ヲ爲シ互生シ長サ八分四五厘ヨリ一寸二三分ニ至リ葉柄椎ハ纖小ニシテ細毛ヲ密生シ托葉ヲ有セズ小翼葉三對乃至五對長サ四分二厘許小葉ハ對生ニシテ十對ヨリ二十對ニ至リ葉柄ヲ有セス長線狀ニシテ長サ一分四厘許或ハ鈍頂ヲ有シ或ハ鋭尖其質硬剛其色灰綠容易ク墜落ス花梗椎ハ葉腋ヨリ生シ其長サ一寸六七分乃至二寸五分餘圓柱形ニシテ纖長直立シ穗狀花ヲ綴ル花ハ細小ニシテ蕚ハ鐘狀ヲ爲シ先頂五個ニ缺刻シ殆ンド其半ハニ至リ截片狹小形チ三角軟毛ヲ帶フ花瓣ハ互ニ附着シテ鐘狀ヲナシ長サ大約蕚ニ倍シ先頂五個ニ缺刻シ其截片鋭尖ヲ有シ白色ヲ呈ス雄蕋數多花絲黄色糸狀ニシテ直立長サ花冠ニ三倍シ其下部互ニ附着シテ矮短ナル管ヲ爲シ瓣脚ニ嵌入シ葯ハ球形ニシテ細小ナリ雌蕋一個實礎ハ細小長圓其柄矮短花柱糸狀ニシテ雄蕋ヨリ長ク柱頭膨脹ス花後莢果ヲ結フ長サ一寸六七分ヨリ五寸餘幅六分餘莢中二個乃至六個ノ種子ヲ有シ其間隔凹陷シ種子ヲ有スル部分ノ他ハ扁平々滑膜質ニシテ暗色ヲ呈シ外面不完ナル網脉ヲ現出ス種子ハ扁球形ニシテ其中央ニ凹弓圓形ノ線ヲ有シ珠柄長クシテ褐色ヲ呈ス胚子ハ圏狀子葉ハ大ニシテ平面凸圓形ヲ爲シ根芽ハ細小微ニ突出シ蛋白質ヲ有セズ

本植物ハ熱帶亞弗利加西土塞内加爾砂地ニ自生シ蕃殖ス又尼羅沿岸諸國努北阿南部アトバラ(Atbara)信地等熱帶ノ地ニ産シ殊ニ哥爾多番ニ多シ但シ亞刺伯ニ産スルヤ否ヤ未ダ詳ナラズ

上等亞拉毘亞護謨ハ尼羅沿岸諸國ニテ本植物屬諸種ヨリ採集スルハ曾テ亞弗利加ヲ漫遊セシSchweinfurth氏ノ搜索ニ因テ詳カナリ此護謨ハ枝抄ヨリ自カラ滲出シ直チニ地ニ墜落ス之ヲ採收シテ埃及ニ回漕シ同地ニ於テ之ヲ一ト纏メトナシテ歐米諸國ヘ輸出スト

塞内加爾ニテハ從來護謨ヲ採集スト雖ヒ其原植物ニ付キ報告セシハ Adanbon氏ニシテ實ニ一千七百八十八年ナリキ當時塞内加爾ノ右岸ナル森林中ニ於テ嚤囉人ノ專業ニシテ其採集ハ主モニ冬月衆雨ノ後乾燥ナル北東風ノ時候ヲ以テス M. C. Martins 氏ノ調査ニ據レバ亞拉毘亞護謨ハ枝抄ノ肉叉狀ノ部位ヨリ多量ニ滲出ス殊ニ寄生植物即チ Loranthus 種類ノ生長ニヨリ大ニ其滲出ヲ增加ス氏ノ説ニ據レバ此寄生植物ハ L. Senegalensis. トス

L. Senegalensis. ハ其下部大イニ膨脹シ枝抄ニ挿入ス而シテ此挿入部ノ周圍ヨリ護謨ヲ滲出スルコト極メテ多量ナリト云フ又亞弗利加ニ產スル亞加失亞種類ニシテ下等ノ護謨ヲ滲出スルモノアリ此等ノ植物ハ其花球形或ハ小華頭ヲ爲スニ因リ異ナリトス其植物ハ即チ左ノ種類トス

一、Acacia tortilis, Hayne.

細小ナル喬木ニシテ亞刺伯、上部埃及ニ自生ス

二、Acacia arabica, Willd. (A. Nilotica, Desf. A. vera, Willd)

三、Acacia horrida, Willd. (A. Capensis, Burch. A. Karroo, Hayne.)

本植物ハ埃及ヨリ阿北西尼ニ至ル諸地ニ產シ西ハ塞内岡比亞ニ蕃殖シ印度ニテハ之ヲ栽植ス

四、Acacia gummifera, Willd.

五、Acacia Seyal Del. (A. Fistula, Schweinf.)

六、Acacia Ehrenbergiana, Hayne.

七、Acacia Stenocarpa, Hochst.

藥品　亞拉毘亞護謨　Gummi arabicum.

亞拉毘亞護謨ハ本植物ヨリ滲出スルモノニシテ日本藥局方ニハ亞加失亞種類ノ幹ヨリ滲出セシ護謨ヲ以テ藥用ニ供ス印度及ヒ合衆國藥局方ニハAcacia vera, Willd.其他ノ亞加失亞種類ヨリ滲出ノ護謨ヲ以テ藥用トス」

亞拉毘亞護謨ハ達刺侃篤護謨ノ如ク髓細胞等ノ多少變化シテ滲出スルモノニアラズシテ髓細胞皮壁ノ變化シテ滲出スルモノトス又Carré氏ハ脉管束ノ變化トス或云澱粉ノ變化トス

亞拉毘亞護謨ハ中性ノ液ニシテ或ル時期ニ在テハ其滲出極メテ旺盛ナルニ因リ幹枝ノ組織ヲ破壞スルコトアリ此液滲出シテ大氣ニ觸ルヽトキハ凝固ス故ニ殊更樹幹ニ搔裂ヲ施スノ必用無シト雖モ或ル地方ニ在テハ皮部ニ搔裂ヲ施シ其滲出ヲ容易ナラシムルト云フ

採收哥爾多番ニテ護謨ヲ採集スルニハ斧類ヲ以テ護謨ノ固着セシ部分ヲ合セテ截切シテ扁片ト爲シ籠類ニ收メテ運搬ス

本品ハ其質佳良ニシテ其收量ハ年々大約三萬「ハンドレットウィト」ニシテ多クハ尼羅河ヲ下シ亞勒散得ニ回漕スト

塞內加爾ニテ護謨ヲ採收スルハ第十一月即チ衆雨ノ後トス此時期ニ在テハ砂漠ヲ吹來ル乾風ニ因テ幹枝ノ皮部ニ自カラ破壞ヲ生シ護謨ヲ滲出ス然ル後大氣ニ觸レテ凝固ス此時期ヨリ採集ヲ始メ翌年ノ第七月頃ニ至ルマテ多少護謨ヲ採集シ其過半ハ皮耳多(Bordeaux)（佛蘭西地名）ヘ輸致ス或ル年ニ在テハ大約十萬「ハンドレットウィト」ヲ輸入スト又埃及ヨリ英國ヘ輸入スルモノ多量ナリト

Fluckiger, Hanbury兩氏ノ說ニ據レハ一千八百七十一年ニハ七萬六千三十三「ハンドレットウィト」一千八百

七十二年ニハ四萬二千八百三十三「ハンドレットウィト」ヲ輸入ス又合衆國ヘハ年々三十萬磅餘ヲ輸入スト云フ

（以下次號）

農業植物論（前號ノ續キ）

農學士 理學士 堀正太郎

農業植物ノ變化

生物ノ進化トハ生物ノ單簡ナル體制ヨリ複雜ナル體制ニ進ムヲ云フモノナリ此ノ進化ハ何ニ依リテ起ルカ即チ生物ノ體制變化ニ基スルモノニシテ生物ニシテ此性質ナカラシメハ單細胞ナル始原生物ハ遂ニ今日迄テ其原體制ヲ保支持續セサルヲ得ス模形的ノ創造説ニ依レハ生物ノ變遷性ヲ認メス故ヲ以テ一旦或種ノ生物トシテ地球上ニ現出セルモノハ初メヨリ今日迄テ其體制ニ變セサルモノトナセリ然レ𪜈進化ノ正理公論ニ隨ヒシ吾人カ今日見ル處ノ數千万種ノ生物ハ皆其初メ單細胞ヨリ起リテ漸化變遷シ來リタルモノトナスカ故ニ生物ニハ一種ノ體制ヲ變化スル處ノ機能アリテ複雜ナルモノニ進化シタルモノトス而メ事實ニ於テ今猶ホ各生物ハ不絶體制ヲ變シ又變セントスルノ傾向アルモノナリ

既ニ生物體制ノ變化ヲ識認シ生物ノ體制ハ萬古永久ニ不變固定ノモノニアラストセハ栽培ノ植物モ亦此公理ニ從ヒテ變セサルヲ得サルナリ

ドゥカンドゥル氏ハ曰ク植物ハ人工栽培ニ依リテ其原植物ト辨別シ難キ迄ニ變遷スルモノ甚タ稀レナリト夫レ未開人種カ栽培スル處ノ有用植物ハ决シテ山野ニ鮮少希奇ノ種類ヲ撰擇セルモノニアラスシテ必スヤ彼輩カ棲息地ノ四近ニ普通澤山ノ植物タラサルヲ得ス何トナレハ彼等カ嘗テ這般ノ有用植物ヲ野外ニ採集シタ

ルモ遇然種子根塊等ヲ遺牽シテ自生シタル處ノ植物ハ野生ト同種ニシテ播種栽培セハ勞力僅少收穫夥多ナルヿヲ實見シテ而シテ農業ノ起ルヲ見ルモノナレハ罕有ノ有要植物ヲ搜索シテ之ヲ移殖栽培セシモノト信ス可カラス然ルニ今日吾人カ見ル處ノ普通ノ農業植物ノ多クハ原野ニ自生スルモノ甚タ少ク其起原ノ疑ハシキモノ多キハドゥ、カンドゥル氏栽培植物起原史ヲ讀ンテ明カナリ夫レ農業植物ハ遠洋孤島ヨリ移殖シタルモノニアラス或ハ又未開見ノ地方ヨリ來リタルモノニアラス必スヤ農業民族ノ棲息シ繁榮セシ地方ヨリ初メテ起リタルモノタラサルヲ得ス而メ其原植物ハ又其民族棲息地方ノ山野ニ自生ナラサル可カラス然ルニ今日栽培ノ農業植物ニシテ其野生ニアルモノ十中ノ一ニ達セスドゥ、カンドゥル氏ノ說ヲシテ信ナラシメハ此事實ノ理由ヲ解スルニ苦シマスンバ得ス然リト雖モ今若シ野生ノ有用植物ヲシテ栽培ニ遠大ノ變化ヲ來シ今日之ヲ原植物ニ比シテ其異同ヲ識別シ能ハサルモノトセハ然シテ之ヲ解スルニ難カラサルナリ而メ又人文進化年處ノ經過ニ依テ地貌ノ變化氣候ノ異變其他種々ノ事情ニ制セラレテ原植物ハ稀少トナリ植物家ノ眼ニ觸レサルモ知ル可ラス或ハ又原植物ハ業ニ已ニ其種ヲ絶滅シタルヤ計ル可カラサルナリ

今引例舉證益々其然ル所以ヲ明ニセン動物ニアリテ其犬タリ猫タリ牛タリ馬タルヲ問ハス同腹ニ生シタルモノト雖𪜈遂ニ絶躰的ニ同一ナル能ハス而メ其色其躰形ノ稍々同樣ノ如キモノモ精密微細ニ注視看察セリ必スヤ一二ノ異點ヲ發見スルニ難カラサル可シ故ニ彼ノ牧畜家カ自家ニ馴養スル處ノ牛馬羊豚如何ニ其數拔百ノ多キニ達スルモ一目シテ他人處有ノモノト識別スルヲ得ベク人間ニアリテ一面識ノ知人ハ能ク之ヲ數千萬ノ人口中ニ判別スルヲ得ルニアラスヤ是レ即チ各個躰ニ多少ノ躰制ノ異點ニ目標タル可キモノアル所以ニ外ナラス植物ニアリテモ亦然リ同一植物ノ種子ヲ播種シテ生長セル處ノ秧ト雖𪜈多少ノ相違ヲ見ルヿハ同一ノ草

花園又ハ菜圃ニアリテ各植物ハ全躰ノ大サ生育ノ狀葉ノ形狀又ハ色澤花ノ形狀色彩斑紋果實ノ形狀香味皆多少ノ差異アリ而シテ又同種植物ノ同一實薿ニ生出セル種子ニアリテモ其秩ニ差異アルヲ免カレス予嘗テ或園藝家ノ言ヲ聞クニ自園ニ於テ栽培セル植木ニシテ他人ノ庭園ニ移殖シタル時ハ一二年ノ間ハ能ク自己ノ丹精ニ依リテ仕立テタルモノト他人ノ手ニ培養セルモノトハ判然ス可シト是レ則チ植物微細ノ異點ヲ熟知シ彼我ヲ判別スルノ炯眼ヲ以テ看破スルニ依レハナリ

斯ノ如ク其物ハ常ニ種々ノ原因ニ制セラレテ變化ヲ起スモノニシテ而シテ一度ヒ生物ノ變化シ初メハ累代已ムナク繼續スルモノナリ故ヲ以テ今日最モ古キ農業植物例セハ小麥ノ如キハ今猶ホ新變種ヲ生出スルヿ農業家ノ知ル處ナリ而シテ植物ハ生殖遺傳ノ特性ヲ有スルカ故ニ適當ナル撰擇ニ依テ一種ノ變化例令ヒ些小ナリト雖圧之ヲ重積シテ遠大ノ變化ヲ生セシムルヿヲ得ヘシ此故ニ人若シ栽培ノ果實ニシテ小顆酸味食用ニ不適當ノモノアリト假定セヨ而シテ此ノ果實ヲシテ大顆多漿甘味ノモノタラシメント欲セハ撰擇ヲ累子テ其希望ノ結果ヲ見ルニ至ル可シ其ノ是ニ至ル所以ノモノハ植物ノ變化ヲ累子タルモノニシテ此法ニ依リテ享受セル處ノ性質ハ容易ニ失フヿナク今日吾人ノ嗜好スル處ノ蜜柑、柿、梨、林檎其他野菜穀類花卉等ヲ生シタルモノナリ

フリッミューレル氏ガ嘗テ玉蜀黍ヲ以テ經驗セル處ノモノハ實ニ是カ適例ヲ示スモノナリ南米 Itajahy (ブラジルニアリ) 地方ニアリテ通常栽培スル處ノ玉蜀黍ハ穀穗（イア）通例十二列乃至十四列アリテ時ニ或ハ八列又ハ十列ノモノアリ而シテ其十六又ハ十八列ノモノハ實ニ僅少ナリ千八百六十七年播種ノ爲メ此種ノ玉蜀黍ノ穀穗百餘個ヲ購求シタルニ中ニ十八列ノモノ僅ニ一個アリタリ即チ此十八列ノ穀穗ヨリ種子ヲ取テ播種ニ收穫シタル處ノ穀穗ノ總數ハ二百〇五個ニシテ其中十八列ノモノ二十二個アリ他ニ一ハ上部十八列ニシテ下部ハ二十

列ノモノアリ又一個ハ上部十八列中部二十列下部二十二列ノモノアリ翌年十八列ヲ有スルモノヲ播種シテ穀穗總數四百六十ヲ得其中

十八列…………十八、二「ペルセント」
二十列…………四、四「ペルセント」
二十二列…………二、「ペルセント」

ナリ又翌年其二十二列ノ穀穗ヲ播種シテ收穫シ得タル處ノモノヽ中ニ一個ハ實ニ二十六列ノモノアリタリ

以上ハ在米ノミユーレル氏カ阿兄ノ送リタル處ノ書翰ノ端ニ見ヘタル處ノモノニシテ實ニ前論述シ來リタル處ノ植物變遷ノ實ヲ證明スルニ足ルモノナラン

抑モ植物ノ變化ハ一方ニ偏進スルモノニアラスシテ其局部ノ變化ハ全躰ノ變化テ集合シタルモノナリ變化ノ方針ハ能ク外界ノ狀態ニ制セラルヽモノニシテ同種ノ葡萄ト雖モ單ニ食用ノモノト釀酒用ノモノトハ其果實漿肉甘味ヲ異ニス是レ其目的用途ニ應ジテ人工ノ淘汰ニ依テ變化ヲ偏頗ナカラシメタルノミ同シ大根ニシテ宮重ノ如キ肥大ノモノアリ練馬產ノ如キ纖細ノモノアリ同シ Cabbage ニシテブロツコリー又ハコーリフラワーニアリテハ葉ノ形狀ニ於テハ差異ヲ見ザルモ花梗叢合シテ花頭ヲナシコールラビニアリテハ莖肥大シテ蕪菁ノ形狀ヲナス斯ノ如ク外觀異常ニ變化スルト雖モ其原植物ハ均シク是レ Brassica oleracea ヨリ起リタルモノナリト知ラハ植物ノ變遷ハ其方針ノ如何ニ依リテ何レニモ變スルモノナリ

次回ニ於テハ農業植物變化ノ源因ヲ說述ス可シ

（未完）

◎雜錄

○濃厚ナル海水ノ海藻ノ成長ニ及ボス作用

(J.R.M.S. Dec. 1891 p. 777).

ドクトルエフ、オルトマンス氏ハ種々ノ海藻ニ就キテ海水中濃厚ナル鹽分ノ海藻ノ成長ニ及ボス作用ヲ研究セリ其成績トシテ報スル所ニ依レバ氏ノ特ニ研究シタルハフークス屬ノ種類ニシテ海水中ニ含メル鹽分ノ度通常百分中一乃至一、八ノ時ニアリテ若シ急激ニ鹽分ノ增減アル時ハ海藻類ノ成長ニ有害ナリト然レ圧其變化徐々ナル時ハ左ノミ著シカラズ此有害ナル所以ハ細胞ノ鹽分ノ度ニ應ジテ遽ニ其緊張力ヲ變更スル能ザルニ因ルノミ而シテ種類ニ依リ此應變力ニ差等アルモノナリ淡水ノ增加スルニ依リテ海水ノ成分ニ變化アル時ハ之ガ爲ニ海藻類ノ分布ハ著シキ影響ヲ蒙ルトイヘリ

○寄生植物ノ變遷

Bulletin of Torry Botanical Club. XVIII (1891) ハ報シテ曰ク T. Meehan 氏ハ寄生植物ノ研究ノ後說ヲナシテ曰ク寄生植物ト普通植物トノ分別ハ到底判然タルヲ得ス通常見ル處ノ寄生植物ハ原來普通植物ノ如ク地上ニ生育シタルモノ、種々自然淘汰ノ結果終ニ今日ノ如キ寄生ノ生活ヲナスニ至レルモノ、如シ彼ノ Santalaceæ 檀香科ノ各種ハ半寄生ナリ Sarcodes sanguinea 及ヒ Orobanche 列當屬ハ花園ノ土壤ニ能ク生芽シ且ツ能ク生育スルナリ Monotropa 水晶蘭モ亦土壤中ニ植物質ノ少量アレハ充分生長スルヿヲ得

○植物ノ類化幷ニ蒸散作用

M. H. Tumelle 氏ハ葉ノ類化幷ニ蒸散作用ニ就キテ種々ノ試驗ヲナシタルニ次ノ如キ結果ヲ得タリ

大空中ニ炭酸瓦斯ノ痕跡ナク日光中ニアリテハ蒸散ヲ急卒ニス然レ圧日光中ニ蒸散ノ增進ハ反テ類化作用ヲ

妨碍ス葉綠ヲ有セサル處ノ植物ヲ日光中ニ置キ大氣ニ炭酸瓦斯ノ存在スルモ毫末モ類化作用ニ影響ヲ與ヘス

以上ノ事實ハ此ノ日光中ニ大氣炭酸瓦斯ヲ含有セサルトキニ當リ植物ノ蒸散ヲ增進スルノ理由ヲ證明スルニ足ル何トナレハ葉綠素カ炭酸瓦斯ノ分解スル處ノ勢力 energy ハ此瓦斯ノ存在セサルヲ以テ全ク蒸散作用ニ專ラナレハナリ

○甘蔗ノ寄生害菌 (Bot. Centralbl., XVII. (1891 p. 46.)

W. Krüger 氏ハ Java 島ニ於テ甘蔗ノ寄生害菌ヲ取調タルヿ左ノ如シ

"dust brand" ト稱スル病源ハ Ustilago Sacchari ト稱スル寄生菌ニシテ此菌ノ菌系ハ甘蔗ノ莖幹ノ組織內ニ侵入シテ莖枝ノ頂端ニ至テ胞子ヲ生ス

葉ノ赤斑病 "Red spots" ハ Cercospora Köpkei, sp. n. ト稱スル新種ノ害菌ニ依リテ生スルモノニシテ當初ハ葉ノ下面ニ生シ其色黃色ナリト雖𪜈其後葉ノ上面ニモ發生シ漸次赤色トナル其下面ニアル處ノ菌系ハ數多分岐セル處ノ枝ヲ生シテ多房ノ分裂子ヲ生ス、同種ノ病ハ又 C. vaginæ, sp. n. ノ寄生ニ依リテ起ルヿアリ

"Rust" 赤銹病ハ Uromyces Kühnii sp. n. ノ寄生ニ依リテ生ス現時ニ只此菌ノ焦燥胞子ヲ見ルノミ

"Sclerote disease" ハ其始メ葉ノ裏面ニ於テ銀白ナル菌系ノ形ニシテ其後淡黃色ノ菌核トナル此病菌發生史ハ未タ充分知ラレサルナリ

此外諸種ノ病氣ハ Pythium 及ヒ Bacterium Termo ニ似タル一種ノ Bacterium ニ依リテ生スルモノナラン

×○近刊植物書

理科大學教授博士松村任三君著

本草辭典　完一冊

方今印刷中ナル該書ハ英和對譯ヲ主トスレ𪜈梵語、印度地方諸語、支那語、亞剌比亞語、埃及語、邏羅語、馬來語等其他數ヶ國ノ語ト雖モ苟モ我國產ノ植物名ニ當ルベキモノハ之ヲ載テ餘スコトナシ其躰裁ハ先ツ洋語ノ下ニ羅馬字、假字兩樣ニテ和名ヲ記シ漢名アルモノニハ漢名ト其出處トヲ入レ藥品ノ如キハ藥物家所用ノ音譯名若クハ俗名ヲ載セ毎種其所屬ノ科名ヲモ記シタル廉價ノ袖珍書ナレバ初學ノ人ハ其刊成ヲ待ツベキナリ　書肆敬業社

○ふくじゅそう

れ、き、投

福壽草は早春寒を犯して黃花を開くを以て誰人も其名を愛でゝ歲首に翫賞するより又元日草などの異名あり此花は日中は開花し夜間は閉鎖すること誠に著しく午前十時頃より漸々開きて午後四時頃に至れば漸く瓣を閉ぢ夕に至て全く閉鎖すおのれ先つ年此ことに心付きしかども花の開閉は日光の充分なるに因るか將た温度の如何にあるかを確めずして過ぎければ玆年は之を極めんと思ひ立ち花開く頃より意を附けたりしに温暖の日には室内に置くも能く充分に開き天氣陰鬱として少しく寒冷なる時は庭園に置くも決して開くことなく氣候温暖なれ𪜈日光の直接なると間接なることに拘はらず開花せり又其開閉は朝夕にあるのみならで一日の中にても日の雲間より出でゝ暖かなる時は開花し日の雲間に隱れて寒き時ハ即ち閉花し日に何回となく開閉するを見たり之にて全く直接の光線とには拘はらで啻だ温度の一に因るものなることを悟れり何故に温度の寒き時に閉づるかは玆に說かずとも大方の人の知る處なるべけれど氣候の寒きにあたりて尚開く時は花の全面より熱を放散し其生活に宜しからざるを以て之を防がん爲に閉づること猶かたばみねむりぐさなどの葉の夜間閉合して睡

眠すると同じ花既に老ふる時は晝夜とも開きたる儘にて更に閉づるをなし花の開閉は多く媒虫の飛訪すると否とに因る者あれども福壽草の花に於てはおのれ充分に之を極めざれど此原因にはあらざるべしと思へり

此草の花莖は又能く陽向日性と云へる性質を現はすなり其は花莖常に日光の來る方向に曲る性を云ふなり花莖一度び日の方に向て弧形をなせるに當りて實に位置を變へ其脊面を日の方に向け置くときハ再び其方に回るを誠に著し此性は何れの植物にも存する處にして草と木とを問はざれども木ハ其莖など固き故に草の軟らかなる莖の如く著しからざるのみなるべし

偶々去る三月發兌の紙上ア、キ、氏のユキワリ草の花と云へる記文を讀みたるよりおのれが見たるまゝを記して他日の考を俟つのみ

〇孟宗竹

現今人の嗜好する竹の子てふものは孟宗竹の筍にして今至る所之を栽植し筍を採るのみならず其稈（みき）をも收むるは世人の知る所なり此孟宗竹を東京に移せし年月等は詳ならずと雖も文化十五年卯月廿六日出版の奴師勞之に云く（蜀山人著書齡七十の時）わが若かりし頃は、孟宗竹至てすくなし、大久保外山やしき門前腰掛外繋塲といへる石の榜示たちし所の農家に、植ありしを見にゆきし事あり（内山先生も、ともなひたり）其後、麻布六本木の植木屋にありしを見き、はじめ薩摩よりうつして、吹上の御園に植られ、其のち四つ谷大木戸の邊の田安の園に根をわかち給はりしより、所々にひろまれりとぞ、かの大久保にありしは、四つ谷の園より、わかてるにて、麻布にてみしは、秋月侯の屋敷より出しなるへし、一とせ秋月侯にて、孟宗竹の羹を食ひしに、味ひ、ことに美なり、是は

薩摩より、うつせる種によりてなるへし、其後染井の植木屋、根岸邊にひろまりしは、暫時のことなり、大久保百人町の、速水運藏といへる屋敷は、ことごとく孟宗竹を植置しなり」とあり　K. H.

○おほいぬふぐれ

植物學雜誌第一巻第二號大久保氏ノ一月ヨリ四月マデノ花頃中 Veronica Buxbaumii, Ten注ニ宍戸一郎氏上野公園ニ於テ採集セラレ同處ニ於テ甚ダ罕ナリトアリ右ハ小生去月十六日採集シ其際御報告致シ置タリ右ハ果シテ五年ノ昔宍戸一郎氏ノ採レルモノナルベキカ當今ニテハ隨分盛ニ蕃茂シ居レリ、尚ホ小生ハ府下ニ於テ他ニ其產地アルベキカ少シク注意セシニ三月三十日小石川御殿町（元久堅町）空地ニ於テ、四月二日麻布笄町路畔ニ於テ、同日同區櫻田町空地ニ於テ孰レモ幅一間長サ十間程ノ地ヲ密ニ被ヒ盛ニ開花シテ中々美觀ヲ呈セルヲ見タリ猶ホ探シナバ佳ナリ處々ニ分布セルヲ見ルベシトイヘド一ト先ヅ爰ニ之ヲ貴會ニ報ズ上野ト云ヒ小石川ト云ヒ麻布ト云ヒ東京ノ涯端ニアタル地ニアルヲ見レバ東京ニモ廣ク分布セリト見做シテ差支アルマジト思ヘルナリ爰ニ奇トモ云フベキハ孰レモ其陣取レル地細長クシテ（二方ニ長シ）絕テ四方ニ廣ク蕃茂セサルヿナリ之レ恐ラクハ外界日光氣候等ノ然ラシムルモノカ、追記シテ先進諸氏ノ教ヲ俟ツ

會員　大渡忠太郎

○三月下旬志州鳥羽ノ開花植物

志摩ハ東海道ニテ最モ暖カナル國デアリマス、其中ニテ鳥羽ハヤ、北ニ寄リタル處ナレ𪜈、ソレスラ尚同ジ三重縣下ナル伊勢ヨリハ餘程暖カデアル、夫故ニ櫻ノ花ハ通例三月下旬ニ滿開スルヿデアル、然ルニ本年ハ餘程寒サガ强キヲ以テ、例年ノ通リニハ參リマセヌ、小生ハ北伊勢ニ寓シ三月下旬ヲ以テ鳥羽ヘ採集傍々歸

省致シマシタ、處ガ大ニ其目的ガ違ヒマシタ、本年ハ雨ガ降ルヤラ風ガ吹クヤラ致シマシテ、晴穩ノ日ガ殆ドナク、何分非常ノ寒サニテ、三月二十八日ニハ雪ヲ降ラシマシタ、此樣ナルヿハ志摩ノ國ニテハ三十年ヤ四十年此方處デハナイ、何百年モ人ノ知ラヌヿデス、ヨリテ殘念ナガラ眞ノ採集ヲモ遂ケズ、風ヲ引キ込ミテ寓所へ戻リマシタ、サリナガラ開花セル植物ガ一モナイ譯デハアリマセヌ、乃チ小生ガ滯留中、日和山麓及ビ其四邊ノ山野ニテ開花セルモノ確ニ左ノ諸品アルヲ知レリ、

毛茛科

Isopyrum adoxoides, DC. ひめうず

罌粟科

Corydalis incisa, Pers. やぶけまん

十字花科

Cardamine hirsuta, L. var. sylvatica, Link. たねつけばな

C. Tanakae, Fr. et Sav. いはたがらし

Brassica chinensis, L. なたねな (播).

Capsella bursa-pastoris, Moench. なづな

菫菜科

Viola Japonica, Langsd. こすみれ

V. しはいすみれ

V. Verecunda, A. Gray. つぼすみれ

遠志科

Polygala sibirica, L. ひめはぎ

石竹科

Cerastium vulgatum, L. var. glandulosum, Koch. みゝなぐさ

Stellaria media, L. はこべ

S. uliginosa, Murr. のみのふすま

厚皮香科

Eurya Japonica, Thunb. ひさかき

Stachyurus praecox, Sieb. et Zucc. きふぢ

Camellia Japonica, L. つばき

風露草科

Oxalis corniculata, L. かたばみ

冬青科

Ilex integra, Thunb. もちのき

薔薇科

Rubus palmatus, Thunb. もみぢいちご

Fragaria indica, Andr. へびいちご

Prunus persica, Benth. et Hook. もゝ (栽植).

Pyrus Japonica, Thunb. var. Pygmæa, Maxim. くさぼけ (移).

虎耳草科

Chrysosplenium Grayanum, Maxim. var. ねこのめさう

山茱萸科

Aucuba Japonica, Thunb. あをき

忍冬科

Sambucus racemosa, L. var. Sieboldiana, Miq. にはとこ

茜草科

Galium gracile, Bunge. var? やまむぐら

G. aparine, L. やへむぐら

菊科

Gnaphalium multiceps, Wall. はゝこぐさ

Lapsana parviflora, A. Gray. やぶたびらこ

Taraxacum officinale, Wiggers, var. corniculatum, Rech. et Ziz. たんぽゝ

Lactuca Thunbergii, A. Gray. にがな

Petasites Japonicus, Miq.　ふき
Sonchus oleraceus, L.　のげし

桔梗科

Campanula circaeoides, Fr. Schm.　たにぎきやう

紫金牛科

Ardisia Japonica, Blume,　やぶかうじ

紫草科

Eritrichium pedunculare, A. DC.　たびらこ

玄參科

Mazus rugosus, Lour. var. macranthus, F. et S.　さぎごけ
Veronica agrestis, L.　いぬのふぐり

脣形科

Lamium amplexicaule, L.　ほとけのざ
Ajuga decumbens, Thunb. var. sinuata, F. et S.　きらんさう

瑞香科

Daphne Odora, Thunb.　ぢんてうげ(移).

大戟科

Buxus Japonica, Muell. Arg.　あさまつげ

蕁麻科

Nanocnide Japonica, Blume,　かてすさう

楊柳科

Salix brachystachys, Benth.　ねこやなぎ
S. padifolia, Anders,　やまやなぎ

百合科

Heloniopsis grandiflora, Fr. et Sav.　しやうじやうばかま

莎草科

Rhynchospora Wallichiana, Kunth.　いがくさ

禾本科

Poa annua, L.　いちごつなぎ
P　pratensis, L.　ながはぐさ
P　acroleuca, Steud.　みぞいちごつなぎ

此餘開花スルモノ多カラム、然レ𪜈充分採集ニ従事スルノ好機ヲ得ザリシヲ以テ此餘ニ及ブヿ能ハザリキ、今マヅ右確ニ開花セルモノト知レルモノヲ記シテ讀者諸君ノ參考ニ供ス

在伊勢　會員　梅村甚太郎

○カルヽ、井ルヘルム、フォン、子ーゲリー氏の傳

余は嘗て本誌第五十六號雜録欄内に於て氏が死去を報じ且その略傳を述べ尙ほ後日を期して氏が詳傳を本誌に寄せんとを讀者に約したりき頃日獨乙ベルリン植物學會の報告を一讀するに子ーゲリー氏と共に研究に従事せる無貳の學友シュヴェンデー子ル氏が記せる氏の傳あり因て左に其の大略を記して以て前約を履まんとす

池野成一郎

カルヽ、井ルヘルム、フォン、子ーゲリー(Carl Wilhelm von Nägeli)氏は千八百十七年三月廿七日を以てチューリッヒなるキルヒベルクに生まる父は醫を業とし且他人と結社して私立の初等學校を設立せり氏は幼にしてこゝに學び後ちチューリッヒなる高等中學校に入り千八百三十六年オスデルンに赴き新に設立せる大學に入りて醫を學び且オーケン氏の博物學の講義を聽けりこの時よりして氏は既に醫を嫌ひ植物學を修むるの志あり即千八百三十九年春去てジェ子バなるゲンフに赴きピラーム、ドカンドール氏に就學し後ス井ッツルランドのCirsius屬(菊科)に付論文を草す因て千八百四十年五月八日チューリッヒ大學よりドクトルの學位を得たり

その後氏はベルリンに至り一期間（千八百四十年の夏）ヘーゲル氏の哲學を學べりそれよりイエーナに赴き留まること半年、シュライデン氏と連合して一の植物雜誌を發行せり題して Zeitschrift für Wissenschaftliche Botanik といふ號を重ぬること四にして止む此の四冊は皆悉くネーゲリー氏の研究のみを記すその內にハ羊齒類の精虫の發見莖葉形成に於ける頂細胞及びその分裂の研究等ありイエーナ大學に於てはシュライデン氏顯微鏡實驗を教授す然れどもその敎授法の不整なる氏をして滿足せしむるに至らざりき

千八百四十二年の春氏はイタリアに旅行し同四十五年再びイギリスの西南海岸に旅行せりこの時氏は大に海藻を研究しその成蹟は載せて千八百四十八年著せる Die neueren Algensysteme にあり

千八百四十二年氏はチューリッヒ大學のプリバート、ドセントと爲り同四十八年員外教授となり三年を經てフライブルク大學の正教授となれり氏が後クラーメルと連合して世に公にせる大著述 Pflanzenphysiologische Untersuchungen の如き皆フライブルク在職中研究の結果なりとす

三年を經て氏が生國チューリッヒに新に工藝學校の設立あり氏その招きに應じこゝに至るチューリッヒにある間は氏が尤も不幸なる時にして氏は眼病を患ひ暫くその業を廢するに至れり

余（此文の原著者シュウェンデーネル氏自ら云ふ）が氏を知りしは正にこの時なり余はこの時未だ顯微鏡の使用法に熟せず即氏に就て之を修めたり又余は氏が講義を聽きたりその講ずる所は世間の教科書にある所と大に異り時には全くその見を異にし頗る時流と異なるを覺たり

千八百五十七年ミュンヘン大學の招きに應し教授の職に就くこれ氏が終身奉職せる所なり此の時余ハ氏が助手たりその始めは植物學實驗室の設なきにより顯微鏡實驗は之を氏が私宅に於て開きたれども後植物園內に

新に實驗室設立せられこゝにて之を開きたり

この間に於ける研究甚た多しと雖も今その重要なるものを舉ぐれば莖內に於て維管束通路の研究、根の起原及び生長（ライトゲブ氏と連合）細胞膜の偏り光線に對する作用、澱粉及び細胞膜の化學的造構、細胞膜の內部の造構、異種及び相の子の生成、Mechanish-physiologische Theorie der Abstammungslehre、下等菌類、醱酵及び分子の集合の研究等なり又ペーテル氏との合著Hieracium の分類上の研究及び余との合著Das Microskop此の時に出でたり

氏が著述に現出する所に因て氏が精神上の特徴を考ふるに先づ第一に最も著しきは嚴密なる數學的の思想これなり氏が一事一物を研究するや必ず其の物躰の數、大さ、スペースに於ける位置等を成るべく精密に調査するとこれなり即氏が研究中種々の紅藻及び苔類の成長史を見て知るべし氏はその頂部に於ける細胞の分裂方法を代數式を以て示したるに非ずや又その澱粉の研究を見よその中にはその膨脹の度、水分の量に付きたる計算あり又その張りの關係及び結果を示すに重學的の說あり又其の顯微鏡的物躰の偏り光線に對する作用の研究の如きは全く純正數學的光學に基ゐするに非ずや且又其の研究事項の數學に遠きもの即遺傳ふ關する如きをと雖も之を數學的に說明せり即蛋白質ミセラ或ハ遺傳の元素イジオプラズマ芽胞の大さ等を測りて以てダルウヰンのパンゲヌシスを駁したり

氏が精神上の第二の特徴はその思想の論理上嚴密なるとこれなりこれ氏が研究中理論に關する部を深く讀めば愈々明かなり即其のミセラの理論、インツスセプシオン說、醱酵の理論、ダルヰン說の批評に就き見れば明なり

第三の特徴は千八百八十四年世に出でたる Abstammungslehre にて知るべくその哲學的の考究に傾くことこれなり

晩弁氏は病に罹り暫くその講義を中止するの止む可からざるに至れり千八百九十、同九十一年冬イタリアふ至り療養怠りなかりしと雖もその效なしミュンヘンに歸り九十一年の五月十日午後二時遂に逝く享年七十四、嗚呼氏は我が植物學の尤も秀英なる學者よしてその研究力のごときその博識の如きは氏に匹敵するもの先人今人中或はこれあらんと雖もその思想の深奥なる氏に比すべきもの豈に他にこれあらんや氏逝くと雖も氏が著述は万世に殘り氏が研究の碑と爲り以て氏が芳名を後世に傳ふるならん

○槐

槐ハ支那及ヒ日本ニ普ネク産スル樹ニシテ歐羅巴植物園ニハ常ニ之ヲ栽植ス此樹ノ花部ハ Hwaehwaa ト稱シ黃色ノ染料トシ支那ニ於テ之ヲ用フルコト多量ナリ或ハ藍色ノ綿花ヲ綠色ニ變ズルニ用フ又 Endlicher 氏ノ說ニ據レバ莢果モ亦黃色ノ染料トス其乾燥ノ莢果ハ長サ八分四厘乃至三寸四分幅二分四厘乃至三分五六厘皺紋ヲ有シ肉質半透明ニシテ各種子ノ間隔多少凹陷ス一莢中六個ノ種子ヲ有スルヲ通常トス

（ダニエール、ハンブリー氏手記抄譯）

○はまさじ Statice japonica, Sieb. et Zucc.

小笠原利考氏ハ靜岡縣下有渡郡三保村ノ内塚（清水港波止場ニ相對シタル所）ニ於テはまさじ Statice japonica, Sieb. et Zucc. ヲ採集セラレタリ此植物ハ重ニ溫暖ナル北州地方ニ産スルモノナルカ同氏ノ話シニ依レハ同處ニテハ毎年六七月ノ頃開花スル由又土地ノ者ハ之ヲ刈リ採リ乾燥シ以テ燃料ニ供スル由ナリ

◎新刊批評

○藥用植物學下卷

本書ハ醫科大學教授下山順一郎氏ノ纂著ニ係ル一昨年出版セラレタル上卷ニハ植物學ノ總論ヲ記載シ大ニ好評ヲ博セラレタリ今回印行ノ下卷モ亦上卷ノ如ク印刷鮮明記事明瞭加フルニ頗ル精良ノ圖二百二十餘ヲ挿入セリ而シテ本編ニハ植物ヲ其相互ヒノ關係ニヨリテ區分系統シ藥用植物ハ勿論食用、裝飾用ニ供スル植物ヲモ記述セリ本書ハ單ニ藥用家ニ適スルノミニアラス凡テ植物ヲ學ハント欲スル者ノ爲メニ有益ナル良書ナリ

○植物學教科書上卷

此書ハ理科大學教授理學博士松村任三氏ノ編著ナリ本編ニ論述セル處ハ植物ノ器官、解剖、生理ニシテ卷尾ニ英和對譯植物語彙ヲ附加ス本書モ又植物學ヲ學フモノヽ爲メニ最モ裨益トナル良書ナリ本書ノ定價ハ金八十錢發行所ハ三省堂ナリ

○質問應答

●問

左ノ二植物ノ俗名及ヒ學名承り度候

海紅（貝原篤信大和本草中ニアリ）　寒菊（仝上）

安藤喜一郎

答

海紅ハ貝原ノ大和本草ニさゞんくわトアリ如何學名ハ Camellia Sasanqua ナリ

寒菊ハ仝書ニ冬菊ト仝シトアレハ學名ハ Chrysanthemum sinense ニシテ俗名かんぎくナリ

松村任三

●問

隱花植物中海藻類ノ名稱學名ヲ探知セントスルニ適當ナル英文分類書ニシテ圖畫精密ナルモノアレバ其書名價格等御敎示ヲ乞フ尤モ圖譜圖解ノ如ク圖畫ヲ主トシタル書籍ハ何レノ國語文ニテモ不苦

備前琴浦 T. N. F. F. S.

答

海藻類ノ分類ヲ記載シタルモノ頗ル多ク一々之ヲ示スニ堪ヘス若シ廣ク之ヲ知ラントセバ外國ノ書店ヨリ目錄ヲ取寄セテ見ラルベシ左ニ二三本邦產海藻ノ記載アル書名ヲ揭グテ其責ヲ塞クベシ

理學士 岡村金太郎

W. F. R. Suringar. algae Japonicae

G. V. Martens.-Die Dreussische Expedition n. Ost Asien Die Tange

WH. Harvey-Phycologia australica 古本百三十六マルク

F.R. Kjellman-Om Japans Laminariaceer Kützing-Tabula Phy Cologia

●問

普通植物學ニ就テ或ル農學士ニ疑點ヲ訂シタル事アルノミニテ未タ植物全般ノ用語ニ慣レス故ニ先年ヨリ貴會雜誌ヲ購讀シヲルモ悲哉未タ愉快ヲ感ズルノ地ニ達セズ故ニ雜誌慣用ノ學語ヲ知リ嘗テ附錄トシテ出版セラレタル白井光太郎氏ノ分科撿索表等ヲ漸々應用シ能フ學力ヲ養成スベキ邦文ノ書籍御敎示ヲ乞フ併セテ標本製作ノ注意ヲ詳記シタル書籍

靜岡 小川善太郎

答

松村博士著植物ノ內景及生理、植物學入門、植物學敎科書(本月中ニ出ズ)矢田部博士譯植物通解、丹波敬三氏普通植物學、齋田博士並染谷氏植物生理學、植物學入門、三好學氏（中等教育）植物學敎科書、岡村金太郎氏植物學敎科書等

三好氏ノ植物學敎科書並ニ植物通解等ノ中ニハ標本製作ノヿヲモ記載セリ又東京大學編纂學藝志林第七十五册ニ松村氏ノ植物採集並乾腊法ヲ見ルベシ

○東京植物學會錄事

○在靜岡會員小笠原利孝氏ヨリ左ノ金圓ヲ寄送セラレタリ

金壹圓也　小笠原利孝君

○去三月後本會ニ於テ入會ヲ許諾シタル諸氏ハ左ノ四氏ナリ

厚木訥平次君　鷹田磐次郎君

中村安太郎君　佐野喜代吉君

○三月廿六日第四土曜日午後第二時ヨリ本會月次會ヲ本郷理科大學植物學教室ニ於テ開ク來會員二十五名左ノ演舌アリタリ

「アイヌ」ノ植物名ノ組織　理學士　神保小虎君

○四月二十三日午後一時ヨリ本會役員撰擧會ヲ開ケリ來會員十名左ノ三氏當撰セラレタリ

東京植物學會々長　松村任三氏（再）

仝上幹事　堀正太郎氏（再）

仝上幹事　大久保三郎氏（再）

仝上幹事　澤田駒二郎氏（新）

○寄贈書目

國本	第九號	二册	殖産社（岡山）
大日本山林會報告	第百十號	一册	大日本山林會（東京）
東京醫學會雜誌	自六卷第四號至六號	三册	東京醫學會（東京）
氣象集誌	第十一年第二號	一册	大日本氣象學會（東京）
東京人類學會雜誌	第七十一號	一册	東京人類學會（東京）
北水協會報告	第七十號	一册	北水協會（札幌）
動物學雜誌	第四十一號	一册	東京動物學會（東京）
牧畜雜誌	自第七十五號至第七十七號	三册	牧畜雜誌社（東京）

寄贈書目

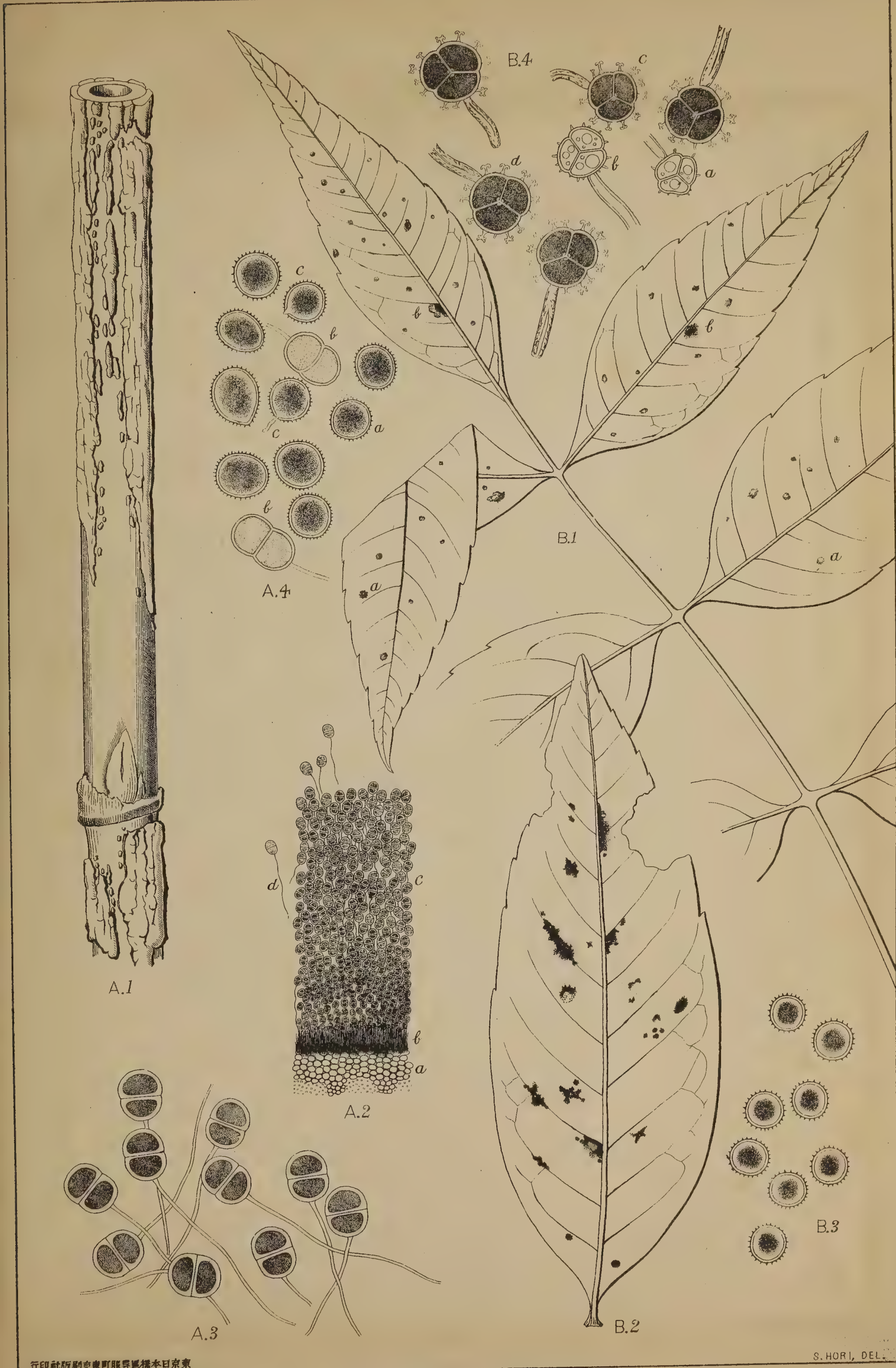
地學雜誌	第三十九號	一册	地學會（東京）
日本園藝會雜誌	第三十三號	一册	日本園藝會（東京）
日本藥業新誌	自第二百二十九號至第二百三十號	二册	衛生社（東京）
日本蠶業雜誌	第四十七號	一册	日本蠶業雜誌社（東京）
東洋學藝雜誌	第百二十六號	一册	東洋學藝雜誌社（東京）
農事調査表	卷ノ一	一册	

The Journal of Botany. No. 350

Gardeners' chronicle. No. 266-269-Vol. XI.

Bulletin of Miscellaneous Information, Royal Garden, Kew. No. 62. and appendix II.

Catalague of Botanical Works, Dulau & Co.


A.1
A.2
a
b
c
d
A.3
A.4
a
b
c
B.1
a
b
B.2
B.3
B.4
a
b
c
d
S. HORI, DEL.

東京日本橋區呉服町東京刷版社印行

A. PUCCINIA CORTICIOIDES, B. ET BR. *MEDAKE-NO-AKAGOROMO.* メダケノアカゴロモ.
B. TRIPHRAGMIUM CEDRELÆ, HORI. *CHANCHIN-NO-KUROSHIBU.* チヤンチンノクロシブ.

植物學雜誌第六卷第六十四號 (明治二十五年六月十日)

THE BOTANICAL MAGAZINE.

[Vol. VI. June 10, 1892. No. 64.]

Notes on Some Japanese Uredineae.

By Shōtarō Hori.

Puccinia corticioides, Berkeley et Broome.

Nom. Jap. Medake-no-akagoromo. メダケノアカゴロモ. (Plate VI. A.)

Puccinia corticioides, Berkeley et Broome, Berkeley in Jour. Linn. Soc., vol. xvi., p. 52, tab. 2.—Saccardo, Syll. Fung., vol. vii., pars ii., p. 731.—S. Hori, in Bot. Magaz., Tōkyō Bot. Soc., vol. v., p. 135.—S. Hori, in Icono. Fl. Jap., p. 143.

TELEUTOSPORES. Sori confluent, leathery, apricot-colored; spores 26-35 μ. long, 21-25 μ. broad, elliptical, pellucid, very slightly or not at all constricted at the septum, globose and colorless, when young; germinating pore indistinct; contents minutely granular, orange; cell-wall equal in thickness, smooth, almost colorless;

pedicels filiform, hyaline, colorless, variable in length according to the position of spores in the sorus, the longest about 1 mm. long.

UREDOSPORES. Spores pulverulent, light-brown, globose or subovoid, 20-27 μ. long, 20-24 μ. broad; epispores thin, echinulate.

Hab. On the stem of living *Arundinaria japonica*, Sieb. et Zucc.

I collected specimens of this fungus at Tōkyō on March 9 and November 8, 1891, and at Ōiso in the province of Sagami on May 28, of the same year. I have also received specimens collected on January 12, 1891, at Funao-mura in the province of Shimōsa.

The sori of this fungus make their first appearance on the stem of *Medake* or *Arundinaria japonica* at the beginning of November. At this stage the presence of the fungus is recognized by the decolorization of the epidermis of the internodes of the host, the epidermis being upheaved by the teleutospores of the fungus growing beneath it. The shape and size of the sori vary considerably; they form small roundish or linear patches, or elongated masses of irregular shape. When the edidermis of the part of the host attacked by the fungus is removed by means of a knife, the exposed sori are of a light-orange color. As the sori grow the epidermis of the host is naturally broken off, and they either become confluent and form leathery layers partly or entirely surrounding the internode of the host, or remain as isolated patches or specks. The spores are firmly attached to the substratum by their filiform pedicels, and form very compact masses. They are continually generated until the end of April, and push up one above another forming the thick layers which finally reach about 1 mm. in thickness. Towards the beginning of May the layers of spores or sori gradually become shriveled and somewhat discolored on the surface. At last the layers of spores assume a brown color, and becoming irregularly wrinkled peel off from the host. This peeling off of the layers of teleutospores is undoubtedly caused by the formation of uredospores underneath, which push up and separate the layers from the host. The uredospores thus exposed on the surface of the host are powdery and light-brown in color; they are easily blown away by the wind.

This curious species of *Puccinia* was first collected by the botanist of the Challenger expedition at Kōbe on April 28, 1875, and was described by the Rev. M. J. Berkeley in the Journal of the Linnean Society. As far as my observation extends, this fungus being found abundantly at different localities where it has been collected, cannot be uncommon on the stems of *Arundinaria* in Japan. The conspicuousness and beautiful appearance of the fungus must have attracted the attention of Japanese botanists both before and after the publication of Berkeley's description, but I have not yet been able to find any record of it in the Japanese botanical literature.

My repeated observation of the fungus within the grounds of my residence shows that the teleutospores first appear at the beginning of November, and continue to form until the appearance of the uredospores at the middle of May of the next year. Specimens collected at different localities at different times of the year also show the same fact. Mr. Berkeley in his description of the fungus did not give the characters of the uredospores. This was probably due to the fact that his specimens were collected at the end of April, therefore a little too early for the formation of these spores. For this reason De Toni in his *Sylloge Ustilaginearum et Uredinearum* does not place this fungus in any of the sections of *Puccinia*. But as it, uredospores are now known, it is evident that it belongs to the section *Hemipuccinia*, Schrœt.

This fungus does not seen to attack the *Arundinaria* plants of the first year's growth, or at least the spores of the fungus are not found on them; but it certainly attacks those two or more years old. When once attacked by the fungus the host is sooner or later completely killed.

Plate VI A. Fig. 1, part of stem of *Arundinaria japonica* attacked by the fungus (nat. size); 2, vertica section of sorus (× 95), *a* cortical parenchyma of *Arundinaria*, *b* hyphæ, *c* teleutospores; 3, teleutospores with pedicels (× 355); 4, *a* uredospores, *b* empty teleutospores, *c* germinating uredospores, (× 355).

Triphragmium Cedrlæ, nov. sp.

Nom. jap. Chanchin-no-kuroshibu. チヤンチンノクロシブ. (Plate VI. B.)

S. Hori, in Icono. Fl. Jap., p. 150.

TELEUTOSPORES. Sori amphigenous, scattered, on veins as well as in spaces between them, in irregular groups or in roundish spots, pulverulent, black; spores subglobose, radiately 3-celled, constricted at the septa, dark-brown, with minutely granular contents, 35-40 μ. in diameter, when young hyaline colorless and containing light brownish globules; 2 cells of the spore superior, 1 inferior and attached to the pedicel; germinating pores distinct, 1 in each cell; epispore scattered with once or twice bifurcate processes which are light brown and often 7 μ. long; pedicels colorless, hyaline, cylindrical, curved, rough on the surface, 30-70 μ. long, 5-10 μ. broad.

UREDOSPORES. Sori amphigenous, scattered, in roundish spots sometimes intermixed with pustules of teleutospores, orange, pulverulent; spores globose, orange with minute granular contents, 17-21 μ. in diameter; epispore echinulate.

Hab. On living leaves of *Cedrela sinensis*, A. Juss.

I collected specimens of this fungus at the Botanic Garden of the Imperial University on October 15, 1891, and at Honjō, Tōkyō, on October 20, the same year. The specimens from the Botanic Garden had teleutospores only; and the host plant was of a moderate size, about 15 feet high. Those collected at Honjō had both uredospores and teleutospores; and host plant was very young, about 2 feet hight, and surrounded and overshaded by many larger plants. The latter specimens show that the teleutospores are mostly found on old leaflets and the uredospores on young leaflets and petiolules. But a close observation reveals the fact that the uredospores are produced on young leaflets and afterwards superceded by the teleutospores as the leaflets grow older. On the parts of the leaflets where sori of teleutospores are found are seen whitish spots which on examination prove to be nothing but the remains of old or dead discolored sori of uredospores.

The teleutospores, when young, are light brown in color, and contain one or two larger globular bodie and a few minuts granules. At this stage the processes on the epispore are mere blunt and colorless protuberancès, but at a later stage they become longer and once or twice bifurcate and hooked at the apex. As the spores grow older, they become dark-brown, and the whole contents are broken up into minute granules. The pedicel of the spore, when young, is a thin-walled cylindrical body; but when old it becomes thick-walled; leaving a very narrow cavity in the centre, which looks like a longitudinal fissure when seen under the microscope.

This fungus may be included in the section *Hemitriphragmium* of Winter; all those species of *Triphragmium* in which the uredospores and teleutospores only are known and æcidia unknown, being brought together under this section. But according to Saccordo's *Sylloge Fungorum* there are only two species known in this section; viz. *T. Filipendulæ*, Passer. and T. *Acaciæ*, Cooke. From the present ungus the first of the two species differs in its stipitate uredospores, smooth teleutospores, and host; from the second, in its teleutospores having obtuse prickles, smooth and dark uredospores, and host. Among the species included in the section *Microtriphragmium* of Winters, of which the teleutospores only are known, *T. echinatum*, Lév., seems to be nearly related to the present fungus. But from the latter the former differs in its host and its teleutospores being trigonal, smaller in size, and having deciduous pedicels.

Plate VI. B. Fig. 1, part of young leaf of *Cedrela sinensis* attacked by the fungus (nat. size), *a* sori of uredospores, *b* sori with uredospores and teleutospores; 2, old leaflet of *C. sinensis* with sori of teleutospores (nat. size); 3, uredospores (×355); 4, teleutospores *a, b, c, d* in order of age (×355).

日本藥局方植物篇 （前號ノ續キ）

會員 澤田駒次郎

種類 Flückiger. Hanbury 兩氏ノ說ニ據レバ龍動府市場ニ於テ販賣スル護謨ノ主ナル種類ハ左ノ七種トス

第一 哥爾多番產護謨 第二 塞內加爾產護謨 第三 シユーアキン產護謨 第四 摩洛哥產護謨

第五 喜峯望產護謨 第六 東印度產護謨 第七 濠州產護謨

性狀

第一 哥爾多番產護謨（一名選拔土耳古產護謨）（又白色塞那爾產護謨）

Kordafan, Picked Turkey or White Sennar gum.

哥爾多番產護謨ハ極メテ信用スベキ報告ニ據レバ之ヲ滲出スル原植物ハ Acacia Senegal. ニシテ埃及ニテハ本植物ヨリ滲出シタル護謨ヲ Hathabi gum ト云フ其他亞加失亞諸種ノ植物ヨリ滲出シタルモノヲ通常亞拉毘亞護謨ト稱スルハ大イナル誤謬トス亞拉毘亞ニ於テ護謨ヲ採集シテ輸出スルコト無シト

本品ハ球形若クハ卵圓形ノ顆粒或ハ多稜ノ塊片ヲ爲シ豌豆大或ハ胡桃大ニシテ其破碎面ハ透明硝子樣ノ光輝ヲ有シ殆ント無臭淡泊粘滑性ノ味ヲ有シ其外面ノ龜裂ニ因テ稍々不透明ト爲リ脆弱性ニ變化スト

本品ハ二分ノ水ニハ徐々ニ溶解シ微ニ酸性ヲ徵スル澄明ノ粘漿ヲ生ズベシ此粘漿ハ醋酸鉛ニ因テ沈澱ヲ生ゼスト雖モ鉛醋若クハ珪酸鹽類ニハ白色澄明ノ沈澱ヲ生ジ硼砂又ハ鐵鹽類ニ因テ膠質ニ變ズベシ又強度ノ酒精ニハ溶解セス異重ハ一、三五五乃至一、四九一トス然レドモ設氏百度（華氏二百十二度）ノ熱度ヲ以テ充分ニ乾燥シタルモノハ一、五二五ノ異重ヲ有ス藥用ニハ本品ノミヲ用ヒ之ヲ亞拉毘亞護謨ト稱ス下等品ハ褐色、黃褐色若クハ赤褐色ヲ呈シ藥用ニ適セズ

第二　塞內加爾產護謨　Senegal gum.

本品ハ前種ノ如ク Acacia Senegal. ヨリ滲出スルモノニシテ通常大イナル塊片ヲ爲シ前種ニ比スレバ稍々大イニシテ間々鷄卵大若クハ午拳大ノモノアリ稀レニハ白色ノモノアリト雖モ其過半ハ黃色、赤黃色若クハ赤褐色ニシテ前種ヨリ微ニ脆ク其外面ハ龜裂スルコト少ナク其破碎面ハ貝殼狀ヲ顯ハシ內部ニハ氣球ヲ有ス

本品ハ水ニ溶解セズト雖モ強酸性ノ粘漿ヲ生ジ水ヲ以テ之ヲ稀釋スレバ澄明ナル小球ヲ生ズベシ此小球ハ一千八百八十一年ニ於テ Reimann 氏ノ發見セシ Metagummicacid ヨリナルモノトス

本品ハ其白色ノモノハ藥用トシ其他ノモノハ工業用トシ極メテ緊要ナルモノナリ但シ帶色ノモノハ溶液ト爲シ水化亞爾密紐謨若クハ硫酸ニ因テ漉過シ其漉液ヲ炭酸拔個謨ヲ以テ漉過スレバ脫色スベシ本品ハ小量ノ剝篤亞斯或ハ石灰ヲ加ヘタル水ニ溶解スト

本品ハ佛蘭西ヘ輸入スルコト多量ニシテ英倫ヘ輸入スルハ極メテ小量ナリ

第三　シユーアキン產護謨（一名タルカ產護謨）（又タルハ產護謨）Suakin gun, Talca or Talha gum.

Flückeger, Hanbury 兩氏ノ說ニ據レバ本品ハ Acacia Stenocarpa, Hochst. 及ビ Acacia Seyal, Delile. var. Fistula ヨリ滲出スル護謨ニシテ其質脆ク罕レニハ全形ノモノアリト雖𪜈通常破碎シテ小片ト爲リ類白色、褐色若クハ赤褐色ニシテ澄明ナリ

本品ハ水ニ溶解セズシテ强酸性ノ粘漿ヲ生ジ品位極メテ下等ナリ

第四　摩洛哥產護謨（一名モガトル產護謨）（又褐色バルバリー產護謨）

Morocco, Mogador, or Brown Barbary gum.

本品ハ Acacia arabica, Willd. ヨリ滲出スル護謨ニシテ褐色稜狀ノ塊片ナルヲ通常トス此護謨ハ乾燥スルトキハ破碎シ易クシテ其碎片ハ透明ニシテ脆弱ナリ

第五　喜望峯產護謨　Cape gum.

本品ハ主モニ Acacia horrida, Willd. ヨリ採集セル護謨ニシテ細小ナル塊片ヲ爲シ琥珀褐色ヲ呈シ品位極メテ下等ナリ

第六　東印度產護謨　East India gum.

本品ハ Acacia arabica, Willd. 及ヒ其他ノ Acacia 種類ノ植物ヨリ滲出スルモノニシテ主モニ孟買ヨリ輸出ス故ニ東印度產護謨ト稱スレドモ其全量ハ亞弗利加東土ヨリ產出ス

本品ハ品位下等ニシテ其形狀均等ナラズ各種ノ護謨ヲ混淆スルヲ通常トス

第七　濠洲產護謨（一名ワートル護謨）　Australian or Wattle gum.

本品ハ Acacia 諸種ノ植物ヨリ滲出スルモノニシテ通常大イナル塊片ニシテ濃黃色若クハ赤褐色ヲ呈シ透明ナリ而シテ水ニハ容易ク溶解シテ粘漿ヲ生ズベシ Flückiger, Hanbury 兩氏ノ說ニ據レバ本品ハ Acacia pycnantha, Benth. Acacia decurrens, Willd. Acacia dealbata, Lenk. Acacia homalophylla, A. Cum. ヨリ產出スト本品ハ間〻原植物ノ皮部ヲ混淆ス此皮ハ收歛性ヲ有スルニ因リ注意シテ護謨漿ヲ製スルニアラサレバ溶液中ニ鞣酸ヲ含有スト

以上列記シタル護謨ハ其性狀等ニ著シク差異アリ通常哥爾多番產護謨ヲ以テ上品トス英國藥局方ニ云善良ノ亞拉毘亞護謨ハ通常圓形ノ塊ニシテ長サ半「インチ」乃至一「インチ」殆ント無色ニシテ數多ノ小裂罅ニ因リ稍々不透明ト爲リ其質脆ク破碎面ハ光澤ヲ有シ味ハ淡泊ニシテ粘滑ナリ

本品ハ酒精ニ溶解セズト雖モ水ニハ溶解シ其溶液ハ鉛醋ニ因テ白色絮狀ノ沈澱ヲ生ズ又本品粉末ニ沃度溶液ヲ加ヘ或ハ沸湯ヲ以テ製シタル溶液ヲ冷却シタル後之ニ沃度溶液ヲ加フルモ紺青色若クハ藍色ヲ呈スルコト無シト

改正日本藥局方ニ云亞拉毘亞護謨ハ無色或ハ微ニ類黃色ヲ帶ブル球圓形或ハ多稜ノ塊片ニシテ外面ハ龜裂シ破碎面ハ透明ニシテ硝子樣ノ光澤ヲ有シ味ハ淡泊ニシテ粘滑ナリ之ヲ粉碎スレバ白色ノ粉末トナル

本品ハ二分ノ水ニ溶解シテ全ク或ハ殆ト澄明ノ粘漿ヲ生スヘシ此粘漿ハ微ニ酸性ノ反應ヲ徵シ酒精若クハ鉛醋ニ由テ絮狀ノ沈澱ヲ生スレトモ醋酸鉛溶液ニ由テ沈澱ヲ生ス可カラス又過格魯兒鐵ニ由テ凝固シ其際暗綠色ヲ呈ス可カラス

本品ヲ灰化スルモ百分ニ付キ三分以上ノ固性物ヲ殘留ス可カラストアリ

（以下次號）

富士山麓樹木小錄

理科大學教授博士　松村任三

左ニ掲グル木本植物ハ余ガ昨年ノ秋一日大久保、藤井ノ二氏ト駿州駿東郡御殿場ニ到リシキ富士山ノ東表口中畑村邊ニ於テ探討セル所ノモノナリ

Coniferae.　松柏科

Thujopsis dolabrata, *S. Z.*

アスナロ　楮　明檜　楅　羅漢松

シロビ

ヒバ

アスヒ

アテ

Thuja orientalis, *L.*

コノテガシハ　兒手柏　側柏　栽培ニ係ル

Cephalotaxus drupacea, *S. & Z.*

アブラギ　栽培ニ係ル

ベヽガヤ

ヘヾ

ヘトベ

ヘボ
ヘボギ
ヒヾガヤ
ヒヾ
ハリメガシ
ホロメガシ
オニガヤ
アスナロ
ベコ
ヘンダ
ガヤ

Torreya nucifera, *S. & Z.*
カヤ　榧　　栽培ニ係ル

Cupuliferae.　殼斗族

Castanea vulgaris *Lam.* var. japonica, *DC.*
クリ　栗

Quercus crispula, Bl. var. grosseserrata, Bl.

ミヅナラ

Quercus acuta, *Th.*

アカヾシ　血櫧

カシ

アラアカ

オホバガシ

Betulaceae.　樺木族

Alnus incana, *Willd.* var. glauca, *Ait.*

ヤマハンノキ

Ulmaceae.　楡欅族

Zelkowa acuminata, Pl.

ケヤキ

Berberideae.　小蘗族

Berberis Thunbergii, DC.

メギ　小蘗

Lauraceae.　桂樟族

Litsaea glauce, *Sieb.*

シロダモ

Lindera obtusiloba, *Bl.*

ダンカウバイ

ウコンバナ

Lindera preacox, *Bl.*

アブラチャン

コヤスノキ

ムラダチ

Malvaceae. 錦葵族

Hibiscus syriacus, *L.*

ムクゲ 木槿 栽培ニ係ル

Tiliaceae. 黃麻族

Tilia cordata, *Mill.* var. japonica, Miq.

シナノキ

Anacardiaceae. 漆樹族

Rhus semi-alata, *Murr.* var. Osbeckii, DC.

フシノキ

ヌルデ

Rhus Toxicodendron, L. var. radicans, Miq.

ツタウルシ　野葛

Rutaceae.　芸香族

Zanthoxylum schinnifolium, S. & Z.

イヌザンセウ　崖椒

Sapindaceae.　無患樹科

Staphyllea bumalda, S. & Z.

ミツバウツギ

Acerineae.　槭樹族

Acer pictum, Th.

イタヤカヘデ

Celastrineae.　衛矛族

Euonymus japonicus, Th.

マサキ

Euonymus europacus, L. var. Hamiltonianus, Mx.

マユミ　桃葉衛矛

Celastrus articulatus, Th.

ツルムメモドキ

Aquifoliaceae. 冬青族

Ilex crenata, Th.

イヌツゲ

Ilex Sieboldi Miq.

ムメモドキ　落霜紅

Rhamnaceae. 鼠李族

Berchemia racemosa, S. & Z.

クマヤナギ

Rhamnus japonica, Mx.

クロムメモドキ　鼠李

Ternstroemiaceae. 厚皮香族

Actinidia arguta, Pl.

サルナシ　獼猴桃

Stachyurus praecox, S. & Z.

キフヂ　旌節花

マメフヂ

Camellia japonica, L.

ツバキ　山茶

Papilionaceae.　蛾形花族

Wistaria chinensis, S. et Z.

フヂ　紫藤

Milletia japonica, A. Gr.

ドヨウフヂ

ナツフヂ

Cladrastis amurensis, Benth.et Hook. var. floribunda, Mx.

イヌエンジユ　櫰槐

Mimosaceae.　合歡族

Albizzia Julibrissin, Dur.

子ムノキ　合歡

Pomaceae.　棠梨族

Pirus rivularis, Nutt.

コリンゴ　棠梨

ズミ

ヤマナシ

ヤブリンゴ

カラナシ

Pourthiaea villosa, Decne.

カマツカ

ウシコロシ

Thymelaeaceae. 瑞香族

Edgeworthia Gardneri, Meissn.

ミツマタ 黃瑞香 栽培ニ係ル

Phildelphaceae. 山梅花族

Deutzia scabra, Th.

ウツギ 溲疏

ウノハナ

Araliaceae. 五加族

Acanthopanax aculeatum, Seem.

ウコギ 五加

Helwingiaceae. 靑莢葉族

Helwingia ruscifolia, Willd.

ハナイカダ 靑莢葉

Cornaceae. 山茱萸族

Cornus macorphylla, Wall.

ミヅキ

Cornus Kousa, Buerg.

イツキ 四照花

Aucuba japonica, Th.

アヲキ

アヲキバ

Styracaceae. 齊墩果族

Styrax japonicum, S. et Z.

エゴノキ 齊墩果

Oleaceae. 木犀族

Ligustrum Ibota, Sieb.

イボタ 水蠟樹

コ子ズ

Caprifoliaceae. 忍冬族

Viburnum Sieboldi, Miq.

ゴマギ 土欒樹

Viburnum tomentosum, Th.

ヤブデマリ

附 箱根植物方言

Enju. *Cladrastis amurensis.* イヌエンジユ

Kohazu. *Styrax japonicum.* エゴノキ

Mizu-kusa. Cornus macrophylla. ミヅキ

Nabe-wari. 富士方言 Coriaria japonica. ドクウツギ

Nebuta. Albizzia Julibrissin. 子ムノキ

Ōba-momiji. Acer pictum. イタヤカヘデ、ツタモミヂ

Ōbara. Zanthoxylum ailanthoides. カラスザンセウ

Yaen-suberi. Stuartia monadelpha ヒメシヤラ、サルタノキ

Yasha. Alnus firma ミ子バリ、ヤシブシ

酸類及アルカリ類ノ花瓣色素ニ於ケル反應ノ實驗

三本貞守

余ハ客四月初向ヨリ最寄ニテ獲タル普通花類ノ花瓣色素ノ酸類及鹽基類ニ對スル反應ニ就テ少シク意ヲ留メ左ノ結果ヲ得タリ但シ僅々ノ餘暇ニ實驗シタル迄ニシテ加ルニ當初ノ分ハ不充分ノ件アリテ多分ハ玆ニ省キタレバ不足ノ點ハ枚擧ニ遑アラズ

酸類及アルカリ類ニ對シテ全ク反應ナキ花瓣ハ余未ダ知ラズ適度ニ濃厚ノ該液中ニ浸セバ大抵ノモノハ皆瞬時ニメ様々ニ變色シ或ハ只一回變色スル者アリ或ハ同液中ニテ引續キ種々ニ轉色スルモノアリ或ハ少數ノ試藥ニノミ著シク反應ヲ呈スルモノアリ或ハ多數ノ試藥ニ對シテ多少變彩スルモノアリ反應ノ强サハ酸類ニ在テハ硫、硝、鹽酸ハ特ニ著シク醋酸酒石酸等ハ之ニ次ギ鹽基類ニ於テハ「アンモニヤ」尤モ著シク「カリウム、ソヂウム」之ニ次ギ石灰水ノ如キハ反應遲緩ナリ、而シテ特ニ注意スベキハ酸類ノ反應ハ概シテ鹽基類ノ反應ニ比シテ明ナル差異アルト同様ノ原色ハ概シテ同様ノ反應アルコトナリ今其一斑ヲ示サンガ爲メニ末尾ニ四月二十九日以降ニ得タル花瓣變彩ノ略表ヲ揭ク表中彩色ノ記號ハ單ニ大同ヲ標スルニ過ギザレバ同記號ト雖モ多少ノ異同アルヲ免カレズ數記號ヲ列記シタルハ其轉色ノ順序ニシテ第一行ノ記號ハ花瓣ノ原色ヲ示ス、

酸類及アルカリ類ニ對スル反應ハ前文記述ノ如ク花瓣自身ニ於テモ隨分意外ニ顯著ナル例アリト雖モ試藥稀弱ナルトキハ概シテ分明ナラズ特ニ紅色花瓣ノ酸類ニ於ケル黃色花瓣ノアルカリ類ニ於ケルガ如キハ强度ノ試藥ニ遇フモ著シキ異同ナシト雖モ若シ此色素ノ「アルコホル」溶液ヲ以テセバ更ニ數度ノ反應力ヲ加フルモノナリ、余ハ四月初旬及ビ中旬中ニ

モヽ (Pyrus persica)　　モヽノ變種 (Pyrus persica)　　ハナスワウ (Cersis chinensis)
ツバキ (Camellia japonica)

ヨリ都合四種ノ「アルコホル」溶液ヲ用意シテ試驗シタリ然レドモ其性質ハ孰レモ大同小異ナレバ稍精細ニ研究シタル「モヽ」(Pyrus persica Benth. et Hook, plenoflore rubra,) ヨリ得タル溶液ノミニ就テ記スヘシ

該桃花瓣ノ色素ハ直接ニ水ニ溶解セズ「エーテル」ニモ殆ンド溶解セズト雖モ「アルコホル」ニハ容易ク溶解ス、溶液ハ一回濾シテ清淨ニセバ少シク桃花色(但シ同種ノ變性紅瓣ノ「モヽ」ヨリ得タル溶液ハ少シク黄色ヲ帶ビ同ジク紅瓣ノ「ハナスワウ」ヨリ得タルモノハ殆ンド無色ニシテ「ツバキ」ヨリ得タルモノハ赤茶色ヲ呈セリ）ヲ帶ビ透明鮮麗ニシテ之ヲ熱セバ稍色彩ヲ加フト雖モ之ヲ冷セバ原色ニ復シ試驗紙ヲ浸セバ全ク中性ナルヲ證シ「アルコホル」溶液ニ於テハ元液ノ揮發ニ由テ其香臭ヲ辨スベカラズ又其味ヲ別ツベカラズ之ヲ放置シ若クハ徐々ニ熱シテ元液ヲ揮發セシムレバ深紅色ニシテ膠質ノ沈澱ヲ留メ廓大スルモ結晶躰ヲ認メズ中ニ黄色ノ微小粒ノ散在セルアリ(微小粒ハ「エーテル」及ビ「ベンヅール」ニ溶解セズ)該沈澱ハ稍特種ノ臭氣刺擊性ノ苦味ヲ帶ビ水及ビ「アルコホル」(紅色ニ)酸類(赤色ニ)アルカリ溶液(黄色ニ)ニハ容易ク溶解スレドモ「エーテル」、ベンヅール」ニハ溶解セズ

花瓣ヨリ直接ニ得タル「アルコホル」溶液ハ多數ノ稀酸類ニ對シテハ美麗ナル紅色ヲ呈シアルカリ類ノ稀液ニ遇ヘバ初メ綠色ニシテ次デ黄色ヲ呈スレドモ強度ノ酸及ビ強度ノアルカリニ接シテ或ハ一種ノ沈澱ヲ起スコトアリ而シテ稀酸及ビ稀アルカリ液ニ對スル反應ハ意外ニ顯著ニシテ余ノ數回ノ試驗ノ結果ハ左ノ如シ

試藥	計算ノ標準	檢出シ得ベキ最少量（水ノ容積又ハ重量ニ對シテ比較）

鹽酸 HCl	容積	1/7000
硫酸 H_2SO_4	〃	1/30000+
硝酸 HNO_3	〃	1/15000+
醋酸 $C_2H_4O_2$	〃	1/500
酒石酸 $C_4H_6O_4$	重量	1/5000+
サリシリツク酸 $C_7H_6O_3$	〃	1/5000
ホツターシ KHO	〃	1/50000
アンモニウム NH_4	〃（アンモニヤノ瓦斯ニテ計算）	1/100000
ソーダ NaHO	〃	1/50000+
炭酸ソーダ $NaCO_3$	〃	1/10000
石灰水 Ca(HO)	〃	1/25000+

本表中最少量トハ明カニ反應ヲ呈スル最少量ニシテ少シク實驗ヲ重ヌレバ遙カニ少量ノモノヲモ撿出シ得ベク且ツ此際使用シタル試藥ハ孰レモ純粹ノモノト見做シタルモノナレバ一層純良ノモノヲ用ユレバ或ハ數等ノ効力アルヤ必然ナリ（石灰ノ如キ特ニ然リ）而レドモ試藥ハ可ナリ慥ナル者ヲ得タレバ魯魚ノ誤ハナカルベシト信ズ此他石炭酸及「ピクリツク」酸ニ於テハ少シモ反應ヲ呈セズ（反應ノ有無ヲ知ラントスルニハ試驗管ニ水ト試藥ノ測ラントスル量ヲ入レ能ク振蕩シ之ニ色素溶液ノ數滴ヲ靜カニ點下セバ水ト「アルコホル」トノ接觸面ニ顯レタル反應ヲ白壁等ノ反射光線ニ透シテ見ルコトヲ得ベシ但シ元溶液ノ帶色ヲ注意スベシ）

反應力ハ溶液ノ種類ニ由テ多少ノ異同アリ同種ノ者ニテモ少シク變性シタル植物ヨリ得タルモノハ著シキ差異アリタリ、且ツ又一旦「アルコホル」ヲ蒸散セシメテ得タル沈澱ヲ更ニ適宜ニ「アルコホル」ニ溶解セシメバ一層反應力ヲ益スベシト考ヘ數回試ミタレドモ却テ其力ヲ減シタルヲ見タルハ或ハ試驗ノ際多少ノ變質ヲ起セシニ原ケルガ如シト雖モ未ダ詳悉セズ之ニ反シテ直接ニ花瓣ヨリ得タルモノハ已ニ二ケ月間壜中ニ放置スルモ未ダ少シモ變狀ヲ見ズ

余ハ次ギニ「アルコホル」溶液中ニ濾紙ヲ浸シテ之ヲ乾燥シ「リツトマス」紙ニ類スル試驗紙ヲ得タリ然レドモ精薄ノ紙片ニ於ケル反應ハ試驗管中接觸面ニ於ケル反應ノ顯明ナルニ比スレバ數等ノ差アリテ充分ノ成績ナキヲ以テ試驗藥トセンニハ常ニ溶液ヲ用ユルニ若カズ然レドモ花瓣自身ニ比スレバ遙カニ優レリ

生活セル花瓣ニ於ケル酸類及ビ鹽基類使用ノ結果ハ如何感應力ノ尤モ强大ナル溶液ハ如何ナル種類ヨリ得ベキカ花瓣樣蕚或ハ彩葉ニ就テハ如何等ノ疑問ニ就テハ余ハ未ダ研究ヲ重ネズ特ニ色素ノ化學的成分、性質ハ如何轉色ノ理由ハ如何、花瓣ノ彩色ニ就テハ共通ノ法則アルヤ否ヤ等ノ疑問ニ至ツテハ未ダ容易ニ喙ヲ容ルヽベカラズ

		原色	KHO	NHO	NH_4	H_2SO	HNO_3	$C_2H_4O_2$	HCl
スミレ	Viola Patrinii var. chinensis.	V.	Bgy	Bgy	Bgy	R	Pr	Pr	Pr
カザグルマ	Clematis patens.	V.	Gy	Gy	Gy	R	R	R	R
サギゴケ	Mazus rugosus var. macranthus.	V.	Gy	Gy	Gy	P	P	P	P
——	Iris sp.	V.	Bgy	Bgy	B	R	Pr	Pr	Pr

ムラサキツユクサ	Tradescantia virginica.	V.	BGY	BGY	BY	R	R	R	R
アヤメ	Iris sibilica var. orientalis.	V.	bgy	bgy	bgy	R	P^r	P^r	P^r
サルヒヤ	Salvia officinale.	V.	bo	by	by	R	R	P^r	P^r
ツヽジ	Rhododendron indicum var.	R.	gy	bgy	bvo	—	O	—	—
ツバキ	Camellia japonica.	R.	bgo	bg	bvo	—	O	—	—
タニウツギ	Diervilla versicolor.	R.	gy	gy	gy	—	y	—	—
ケシ	Papaver somniferum.	R.	bgy	bgy	V^{da}	—	O	—	—
ヘビイチゴ	Fragaria indica.	Y.	O	—	ORO	gv	b	—	g
タンポヽ	Traxacum officinale var. corniculatum.	Y.	—	—	—	b	—	—	—
カハホ子	Nuphar japonica.	Y.	O	—	—	g	go	—	g
———	Oenothera odorata.	Y.	—	—	—	b	b	—	b
ミヤコグサ	Lotus corniculatus var. japonicus.	Y.	O	O	—	g	bo	—	?
ミツバウツギ	Staphylea bumalda.	W.	y	y	y	y	y	—	y
———	Crataegus monogyna.	W.	y	y	y	y	y	—	y
———	Pyrus aucuparia var.?	W.	y	y	y	y	y	—	y
———	Patentilla sp.	W.	O	O	y	y	y	—	y
———	Iris Florentina.	W.	y	y	y	y	y	—	y

ツヽジ	Rhododendron indicum var.	W.	yo	yo	y	y	y	—	y
モッカウバラ	Rosa Banksiae.	W.	O	O	y	y	y	—	y
オホサンザシ	Crataegus sanguianca.	W.	y	y	y	y	y	—	y
ヤブデマリ	Viburnum tomentosum.	W.	O	O	y	y	y	—	y
コデマリ	Spiraea cantoniensis.	W.	y	y	y	y	y	—	y
カミツレ	Anthemis nobilis.	W.	y	y	y	y	y	—	y
ナニワイバラ	Rosa laevigata.	W.	y	y	YRO	y	y	—	y
シヾミバナ	Spiraea prunifolia.	W.	y	y	y	y	o	—	y
———	Melandryum sp.	W.	y	y	y	y	y	—	y
カラスノエスドウ	Vicia sativa.	P.	GY	GY	GY	R	R	R	R
ノミトリギク	Chrysanthemum roseum.	P.	GY	GY	Y	R	R	R	R
ボタン	Paconia moutan.	P.^L	GY	GY	GY	O	R	R	O
ボタン	Paeonia moutan.	P.^{De}	GY	GY	GY	R	R	R	R
シラン	Aletia hyathinthia.	P.	GY	GY	G	R	R	P	P^{De}
	Digitatis purpurea.	P.	GY	GY	GY	R	R	R	R

P—Purple **紫**　P^r—**帶赤紫色**　P^L—**淡紫色**　P^{De}—**深紫色**

V—Violet **桔梗色**　V^{Da}—**暗桔梗色**

B—Blue 青
G—Green 綠
Y—Yellow 黃
O—Orange 橙色
R—Red 赤
W—White 白

◎雜　錄

○銀杏ノ化學性分

白菓(Pih-kwo) 一名銀杏 (Yin-hang) ハ Salisburia adiantifolia, Sm. (Gingko biloba, L.) ノ種子ニシテ殼果樣ヲナシ形チ卵圓鋭尖ニシテ長サ半「インチ」乃至一「インチ」其兩側ニ縱走ノ稜線ヲ有シ外殼即チ種子膜ハ角質ニシテ平滑暗褐色ヲ呈シ破碎シ易シ仁ハ澱粉樣蛋白質ヨリ成リ狹長ナル子葉一對ヲ有シ柔軟赤褐ノ膜ニ因テ被包セラル本植物ハ支那及ヒ日本ニ於テ隨所ニ栽植スル喬木ニシテ其雄本ハ大約百五十年前ニ於テ歐羅巴ニ移植シ其雌本ハ近來ニ至リテ移植シ現今各植物園ニハ之ヲ栽植スルヲ常ニ目擊ス此樹歐羅巴ノ稍々溫暖ナル地ニ於テ美ナル梅實樣果實ヲ稔熟シ黃色ヲ呈ス Kaempfer 氏ノ說ニ據レバ此種子ハ消化ヲ增進スルノ効アリト此漿果ハ不快竄透性ノ乳脂酸臭ヲ發スドクトル Schwarzenbach 氏ハ化學的試驗ヲ爲シ依的兒ニ因テ一種特異ナル結晶性脂肪酸ヲ浸出シ之ニ gingkoic acid ナル名ヲ命セリ其集成ハ $C_{45}H_{47}O_3+H_2O$ トス而シテ尖頭狀

結晶束ヲナシ帶褐黄色ヲ呈ス其無色ノモノハ製シ難シ

本品ハ酒精依的兒ニハ容易ク溶解シ强酸性ノ反應ヲ呈シ華氏九十五度ニテ熔融シ五十度ニテ凝結ス又剝篤斯溶液ト共ニ熱スルトキハ石鹼様ノ泡合物ヲ生ス其他漿果中ニハ「ピクチン」、護謨、葡萄糖、枸櫞酸及ヒ葉綠ヲ含有ス

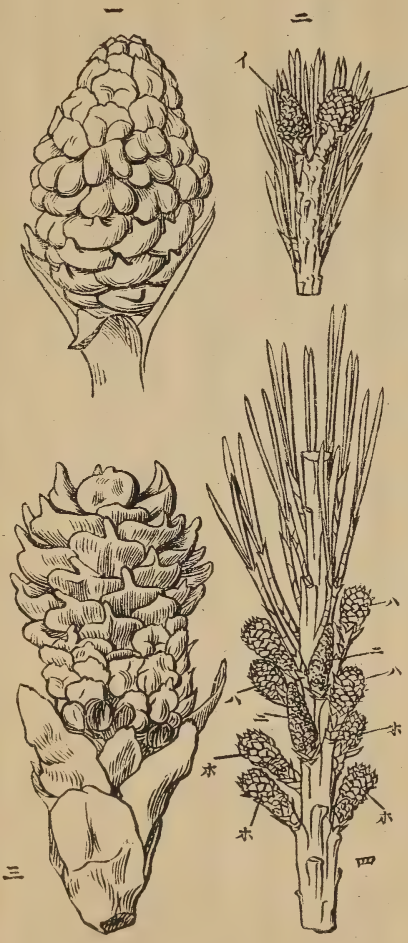
（ダニエール、ハンブリー氏手記抄譯）

○赤松ノ兩性花叢

(Bisexual cone of Pinus densiflora) 赤松黒松ナドニ於テハ雌花叢ハ新芽ノ先端ニ生ジ雄花叢ハ新芽ノ側方ニ生ズルヲ常トス而シテ此等ノ花叢ノ生ズルハ別々ノ新芽ニ於テスルヿモアリ同一ノ新芽ニ兩者ヲ生ズルヿモアリ然ルニ近日赤松ノ數多ノ花叢ニ於テハ頗ル異常ナルモノアルヲ見タリ即雄花叢ノ一部又ハ全躰ガ雌花叢ニ變ズルヿ是ナリ其一部變ジタル塲合ニ於テハ花叢ノ上部ノミ雌花叢ニ變ジ居レリ而シテ下部ニハ葯ヲ生ジ花粉ヲ有スルヲ見ルナリ且雄花叢ハ常ニ新芽ノ側方ニ群生スルヲ以テ全ク雌花叢ニ變ジタルモノ一部變ジタルモノ及少シモ變ゼザルモノガ雜處シ居ルヿモ往々アリ又同一ノ新芽ニテ雌花叢ハ通常ノ如ク其先端ニ存シ兩性ノモノハ其側方ニ生ジ居ルヿモアリMasters氏モJournal of Linnean Society, vol. VII. P. 314ニ於テ此ニ類スル兩性ノ花叢ヲ記サレタルガ是ハ黒松ニ就テ觀察サレタルモノナリ能ク注意セバ黒松ニ於テモ疑ヒナク之ヲ見ルヲ得ルナランサレ𪜈赤松ニ於テハ甚ダ多ク之ヲ見ルヲ得ルナリ殊ニ庭園ニ栽培シテ園丁ノ手ヲ入レタルモノニハ此ノ如キ花叢ノ生ジ易キガ如シ又稀レニハ新芽ノ先端ニ生ズル雌花叢ノ一部ガ雄花叢ニ變化シ居ルヿアリ之ハ未ダMasters氏モ記セザル所ニシテ甚ダ奇ナルモノナリ而シテ此塲合ニ於テハ花叢ノ上部ノ方ガ雄性ニ變ジ下部ハ雌性ノマヽニ存スルナリ之ヲ雄花叢ガ雌花叢ニ變ズル塲合ニ比スルニ其順序ヲ

ニ反對スルハ奇ト云フベシ此ノ如キ變形ノ花叢ニ就テ深ク研究セバ或ハ面白キ結果ヲ得ルヿモアルベシ雄花叢ノ雌花叢ニ變ズル標品ヲ始メテ余ニ示サレタルハ小林武磨田邊實ノ兩氏ニシテ其後雌花叢ノ雄花叢ニ變ズルモノヲ採集セラレ且マスタース氏ノ所說ニ就キテ余ニ語ラレタルハ藤井健次郎氏ナリ

左ニ掲グル圖中ニニハ雌花叢ヲ先端ニ生ジタル新芽ノ自然大ノ形ニシテ「ロ」ハ變形セザル花叢「イ」ハ其上部雄性トナリ下部ハ雌性ノマヽニ存スルモノ一ハ「イ」ノ放大圖ナリ四ハ雄花叢ヲ側方ニ生ジタル新芽ノ自然大ノ形ニシテ「ハ」ハ全ク雌性ニ變ジタル花叢「ニ」ハ少シモ變化セザル雄花叢「ホ」ハ上部ノミ雌性ニ變ジ下部ハ雄性ノマヽニ存スルモノ三ハ「ホ」ノ放大圖ナリ



○ヤマナラシノ葉柄

ヤマナラシノ葉柄ハヤヽ扁平ニシテ其横斷面ハ楕圓形ヲナシ其長軸ハ葉片ノ面ニ直角ヲナセリ此葉柄ノ構造

ヲ撿スルニ表皮ニハ多ク毛ヲ生ジ表皮ノ内部ニハ數層ノ細胞ヨリナレル組織アリテ此細胞ノ膜ハヤヽ厚ク所謂コレンキマ樣ナリ之ヨリ内部ニハ通常ノ柔組織アリ而メ維管束ハ中部ヲ占メタリ維管束ハ通常葉柄ニ見ル如ク一群ヲナサズメ概子三箇ノ群ヲナセリ時トメハ四群ナルアリ又群ノ區別判然ナラザル如キヿモアリ此群ノ排列ハ葉柄ノ楕圓形ナル横斷面ノ長軸ニ沿フテ相重ナルヲ通例トスレ𪜈横斷面ガヤヽ圓形ニ近キ場合ニ於テハ三群ハ鼎足ノ狀ヲナスヿアリ維管束ノ靱皮部(phloëm)ノ外邊ニハ靱皮纖維能ク發育セリ而メ此纖維ハ一般ニ木質ニ化シ居レドモ只葉柄ノ基脚ニ於テノミハ木質ニ化シ居ラザル者多シトス故ニ葉柄ノ此部ヲ縱斷セル截片ヲ作リ之ニアニリンクロライドノ如キ施藥ヲ加ヘテ顯微鏡下ニ撿スレバ同一ノ纖維ニメ一部ハ黃色ヲ帶ビテ其木質ナルヲ表シ一部ハ著色セズシテ未ダ木質ニ化セザルヲ表スベシ靱皮纖維ガ葉柄ノ基脚ニ於テノミ木質ニ化シ居ラザルヿハ多クノ植物ノ葉柄ニ於テモ然ルナリ維管束ニ圍繞セラル、部(即木髓部)ノ柔組織中ニ存スル細胞又ハ皮層(cortex)中ノ細胞ニハ往々結晶ヲ有スルヲ見ル此等ノ結晶ハ一細胞中ニ一個ヲ存スルヿアリ又ハ結晶群ヲナスヿアリ以上撿スル所ニ據ルニ此葉柄ニ於ケル維管束ノ排置ハヤヽ特異ナル者ナリ（此等ノ排置ハ主トシテ葉柄ノ中部ニ就キテ云フモノニシテ其上下ノ極端ニ於テハ其排置錯雜ナルヲ常トスルナリ

○木蘭類ノ蕾ニ就テ

玉蘭、木蘭、辛夷等ノ蕾ガ將ニ開カントスルニ方リテハ其形眞直ナラズシテヤヽくノ字形ヲナスヲ見ル而メ其凹邊ハ北ニ向ヒ凸邊ハ南ニ向フヲ常トス尤モ樹蔭等ニ栽培セルモノニ於テハ此規則ニ外ヅル、ヿアレドモ概メ云フトキハ其彎曲スル方向一定スルモノ、如シ是ハ蕾ノ生長ト關係ヲ有スルモノナルベシ

○薺ノ異狀果實

薺ノ果實ハ軍配「ウチハ」ノ形ヲナシ僞隔膜ニ因テ二胞ニ分割セラレ居ルハ能ク知ラレタル事ナルが稀ニハ二枚ノ僞隔膜ヲ生ジテ三胞ヲ形成シ其橫斷面ハ恰モ丁字形ヲ呈スル異狀ノ果實アリ此ノ如キ標品ハ眞砂野元氏ノ始メテ採集シテ余ニ示サレタルモノナリ

（以上四件マ、サ、報）

○被子植物分類法ノ一大變革

被子植物を分類するに當り之を大別して單子葉、双子葉の二となすの法は植物自然分類法開けてより以來今日ふ至る迄植物家の採用せし所にして方今學術隆盛の時と雖も之に異議を唱ふるものなくこれこそ實に自然のものとは信じたりき然るに今や此の分類法の自然に非ざるを明示する研究こそ起りたれその研究とは何ぞ他ならずボイテンツルク(Buitenzorg)植物實驗所長ドクトル、メルシオール、トロイブ氏がモクマワウ屬の雌性器の研究これなりその論文は題して Sur les Casuarinées et leur place dans le systéme naturel (par Melchior Treub) と云ふ氏はこの屬の雌性器を發生の始めより胚の生ずるまで詳に研究してその大に單、双兩子葉植物に異るとを發見しその異なる點十九ケ條を列擧したり今之を揭ぐれば

(イ)子房腔の生ずるや一たびハ直ちに閉ち然る後時を經て再び開く

(ロ)胎坐及び胚珠の形成法は一種特異なり

(ハ)芽胞を生ずべき組織は數百の細胞より成り判然他と區別すべき躰を成す

(ニ)芽胞を生ずる組織の大細胞は分裂して相重なれる躰を造成す

(ホ)大芽胞(即胚囊)は多數に生ず往々二十個以上に及ぶ

（ヘ）大芽胞の姉妹細胞は他の顯花植物に於ける如く大芽胞の發育に因り破懐せらるゝをなし

（ト）受精せらるとを得べき胚珠内の大芽胞の多數は生殖器を具有す

（チ）成熟すべき大芽胞の生殖器細胞はセルロースの膜を有すれども不成熟の芽胞ハ大抵無膜なり

（リ）大芽胞内の生殖器ハ一個の母細胞より生ず

（ヌ）生殖器の細胞の數は不定にして時として唯卵細胞のみのとあり或はその近隣に一個若くは二個の細胞を有するとあり

（ル）此の細胞は單双子葉植物に於ける媒介細胞即ちシナルギデーよりは寧ろ苔類、シダ類或は裸子植物の溝細胞即Kanalzellenに大に類似す

（ヲ）反足細胞は常に欠如す

（ワ）大芽胞は多く突起を生じその突起の或るものは胚珠の合點に達す

（カ）花粉管ハ胚珠に入るに珠孔よりせずして合點よりす

（ヨ）花粉管の合點より入るは大芽胞の突起（ワの條を見よ）の助けを假る

（タ）花粉管の先端は胚囊中生殖器の存在する所に附着す

（レ）花粉管の上部は分離しその分離したる部分は胚囊と共に成長す

（ソ）雄性細胞核は胚囊に引かれ（如何にして此の引力起るや不明なり）卵細胞にその下部より入る

（ツ）受精前に多數の內乳細胞を形成す

右ハたゞ氏か研究成績を略記するのみその詳細は宜しく原文に就て研究あるへし

以上のごとくモクマワウ屬は單双子葉植物と大に異るものあり故に之を從來のごとく双子葉植物の内に入れれくの失當なるを明なり既に双子葉にも單子葉にも屬せず果して然らば何類に屬すべきやトロイブ氏は被子植物の分類を次のごとく改めんとを論ぜり

被子植物
- Chalazogamen（モクマワウ科）
- Porogamen
  - 單子葉植物
  - 双子葉植物

Chalazogamen と呼ぶは花粉管が合點即ち Chalaza より入りて因みて名け（カ）の條を見よ Porogamen はその珠孔即 Pore より入るに因みて名けたるなり

トロイブ氏の論文の世に公にせられたるは昨年末のとなりき而して本年に至り早くも氏が研究の結果を採用し氏が發議せる分類法を採用するものあり分類學の大家ベルリン大學教授アドルフ、エングレル氏即ちこれなり氏は本年出版せる Syllabus der Vorlesungen ueber specielle und med. pharm. Botanik に於ては氏の說に從ひ被子植物をカラヅガーメンとポロガーメンとに別ちたり氏の如き大家にしてトロイブ氏の說に左袒す被子植物を單双子葉の二に別つの說廢しカラヅ、ポロガーメンの二つに別つの說大に植物學上に行はるゝや期して待つべきなり

池野成一郎

植物學ノ進化

マ、サ、生摘譯

此篇ハ Evolution of Botany ト題シ F. J. Wulling 氏ガ演述シタルモノニシテ植物學ノ漸次ニ進歩セル一斑ヲ窺フニ足ルヲ以テ其大意ヲ此ニ摘譯セリ

植物學ノ歷史ハ他ノ科學ノ歷史ト一般ニ其源始ヲ知ルヿ容易ナラズト雖蓋其始メテ起リタルハ人類ノ地球上

ニ現出セルト其時ヲ同フスト云フモ不可ナラザルベシ上古ノ人民ガ金屬ノ使用、武器ノ製造ヲ了知シ以テ動物界ヲ制御スルヲ得タルニ先ッテ其食用ニ供セシ物品ハ概シテ之ヲ植物界ニ資ラザルヲ得ザリシヤ明ナリ此等ノ人民ハ觀察力ノ啓發スルニ隨ッテ或ハ消化シ易キ根塊ヲ消化シ難キモノト識別シ或ハ有毒ノ莖葉ヲ無毒ノモノト辨別スルニ至リシナルベシ而シテ此ノ如キ知識ハ之ヲ發見者ノ一代ニ止メズシテ子孫ニ傳フルニ至リシモ亦疑ヲ容レザルナリ且又有益ナル植物ヲ發見シタル者ノ名ハ子々孫々ニ傳ハリテ恰モ神祇ト同樣ニ崇尊セラレタルノ塲合ナキニ非ルベシ蓋上古ノ神祇ハ此ノ如キ起原ヲ有スルモノニ乏シカラザルナリ上古ニ於テモ又今世ノ野蠻人中ニ於テモ食用又ハ醫療ニ供スベキ植物ヲ採集スルガ爲ニ一種奇異ノ儀式ヲ設クルモノナキニ非ズ蓋文化ノ未ダ進マザル人民中ニハ迷想妄信ノ深キヲ以テ幸福ヲ祈リ禍災ヲ禳フガ爲ニ種々ノ方便ヲ用フルヲ常トシ概子僧侶ト醫師トノ職業ヲ混同シ疾病アル者ハ神社ニ詣シテ醫業ヲ兼子タル僧侶ニ就キテ治療ヲ請フニ至レルナルベシ

Pliny ノ記スル所ニ據レバ昔時英國ニ住セシ Druids ナル一派ノ僧侶ハ槲寄生附子等ニハ不可思議ノ効能アルモノト信ジ此等ノ植物ヲ採集スルニハ特別ノ儀式ヲ用ヒタリト云フ即槲寄生ヲ伐ルニハ金製ノ刄物ヲ用ヒ且新月ノ顯ハレタルヨリ第六ノ日ニ於テ之ヲ伐ルヿニ定メタリ之ヲ伐ル者ハ勿論僧侶ニ限リ其時ニ方リテハ白衣ヲ著シテ其身ヲ淸潔ニシ白布ヲ鋪キテ植物ヲ其中ニ伐リ落シ其事終リタル後ハ二頭ノ牛ヲ供シテ犧牲トセリ此ノ如クシテ採集セル槲寄生ハ能ク毒氣ヲ消除シ又能ク石女ヲシテ妊娠セシムルノ効能アリト稱道セリ又附子ノ一種ヲ採集スルニハ日月ノ照サヾル時ヲトシテ預メ捧グルニ蜂蜜ヲ以テシ其植物ノ周邊ニ圓形ノ區劃ヲ設ケ左手ヲ以テ之ヲ伐取セリト云フ此ノ如クシテ採集セル植物ハ熱病ヲ治シ蛇毒ヲ消スル等ノ効能アル

ノミナラズ他人ノ親愛ヲ惹クノ作用アリト稱道セリ

景天ノ一種 Selago ナル植物ハ鐵器ヲ以テ之ニ觸レ赤手ヲ以テ之ヲ採ルトキハ其効能ヲ失フト稱セリ而シテ相當ノ服裝ヲ著ケ一定ノ儀式ニ從フテ之ヲ採集スルトキハ能ク病眼ヲ明療ニシ不慮ノ禍ヲ避クル等ノ効能アリト稱道セリ

特ニ Druids 僧ノミ然ルニアラズ如何ナル曚昧ノ人民ト雖全ク身躰ノ健康ニ留意セザル者ナク隨ツテ藥用ニ供スベキ植物ニ就キテ多少ノ知識ヲ有セザルハナシ元來植物ノ醫療上ノ効用ニ就キテ知識ヲ有スルハ之ニ伴フテ多少其植物ノ形躰上ノ知識ヲ有スルモノナルガ故ニ上古ノ人民ハ縱ヒ明瞭ニ某植物ノ形狀ヲ名狀スル能ハズトスルモ必ズヤ新ニ發見シタル有用ノ植物ハ之ヲ他人ニ言ヒ傳ヘ得ル程ノ形躰上ノ知識ヲ有セシヤ疑ナシ斯ク植物ノ形質ヲ言ヒ傳フルニ當テハ記載的ノ言語ヲ工夫シテ之ヲ用フルニ至リシナルベシ斯ノ如ク推斷スルトキハ植物學ノ諸分科中最モ古ク起リタルハ記載的植物學ナルヤ明ナリ

且又上古人ガ植物ノ知識ヲ得ルヿヲ勉メタルハ醫療上ノ効用ト關係ヲ有セシヲ以テ植物學ハ其原始ヲ醫學ト同フスルト云フモ可ナルベシ上古ニ於テ醫術ノ進歩セシハ極メテ徐々ナリシト雖之ニ伴フテ植物ヨリ得タル藥物ノ數ハ増加シ來レルナリ而シテ希臘ノ諸學校ニ於テ醫學ヲ教授シ始メタル時ニ方リ醫學ノ始祖ト稱スベキ Hippocrates ハ當時知ラレタル藥草ヲ記載シテ之ヲ世ニ公ニセシガ其數ハ三百種ニ過ギザリキ

紀元前三百五十年ノ頃 Aristotle 出デヽ植物ノ研究ニ從事セシモ其成績ハ不幸ニシテ後世ニ傳ハラズ其弟子 Theophrastus ノ記スル所ノモノハ後世ニ傳ハレリ是レ其師ノ研究ヲ基礎トセシモノナルベシ

Theophrastus ハ植物ノ性質原始等ニ關シテ哲學的ノ所見ヲ述ベタルノミナラズ凡五百餘種ノ植物ヲ記載セリ

然レドモ其種類ハ今日ノ植物學者ニハ十分知ラレタルモノニアラズ思フニ今後ノ植物學者ヲシテ其書ニ記載セル某々ノ植物ハ現今ニ存スル某々植物ノ祖先ナルヿヲ發見セシメ二千二百有餘年間ニ如何ナル進化ガ植物界ニ起リタルカヲ看破セシムルノ時アルヤモ知ル可ラズ Theophrastus ノ著書ハ今世紀ノ始メニ方リ獨逸語ニ翻譯セラレタリ

爾後第一世紀ニ方リ Dioscorides ハ羅馬ニ在リテ藥局方ヲ著シ八百餘種ノ藥草ヲ記シタレ𪜈其研究ノ方向ハ Aristotle ノ示セル所ニ異ナラズ

耶蘇教ノ隆盛ニ赴キタルニ方リ諸般ノ科學ハ退歩セシガ植物學モ此厄運ヲ免カルヽ能ハズ終ニハ久時暗黒ノ裏ニ沈淪セリ

第十二世紀ニ至ル迄ハ殆ド植物學上ノ著述ナシト謂フモ可ナリ偶マ斯學ヲ好ムノ徒アリト雖 Theophrastus, Dioscorides 等ノ諸先賢ニ心醉シ其書ニ就キテ註釋ヲ下スニ過ギサリキ

第十三世紀ニ至リ獨逸人 Albertus Magnus ハ奮ツテ植物ノ研究ニ從事シ植物書二十一卷ヲ著ハセリ

第十五世紀ノ終ニ方リ諸般ノ科學ガ復興スルノ隆運ニ際會シ植物學モ古學 (Old School) ノ羈絆ヲ脱セリ殊ニ之レガ爲ニ力ヲ盡シタルハ獨逸ノ諸先輩ナリキ Brunfels, Brunswick, Fuchs, Tragus, 及 Gessner ノ諸氏ハ獨逸國内ノ植物ヲ研究シ之ニ基キテ圖説ヲ著ハサンヿヲ勉メシガ終ニ其目的ヲ達スルヲ得タリ

殊ニ Gessner ハ植物ノ結實機器ヲ以テ緊要ノモノト認メ植物ノ分類ハ之ニ基カザルヲ得ズトノ意見ヲ有セリ」

以上ノ諸賢ニ繼ギテ起レルハ Peter Matthiolus, A. Cæsalpinus, Alpina, Columna, Dodonäus, Clusius, Lobelius, Delachamp, Gerard, Camerarius, Bauhin 兄弟等ノ諸氏ニシテ其研究ノ結果ハ第十七世紀ノ始メニ於テ知ラレ

タル植物ノ全數ヲシテ五千五百餘種ノ大數ニ達セシメタリ植物ノ數斯ク增加スルニ隨ヒテ之ヲ分類スルノ必要起レリ Lobelius（一五七〇）ハ植物界ヲ樹木、草本、羊齒類、百合類等ノ諸類ニ區分セリ其後 Cæsalpinus ハ Gessner ノ意見ニ基キテ果實及種子ノ緊要部ヲ基礎トシテ植物ヲ分類セリ氏ハ後來 Linnaeus ノ仰ギテ分類學正派ノ始祖ト稱セシ人ニシヲ其分類法モ之ヲ繼承セシ人ニ乏シカラズ氏ハ各個ノ植物ヲ記載スルヿハ之ヲ勉メズ大ニ概括スル所アランヿヲ期セリ而シテ哲學的ノ演繹ニ依リ自然分類ハ結實機器ニ基カザル可ラズトノ確信ニ達セリト云フ氏ノ分類法ハ此ノ如クシテ起リタルガ故ニ頗ル緣因ノ遠キ諸群ヲ合シテ同類トスルノ弊ニ陷井ルヿアリキ

Bauhin 家ノ兩兄弟モ植物學ノ爲ニ力ヲ盡スヿ尠ナカラズ John Bauhin ハ其著書 Historia Plantarus Universalis 中ニ於テ大ニ Loberius ノ分類ヲ贊成シ外貌ノ近似ヲ基礎トレテ植物ヲ分類スルヿヲ勉メタリ Caspar Bauhin ハ多數ノ植物ヲ發見セシノミナラズ當時斯學ノ一大通患タル同物異名ヨリ起レル混亂ヲ整理セリ氏ハ又タ Phytopinax ナル書ヲ著シテ當時（一五九六）知ラレタル植物ヲ網羅シ後又（一六二三）六千餘種ノ植物ノ名稱及異名ヲ記シテ之ヲ世ニ公ニセリ此書中ニ記スル所ハ其頃已ニ發見セラレタル亞米利加洲ノ諸植物ニモ及ベルナリ

植物學ハ漸次ニ隆盛トナリ當時已ニ高等ノ諸學校ノ教科中ニ加ヘラル、ニ至レリ大學ハ之ニ先ツテ斯學ヲ敎授シ居レリト云フ又植物採集ノ爲ニ遠征ヲ企圖スル者ニ乏シカラズ Clusius ハ殆ド歐羅巴ノ全土ヲ跋涉シコ Alpini ハ亞西亞ノ諸部ヲ探撿セリ

Clusius ハ宗教改革ノ後ニ出デ、科學ヲ古學派ノ空想中ヨリ救ヒ上ゲタル諸先賢ノ隨一ニシテ眞誠ノ科學ハ實

物ノ研究ニ因テ得ル所アルベク决シテ空論空說ヲ結構スルモ其益ナカルベシト唱ヘタリ氏ハ又古學派ノ教示セシ所ヲ穿鑿シテ其當否ヲ試驗シ科學ニ及ボシタル宿弊ヲ排除セリ氏ノ佛蘭西及濠斯太利ニ旅行スルヤ許多ノ新植物ヲ發見シ之ヲ精密ニ記載セリ其研究ノ成績トシテ世ニ出デタルハ Rariorum Plantarum Historia ニシテ是レ實ニ當時ノ植物書ノ翹楚タリ氏ト時ヲ同フシ又ハ氏ニ先チタル學者ト雖多數ノ植物ヲ發見シテ之ヲ記述シタルノ一事ニ至リテハ氏ニ數步ヲ讓ルヤ明ナリ

（未完）

○植物葉ノ防雨法

嘗テ Herr T. R. Jungner氏カ地球上最モ降雨多キ地方ナル Cameroon Mountains ニ生育スル處ノ樹木ニ就テ如何ナル方法ヲ以テ雨滴ノ濕潤ヲ防クカヲ看察シタルニ此山上ニ生育スル處ノ樹木ノ葉ハ多クハ革質平滑ニシテ頂端銳尖雨ノ葉上ニ降ルモノ直ニ葉面ヲ流シ去リテ滯スル處ナシ是ヲ以テ黴菌、藻類ノ如キハ濕潤ノ葉面ニハ速ニ寄生シテ大ニ葉ヲ害スルモノナリト雖𪜈以上ノ方便ニ依リテ以テ此害ヲ少フス故ヲ以テ他降雨少キ地方ヨリ移植セル處ノ植物ハ終ニ此生物ノ害ヲ免カルヲ得スト日本ノ某學者ハ嘗テ說ヲナシテ曰ク葉ハ多ク凹溝アル葉柄ヲ有ス是レ或ハ雨滴ノ葉面ニ落チ流下シ去ルノ便利ヲ得タルモノニ外ナラサル可シト此說或ハ眞ニ適カラン

○芽ノ保護

温帶地ノ實帶地方ニテハ寒威ヲ防ク爲ニ植物ノ芽ハ鱗片ヲ以テ被護セラル「木蘭ノ如キハ刺毛アル鱗片ニテ被ハレテハ樹ノ芽ハ鱗片上ニ膠樣ノモノ分泌シテ之ヲ保護スルヿ人ノ能ク知ル處ナリ然レ𪜈熱帶地方ニアリテハ芽ハ常ニ空氣ノ乾燥ト炎熱ノ防禦ニ方便ナカル可カラス M. C. Potter 氏ハ林娜學士會報文第二十八卷ニ

熱帶地方ノ植物芽ノ防禦法ニ付キテ説明ヲ與ヘテ曰ク第一芽ハ托葉ヲ以テ保護セラル第二嫩芽ハ其位置ニ依リテ第三生長セル葉ノ陰影ニ隱ル、ヿ第四ゴムノ分泌ニ依リテ以テ急激ナル水ノ蒸散ニ依リ又ハ炎威燒ク如キ熱ニ依リ芽ノ凋落ヲ防クナリト

○おほあみがさたけ

會員理科大學助教授理學士菊池安氏ノ麹町ナル居宅ノ庭園ニ五月上旬大サ四寸及至七寸ノあみがさたけノ一種數本生セリ之ヲ驗スルニ Morchella Smithiana, Cooke ニ相違ナシ依テ大久保三郎氏ハおほあみがさたけの和名（新稱）ヲ附セリ

○雪上ノ黴菌

M. Woronin 氏ハ Finland ニ於テ春陽積雪將ニ溶解セントスルトキ雪上ニ屢々菌糸ノ發育スルヿヲ見タリ此菌糸ハ動物ノ排泄物ヨリ多ク來ルモノニシテ此菌糸ヨリ通常ノかび黴菌（Mucor）ノ發生スルヲ見タリ又積雪全ク消ヘテ後前者ト異リタル處ノ菌糸再ヒ顯ハル此菌糸ハ終ニ Penicilium ノ菌核ニ似タル小形ノ菌核ヲ生スル此發生ハ日中ノ温度氷點以下ニアリテ能クナスモノナリト

○びやくしんのあかきくらげ

四月下旬ヨリ五月上旬びやくしんノ幹莖ニ橙黄色ナル寒天ノ如キ或ハ木耳（キクラゲ）ノ如キモノ生ス晴天ノ日ハ乾燥シテ一定ノ形ヲ存シ其色稍帶赤褐色ナリ然レ𪜈一旦降雨ニ遭遇セハ寒天様ノ粘質ナル塊トナリ遂ニ地上ニ墜ツ之ハ Gymnosporangium sp. 焦燥菌科ノ一種ニシテ和名ヲびやくしんのあかきくらげト命セリ

（土屈子）

○静岡縣ノはまぼう

はまぼう (Hibiscus Hamabo, Sieb. et Zucc.) ハ當静岡縣ニ於テ伊豆國賀茂郡手石及駿河國有渡郡三保ニ産ス兩地共ニ毎年七八月ノ頃花ヲ開キ三保ニハ二丈餘ニ達スルノ大木アリ而シテ此植物ハ右兩地ノ外本縣下ニ於テ未タ聞見シタルコトナシ

○静岡近傍ノありどほしトねず

静岡近傍ノ諸山ニハありどほし (Damnacanthus indicus. Gaertn.) 最モ多ク繁生シ目下盛ニ開花ス而シテ大井川以西ニ叢生スル所ノねず(Juniperus rigida, Sieb. et Zucc.) ハ静岡近傍ニ於テ殆ド其類ヲ見ズ

右二件　小笠原利考報

◎質問應答

質問　越後國加茂町　早田文造

向日性 (Heliotropism) トハ如何ナル作用ニ依リテ起ル者ナル哉御教示ヲ乞フ

應答　會員　A B 生

向日性ノ起ルヤ植物ノ幼部ガ日光ノ刺戟ニ感應スルニ依ルナリ抑モ植物ノ幼部ハ之ヲ組成スルニ幼稚活潑ナル細胞體アリ其細胞内ニハ生活ヲ有スル原形質アリテ存スルガ故ニ即チ原形質カ日光ノ刺戟ニ感應スルモノナリト謂フベシ

質問　早田文造

光線ノ原形質ニ於テハ如何ナル作用ヲ爲スモノナルカ

應答　會員　A B 生

今之ニ答フルニ無被原形躰ノ一例ヲ以テスベシ即チ游子 (Swarm-spore) ノ游走スルヤ光線ニ至大ナル關係ナシ(暗所ニテモ運動ス)ト雖モ唯其運動スル方向ヲ支配スルヿアリト云フベシ何ゾヤ游子ハ通常光線ノ薄弱ナル方ニ向フコト是レナリ

問　早田文造

高等ナル植物ニハ如何ナル部分カ器械的保護ヲナシ如何ナル部分カ器械的保護ノ結果ヲ受クルモノナルヤ及ヒ之ヲ計ル方法ハ如何ン

答　編者

問題ノ意味充分判識シ難シ然レ圧察スルニ高等植物ハ外圍ニ對シテ相當ノ防禦的機關ヲ具備シテ植物体ヲ保護スルモノナラン然ラハ其保護機關ハ如何ナルモノナルヤトノ問ニ外ナラサル可シ此問題ニ答フルニ適應シタル論題ノ本紙上ニ掲載セルモノ堀正太郎氏ノ「植物防禦機關ヲ論ス」ト題シテ植物學雜誌第三卷卅四號及第四卷卅六號ニアリ參照スベシ疑惑自ラ了然タラン

問　早田文造

英語ノ(Plasmodium)トハ如何ナル者ニ御座候ヤ

答　編者

Plasmodium トハ變形菌(Myxomycetes)ノ游走子(Swarm-cell)即チ眞ノ芽胞ヨリ内容ノ原形質流出(即チ發芽)シタルモノニシテ覆フニ被膜ナク此游走胞子數多相結合シテ恰モ一ノ大ナルアミーバ樣ノ無被原形質ノ体ヲナス Cienkowski氏ハ之ヲ名ケテ Plasmodia トセリ

質問　靜岡　秋山梧樓

通例植物ノ名稱(學名)ヲ記スルニハ其下ニ略字ニテ始メテ其種名ヲ命シタル學者ノ名ヲ付セリ此學者ヲ知ラント欲セバ如何ナル書ニ依レバ知リ得ルヤ若シ適當ノ書籍ナケレバ其小傳本雜誌上ヘ御登錄御敎示有之タシ

答　編者

學名ノ下ニ略字ニテ名ヲ付シタル其略字ノ解ヲ知ラントナレバ大久保齋田染谷ノ三氏ガ共編セラレタル植物學字彙中「著者ノ略名」ノ部ニ就キ見ラルベシ然シ此學者ノ小傳ヲ悉ク記ルセシ書籍ノ如キハ無之又之ヲ調ブルハ頗ブル難事ニシテトテモ只今ノ處ニテ調ベテ居ル暇ハ之ナキニ付其小傳登錄ハ致シ兼候

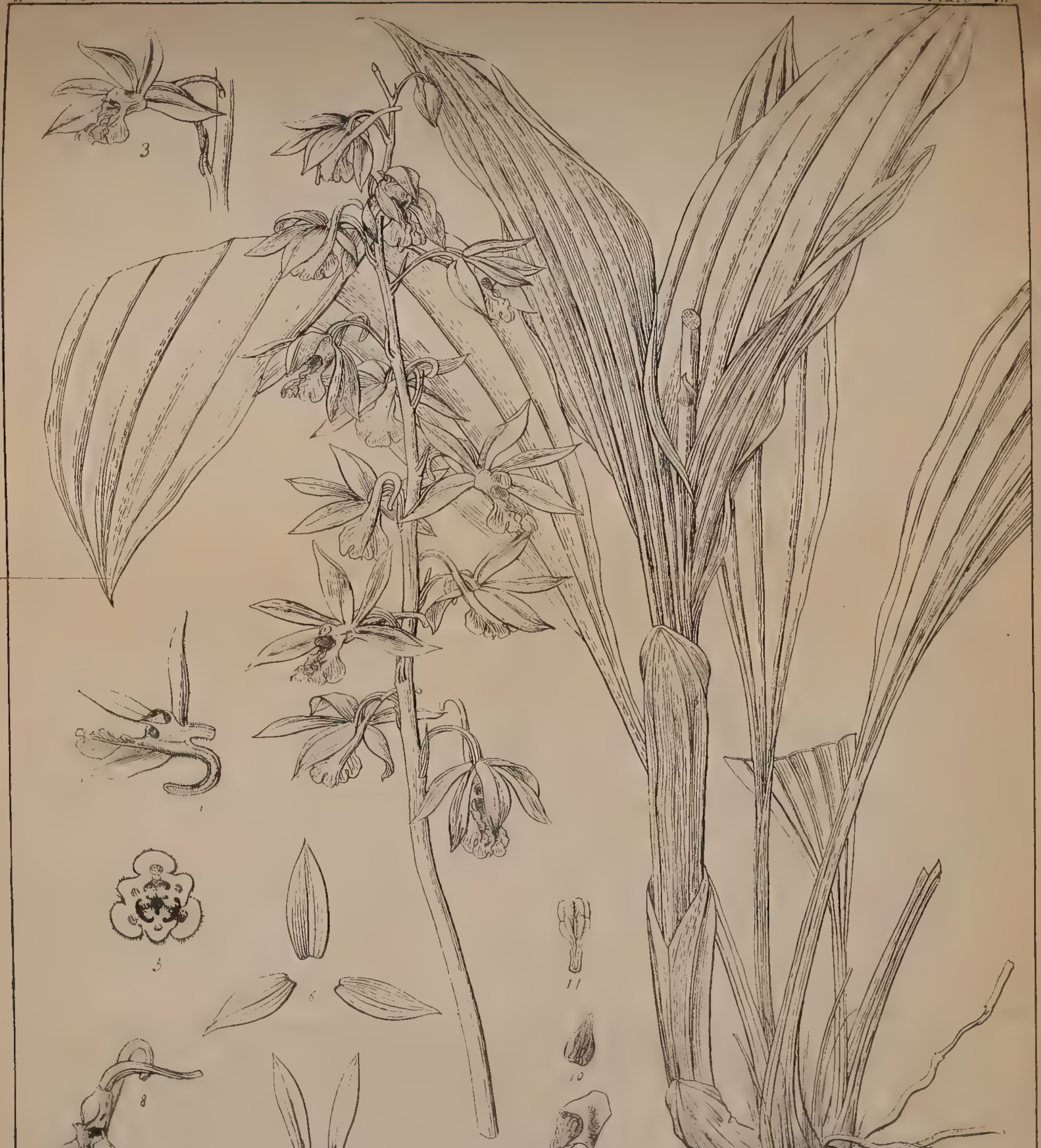
* * *

○寄贈書目

Gardeners' Chronicle. Vol.XI, no.270-276.
The Journal of Botany. No. 351-352.
Bulletin of Miscellaneous Information, Royal Garden, Kew. No. 63.
Catalogue of works on Natural History, Bernard Quaritch.
The Journal of Mycology. Vol. VII, No. 2.
Farmars' Bulletin. No. 4, 5, and 7.

寄贈書目

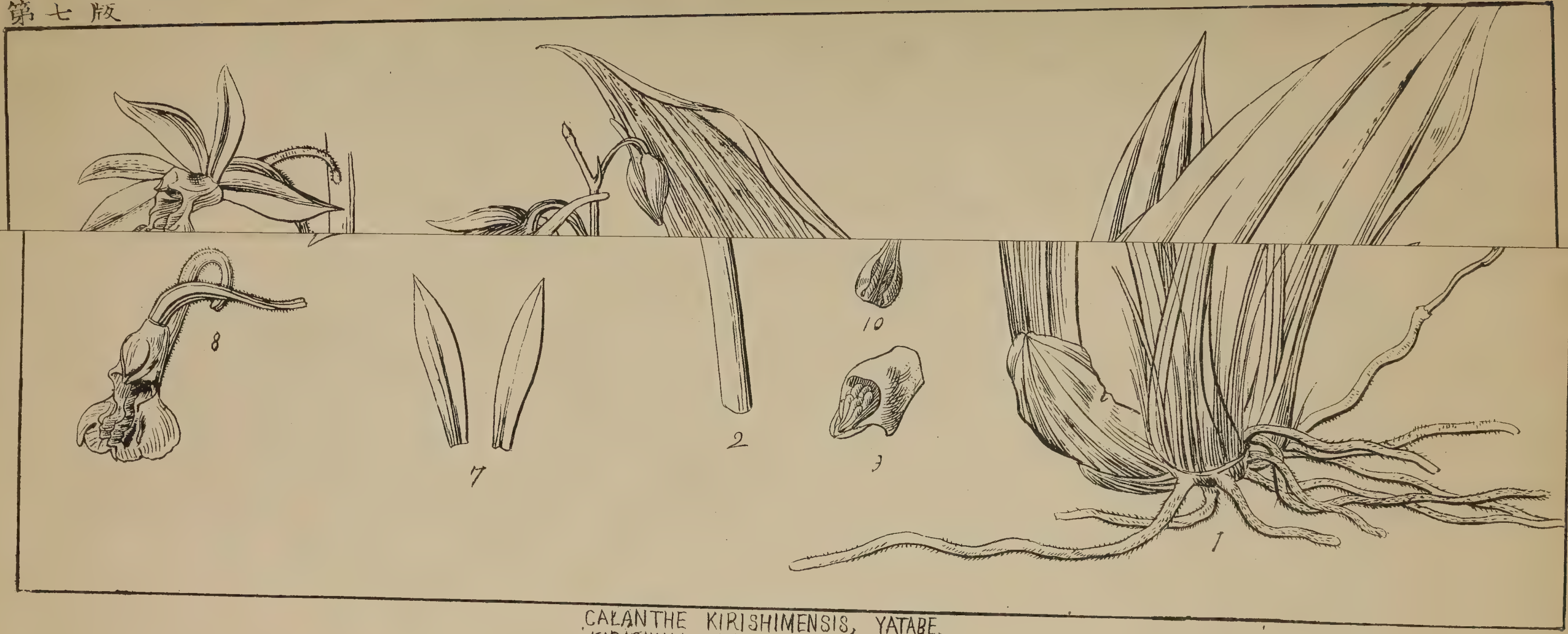
Circular No. 10.			
Missouri Botanical Garden. Second annual Report.			
植物學教科書上卷		一冊	松村任三君
國本	第十號	二冊	殖産社（岡山）
大日本山林會報告	自第百十一號至第百十二號	二冊	大日本山林會（東京）
氣象集誌	第十一年第三號	一冊	大日本氣象學會（東京）
東京醫學會雜誌	自第六卷第五號至第九號	三冊	東京醫學會（東京）
東京人類學會雜誌	自第七十二號至第七十三號	二冊	東京人類學會（東京）
北水協會	第七十一號	一冊	北水協會（北海道）
動物學雜誌	自第四十二號至第四十三號	二冊	東京動物學會（東京）
牧畜雜誌	自第七十七號至第八十號	三冊	牧畜雜誌社（東京）
地學雜誌	第四十號	一冊	地學會（東京）
日本園藝會雜誌	第三十四號	一冊	日本園藝會（東京）
日本蠶業雜誌			日本蠶業雜誌社（東京）
日本藥業新誌	第二百三十一號	一冊	衛生社（東京）


3
2
5
6
11
10
8
7
1

CALANTHE KIRISHIMENSIS, YATABE.
KIRISHIMA—EBINE. キリシマエビネ.

第七版

Plate VII.



CALANTHE KIRISHIMENSIS, YATABE.
KIRISHIMA—EBINE. キリシマエビネ.

植物學雜誌第六巻第六十五號 (明治二十五年七月十日)

THE BOTANICAL MAGAZINE.

[Vol. VI. July 10, 1892. No. 65.]

New or Little Known Plants of Japan.

No. 22.

Ryōkichi Yatabe, Sc. D.

Calanthe kirishimensis, nov. sp.

Nom. jap. Kirishima-ebine. キリシマエビ子. (Plate VII.)

Rhizome shortly creeping, with strong wiry roots. Leaves all radical, evergreen, smooth, lanceolate or oblanceolate, acutish at the apex, tapering into a long petiole at the base, plicate, strongly 5-ribbed or sometimes 3-ribbed, dark-green on the upper, pale on the under surface, 6-12 inches long including the petiole, $1\frac{1}{2}$-3 inches broad; petioles winged, canaliculate in front, dilated at the base, strongly ribbed, about as long as the lamina. Scape subterete, minutely pubescent, 10-15 inches high including the raceme, with an ovate or deltoid bract a few inches below the inflorescence, surrounded at the base by several sheathing leaves the lower of which are imperfectly developed and scale-like. Raceme terminal, loose, many-flowered, 4-7 inches long; bracts subulate, 2-3 lines long. Sepals nearly equal, ovate-lanceolate or oblong-lanceolate, acuminate, concave, very minutely puberulent outside, smooth inside, 7-8 lines long, 3-4 lines broad. Petals oblanceolate, acuminate, about as long as or a little shorter than the sepals, 2 lines broad. Sepals and petals white and tinged with lilac outside. Labellum connate with the column in a broad tube, produced into a long spur at the base; tube and spur densely pubescent inside; spur slender, usually curved, minutely puberulent outside, 6-8 lines long; lamina spreading, 3-lobed, 3-4 lines long, 5-6 lines broad; central lobe of the lamina again 2-lobed and with a small pointed lobule between, tinged with lilac on both surfaces, minutely puberulent outside; disk with 5 longitudinal, interrupted, and yellow ridges, of which the outer 2 are smaller and often obsolete. Column short; rostellum bifid; anther opercular, ovate, 2-celled; pollinia 8, in 2 rows, 4 in each cell, clavate, flattened, yellow, affixed by a common caudicle to the gland of the rostellum. Ovary slender, curved, tinged with lilac, 7-8 lines long.—Fl. May.

I collected living specimens of this plant at the foot of Mt. Kirishima in the province of Hiuga on August 3, 1882. They have been since kept in the Botanic Garden of the Imperial Univercity.

Plate VII. Fig. 1, lower part of the plant; 2, upper part; 3, flower; 4, flower with labellum cut vertically; 5, transverse section of ovary; 6, sepals; 7, petals; 8, flower with sepals and petals cut away; 9, anther with operculum removed; 10, operculum; 11, pollinia:—*all except* 1 *and* 2 *enlarged.*

日本藥局方植物篇（前號ノ續キ）

會員　澤田駒次郎

成分　亞拉毘亞護謨ノ主成分ハ一種ノ酸ニシテ之ヲ護謨酸ト稱シ加留叟謨、麻偪涅叟謨、剝篤亞叟謨ト抱合シテ存在シ大約七十「ペルセント」ヲ有ス其他水分、各種鹽類、土質物ヲ含有ス又一千八百五十三年ニ於テ Löwenthal. Hansmann. 兩氏ノ說ク所ニ據レバ亞拉毘亞謨護ハ三・一七乃至三・三〇「ペルセント」ノ灰分ヲ存スト

護謨酸（Arabic acid or gummic acid）ハ一千八百七十三年ニ於テ Scheiber 氏菾菜中ニ存在スルヲ發見セリ此酸ハ Frimy 氏ノ metapectic acid ト同物トス Frimy 氏ハ護謨粘漿ニ鹽酸ヲ加ヘテ酸性ト爲シ酒精ヲ以テ沈沍セシメ此沈沍物ヲ酒精ニテ數回洗滌シテ純粹ナル護謨酸ヲ得タリ又護謨粘漿ハ鹽酸ヲ加ヘテ酸性ト爲スニアラザレバ酒精ニ因テ沈沍ヲ生スルコト無シ但シ乾燥ノ護謨ハ冷水及ヒ沸湯ニハ膨脹シテ溶解セスト雖𪜈亞爾加里ヲ加フルトキハ溶解スト

本品ハ不結晶躰ニシテ設氏百度（華氏百二十度）ノ熱度ヲ以テ乾燥シタルモノハ $C_{12}H_{22}O_{11}$ ノ集成ヲ有シ二・五六「ペルセント」ヲ含有シ石灰水及ヒ酒精ニ因テ得タルモノハ $C_{12}H_{20}CaO_{11}+5C_{12}H_{22}O_{11}$ ナル集成ノ化合物トス亞拉毘亞護謨ノ溶液ハ分極光線ヲ左旋スト雖𪜈或ル種類ニ在テハ之ヲ右旋ス又此溶液ニ稀硫酸ヲ加ヘテ久時煑沸スレバ砂糖ヲ生シ硝酸ニ因テ酸化シテ粘液酸糖酸酒石酸蓚酸ヲ生ズヘシ又或ル種類ノ護謨ハ粘液質ヲ有スルコト小量或ハ之ヲ缺如ス此等ノ護謨ハ稀硫酸ニ因テ arabinose ($C_{12}H_{22}O_{11}$) ヲ生ズベシ

「アラビノーゼー」ハ温酒精溶液ヨリ細小ナル放線狀稜柱形束ノ結晶ヲ爲シ醱酵性ヲ有セズ Fehing氏溶液ヲ還元スルコト葡萄糖ニ同シ一千八百六十八年ニ於テ Scheibler 氏ハ菾菜ノ液汁中ヨリ護謨ヲ取リ之ヨリ本品

ヲ得タリ又一千八百八十年ニ於テ Kiliani 氏ハ此砂糖ヲ乳糖($C_{12}H_{22}O_{11},H_2O$)ト同物トス然レドモ Claësson 氏ハ之ヲ以テ異性躰トセリ又多量ノ粘液質ヲ有スル護謨ハ乳糖ニ均シキ物質ヲ生ズ又一千八百七十五年ニ於テ Reichardt 氏ハ pararabin ヲ以テ恭菜ノ一成分トス此モノハ温稀硫酸ニ溶解シ水ニハ膨脹シ亞爾加尊乙度ヲ加ヘ久時煮沸スレバ護謨酸ニ變化スベシ

下等亞拉毘亞護謨ハ小量ノ葡萄糖ヲ含有ス此砂糖ハ酒糖ヲ以テ除去スルコト容易ナリ此法ニ因テ精製シタル護謨ハ酸化カプリック亞爾加里溶液ヲ還元スルコトナシ

哥爾多番産護謨三瓦蘭謨ノ水溶液ハ次醋酸鉛ノ過量大約十五瓦蘭謨ニ因テ沈澱ヲ生シ其漉液ハ間マ猫眼樣ノ光彩ヲ呈ス又塞内加爾産護謨ヨリ同法ヲ用ヒテ得タル漉液ハ徐々ニ乳狀ト爲リ亞母尼亞ニハ膠質ノ沈澱ヲ生ズ

製劑　亞拉毘亞護謨漿　Mucilago Gammi arabici.

日本藥局方ニ據レバ其製法左ノ如シ

亞拉毘亞護謨漿ハ

亞拉毘亞護謨	一分

ヲ取リ蒸餾水ヲ以テ急速ニ洗浣シ之ニ

蒸餾水	二分

ヲ注キ振盪溶解セル後布漉スヘシ

冷處ニ貯フヘシ久シキニ過ク可カラス

醫治効用　亞拉毘亞護謨ハ緩和滑利ノ一良藥ニシテ肺ヲ和シ胸ヲ利シ粘痰ヲ豁シ酷厲毒ヲ和解ス此藥口中ニテ徐々ニ溶解シ咳嗽ヲ鎭メ咽喉及ヒ氣道ノ刺痛ヲ和ケ酸ノ分泌ヲ稀薄シ空氣ノ刺衝ヲ防護スルノ良効アリ又胃腸ノ焮衝ニ内用シ効驗アルノミナラス腎、膀胱、尿道等ノ焮衝淋疾痛、赤痢下血ヲ治ス尿道焮衝ニ効驗アルハ其内用シタル液ニ因テ尿ヲ稀薄ト爲シ其刺衝ヲ減少スルニ在リトス○護謨ハ糖化セサルニ因リ蜜尿病患者ニ澱粉質食物質ニ代用ス此用ヒハ糖化セザルノ外効驗ナキガ如シ

護謨漿ハ火傷、乳頭折裂焮痛ニ塗抹シ焮痛ヲ緩和シ潰爛ヲ消ス又護謨末ハ水蛭咬傷ニ摻シテ出血ヲ止メ鼻孔ニ用ヒテ衄血ヲ止ムルノ効アリ又護謨ハ滋養分ヲ有スルニ因リ採集期ニハ雇夫ハ之ヲ食用トス又南米ノ土人ハ凶年ニハ護謨ヲ食品トス

護謨ノ主ナル用ヒハ工業用ニシテ縐絹、絲類等ニ光澤ヲ附シ棉布ニ用ヒテ彩色ヲ濃厚ナラシメ光澤ヲ增加ス又墨汁（インキ）製造等ニ用フルコト極メテ多量ナリ又亞加失亞種類ノ樹皮及ヒ未熟ノ果實ハ鞣皮用トシ或ハ染料トス

三十一　プルヌス、ローロセラシユス

羅甸名　Prunus Laulocerasus, Linn.

薔薇科

東洋諸國ニ自生スル常綠喬木ニシテ幹直立シ高サ二十尺許其色綠褐若枝ハ平滑暗綠色ニシテ光運アリ葉ハ長卵圓形ニシテ互生シ長サ四寸餘乃至九寸兩端薄ク其先頂間々下方ニ卷曲シ邊緣鋭尖ノ鋸齒ヲ有シ微ニ返卷ス表面平滑ニシテ濃綠色ヲ呈シ頗ル光運アリ裏面ハ其色稍々稀薄ニシテ主脈著明葉底ニ至リ主脉ノ兩側ニ細小ナル球狀ノ腺點一對乃至二對ヲ有シ革質ニシテ其柄矮短托葉ヲ有セス第五月ノ頃葉腋ヨリ花梗椎ヲ抽キ穗狀

花ヲ綴ル其形狀「ウハミズザクラ」ニ似タリ花梗矮短長サ四分餘抱花小葉ハ細小ニシテ速落ス萼ハ筒狀ニシテ廣濶其色濃綠平滑先頂五個ニ欽刻シ其截片三角形ヲ爲ス花瓣五片萼ノ上端ヨリ生シ白色類倒卵形ニシテ擴張シ開花ノ後直チニ墜落ス雄蕊二十條萼ノ上端ヨリ生シ二行ニ列シ其葯細小殆ント花瓣ト其長サヲ均フス實礎ハ上立性ニシテ萼ノ基部ヨリ生シ單房ヲ有シ二個ノ卵子ヲ有ス花柱々狀ニシテ柱頭微カニ膨脹シ花後石果ヲ結フ其直徑五分强頂端微カニ狹隘ト爲リ其形チ「ミザクラ」果ニ似テ藍黑色ヲ呈シ光輝アリ間層即チ肉部ハ肥厚ニシテ柔軟石核ハ硬固平滑ニシテ兩端尖リ而シテ秋時ニ至リテ稔熟ス種子一個其膜薄クシテ蛋白質ヲ有セス子葉ハ兩凸圓形ニシテ大イナリ

本植物ハ黑座義(Thessaly)バイセニア(Bithynia)亞爾美尼亞、波斯北部、高加索山ニ產ス歐羅巴ニ移植セシハ一千五百八十年ノ頃ニシテ現今歐羅巴温帶ノ地ニ於テ庭園ニ栽植スルハ常ニ目擊スル所ナリト又本植物ヲ本邦ニ移植セシハ小澤善平氏ニシテ米國ヨリ歸朝ノ節之ヲ携帶セリト云フ

本植物ハ藍黑色ノ果實ヲ下垂スルコト佳緻ニシテ葡萄ノ果實ニ似タリ、但シ寒國ニテハ冬月冱寒ノ害ヲ受ケ間々凋萎枯死スト云フ(以下次號)

陸中產之海藻ニ就テ

岡村金太郎

左ニ列記スル數種ノ海藻ハ大日本水產會議員松原新之助氏ガ岩手縣ヘ出張ノ砌去ル五月廿日同縣下陸中國鍬ケ崎ニ於テ採集シ余ニ寄送セラレタルモノナリ玆ニ余ガ調査シタル所ヲ報シ氏ノ好意ヲ謝ス

褐藻類こんぶ科

一わかめ Uloptelix pinnatifidia Kjellm. 躰ノ長サ二尺餘莖巾五分許長サ六寸許ニシテ莖ノ兩側ニ結實部即チ布株ヲ生セシカ𪜈未ダ甚ダ幼ニシテ充分ナラズ本種ハ各所ニ廣ク產スルモノト同種ニシテ所謂なんぶわかめト稱シ遙ニ西南諸國ノ產ニ勝リテ大ナレ𪜈本品ハ左ノミ大ナラズ

一ほそめ又ぼんめ 本種ハまこんぶ (Laminalia japonica Aresch.) ノ變種ニシテ細長ナルモノナリ莖ハ扁圓ニシテ長サ一二寸太サ五厘乃至八厘躰ノ長サ二三尺巾一寸乃至三寸ニシテ細ク兩縁波狀ニ宿皺セリ色淡褐色ニシテ質薄ク長スルニ至レバ稍厚シ本種ハ葉片狹長ナルヲ以テ別種トナスモノアレ𪜈其實ハ然ラズ元來こんぶニハ廣狹ノ二形アリテ本種ハ其狹キモノナリ該品ハ岩代陸前等ノ習慣トシテ中元之ヲ佛前ニ供スルヲ以テ盆布（ボンメ）ノ名アルヿ人ノ能ク知ル所ナリ

一あなめ又すじめ、じやらめ Costalia Turneri Gmel. 躰ノ長サ大ナル者ハ四尺余巾三寸許莖扁圓ニシテ短ク長サ一二寸巾五厘乃至一分葉片ニ三條ヨリ五條ノ縦脉アリテ葉ノ下端ヨリ上端ニ至ル迄貫通ス左右ノ二脉ハ往々相密接シ長ズルニ至テ漸次相離ル而シテ此縦脉ハ交互葉面ニ凹凸シ決シテ兩面ニ凸ナラズ脉ノ周圍ニ實ヲ熟セリ本種ハ普ク北海ニ產スルモノニシテ本縣下ノモノハ此標品ヲ以テ見ルニ稍小ナリ

Harvey 氏ハ Characters of New Algae Col. in Japan by C. Wright No. 13 ニ本種ノ變種 var. pertusa ヲ記載シテ脉四條トナシタレ𪜈四條ノ脉アルモノハ余未ダ之アルヲ知ラス恐ラクハ氏ノ研究シタルモノハ不完全ナル標品ニハアラザリシカ暫ク疑ヲ存ス又氏ハ變種 pertusa ヲ記載シタレ𪜈余ヲ以テ見ルニ別ニ變種トスベキ性質ヲ見出ス能ハズ尙ホ他日ヲ俟テ知ル所アラン

紅藻類　いぎす科

一 Ptilota plumosa (L.) Ag. 外形稍てんくさノ巾廣キモノニ類スレ𪜈全ク別ナルモノナリ(形狀ハ玆ニ略ス)方ニ四分胞子ヲ熟シタレ𪜈囊果ハ存セズ此種ハ廣ク北海ニ產シ英國ノ沿岸バルチック海等ニ產ス此種ノ變種 var. serrata ハ小樽ニテ余ノ採集シタルヿアレ𪜈本種ハ未ダ採集シタルヿナク今回ヲ以テ始トナス元來北海ニ適シタルモノナレバ尙ホ北海道等ニモ必ズ產スルナルベシ余ノ從來硏究シタル所ニ據ルニ本邦中此屬ニ屬スルモノハ三種ニシテ其二ハ北海ニ產シ其一ハ西南ヨリ磐城邊ニ至ル迄產ス其北海ニ產スルモノハ即チ本種及ビ其變種ト P. Asplenioides Kg. ニテ P. Asplenioides Kg. ハ昨廿四年九月一日下啓助氏ガ釧路國昆布森ニテ採集スル所ナリ(本誌第五卷第五十六號第三百三十三頁)其西南部ニ產スルモノハべにひば(新稱 ptilota dentata K. Okamura.)ニシテ本誌第六卷第六十二號第百四十九頁ト第六十三號第四圖ヲ以テ示シタルモノナリ本屬ノ種類ハ今此種ヲ得テ悉ク集マリタルナルベシ

◎雜錄

蓮子(Lien-tsze)ハ Nelumbium Speciosum, Willd. ノ堅殼果ニシテ形狀及ビ其大イサハ櫟實ニ類似シ支那ニテ蓮ト稱ス即チ Nelumbium or Egyptian Bean ノ果實ナリ本植物ハ支那印度ニ於テ普子ク栽培シ或ハ其花ヲ賞美シ或ハ他ノ目的ニ供ス

蓮子（果實）ハ其核粉質ナルニ因リ煮熟シ或ハ炒リテ食用トシ其地下莖ハ肥厚肉質ナルニ因リ調味シテ食用ニ供ス又子實ヲ搗碎洗浣シテ製シタル澱粉ハ支那ニテ藕粉(gaon-fun)ト稱シ「アロールート」ノ澱粉ニ均シ(タニエール、ハンブリー氏手記抄譯)

○靜岡縣下採集土產

白井光太郎

(一)女竹ノ赤衣ニ就テ

理學士堀正太郎氏ハ前號ノ紙上ニ於テ女竹ノ赤衣及他一種ノ菌蕈ニ就キ詳細ノ圖說ヲ公ニセラレタリ是余輩ノ窃（ヒソカ）ニ深ク其勞ヲ謝スル所ナリ就テ玆ニ一言ヲ呈シ度ハ彼論文中女竹ノ赤衣ナル菌蕈ハ千八百七十五年英國學術遠征船チャレンジャーノ神戸ニ於テ採集シ英國菌蕈學者バークレー氏ノ之ヲ記述セルヲ發見ノ始トシ其前後本邦植物學者モ亦定メテ此菌ニ注意セルモノアリシナラント考フレ𪜈未ダ之ヲ記載セル書類ヲ見ズトノ一節アリ且此菌ニ女竹（メダケ）ノ赤衣（アカゴロモ）ナル新稱ヲ附セラレタリ然ルニ此菌ハ古來我邦ノ植物家間ニテハ和名ヲスヽメノタマゴ漢名ヲ竹蓐ト稱ヘ來リタル種類ニシテ記載ノ書類少カラス本草藥名備考和訓鈔。物品識名。品物名彙等皆其名目ヲ擧ケタリ又諸書ニ其形狀ヲ記述セリ左ニ其一二ヲ抄出シ證明スベシ

多識篇、庖厨備用倭本草和漢三才圖會ノ三書皆竹蓐ヲ載ス然レ𪜈當時未ダ之ヲ以テ女竹ノ赤衣ニ充テズ單ニ之ヲ和譯シ若クハ他物ヲ以テ之ニ充タルガ如シ多識篇ハ之ニタケタケノ譯名ヲ附シ三才圖會ハタケノクサビラノ名ヲ命シ庖厨本草ハ之ヲヌノビキノ漢名トナセリ

竹蓐ヲ以テ竹ノ赤衣ニ充タルハ貝原篤信翁ヲ始トス而シテ其和名ヲスヽメノイヒト稱セリ

大和本草曰

竹蓐（スヽメノイヒ）ハ竹ノ液カタマリ色黄ニナリタルナリ竹ニ附テ生ス小兒炙リ食ス味香バシ

本草啓蒙曰

竹蓐

スヾメノタマゴ　ス、メノマ、（筑前）　ス、メノイヒ（仝上）　ツバメノマ、（筑後）　スヾメノモチ（備前）

皮竹臺明竹等ノ根上ニ三尺ノ間ニ生ス木耳ノ如ニメ小ク多ク重リ生ス黄色ナリ乾ケバ黄白色トナル云云

〔函史〕曰

雀乃玉一名雀乃卵生竹根上形如木久良計倫簇而出黄色又有褐色者皮竹大名竹最生味亦與耳木耳稍似本草竹蓐一名竹肉是ナリ

〔本草圖譜〕芝栭部ニ圖アリ

近時ノ著書ニテハ日本竹譜ニ圖説アリ

余ハ先年七島巡航ノ際伊豆大島岡田村ノ山中ニテ本菌ヲ採集セリ又本年四月伊豆國〇〇郡伊東ノ一神社ノ境內ニ於テモ之ヲ得タリ導者ノ説ニ沼津近傍ニテモ之ヲスヾメノマ、ンゴト稱スト云ヘリ聊カ記シテ參考ニ供スト云フ

附言　前號ニ於テ予輩カ記述シタル處ノPuccinia corticioides, Berk. et Br. 論文ハ圖ラサリキ予ガ畏敬スル處ノ理學士白井光太郎氏ノ一讀ノ榮ヲ得陰カニ喜悦スル處ナリ凡ソ一文ヲ草シテ人之ヲ閲讀スルモノナカランカ之カ稿ヲ起ス徒勞ノミ爲サヾルニ如カス而メ人之ヲ看過流讀意ニ介スルモノナキニ至リテハ未タ以テ記者ノ滿足スルモノニアラサルナリ進ンテ之カ謬ヲ正シ之カ疑ヲ質シ論難批評初メテ文章ノ價値ヲ増シ智識ヲ増進スルヿ尠カラス予ガP. Corticioides ノ和名ヲ撰定スルヤ予輩ノ淺學記錄ノ渉獵ニ粗陋ニシテ早卒新和俗名ヲ附ス今氏ノ記文ニ依リテ大ニ益スル處多シ爲メニ一言ノ謝辭ヲ記ス

堀　正太郎

○トビラノ名義

大和本草ニトベラ除夕ニ國俗此木ノ枝ヲ扉ニ挾ンテ來年疫鬼ノフセギトス故ニトビラノ木ト云フ」トアリ然レ𪜈其何ノ故タルヲ知ラス本年四月余靜岡縣下與津驛ニ至リシトキ路傍ニトベラノ木アルヲ見ル土人ニ就テ其名ヲ問フニヲクワウジンキライト呼ブト謂ヘリ蓋シ其葉ニ一種ノ惡臭アルヲ以テ荒神モ之ヲ厭嫌スルノ意ナリ余此方名ヲ聞キ宿疑始メテ釋然タルヲ得タリ同感ノ士モアランカト之ヲ記ス

○天城山方言

本年四月天城山ニ植物ヲ採集ス途中導者ニ就キ聞取リタル樹名數種ヲ左ニ錄ス括弧中ノ名ハ普通ノ名稱ナリ

サハグハ(タニグハ)
ビンカ(イヌツゲ)
イヌモチ(クロガ子モチ)
モミサウ(モミ)
マンレウ(ヤブカウジ)
イヌサンセウ(カラスサンセウ)
ヒムロスギ(子ズミサシ)
サクラガンピ(ヲニシバリ)
グタバラ(ハリギリ)
ヒバ(アスナロ)

アブラコガ(ヤブニツケイ)
アクシバ(ヒサカキ)
ヘイノアタマ(カウヤボウキ)
タデキ(メヒヽラギ)
ズイボウ(ガクウツギ)
ハナノキ(シキミ)
マコガ(アヲガシ)
コハゼ(ヱゴノキ)
ハンノキ(ヤマハンノキ)
カンバ(ハコ子ウツギ)

トウバイ(クサギ)
カツノキ(フシノキ)
オヲキバ(アヲキ)
子ズミバラ(アリドウシ)
シダ(ウラジロ)
クロモンジヤ(クロモジ)
マメフジ(キフヂ)
サハフタ(タマアヂサイ)
カマコガ(コヲボク)
アカメ(アカメガシ)

サルスベリ（ヒメシヤラ）　サカリイチゴ（モミヂイチゴ）　ヤマガキ（サルガキミ）

ミヅキ（トリアシ）　イチ井（ツクバ子ガシ）　ウシコロシ（マサキ）

アカガシ（大バガシ）　フクダンバラ（サルトリイバラ）　カシ（クロガシ、アラカシ）

シラカシ（ホソバガシ、ヤナギバカシ）ヅサ（アブラチヤン）　ホヅガカシ（シラカシ）

○大木數種

本年四月靜岡縣下ニ採集旅行ナシタル途次ニ目撃セル大木數種ヲ左ニ録ス

大樟樹　伊豆國○○郡伊東岡村玖須美神社境內ニアリ目通リ周圍八間半熱海木ノ宮ノ樟樹ト伯仲ノ間ニアリ枝葉婆娑トシテ繁茂セリ

大ズクノ樹　伊豆熱海溫泉寺境內ニアリ大サ三間一尺餘清水湊近郊龍華寺ニモ一樹アリ大サ二拱半許方言ヤブッチヤ熱海方言ハボソ

大ヤブニツケイ　伊東玖須美神社境內ニアリ周圍六尺

大黑松　同所ニアリ周圍三間

大イヌグス　伊東玖須美村音無神社境內ニアリ大サ三間

大竹柏　興津清見寺ニアリ大サ一拱半許

大檜柏（フブキビヤクシン）　下田近郊白濱神社境內大サ四拱ニ及ベリ

バクチノ樹　下田市中八幡神社境內ニアリ大サ一拱半

クロガ子モチ　清水湊龍華寺ニアリ大サ二拱半方言イヌモチ

大蘇鐵　清水湊龍華寺ニアリ

○ナタグマケヤキ

伊豆ニナタグマケヤキト稱スル一種ノケヤキアルハ嘗テ本草圖譜ニテ閲讀シタル事アリ依テ本年旅行ノ際之ニ注意シタレ𪜈天城山ニテハチヤキノ類ヲ見ズ伊東ニ至リシ時玖須見村天照皇大神宮ノ境内ニ於テ一樹ヲ捡出セリ其樹ケヤキニ似テ粗皮茶褐色ヲ呈シ其裂紋普通ノチヤキニ異ナリ縦ニ長ク出來剝グ去ルナリ而シテ其剝ケタル皮ノ裏面ニハ美ナル縷紋アリ當時未ダ葉ヲ生ゼザリシヲ以テ精敷之ヲ比較スルコト能ハザリシハ遺憾ナリ尚同好ノ士同所ニ至ルコトアレバ精敷調査セラレンヿヲ乞フ社内ニ居タル村人ニ問フニ是ナタクマケヤキナリト云ヘリ此樹ト相並ンデ普通ノケヤキ數株同所ニアリ開花ノ候ニ同處ニ至リ彼此ヲ比較セバ得ル所アルベシ古來槻ト稱スル者即是ナラン又仙臺ニハ槻トケヤキノ兩種山林ニ多シト聞ク同地ノ會員諸君希クハ此研究ニ一臂ノ力ヲ貸シ明瞭ナル解説ヲ送リ越シ玉ハンコトヲ乞フ

○興津密柑病名

興津驛邊氣候ノ温和ナルガ爲メ蜜柑ノ栽培ニ適當シ近來益增植ノ景況アリ此興津蜜柑ハ百三四十年以前清見寺ノ住僧某ガ初メテ其背後ノ山上ニ植ヘタルニ始マリ現今ニテハ同地ノ一物産トナレリ同所ノ蜜柑園ニ就キ蜜柑ノ病患ヲ問ヒタルニ左ノ數種アリ

（一）ハテウ一名シロムシト云フ病アリ是ハ葉ノ表裏殊ニ裡面ニ蜘蛛ノ巣ノ如キ網ヲ生シ葉色漸々黄變シ樹勢衰弱ス是レノ甚シク蔓延スルトキハ果實ノ大サ平生ノ半分位トナリ成熟ニ至ラズト云フ是ヲ見ルニ此蜘蛛網ノ間ニハ一種ノ赤色細微ノ小虫アリ多數蕃植シ縱横ニ奔走スルコト甚速ナリ是蓋 Tetranychus ト稱スル壁蝨ノ一種ナリ

（二）鐵炮虫 五六月頃木ノ根際ノ皮ヲ喰廻ハシ子ヲ産附シ往々木ヲ枯ラスコトアリ子虫ハ成長シ木質中ニ喰込

ミ鐵炮孔ヲ生セシム近來天牛ヲ取殺スヲ覺ヘ大ニ其害ヲ減セリト云フ園主ノ說ニ枸橘（カラタチ）ノ砧ハ味甜シ故ニ天牛好ンテ之ヲ食フ柚ヲ砧トスル片ハ喰ハズ然レ氏柚ハ接ク片ニ當リ牛蒡根ヲ切ラザレバ木伸ビズ横ニ枝ヲ張ルヿナク宜シカラズト云ヘリ

（三）スヽムシ　一名クロンボウト云アリ是ハ蜜柑ノ枝葉ニ黑色ノ黴菌ヲ生シ宛モ煤ヲ塗抹セルガ如キ狀態ヲ呈スル病ナリ是ハ多少有害ナレ氏甚シカラズ木灰ヲ撒布スルヲ以テ有効ノ除害法トスト云ヘリ此クロムシナル者ハFumago salicina ト稱スル黴菌ニ外ナラズ此菌ハカヒガラムシ及アブラムシノ附着セル枝葉ニ必ズ發生スル者ナリ故ニ此菌ノアル處ニハ右兩種ノ虫類ノ寄生スルヲ見ル余ノ見タル葉ニハカイガラムシ多ク附着シ居タリ

（四）立枯レ　是ハ海中ヨリ吹來ル潮風ニ傷ムヨリ起ルナリ温州蜜柑ヨリハ本蜜柑最此潮風ニ感シ易シト云フ

（五）エカキムシ　是ハ葉ノ裏面ノ葉間ニ入リ表皮下ヲ傳ヒテ羊腸狀ノ紋ヲ畫キ葉肉ヲ喰廻ハル虫ナリ余未ダ其虫ヲ見ズ又其虫名ヲ知ラズ思フニ是成虫ニ非スシテ一種ノ幼虫ナラン

○温泉中ノ水藻

伊豆國○○郡伊東松原旅店前田屋ノ前面ニ温泉ノ源泉アリ沸々トシテ常ニ涌出セリ温度計ヲ以テ測ルニ五十二度ノ熱氣アリ此温泉中ニ水藻ノ生息スル者アリ携フル所ノ顯微鏡ヲ以テ之ヲ撿スルニ一種ノ顫藻及念珠藻ナリ其藻泉源ノ水底及水上ニ蔓延シ綠色ノ厚キ層ヲナシ旺ニ生育スルノ狀頗ル奇トスルニ堪タリ

○山葵ノ病害

天城山ノ山葵ハ溪間ニ石段ヲ疊ミ其處ニ山葵苗ヲ植付大抵二十四ケ月ノ後之ヲ收穫シ各地ニ輸出スルナリ石

段ノ摸樣ハ山地ノ水田ノ如ク上ヨリ下ヘ段ヲ逐フテ低ク作リ始終溪水ノ流通スル樣ニ作レリ段ノ高サハ大抵三尺許ヲ度トスト雖モ地形ニヨリ一樣ナラズ極ク低ク作レルモアリ段ノ上面ニハ小石ヲ敷キ邅子其間ニ苗ヲ植ユ又其葵畑ノ中ニハ處々ニ被蔭樹ヲ植ヘ夏月ノ烈日ヲ防クノ備ヘトナセリ其樹ニハヤマハンノ木ヲ用イタリ

此山葵ニ近年一種ノ病害ヲ生シタルハ本紙上ニモ嘗テ記載セラレタル事アリシハ讀者ノ記憶セラル丶所ナラン採集ノ序此山葵ノ病害ヲ探究セント欲シ同行諸氏ト共ニ稻取峠ノ一山葵澤ニ至リ病草ヲ取リ來リ之ヲ撿査セルニ腐敗部ニハ夥數一種ノバクテリヤノ蕃殖スルヲ見タリ此他尙一種菌蕈ノ Perithecium ヲ撿出セリ然レ圧其主ナル原因ハ前記ノバクテリヤニアル者ノ如シ其然ルナラント考フル理由ハ大根ノ病患ニ大皷病ト名付ルモノアリ是ハ一種ノミクロコツカスノ寄生ニヨリ起ルナリ同シ十字科ノ植物ナレバ同樣ナル病ヲ發スルナラント考フ大皷病ハ大根ノ根心ニ空洞ヲ生シ腐敗スル病ナリ其病狀頗ル山葵ノ病患ニ似タリ

○植物學ノ進化　（前號ノ續キ）

マ、サ、生摘譯

第十七世紀ノ前半迄ハ植物記載學ノミ世人ノ注意スル所トナリ分類學ハ不完全ヲ極メタリ又植物體ノ構造ニ就キテハ顯微鏡ノ發見以前ニハ一モ知ラレタル所ナシ此利器ノ發見アルヤ植物學ハ其利ヲ享クルノ多キ决シテ他ノ諸學科ノ比ニアラズ顯微鏡ノ用ヒラル丶ニ及ンデ植物體構造ノ研究ノ外更ニ隱花植物ノ研究進步セリ而シテ植物解剖學ノ進步ハ恰モ顯微鏡ノ進步ト相伴ヘリ

植物解剖學ノ始祖ト仰グベキハ N. Grew, Malpighi 及 Leeuwenhoek ノ諸氏ニシテ其研究ノ成績ハ千六百七十年ヨリ千六百七十三年ニ至ル三年間ニ世上ニ顯ハレタリ Malpighi 氏ハ凡ソ百八十倍ノ廓大力ヲ有スル凸鑑

ヲ使用シテ始メテ人體ノ組織ヲ研究セシガ此方法ニ基キテ終ニ植物解剖學ヲ創始セリ其著述ニハ Anatomia Plantarum アリ N. Grew 氏モ亦植物解剖學ヲ創始セル一人ニシテ氏ハ植物體ニ蜂窠狀ノ構造アルヿヲ發見シ柔軟細胞組織ヲ皺皮細胞、導管等ヨリ識別シ更ニ進ンデ植物體ノ諸部ニテ各種ノ細胞カ相互ニ關係スル狀態ヲ研究セリ氏ハ又螺旋紋管ニ就キテモ大ニ研究スル所アリ氏ノ植物解剖學ハ千六百八十二年ニ倫動ニ於テ刊行セラレタリ Leeuwenhoek 氏ハ「アムステルダム」ニ於ケル一商店ノ簿記方ニ過ギザリシガ其頃新ニ世ニ顯ハレタル顯微鏡ハ氏ノ注意ヲ引クヿ少ナカラス終ニ氏ヲシテ自己ノ用ニ供スル爲ニ自ラ新器械ヲ製造セシムルニ至レリ氏ハ此器ヲ用ヒテ研究シ點紋、階紋、螺旋紋ノ諸管ヲ發見シ尙其他解剖學上ノ有要ナル發見ヲナスヿ尠ナカラズ雙子葉植物ノ莖ト單子葉植物ノ莖トノ構造上ノ差違ヲ指示セシモ氏ヲ以テ始メトセリ氏ハ二百有餘ノ顯微鏡ヲ製造セリ而シテ其發見スル所ハ皆自ラ製造セル器械ニ依リテ之ヲ爲セリ氏ハ完全ノ教育ヲ受ケタルヿナシ隨ツテ秩序アル研究ヲ爲スヿ能ハザリキ若シ此缺點ナカリセバ氏ガ植物學ノ進歩ヲ助ケタルヿ一層ニ大ナリシヤ疑ヲ容レズト雖其此ノ如クナル能ハザリシハ實ニ痛惜スベキナリ

此時以降學者ハ復植物ノ分類ニ注意スルニ至リシガ此際力ヲ此學ニ用ヒタルハ Morison, Ray, Herrman. Boerhaave, G. A. Rivinius 等ノ諸氏トス Ray（千七百三年）及 Morison（千七百十五年）ノ二氏ハ Caesalpinus ノ分類法ヲ採用シ各自ニ之ヲ進歩セシメタリ Morison 氏ハ其分類ヲナスニ方リ花被ヲモ根據トシタリシガ氏ニ先ツテ Rivinius（千六百九十年）氏モ分類ノ基本トシテ花被ノ形狀ヲ採用セリ

此時ニ方リ植物記載學モ Tournefort 氏ノ爲ニ一大進歩ヲナセリ氏ハ「パリス」ニ於ケル植物園ニ於テ植物學ノ教授タリシガ佛國政府ヨリ派遣セラレテ植物探撿ノ爲メ希臘及小亞細亞ニ赴ケリ氏ハ千七百年ヨリ千七百

二年ニ至ル兩年間此地ニ留リ一千三百餘種ノ新植物ヲ携ヘテ歸國セリ氏ハ又花被ヲ基本トシテ一種ノ分類法ヲ創始シ二十三綱ヲ設ケタリ氏ノ法ハ植物ノ天然ノ關係ニ注意スルコハ疎漏ナルヲ免レズト雖其著述セルInstitutiones Rei Herbaria ハ Linnaeus ノ時ニ至ル迄ハ頗ル世ニ行ハレタリ Linnaeus ノ前ニ在リテ植物ノ諸屬ノ標徵ヲ決定セン爲ニ植物記載學ヲ適用シタルハ蓋 Tournefort 氏ヲ以テ嚆矢トスルナリ

千七百八十年ニ於テ Magnol 氏ハ當時知ラレタル悉皆ノ植物ヲ整頓シテ天然ノ諸科ニ分類センコヲ企圖セシガ幾分カ其功ヲ奏スルヲ得タリ此分類法ニ於テハ七十六ノ科ヲ設ケ各科ニ屬スル植物ノ諸種ハ特ニ花ト果實トヲ以テ相互ニ近似セルモノタリ只今迄ニ創始セラレタル種々ノ分類法ガ新植物ノ發見アルニ隨ッテ顚覆セシカ如ク Magnol 氏ノ創始セシ分類法モ亦此運ヲ免ルヽ能ハザリシナリ

今ヤ新植物ノ數ハ次第ニ增加シ來レリ是レ遠隔ノ地方ニ植物採撿ヲ試ミタルノ結果ニ外ナラズ殊ニ熱帶地方ヨリ奇卉異草ヲ得ルニ隨ヒ植物學者ハ舊時ノ分類法ガ用ヲナシ難キヲ知ルニ至レリ當時 Rheede, Rumph 及 Kampfer ノ諸氏ハ亞西亞ノ植物ヲ研究シ Sloane 及 Plumier ノ二氏ハ各自ニ「ジヤメイカ」及亞米利加ノ地ヲ撰ンデ其植物ノ研究ニ從事セリ Sloane 氏ハ夥多ノ新植物ヲ採集シテ之ヲ保存シ其記載ヲ「ジヤメイカ」植物誌中ニ出セリ此等ノ植物ハ氏ガ英國政府ニ賣リ渡シタル植物標品中ノ大部分ヲ占メタルモノナリ之レニ因テ氏ハ僅少ノ額ヲ得タルニ過キスト雖之ヲ資本トシテ大英博物館ヲ設置セルノ功ヲ奏セシハ其損スル所ヲ償フテ餘リアリト云フベシ Plumier 氏ハ其研究ノ結果ヲ彙メテ三部ノ書ニ記セリ即一ハ氏ガ亞米利加ニ於テ採集セル悉皆ノ植物ヲ記載セルモノ二ハ氏ノ發見セル新植物ヲ記載セルモノ三ハ亞米利加ノ羊齒類ヲ記載セルモノナリ

植物學進歩ノ一大紀元ハ各地ノ大都會ニ於テ植物園ノ設置セラレタルヿ是ナリ此ノ如キ園中ニハ自國及他國ノ植物ヲ栽培シテ之レガ標徴習性等ヲ研究スルノ用ニ供セリ此設置アル前ニアリテハ外國ノ植物ヲ研究セシハ幸ニシテ遠地ニ渡航スルヲ得タル少數ノ學者ニ限リシモ今ヤ多數ノ學者ハ自己ノ鄉國ヲ出デズシテ外國ノ植物ヲ研究スルノ便ヲ得タルナリ植物園ノ設置ハ實ニ植物學ヲ研究セントスル者ヲ增加セシメタリ隨ッテ斯學ノ發達ヲ助成セリ勿論不完全ナル植物園ハ此時ヨリ以前ニ創始セラレタルモノナキニ非ズ即第十四世紀中ニ Salerno ニ於テ Matthew Sylvaticus 氏ノ設ケタルモノ是ナリ之ニ繼ギテ「ベニス」ニモ藥用植物ヲ栽培スル園ヲ開キタリ眞誠ニ植物園ノ創始セラレシハ科學ノ再興ト相伴ヒタルモノニシテ其後伊太利ノ諸市ハ園囿ヲ設ケテ其經營ノ巧拙ト植物ノ多少トニ就テ競爭セリ競爭ハ實ニ此塲合ニ於テモ進步ノ一大要素タリ伊太利ノ好例ハ直ニ西班牙及佛蘭西ノ倣フ所トナリ Alphonse Este 公ハ始メテ Ferrara ニ一園ヲ設ケシガ此園ハ當時歐洲第一ト稱セラル、ニ至レリ「パリス」ノ植物園ハ第十六世紀ノ始メニ起リシガ當初ノ目的ハ只珍奇ノ花ヲ培養シテ宮中ニ伺候スル士女ノ衣裳ヲ裁スル者ノ爲ニ模樣ノ好材料ヲ供スルニアリタリ此園ガ一變シテ純然タル學問上ノ用ニ供セラル、ニ至リシハ多年ノ後ニアリ即 Jardin des plants ト稱スル園是ナリ阿蘭ニ於テハ第十五世紀中已ニ植物園ノ設ケアリシト雖獨逸ニ於テハ私有ノ數園アリタルノミナリキ

植物園ノ盛大ニ赴キタルハ第十七世紀ニアリ羅馬ニ於テハ僧正 Farnese 廣大ノ一園ヲ創始シ Messina ニ於テハ Cattolica 公 Hortus Cattolicus ヲ創始シ英國ニ於テハ Elizabeth 女王 Kew Garden ヲ創始シ Chelsea ニ於ケル Apothecaries' Garden ハ藥用植物ヲ栽培センガ爲ニ倫動ノ藥商等之ヲ創始セリ Leipsic, Breslau, Heidelberg, Giessen, Kiel, Jena ノ諸大學モ亦植物園ヲ設置セリ私有ニ係ルモノニテハ Leipsic ニ於ケルノ Bose ノ植

物園アリ其名全歐ニ著ハル第十八世紀ニ於テハ英國ノ植物園盛大ヲ極メタリ其他（子ゼルランド）伊太利、西班牙、瑞典、魯西亞等ノ諸國ニモ植物園ノ起ラザルハナク佛國ニ於テハ Josephine 女皇著名ノ一園ヲ Malmaison 設置セリ

第十八世紀ノ終ニ方リテ獨逸ノ諸大學ハ概ネ植物園ヲ具ヘタリシガ現今ニテハ之ヲ有セザル大學ハ全ク之レナシ然レ𪜈現今最大ニシテ且其名ノ最モ著ハル、植物園ハ英國ノ Kew Garden ナリトス

植物園ヲ有スル名譽ハ獨リ歐洲ニ限ルニアラズ亞細亞ニ於テハ Calcutta, Madrus, Ceylon, Batavia, Canton ニ廣大ナル諸園ノ設ケアリ亞非利加ニ於テハ喜峯望「モウリチウス」及「テ子リッフ」山ニ創始セラレ南米ニ於テハ Rio Janeiro ニ「メキシコ」ニ於テハ「メキシコ」府ニ濠州ニ於テハ Sydney, Melbourne 及 Adelaide ニ創始セラレタリ

北米ニ於テ始メテ設立セラレタル植物園ハ千七百三十年ニ John Bartram 氏ノ創始シタルモノニシテ「フヒラデルフヒヤ」府ノ近傍ヲ流ル、Schuylkill 河ノ右岸ニ起レリ此園ハ僅ニ百年餘繼續セルノミニシテ終ニ荒廢ニ歸シタルハ嘆惜スベキナリ第二ニ起リタルモノハ Humphrey Marshall氏ガ「ペンシルバニア」州ノ Marshallton ニ設置セシモノナリ而シテ氏ノ友人ニモ氏ニ傚ッテ二三ノ園ヲ起セシ者アリ

千八百四年ニ「チャーレストン」ニ起リタルモノ及千八百一年ニ「ニウョルク」ニ起リタルモノハ共ニ久シカラズシテ廢絶セリ千八百五年ニ創始セラレタル「カムブリッヂ」ノ植物園ハ曾テ Asa Gray 氏ノ監督ニ屬シタルヿアリ其名大ニ著ハル其他「セントルウイ」及「フヒラデルフヒア」ニテ植物園存在セリ特ニ米洲ノ大都會ニシテ實ニ學藝ノ淵叢ト稱スベキ「ニウョルク」府ニ於テ未ダ植物園ノ設ケナキハ怪訝ニ堪ヘザル一事ナリ（未完）

○含晶細胞

マ、サ、

C. Bleisch氏ハWelwitschia屬ニ存スル含晶細胞(Spicularcell)ノ構造幷ニ松柏科及睡蓮科中ノ植物ニ存シテ含晶細胞ニ類似セル異常細胞(Idioblasts)ノ構造ニ就キテ說ヲナシテ曰ク此等ノ細胞ニ於テハ其膜壁ハ甚ダ厚クナリ居レリ而シテ其外層ハ木質ニ化シ內層ハ細胞膜質ノマヽニ存ス且夥多ノ小結晶粒ハ膜壁中特別ノ一層ニ埋マリテ存在スルモノニシテ此層ハ細胞膜質ト蓚酸トノ中間ニ位スル成分ノ物質ヨリナレルモノヽ如シ（以上ハ本年二月發兌ノRoyal Microscopical Societyノ雜誌ニ據ル）元來含晶細胞ハ一種ノ硬膜細胞ニシテ其膜壁ハ厚クナルガ爲ニ細胞ノ內腔ハ甚ダ狹隘トナリ其膜壁中ニハ無數ノ小結晶堆積シ一見シテ其狀態ノ奇異ナルヲ見ルナリWelwitschiaハ日本ニ於テ之ヲ得ルヿ易カラザルモ「ビナンカツラ」及「マツブサ」屬ノ植物ニハ此種ノ細胞ノ多ク存在スルヲ見ルモノニシテ即木材部ヨリモ外部ノ部分ヲ撿スルトキハ多ク之ヲ見出スヲ得ヘシ（且之ヲ見ントスルニハ縱斷ノ截片ヲ作ルヲ以テ便ナリトス）此等ノ植物ニ於テ撿セルモノニテハ其形狀種々ニシテ頗ル延長シ其兩端尖リ居ルモノアリ略圓形ナルアリ又二三ノ腕ヲ射出シ居ルモノアリ且其存在スル數モ僅小ニアラザルヲ以テ容易ニ之ヲ見出スヲ得ルナリ

（本文中含晶細胞異常細胞等ノ譯字ハ便宜ノ爲一時之ヲ用ヒタルニ過ギズ）

○植物ノ摸型

高橋章臣

明治二十六年米國シカゴ府ニ開クル閣龍世界博覽會ニ出品セン爲植物ノ摸型ヲ製作シタレハ玆ニ其大要ヲ記シテ以テ大方ノ教ヲ乞ハントス初等學校ニ於テ植物ヲ教授スルニ際シ之カ說明ヲ簡約ニシテ而モ明瞭ナラシムル目的ヨリ植物諸器官ノ摸型少ナカラスト雖𪜈なづなトカきうりトカイフ如ク或一種限ノ摸型ナルヲ以テ

其數多ケレハ兎モ角モ目今ノ所ニテハ實際不足ヲ感スルナリ加之其大サ多クハ小ニ失シ廣キ教場ニテハ一方ノ生徒ニハ曖昧模糊遂ニ折角ノ工夫ヲ擧ケテ殆ト画餅ニ歸セシムルノ憾ナキ能ハス今此等ノ缺點ヲ補ハン爲ニ其大サハ極メテ大ニシ（瓣ノ長サ凡一尺）且ツ何植物ニモ非ラサル植物即チ一般ノ植物トナシタレハ此摸型ニテ普通ノ植物ヲ實驗スル毎ニ適用スルヲ得ヘク同時ニ又正式ノ植物ヨリ其部分ノ着生合同等種々ナル變化ニ由テ異屬異種ノ植物トナルコトノ理ヲ說明スルヲ得ルナリ左ニ其趣向ノ大體ヲ述ヘント欲ス

摸型ノ元料ニハ木竹はりがね紙等ヲ用ヰ簡單ヲ主トシ且ツ諸部分取リ離シ得ル樣ニナシテ整頓及ヒ運搬ニ便ニス摸型ヲ別テ二組トナシ一ハ全體ノ植物一ハ花及ヒ果實而シテ其全體ノモノヲ使用セントスレハ取リ離シ置キタル莖ノ部分ヲ繼キ合シテ之ヲ莖トシ其繼キ目ヲ節トシ其各部分ヲ節間トス次ニ莖ノ下端ニ根ヲ接續ス根ニハ直根側根ノ種類アルヲ以テ此二樣ノ根ヲ表シ得ヘク又各節ニ若干ノ孔アルヲ以テ之ニ一枚宛ノ葉ヲ挿ストキハ互生ノ位置トナリ二枚宛ノ葉ヲ挿ストキハ對生ノ位置トナル等如何樣ニモ挿シ樣ニ由テ連合シ得ルナリ其他單葉複葉等ノ變化ヲモ表シ得ルナリ花ノ摸型モ亦タ右ノ體裁ニテ其各部ノ分離ハ同一ノモノニテ變化シ得ヘク中ニモ雌蕊ハ子房ヲ護謨ニテ製シタルヲ以テ之ニ氣ヲ吹キ込ムトキハ膨大シテ果實トナルノ狀況ヲ目擊セシムルニ足ル果實ノ摸型ハ其内中外皮ノ三層ヲ明ニシ其中ニ種々アリテ之ニ二層ノ皮ヲ被リ其中ニ胚ノ存在スルコトヲ說示スルニ適セシム

○醫學博士猪子吉人氏

東京植物學會員醫學士猪子吉人氏ハ醫科大學助教授トシテ多年藥物學ノ專攻ニ從事シ專ラ有毒菌ノ性分ニ就キ研究スル處多シ文部省ハ明治二十五年六月二十三日氏ニ醫學博士ノ學位授與セリ氏ノ研究論文中世ニ公ニ

セルモノ左ノ如シ

大楓子油ノ治療的効用○博落迴シ毒性（獨逸文）○日本有毒菌類○日本殺蠅菌ノ毒分及ヒ毒性○（獨逸文）○和漢藥論○河豚毒性論（獨逸文）○アイヌ人ノ靈藥トボシノ奇効○牽牛子の治療上の價値○黄蓮の說○黄相の說○日本產毒菌の毒性（獨逸文）○芹葉鈎吻の効分及生理的作用○側金盞花の治療的効用（獨逸文）水蛭の有効成分○邦人皮膚の部位神

（新著の分）漢藥瓜蒂の醫學的研究

○するがらん

するがらん（Gymbidium ensifolium, Sw.）ハ本縣ノ產ニシテ駿河國有渡郡三保及遠江國榛原郡相良ニ多ク栽培シ之ヲ東京横濱其他各地ニ輸出ス而シテ近傍ノ山野ニ自然生ノモノナシト云フ然ルニ小生ハ近頃駿河ノ有渡山中ニ於テ三株ノするがらんヲ得タリ固ヨリ只僅ニ三株ヲ得タルコトナレバ未ダ以テ之ヲ自然ノ產地ト稱シガタケレドモ尙細ニ搜索セバ更ニ多クヲ得ルナラント考フ因ニ云フするがらんハ花候漸ク至リ今將ニ開綻セントス幽姿淸韶芳香馥郁タルノ期近キニアルベシ

附言　明治ノ初年頃ニハ妙見山續キニモ自生アリシト見ヘ間々同山奥ヘするがらん採リニ行クヿヲ聞ケリ

オ、サ、

○やまもゝ

やまもゝ（myrica rubra, Sieb. et Zucc.）ハ本縣ノ各地到處ニ產シテ年々其果實ノ收量甚多シ本年モ目下其果實ハ既ニ成熟シテ市場ニ上レリ多クハ之ニ鹽ヲ和シテ生食ス一升ノ價金五六錢ナリ

以上二件　在靜岡會員小笠原利考報

左ノ一篇ハ數年前抄譯セシモノニシテ頃日之ヲ匣底ヨリ看出セリ現今之ヲ揭載スル少シク陳腐ニ屬スルノ恐レナキニアラズト雖ドモ諸藥品ノ産地ヲ知ルノ一端トモ爲リ又ハムブリー、ヲリヴェル兩氏ノ物産ニ心ヲ用ヒラレタル一斑ヲモ窺フニ足ルベシ依テ其全文ヲ漸次ニ記シテ讀者諸君ノ一讀ヲ煩ス

○ハムブリー氏及ヲリヴェル氏ノ生藥品及ヒ經濟植物學ニ關スル穿鑿

澤田駒次郎

第一　小亞細亞、アルメリア及百兒社
第二　亞弗利加西岸
第三　亞弗利加東岸幷ニ紅海、亞拉毘亞、馬達加斯加爾
第四　印度、暹羅、及印度群島
第五　支那、安南及ヒリツピ子ス
第六　墨西哥、西印度、中部亞米利加及南亞米利加

小亞細亞、亞爾美利亞及百兒社

達刺伽篤護謨(Gum Tragacanth.)此護謨ハ小亞細亞ニ於テ Astragalus 諸種ノ植物ヨリ産出スルモノニシテ猶ホ之ヲ考證スルヲ要ス遊歷人及ビ其他好機會ヲ得ル所ノ人ハ凡ソ該護謨ヲ生産スルト認ムル諸樹ノ標本幷ニ護謨ノ標品ヲ保存シ同時ニ其護謨ハ樹幹ニ施シタル搔裂ヨリ收獲スルヤ或ハ自然ニ滲出スルヤヲ注目スベシ美麗ナル達刺伽篤護謨ハ小亞細亞ノカイツサル及ビヤラヴハツニ産ス同所ニテハ之ヲ生産スル灌本ノ樹幹ニ

長キ搔裂ヲ施スノ術ヲ用フ又イスバルタ、ボールダ、アンゴラ等ニ於テモ亦此護謨ヲ收集ス達剌侃篤護謨ハ屢々「フヲールス、トラガ、ンス」「ホッグ、ゴム」「バスソラ」護謨及ヒ「ゴム、キユーテラ」ト稱スル他ノ護謨ヲ以テ侵雜セラル此護謨ハ士麥拿ニ於テ「カラマン」護謨ト稱スルモノ、如シ其根元ハ詳カナラスト雖𪜈之ヲ水中ニ投スレバ其成分ノ一部分ハ暗色ノ塊ト爲リテ膨脹シテ溶解セズ

蘇合香(Storax)近來易貿ニ於テ睇出サレタル蘇合香ニハ一モ Styrax officiuale ヨリ製シタルモノ無シ然レドモ此樹順適ノ光景ニ因テハ嘗テ大イニ貴重サレタル甚タ芳芬ナル樹脂ヲ産出スルコト必セリ其標本即チ樹脂ノ眞正ナルモノ及ヒ基本植物ヲ得ンコトヲ企望ス此生藥ハ往時小亞細亞ノ南部ニ於テ産出セリ此土地ニハ今猶ホ該樹ノ多ク産スルヲ目擊スト

沙列布(Salep)小亞細亞及ビ百兒社ニ於テ沙列布ニ産出スル各種ノ植物殊ニ最良ノ種類ヲ産出スルモノ、標本ヲ得ベシ

赤木茸 Larch Agaric (Polyporus officinalis, Tries)此菌ハ目今露西亞北部ヨリ輸入スルモノニシテ該地ニテハ Larix Sibirica ノ幹ニ生長ス中古ハ小亞細亞ヨリ此生藥ヲ輸出セリ而シテ巴里府ノ博覽會ニハ該地方即チアダリア灣ヨリ此標本ヲ出品セリ此亞細亞産赤木茸ヲ得ル所ノ樹ハ如何ナルモノナルヤヲ知ラザルナリ

阿魏(Assafaetida)貿易品ナル尋常ノ阿魏ハ Narthex Asa fœtida ヨリ製出スルコトハ疑ヲ容レズト雖𪜈此生藥ハ其他ノ樹類ヨリ産出スルモノモ亦若干種アリト決定スベキ理由アリ一千八百五十一年ノ大博覽會ニ於テ印度ヨリ出品シタル此等ノ一種ハ褐色透明ナル護謨狀樹脂ニシテ之ヲ産出セシ幹ノ小片ヲ含有シ著シク尋常ノ阿魏ニ異ナリ

サガピェニュム(Sagapenum)本生藥ハ阿魏ニ類似スル護謨樣樹脂ナリト雖𪜈之ヲ大氣ニ暴露スルモ淡紅色ヲ呈スルヿナク又阿魏ノ如キ葫臭（ニンニク）ヲ有スルヿナシ其偶然ニ孟買港ヨリ舶載シ來ルガ故ニ竊ニ以テ百兒社ノ產ト爲ス此生藥ハ積年藥劑トシ使用シタリト雖𪜈未ダ其原植物詳カナラズ然レ𪜈阿魏ノ原植物ニ類似ノ繖形科ニ屬スル大ナルモノヨリ產スルモノト推考シテ可ナリ阿魏及ヒ瓦爾拔奴謨ニ比スレハ希有ニシテ高價ノ藥品トス」

瓦爾拔奴謨(Galbanum)前生藥ニ於テ爲シタル所ノ解說ハ瓦爾拔奴謨ノ名ヲ以テ知ラレタル護謨樣樹脂ニモ亦大イニ適合ス然レトモ本品ハ前生藥ヨリハ極メテ澤山ナルモノトス此瓦爾拔奴謨ナル商品ニ二種アリテ其差異ノ著シキ彼此別種ノ植物ヨリ產出スルモノナルヲ確定セシムルニ至レリ瓦爾拔奴謨ハアストラカン道ヲ經テ多量ニ露國ヘ輸入スト云フ然レトモ英國ニ來ルモノハ重モニ孟買ヨリス

オポパァナックス(Opopanax)此臭氣アル護謨樣樹脂即チ「オポパァナックス」ハ最モ多クノ記者ニ據レバ歐羅巴及ビ小亞細亞ニ自生スル大イナル繖形科屬植物「オポパァナックス、キロニュム」ノ產物トス此生藥ノ採收ニ付キ近世ノ解說ナク又其生產ノ地ヲ確定セス

（以下次號）

○岡山縣產被害小麥ノ實驗

堀　正太郎

岡山縣岡山市ノ殖產協會幹事村上長造氏ヨリ寄送セル處ノ被害小麥ヲ撿スルニ一ハ純粹ナル寄生菌ノ害ヲ被リタルモノ一ハ無數微細ノ糸虫 Nematode ノ寄生ニ依リテ生シタルモノナリ

(1) くろこむぎ新稱　Tiletia Tritici,(Bjerk.)

此寄生菌ニ依リテ被害セル小麥ハ麥粒黑褐色ニ變シ破裂シテ黑粉ヲ飛散ス是レ此菌ノ胞子ニシテ播種ノ際再ヒ發芽シテ小麥ノ種子成熟ノ時ニ全樣ノ病氣ニ源因スルモノ英語ノ Bunt ト稱スルモノ是レナリ

(2) こむぎのゑんどう Tylenchus Tritici, Bast.

小麥ノ成熟スルヤ一種ノ糸虫 Tylenchus Tritici Bast ト稱スルモノ寄生シ種子ヲシテ異形ニ膨大セシメ恰モ豌豆ノ狀ニ似タリ之ヲ開ケハ內ニ無數ノ糸虫アリ此病氣モ糸虫ノ寄生セル種子ヲ混シテ播種セルニ起因セルモノニメ此病氣ハ英語ノ Ear-cockle of wheat ト稱スルモノナリ

○寄贈書目

國本	第十一號	二册	殖產社（岡山）
大日本山林會報告	第百十三號	一册	大日本山林會（東京）
東京醫學會雜誌	自第六卷十號至仝十三號	三册	東京醫學會（東京）
東京人類學會	第七十四號	一册	東京人類學會（東京）
北水協會	第七十二號	一册	北水協會（北海道）
動物學雜誌	第四十四號	一册	東京動物學會（東京）
牧畜雜誌	自第八十一號至第八十三號	三册	牧畜雜誌社（東京）
地學雜誌	自第四十一號至第四十二號	二册	地學會（東京）
日本藥業新誌	第二百三十二號	一册	衛生社（東京）
日本蠶業雜誌	第四十八號	一册	日本蠶業雜誌社（東京）
東洋學藝雜誌	第百二十八號	一册	東京學藝社（東京）

Gardeners' Chronicle. Vol. XI, No. 277-282.

The Journal of Botany No. 353.

Bulletin of Miscellaneous Information. Royal Garden, Kew No. 64.

Bibriographie des Sciences Naturelles No. 23,

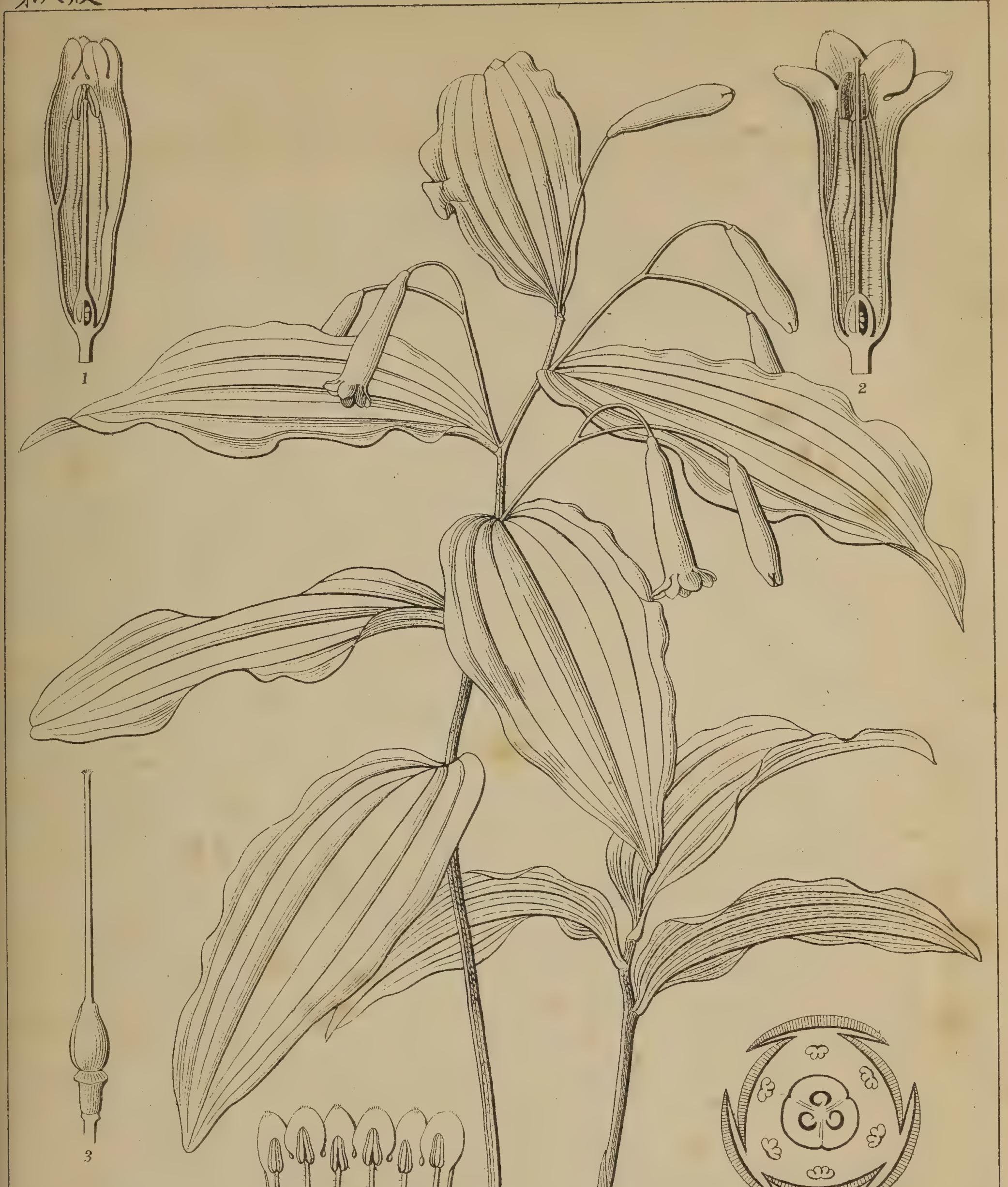
第六十四號酸類及アルカリ類ノ花瓣色素ニ於ケル反應ノ實驗ト題スル論文中ノ校正ノ不注意ト印刷人ノ粗漏ニヨリ誤植アリタレバ左ニ正誤ス（ ）中ノ文字ハ正

初向（初旬）　鹽基（アルカリ）　牧舉（枚舉）　$NaCO_3(Na_2CO_3)$　$Ca(HO)_2(Ca(HO)_2)$.　$NHO(NaHO)$

$H_2SO(H_2SO_4)$　Traxacum(Taraxacum)　moutan(Moutan)　Aletia(Bletia)　Digitatis(Digitatis)　Pr(Pr)

其他表中ノ記號ハ皆全種ノ文字ヲ用ユベキ筈ナリ

第八版 Plate VIII.


1
2
3
4
5
6
K. WATANABE, DEL.

POLYGONATUM AMABILE, YATABE.
HIME-NARUKOYURI. ヒメナルコユリ.

植物學雜誌第六卷第六十六號 （明治二十五年八月十日）

THE BOTANICAL MAGAZINE.

[Vol. VI. August 10, 1892. No. 66.]

New or Little Known Plants of Japan.

No. 23.

Ryokichi Yatabe, Sc. D.

Polygonatum amabile, nov. sp.

Nom. jap. Hime-narukoyuri. ヒメナルコユリ. (Plate VIII.)

(Order Liliaceæ.)

Rhizome creeping, marked with circular scars left by decayed stems at the extermity of each annual growth. Stem terete, glabrous, dark-purple and variegated with greenish stripes and dots, enveloped at the base in a few membranaceous sheaths, articulated ½—1 inch above the base, 4 or 5 inches to less than a foot high, the lower half erect and bare of leaves, the upper part somewhat arching and with several leaves; internodes between the leaves zigzag, 3—10 lines long. Leaves petiolate, alternate, distichous, subcoriaceous, glabrous, ovate-lanceolate, subobtuse at the apex, rounded at the base, undulate at the margins, dark-green and with a central longitudinal broad white space on the upper, glaucous on the under surface, 2—3 inches long, 10—15 lines broad; petioles short, marginate, canaliculate, 1—2 lines long. Peduncles from the axils of upper leaves, 1—2-flowered, slender, arcuate, if 2-flowered forked a little beyond the middle, 1—1½ inches long. Flowers nodding, stipitate, sweet-scented; stipes ½ line long. Perianth white, clavate-cylindrical, swollen above the middle, rounded at the base, smooth outside, puberulent inside, 6-lobed at the apex, 9 lines long, 2½ lines broad; lobes in 2 rows, greenish, ovate, pubescent at the apex, at last recurved, about 2 lines long. Stamens 6, opposite the lobes of the perianth, included, those opposite the inner 3 lobes somewhat longer than the others; filaments filiform, hairy, adnate to the perianth for their lower half, about as long as the tube of the perianth, the upper free portion about 3 lines long; anthers connivent, linear-ovate, erect, 2-lobed at the base, dorsifixed, about a line long, the 2 cells dehiscing introrsely. Ovary sessile, ovoid, 3-celled, about 1 line long; style filiform, elongating beyond the anthers after anthesis, about 7 lines long; stigma terminal, small; ovules attached to axile placentæ, uniseriate and about 3 in each cell.—Fl. May.

The figure was drawn from a living specimen brought from the Botanic Garden of the Imperial University. The specimens of this plant in the Garden were collected a number of years ago either in Shinshū or Nikkō.

From the brief description of its author P. *lasianthum*, Maxim. (Mél. Biol., vol xi., p. 850.) seems to be nearly related to the present species. But the characters of the inflorescence and leaves seem to divide the two species.

Plate VIII. Fig. 1, vertical section of flower partly open; 2, vertical section of flower fully open; 3, pistil; 4, perianth laid open showing the position of stemans, 5 back and front views of stamen; 6, floral diagram:—*all enlarged*.

日本藥局方植物篇（前號ノ續キ）

會員　澤田駒次郎

藥品　老利見結見斯葉　Folia Lowrocerasi.　英國及ビ印度藥局方ニハ新鮮ノ葉ヲ以テ藥用ニ供スト雖モ日本藥局方ニハ之ヲ用ヒズ

性狀　老利見結見斯葉ハ長卵圓形若クハ長圓形ニシテ長サ往々二「デチメートル」餘幅七「センチメートル」ニ至リ其質鞣革樣ニシテ表面鮮濃綠色ヲ呈シ裏面ハ其色稍々稀薄底部ハ圓形ニシテ頂端矮短廣濶ニシテ尖リ邊緣返卷シ粗鋸齒ヲ有シ其柄短ク主脉ノ兩側ニ大約十二條ノ枝脉ヲ分岐ス其主脉ノ下部ニハ三個乃至五個ノ著大ナル腺點アツテ砂糖ヲ分泌ス生藥學ニ云（醫科大學教授藥學士下山順一郎氏纂著）老利見結見斯葉ヲ橫斷スレバ其上層ハ柵狀細胞ヨリ成リ下層ハ海綿組織ヨリ成ルヲ見ルベシ其組織ノ或ル細胞中ニハ蓚酸加爾叟謨ノ結晶ヲ包藏ス油室ハ老利見結見斯葉中ニ發見セス老利見結見斯葉ヲ搗潰スレハ苦扁桃油ニ類スル臭氣ヲ發ス之ヲ嚼メバ微ニ苦ク收歛性ニシテ忽チ劇烈ノ苦味ヲ發ス」トアリ或云乾燥葉ハ搗碎スルモ水ヲ以テ之ヲ潤スニアラザレバ苦扁桃油ニ類スル臭氣ヲ發スルコトナシト

成分　老利見結見斯葉ノ主成分ハ藏水素及ヒ老利見結見斯油トス生藥學ニ云老利見結見斯葉ハ之ヲ水ト共ニ蒸餾スルトキハ藏水素及ヒ「ベンツアルデヒード」(Benzaldehyd $C_7 H_6-CoH$) 所謂老利見結見斯油ヲ餾出ス此老利結見斯油ハ苦扁桃油ト其本性ヲ同フスルモノナリ植物發育最モ盛ナル時季ニハ老利見結見斯葉一千分ヨリ平均藏水素一、二五分ヲ得　然レモ其乾燥セル葉ヨリハ殆ント之ヲ得ルヿ無シ零下十五度ノ强寒ハ老利見結見斯葉ヲ枯死セシメ其藏水素ヲ生成スル機能ヲ失ハシム老利見結見斯葉ハ彼ノ苦扁桃中ニ含有スル　Amygdalinヲ包有セス Laurocerasinナル無晶形ノ物質ヲ含有ス是レ藏水素ヲ生成スルノ原質タリ」トアリ又 Christison氏ノ說ニ據レバ嫩芽及ヒ嫩葉ハ揮發油ヲ含ムコト多量ニシテ一個年ヲ經タル葉ニ比スレバ大約十倍ノ多キニ至ルト又Broeker氏ノ說ニ從ヘバ老利兒結兒斯葉中藏水素ノ含量ハ土地氣候晴陰及ヒ其樹ノ年齡ニ因リ差異アリ第七八月ノ頃ハ之ヲ含ムコト多量ニシテ第二月ハ最モ小量ナリト

其他砂糖脂肪蠟鞣酸等ノ小量ヲ含有ス製藥化學ニ云（醫科大學教授下山順一郞氏編纂）老利兒結兒斯ノ生葉ハ毫モ藏化水素ノ香氣ヲ有セサレドモ之ヲ破傷シ或ハ之ヲ搗碎スルトキハ著シク藏化水素ノ香氣ヲ發生スルニ至ル抑モ此葉中ニハドラケンドルフ(Dragendorff)氏ノ撿查ニ據レバ「ラウロツェラシン」Lourocerasinト名クル「アミグダリン」類似ノ物質ヲ含有ス此物質ハ老利兒結兒斯ノ生葉中ニ存スル間ハ毫モ藏化水素及ヒ苦扁桃油ヲ生成セスト雖ドモ其葉ヲ破傷スルトキハ直チニ藏化水素等ヲ生成スルモノトス」トアリ

老利兒結兒斯葉ハ日本藥局方ニハ藥用ニ供セスト雖ドモ該葉ヨリ製シタル老利兒結兒斯水ハ苦扁桃水ノ代用ニ供スルニ因リ茲ニ本植物ヲ揭ク

醫治効用　老利兒結兒斯葉ハ沈靜藥トシテ間々內用シ亞麻仁粉ト混和シテ罨布ト爲シ疼痛潰瘍等ニ外敷シテ効驗アリ然レトモ歐羅巴ニテハ老利兒結兒斯水ヲ用フルヲ通常トス此藥藏化水素ト同一ノ効驗ヲ有スルニ因リ寧ロ藏化水素ヲ用フルヲ利益トス此レ老利兒結兒斯葉中ニ含有スル藏化水素ノ量一定セザルニ因レリ故ニ英國等ニ於テハ該藥ノ用ヒヲ癈止シ藏化水素ヲ用フト

老利兒結兒斯水ハ內服外敷シテ効驗アリ遠西醫方考補遺ニ云老利兒結爾斯水ハ腹部ノ神經病ヲ治ス、故ニ腹部諸器ノ壅塞殊ニ門豚閉塞メ痙攣ノ運動ヲ兼ル諸症ニ奇効アリ、即チ黑膽液鬱積壅滯メ發スル神思鬱憂病（メランコリア）、依剝昆垤兒、脾病、子宮ノ衝逆等ナリ其症、顏面黑赭色、上腹兩側、肋下苦悶痞脹、腹中常ニ困重ヲ覺エ豚度不整、

大便常色ヲ失ヒ膠粘若クハ稀薄、神思沈重鬱悒等ナリ○血及ヒ汸乙ヲ稀釋溶解スルニ峻効アリ、故ニ血液稠粘凝固セル病ノ熱劑害アル症ヲ治ス、曾テ是ヲ二人ニ試ム、一人ハ黒膽液質ニメ其諸症ヲ發見ス一人ハ傷冷毒痛ヲ患フ共ニ其血甚ダ稠厚ニメ膠粘ナリ此葉ノ露水ヲ取リ三十滴ヨリ六十滴マデ一服トシ日ニ三四服宛（ツヽ）用ヒテ後、刺絡スレバ其血甚ダ稀釋渙流シ其病回復セリ、又一人肝ノ壅塞頑固ニメ諸症ヲ發ス此葉ヲ濃泡劑トシ數々用ヒテ壅塞疏解シ全治セリ（中略）此露水外敷メ焮腫眼及ヒ眼瞼焮腫ヲ治ス、殊ニ瘰癧毒ヨリ發スル症ニ良○皮膚剝脫頑固ノ症ニ洗藥トシ施メ治ス○癌樣ノ硬結腺腫ハ露水若クハ葉ノ泡劑ニ小麥粉ヲ和シ琶布トシ外敷メ其腫漸ク收縮シ消散ス、一婦人乳癌ヲ截斷メ創潰爛シ腋腺腫痛甚シ此露水六十滴ヨリ百滴マデ與ルヿ日ニ四次、且ツ其創ニ棉撒絲ヲ貼メ漸ク愈合シ腫痛消散ス然レモ其後再發潰爛メ竟ニ死ス」トアリ

三十二　バクチノキ　一名ビラン

羅甸名　Prunus macrophylla, Sieb. et Zucc.

薔薇科

上總下總伊豆四國九州等ノ暖地ニ自生スル常綠樹ニシテ高サ三十尺許葉ハ披鍼形ニシテ互生シ先頂尖リ邊緣鋸齒ヲ有シ長サ三寸五六分乃至四寸五分餘幅一寸四五分乃至一寸七八分其質硬剛表面鮮綠色ニシテ裏面ハ其色稀薄葉柄矮短ナリ花ハ細小ニシテ葉腋ヨリ花梗権ヲ抽キ數花ヲ開ク花瓣五片（或ハ四片）白色類倒卵圓形ニシテ下部狹小柄狀ヲ爲ス多雄蕊筒狀萼ノ口部ヨリ生シ花絲系狀ニシテ其葯二房ヲ有シ内向ス實礎ハ球形ニシテ單房ヲ有シ花柱單一ニシテ柱頭膨脹シテ微ニ缺刻ス

バクチ葉ハ日本藥局方ニハ藥用ニ供セスト雖モ該葉ヨリ製シタル「バクチ葉水ハ苦扁桃水ニ代用スルニ因リ

茲ニ本植物ヲ掲ク

性狀　生藥學ニ云（仝上）本邦ノ伊豆、四國等ノ諸地ニ產スル「ばくち」樹即チ Prunus. macrophylla, Sieb. et Zucc. ノ葉ハ藏水素ヲ生スル機能ヲ有ス此葉ハ鈹針形ヲ有シ長サ大約十五「センチメートル」幅五「センチメートル」ニ至リ頂端ハ短ク尖レリ鞣革樣ニシテ上面ハ綠色ヲ有シ光澤ヲ帶ヒ下面ハ其色稍淡泊ナリ邊緣ハ密ニ鋭鋸齒ヲ有シ其鋸齒ノ尖頭ニ赤色ノ腺ヲ帶ブ主脉管ハ葉ノ上面ニハ着シク露出シ其裏面ニハ之ニ應スル溝渠ヲ現ハス是レ「ばくち」葉ニ特異ナル標徵トス其主脉管ヨリ分出セル各枝脉ハ葉ノ邊緣ニ達セス上方ニ向テ弧曲シ互ニ連絡ス之ヲ橫斷シテ顯微鏡下ニ撿視スレバ柵狀細胞ハ只葉ノ上面ノミニ位シ處々ニ甚タ端整ニ結晶セル蓚酸加爾叟謨ヲ箝在ス而シテ余古屋恒次郎氏ト共ニ「ばくち」葉ヲ實驗ニ徵セシニ其藏水素等ヲ生スルコト本條ノ生藥即チ老利兒結兒斯葉ニ異ナルコトナシ故ニ「ばくち」葉モ亦彼ノ「ラウロツェラシン」ヲ含有スルヤ疑ヒナシ」トアリ

成分　バクチ葉ノ成分ハ未ダ詳ナラサレドモ前說ニ據レハ老利兒結兒斯葉ト同一ナラン

醫治効用　老利兒結兒斯水ニ同ジ故ニ之ヲ略ス（以下次號）

靜岡縣產植物錄

小笠原利孝

緖言

余ハ明治廿年六月ヨリ靜岡縣ニ敎員ノ職ヲ奉シ爾來常ニ生徒ヲ率テ山野ノ植物ヲ探求シ或ハ獨行シテ普ク靜岡縣產ノ植物ヲ採集シ之ヲ生徒ニ示シテ如何ナル種類ノ植物ガ靜岡縣ノ如何ナル所ニ產スルカヲ知ラシメン

コトヲ勉メ其大概ヲ調査シ得タルヲ以テ謭劣ヲ顧ミズ之ヲ同好ノ諸君ニ報道シ尚更ニ詳細ナル調査ヲ遂ケントス若シ夫レ植物標品交換ノ資トナリ或ハ全國產植物調査ノ一助トモナルコトアラバ幸甚ノ至ナリ

地勢及氣候

静岡縣ハ駿河遠江及伊豆（七島ヲ除ク）ノ三國ヲ併セ管ス而シテ駿遠ノ二國ハ北方ニ連山ヲ負ヒ南方ニ海洋ヲ受ケ伊豆ハ足柄箱根ノ山脈ニ連リ南走シテ海洋中ニ斗出ス之ヲ要スルニ静岡縣ハ山嶽多ク低地甚少シ氣候ハ概和順ニシテ海邊ハ極暑華氏九十五六度極寒華氏三十七八度ナリ而シテ静岡ハ遠州ノ南方ヨリ稍々寒ク伊豆ノ中央以北ヨリ暖ナリ

植物開花ノ期節

植物開花ノ期節ハ静岡縣三州中各地ニ於テ多少ノ差異アリ又年々ノ季候ニ由テ一定セザレドモ二週間以上ノ差異アルコトハ甚稀ナリ今静岡縣ノ中心ナル静岡市ニ於テ如何ナル植物ガ何月頃花ヲ開クカヲ示サンガタメ普通ノ植物一百種ニ就テ明治廿三年一月ヨリ本年六月マデニ取調タルモノヲ列記スベシ但シ花ガ初テ余ノ眼ニ觸レシ時ヲ記シ置タルモノナレバ實際開花期ヨリ二三日乃至四五日間遲ルヽモノナシト云ベカラズ又栽培ニ係ルモノハ其方法如何ニ由テ開花ノ期節ニ多少ノ差異アリ故ニ他ノ地方ニ於ケル同種ノ植物ヲ以テ一概ニ開花ノ早晩ヲ比較スル能ザレドモ玆ニ列記スル植物ハ同一株若クハ同地ニ生スルモノニ就テ取調タレバ静岡市ニ於テ三年間ノ開花期早晩ヲ知リ且静岡近傍ニ於ケル開花期節ノ概畧ヲ推知スルヲ得ベシ

静岡近傍ニテハ毎年十月十一月ノ頃むめ、さくら、もゝ、なし、りんご、ぼけノ類數多ノ狂花ヲ開キ又草本ニモ時ナラズシテ開花スルモノアリ然レドモ是等ハ總テ玆ニ記サズ

植物名	明浩廿三年開花月日	明治廿四年開花月日	明治廿五年開花月日
(1)すゐせん（栽植）Narcissus Tazetta, L. var,chinensis,Roem.	一月一日	一月一日	一月一日
(2)わうばい（栽植）Jusminum Sieboldianum,Bl,	一月一日	一月一日	一月五日
(3)むめ（栽植）Prunus Mume, Sieb.	一月一日 （一月廿五日市中ノむめ總テ滿開）	一月一日 （一月廿三日市中ノむめ總テ滿開）	一月一日 （二月十日市中ノむめ總テ滿開）
(4)すみれ Viola Patrinii,DC.var. chinensis,Giny.	二月五日	二月七日	二月十五日
(5)なづな Capsella Bursa-Pastoris, Moench.	二月十日	二月十三日	二月廿日
(6)はゝこぐさ Gnaphalium multiceps,Wall.	二月十二日	二月十三日	二月廿三日
(7)ぼけ Pyrus japonica Thunb, var.genuina, Maxim.	二月十三日	二月十日	二月十五日
(8)たんぽゝ Taraxacum officinale,Wigg var corniculatum, Koch,et Ziz,	二月十五日	二月十五日	二月廿五日
(9)ひなぎゝやう Wahlenbergia marginata,D C.	二月十五日	二月十八日	二月廿五日
(10)みづたがらし Nasturtium officinale, R B.r.	二月十八日	二月廿日	二月廿五日
(11)げんげさう Astrgalus lotoides,Lam.	二月十八日	二月廿日	二月廿三日
(12)こゞめばな（栽植）Spiraea Thunbergii, Sieb,	二月十八日	二月十五日	二月廿五日
(13)もゝ（栽植）Pruns persica, Benth. et Hook.	二月廿日 （三月廿一日市中ノもゝ總テ滿開）	二月廿日 （三月十八日市中ノもゝ總テ滿開）	二月廿六日 （三月廿五日市中ノもゝ總テ滿開）
(14)ゑんどう（栽植）Pisum sativum,L.	二月廿日	二月十八日	二月廿五日
(15)そらまめ（栽植）Vicia Faba, L.	二月廿日	二月廿五日	二月廿八日
(16)あせび Andromeda japoinca,Thunb.	三月五日	三月七日	三月十三日

(17)	みつまた(栽植)Edgeworthia papyrifera.Sieb et Zucc.	三月八日	三月七日	三月十五日
(18)	かはやなぎ(栽植)Salis purpurea,L,	三月十日	三月十日	三月十五日
(19)	こぶし(栽植)Magnolia Kobus, DC.	三月十二日	三月十四日	三月廿日
(20)	もくれん(栽植)Magnolia obovata,Thunb	三月十四日	三月十三日	三月廿一日
(21)	ひがんざくら(栽植)Prunus subhirtella, Miq.	三月十五日 (三月廿日市中ノひがんざくら總テ滿開)	三月十六日 (三月廿一日市中ノひがんざくら總テ滿開)	三月十九日 (三月廿五日市中ノひがんざくら總テ滿開)
(22)	やまぶき(栽植)Salix purpurea, L.	三月廿一日	三月二十日	三月三十日
(23)	やまざくら(栽植)Prunus Pseudo-cerasus, Lindl.	三月廿三日 (三月廿六日市中ノやまざくら總テ滿開)	三月廿五日 (三月廿八日市中ノやまざくら總テ滿開)	四月一日 (四月四日市中ノやまざくら總テ滿開)
(24)	あをき Aucuba japonica, Thunb.	三月廿三日	三月廿五日	四月二日
(25)	みゝなぐさ Cerastium vulgatum, L.var. glandulosum. Koch.	三月廿三日	三月廿二日	三月廿七日
(26)	れんぎやら(栽植)Forsythia suspensa, Vahl.	三月廿三日	三月廿五日	三月三十日
(27)	やゝもゝ(栽植)Myrica rubra, Sieb. et Zucc.	三月廿五日	三月廿三日	三月廿七日
(28)	ゆすらむめ(栽植)Prunus tomentosa, Thunb.	三月廿八日	三月廿九日	四月五日
(29)	にはむめ(栽植)Prunus japonica, Thunb.	三月廿九日	三月卅一日	四月五日
(30)	かいだう(栽植)Pyrus spectabilis,Ait.	三月卅一日	四月二日	四月七日
(31)	たびらこ Eritrichuim pedunculare, DC.	四月二日	三月卅一日	四月五日
(32)	はこべ Stellaria media, L.	四月二日	四月二日	四月八日
(33)	はるりんだう Gentiana Thunbergii, Griseb.	四月五日	四月三日	四月七日

(34)	むらさきけまんCorydalis incisa, Pers.	四月五日	四月五日	四月七日
(35)	きんぽうげ Ranunculus acris, L.	四月五日	四月七日	四月八日
(36)	こでまり(栽植)Spiraea cantoniensis,Lour.	四月十三日	四月十五日	四月廿四日
(37)	どうだんつゝじEnkianthus japonicus,Hook.	四月十三日	四月十五日	四月十七日
(38)	しやがIris japonica, Thunb.	四月十五日	四月十二日	四月十六日
(39)	にしきゞEuonymus alaltus, Thunb.	四月廿日	四月廿三日	四月廿八日
(40)	ぶどう(栽植)Vitis vinifera, L.	四月廿日	四月十八日	四月廿一日
(41)	しんら(栽植)Bletia hyaciathina, R. Br.	四月廿七日	五月一日	四月三十日
(42)	せり Oenanthe stolonifera, DC.	四月三十日	五月一日	五月十一日
(43)	しやくやく(栽植)Paeonia albiflora, Pall.	五月一日	四月廿九日	五月十二日
(44)	しゆんらんCymbidium virens, Lindl.	五月二日	五月三日	五月一日
(45)	あやめ(栽植)Iris sibirica,L.var. orientalis,Thunb,	五月二日	三月卅一日	五月十二日
(46)	まんしゆういも(栽植)Alocasia macrorhiza, Schott.	五月七日	五月八日	五月十三日
(47)	ざぼん(栽植)Citrus decamana, L.	五月七日	五月八日	五月十日
(48)	みかん(栽植)Citrus nobilis, Lour.	五月八日	五月十日	五月十三日
(49)	きそけい(栽植)Jasminum odoratissimum, L.	五月十二日	五月十七日	五月廿三日
(50)	やまつゝじRhododendron indicum, Sw. var. Kaempferi.	五月十五日	五月十七日	五月廿三日

(51)しもつけ(栽植)Spiraea japonica, L. fil.	五月廿三日	五月廿日	五月廿三日
(52)どくだみHoutuonia cordata, Thunb.	五月廿四日	五月廿一日	五月廿七日
(53)いぼたのきLigustrum Ibota, Sieb.	五月廿四日	五月廿七日	五月廿九日
(54)かなめもち(栽植)Photinia, glabra, Thunb,	五月廿七日	五月廿五日	五月廿九日
(55)れだま(栽植)Spartium junceum. L.	五月廿八日	五月廿九日	六月五日
(56)あぢさゐ(栽植)Hgdrangea hortensis Smith.var. Azisai, Gray.	五月廿八日	五月廿七日	六月三日
(57)いとらん(栽植)Yucca filamentosa, L.	六月三日	六月七日	六月十一日
(58)ていかゝづら Trachelospermum jasminoides, Benth. et Hook.	六月三日	六月五日	六月十二日
(59)ざくろ(栽植)Punica granatum L.	六月五日	六月五日	六月十二日
(60)なんてん(栽植)Nandina domestica, Thunb.	六月五日	六月八日	六月十二日
(61)かはらなでしこDianthus chinensis, L.	六月七日	六月一日	六月八日
(62)ひめじをんErigeron annuum, Pers.	六月七日	六月五日	六月十日
(63)きんしばい(栽植)Hypericum patulum. Thunb.	六月七日	六月八日	六月十一日
(64)たちあふひ(栽植)Althæa rosea, Cav.	六月八日	六月三日	六月十日
(65)くちなし(栽植)Gardenia florida, L.	六月十三日	六月十一日	六月廿一日
(66)きやうちくたう(栽植)Nerium odorum, Soland.	六月十三日	六月十四日	六月十四日
(67)しなのき(栽植)Tilia cordata, Mill. var. japonica, Miq.	六月廿三日	六月廿二日	六月廿三日

(68)さんごじゆ(栽植)Viburnum odoratissimum. Spr.	六月廿三日	六月廿日	六月廿日
(69)ねぢばなSpiranthes australis, Lindl.	六月廿三日	六月廿五日	六月廿一日
(70)にはやなぎPolygonum ariculare, L.	六月廿四日	六月廿四日	六月廿七日
(71)ばうしばなCommelyna communis, L.	六月廿四日	六月廿六日	六月廿五日
(72)くされだま(栽植)Lysimachia davurica, Willd.	六月廿五日	六月廿七日	六月廿八日
(73)うつぼぐさBrunella vulgaris,L.	六月廿七日	六月廿五日	六月廿八日
(74)やぶくわんぞうHemerocallis flava, L.	六月三十日	六月廿九日	
(75)とらのを(栽植)Lysimachia clethroides, Duby.	七月二日	六月三十日	
(76)みそはぎ(栽植)Lythrum virgatum, L.	七月二日	六月廿九日	
(77)やぶからしVitis pentaphylla, Thunb.	七月五日	七月六日	
(78)おにゆりLilium tigrinum. Gawl.	七月十三日	七月十二日	
(79)むくげ(栽植)Hibiscus syriacus, L.	七月十三日	七月十五日	
(80)さんしちさう(栽植)Gynura pinnatifida, DC.	七月十五日	七月十五日	
(81)きゝやう(栽植)Platycodon grandiflorum, DC.	七月十八日	七月十六日	
(82)じやがたらいも(栽植)Solanum tuberosum, L.	七月十八日	七月十八日	
(83)ふぢばかまEupatorium chinense, L.	七月廿日	七月十八日	
(84)いのこづちAchyranthes bidentata, Bl.var.japonica, Miq.	七月三十日	七月廿八日	

(85)めはじきLeonurus sibiricus, L.	八月二日	八月五日
(86)おとぎりさうHypericum erectum, Thunb.	八月二日	八月三日
(87)せんにんさうClematis paniculata, Thunb.	八月五日	八月五日
(88)かなむぐらHumulus japonicus, Sieb.et Zucc.	八月五日	八月六日
(89)おみなへしPatrinia scabiosaefolia, Sink.	八月十二日	八月十八日
(90)おとこへしPatrinia villosa, Juss	八月十二日	八月十三日
(91)まんじゆしやけNerine japonica, Miq.	八月十五日	八月十四日
(92)かるかやAnthistiria arguens,Willd.var.japonica,Anders.	八月廿日	八月十八日
(93)おくるま(栽植)Inula britanica, DC. var. vulgaris, Led.	八月廿一日	八月十八日
(94)がま(栽植)Typha japonica, Miq.	八月廿五日	八月廿三日
(95)はぎLespedeza bicolor, Turcz.	八月廿五日	八月廿七日
(96)しをん(栽植)Aster tataricus, L.	九月一日	八月廿九日
(97)のぎくAster.	九月一日	八月廿五日
(68)きく(栽植)Chrysanthemum sinense, Sab.	十月廿八日 (十一月五日市中ノきく總テ滿開)	十月廿九日 (十一月七日市中ノきく總テ滿開)
(99)ちや(栽植)Camellia theifera,Griff.	十月廿五日	十月三十日
(100)さゞんか(栽植)Camellia Sasanqua, Thunb.	十月廿八日	十月廿五日

靜岡市ニ於テあだん、そけい。ほやうちくさう、りうぜつらん、そてつ、ばせう、ユウカリプタスノ如キハ

冬季別ニ手當ヲナサヾルモ善ク成長スルヲ以テ市内ノ庭園ニ多ク栽植ス而シテ皆善ク花ヲ開キ實ヲ結ベドモばせうノ實ハ熟スルニ至ラズシテ散落ス

日本植物新名

矢田部良吉

NEW NAMES OF JAPANESE PLANTS.

(Continued from p.159.)

Ryōkichi Yatabe, Sc. D.

Sapindaceae.　無患樹科

76. Acer capillipes, Maxim.

Nov. nom. jap. Hosoe-kaede.

信州ノ高山ニ生ズ。ほそえかへでトセリ。

77. Acer micranthum, Sieb. et Zucc.

Nov. Nom. jap. Kobana-kaede.

本島及ビ九州ノ高山ニ生ズ。こばなかへでトセリ。みねかへでト稱スルモノハA. Tschonuskii, Maxim. ナリ。

78. Acer circumlobatum, Maxim.

Nov. nom. jap. Shinano-hauchiwa-kaede.

信州ノ山地ニ生ズ。しなのはうちはかへでトセリ。

79. Acer japonicum, Thunb.

Nov. nom. jap. Akabana-hauchiwa-kaede.

內地及ビ北海道ニ生ズ。あかばなはうちはかへでトセリ。

80. Acer Sieboedianum, Miq.

Nov. nom. jap. Kibana-hauchiwa-kaede.

內地及ビ北海道ニ生ズ。きばなはうちはかへでトセリ。以上三種ハ相近キ種ナレバ皆うちはかへでの通稱ヲ用ヒ、しなの、あかばな、きばなの特稱ヲ以テ之ヲ區別セリ。

Leguminosae.　荳科

81. Medicago minima, Lamk.

Nov. nom. jap. Ko-umagoyashi.

鎌倉邊ノ海濱沙地ニ生ズ。こうまごやしトセリ。

82. Indigofera Bungeana, Walp.

Nom. jap. Komatsunagi.

こまつなぎはIndigofera tinctoria, L.の名ヲ以テ人ノ知ル所ナレドモ、余ハ之ト異ナリトス。I.Bungeanaニ充ツルヲ以テ適當トスベキガ如シ。

（未完）

◎雜錄

○びろうとしだ

びろうどしだハ形のきしのぶノ小ナルモノニ似タルヲ以テ樹上高キ處ニ生ズルハソレトモ心ツカデスムヿ無キニアラズ去リナガラ少シク注意セバ其ノ區別判然スベシ甲乙共ニ匍匐セル根莖アリ而シテのきしのぶノ方ニハ暗褐色披針狀ノ鱗片ヲ有シびろうどしだノ根莖ニハ纖狀ニシテ鉄銹色ノ鱗片密生セリ又のきしのぶノ葉（フロンド）ハ無毛ニシテ有柄若クハ殆ンド無柄ナレ𪜈びろうどしだノ方ハ兩面トモニ絨毛アリ裏面ハ特ニ多毛ナリ而メ葉柄ヲ有スルヿナシ其葉ノ有毛ナルヲ以テびろうとしだ又ハらしやしだ等ノ名起レリ

本しだノ本邦内ノ產所ハ對馬武州秩父下野日光、上野榛名豆州天城山北側、和州春日山、攝州布引山、信州碓氷峠等ナリ尙產多カルベシ讀者諸君ノ敎示ヲ乞フ

○ひきをこし

ひきをこし (Plectranthus glaucocalyx, Maxim. var. Japonicus, Maxim) ハ諸國原野ニ自生スル草本植物ニシテ一名えんめいさうト稱シ健胃ノ一良藥トス就中播磨國家島（エジマ）ノ產ヲ上品トセリ又仙臺地方ニテハむらたちト稱シ蟲オサヘ藥トシ用フ草木圖說ニ云利尿頗ル驗ニシテ麻醉ノ性ナキ」ト又淺田栗園氏比幾於古之治暴瀉說ニ夏月霍亂患者採爲末服之立癒此草延命草名即比幾於古之也云々トアリ

○あじさい

あじさい (Hydrangea hortensis, Sm. var. Azisai, A. Gray) ハ瘧歇熱ノ特効藥トシ民間ニテ用フト又漫遊雜記ニ云瘧病須㆘以㆓常山㆒吐㆑之大法以㆓五發㆒爲㆑期、寒少熱多者不㆑宜㆓常山㆒可㆑服㆓紫陽花末一錢㆒也服㆓備急圓一分㆒亦可也ト又先年來醫科大學敎授製藥學士ドクトル下山順一郎氏（本會々員）ハ之レガ調査ニ着手シ一種ノ結晶物ヲ得ラレ現今猶ホ研究中ノ由ニ付他日精細ナル報告ヲ得ルニ至ルベシ或云紫陽花ノ瘧歇熱ニ効驗アルハ規尼涅ニ劣ラズト

○香水木トハ如何ナルモノカ

讀賣新聞第五千四百八號雜報欄內朝貌ノ記事中ニ「今年入十にて賣捌く香水木といふは非常に賣口よし此木はハンケチーフ手拭等を葉に摺付れば香水を掛けし如きの香ありと云ふ」トアリ香水木トハ如何モノヲイフニヤト早速入谷ノ入十方ニ出掛ケテミシニ成ル程香水木ト記ルセシ札ヲ付ケタル灌木大小數鉢アリタリ而シテ此植物ハ如何ナルモノカトイフニ數年前ニ防臭木ト稱シ此植物ヲ植ヘ置ケバ惡病除ケトナルトテ當時中々評判ナリシ馬鞭草科ノ Lippia citriodora ト稱スルモノニテアリキ元此植物ハ南米產ノ物ニシテ今ハ歐洲ニモ栽培シ彼地ニテハ茶トナシ叉ハ乳酥ニ香氣ヲ附スルニ其乾葉ヲ用フトイフ

○さくらノ氣根

さくらノ木ノウツロニ成リ此處ニ朽木木葉ノ朽タル者タマリナドセシ處ニハ往々根ヲ下スヿアレ𪜈其他幹枝ニハ根ヲ出スヿヲ聞カザリシガ余ガ園內ニ二個ノ櫻樹アリ一ハ洋種ナリ一ハ支那ヨリ或ル人ノ持歸ヘリシモノナル由果シテ支那產ノモノナルヤ否ヤソハトモアレ此兩櫻樹ハ幹枝トモニ年々夥多ノ氣根ヲ生ス而メ此氣根ハ多ク枝ノ着處ノ下部ヨリ出ヅレ𪜈叉叉ノ上部其他ヨリモ出ツ其方向ハ地ニ向フアリ天ニ向フアリ水平ニ生ズルアリテ更ニ一定セズ年內ニ五六分乃至七八分位ハ生成スレ𪜈冬ニ至リテ枯ル丶ヲ以テ天ニ向フモノモ後チニハ地ニ向フ樣ニ成ルナルベシトハ思ヘドモ夫レマデ見ルヿ不能

因云　櫻花ハ香氣ナキモノナルニ余ノ處ノ一櫻樹ハ三月初旬ニ開花シ花ニ一種ノ香氣アリ

○くさすぎかづら

本年七月帝國大學ノ命ヲ受ケ上野下野ヘ出張セシガ同月十一日伊香保ヨリ一里半ノ處即チ湯中鄉字千石ノ野

中ニ於テくさすぎかづらノ自生セルヲ採レリ而ソ大學標品目錄ニハ北海道日向伊豆トアレバ上野ニモ所產アルヿヲ記ルシヲクノミ　オ、サ、

○赤沼原

數年前日光赤沼原ニ至リシ頃ハ今ヨリ沼地多キ樣ニオボヱ丈ケ高キ草類少ナク路傍ニテモこけもゝ、もうせんごけ、ひめしやくなげナドみづごけノ中ニマジリ澤山ニアリシガ近年ハ丈ケ高キ草多クナリこけもゝ、もうせんごけナド大ヒニ減ジタリ此ク高草ノ多クナリシハ野火ノ屢々アル故ト土地ノ者ハイヘリ本年七月余ガ至リシ頃ハときさうわたすげノ一種 Eriophorum vaginatum,L. あぶらがや、につくわうあざみ、ほざきしもつけ等開花セリ又あやめハ殊ニ花盛リニテ見事ナリキ前記 Eriophorum ノ一種 E. angustifolium ナルモノハ英國產ノわたすげニテ種毛（實ハ種子樣ノ果實ノ毛）ヲ以テ美シキ織物ヲ作リシヿアル由シ又綿ノ代用トシテ糸トセシニ可ナリノ糸ヲ生ゼシトカ只シ糸質綿糸ヨリハ脆弱ナル由此事ハ赤沼植物ニハ關係ナキヿナレドモ本邦ニモわたすげノ類二種アリ北方ノ地方ニハ隨分アレハ或ハ試ムル者モヤト記シヲクノミ　オ、サ

○植物學ノ進化　（前號ノ續キ）

マ　サ　生

年月ノ順序ヲ逐ハンガ爲ニ植物園ノ各地ニ創設セラレタル時ニ泝リテ考フベシ此等ノ園中ニ外國植物ノ培養ヲ始メタルハ植物學ノ進歩ヲ助クルヿ少ナカラズ然レドモ其進歩スルニ隨ヒ適當ナル分類法ノ必要ヲ感ズルヿモ次第ニ其度ヲ加ヘタリ而シテ分類法及命名法ノ不完全ナルガ爲ニ某植物ヲ撿シテ其名稱ヲ定メントスルトキニハ非常ノ困難ヲ極メタリ即某植物ガ果シテ新種ナルヤ又ハ古人ガ已ニ發見セシモノナルヤヲ照合スルニ困難ヲ極メタリ Linnaeus 氏ハ殊ニ此困難ヲ感セシヲ以テ終ニ一種ノ分類法ヲ創始セリ是レ恰モ當時ノ必要

ニ應シタルモノニシテ氏ノ名ヲ不朽ニシタルハ實ニ此分類法ニアリ其法ハ雌雄蕋ヲ基本トシタル一種ノ人爲的ノモノナリシト雖廣ク同時ノ學者間ニ行ハレタリサレドモ氏ノ成就セル一層大ナル功績ニシテ之ガ爲ニ博物界革命者ノ稱ヲ博セシ所ノモノハ種及屬ノ學問上ノ標徴ニ關シテ確乎タル法則ヲ創始シ且之ヲ表スベキ正確ノ用語ヲ定メタルニアリ

Lubis, Gleditsch, Abanson, 及 Jussieu, ノ諸氏ハ Linnaeus, ノ分類法ニ反對ヲ唱ヘタリ然レドモ氏ニ先ツテ一層良好ナル分類法ヲ創始セシニアラズ Linnaeus, 氏モ決シテ自己ノ分類法ヲ以テ完全ナリト思惟セシニハアラズ自然分類法ヲ創始スルノ任ハ後來ノ植物學ニアリト信ゼシナリ氏ノ創始セル人爲分類法ハ某植物ニ就テ名稱産地等ヲ撿出スルノ索引タルニ過ギザルナリ

Linnaeus氏ノ弟子中ニハ自國又ハ外國ノ植物ヲ研究スルヲ以テ其任トセルモノ多シ而シテ特ニ其名ノ顯ハレタル者ハ Hasselquist, Forskal, Loflins, Pallas, Brown Jacquin, Comerson, Burman, Aublet, Scopoli, Pollich, Leers, Haller, 及 Gerard ノ諸氏ナリ

Lishtfoot 氏ハスコツトランドノ植物ヲ研究シ Oder 及 Wulle, 二氏ハデンマルクノヲ Gunerus 氏ハノルウエーノヲ Hudson 氏ハ英國ノヲ Martinez 氏ハ西班牙ノヲ Sequire 氏ハ伊太利ノヲ研究セリ而シテ此等ノ諸氏ハ各地ノ植物ニ關スル知識ヲ廣メタルヿ少ナカラズ

Linnaeus 氏ノ時代ニ於テハ菌蕈、苔蘚、藻類ノ如キハ多少學者ノ注目セル所トナレリ而シテ殊ニ Micheli, Scheuchzer, 及 Dillenius ノ三氏此等ノ研究ニ從事セルモノナリ Dillenius 氏ハ苔蘚類ヲ精細ニ研究セリ而シテ從前ハ殆ト英人ノ特有トモ稱スベキ苔蘚上ノ研究ヲ進歩セシメタル人ナリ

前ニ記シタル Bauhin 氏ノ植物錄ニハ惟五十種ノ苔蘚ヲ記スルニ過キザリシモ Ray 氏ハ一六九〇年ニ八十種ヲ記セリ而シテ僅々六年ノ後ニハ其數百七十種ニ達セリサレドモ Dillenius 氏ハ始メテ苔蘚ノ標徵ヲ研究シ之ヲ菌茸ヨリ區別セシ人ナリ氏ノ勉强ニシテ且緻密ナリシハ Giessen ノ近傍ノミニテ苔蘚ノ二百種ヲ發見セシヲ以テ其一班ヲ知ルニ足レリ實ニ二百種中全ク新種ナルモノ百四十種ノ多數ヲ占メタリ

此頃ニ植物生理ニ關スル研究モ其端緒ヲ開キシガ St. Hales 氏ハ其先導者タリ氏ハ植物躰中ニ存在スル汁液ノ機能ヲ發見セリ又氏ハ樹幹中什液ノ上昇ニ就テ實驗ヲ行ヘリ

次ノ時代ニ於テハ植物學者ハ Linnaeus 氏ノ分類法ヲ擴張シ且之ヲ應用スルヿニ盡力セリ植物ノ種類ニ關スル知識ノ增加ハ Linnaeus 氏ノ著手セシ Genera and Species Plantarum ノ刊行ヲ繼續スルニ因テ補助セラレタリ而シテ此書ニ其稿ヲ寄セタルハ Schreber, Willdenon, Vahi, Persoon, Romer, Schultes, Sprengel, Presl, D, Dietrich, 及 H. Richter ノ諸氏ナリトス

第十八世紀ノ始ニ方リ下等植物ノ研究ヲ復興セシハ禾本類及羊齒類ニ關スル有益ノ書ヲ著ハセル Presl 氏及始メテ菌茸ヲ記載セル Persoon 及 Sprengel ノ二氏ナリトス Persoon 氏ハ菌茸ヲ分類シテ種屬ノ別ヲ設ケタリ

此世紀ノ終ニ方リ Kolreuter 及 Schmidel 二氏ハ始メテ下等植物ノ孳殖器ヲ研究セリ其著書ハ下等植物研究ノ範圍ヲ擴ムルニ預リテ力アリ

Linnaeus 氏ノ人爲分類法起リテヨリ植物學者ハ分類上ノ理論ニ馳スルヿヲ廢シ專ラ各種ノ植物ヲ研究スルヿヲ務メタリ而シテ此時代ニ引キ續キ下等植物研究ノ時代到來セリサレドモ高等植物ノ研究モ放擲セラレタ

ルニアラズ新種ノ植物ハ漸々發見セラレ新異ノ事實モ亦輻湊セリ而シテ此ノ如ク植物學上ノ進歩アルニ方リ一旦學者間ニ重實視セラレタル Linnaeus 氏ノ分類法モ今ハ漸ク其用ニ適セズ故ニ早晩自然分類法ノ起ルニアラザレバ諸般ノ要求ニ應ズル能ハズトハ當時學者ノ一般ニ信ズル所トナレリ

此時ニ方テ Adanson, Oder, 及 Gärtner, ノ三氏ハ一種ノ自然分類法ヲ創始セントシ勉メタレドモ其功ヲ奏セズ Gärtner 氏ハ果實及種子ニ基キテ分類スルヿヲ勉メタリ是ハ分類法トシテハ其功ノ奏セザリシモ果實及種子ニ關シテ形躰學上ノ進歩ヲ促シタル功ハ小ナラズ氏ハ又種子ト胞子トノ別ヲ明ニセリ

始メテ自然分類法ヲ定ムル企圖ヲナシテ成功セシモノハ Antoine Laurent de Jussieu氏（1789）ナリ然レトモ其ノ法ノ價値ハ當時ノ學者ニ知ラレズ三十年ノ後ニ至テ始メヲ之テ知ルモノアルニ至レリ此ノ法ヲ遵奉セシ者ノ中ニハ Pyramus de Candolle 氏(1813) アリ氏ハ全ク此法ヲ採用シタレドモ往々之ニ附加スルニ氏ノ創見ヲ以テセリ De Candolle 氏ハ分類學者トシテハ前代後世殆ト其比ヲ見ズ氏ハ自然分類ニ關スル理論及法則ヲ分明詳細ニ述ベタリ之ヲ爲ニ當リ氏ハ決シテ Jussieu 氏ノ成績ノミニ似頼セシニアラズ自己ノ形躰學上ノ研究ヲ根據トセシモノ少ナカラズ此研究ハ分類上ニハ甚ダ有益ナルモノナリ氏ハ又發育不完全ノ諸機器及一種ノ機器ガ他種ノモノニ變遷スル狀態ヲ研究シテ之ヲ附スルニ正確ナル進化說上ノ意味ヲ以テセリ氏ノ一生ノ大著述 Regni Vegitabilis Systema Naturale 中ニハ當時知ラレタル悉皆ノ植物ヲ分類シテ其屬種ヲ記載セリ其他植物生理學及地理植物學ニ關スル著書中ニモ著シキモノアリ

Jussieu 及 De Candolle 氏ノ外自然分類法ヲ創始スルヿヲ勉メタルモノナキニ非ズ Oken, Lindley, Reichenbach 及 Endlicher 氏ノ如キ是ナリ殊ニ Endlicher 氏ハ一八三八年ニ自然族 (natural families) ノ確定ニ就テ

ハ其功ヲ奏セリ

今ヤ分類ノ正當ナル方法ハ已ニ著手セラレタリ植物記載學ハ速ニ進歩セリ各地ノ植物ハ引キ續キ觀察セラレタリ顯花植物ノ數モ非常ニ增加シ來レリ Nees von Hiseneck, Tode, Bolton, 及 Corda ノ諸氏ハ菌茸學上ノ知識ヲ增加シ且之ヲ分類スルガ爲ニハ大ニ其力ヲ盡セリ Hireneck 氏ハ菌茸ノ分類ニ力ヲ用ヒタルノミナラズ淡水生ノ藻類及地錢類ノ發育等ヲモ研究セリ

第十九世紀ノ始ニハ植物學中ノ諸分科ハ已ニ學者ノ注意スル所タリ而シテ新シキ諸分科モ漸々起リ來レリ此際ニ方リ植物躰內部ノ構造ヲ研究セル數多ノ學者アリ其中ニハ Link; Rudolphi, Treviranus, Mollenhaner, Sprengel, Mirbel 等ノ諸氏アリ Link 氏ハ當時最モ熱心ナル解剖學者ノ一人ナリ氏ハ又植物ノ生長スル方法及機器ノ作用ヲ研究セリ氏ノ著書ナル Elements of Plant Anatomy 及 Plant Physiology ハ當時ノ傑作ニシテ其他著述スル所多シ Mirbel 氏モ亦第一流ノ植物解剖學者且植物生理學者ナリ氏ハ殊ニ植物躰ノ構成 (Organization) ニ關スル理論ヲ創始センヿヲ勉メタリ

Sprengel 氏ハ細胞及導管等ノ造構ヲ研究シテ解剖學ノ振起ヲ助ケタリ氏ノ叔父モ亦植物ヲ研究シ諸花ノ花粉ガ風、虫類、其他ノ方便ニ因テ運搬セラレテ雌蕋ニ達シ以テ結實スルニ至ル方法ヲ發見セリ

L. C. Treviranus 氏ハ始メ解剖學及生理學ヲ研究シ後ニハ諸種植物ノ名稱ヲ確定スルヿニ就テ盡力セリ氏ハ細胞間空隙及表皮ノ造構ニ就テ發見スル所アリ呼吸孔ノ作用ヲ說明シテ植物ノ生活ニ關係アルヿヲ知ラシメタルハ氏ヲ以テ始メトス氏ハ又種ノ變遷ニ就テ論述セリ吾人ガ植物ノ孶殖器ニ就テ有スル知識ハ之ヲ氏及 Sprengel 氏ヨリ得ルモノ少シトセズ Treviranus 氏ノ解剖學上ノ意見ハ後來 Mohl 氏ノ唱ヘタル理論ノ基

礎ヲ形成セシガ如シ而シテ終ニ Mohl 氏ヲシテ基始膜囊 (Primordial utricle) ヲ發見スルニ至ラシメタルモノヽ如シ Mohl 氏ハ顯微鏡上ノ研究ニ從事シ羊齒類蘇鉄類及棕櫚類ノ解剖ニ關スル書ヲ著ハセリ氏ノ研究ハ植物學ノ諸分科ニ裨益アリシモ解剖學ハ殊ニ其利ヲ被フレリ氏ハ又硬變セル組織 (Sclerenchymatonstissue) ヲ精細ニ研究セリ氏ハ全ク進化ノ說ヲ有セル一八ナリ

顯微鏡上ノ研究ハ彌〻盛大トナリ Meyen, Schleiden, Schwann, Unger 等ノ諸氏ハ之レニ從事シテ解剖學ヲ進步セシメタリ

Bonnet, Sausssur, Dahamel du Mouceau, Dutroehet, Senebiere, Knight 等ノ諸氏ハ解剖學上ノ知識ヲ基本トシテ生理學ヲ研究シ大ニ其學ヲ進步セシメタリ元來生理學ハ解剖學ヨリ助ケヲ受ケタルノミナラズ化學ノ應用ニ因テ此學ハ著ク進步セリ Boussingault 及 Liebig ノ二氏ハ殊ニ植物ニ就テ化學上ノ研究ニ從事シ又其躰中ニ起ル化學的變化ヲ確定セン亅ヲ勉メタリ Liebig 氏ハ植物ガ其養料トシテ如何ナル合化物ヲ要シ又如何ニシテ地中ヨリ之ヲ得ルカヲ證明セリ其研究ノ成績トシテ人造肥料ヲ使用シ荒蕪ノ地ヲ變ジテ播種ニ適スルモノトスルヲ得ルニ至ラシメタリ

植物ノ變態ニ關スル Goethe 氏ノ意見及 De Candolle, Kobert, Brown, Schimpers, A. Braun 等諸氏ノ研究ハ形躰學ノ基礎ヲ定メ其發達ヲ促セリ A. Braun 氏ハ勵精シテ形躰學ヲ研究シ葉序ニ就テ發見スル所アリ氏ハ又後年ニ至リ隱花植物ニ就テ形躰上ノ研究ヲナシ殊ニ輪藻類ノ研究ニ其力ヲ用ヒタリ B. Brown 氏モ同樣ナル研究ニ從事シ單子葉及双子葉植物ノ種子ノ搆成ニ就テ形躰學上如何ナル關係ノ存スルヤヲ確定セリ又松柏科及蘇鉄科植物ハ裸子類ナル亅ヲ確定セリ又花粉ノ作用ニ因テ子房ノ結實スルニ至ル狀態ヲモ研究セリ

（未　完）

○ハムブリ氏及ヲリヴヱル氏ノ生藥品及ヒ經濟植物學ニ關スル穿鑿　（前號ノ續キ）

澤田駒次郎

亞弗利加西岸

コパル（Copal）シエルラ、レヲ子、コパル」ハ土人ノ「コポ」ト稱スル「ギユイボルチア、コパルリフエラ」樹ヨリ產出ス此詳ラザル樹ノ標本ト其稔熟シタル蒴果トヲ合セテ之ヲ得ンコトヲ要ス本植物ハゴデリツク及シエルラ、レヲ子」ニ接近スル其他ノ地方ニモ產ス（譯者云本品ハ亞弗利加東岸「サンシバール」ヨリモ產出ス其原植物ハ決明科ニ屬スル Trachylobium トス）

パラダイス粒（Grains of Paradise）此生藥ヲ產出スル所ノ Amomum Melegueta. ハ現今世人ノ能ク知ル所ナリト雖𪜈殆ンド之ニ類似ノ珍ラシキ種類ニシテ植物家ノ未ダ充分ニ知ラザルモノアリ故ニ亞弗利加西岸ノ各部ヨリ此等植物ノ標本ヲ得ンコトヲ企望ス其標本ハ葉及ビ花實併ハセテ之ヲ採集セザルベカラズ此花ハ極メテ軟弱ナルガ故ニ之ヲ酒精中ニ浸シテ保存スルヲ緊要トス又果實ノ標本モ亦同一ノ方法ヲ以テ保存スルヲ要ス此種類ノ樹ハ屢バ相雜生シテ其開花結實ノ時期ヲ異ニスルガ故ニ混雜ヲ避クルガ爲メニ格段ナル注意ヲ要ス

亞弗利加產鬱華（African Turmeric.）本生藥ハ「カンナ、スペシヲサ」ノ根莖ナリトス然レ𪜈更ニ之レヲ考究センコトヲ企望スシエルラ、レヲ子ニ於テ生根ヲ得テ培養ノ爲メニ之レヲ英國ニ運搬スルコト容易ナリトス

亞弗利加產マムミー（African Mammee.）本生藥ハシエルラ、レヲ子及ビプリンシス、アイランドノ產ナリ本植物及ビ其果實（酒精中ニ浸シ）ノ標本ヲ得ンコトヲ企望ス此果實ハ橙實大トス

Bitter kola of Fernando Po. 亞弗利加西土二至規線內ノ土人ニ因テ大イニ使用スル通常ノ「ビツトル、コラ」ハ Cola acuminata ト稱スル大イニ擺開セル樹木ノ生産物ナルコトヲ知ル然レドモ本生藥ノ根元ハ猶ホ未ダ詳ナラズ此物ハ「ギエッチフエル」ノ種子ナルコト疑ヲ容レズ故ニ如何ニモ正シク對生葉ヲ有スル樹木ニ於テ尋求セザルベカラズ該種子ハ蓋シ肉果中ニ在ルモノトス

セント、トーマス島拔爾撒謨（Balsam of St. Thomas.）本生藥ハ幾內亞ノ海灣セント、トーマス島ニ産スル樹ヨリ産スル花實ノ標本又樹脂ノ標本トヲ採收スルノ方法トノ報告ヲ併ハセテ領受センコトヲ企望ス此樹ハ蓋シ Sorindisa ノ種類トス

苦木（Bitter wood.）「クアシア」ノ種類ニシテガブーンカマルーン兩河ノ邊ニ産ス此木部ノ標本ハ二至規線內亞米利加種即チスリナム産括矢亞ノ代用ニ適スルヤ否ヤヲ知ランガ爲メニ之ヲ要求ス

クポクポカ（Kpokpoka）西土二至規線內亞弗利加ノ「クポクポカ樹ハ其纖維ヲ以テ「ド、」布ヲ織出スルモノニシテ未ダ其原植物ヲ詳カニセズ故ニ花ヲ有スル標本ヲ得ンコトヲ企望ス

以上ノ護謨及ヒ其採收ノ方法ト共ニ偏答百見加即チ彈力性護謨ヲ滲出スル上部幾內亞ニ産スル灌木或ハ喬木ノ花實ノ標本ハ特ニ之ヲ得ンコトヲ企望スルモノトス

亞弗利加東岸幷ニ紅海、亞拉毘亞、馬達加斯加爾

密兒拉（Myrrh.）此ノ有名ナル生藥ハ紅海ノ南端ニ近キ亞弗利加ノ海濱ニ於テ「ソマリ」種屬ノ樹ヨリ多量ニ採集シ其所ヨリ孟買ニ舶送スル爲メ之ヲ亞丁ニ携來ス又異種ノモノアリ蓋シ他ノ種類ノ樹ヨリ生ズル所ニシテ（ヴヲーカン氏ノ説ニ從ヘバ）亦亞丁ノ東四十英里ニ在ル地方ニテ採集シ販賣爲メ之ヲ亞丁ニ携來ス

又更ニ異種ノモノアリ亞拉毘亞人ノ「ビスサ、ホール」ト稱シテ之ヲ區別ス又「ソマリ」種類ノ樹ヨリ採收スルモノニシテ亞丁ヲ經テ印度ニ運搬ス此等ノ各種ノ密兒拉ヲ產出スル所ノ植物ヲ精密ニ確定スルハ大裨益ノ一點タリ而シテ此ノ目途ニ於テ其物ヲ搜査スベキ機會ヲ有スル人ハ之ニ從事スルニ怠ラザランコトヲ熱望ス

乳香（Olibanum）歐羅巴ノ貿易ニ於テ目擊スル所ノ乳香ハ其一部分ハケープガルダフユイニ近キ亞弗利加海岸他ノ一部分ハ亞拉毘亞ノ南岸ニ產シ該兩所ヨリ之ヲ孟買ニ船送ス此生藥ヲ產出スル Boswellia 屬ノ種類ニ就テハ猶ホ稍〻疑フベキモノアリ花及ヒ稔熟ノ果實ヲ有シタル標本ヲ添加スルヲ企望ス

コラリア產カルダモーム（Kororia Cardamum）

故博士ヘレイラ氏ハ此名稱ノ下ニ小サキ無花果ト形狀及ビ其大イサヲ同ウスル亞美失尼亞產「カルダモーム」ヲ注記セリ是レハ紅海南端ノ一港ナルマスソーワヨリ輸出スルモノナリ此品ノ藥用トシテ知ラレタルヿ已ニ久シ亞拉毘亞及ビ亞美失尼亞ノ土人ハ其一端ノ細小ナル部位ニ孔穴ヲ穿チ絲ヲ貫キ念珠トシテ常ニ之ヲ用フ此生藥ハ大約北緯九度東經三十五度ニ位スル國ナルタンペヨリ南亞美失尼亞中バソーノ市塲ニ運送スト云フ

又Amomum Corarima ト稱スル植物ハ未ダ全ク知ラレザルモノトス

Dragon's Brood ソコトラ島ニ產ス其原植物ハ未ダ詳カナラズ

Catha edulis. 亞拉毘亞語ニテ「カート」ト稱ス化學的試驗ノ爲メ此灌木ノ乾燥葉ノ夥多ナル供給（一百ポンド）ヲ得ザルベカラズ此植物ハ南亞拉毘亞及ビ亞美失尼亞ニ產ス

加麻刺（Kamala）加麻刺ノ特別ナル種類ハ亞丁ヨリ輸入セリ是レハ Rottlera tinctoria ヨリ生セザルコト明

瞭ナリトス本生藥ヲ產出スル土地及ビ其原植物ニ付キ總テ知ラレタルモノ無シ

Kousso 此樹即チ Brayera anthelmintica, Kunth. ノ新鮮ナル種子ハ栽培ノ爲メ之ヲ要セザルベカラズ

亞拉毘亞護謨(Gum Arabic-Acacia. verck, G. et P. セヂガムビアヨリ亞美失尼亞マテ中部亞弗利加ノ北部ヲ擧ゲテ產スル Acacia verek 樹ハ亞拉毘亞護謨ノ最良ノ類種ヲ生出スト云フ該樹幹ノ零碎ニシテ滲出ノ護謨ヲ有シタルモノヲ亞弗利加ノ西土及ヒ東部ヨリ致サシコトヲ要求ス此レ甲地方ニテ收穫シタル護謨ト乙地方ノ同植物ヨリ收穫シタルモノト其異同ヲ確定スル爲メナリ

カラムバ根 (Columba root) 此生藥ハ全ク Jateorhiza Columba ニ因テ供給サルヽカ將タ一部分ハ Jateohiza Miersii ニ因テ供給サルヽカ未ダ之ヲ知ル可カラズ此二種共ニモザムビイキユニ產スル植物ナリ然レドモJatorhizo Miersii ハ馬達加斯加爾ニモ亦之レアリ本生藥ヲ採集スル地方ヲ探尋スル遊歷者ハ該植物ノ良キ標本幷ニ生根ヲ得ザルベカラズ此根ハ肉質ニシテ土ヲ附スルコトナクシテ容易ク之ヲ運送シ得ルナリ

馬達加斯加爾產タンイン (Tanghin of Madagascar) 有毒性乳樣ノ液汁ニ就テ標本ヲ要求シ之ヲ分ツテ一部分ハ文火ヲ以テ其幾分ヲ乾燥シ他ノ一部分ハ酒精ト混和シテ液躰ニテ運送セザルベカラズ

偘答百兒加 (Caoutchouc or India-rubber) 馬達加斯加爾幷ニモサムビキユニ於テ本品ヲ生出スル各種ノ樹アリト云フ此良キ標本及ヒ其報告ヲ輯集セザルベカラズ(以下次號)

○茄　春波樓筆記に云く、茄子の性寒、本草に皆言ふ、人を損じ氣を動かし、瘡及痼疾を發し、人をして腹痛下痢せしむ」と、又有毒草木圖說に云く、瘧を患る人食すべからず凡秋後に至り毒深し綱目云李延飛曰秋食損レ目時珍曰按生々編云性寒利多食必腹痛下利女人能傷二子宮一と尤其變種或は兩蒂の者毒深し必ず食

すべからず世俗の諺に云ふ秋茄は其味美なり故に姑の婦（よめ）を悪で食せしめずと或は云ふ秋茄は子少し故に婦に食せしむること勿れと是皆甚だ誤れり子宮を傷るの説を用ふべし

補骨脂

補骨脂（Psoralea corylifolia, L. ノ莢果ハ扁平卵圓乃至腎臟形ニシテ黑色ヲ呈シ一個ノ種子ヲ有スル極メテ細小ナル閉果ニシテ往々種子ト誤認スルコトアリ

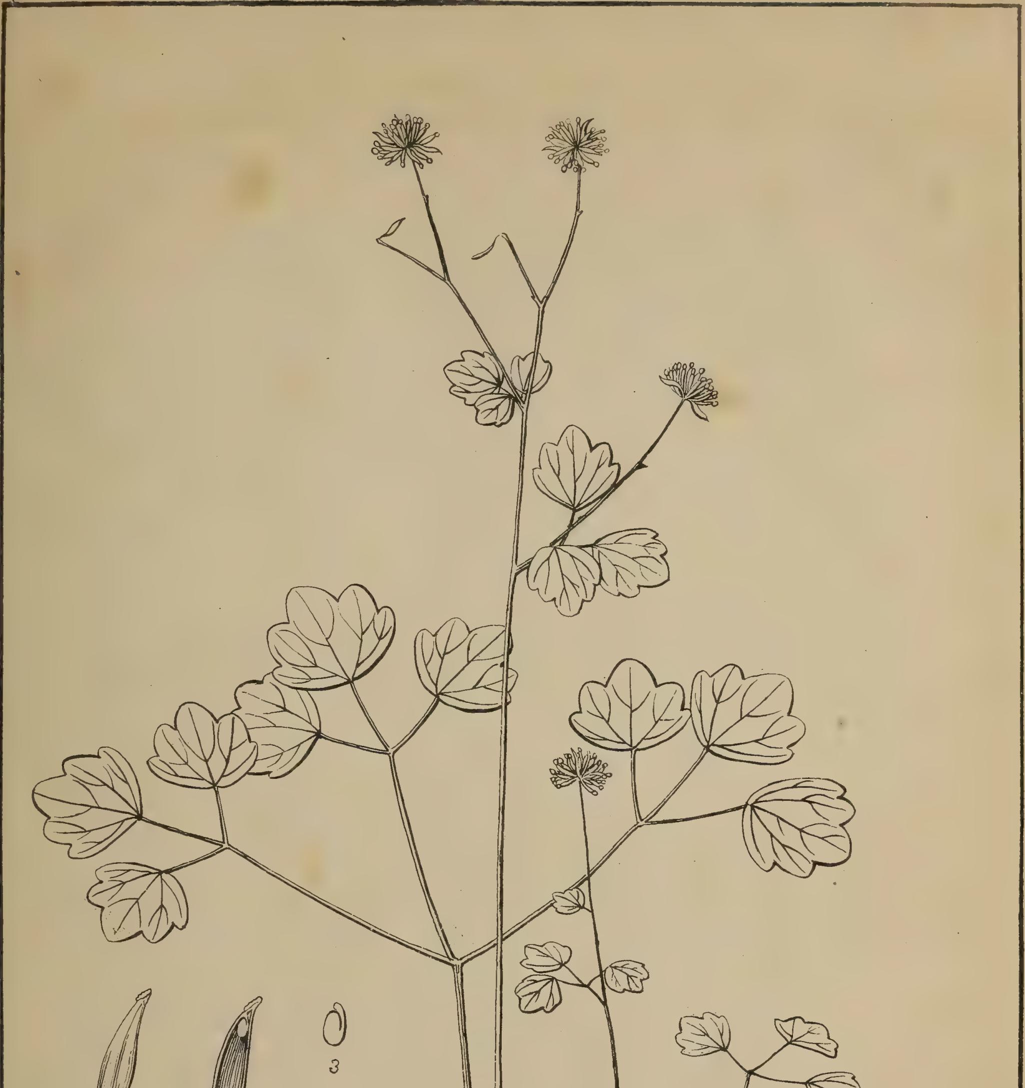
本品ハ長サ大約二「ライン」間マ蕚ニ因テ被覆セラル而シテ蕚ノ頂端五個ニ缺刻シ脉絡隆起シ細小ナル腺點ヲ有シ芳香マリ印度人ハ健胃劑トシ又癘疾皮膚病ニ應用ス（ダニエール、ハンブリー氏手記抄譯）

藤井氏其他

藤井健次郎氏ハ理科大學ニ於テ植物學科ヲ前月十日ニ卒業セラレ大學ニ入學セラレタリ

嘗テ大學院ニ於テ海藻ヲ研究シ居ラレタル理學士岡村金太郎氏ハ今回第四高等中學校敎授ニ任セラレ本月任地ヘ向ケ出發セラレタリ

白井光太郎氏ハ學術實地指導ノ爲メ埼玉縣下ヘ出張ヲ命ゼラレ前月出發セラレタリ又池野成一郎氏ハ植物學上取調ノ爲メ新潟外五縣ヘ向ケ前月下旬出立セラレタリ



THALICTRUM WATANABEI, YATABE.
TAMA—KARAMATSUSŌ. タマカラマツサウ.

植物學雜誌第六卷第六十七號 (明治二十五年九月十日)

THE BOTANICAL MAGAZINE.

[Vol. VI. September 10, 1892. No. 67.]

New or Little Known Plants of Japan.

No. 24.

Ryokichi Yatabe, Sc. D.

Thalictrum Watanabei, nov. sp.

Nom jap. Tama-karamatsusō. タマカラマツソウ.

(Order Ranunculaceæ.)

Plate IX.

Root fibrous, tuberiferous; tubers oblong or globose, often moniliform, 1—2 lines in diameter, 1—5 lines long. Stem slender, angular, smooth, 3—10 inches high. Radical leaves biternate; leaflets smooth, roundish, 3—5 lobed at the apex, rounded or truncate or broadly cuneate at the base, green on the upper, glaucescent on the under surface; lobes obtuse, 3—9 lines across the middle one larger than the rest. Cauline leaves ternate, short-petiolate or sessile, those under the inflorescence often simple; leaflets similar to those of the radical leaves, but smaller. Panicles corymbose, few-flowered, pedicels capillary, bracteolate or ebracteolate; bracteoles minute. Flowers white. Sepals caducous. Stamens dilated above the capillary base, 1 ½ lines long; anthers oblong, basifixed, ¼ line long. Carpels few, fusiform, stipitate, as long as the stamens; stigma sessile, oblique; ovule pendulous, oblong, anatropous. Achenes smooth, fusiform, long-stalked, the stalk abruptly deflexed at the base.—Fl. July.

Specimens of this plant were collected by Mr. Kanō Watanabe on July 11, 1892, at Ōkubo in Nanokawamura, in the province of Tosa. The elevation of the locality is about 3,000 feet. The plant grows in thickets of *Bambusa*.

In the specimens examined the achenes are unripe. But they seem to be laterally compressed and one—ribbed on each side.

Plate IX. Fig. 1, carpel; 2, vertical section of carpel, 3, ovule; 4, stamen:—*all enlarged.*

No. 25.

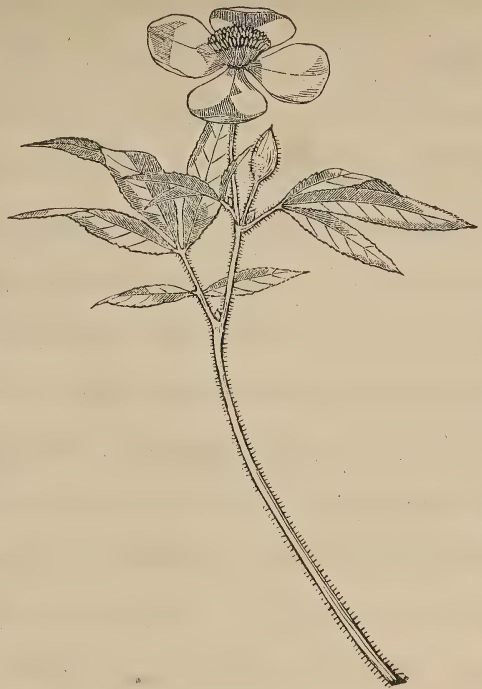
Stylophorum lanceolatum, nov. sp.

Nom. jap. Hosoba-yamabukisō. ホソバヤマブキサウ

(Order Papaveraceæ)

Stem pubescent, 4—5 inches high. Caulineleaves pinnate, 3—5—foliolate; leaflets sessile, lanceolate or linear—lanceolate, acuminate, finely and sharply serrate, nearly smooth on the upper, pubescent on the veins and veinlets on the under surface, 6—18 lines long, 2—4 lines broad. Peduncles 1—2 from the axils of upper leaves, slender erect, about ½ inch long. Flowers about 1 inch in diameter. Sepals 2, very caducous, ovate, acute, pubescent. Petals 4, patent, delicate, orbicular—obovate narrowed at the base, yellow, ½ inch long. Stamens numerous, longer than the ovary, about 3 lines long; filaments filiform, anthers linear—oblong.—Fl. July.

I have only a single specimen of this plant collected at Iwase in the province of Etchū, on July 21,1884. It is very different from all the known species of the genus.



Stylophorum lanceolatum,
Yatabe. (nat. size)

さゝげノ學名

矢田部良吉

さゝげハ形態種々ニシテ、莖、葉、及ビ莢ノ形狀、種子ノ形狀、彩色、斑紋ヲ異ニスト雖モ、之ヲ大別スレハ蔓生、特生ノ二變種トスベシ。甲ハ常ノさゝげニシテ豇豆ノ字ヲ當テ、乙ハはたさゝげニシテ獵豇又ハ獵豆ノ字ヲ當ツ。其嫩莢及ビ種子ノ食用ニ甚適スルヲ以テ、廣ク本邦ニ栽培シ、支那ニテモ亦廣ク栽植スルコト諸家ノ說ク所ヲ以テ明ナリ。Thunberg 氏ハ此植物ニ Dolichos umbellatus 又ハ Dolichos unguiculatus ナル學名ヲ命ジタリ。其後本邦植物ニ關シ書ヲ著シタル歐洲幷ニ本邦植物家ハ皆 Thunberg 氏ノ學名ヲ襲用シタリ。然レドモ此植物ハ元來本邦産ニアラズシテ、大豆、赤小豆、鵲豆、刀豆等ト一般、亞細亞大陸ヨリ輸入シタルモノナルコト疑ナケレバ、苟クモ支那、印度等ノ植物ヲ列記セル書中ニ此有用植物ヲ載セザルコトナキ筈ナリ。然ルニ Hooker 氏ノ印度植物誌ニ此植物ヲ載セズ。Forbes 及 Hemsley 兩氏ノ支那植物目錄ニモ D. unguiculatus, Thunb. ハ日本ニテ栽培スル植物ナレドモ、Loureiro 氏ノ說ニ據レバ其本產地ハ支那ナリト明記シタルノミニテ、支那ニ於テ栽培スルコトヲ說カズ。是レ甚不審トスル所ナリ。如何トナレバ、大豆、赤小豆等總テ本邦ニテ廣ク栽培スル豆類ハ支那、印度ニ於テモ廣ク栽培スルコト通常ニシテ、前記二書中此等ノ豆類ヲ兩國ニ於テ廣ク栽培スルヿヲ記載シタルニモ拘ラズ、獨リ豇豆ヲ省クノ理由ナシ。

此疑問ハさゝげノ花ヲ撿セバ忽チ氷解スベシ。抑 Dolichos (Linn.) 屬徵標ノ一二、柱頭ハ頂生 (Stigma terminale) トアリ。然ルニさゝげノ柱頭ハ內向側生 (Stigma introrsum laterale) ナリ。故ニさゝげハ Dolichos 屬外ノモノトセザル可ラズ。然ルニ此形質及ビ他ノ形質ニ於テさゝげト符合スルモノハ Vigna (Savi) 屬ナリ。此屬ハ熱帶地方ニ生ズル草本四五十包種ヲ有シ、其中一種ハ廣ク栽培スルモノナルコト Baker 氏ノ記スル所

ニシテ、此一種トハ V. sinensis, Hassk. 即チ V. Catiang, Endl. ヲ云フナリ。此種ハ印度及ビ支那ニテ盛ニ栽植シ、歐人所著ノ印度植物書、支那植物書此事ヲ記載シ、印度ニ自生シ且ツ支那ニモ自生品アルベシト云フ。此種ノ形質ハ本邦ノさゝげニ符合シ、莢ノ長サ二三尺ニ達スルモノアルニ於テモ亦本邦ノさゝげト一般ナリ。故ニ Thunberg 氏ノ D. unbellatus 又ハ D. unguiculatus ハ此種ノ異稱トスベキモノナリ。但シ此他ニモ異稱數個アリ。又 V. sinensis トハ蔓生即チ卷絡スルモノヲ稱シ、V. Catiang トハ特生即チ直立スルモノヲ稱スト雖モ、此兩者元來同種ナレバ、若シ V. sinensis ヲ種名ト定ムレバ、さゝげハ D. sinensis, var. typica. ニシテ、はたさゝげハ D. sinensis, var. Catiang ト稱スベキナリ。

以上聊カ陳述シタル余ノ卑見ハ固ヨリ誤謬ナキヲ保スベカラズ。讀者諸君異説アラバ敎訓ヲ吝マザランコトヲ希望ス。

會員　澤田駒次郎

日本藥局方植物篇（前號ノ續キ）

三十三　ヘントウ

羅甸名 Prunus Amygdalus, Stokes.

Syn. Amygdalus Communis, Linn. A.
Amala and A. dulcis, DC.

薔薇科

麻囉哥等ニ自生スル細小ナル樹ニシテ皮部暗紫褐色ヲ呈シ微ニ皺紋ヲ有ス葉ハ鋭尖披鍼形ニシテ互生シ或ハ

廣濶或ハ狹隘邊緣銳尖ノ鋸齒ヲ有シ其質菲薄表面鮮綠裏面ハ其色稍々稀薄ニシテ矮短ナル側枝ニ叢生シ或ハ葉序稍々隔離シテ螺線樣ノ序列ヲ顯ハスモノアリ托葉ハ線狀ニシテ頂端尖リ邊緣銳尖ノ鋸齒ヲ有シ速カニ墜落ス花ハ殆ンド無梗ニシテ或ハ一個或ハ數個前年發生セシ枝梢ノ側方ニ生シ鱗狀抱花小葉數片ヲ有シ葉ノ發生ニ先チ開花ス蕚ハ平滑類赤色ヲ呈シ形チ甕筒先頂五個ニ缺刻シ其截片廣濶長圓形ニシテ鈍頂ヲ有ス花瓣五片蕚ノ截片ヨリハ稍々大イニシテ其大イサ均等ナラズ卵圓形ニシテ菲薄稍々凹陷シ暗石竹色ヲ呈シ頗ル光輝アリ雄蘂大約三十個長サ花瓣ニ半バシ筒狀蕚ノ口部ヨリ生ジ二行ニ列ス實礎ハ長卵形ニシテ外面軟毛ヲ帶ビ單房ヲ有シ房中二個ノ卵子アッテ上部ノ側壁ヨリ懸生シ花柱單一ニシテ柱頭膨脹ス花後石果ヲ結フ不整卵圓形長サ大約一寸三分其一側ニ溝條ヲ有シ幼稚ナルモノハ軟毛ヲ密生シ果肉ハ革質ニシテ稔熟スレバ不整ナル二個ノ硬瓣ヲ爲シ分裂シ石殼ヨリ脫離ス石殼即チ內層ハ銳尖卵圓形ニシテ硬堅外面不整ナル凸凹線ニ因テ粗糙ノ狀ヲ呈シ內面平滑ニシテ光輝アリ種子一個長サ大約八分四厘稍々扁平頂端尖リ下部漸ク鈍ク廣濶ナル卵梗ニ因テ內層ノ側壁ニ附着シ臍點ハ一端即チ圓形ノ部位ニ在リ種子膜ハ赤褐色ニシテ菲薄其質粗糙臍點ヨリ分岐スル所ノ脉絡ヲ有ス胚子ハ大イナル平面凸形圓ノ子葉ト細小ナル根芽ヲ有シ蛋白質ヲ有セズ

扁桃ニハ甘扁桃苦扁桃ノ二種アリト雖モ植物形狀學等ヨリ論スルトキハ之ヲ鑒別スルコト能ハズ或云苦扁桃ノ種子ハ甘扁桃ノ種子ヨリハ稍々細小ナリト

本植物ハ麻囉哥、西里亞、波斯、亞細亞土耳古ニ自生シ西治里島、希臘、亞那多里亞ニモ亦產スト又歐羅巴南部ニシテ果實ノ稔熟スル温帶ノ地ニ於テ普ネク之ヲ栽培ス又諸家粧飾用トシテ庭園ニ栽植スルモノハ第三月ニ於テ美麗ナル花ヲ開キ其實礎ハ發育セスシテ雄性花ヲ爲スモノアリト又本植物ヲ Amygdalus 屬トシ

Prunus 屬ト區別セシハ果實ノ間層（果肉）柔軟肉質ニアラズシテ革質殼狀ヲ爲スニアリト云フ Boissier 氏ノ東洋植物書ニハ十七種ヲ掲載スト

苦扁桃ヲ本邦ヘ移植セシハ明治十七年ニシテ當時內務省衛生局藥草試植園ニ於テ諸藥草ノ種子ト共ニ本植物ノ種子ヲ獨逸國ヨリ購求シテ之ヲ播種栽培セリ

甘扁桃ヲ本邦ニ移植セシハ舊勸業寮ト云フ大日本農會報告ニ云扁桃樹ハ近年ノ舶來品ニシテ蓋舊勸業寮ニテ傳フル所ナリ其效用詳ナラザルヲ以テ之ヲ栽培スル者甚少ナク眞ニ其效用ヲ知リテ之ガ栽培ヲ圖リシハ唯山梨縣其他ノ數處ニ過キサルヘシ山梨縣ニテハ早ク之カ栽培ニ從事シ明治十二三年頃ヨリ已ニ其結果ヲ得タリ又岩手、福島二縣ノ如キハ巴旦杏ノ名アルニ因リ邦俗稱スル所ノ「ハタンキヤウ」ヲ栽ウル目的ニテ多ク此種ヲ栽培シ結果ヲ見ルニ至リ全ク之ト異ニシテ其果肉食フヘキ者ニアラザルヲ以テ遂ニ栽培ニ益ナキヲ悟リ今ハ棄テヽ之ヲ顧ル者ナシト聞ケリコレ其效用ヲ知ラザル故ナリ云々トアリ又明治十七年內務省衛生局藥草試植園ニ於テ獨逸國ヨリ種子ヲ購求シ之ヲ播種栽培セシニ漸次ニ生長セリ今甘扁桃ヨリ論シ苦扁桃ニ及ブベシ

藥品

第一　甘扁桃 Semen Amygdali dulce.

甘扁桃ハ Prunus Amygdalus, Stokes. var. dulcis. Baill. ノ種子ニシテ佛蘭西南部伊太利、西斑牙、葡萄牙、亞弗利加洲ノ麻囉哥ヨリ產シ改正日本藥局方ニハ藥用トス

性狀　甘扁桃ハ緩和芳香性ノ甘味ヲ有シ水ヲ注キテ搗碎スレバ純白乳樣ノ液汁ヲ生シ香味ヲ有ス然レトモ其香氣顯著ナラズ種子膜ハ粗糙皮層樣ニシテ桂皮褐色ヲ呈シ溫湯ニ浸セハ菲薄ナル內膜ト共ニ種子膜ハ容易ク

剝離スベシ斯ノ如ク子衣ヲ除去シタルモノハ其全部胚子ヨリ成ル之ヲ剝子衣甘扁桃ト云フ現今龍動府市場ニハ四種ノ甘扁桃アリ今此等ノ價格ノ順序ニ因リ揭載スレバジヨルダン産甘扁桃ウアレンシイア産甘扁桃西治里産甘扁桃パルパリー産甘扁桃是レナリ此等ノ種類ハ其形狀及ビ大イサニ差異アリ種子ノ內膜ヲ有スルモノヲ有子衣甘扁桃ト云フ

ジヨルタン産甘扁桃（Jordan Almonds）ハ極メテ良品ニシテマラガ（Malaga）ヨリ輸出シ子衣ヲ有セサルヲ通常トス

本品ハ他ノ種類ニ比スレバ多ク卵圓形ニシテ長シ故ニ間〻長形甘扁桃ト云フ英國藥局方ニテハ本品ノミヲ以テ藥用ニ供スト云フ其他ノ種類ハ稍々矮短卵圓形ニシテ其形狀苦扁桃ニ似タリ故ニ之ヲ混淆スルノ危懼アリ

但シジヨルタン産甘扁桃ハ長形ナルニ因リ苦扁桃ヲ混淆スルモ容易ク之ヲ鑒別シ得ルヲ以テ英國藥局方ニハ主トシテ本品ヲ用フト又改正日本藥局方ニ云甘扁桃ハ本植物ノ種子ニシテ左右均等ナラサル卵圓形ヲナシ壓扁セラレ頂端尖銳ニシテ基礎部ハ稍々圓形ヲ爲ス長サ大約二、五「センチメートル」幅一、五「センチメートル」ニ至リ子衣ハ褐色ヲ有シ縱皺ヲ帶ビ子葉ハ純白色ヲ有ス味ハ緩和油樣ニシテ微ニ甘シ

本品ハ敗油性ヲ有ス可カラス又水ヲ注キテ搗碎スルニ揮發苦扁桃油ノ香氣ヲ放ツ可カラズ

本品ハ用ニ臨テ温湯ニ浸シ子衣ヲ去ルベシ」トアリ又生藥學ニ云（醫科大學教授藥學士ドクトル下山順一郎氏纂著以下之ニ倣フ）甘扁桃ハ其形狀苦扁桃ニ均シ然レ𪜈其大小ニ著シキ不同アリテ大ナルモノハ長サ二、五「センチメートル」ニ至ル而シテ其內部モ亦全ク苦扁桃ト其搆造ヲ同フス然レ𪜈甘扁桃ハ其味緩和油樣ニシテ甘ク粘液性ナリ甘扁桃ハ温湯ニ浸シ子皮ヲ除去シテ用ユベキモノトス」トアリ

成分　甘扁桃ノ主成分ハ脂肪油即チ扁桃油ニシテ其他砂糖及ヒ二種ノ含蛋白質物ヲ含有ス一ヲ「イミユルシン」ト云ヒ一ヲ「アマンデイン」トス生藥學ニ云甘扁桃ハ「アミグダリン」ヲ含有セズ故ニ之ヲ搗碎シ水ヲ混攪シテ放置スルモ苦扁桃油ノ香氣ヲ發生セス自餘ノ成分ハ苦扁桃ニ均シ」トアリ

醫治効用　緩和補血ノ一藥トシ肺病等ニ用ヒテ効驗アリ或ハ乳劑ヲ製スルニ用ヒ又甘扁桃油製造ノ原料トシ之ヲ用フルコト多量ナリ又甘扁桃ハ藥用ノ他ニ食品トシテ大イニ貴重ス其仁ハ柔軟ニシテ快活ナル香氣アリ稔熟乾燥ノモノ幷ニ未熟ノモノ共ニ食膳ニ供ス但シ食品ニ供スルニハ子衣ヲ除去スルヲ緊要トス此レ子衣ハ刺戟性ヲ有スルニ因ルナリ（以下次號）

* * *

埼玉縣下採集土産

白井光太郎

(一)三峯山ノ樹種

明治廿五年七月十六日三峯山神社ヲ發シ奥ノ院ニ登リ植物ヲ採究ス路上所見ノ樹木大概左ノ如シ表中種類ノ順序ハ所見ノ順序ニ從フ括孤中ノ名稱ハ導者ニ聞ク所ノ方言ナリ

(1) イハガラミ(ウリヅタ)
(2) メイゲツカヘデ(カヘデ)赤花ハウチハカヘデナリ
(3) アハブキ(アハブクダラシ)
(4) ミヤマガマズミ(ドクヨツヅミ)
(5) ノブトウ(マメエビ)
(6) リヤウボウ(同)
(7) ムラサキシキブ(ナマイ)
(8) コハメウツキ(シロウツギ)
(9) ノリノキ(タモギ)
(10) オホカメノキ(ヤマデマリ)

埼玉縣下採集土産

(11)コバノトネリコ(フヂキ)
(12)コシアブラ(ボウダラ一名イモギ)
(13)マルバムメモドキ(アヂハダ一名ヒトツバ)
14))モミヂイチゴ(サガリイチゴ)
(15)クマヤナギ普通ノモノ
(16)山シバカヘデ(シバノキ)
(17)ヱゴ(同)
(18)ツベタギ(ニシッコリ)葉ノ裡及葉柄ニ毛アリ
(19)イタヤカヘデ(ヘイタ又ハイタ)
(20)ガマズミ(ヨッドゾメ)
(21)ゴトウヅル(ウリッタ)方言イハガラミニ同シ
(22)サルカキイバラ(フキアゲ)
(23)ヤマボウシ(ヤマクハ)
(24)ハリギリ(アクダラ一名ヤマギリ)
(25)ダンカウバイ(山ヅサ一名イハヅサ)
(26)コナラ(ナラ又コナラ)
(27)キイチゴ(アヅキイチゴ)

(28)アマチヤノキ(山アマチヤ)
(29)マルミノウグイスカグラ(ノウグミ)（ウグイスカグラニ似テ實圓ク外面ニ細毛アリ）
(30)ツノハシバミ(カシハミ)
(31)コヤウラクツヽジ(ヤウラク)
(32)タニウツギ(シイバナ)
(32)ツリバナ(チトコマユミ)
(34)チトコヨツヾミ
(35)カマツカ(ウシコロシ)
(36)大ズミ（葉裏ニ白毛アリテ實梅實大ノモノ）(ヤマナシ)
(37)ニシキヾ(シラミコロシ)
(38)ミツバアケビ(アケビ)
(39)メギ(ハッタンバラ)
(40)シチデ(シヤウデンヅル)
(41)ヤマカシウ(オニノシヨイナハヅル)
(42)ミツバツヽジ（大小葉共ニアリ）(一番ツヽジ)
(43)コアヂサイ
(44)ノイバラノ一種(ネクバラ又メグロバラ)

埼玉縣下採集土産

(45) ナガバノカウヤボウキ
(46) ハイカウハグマ
(キヂカクシ)
(47) マンサク(ムサデ)
(48) シラカンバ(同)
(49) アヅキナシ(ヤマナシ)
(50) メシロザクラ(ヤヱザクラ)
(51) キフヂ(マメブチ)
(52) ヤマブドウ(大ヱビ)
(53) ミネバリ(同)日光ノオノオレ
(54) ウラジロノキ(ズミ)
(55) 井ツヽジ
(56) ツガ
(57) ナツツバキ(サルスベリ)
(58) カシチシミ(カスホシミ)
(59) アセビ(アセボ)
(60) サハテラシ
(61) アカマツ(フタバマツ)

(62) ヒノキ
(63) バイクワツヽジ一方ニ花アリ
(64) ヤシヤブシ
(65) ウヂコロシ
(66) タカノツメ
(67) ヤマグルマ
(68) マルハカヘデ
(69) ヤマハンノキ
(70) ヒメウツギ(イハウツギ)
(71) ツクバネウツギ
(72) 大ナラ(ミヅナラ)
(73) キハギ
(74) イヌブナ
(75) ウハミヅザクラ(メヅラ)
(76) カヅラ
(77) アサガラ
(78) イボタ

(79)クロモヂ
(80)行者ノミヅ
(81)スヽダケ
(82)アサノハカヘデ
(83)クマノミツギ(ミヅクサ)
(84)ツルムメモドキ(ヒヨドリシヤウ又ツヽクミ)
(85)ナハシロイチゴ(サルイチゴ)
(86)ミヤマアシクダシ(タヽミイチゴ)
(87)クマイチゴ
(88)ヤマネコヤナギ(ヤマヤナギ)
(89)フシノキ(チツカド)
(90)マツブサ(同)
(91)ヤマナラシ(ドロノキ)
(92)サイハダカンバ(ウデイ)
(93)シロシヤクナギ(ビヤクナン)
(94)シヤクナギ(シヤクナン)
(95)チヤウジヤノキ(カマネブ)
(96)シオヂ
(97)ハルニレ(イヌゲヤ)
(98)ニレ(アツニ)
(99)アヅサ(オノオレ)
(100)フチノキ(大バヤシヤブシ)
(101)アサダ(同)
(102)ミズメ(ミズメアツサ)
(103)フヂキ(ユクノキ)

(二)武甲山ノ樹木

明治廿五年七月十四日秩父武甲山ニ登リ植物ヲ採ル路上所見ノ樹木左ノ如シ

(1)ケンポナシ(ケンポ)
(2)イボタ(同)
(3)イヌツゲ(ツゲ)
(4)アカシデ(ソノ)葉最小ノシデナリ

埼玉縣下採集土産

(5)マメガキ(ビングー名アマメ)葉ニ毛多シ
(6)フシノキ(チツカド)
(7)イヌシデ(シロソノ)
(8)コナラ(ナラ)
(9)コヾメウツギ(シロウツギ)
(10)ヤマウルシ
(11)ナツハゼ
(12)ウツギ
(13)チトコヨウゾメ
(14)カマズミ(ヨツドゾメ)
(15)ネムノキ(ネブタ)
(16)シラカシ(カシ)
(17)ホソバカシ(サヽカシ)
(18)コナシ　(ヤマナシ)　即棠梨
(19)ヒメカウゾ(ヤマカズ)
(20)オニグルミ(クルミ)
(21)カハグルミ(同)
(22)ノブドウ(ムマブドウ)
(23)コバノトネリコ(フヂキ)
(24)大ナヲ(ミヅナラ)
(25)フユツタ(ツタ)
(26)マサキ
(27)アハブキ(アハボクタラシ)
(28)リヤウブ(リウボウ)
(29)バイカウハクマ(キヂカクシ)
(30)ツタモミヂ(ヘイタ)
(31)マルハウメモドキ(アチハダ)
(32)ウリカヘデ(ウリイ)
(33)ダンカウバイ(イハズサ)
(34)イヌガヤ(ヘダマ)
(35)イヌザクラ(ヘツピリザクラ)
(36)メシロザクラ(ヤヱザクラ)
(37)マメザクラ(チマキザクラ)
(38)ハナイカダ(マヽツコ)

埼玉縣下採集土産

(39) クマフヂ
(40) タマアヂサイ（サハフサギ）
(41) キハギ（ハギ）
(42) ツクバネウツギ
(43) マメフヂ（マメボッチ）
(44) シオヂ
(45) エゴ（同）
(46) キサヽゲ（カハギリ）
(47) カウヤミヅキ（ツヅクサ）
(48) フサヽクラ（メヽズ）
(49) ケヤキ（ケヤ）
(50) クマシデ（イシソノ）
(51) サハシバ
(52) カヤ（同）
(53) モミヂ
(54) フスメロウ（オニヒバ）
(55) コアヂサイ

(56) シラクチ（同）
(57) ヤマシバ（アラハゴ）
(58) クマイチゴ（カズイチゴ）
(59) ツノハシバミ（カシマメ）
(60) コクサギ（同）
(61) カツラ
(62) ニハトコ（ニハツク）
(63) ニガキ（同）
(64) ヤマハンノキ
(65) ウシコロシ（同）
(66) アサガラ
(67) ミツデカヘデ
(68) ミヤマハヽソ
(69) ミツバウツギ
(70) モミヂイチゴ
(71) アブラチヤン（ヅサ）
(72) タラノキ

埼玉縣下採集土産

(73) ヤマシハ
(74) ノブドウ
(75) コアカソ
(67) カチカヘデ(ハナノキ)
(77) ブナ(ホンブナ)
(78) ハクウンボク(チナガシ)
(79) ヤブデマリ
(80) ナツグミ(タウヘグミ)實ノ柄長キモノ
(81) クヌギ(ジンダンホウ)
(82) ヒメシヤラ(カタスゴ)
(83) クロモヂ(同)
(84) ガクウツギ
(85) モミ(モミソ)
(89) ハカリノメ
(87) ハクギリ(アクダラ)
(88) キヤウジノヤミツ
(89) ホヽノキ

(90) ヤマボウシ(ヤマクハ)
(91) ツクバネノキ
(92) ウラジロノキ
(93) スギ大木アリ
(94) クリ大木アリ
(95) メギ(ハッタンバラ)
(96) ハシドイ方ニ花アリ
(97) イボタ
(98) コヽメウツキ(シロウツギ)
(99) イハガラシ
(100) ヤマブドウ(エビノツル)
(101) ゴトウヅル
(102) サクラ
(103) ツノハシバミ
(104) コナシ
(105) ダンカウバイ
(106) 大葉リヤウブ

(107)コバノクロムメモドキ
(108)イハシモツケ
(109)ヒノキ
(110)タニウツギ
(111)キシモツケ
(112)オニシバリシ

(三)震燒木

余ノ三峯山ニアリシ頃ハ連日迅雷驟雨アリテ山中處々ニ落雷セリト聞キシガ余モ山中ニ於テ震燒木二株ヲ目撃セリ其一ハ神社ヨリ奥ノ院ニ至ル路傍ニアル大檜ノ大木ナリ樹ノ大サ周圍二拱余高大約四丈許アリ其木三丈許ノ處ヨリ本幹分岐シ數箇ノ大枝トナレリ電氣ハ此分岐ノ邊ヲ搏撃セルモノト見ヘ此處ヨリ土際迄本幹ノ一面幅三寸許ノ樹皮一直線ヲナシ剝脫シ木質ヲ露出セリ其剝脫セル皮下ノ木質ハ深サ六七分ノ間宛モ猛獸ノ爪ヲ以テ搔キ裂キタルガ如ク幅三四分許ノ細長片ヲナシ破裂シ傷面ニ懸下セリ又其幹頭一部ノ枝葉ハ大風ニ傷シタルガ如ク凋萎シ乾縮ノ狀ヲ呈セリ然レ𪜈其傷面及枝葉ニモ燒ケタル痕ハ見ヘザリシ樣ナリ元來雷震ノ爲ニ樹皮ノ破裂スルハ其カンビユム層ヲ傳フテ相搏ツノ雷氣劇熱ヲ起シ急ニ木質中ノ水分ヲ膨脹セシメ組織ノ破裂ヲ起サシムルニヨルナリト云ヘバ其燒クルトヤケザルトハ木質中ノ水分ノ多少及降雨ノ多少ニヨルモノナランカ

他ノ一株ハ三峰神社境內ノ杉樹ナリ此木ハ社後ノ林中ニアリテ余ノ見タル處ヨリ距リタレバ委敷記載スルコト能ハズト雖モ其震痕一直線ヲナサズシテ幹ヲ繞リ螺旋狀ヲナシタルハ之ヲ實見セル同行諸氏ノ說ニテ明ナリ余モ其傷痕ヲ遠見セルニ其螺旋ノ方向ハ時計ノ針ノ如ク上方ヘ卷キシ樣ニ覺ユ此等震擊ノ摸樣ハ樹種ノ木質部ノ造構及水分ノ行路ニ關係アルモノト考フレバ博ク事實ヲ集メ考究セバ肝要ナル結論ヲ得ルコトモアラ

ソ歟杉樹ノ如キハ別ニ其幹ノ木質ノ捩レテ見ヘザルニ震痕ノ卷旋狀ヲナスハ或ハ水分上昇ノ通路螺旋狀ヲナスニヨルニ非ザル歟是點ハ水行說ニ大ナル關係アレバ充分會員諸君ト共ニ考究シ度キコトナリ

（四）中津川村

中津川村ハ秩父大宮驛ヲ去ルコト十二里三峰山ヲ去ル六里ノ山中ニアリ地僻ニシテ道嶮シク秩父近傍ノ村人ト雖モ此處ヲ知ルモノ稀ナリ余等同行十二人此處ニ尋ネ入リ少シク同地ノ事情ニ通曉スルヲ得タリ依テ同地ニ採集ヲ企ツル人士ノ一助ニモ聞見ノ一二ヲ記載スベシ

此村ハ人家大凡三十戶計アリテ谷川ニ沿フテ山腹ニ家居ヲ建タリ川流ノ處ハ途低クシト雖モ他ハ四方皆山巒ニテ取圍マレ僅ニ樵蹊ヲ通スル迄ニテ殆ンド道路ナシト云フテ可ナリ信州佐久郡梓山ニ通スル一路ハ其間五里ト云フ此路ハ稍他路ヨリ平易ニシテ馬モ荷物ヲ付ケザレバ通行ヲ得ルト云フ他路ハ坂路ノ嶮峻ナルノミナラズ谷川ヲ渡ル處多ク且ツ丸木橋。斷岸等多ク壯者ニアラザレバ容易ニ通行スルヲ得ザル所ノミナリ此等ノ路モ一、二日雨降續クトキハ山ノ崩レ出水等ノ爲ニ通行止トナリ四方ニ出ヅルコト能ハズ余等モ降雨ノ爲メ歸ルヲ得ズ大ニ困却セリ

村民ノ職業ハ舊時ハ重ニ木細工ヲ以テ生產トセリ當時此村ヨリ仕出シタル產物ノ品目ヲ舊記ニヨリテ記セバ左ノ如シ

一槐板（長六尺五寸以下幅壹尺五寸以下厚五寸以下）樹種ハ（桂。澤栗。樅。栂。赤松。朴。姬子松。栗。黑部。唐檜。白檜。）

一折敷板（長六尺二寸幅壹尺五寸厚壹寸五分）樹種ハ（檜。桂。樅。姬子松。椹）

一鞘木（長三尺二寸以下幅五寸以下厚二寸以下）樹種ハ（朴）

一下駄木（澤栗。山桐。柘。楢。撫。朴）
一棒　木（水草。川クルミ
一笹板長一尺八寸（家根板ナリ）（樅。栂）。
一羽子板　（檜。桂。樅。姫子松）
一木地椀（栃。槻）
一桶木（檜。椹）
一木地挽物（栃。槻）
一鳥黐（岩モチ）
一白箸（水草。川クルミ）

此他ノ産物ノ主ナルモノハ

岩茸。及鑛物ナリ岩茸ハ現今モ多量ニ産出シ多額ノ收入アリト云フ

維新後ハ舊時ノ制度破レ村民爭テ樹木ヲ伐リ木材ノ儘ニテ賣リ出シタル爲木ヲ伐リ盡シ現今ニテハ前記ノ諸細工物ハ殆ンド廢業ノ姿ナリ專ラ農業養蠶等ニテ生計ヲ立ツル様子ナリ村中ノ大家ヲ幸島喜平ト曰フ村中別ニ旅人宿トイフモノナシ此處ニ至ル人ハ大抵此家ニ宿泊ヲ乞フヲ通例トス村中酒菓子其他食物ヲ賣ル家ナシ風俗等ハ別ニ著ルシキ異狀ナシ村中小學校モアリ幸島氏ニハ新紙小說等アリ家屋ノ建築モ立派ナリ疊建具等モ上等ナリ米ハ粗惡ナリ黒クシテ籾ヲ交ユ信州梓山ヨリ來ルト云フ余等逗留中ハ雨降リ山中ヲ巡廻スル能ハザリシユヘ植物ヲ充分探究セサリシト雖モ種類ハ大抵三峯山ニ同シ此村ノ近傍ニハ鑛坑多クアリ幸島氏所藏ノ明鑑ト題セル册子ニ此ノ諸事ヲ記載セリ其中ニ昔年本草家平賀源内此處ニ來リ鑛山ヲ開坑シタル記事アリ

頗ル參考ノ價値アルヲ以テ此ニ拔抄シ諸君ニ示サント欲ス平賀氏着手ノ鑛坑ハ余モ一日山ニ登リテ此跡ヲ實見セリ

明鑑曰

明和二年廿日江戸神田下白かべ町宅平賀源內火浣布石御尋に此處江被參候平賀源內幷中島丹治同利右衛門諸所見分金山銀銅鐵山鉛ろくせう。めうばん。たんぱん。じしやく。かんすいき石抔見立被歸候同四月廿二日中島利兵衛登山金山初可申由相談ノ事

明和三戌年七月廿五日平賀源內案內ニテ正木源八樣ト云御役人御登山諸所御見分札等御立被成萬事御取調御歸府ノ事尤八月迄御逗留也藤井右門中島丹治共外皆々登山根岸吉之助樣九月御出役十二月御歸府ニテ冬之內休山野中丈助始金堀共不殘當所越年今井忠七樣荻原文右衛門樣御附役ニ御登山六月御歸府跡役橫井〇〇加藤助市樣十月迄御付役同十月ゟ永田甚右衛門樣十二月迄御付役夫ゟ休山被仰付岩田三郎兵衛其外金堀當所越年右明和五子年迄切出候事丑寅卯三ヶ年休山其間明和九辰十月九日江戸ゟ松平周防守樣御小人衆吉田利兵衛樣御內見ニ登山同十一日大瀧カヽリ御歸府安永二年二月九日三郎兵衛幸十郎入山夫々普請取掛リ小屋等出來三月十八日御奉行樣中津川村へ御着有リ鉄ハカネ定カニ不分併信州上田鍛治忠右衛門ノベカネ二貫目拵歸リ夫ゟ吹場取掛リ拵ヱ安永三年迄堀同年ゟ九年ノ間休山本〆平賀大シクジリ云云

(五)應用植物

秩父地方ニ野生スル草木ニシテ里民ノ諸用ニ供スルモノヲ取調ベタルニ大概左ノ如シ

(I)山タモ又タモギ（即ノリノキナリ皮ヲ剝キ碓ニテ擣キ紙粘トシタルモノ(即トロロアフヒ)ノ代用トス故ニ山タモト云フ）

(2)ヤマカズ又ノソ即ヒメカウゾ皮ヲ剝キ紙ニ製ス

(3)アマメ又マメガキ（木ノ太サ周圍五尺位トナル老木ハ木心淡黑色トナルト云フ實小ニシテ葡萄ノ大ノ如シ霜後甘熟シ食フベシ）

(4)トチノ實

(5)クリ

(6)ヨモギ

(7)ウラジロ一名野ゴンバウ即ヤマボクチ餅ニ交ヘ食フ

(8)ママツコ即ハナイカダ葉ヲ食用トス

(9)コマノスネ即イノコヅチ葉ヲ食用トス

(10)キツネバリ即センダングサ苗葉ヲシタシモノトシ食用トス

(11)イハナ即イハタバコヒタシモノ又味噌汁ノ實トス

(12)ミズナ即ミズ味噌汁ノ實トス

(13)チンバコ又スヂツナキ即大バコ米ト共ニ炊ギ食フ

(14)サンシヨ葉及皮ヲ食用トス又皮ヲ煎シ石灰ヲ交ヘ川ニ流シ魚ヲ毒ス

(15)マユミノ葉

(16)シロウツギ即コヽメウツギ葉ヲ食用トシ枝ヲ養蠶ノマブシニ用ユ

(17)タンポヽヒタシモノトス

(18)セイキチ即ダケゼリヒタシモノトス

(19)フチノキ即ヤシヤブシ

(20)ミソハギ即メドハギ葉ヲ取リ去リ莖ヲ生靈祭壇ノ箸ニ用ユ

(21)ニガキ馬ノ蝨ヲ殺スニ用ユ其法ニガキノ葉ヲ剝取リ蝨ニ擦リ付クルナリ

(22)ヒヤウ即青ヒユ食用トス赤ヒユハ食ハズ

(23)ソクヅク三七草ト共ニ煎シテ打撲傷ヲタデルニ用ユ

(24)シスミコロシ即ニシキヽ實ヲ磨リ碎キ水油ヲ加ヘネリテ頭蝨ヲ治ス

(25)シヤウデンズル即シヲデ嫩莖ヲ食用トス

(26)ウリツタ即イハガラミ樵夫等葉ヲ取リ揉ミテ味噌ヲ加ヘ食フ瓜ノ味アリト云フ

(27)シナノキ夏皮ヲ剝キ諸用ニ供ス

(28)エゴ實ヲ取リ集メ碎キ灰ニクルミ田ノ肥料トス

(29)トウヤク蟲藥トス

(30)ヤマナシ即コナシ皮ヲ染料トス

(31)キサヽゲ木履ニ製造ス

(32)カハグルミマツチノ軸材ニ供ス

(33)ヤマブドウ葉ヲ多葉粉ノ代用トス

(34)ウリイ即イハキボウシ葉ノ莖ニ粘漿アリ紙粘ニ用ユ又食用トス

(35)ヤマカブ即ヤマゴボウ葉ヲ食用トス

埼玉縣下採集土産

(36)カネトヅル即アヲツヾラフヂ鐵瓶抔ノ提梁ヲ卷クニ用ユ

(37)大豆田ノ肥料トス

(38)ナベッコロゲ即カナムグラ養蠶ノマブシニ用ユ

(39)ムシグスリ即ヲトギリサウ乾シ貯ヘ腹痛ノ時煎服ス

(40)ヲチヤクサ即ヤハズサウ樵夫等炮烙ニテイリ茶トナシ飲用ス故ニ名ク

(41)ノウグミ即マルミノウグヒスカグラ實食フベシト云フ

(六)赤松茸

赤松茸ハ中津川ヲ去ル六里許、野栗澤ト稱スル村落ノ路傍道祖神ノ小祠ノ傍ニアリ赤松ノ幹ヲ以テ作ル直徑一尺五寸長大約一間許アリ本ト菌頭ノ周圍ハ皮付ノ儘ニシテ其他ハ削リテ其形ヲ成シ紅柄（ベニガラ）粉ヲ以テ赤ク彩色セリ叉軸ノ中央ノ兩側ニ直徑一尺許ノ車ヲ附着セリ形狀奇古ニシテ見ル者一驚ヲ喫セザルナシ土人ニ就テ其由來ヲ問フニ此茸ハ之ヲ「ヲキンマラ」ト稱シ養蚕ノ豐作ヲ祈ルガ爲ニ用ユルモノナリ古來ノ習慣ニテ每年正月十四日之ヲ新製シ村中クルミ平ト云處ヨリ笛太鼓ニテハヤシ前後ニ大綱ヲ付テ挽出シ晩飯過ニ至リ河原ヘ持行キ此處ニ四本柱ヲ立テヽ道六神燒キヲナスコトアリ柱ノ高サ一丈許中ニカゾキ(カウゾ)ムギガラ等ヲ詰メ外ニモ懸ケ梯子ニテ眞中ニ火ヲ點シ燒立ツ祭終リテ後ハ之ヲ道祖神ノ傍ニ居ヘ置キ翌年ニ至ル其名ノ因テ起ル所以ナリト云フ是ハ人工ノ松茸ニシテ眞ノ菌茸ニ非ズト雖モ秩父地方亦菌茸ナキニ非ズ其見聞ノ二三ヲ記スレバ

(1)靈芝方言テングジヤクシ樅。檜。栂等ノ枯木ニ生ズト云フ余ハ中津川村中ニ於テ樅ノ枯株ノ朽木ヨリ生ズルモノ

一枚ヲ採集セリ

(2)暖皮方言木ワタ中津川山中ニテ往々採リ得ルコトアリト云フ

(3)エブリコ方言カラマツノキノコ中津川山中ニテ往々得ルコトアリト云フ

(4)マツタケ赤松下ニ生ス

(5)ツガタケ栂樹ニ下生ス

(6)マイタケ楢及橅ノ根ニ生ス

(7)チタケ即チヽタケ

(8)マンネンタケ方言ナリ橅ニ生スル一種ノ胡孫眼ナリ

(9)栂ノ胡孫眼方言フクタケ

(10)カハヒキ方言ブナ○カハグルミ○アカシデノ木ニ生ズ皮ヲ剝キ食フ故ニ名ク

(11)カノシタ方言ナリ白色ニ〆皮ヲ剝カズ食フ

(12)アチエ方言ナリケヤ○アカシデ○ブナ樹ニ生ズ青色ニ〆ウラニフヂアリ

(13)カウタケ方言ナリ黑色ナリウラニヒレアリ香氣アリヒビノ藥ニ用ユ

(14)シヽタケ 黃色

(15)ハイタケ

(16)千本シメジ

(17)大黑シメジ

埼玉縣下採集土產

（七）作物病名

(1)小麥ノ豌豆病ヲ秩父寄居近傍ニテハ小麥ノ山椒ト曰ヒ秩父三峯地方ニテハ小麥ノ胡麻ト稱ス

(2)麥穗ニ淡紅色ノ黴菌（Fusisporium）寄生シ收量ヲ減スルアリ此ヲ麥ノ麹ト云フ

(3)麥奴ハ總テ之ヲクロベ又クロボト曰ヘリ此ニ二種アレモ名稱ヲ分タズこゐれる者トかたまりノ者トアリト云則前々號ノ本誌上ニ堀氏ノくろこむぎト名付ラレタル者ハかたまりノ者ナリかたまりくろぼ。こゐれくろぼかび和名雅馴ナルガ如シ

(4)稻ノ葉ニ黒點ヲ滿布スルコトアリ之ヲいぶるト云フ此病ハ初メ成長非常ニ盛大ニメ末ニ至リ雨天續ク時ニオコルコトアリト云

(5)葱類及麥類ノ葉ニ生スル赤銹ヲアブラムシノ産付ルモノ又ハアブラムシノ甜メテ出來ルモノト云ヘリアブラムシ去ル時ハ赤銹モ去ルトイヘリ

(6)梨ノ葉ニ生スル（Roestellia）ノ赤點ヲ秩父ノ一地方ニテゐしのまゝつこト云ヘリ元來此まゝつこナル詞ハ枝葉ニ出來ル疣狀ノ突起ヲ總稱スルノ名ニシテ其繼子ガ繼母ニ爪ラレ手足ニ疣ヲ生スルノ狀ニ似タルヨリ出タルナリハナイカダノ方言ニまゝつこノ名アルニテ知ルベシ此邊ニテハゑでノをばけヲモまゝつこトイヘリ

(7)多葉粉ノ葉ニ白粉ヲ撒布シタル如キモノヲ生スル病ヲ多葉粉ノうどんト稱ス按スルニ獨逸ニ所謂メールタウノ種類ナラン余曾テ此菌ノ和名ヲ作ラント欲シ種々考ヘタレドモ良名ヲ得ザリシガ今此名ヲ聞キ東西病名ノ暗合ニ感シ且其日頃苦心セル病名及菌名ヲ得タルヲ喜ベリ則此菌ヲうどんかびト稱シ其病ヲうどん病

ト稱スルコトヽセリ

(八)楮ノ種類

楮樹ハ秩父地方至ル所畑地ノ周圍及山崖等ニ植ヘザルノ地ナシ導者ニ就テ其品類ヲ問フニ應答種々ニシテ名稱亦地方ニヨリ少異アルガ如シ左ニ所々ニ聞ク所ヲ集錄シ參考ニ供ス

アヲカズ　枝ニ青ミアリテ木細ク丈高クナリ伸ビ盛ナリ皮肉薄シ葉形丸ミアリ

アカッカズ　枝ニ黒ミアリ横枝ヲ生シ易シ伸ビハ青カズヨリ惡シケレモ木肥リ肉厚シ苅取時分ニナリ樹皮赤色トナル

カジカ　伸ビ惡シ横枝ヲ生シ易シ葉ノ本ノ凹ミ深シ其纖維水中ニテホドリ惡シ

マムシカブ　葉ニ花叉アリ皮肉厚ク品質上等ナリ苅取時ニ至リ樹皮ニ白斑ヲ生スルノ狀マムシノ皮紋ノ如シ故ニ此名アリ此カズハ他種ニ比スルニ收護多ク其割合五一ナリト謂フ五一トハ原枝五貫目ヨリ熟皮一貫目ヲ得ルヲ云フ他ノ種類ハ之ヨリ收護少シト云フ

ノカズ一名ヤマカズ一名ホソカズ一名ノソ本名ヒメカウゾナリ樹皮薄シト雖モ亦製紙ノ料トスベシ且夏日紙ヲ漉クニ原液腐敗速ナラズシテ宜シト云ヘリ

楮ハ植テ六ケ年ニ及ヘバ年老テ枝條縮少シ用ヲナサズ故ニ堀取リテ新苗ト植ヘ代ユ苅取ハ霜月末ヨリ師走ニ入リ之ヲ行フト云フ粘紙ニハノリノキ。イハキボウシ。トロヽフアヒノ三種ヲ用ユ

(九)みやまはゝその雄蕋運動ス

みやまはゝその雄蕋ハ其花粉ヲ彈出スルガ爲ニ急劇ノ運動ヲ起シ反張スルノ狀宛モ彈器ヲ以テ物ヲ彈出スル

ガ如シ此事ハ已ニ世人ノ熟知セル事ナルヤ否ヤヲ知ラズト雖モ余ハ今度武甲山ノ採集ニ於テ始メテ目撃シ頗ル其構造ノ妙ニ感ジタレバ未ダ之ヲ實驗セザルノ人士ニ報知セントス是ト同屬異種ナルあはぶきハ如何ト思ヒタン𪜈當時花ヲ見ザリシヲ以テ之ヲ検定スルヲ得ザリシ同感ノ士其如何ヲ検セバ一報ノ勞ヲ惜ムコトナカレみやまはゝそノ花ハ之ヲ審査スルニ萼片四出シ紫紅色ヲ呈シ外面無毛ニメ上邊ニ纖毛齒アリ花瓣ハ大小二種アリ外ノ三瓣ハ大ニメ淡黄色ヲ呈シ圓形ニシテ內面窪メリ內ノ二瓣ハ雄蕋ノ本ニアリV字狀ヲナシ形狀頗ル小ナリ三箇ノ假雄蕋ト二箇ノ雄蕋ヲ具フ此二雄蕋花ノ前後ノ位置ニアリテ其未タ花粉ヲ出サルゝモノハ其頭釣ノ如ク內方ニ彎曲シ其狀宛モ兩人相對シテ俛首セルガ如シ中央ニ一雌蕋アリ子房無毛ナリ二子室ニメ子室毎ニ二子アリ子房下ニ盤アリ周邊ニ五角アリ子房ノ兩側ニ假雄蕋アリ品字狀ヲナシ雌蕋ヲ包ミ外ヨリ見ヘサラシム其構造他花生殖ニ適シ花粉彈出後ニアラザレバ雌蕋柱頭外出セズ試ニ物ヲ以テ其彎曲セル雄蕋ニ觸ルヽニ勃然トシテ躍起シ花粉ヲ彈出シ近傍ノ他花ニ散布スルノ狀頗ル奇ナリ

（十）青ケヤ赤ケヤ

前々號ノ本誌ニナタゲマケヤキノ事ヲ出セルガ後ニ至リ考フルニ彼神社ノ境內ニテ見タルハ眞ノナタグマケヤキニ非ズシテ「ムクノキ」ナリシガ如シ當時村人ノ言ヲ輕信セルガ爲メ斯ル誤謬ノ説ヲ傳ヘタルノ罪ハ讀者ニ向ツテ深ク謝スル所ナリ秩父ニテハけやきヲケヤト呼ビ青ケヤ赤ケヤノ兩種ヲ區別ス又イヌケヤト呼ブ樹種アリ是ハハルニレナリ山人ノ説ニ青ケヤハ皮色青ヲ帶ビ剝脫セズ木材ハ黄色ヲ帶ビ堅硬ナリ赤ケヤハ皮赤ク漸次剝脫スルコト速ナリ末材赤色ヲ帶ビ甚堅カラズ良材ナリ此兩種ハ葉形相似タルガ故ニ葉ニテハ區別シカタシト云ヘリ按スルニ此ニ所謂青ケヤハ槻ニシテ赤ケヤハケヤキニ非ザルカ葉形ノ異ナルモノ及樹皮ノ

摸樣等充分注意シタレ𪜈兩種ノ特徴ヲ撿出スルコト能ハザリシ是ハ余ノミナラズ山人モ樹皮ニテハ充分分ラズ切リテ後ニ知ルナリト云ヘリ然シ斯クノ如ク兩名ヲ存スル以上ハ各種ニ固有ノ特徴アルベキハ無論ナルベシ尚研究ノ上道報ヲ怠ラザルベシ余ハ葉大ニシテ鋸止粗ク子筋少キモノト葉細長ク〆子筋ノ多ク裡ニ毛茸多キモノトノヲ見タリ是或ハ兩種ノ區別ニアラザルカ記シテ後日ノ撿定ヲ俟ツト云フ

（十一）樹木大小

秩父山中ニテ取調ベタル樹木大小ノ大概ヲ錄ス

(1)	ヘイタツタモミヂ	圍五尺許
(2)	ヘッピリザクラ	圍六尺許
(3)	ミヅキ	圍四五尺許
(4)	フサヽクラ	圍三尺許
(5)	アカシデ	圍五尺許
(6)	カヤ	圍五尺許
(7)	モミヂ	圍五六尺許
(8)	ニガキ	圍二尺許
(9)	ハルニレ	圍一丈二尺許
(10)	クマシデ	圍五尺許
(11)	サハシバ	圍二尺五寸許
(12)	シナノキ	圍一尺二寸許
(13)	マツブサ	圍一尺許
(14)	シラクチ	圍一尺許
(15)	ツタウルミ	圍一尺五寸許
(16)	イハガラミ	圍六寸許
(17)	テイカカヅラ	圍六寸許
(18)	ハリギリ	圍一丈二尺許
(19)	サイカチ	圍三尺許
(20)	ヨグソミネバリ	圍六尺許
(21)	ヤマウルシ	圍五尺許
(22)	ケヤキ	圍一丈二尺許

(23)	シオヂ	圍一丈二尺許
(24)	カツラ	圍九尺許
(25)	ホヽノキ	圍九尺許
(26)	トチノキ	圍一丈五尺
(27)	カハグルミ	圍一丈二尺
(28)	オニグルミ	圍五尺許
(29)	ウリカヘデ	圍六尺許
(30)	メイゲツカヘデ	圍六尺許
(31)	モミヂ	圍六尺許
(32)	シラカンバ	圍五尺許
(33)	クマヤナギ	圍一尺許
(34)	ミツバツヽジ	圍九寸許
(35)	マンサク	圍六尺許
(36)	ヤマネコヤナギ	圍三尺許
(37)	シロシヤクナゲ	圍一尺二三寸詳
(38)	テウセンマツ	圍八九尺許
(39)	アツニレ	圍五尺許
(40)	カラマツ	圍一丈許
(41)	アスナロ	圍五六尺許
(42)	バラモミ	圍一丈許
(43)	キハダ	圍七八尺許
(44)	コナシ	圍三尺許
(45)	アマメ	圍五尺許
(46)	大ナラ	圍五六尺許
(47)	ミヅナラ	圍八九尺許
(48)	大ミズ	圍四五尺許

靜岡縣産植物錄（前號ノ續キ）

駿河ノ部

駿河産ノ植物ヲ記述スルニ便宜ノタメ富士川以東及富士川以西ニ大別スベシ而シテ富士川以東ノ大部分ハ富

士山脈ニ屬スル高地ニシテ黄瀬川及內海ノ沿岸稍々低平ナリ其富士山脈及內海ニ產スル植物ハ甞テ諸先輩ノ精密ナル調査アリ本會雜誌ニモ揭載セラレタルモノアルヲ以テ暫ク之ヲ省キ富士川以西ノ部ヨリ記述スベシ富士川以西モ亦大部分ハ高地ニシテ唯內海ノ沿岸ニ低地アリ靜岡ハ其低地ノ中央ニアリテ余ガ從事スル學校ノ所在地ナルヲ以テ先此地ヨリ始メントス而シテ賤機山、八幡山、吐月峯、德願寺山、有渡山、薩埵嶺、宇都谷嶺等ノ山丘ニ產スル植物ハ此低地ノ部ニ於テ記述ス

駿河ノ低地ハ氣候温暖ニシテ冬季ハ西風强ク夏季ハ東南風多シ地味ハ概肥沃ニシテ穀類蔬菜善ク豐熟ス海岸ハ一般ニ砂地ナリ玆ニ農用植物ノ重要ナルモノ五十種ヲ擧グ

(1) いね Oryza sativa. L.　農用植物中主要ナルモノナリ駿河西部ノ低地ニ於ケル稻田ノ反別ハ一萬三千四百餘町ニシテ年々ノ收額廿九萬石餘ニ上レリ就中志太郡ハ產額最多ニシテ米質佳良ナルコト本縣第一ト稱ス

(2) おほむぎ Hordeum vulgare, L.　各地ニ栽種ス產額ノ多キコトいねニ亞ク近來外國種ヲ試植スルモノアリ

(3) こむぎ Triticum vulgare, Will.　各地ニ栽種ス產額甚多シ近來外國種ヲ試植スルモノアリ

(4) そば Fagopyrum esculentum, Mœnch.　各地ニ栽種ス產額甚多シ

(5) あは Panicum italicum, L. var. germanicum, Trin.　各地ニ栽種ス產額多シ

(6) きび Panicum miliaceum, L.　各地ニ栽種ス產額多シ

(7) もろこし Sorghum saccharatum, L.　各地ニ栽種ス產額多シ

(8) たうもろこし Zea Mays, L.　各地ニ栽種ス產額多シ

(9) だいづ Glycine hispida, Mœnch　各地ニ栽種ス產額甚多シ或ハ之ヲ綠肥料トナス

(10) あづき Phaseolus radiatus,L.　各地ニ栽種ス產額甚多シ

(11)	ゑんどう	Pisum sativum, L.	各地ニ栽種ス産額多シ或ハ之ヲ綠肥料トナス
(12)	そらまめ	Vicia faba, L.	各地ニ栽種ス産額多シ或ハ之ヲ綠肥料トナス
(13)	やゑなり	Phaseolus radiatus, L. var, subtriloba,	各地ニ栽種ス産額多シ或ハ之ヲ綠肥料トナス
(14)	なんきんまめ	Arachis hypogæa, L.	海岸地方ニ於テ多ク之ヲ栽種ス逐年其産額ヲ增加セリ
(15)	さつまいも	Ipomæa Batatus, Lam.	各地ニ栽種ス産額甚多シ就中有渡郡ハ著名ナリ三保近傍ニ産スルモノヲ三保薯ト稱シテ賞味ス有渡部ニ於テ年々ノ産額二百五十萬貫余ニ達セリ
(16)	じやがたらいも	Solanum tuberosum, L.	安倍郡ニ於テ多ク之ヲ栽種ス近年其産額ヲ增加セリ然レ𪜈多ハ在來種ナリ
(17)	さといも	Colocasia antiquorum, Schott.	各地ニ栽種ス産額多シ
(18)	やまのいも	Dioscorea Japonica, Thunb.	各地ニ多少之ヲ栽種ス宇都谷邊ニ多シ
(19)	こんにやくいも	Conophallus, Konak, Schott.	宇都谷、吐月峰、賤機山其他高地ニ近キ所ニ於テ多ク栽種ス
(20)	はす	Nelumbium speciosum, Willd,	各地ニ多少之ヲ種栽ス就中安部郡淺畑邊ニ産スルモノヲ以テ著明トナス
(12)	だいこん	Raphanus sativus, L.	各地ニ栽種ス然レドモ良種少シ偶〻練馬だいこん、櫻島だいこん、彦根だいこん等ノ種子ヲ得テ栽種スルモ特別ノ栽培法ヲ施スニアラザレバ原地ノ如キモノヲ得ル能ス
(22)	かぶら	Brassica campestris, L.	各地ニ各種ノかぶらヲ栽種ス然レドモ良種少シ
(23)	にんじん	Daucus carota, L.	各地ニ栽種ス然レドモ良種多シ
(24)	ごぼう	Lappa major. Gærtn.	各地ニ栽種ス然レドモ良種少シ
(25)	ねぎ	Allium fistulosum, L.	各地ニ栽種ス
(20)	はぼたん	Brassica oleracea, L.	近來各地ニ多少之ヲ栽種ス數種アリ
(27)	あぶらな	,, chinensis, L.	各地ニ栽種ス産額多シ

(28) ごま Sesamum indicum, L. 各地ニ栽種ス產額多シ

(29) なすび Solanum melongena, L. 各地ニ栽種ス產額多シ

(30) きうり Cucumis sativus, L. 各地ニ栽種ス產額多シ

(31) しろうり Cucumis conomon, Thunb. 名地ニ栽種ス

(32) まくわうり Cucumis melo, L. 各地ニ栽種ス

(33) かみうり Lagenaria dasis tenon, Miq. 各地ニ栽種ス

(34) たうなす Cucurbita pepo, L. 各地ニ栽種ス產額多シ

(35) すゐくわ Citrullus edulis, Spach. 各地ニ栽種ス

(36) さとうきび Saccharum officianrum, L. 海岸地方ニ於テ多ク栽種ス就中有渡郡ハ年々ノ產額甚多ク一百萬貫余ニ上レリ

(37) わた Gossypium indicum, Lam, 各地ニ栽種ス

(38) あゐ Polygonum tinctorium, Lour. 各地ニ栽種ス

(39) たばこ Nicotiana Tabucum, L. var, macrophyllum, Dunal. 各地ニ栽種ス

(40) みつまた Edgewosthia papyrifera. Sieb. et Zucc. 本縣產製紙ノ原料ニシテ庵原郡ノ產著名ナリ產額亦甚多シ

(41) かうぞ Broussonstia papyrifera. 庵原安倍志太三郡ノ高地ニ近キ處ニ於テ多ク栽種ス

(42) くは Morus alba. L. var. stylosa, Bur. 各地ニ栽種ス逐年其產額ヲ增加セリ

(43) ちや Camellia theifera, Griff. 本縣ニ於ケル農用植物中最重要ナルモノニシテ安倍郡足久保ハ安倍茶ノ原產地トシテ著名ナリ

(44) むめ Prunus Mume, Sieb et Zucc. 各地ニ栽種ス

(45) もゝ Prunus persica, Benth, et Hook. 各地ニ栽種ス有渡郡三保ノもゝ最著名ナリ

(46) かき Diospyros Kaki, L. fil. 各地ニ栽種ス

(47) やまもゝ Myrica rubra, Sieb, et Zucc. 各地ニ栽種ス其果實ノ收量甚多シ樹皮ハ染料ニ供ス

(48) なし Pyrus ussuriensis, Mxim. 各地ニ栽種ス有渡郡八幡近傍ニ多シ

(49) みかん Citrus nobilis, Lour. （各地ニ栽種ス庵原郡ノみかん最著名ナリ有渡郡小坂モ多クノみかんヲ産シ年々東京横濱等ヘ輸出スル量類甚多シ）

(50) だいだい Citrus Aurantium, L. var. Bigardia, Hook. 各地ニ栽種シ年々東京横濱等ヘ輸出ス

◎雜錄

○西瓜

西瓜ハ本邦自生ノ者ニアラズ寬永年間琉球ヨリ薩摩ヘ渡リ慶安ノ頃漸ク長崎ニ移植ス承應年間藤堂家ノ吳服所菱屋某長崎ニテ此種子ヲ求メ勢州津ニ携歸シテ之ヲ大守ニ献ス則チ其第宅ニ種サシムルニ良結果ヲ得タリト此種子近國ニ在リト雖モ未ダ普ネカラズ人又之ヲアヤシミテ食セズ寬文延寶ノ交ニ至リ長崎ヨリ大阪ヘ移植シ京江戶ニ廣マリ今ハ之ヲ植ヘザル所少レナリ然レドモ當時ニ在テハ辻番所ナドニテ切賣ニスルヲ下々中間ナド喰ノミニテ小身者町家ニテ喰人ナシ昔物語ニ云昔ハ西瓜ハ歷々小身トモ喰事ナク道辻番抔ニテ切賣ニスルヲ下々中間ナド喰事也町ニテ賣テモ喰人ナシ女抔ハ勿論也寬文ノ頃ヨリ小身衆調テ喰フ夫ヨリ段々大身大名モ喰樣ニナリ結構ナル菓子ニナリヌ西瓜大立身ナリ」トアリ又田舍ニハ西瓜切賣ノ商牌行燈ニハ赤紙ヲ張リ之ニ火ヲ點スレバ白キ西瓜モ赤ク見ヘ之ヲ求メ家ニ携來シテ其白色ナルニ驚ク者鮮ナシトセズ根南志具佐ニ西瓜ノタチ賣ハ行燈ノ朱ヲ奪フ事ヲ憎ム」ト云ヘリ西瓜ハ琉球ニ自生アルヲ聞カザレバ他ヨリ移植セシ

モノナルベシ其年暦ハ詳ナラズ傍廂ニ云西瓜一名寒瓜ト云フ西域ヨリ出タル故ニ西瓜トイヒ冷ナル故ニ寒瓜トイヒ水中ニ冷シ食フ故ニ水瓜トイフ今ハ西字ヲ水ノ音ニヨメリ五雜組ニ大元世祖皇帝征㆓西域㆒之後此種入㆓于中華㆒代醉四十六五代史契丹破㆓回紇㆒因得㆓西瓜㆒如㆓中國冬瓜㆒而味甘丹鉛餘錄ニ據㆑此謂㆓西瓜㆒五代始入㆓中國㆒故本草不㆑載水東日記ニ西瓜自㆔大元大祖征㆓西域㆒始得云々トアリ但シ水中ニ冷シ食フ故ニ水瓜トイフハ非ナリ本朝食鑑ニ西ノ漢音スイナリ故ニ之ヲスイジワト云フト見ヘタリ

○植物學夏期講習會

文部省ニ於テハ一昨年ヨリ尋常中學校敎員ノ爲メニ夏期講習會ヲ設ケラレ本年ハ即チ第三回ノ會ニシテ動植ノ二學科トシ植物學委員ハ理學博士松村任三氏之ヲ擔任セラレタリ八月一日ヨリ同三十一日ニ終リ其間隔日四時ニシテ氏ハ地方ヨリ參集セル二十餘名ニ顯微鏡ノ實驗ヲ指導シ細胞諸部ノ構造莖部葉部根部等都ベテ肝要ナル諸點ヲ實驗セシメ之ニ伴フニ講義ヲ以テセラレタリ蓋シ地方敎員ニシテ方法的ニ植物ノ構造ヲ顯微鏡ニテ實驗シタルハ本年ノ會ヲ以テ始トスベシ此ノ如キ講習會ニシテ度々之アルニ至ラバ大ニ本邦博物學ノ進歩ヲ觀ンヿ必セリ

○ハムブリー氏及ヲリエル氏ノ生藥品及ヒ經濟植物學ニ關スル穿鑿（前號ノ續キ）

澤田駒次郎譯

第六十六號正誤　303 ノ第七行三字目 Sorindisa ハ Sorindia ノ誤同第十七行三十四字目賣ノ下ノ字ヲ脫ス

305 ノ第十三行一字目偭答百見加ノ五字ハ彈力性護謨ノ誤

印度、暹羅及印度群島

阿仙藥 (Catechu) 本生藥ハ (Terra Japonica 及ビ Gambir（譯者云生藥ノ名稱）ノ諸種ヲ得ル所ノ經歷ニ注目スベシ而シテ其他 Acacia catechu, Azcca Catechu, Uncaria Gambir ハ此等ノ樹ヨリ生ズルヤ他ノモノヨリ生スルヤ注意スベシ殊ニ「ベク」阿仙藥ノ根元ハ如何ナルモノナルヤ宜ク之ヲ考究スベシ

安息香 (Benzoin, or Gum Benjamin) 暹羅ニ於テ本生藥ヲ產出スル原植物ノ善良ナル標本ヲ得ベシ是レ蘇門答臘安息香ヲ生出スル所ノ Styrax Benzoin（齊ら果科）ト比較スル爲メニシテ調法ノ事トス

ブルメア樟腦 (Camphor o Blumea grandis D. C.) 本生藥ノ性質ヲ試驗スル爲メニ若干磅ヲ要求ス (印度藥局方第百二十八負ヲ見ルベシ)

黃蓮 (Mishmi Bitter of Mishmi, Tita.) 往時ヨリ藥品トシテ知ラレタル Coptis Teeta ノ細小ナル根莖ハアスサムノ東部ミシユミ山中ニ產ス而シテ支那領疆域ノ北邊ニ於テモ往々之ヲ生スル所アリ本植物ハ未ダ毫モ知ラレザルモノニシテ充分ナル標本ヲ要求ス又或ル他ノ種類アツテ該生藥ノ一部分ヲ備給シ得ルモノトス

附子 (Aconitum root) 本生藥ハ印度ヨリ極メテ夥シク輸入ス其如何ナル地方ニ於テ之ヲ採集スルヤ又 Aconitum ノ如何ナル種類ヨリ生出スルヤ宜シク之ヲ考究スベシ

芳香皮類 (Aromatic Barks) 自然分科即チ Laurineae ノ樹ヨリ生出シタル「カリトラワング」「マソイ」及ビ「シントク」ノ名ヲ以テ知ラレタル芳香皮類ハ印度群島ニ於テ著明ノ貿易品タリ遊歷人若シ機會ヲ得バ其採集シタル樹皮ヲ檢視シ該皮及ビ之ヲ生出スル樹ノ眞正ノ標本ヲ得ルニ汲々タルベシ「マゾイ、バーク」ハ新歪阿那ノ西岸ニ產スルナリ

沙列布 (Salep) 印度ニ於テ Orchis 及ビ Eulophia（共ニ蘭科植物）ノ各種ノ根莖ヲ採集シ沙列布ノ名ヲ下ダシテ之ヲ

販賣ス蘭科植物ノ如何ナル種類ヨリ本生藥ヲ製造スルヤヲ決定スルコトヲ要ス是レハ殊ニ雪山及ヒカシユミールニ於テス又「バッドサー、サレップ」即チ「ロヤール、サレップ」ト稱スル藥品ヲ製造スル所ノ植物ハ如何ナルモノナルヤ此植物ハ何レノ地ニ產シ何ノ用ニ貴重サルヽヤ宜シク之ヲ考究スベシ本生藥ハ孟買ヨリ英國ニ向ケ輸出セリ

滿那（Manna） 滿那ノ一種ハ東洋ニ於テ檉柳ノ種類ヨリ製造スルモノト確定セラレタルコト茲ニ年アリ凡ソ東洋ノ檉柳ハ滿那性ノ糖質物ヲ滲出シ之ヲ採集スルヤ又何レノ所ニ於テ製造スルヤヲ決定スルヲ要ス

大麻（Hemp） 極メテ粗糙ト雖モ粘着性アル麻ハ北部印度中カングラ及ヒ其他ノ地ニ產ス之ヲカングラ麻或ハ喜拉羅麻ト云フ是レハ Cannabis sativa ヨリ生出スルモノナルヤ夫レニ就キ稍々疑點ヲ有スルモノトス

Tanyin. 緬甸國貿易錄ノ Tanyin 果ハ何ヨリ產シ如何ナル用ニ充ツルヤ宜シク之ヲ考究スベシ

Mocharas. 此茶褐色收斂性ノ物ハ印度ノ市街ニ於テ目擊スルモノニシテ一部ハ「サルマリア、マラバリカ」ヨリ生出シ一部ハ「アレカ、パルム」（アレカ、カテヒユ）ノ樹幹ヨリ滲出スルモノナルカ又ハ或人ノ傳フル如ク「アレカ、カテヒユ」ノ樹上ニ何カ瘤狀ヲ結合スルモノカ宜シク之ヲ決定スベシ此根元（Mocharas）ハ確定セザルベカラザルモノトス

Rajah-Canes. 本生藥ハ婆羅洲ヨリ輸出ス之ヲ生出スル「バルム」ノ種類未ダ詳カナラズ又如何ナル樹ハ「アムボイナ」即チ「ケーボクカ、ウート」ト稱スルモノヲ產出スベキヤ宜シク之ヲ考究スベシ

偊答百兒加（Gutta-percha） 本品ハ今日ニ至リテモ僅カニ知ランタルモノニシテ「アイソナンドラ」「クリソフイルヽム」（新洲樹科）「シデロキシロン」及ビ其他諸種ノ植物ヨリ產出スト云ヘリ又「ギッタペルカ」「ウギアト

ピユチー」「コチアン」「チユバン」「タバン」等ノ如キ方言ニ注意セザルベカラズ右各植物ノ葉花及ビ果實ヲ能ク注意シテ酒精ニ浸シ或ハ乾燥シテ保存セル夥多ノ標本其乾燥ノ標本ヲ採リタル所ノ植物各個ノ生産物ハ大イニ要求スル所ノモノトス

彈力性護謨（Caoutchouc, or India-rubber）麻剌甲群島ニ該護謨ヲ産出スル夥多ノ樹アリ Urceolaria Ficus ハ婆羅洲彈力性護謨ノ原植物トス新嘉坡彈力性護謨及ヒ瓜哇、蘇門答臘暹羅ノ種類ト稱スルモノハ如何ナル樹ヨリ産出スルヤ此等ハ Ficus（無花果科）ノ種類ナルヤ宜シク考究スベシアサムニ於テ彈力性護謨ヲ産出スルハ Ficus elastica ニ止マラザルカ如シト雖モ此樹ヲ以テ其主ナルモノトシ「ヒーキユス、ラクシフエラ」モ亦同物ヲ産出スベキモノトス此樹ヨリ一種ノ彈力性護謨ヲ採收スルヤ又「ヒーキユス、エラリチカ」ヨリ採收シタル彈力性護謨トハ別種ニ爲シ置クヤ或ハ之ヲ混淆スルヤ宜シク之ヲ考究スベシ良キ腊葉ノ標本ヲ併ハセタル各種ノ標本ヲ以テ貴重スベキモノトス其他多ク彈力性護謨ヲ産出スル樹ナキヤ宜シク之ヲ考究スベシロキスボール氏ノ説ニチツタゴンク及ヒシルヘツトノ「ルチアム」即チ「ウイルベイア、エヂユリス」樹ハ良好ノ彈力性護謨ヲ産出スト云ヘリ此護謨ノ標本幷ニ原植物ノ葉花及ヒ果實ヲ備ヘタル澤山ノ標本ハ注意シテ或ハ乾燥シタルモノ或ハ酒精ニ浸シタルモノ共ニ之ヲ得ンコトヲ大イニ企望スルモノトス　（以下次號）

○桑の大樹

小笠原島に桑の大樹あるに因り其山を桑の木山と名付しよし聞き及ひしに今郵便報知新聞（第五千九百廿八號）に掲ぐる所に因れば陸前國加美郡加美石村に在る桑樹は高さ五丈幹圍一丈八尺殆んど一千年のもの村民神とし祭り祠を搆へ「桑青神と號す」とあり

○枳椇子

枳椇子 (Che-Ken-tsye) ハ Hovenia dulcis, Th. ノ果實ニシテ奇ニ捩轉シタル肉質様ノ子實ヲ負擔スル花梗トス此花梗ハ梨子様ノ香味ヲ有シ食用ニ適應シ支那及ヒ日本ニテハ酩酊ノトキ之ヲ用フ

○海金砂

海金砂 (Hae-Kin-Sha) ハ羊齒ノ胞子ニシテ輕キ動可性ノ粉末ニシテ赤褐色ヲ呈シ大氣中ニテ點火スレハ其燃燒スルコト石松子ニ似タリ石松子ニ代用シテ用フ

○皂角

皂角ハ Gleditschia Senensis, Linn. ノ莢果ニシテ Loureiro 氏ノ說ニ據レバ廣濶扁平、稀釋藥、働動藥、瀉下藥トシ用フト本藥ハ痰及ビ他ノ粘液ヲ驅逐スルノ効アリ或ハ嚏鼻藥坐藥トナシ中風、偏頭痛、痲痺ニ殊効アリ（以上三件タニエール、ハンブリー氏手記抄譯）

○英國ノ朝顏

朝顏ハ英語ニ Convolvulus ト稱ス本邦ノ人ハ Morning Glory ト譯ス米國ノ方言ニシテ英人ニハ通セザル語ナリ近頃來朝セル英國ノ園藝家 Veitch 氏（本邦産ノシラビソニ Abies Veitchii ノ學名アルハ此人ノ叔父ナリ英國富豪ノ園藝家ニシテ數十年前富士山ニ登リテ此シラビソヲ採取シタレハナリ）入谷ニ朝顏ヲ觀覽シテ其花葉ノ千態萬狀ナルニ喫驚セリトテ或人ニ語レリ或人氏ニ問フテ曰ク英國ニモ如此種々ノ朝顏アリヤ氏卷ヒテ曰ク英國ノ人午前七八時ニ寢起スルモノナシ爭テ朝顏ヲ觀覽スルヿヲ得ンヤト

○いわゆきのした

いわゆきのした (Tanakea radicans, Fr. et Sav.) ハ虎耳草科ノ植物ニ〆飯沼慾齊氏ノ草木樹說ニ出デタリ而

シ該植物ハ伊豆岩上ニ生ズルヿ記載セラレタリ然ルニ余ハ明治廿三年五月之ヲ土佐國安藝郡芳賀庄ノ岩上ニ於テ之ヲ採集シタリ尋テ本年六月牧野富太郎君モ亦同所ニ於テ之ヲ採集セラレタリ乃チ茲ニ仝好諸氏ニ報ス

○やはずあちさい

やはずあちさい（Hydrangea sikokiana, Max.）ハ矢田部氏日本植物圖解ニ物セラレタル植物ナリ此植物モ亦土佐安藝郡ノ山間ニ往々之アリ

○ひろうどしだ

びろうどしだ（Polypodium linearifolium Hook）ノ産地ヲ前號雜録ニ掲ゲ對馬武州秩父下野日光上野榛名豆州天城山和州春日山攝州布引山信州碓氷ニ産スルヿヲ記載セラレタルカ此植物ハ四國ニモ亦之ヲ産ス余ハ明治廿二年此ヲ土佐吾川郡池川村及安居村ニ於テ之ヲ得タリ

○うんらん

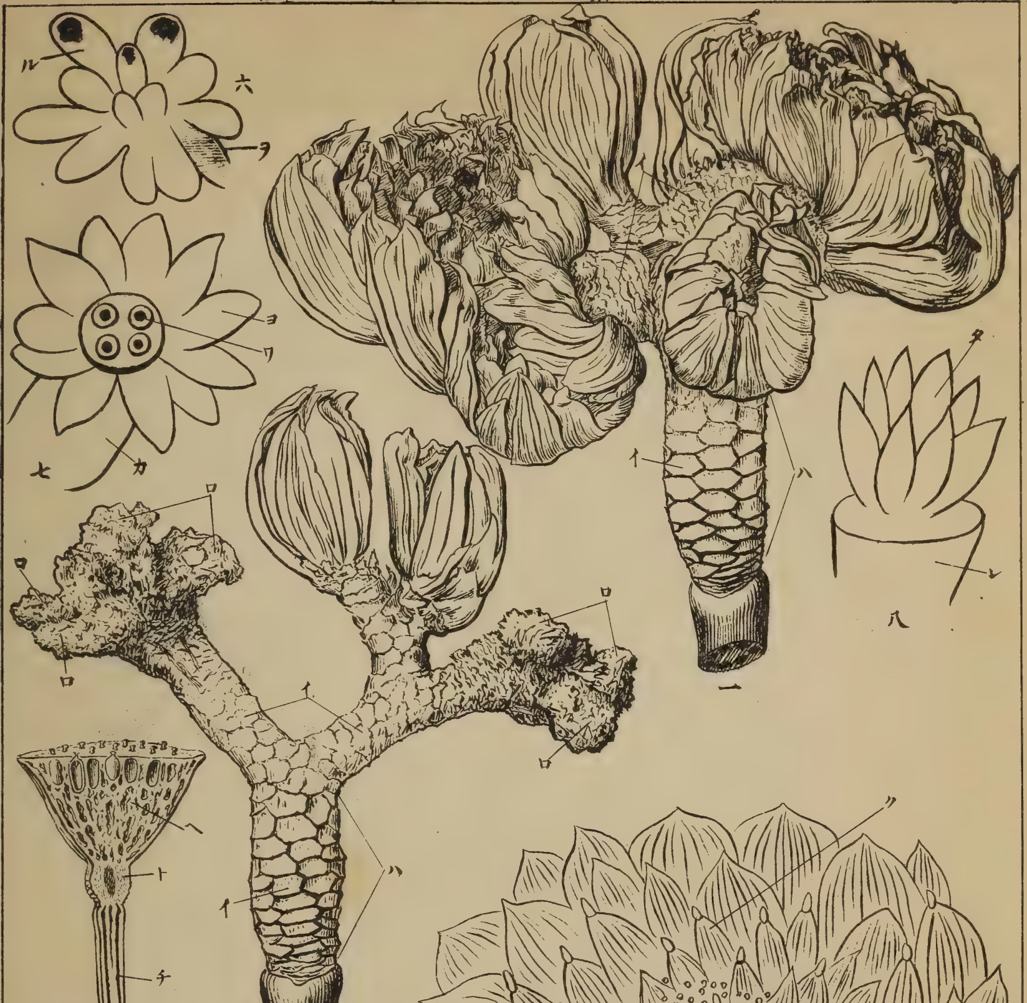
うんらん（Linaria Japonica, Miq.）ハ本州東北東部海濱ニ産スルヿハ之ヲ聞キタルカ余ハ昨年九月之ヲ播州赤石ノ海濱ニテ採集シタリ

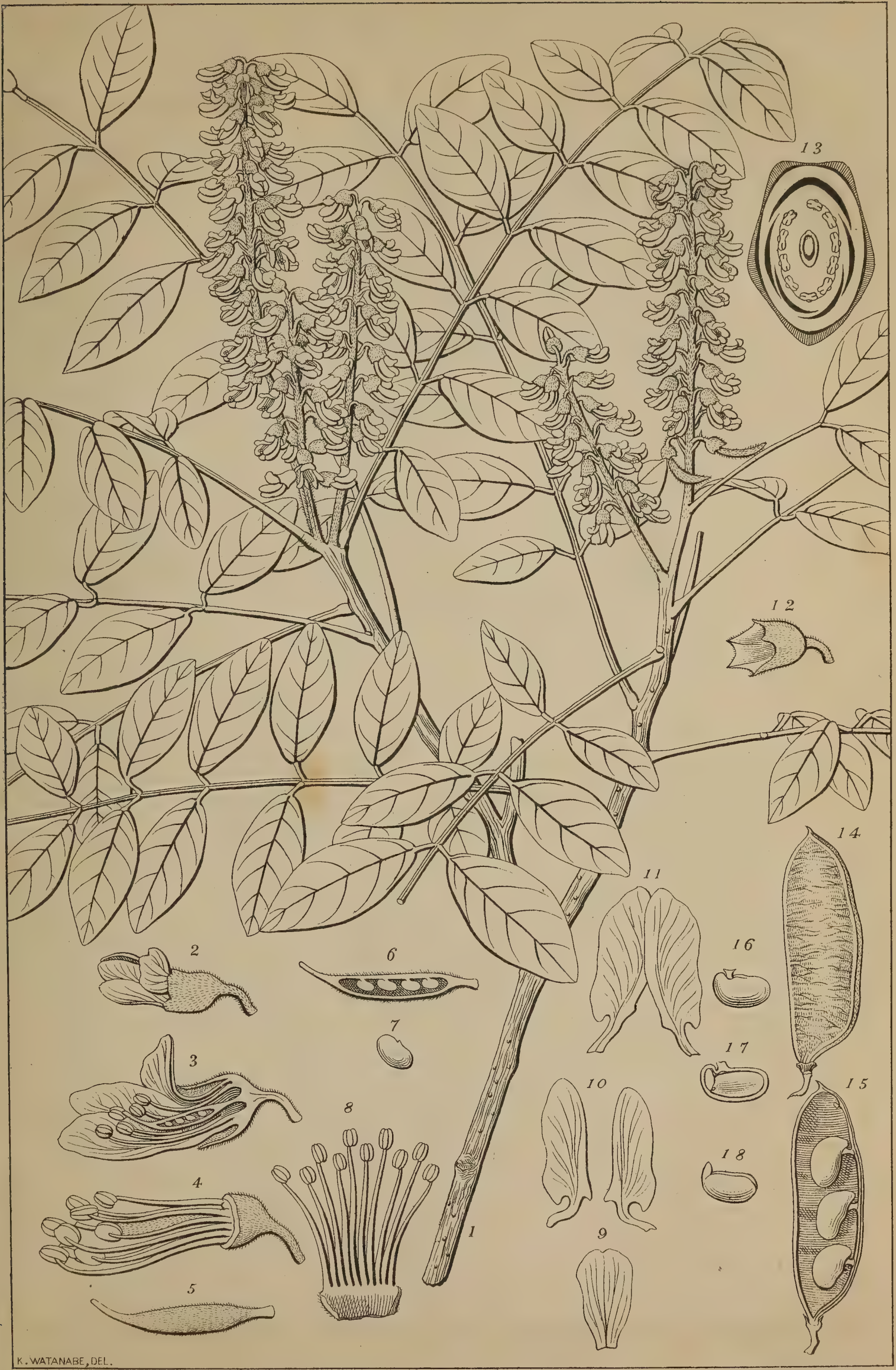
矢野勢吉郎

○會員死亡

山崎治太郎氏ハ肺、脾、腎間質ニ罹リ醫科大學第一醫院ヘ入院シ治療ヲ盡サレシモ醫藥効ナク七月二十日終ニ二十歳ヲ一期トシ病歿サレ遺躰ハ醫科大學病理解剖室ニテ解剖ノ上菊地松太郎氏方ヘ引取リ火葬場ニテ荼毘ニ爲シタル上葬儀ハ氏ガ郷里ニテ營マルヽト又篠田祐三郎氏ハ八月七日岐阜縣岐阜市上加納ニテ病歿セラル誠ニ悲ムベキコトナリ

第十一版


六
ル
ヲ
七
ヨ
ワ
カ
ロ
ロ
ロ
ロ
ロ
ロ
イ
イ
イ
イ
ハ
ハ
一
タ
レ
八
二
ヘ
ト
チ
四
ニ
ニ
ホ
ホ
三
リ
ヌ
ヌ
五


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18

K. WATANABE, DEL.

CLADRASTIS TASHIROI, YATABE.
SHIMA-ENJU. シマエンジユ.

呉服町東京刷版社石印

植物學雜誌第六卷第六十八號 (明治二十五年十月十日)

THE BOTANICAL MAGAZINE.

[Vol. VI. October 10, 1892. No. 68.]

New or Little Known Plants of Japan.

No. 26.

Ryōkichi Yatabe, Sc. D.

Cladrastis Tashiroi, nov. sp.

Nom. jap. Shima-enju. シマエンジユ.

(Order Leguminosæ.)

Plate X.

A shrub with greenish-grey branches. Leaves deciduous, alternate, imparipinnate, 4–6 inches long; petioles with appressed hairs, swollen at the base. Leaflets petiolulate, opposite or subopposite, subcoriaceous, oval or oblong, acutish at both ends, entire and somewhat recurved at the margins, 5–7—ribbed on each side of the midrib, with minute appressed hairs on both surfaces, glaucescent and finely reticulated on the under serface, $\frac{1}{2}$—1$\frac{1}{2}$ inches long, 3—10 lines broad; petiolules about 1 line long. Racemes terminal, compound, pubescent, densiflorous, 2—4 inches long; bracteoles subulate, 1 line long. Flowers nodding, pale-yellow and greenish tinged, 4 lines long; pedicels pubescent, deflexed at the base of the flower, 1$\frac{1}{2}$ lines long. Calyx-tube urceolate-campanulate, pubescent, gibbous on the upper side, shortly 5—toothed, 1$\frac{1}{2}$ lines long and broad, the upper two teeth connate. Vexillum obovate-cuneate, reflexed, 2$\frac{1}{2}$ lines long, 1$\frac{1}{2}$ lines broad. Alæ obliquely oblong, unguiculate, auriculate at the base, 2 lines long, about 1 line broad; claw abruptly bent upward, $\frac{1}{2}$ line long. Carina incurved, obtuse, 3 lines long; the petals free, imbricated on the back, obliquely oblong, unguiculate, auriculate at the base, 2$\frac{1}{2}$ lines long, 1$\frac{1}{2}$ lines broad; claw about 1 line long. Stamens 10, perigynous, cohering at the base, somewhat incurved, alternately longer and shorter; filaments filiform-subulate; anthers broadly oval, dorsifixed, orange-colored. Ovary shortly stipitate, linear-oblong, slightly incurved, pubescent, few-ovuled, 1$\frac{1}{2}$ lines long; style subulate, $\frac{1}{2}$ line long; stigma minute, terminal. Legume falcate-oblong, compressed, membranaceo-coriaceous, reticulated, pubescent, more convex on the ventral than on the dorsal suture, 1—ribbed along each side of the ventral suture, 1—3—seeded, 10—20 lines long, 5—7 lines broad. Seeds oblong, compressed, somewhat uncinate, 3—4 lines long, 2—2$\frac{1}{2}$ lines broad; funicle thick, compressed; cotyledons oblong; radicle somewhat obconical, contained in the hook of the seed.—Fl. July—August.

Living specimens of this plant were collected by Mr. Yasusada Tashiro on the islands of Ōshima, south of the province of Ōsumi, in September, 1887. They have been since cultivated in the Botanic Garden of the Imperial University, where they are shrubs three or four feet high.

The flowers of this plant are very like those of *Cladrastis amurensis*, var. *Buergeri*, Maxim.; but the standard of the former is entire and not emarginate, while that of the latter is distinctly emarginate; and also the calyx-tube of the former is not inflated like that of the latter. The leaflets of the former are oval or oblong, rather acute at the base, and slightly hairy or nearly smooth, while those of the latter are ovate, rounded or even subcordate at the base, and silky-hairy on the under surface; moreover the leaflets of the former are smaller than those of the latter. The former is a shrub, while the latter is a tree attaining a height of forty to fifty feet.

Plate X. Fig. 1, branch with flowers; 2, flower; 3, vertical section of flower; 4, flower with corolla and upper part of calyx removed; 5, pistil; 6, vertical section of the same showing the ovules; 7, ovule; 8, stamens; 9, standard; 10, wings; 11, keel-petals; 12, calyx; 13, floral diagram; 14, legume; 15, vertical section of the same; 16, seed; 17, vertical section of seed; 18, embryo:—*all except* 1, 14, 15, 16,

17, *and* 18, *enlarged.*

No. 27.

Spiræa dasyantha, Bunge,

var. angustifolia, mihi.

Nom. jap. Hosoba-ibukishimotsuke. ホソバイブキシモツケ.

A dwarf shurb with a dark purplish-brown bark, intricately much branched. Young shoots, under surface of leaves, petioles, pedicels, and calyx tomentose with appressed hairs. Leaves oblong or oblong-rhomboid, cuneate at the base, subacute at the apex, inciso-dentate, sometimes somewhat 3—lobed, $\frac{1}{2}$—1$\frac{1}{2}$ inches long, 2—8 lines broad; veins reticulated, depressed on the upper, prominent on the under surface; petioles 1—3 lines long. Corymbs umbellate, many-flowered, terminating leafy branchlets; pedicels 3—4 lines long in fruit. Calyx-lobes persistent, deltoid, patent or erecto-patent in fruit. Follicles 5, swollen on the back, sparingly hairy, at last smooth and glossy, 1 line long and $\frac{1}{2}$ line broad.

I collected specimens of this plant in fruit on July 24, 1887, at Nishū-mura in the province of Ashū in Shikoku.

This variety differs from the type chiefly in the form of the leaves. My specimens of the type in fruit collected on Mt. Ibuki have, besides broader leaves, longer pedicels and more patent calyx lobes.

日本藥局方植物篇（前號ノ續キ）

會員　澤田駒次郎

第二　扁桃油（一名甘扁桃油） Oleum Amygdalarum.

扁桃油ハ甘扁桃ノ種子ヲ冷壓シテ得タル脂肪油ニシテ日本藥局方ニハ藥用トス

性狀　扁桃油ハ稀薄淡黃色ノ液ニシテ新鮮ナルモノハ殆ント無臭緩和ノ味ヲ有シ其比重ハ〇•九一二乃至〇•九二〇ニシテ阿利布油ニ比スレバ稍々速カニ凝固ス本品ハ主トシテ偏里設林、依的兒及ヒ油酸ヨリ生成ス又本品ヲ大氣ニ曝露スレバ直チニ强キ臭氣ヲ發ス坊間ニテ鬻賣スル扁桃油ハ其原料ノ廉下ナルニ因リ大抵苦扁桃ノ種子ヨリ製造ス然レトモ甘扁桃ノ種子ニ比スレバ脂肪油ヲ含ムコト稍々小量ナリ Umney 氏ノ說ニ據レバ甘扁桃ノ種子中ニハ五十「ペルセント」ノ脂肪油ヲ含ミ苦扁桃ノ種子中ニハ大約四十四「ペルセント」ヲ有スト製藥化學ニ云扁桃油ハ冷壓法ニ因リ搗碎シタル扁桃仁（Prunus Amygdalus, Baill.）ヨリ製出シタル脂肪油ナリ此仁核ハ扁桃油大約五十「ペルセント」ヲ包有ス

扁桃油ハ澄明淡黃色稀薄ノ脂肪油ニシテ之ヲ冷却シテ零下大約二十度ノ强寒ヲ與フルモ只其一小部分ノミ凝結スルニ過キス異重ハ〇•九一五乃至〇•九二〇ナリ扁桃仁ヨリ製出シタル脂肪油ハ槪メ杏仁油ト異ナルヿナシト雖𪜈甲ハ之ニ同容量硝酸ヲ加ヘテ暫時放置スルモ着色セザレ𪜈乙ハ赤色ヲ呈ス硝酸（異重一•二五）ト少量ノ銅屑ヲ加ヘ茲ニ發生スル赤色ノ蒸氣（次硝酸）ヲ扁桃油中ニ通スルトキハ白色結晶性ノ「エライヂン」Elaidin ナル

化合体ヲ變生ス又此化合体ハ扁桃油ニ同容量ノ硝酸（異重上ニ同シ）ヲ加ヘ時々振盪シツヽ永ク放置スルノ際化生スルモノナリ（阿利布油ノ條ヲ參觀スヘシ）而シテ扁桃油ハ主トシテ油脂（$C_3H_5(OC_{18}H_{33}O_3)$）ヨリ成ルモノトス

藥用扁桃油ハ淡黄色稀薄ノ液ヲナシ之ヲ零下十度ニ冷却スルモ固形質ヲ析出セス異臭ヲ有セス其味ハ緩和ニシテ苛辣ナラサルモノトス又本品二容量ニ等分ノ水ヲ以テ稀釋セル發烟硝酸一容量ヲ注加シ劇シク振盪スレハ類白色濃厚ノ混和液ヲ生セサルヘカラス數時間ノ後固形ノ塊ト液トニ分離ス而メ杏仁油ニ在テハ其混和液赤色ヲ呈シ胡麻油ハ右ノ撿査ヲ行フトキハ不潔ノ緑黄色ヲ呈シ徐々ニ汚緑黄色ニ變シ又罌粟油ノ如キハ淡紅色ヲ徴ス又本品大約十滴ヲ白瓷皿中ニ點シ强硫酸二三滴ヲ添加シテ混攪スルモ帶褐黄色ヲ呈ス可ラス」トアリ

又改正日本藥局方ニ云扁桃油ハ本植物ノ種子ヨリ冷壓シテ得タル澄明淡黄色稀薄ノ脂肪油ニシテ殆ト臭氣ナク緩和ノ味ヲ有シ比重〇．九一五乃至〇．九二〇ナリ

本品ハ敗油性ノ氣味ヲ有ス可カラス之ヲ冷却シテ零下十度ニ至ルモ溷濁ス可カラス

本品四五分ヲ水二分發烟硝酸三分ヨリ成レル混和液ニ和シテ劇シク振盪スレハ類白色ノ混和物ヲ生シ赤色或ハ褐色ヲ呈ス可カラズ此混和物ハ數時ヲ經ルノ後固形ノ塊ト殆ト無色ノ液トニ分離スヘシ

本品大約十滴ヲ白瓷皿ニ取リ硫酸二三滴ヲ點加シ之ヲ混和スルニ帶褐黄色ヲ呈ス可カラス」トアリ

醫治効用　緩和藥トシ局部ニ用ヒテ効驗アリ又小量ニ在テハ補血藥トシ大量ニ在テハ輕瀉藥トス又扁桃油ハ粘液質ト混和シ或ハ鷄卵ノ蛋黄及ヒ砂糖ト混和シテ乳劑ヲ製シ咳嗽ニ用ヒテ効驗アリ或ハ軟膏ヲ製スルニ用フ

扁桃油ハ其性質稍々阿利布油ニ類似シ主モニ食用トス

第三　苦扁桃　Amygdala Amarae.

苦扁桃ハ Prunus Amygdalus, Baill. var. amara. ノ種子ニシテ現今亞弗利加北部及ビ佛蘭西南部ヨリ産出ス日本藥局方ニハ藥用トス然レドモ改正日本藥局方ニハ之ヲ廢止ス

性狀　苦扁桃ハ扁卵圓形ノ種子ニシテ其基礎均等ナラズ外面褐色ノ膜ヲ有シ其形狀等甘扁桃ニ類似シ稍々下等品ノ觀ヲ呈ス然レドモ其長卵圓形ニシテ苦味ヲ有スルニ因リ各種ノ甘扁桃ヨリ容易ク之ヲ鑒別スルヲ得ウ

又苦扁桃ニ水ヲ加ヘテ搗碎スレハ揮發苦扁桃油臭ヲ有スル白色ノ乳樣液ト爲ルニ因リ甘扁桃ト異ナリ但シ坊間ニテ鬻賣スル苦扁桃ハ多クハ子殼ヲ除去セリ又苦扁桃ニ三種アリ今此等ノ價格ノ順序ニ因リ揭載スレバ佛蘭西產苦扁桃西治里產苦扁桃バルバリー產苦扁桃是レナリ生藥學ニ云坊間ニ販賣セル苦扁桃ハ多クハ子殼ヲ除去セリ尖卵圓形ヲ有シ稍〻扁壓セラレ基礎部ニ於テハ左右均同ナラス長サ二「センチメートル」基礎ノ太サ十三「ミリメートル」ニ至ル外面ニハ帶赤褐色ニシテ剝離シ易キ子皮ヲ被ムリ中ニ凸扁ノ子葉ヲ包藏シ其尖端ニ肥大ナル小根ヲ着ク子皮ハ內面ニ細小ナル厚壁性細胞ヨリ成レル白色ノ皮膜ヲ被ムリ其皮膜ハ苦扁桃ノ圓形ヲナセル基礎ニ當ル部位ニ於テハ褐色ヲ有ス子葉ハ薄壁性ノ細胞ヨリ成リ柔弱ナル脉管束アリテ通走シ油滴及ヒ蛋白顆粒ヲ包有ス而シテ此蛋白ノ一部分ハ結晶ニ類スル觀ヲ呈ス依的兒若クハ哥囉仿謨ヲ以テ脂肪分ヲ除去スルトキハ愈〻明瞭ニ其結晶ヲ認觀スルコトヲ得子皮ノ組織ハ鞣酸ニ富ム云々トアリ

成分　苦扁桃ハ脂肪油「エムルシン」砂糖及ヒ「アミグダリン」ト稱スル結晶物ヲ含有ス此結晶物ハ甘扁桃中ニハ存在セズ苦扁桃ノ一種特異ノ性質ハ此結晶物即チ「アミグダリン」ノ存在スルニ基因ス故ニ苦扁桃ニ水ヲ加ヘテ搗碎スレバ苦扁桃臭ヲ發ス此レ「アミグダリン」ナル化合体ノ「エムルシン」ノ幇助ニ因リ分解シテ苦扁桃

油、藏化水素及ヒ葡萄糖ヲ生スルニ因ルナリ苦扁桃ニ沸湯ヲ加ヘ或ハ之ニ酒精ヲ加ヘテ煮沸スレバ「エムルシン」凝固シテ不溶解性ト爲リ「アミグダリン」ニ分解作用ヲ呈スルコト無シ生薬學ニ云苦扁桃ハ脂肪油ヲ含有スルコト大約其全量ノ半ニ居リ此脂肪油ハ主トシテ油脂即チ油酸偈里設林依的兒ヨリ成リ傍ラ他ノ脂肪ノ少量ヲ含有ス苦扁桃ヲ搗碎シ之ニ水ヲ加ヘテ永ク放置スルノ後更ニ水ヲ注加シテ蒸餾スル𬼂ハ苦扁桃油(即チ「ベンツアルデヒード」(C_6H_5—CHO)平均〇・八「ペルセント」藏水素(CNH)大約〇・二五「ペルセント」ヲ得而シテ此二質ノ生成スル理由ハ苦扁桃中ニ「アミグダリン」(Amygdalin)ナル化合体ヲ含有シ又其中ニ傍存スル蛋白質(Emulsin)ノ帮助ニ由リ苦扁桃油、藏水素及ヒ葡萄糖ニ分解セラル丶ニ在リ甘扁桃中ニ含有スル蛋白質モ亦能ク「アミグダリン」ヲ分解シテ上記ノ諸質トナスノ性アリ故ニ「アミグダリン」ニ甘扁桃ノ粉末ニ冷水ヲ加ヘ浸出シテ得タル液ヲ注加スル𬼂ハ亦上記ノ諸質ヲ生成ス云々トアリ

（以下次號）

農業植物論（第六十三號ノ續キ）

農學士　堀正太郎

變化ノ原因 Cauces of Variation

農業植物ノ常ニ變化シテ止マサル所以ノ理是カ源因ヲ明確ニ答フル實ニ難シ Dr. Prosper Lucas 氏ハ生殖作用ヲ以テ是カ源因トナシ變化ハ遺傳ノ結果ナリト論セリ Pallas 氏ハ異花變精 Cross fertilization ニ依リテ植物ハ變化ヲ來スモノナラント謂ヘリ Andrew Knight 氏ハ曰ク農業植物ハ自然ノ狀態ヨリモ肥科分ノ供結充分ニシテ加フルニ氣候ノ良好ナルニ依リテ變化スルナリト Schleiden 氏ハ過量ノ肥料ト加フルニ其性分中無機物ノ如何ニ重ヲ置ケリ此等諸氏カ唱道シ又主張スル處ノ變化ノ源因ナルモノハ必スヤ多少ノ關係ナシト

セス然リト雖𪜈察スルニ農業植物ノ變化ハ斯ノ如キ簡易單純ノ源因ノミニ依ルニアラスシテ種々隱微複雜ナル事項ノ相重積シテ初メテ現象スルモノナラン

一派ノ學者ハ謂フ生物ハ個々常ニ些少ツヽ變化シツヽアルモノニシテ是レ自然法ナリト然レ𪜈物ノ變化ハ是レ一ノ現象ナリ此現象ヲ指シテ直ニ自然法トナスヲ得ス必スヤ之ヲ起因スル處ノ本源ナカル可カラス故ニ人ノ察知ス可カラサル處ノ幽暗ノ裡ニ源因ノ存シテ依テ常ニ變化シツヽアルモノナル可シ是ヲ以テ同樣ノ狀態ノ下ニアツテ植物ハ能ク異樣ノ變化ヲ生シ之ニ反シテ異樣ノ狀態ニアリテ能ク同樣ノ變動ヲ來スヿアリ

生活ノ狀態變化トハ農業植物ノ氣候、肥料、培養、土地等ノ變動ニ遭遇スルヲ謂フナリ此生活狀態ノ變動ニ依リテ植物ハ直接ニ其組織ノ全体又ハ一部ニ變化ヲ及ホシ間接ニ生殖系統ニ影響スルモノナリ

氣候ノ關係ハ實ニ明ニシテ其例證枚擧ニ遑アラス今北海道ト本道トノ農業植物ヲ比較スルニ梅、桃ノ如キハ北地ノ寒威ニ堪ヘ難ク日本在來種ノ西瓜ハ結果スルモ甘味少ク生熟シ能ハス之ニ反シテ林檎ノ栽培ハ北海道最モ之ニ適シ津輕海峽ヲ越ヘテ南方ニ進ムニ從ヒ其果實ノ風味著シク劣等ナリ苜蓿其他ノ牧草モ亦然リ土地ノ變動モ亦影響スルヿ尠カラス天然ニアリテ海岸沙濱ニ生育スル處ノ植物ハ其葉多肉多汁ノモノ多シベンケイサウノ如キ其例ナリ又濕地ニ栽培セル馬鈴薯ハ水分多ク其味下等ナリト雖𪜈其乾燥地ニ栽培セルモノハ食膳ニ供シテ頗ル美品タリ肥料ノ分量幷ニ性分ノ變動ハ其栽培植物ニ及ホス影響最モ普通ノ事實ナリ彼ノ種子農業者カ常ニ服膺スル處ノ一定ノ法則アリ即チ母種ノ一定不變ノ形狀性質ヲ保續セント欲セハ肥料ヲ施サスシテ瘠地ニ栽培ス可シ然レ𪜈種ノ變化ヲ顧ミス只多量ノ種子ヲ得ント欲セハ之ヲ肥土ニ栽培ス可シト以テ其關係如何ヲ察知スルニ足ラン

生殖ト外界トノ關係ハ又著大ナルモノナリ夫レ生殖機關ハ最モ外界ノ變動ニ感染シ易キモノニシテ或ハ雄性機關ヲ失ヒ或ハ雌性或ハ兩方ヲ失フヿアリ之ヲ以テ完全兩性花ハ時ト〆雄花トナリ又ハ雌花トナリ又中花トナルヿアリ抑モ生育系統ト生殖系統 Vegetative system」トハ常ニ平行セス之ヲ以テ肥料過多ニシテ生育系統ノ生長盛ンナル時ニ當テハ生殖貴要機關ハ或ハ花瓣ニ變シ或ハ葉トナリ或ハ消滅スルヿアリ故ヲ以テ一方ニ生長過大ナレハ一方ニ萎微消滅スル處アリ例令ハ根、莖、枝、又ハ葉ニシテ繁茂セリ花、果實又ハ種子ニ於テ減少ス此ノ故ニ果樹ニアリテ枝葉繁茂セハ果實ヲ結フヿ少ク然ラサレハ其質粗惡ナリ農業植物ニシテ球莖（コーム）塊（チユー）莖（バー）又ハ鱗莖（バルブ）ヲ以テ繁殖スル處ノモノハ種子ヲ生スルヿ稀レナリ百合又ハ馬鈴薯ノ如キ其例ナリ之ニ反シテ今若シ根ヲ切リ枝ヲ截斷シ又ハ皮傷ヲ爲リテ其生育ヲ妨害セハ果實ヲ結フヿ多シ園藝ノ常ニ實行スル處ナリ

氣候ハ生殖ニ偉大ノ關係ヲ有スルモノナリ温度ノ高キハ雄性機關幷ニ花瓣ノ生育ニ適シ低温度ハ雌性機關ニ適セリ A. Knight 氏ハ嘗テ日中最高温度華氏百十度ニ達シ夜間最低温度七十度通常九十度ヨリ百〇五度ノ間ヲ昇降スル地ニアリテ西瓜ノ栽培ヲ見ルニ其生育甚タ盛ンナルモ一結果スルヿナキヿヲ實見セリ（些少ノ雄花ヲ生スルト雖モ）又低温度ノ時候ニアリテハ胡瓜ハ雌花ノミニシテ雄花ヲ生セス常ニ結果稀レナリダーヰン氏ハ氏ノ著書花形論ニ謂テ曰ク米國ニアツテストローベリーノ雌雄分離ノ傾向歐洲ヨリモ顯著ナリ是レ氣候ノ生殖機關ニ及ホス直接ノ結果ナル可シト論セリ

地味ト生殖機關ノ關係モ亦顯著ナルモノナリ予ハ今 Mueller 氏ノ實見説ヲ掲ケテ以テ之カ證左ヲ示サンニ氏ハ Lippstadt ノ近傍ニ於テ Dianthus deltoides カハラナデシコノ一種ノ花ヲ檢セシニ肥沃ナル牧場ノ周邊ニアルモノハ其花盡ク雄蕊先熟 Protoandrous ナリ其砂丘ノ中腹雜草ノ生育スル處ニアリテハ雄蕊先熟花ア

リト雖𪜈明ニ雄蕋ノ葯ハ其大ヲ減シ花粉ハ殆ント生熟セス然ルニ荒瘠ノ砂地ニアルモノハ雄蕋全ク萎微シテ其用ヲナサヽリシト斯ノ如ク生殖機關ト土地ノ關係ハ親密ニシテ農業植物ニアリテモ必スヤ此ノ關係ヲ脫シ能ハサル可シダーヰン氏ハ變化ノ原因ニ就キ "Plants and Animals under Domestication" 及ヒ "Origin of Species" ニ論スル處多シ予輩ハ今茲ニ多言ヲ費スヲ欲セサルナリ次回ニ於テハ農業植物ト選擇ノ關係ヲ論シテ以テ此文章ヲ終ラント欲ス

（未完）

奇形蓮花（第十一版圖）

理學士　藤井健次郎

加賀國金澤木ノ新保六番地持明院境內ニ俗ニ白鬚ノ蓮ト稱シ有名ナル蓮花アルヲ聞クヿ久シ其一ノ花梗ニ數花ヲ開クヲ以テ名アリ今年八月余金澤ニ在リシ時之ヲ驗センヿヲ期セシニ偶岡異三君之ヲ採リ其二花ヲ余ニ贈ラレタリ之ヲ驗スルニ一ハ一花梗ノ末端ニ四花咲ケルガ如ク他ノ一ハ二花ノ咲クニ似タリ花瓣ハ色淡紅ニシテ概シテ小サク其數ハ一定ナラザルガ如クナレ𪜈數百相集リテ美麗ナル花ヲ爲セリ所謂千葉ノ花（ダブルフラワ）ニシテ雄蘂ハ悉ク變形シテ花瓣樣トナレルガ如シ余ハ其實地ニ就キ蕾ヨリ發生ノ模樣等ヲ驗セント欲シ翌早朝其處在ヲ訪ヒシニ蓮池ハ廣サ百五十坪許滿池皆蓮ニシテ時（八月廿五日）正ニ蓮花盛ナリシ一々其花ヲ驗スルニ一トシテだぶるふらわナラザルハナクシテ花梗每ニ所謂二花以上咲ケリ只半開ノ花及ビ極少ノ蕾ハ一花梗一花ノ如クニシテ尋常ノ蓮花ノ蕾ト毫モ差異アルヲ見ザリシ此他葉、花梗、及ヒ蓮池ノ模樣ニハ異常ノ點ヲ見受ケザリシ

此寺ニ存スル妙蓮略緣由ト云フモノヽ中ニ

奇形蓮花

抑當山園內ニ傳生セル妙蓮ハ不動明王往昔……中略……蓮ヲ此池ニ植玉ヒ即一本五莖有リ……中略……一本三莖アリ……中略……一本二莖……中略…：蘂ナク花臺ナク故ニ實アラズ內外英而已ニメ終ニ散セズシテ枯凋シ……中略……爾ルニ星霜推移リ汚水穢物ヲ入流セシヨリ一本一莖多ク稍生シ宛モ常蓮ノ如シ爰ニ天長五年弘法大師北國御巡化ノ砌リ此地ニ來臨シ玉シニ……中略……蓮池ヲ灑水シ淨淸ナラシメ玉ヘバ……中略……元ノ如ク妙蓮蕃殖シテ千有餘年ノ今ニ新ナリ云々

雙頭蓮ノ名ハ古來世ニ知ラレタレ𪜈其實物ガ屢々人ニ知ラレタルヤ否ヲ知ラズ今本草圖譜ニ蓮花異類ノ記載多シト聞キ之ヲ參考スルニ此書ニ載セタルノミニテモ異類七十種ニ及ベリ中ニ二三ノ通常ノだぶるふらわモアリ又雙頭蓮ヲモ圖セリ又其記ニ

輪軒小錄ニ江州益須郡田中村ニ其田中園中ノ池ニ產ス一莖ノ上ニ九ッノ華房アリミチアフテ咲ク小ナルハ或ハ七ッ或ハ五ッ或ハ三ッアリ中元頃ヨリサク萬葉蓮ト云ト云々又秘傳花鏡ニ品字蓮ト云ハ尋常ノ花形ニシテ一莖ニ三花開クヲ云ヿナリ此物本邦ニ有トイヘ𪜈未ダ目擊セザレバ圖セズ

又長崎唐寺ニ花形芍藥ニ似テ紅色外黃金色ノ如シ光アル物アリ實ハ未ダ結バズトイヘリ

雙頭蓮——志村氏ノ圖同書ニ武州草加ノ先加茂ノ民家ノ池中ニ產ストイヘリ花葉トモニ小サク花形尋常ノ品ニ似一莖ニ二花並ビ生ズ淡紅色ナリ

雙臺蓮——志村氏ノ圖同書ニ寛政十一年谷中三崎法住寺ノ池中ニ產ストイヘリ花形前條ト同シ

此ニ雙頭蓮ト云ヒ雙臺蓮ト云ヿモ本草圖譜ニ雙臺蓮ノ圖上ニ花形前條(雙頭蓮)ト同シトアル如ク圖上ニ於テ毫モ二ッヲ識別スルヿナシ色モ共ニ淡紅色ニ畫ケリ只其時ト場合トニ依リ別名ヲ附シタルガ如ク頭ト臺トハ或

ハ肥大セル花床ノ有無等ニ關スルヿナキヲ保セズト雖𪜈今之ヲ識ルニ由ナシ

余近頃相州鎌倉ニモ一花梗ニ所謂二花ヲ有スル蓮アルヲ聞ケリ

以上ノ記錄等ニヨレバ一花梗ニ所謂二花乃至九花ヲ有スルモノ既ニ知ラレタリ其だぶるふらわノ出來方ニ於テ余ノ標品ト同異如何ニ至テハ本草圖譜ノ圖說共ニ不完全ニシテ之ヲ知ルニ由ナシ

マスタス氏ノ變態學ニモ雄蘂ガ花瓣樣ニ變形シテだぶるふらわヲ生ズル植物ヲ列記セル表中ニ西洋ノウォータリヽート共ニ東洋ノ蓮ヲモ載セラレタリ去レ𪜈雄雌蘂共ニ變ジテ花瓣樣トナリ所謂數花一花梗ニ開クモノハ未ダ其記載ヲ見ズ

今余ノ標品中一花梗所謂四花ヲ有スルモノ(第一圖)ヲ取リ熟々其開花ノ模樣ヲ驗スルニ一本ノ花梗ノ末端ニ互ニ獨立ノ四花ヲ有スルニハ非ズシテ寧ロ一蓮花ノ中心ニ花瓣ノ群集數個アリテ各群一個ノ花ヲ爲スガ如シ故ニ先ヅ花梗ノ末端ヨリ順次ニ花ノ內(上)部ニ語リ移レバ第一ニ花床ノ基底ニ四個ノ蕚片アリ其內ニハ數多ノ花瓣延長シタル花床(ハ)ヲ還リテ密生シ第九十五六番目ノ花瓣ニ至リテ花床岐シテ四ツトナレリ其蕚片ノ位置ヨリ花床分岐點迄花床ノ長サハ一「インチ」ト四分ノ一ニ達セリ故ニ此等ノ花瓣ハ皆同シ高サニアラズシテ一本ノ長キ軸ヲ還テ順次ニ高キ位置ヲ占ム此四ツノ蕚片及ヒ九十五六枚ノ花瓣ハ既ニ脫落シタレ𪜈朋了ナル痕跡(イ)ヲ在セリ

花床ハ分岐ノ點ニ於テ正シク四ツニ分レ地平ニ放射セリ故ニ其狀ハ一本ノ軸ノ上ニ十字ヲ橫タヘタルガ如ク各枝長サハ半「インチ」許ニシテ十字ノ前後(第一圖ノ置位ニテ)ノ二枝ハ細ク左右ノ二枝ハ徑略之レニ四倍シ花床ノ下部ヨリモ稍太ク即徑七「ラインス」許ナリ其各枝ノ末端ニハ數百ノ花瓣ヲ密生シテ一群ヲ爲シ各個獨立ノ花ノ如

キ觀ヲ呈セリ去レ𪜈蕚片ヨリ分岐ノ點ニ至リ四枝ノ末端ニ達スル迄花瓣悉ク密生シテ立錐ノ餘地ダモ存セズ故ニ此分岐ノ有樣ヲ驗セントスルニモ數百ノ花瓣ヲ除去スルヲ要スルナリ而〆花床ノ分岐點以下ニ生ズル花瓣ト四ツノ枝ニ密生スル花瓣トハ其形狀ニ於テハ大差ナシト雖𪜈前者ハ後者ニ比シテ遙カニ大ナリ試ミニ其蕚片ニ接スルモノト花瓣一群集ノ中心ニアルモノトノ大サヲ記スレハ前者ハ長サ四「インチ」半幅二「インチ」半ナルニ後者ハ長サ一「ライン」ニモ及バザルモノダニ多シ故ニ花未ダ開カズシテ外位ノ花瓣脫落ノ前ニアッテハ外位九十五六枚ノ大ナル花瓣ヲ以テ花ノ內部ヲ被ヘリ是即此蓮花未開或ハ半開ノ時尋常ノ蓮花ト識別スル所無キ所以ナリ

花ノ要部即チ雄雌蘂ハ如何ト云フニ雄蘂ハ前ニモ記セシ如ク一トシテ葯ヲ有スルモノナク且其花絲モ共ニ其形ヲ存セズ雌蘂モ亦同樣ニシテ全ク其形跡ヲ止メズ實亦固ヨリ結ハズ此ニ最モ面白キヿハ雌蘂ガ雌蘂トシテ此ニ存セザルニ至リシニ於テ嘗テ之ヲ埋メ之レヲ支ヘ其保護ヲ掌リシ花床ノ肥大部モ亦其運命ヲ同フセルニアリ故ニ此花ハ只花瓣ノミニシテ雄蘂モナク雌蘂モ無ク亦蓮花屬ノ特性ノ一タル肥大セル花床部モ無キナリ

今又他ノ花ヲ驗スルニ皆此要點ニ於テ異ナルヿナク只花床分岐ハ花ニヨッテ其狀ヲ異ニセリ余ノ標品中所謂二花ヲ有スルモノヲ取リ悉ク其花瓣ヲ除去シテ之ヲ驗スルニ蕚ノ位置ヨリ分岐點迄ハ長サ凡一「インチ」ニ〆之ヨリ花床ハ左右ニ分レY字形ヲ爲セリ二枝各長サ十「ラインス」許ニシテ一ハ又分レテ二花瓣群（第二圖ロ）ヲ有スルモノト三花瓣群（同圖ロ）ヲ有スルモノトヲ爲シ他ノ一ハ四ツノ小花瓣群（同）ヲ爲セリ左レ𪜈此等ノ分枝ハ甚短カクシテ花瓣ノ大部ヲ除去シテ初メテ觀ルベキノミ左レバ此花ハ九ツノ花瓣群ヲ有スルモノナリ

又半開ノ花ニシテ其外觀ハ尋常ノ蓮花ノ如キモノヲ裂キテ之ヲ驗セシニ同ク花床ハY字形ヲ爲シ其二枝稍短ク各端一ツノ花瓣群ヲ以テ終レリ

又其雄雌兩蘂ノ變態及ヒ花床ノ退化セルモ果シテ各花ノ發生ノ初メヨリ然ルカ或ハ一度ハ發生シタルモ其成長ノ途ニシテ再度退化セルモノナルヤヲ慥メント欲シ蕾ノ長サ未ダ一「インチ」許ナルモノヲ取リ花ノ中心ヨリ切斷シテ其生長點ノ部ヨリ一小片ヲ得之ヲ顯微鏡下ニテ驗セシニ花ノ蕾ヲ見ルヨリモ尋常ノ新芽ノ生長點ヲ見ルニ毫モ異ナルヿナカリシ只其生長點ガ二個相並（第三圖）ベルハ此花ノ雙頭（少ナク𪜈）ナルヿヲ證スルニ足レリ此ニ尋常生長點ノ葉ニ對スルト覺シキモノハ未ダ若少ナル花瓣ト知ルベキノミ尚之ヲ尋常ノ蓮花ニシテ之ト同シ大サノ蕾ノ成生點ト比較セバ一增面白キヿモアルヘク又其必要ナキニアラサレ𪜈時期遲クシテ之ヲ得ザルハ遺憾ナリ

左レバ此花ハ生長ノ初メニ於テ既ニ其花床ノ肥大部、雄蘂、雌蘂モ皆共ニ其形態ヲ失ヒシモノニシテ遠ク既ニ花ノ花タル所以ヲ失シ單ニ虛飾ニ過ギザルモノナリ然ラハ如何ニシテ此蓮花ノ退化此ニ至リシヤヲ問ヘバ是固ヨリ自然淘汰ニ依テ生ゼシモノニハ非ズシテ所謂人爲淘汰ノ結果ナルベシ去レ𪜈如何ニ人爲淘汰ガ働カントスレ𪜈何ノ時カ一度ハ天然自然ニ此退化ニ近キ花ヲ現ゼシヿナキ時ハ到底此ニ至ルヲ得ザルナリ又人爲淘汰ガ此ニ働キ初メシ後トイヘ𪜈次第ニ之レニ近キモノヲモ自然ニ於テ生出スルノ傾向多少存セザルヘカラズ然ラハ如何ニシテ其傾向アルヤハ即チ Reversion ニシテ往時ノ有樣ガ今ニモ現出シ來ルモノト云フベシ去レ𪜈蓮ガ今日實ヲ以テ蕃殖スルノ必要ナクシテ重ニ其根莖ニ依テ蕃殖スルモノトセバ或ハ人爲淘汰ニ由ラザルモ生理上器關發生ノ經濟ヨリシテ不必要ナル花部ガ退化シタリト云フモ亦可ナルニ似タレ𪜈若シ蓮ニ於テ

然ラハ何レノ蓮花モ亦此ノ如クナルベキニ只特別ノ場所ニ培養スルモノノミ如此ナルハ其人爲淘汰ニヨルトナス所以ナリ又前ニ記セシ此妙蓮略縁由ニ記スル所ニ由レハ一度常蓮花ニ歸シ再度所謂數花一花梗ニ開ニ至リシト云フ是正確ナル事實ナルヤ否ヤハ知ルベカラズトイヘ𪜈若シ事實トセバ是又人爲淘汰ニ依レリト爲スノ傾ヲ添フルモノナリ

又雄蘂雌蘂ハ如何ナル順序ヲ經テ如何ナル樣ヲ經過シテ此ニ至リシヤ彼ノ肥大セル花床部ガ一時ニ消失セシヤ又花床ノ分岐ノ如何ニ至テハ確實ナル觀察ヲ經テ之ニ答フルハ至難ナレ𪜈稍之ヲ想成スルニ據ルヘキモノ皆無ニ非ザレハ以下少シク此ニ及ハントス又一言ヲ添ユベキハ何等ノ理由ニ依リ此奇形ノ蓮花ヲ元一花ノ變態ト見做シ數花ヨリ成レルモノト解セザルニアリ

（以下次號）

◎雜錄

「バクテリア」之效用

江田伊四郎摘譯

「バクテリア」ト云フ聲ハ聞クモノヲシテ一種不快ノ感覺ヲ起サシム蓋シ虎列拉之ニヨリテ起リ肺結核コレニヨリテ起リ其他實扶的里亞ノ如キ痘瘡ノ如キ癩病ノ如キ若シクハ脫疽「インフルエンザ」ノ如キニ至ルマデ皆ナ其病源ヲ「バクテリア」ニ歸スルヲ見レバ世人ノ恐ルヽ故ナキニアラズ然レドモ「バクテリア」モトヨリ種類多シスデニ發見セラレタルモノヽミニシテ四五百種ニ下ラズ其動作各異ルアリト雖𪜈要スルニ盡ク皆有害ノモノヽミニアラズ否實ニ日常欠クベカラザルモノ少ナカラズ特ニ之レナクンバ天然界ノ生物其生ヲ保ツ能ハザルニ至テハ吾人ノ一身ニ於テ一部分ノ「バクテリア」ヲ惡ムノ情ヨリモ一方ニ於テ他ノ一部分ノ「バクテリ

ア」ヲ愛スルノ情ハ一層切ナラズンバアラズ然レ𪜈好事門ヲ出デズ惡事千里ニ走ルト云フ譬ヘノ如ク從來只恐レト惡ミノ一方ニ偏シタルハ他ニアラズ「バクテリヤ」ノ始メテ發見セラレシヨリ病氣ノ原因トシテ世上ニ紹介セラレ爾來「バクテリア」ナルモノハ只病氣ノ原因トシテ醫學者ノ手ニノミ研究セラレシヲ以テナリ然レドモ今日ニ於テハ「バクテリア」ノ研究ハ醫學者ヨリモ寧ロ農學者ニ於テ之レヲ研究スルノ必要多キヲ知ルニ至レリ左レバ今農夫ニ向ヒテ彼等ガ大切ニセル牛馬ノ如ク「バクテリア」ヲ大切ニセヨト云ハンカ誰レカ之レヲ笑ハザランヤ若シ製乳者ニ向ヒテ彼等ガ牡牛ノ健康ニ注意スル如ク「バクテリア」ニ注意セヨト云フモ誰カ耳ヲカタムケン蓋シ彼等ハ「バクテリア」ヨリ生ゼシ結果ニ對シテハ隨分注意ヲ怠ラズト雖𪜈ソノ「リバクテア」ノ結果タルヲ知ラザルナリ殊ニ「バクテリヤ」ナクバ生物共生ヲ保ツ能ハズナド語リナバ一笑ニ附シ去ラルヽノ恐アリ然レドモ請フ後段ニ說ク所ヲ見ヨ

第一「バクテリア」ト製乳所トノ關係

牛酪（バタ）製造者ノ牛酪ヲ造ルヤ先ヅ牛乳ヲ放置スレバ牛乳中ノ脂肪質ハ表面ニ集リテ乳皮（クリーム）ヲナス之レヲ取リテ器物ニ入レ二十四時間許リ暖所ニ置キテ少シク酸味ヲ生ジ芳香ヲ帶ブルヲ待チテ棒ニテ攪動シテ牛酪ヲ得而シテ其二十四時間ノ變化ハ只其内ニ「バクテリア」ノ一種ガ著シキ速力ヲ以テ繁殖シタルノミ繁殖ノ速力ハ隨分早クシテ二十四時間内ニ一個ノ「バクテリウム」ヨリ五六千ノ「バクテリウム」ヲ生ジタルナリ故ニ牛酪ヲ製スルハ只「バクテリア」ヲシテ乳皮ヲ分解セシムルノミ而シテ乳皮ヲ分解セシメタル「バクテリア」ハ牛酪ヲ仕上グルニ當テハ或ハ洗ヒ去リシ水ノ中ニ去リ或ハ「バタミルク」溜マリ又牛酪中ニ殘リシモノハ牛酪ヲ鑵詰メニスルトキニ入レタル食鹽ノ爲メニ殺サルベシ

次ニ乾酪（チーズ）モ亦全ク「バクテリア」ノ作用ニ歸ス蓋シ乾酪ノ始メテ製セラルヽヤ其味决シテ人ノ嗜好ニ適セズ之レヲ用フルハ必ズ數週間數月間若シクハ一年モ放置シテ熟セシムルヲ要ス而シテ放置スル時日ノ長短ニ比例シテ味自ラ强弱アリテ乾酪ヲ熟セシムルノ法モ亦只「バクテリア」ノ繁殖ニヨルノミ然レドモ熟セシムル間ニ於テ如何ナル「バクテリア」ガ繁殖シツヽアルカハ製造者ニ於テ更ニ知ルニ由ナク而シテソノ出來上リシ結果ヲ見レバ同一ノ有樣ニ於テ仕立テシト思ヒシ乾酪モ一ハ良好ナル乾酪トナリ一ハ赤斑ヲ生ジ或ハ腐敗シテ用ニ勝ヘザラシムルガ如キ弊ハ實ニ已ヲ得ザルナリ蓋シ酒ヲ釀造スルニハ釀母ナルモノ一定スレバ從テ生ズル醱酵作用モ亦一定スレバ乾酪ナドヲ製スルニ方テヤ好ミニ任セテ己レノ欲スル「バクテリヤ」ヲ蒔キテ繁殖セシムルコトヲ得ズ故ニ場合ニヨリテハ非常ニ有害ナル「バクテリア」入リ來リテ繁殖シ從テ生ズル乾酪ヲ〆有害ナラシムルコトアリ新聞紙上乾酪ノ中毒ヲ耳ニスルハコレガ爲メナリ化學者ハ有害ナル乾酪ヲ分析シテ「テイロトキシコン」ナル化合物ノ存在ニ歸シタリ此ノ化合物ハ實ニ一種ノ「バクテリア」ニヨリテ製成セラレシニ外ナラズ、「ビール」ノ製造ニ於テモ不完全ノ點アリテ往々病氣ノ源因ヲナスコトアリシガ二十年前有名ナル佛國ノ「バスチュア」氏ハ「ビール」ヨリ起ル病氣ニツキテ研究シテソノ病原トナル有害ノ「バクテリア」及ビ醱酵菌ヲ防グヘキ良藥ヲ發明シコレヨリ「ビール」及ビ葡萄酒ノ製造ニ一新紀元ヲ開ケリ若シ夫レ「バクテリア」ノ研究充分發達シテ有害ナル「バクテリア」ノ乾酪中ニ生ズルヲ防グノ法ヲ發明スルヲ得バソノ乾酪製造上ニ益スルコト必ズ尠少ニハアラザルベシ

第二バクテリアハ世界最大ノ掃除者ナリ

今地上ニ横ハル一本ノ木アリトセンカソノ始メテ地上ニ倒ルヽヤ堅强ニシテ决シテ虫類ナドニ犯サレズ然レ

ドモ漸ク月日ヲ重ヌルニ及ンデ漸次ニ軟クナリ殆メニ皮ヲ脱落シ終ニ木部迄モ軟カクナリテ杖ニテ突カバ穴ヲ穿チ得ベク虫類モ穴ヲ穿チテ其内ニ棲息シ或ハ之レヲ食スルヲ得ルニ至ル而シテ木質ハ年ヲ經ルニ從テ益軟カクナリ終ニ褐色ノ粉末トナリテ地中ニ混入スルニ至ルベシ然ラバ元來ノ木質ハ如何ニシテカク變化セシカ又他ノ例ヲ取ランニ一羽ノ鳥死シテ地上ニ墜ツルモノアリトセンニ他ノ動物來リテ之レヲ食フニアラズンバ鳥ノ体ノ組織ハ漸次ニ變化ヲ受ケ則チ分解シテ一部分ハガス体トナリテ空中ニ飛ビ去リ他ノ部分ハ地中ニ入リテ元來ノ鳥ノ体ナルモノハ其形ヲ消失スベシ然ラバ此等ノ變化ハ何ニヨリテ起リシカ若シ夫レ地上ニカク動植物ノ死体ヲ腐敗セシムルノ勢力ナクンバ地球ノ表面ハ如何ニ成リ行クベキカヲ想像セヨ地球上ニ生物ノ顯ハレシ始メヨリ若シ此勢力ナカリシナラバ森ノ木ハ倒レシマヽニテ變化ヲ受ケズ枯葉ハ地上ヲ厚ク被フモ少シモ分解作用ナク無數ノ動物ハ死スルモ其ノ屍体ハソノマヽニテ地上ニノコリタランニハ久シキ以前ニ於テ此地球ノ表面ハ全ク動植物ノ死体ヲ以テ被ハレ生物其間ニ生ズルノ余地ナクシテ消滅ニ歸スルノ已ヲ得ザリシナラン而シテ地球ヲカヽル慘狀ヨリ救ヒ上ケシハ抑モ如何ナル勢力ノ功ゾコレ實ニ「バクテリア」ノ大ナル賜物ト云ハザルベカラズ木ノ軟カクナリテ終ニ腐敗シタルモ「バクテリヤ」ノ力ナリ鳥ノ体ノ腐敗セシモ「バクテリヤ」ノ力ナリ其他總テノ動植物ノ腐敗スルハ皆「バクテリヤ」ノ力ナリ故ニ「バクテリア」ナクバ地球ハヨク現今ノ狀態ヲ具フルヲ得ザリシナリ

人体中ノ「バクテリア」ト云ヘバ皆其害ヲ思フ然レドモ如何ナル健康ナル人ニアリテモ其口室内ニ其胃ニ其腸ニ隨分多量ノ「バクテリア」ノ生存スルアリコレ等ノ「バクテリア」中有害ノモノ間々ナキニアラザルモ多クハ多少消化作用ヲ助ケ或ハ消化管中ノ不用ニ屬シタル組織ノ分解ニ幾分ノ助ケヲナスコトアランモ測リ難シ然

レドモコレ只臆測ニ止マルノミ

（未完）

○おほくぼした

昨年二月新種トシテ本誌上ニ公ニサレタルおほくぼしだ Polypodium Okuboi, Yatabe. ハ箱根蘆ノ湯ヨリ元箱根へ出ツル途中ノ古墓ノ碑石ニ着生セルモノト聞ケリ仍テ去五日余蘆ノ湯ニ泊在中再三産地ヲ撿セシニ唯灰色ノ地衣ト綠苔ノミニシテ同羊齒ノ生ゼルヲ見ズ或ハ採集者ノ來リテ採リ盡セルモノカ

編者曰クおほくぼしだノ産地ハ箱根山中一小部分ニシテ且其植物小ナルニ依リ容易ニ目ニ觸ルヽヿナシ故ニ其產地ノ案內ヲ暗シタル後ニ採集スルニアラサレハ徒勞ノミ

○しぎんからまつ片山村ニ産ス

余屢〻東京近郊ニ採集ス好テ川越街道ニ杖ヲ曳ク當春新座郡片山村ナル不動ノ瀧ニ至ル偶マ瀧壺周圍ノ丘ニ於テ一種ノ Thalictrum. ヲ得タリ其葉潤大恰モ樓斗菜ノ如シ而根莖著シク黃色ヲ帶ブ近日再ビ同地ニ到ル果シテ花アリ蕚紫暈ヲ呈シ雄蕊白色、乃チ採リ歸リテ松村先生ニ質ス先生曰ク是レしぎんからまつ Thalictrum acteæfolium, Sieb. et Zucc. ナリト且ツ曰ク此草暖地ノ産近郊之ヲ見ルヿ鮮シト

右二件　寺崎留吉

會員　中村正雄

○莊內植物一般

第一、月山走リ採集記（月山海拔千九百六十メートル）

毛茛科

ボタンヅル　センニンサウ　トリカブト　ミヤマカラマツ

キンポウゲ　モミヂカラマツ　ハクサンイチゲ　サバノヲ

牻牛兒科

フシタカフウロ　アカヌマフウロ　ツリフネサウ　キツリフネ

荳科　ナンテンバギ　ミヤコグサ　コマツナギ　ヌスビトハギ

薔薇科　ワレモコウ　ダイコンサウ　チンクルマ　キンミヅヒキ

虎耳草科　ダイモンジサウ　ケダイモンジサウ　アカバナダイモンヂサウ
クロクモサウ　ヅダヤクシユ　ムメバチサウ

景天科　サハシオン

茅膏菜科　モウセンゴケ

蟻塔科　アリノタウグサ

千屈菜科　ミソハギ

柳葉菜科　アカバナ　イハアカバナ　ミヅタマサウ

繖形科　セントウサウ　チドメグサ　ヤマニンジン　シヽウド
シラネニンジン

山茱萸科　ゴゼンタチバナ

茜草科　アリドウシ　キヌタサウ

菊科　ヒヨドリバナ　アキノキリンサウ　ホソバノアキノキリンサウ
ゴマナ　シラヤマギク　ヤマハバコ、ノブキ　ヲグカラコウ
コウリンクワ　ハンゴンサウ　オニアザミ　ヤマゴボウ
キツネアザミ　ヒトツバアザミ　コウヅリナ　ヒトツバヨモギ
オトコヨモギ　ウサギキク　センボンヤリ　ケシアザミ
キツコウハグマ　モミヂハグマ　ミヤマハヽコ　ヤクシサウ
タカサゴサウ　メナモミ　ヒメシオン　ヒゴオミナメシ

敗醬科　ハクサンオミナヘシ　オミナヘシ　オトコヘシ

桔梗科　キヽヤウ　ツリガネニンジン　サハギキヤウ　タニキヽヤウ

石南科　マツノキハダツヽヂ　シラタマノキ　アヲノツガザクラ　アクシバ

岩梅科　コイハカヾミ

櫻草科　ヌマトラノヲ　クサレダマ　ヒナザクラ（矢田部博士新稱）

白前科　イケマ　スヾサイコ　カモメヅル　ガヾイモ

（未完）

○震燒木

前號ノ本誌ニ震燒木ノ事ヲ記サレタルヲ見テ余モ舊時見タルモノヲ思ヒ出シタレバ之ヲ記ス去ル明治十九年八月頃一夕大雷アリテ靜岡公園ナル淺間山ノ二松樹ヲ擊チタリ二松ノ距離ハ僅ニ七八間ヲ隔テタル樣ニ記憶セリ其傷痕ハ極メテ明瞭ニシテ幹ノ上部ニテハ凡ソ二回程回旋シ居リタル樣ニ記憶ス久シキ時ヲ經タル故ニ記憶スル所ハ頗ル不分明ナレ𪜈其頃記シ置キタル日誌ニ據ルニ傷痕ノ螺旋ハ一株ニテハ左旋ニシテ他株ニテハ右旋ナリト記セリ其後兩三年ヲ經テ東京御成街ノ某商店ノ旗竿ニ落雷セシヲ見タルニ亦略螺旋狀ヲ呈セリ此旗竿ハ杉ナリシナラン確知セズ

○柊ノ神社

西京下加茂神社ノ境內ニ此神社アリ其神ニ願フ事アリタル人ハ願ヲ還ス時ニ一株ノ樹木ヲ其社傍ニ植ルヲ以テ例トセリ而シテ如何ナル樹木ヲ此ニ植ルモ皆柊ニ化スト土人ハ云ヒ傳ヘリ某氏ハ此事ニ就キ說ヲナシテ曰ク土質ノ良カラザルニ因リ樹木ノ葉生育セズシテ多ク刺ヲ生ズルニハ非ルカト余ハ此事ニ就キテ疑ヲ懷キ居リシガ後其社ニ詣リ見ルニ植ヘタル樹木ハ概ネ眞ノ柊又ハヒラギモクセイノ類ナリ他樹ノ柊ニ化スル如キヿハ固リナシ而シテ柊ノ如キハ往々同一株ニシテ全緣葉ト鈌刻葉トヲ雜ヘ居ルヿアル故ニイヨ〳〵此ノ如キ迷想ヲ深クセシナラン聊カ記シテ余ト同樣ノ疑ヲ懷ク人ニ告グ

○植物學ノ進化（前々號ノ續キ）

マ、サ、生抄譯

第十九世紀ノ始ニ方リ地理植物學起レリ是レ A. v. Humbolt 氏ノ力ニ因ルモノニシテ Schouw, Wahlenberg, Meyen A. De Candolle, Grisebach, Hooker, Boissier, Asa Gray. 等ノ諸氏モ亦其進歩ヲ助ケタルヿ尠ナカラズ諸氏ハ植物ノ分布ト氣候ガ植物ニ及ボス影響トヲ研究シテ多ク著述スル所アリ而シテ Grisebach 氏ノ著書最モ先キニ成レリ

此時ニ方リテ殭石植物學ノ一科モ亦 Brongniart, Unger, Göppert Sapporta, A. Gray 等諸氏ノ攻究スル所トナレリ Brongniart 氏ノ著書中ニハ植物化石ノ歴史ヲ論ジタルモノアリ其分類ヲ論ジタルモノアリ且氏ハ地球上異リタル時代ニハ異リタル植物界ノ出現セルヿヲ論ジタリ其弟子ナル Sapporat 氏モ亦殭石植物學ヲ研究シテ多ク著述スル所アリ是レ大ニ植物ノ進化ニ關セル Darwin 氏ノ說ニ價直ヲ加ヘタルモノナリ Göppert 氏ハ最モ熱心ニ殭石植物學ヲ研究シテ夥多ノ植物化石ヲ採集セリ而シテ之ヲ現今ノ植物ト比較シ彼ノ種 (Species) ガ不易ノモノニアラズト唱フル說ヲ鞏固ナラシメタリ氏ハ又石炭床ノ形成ニ就テ研究スル所アリ其著書ナル Index paleontologicum ハ千八百五十年ニ出版セラル化石植物ノ分類及其異名ヲ記シタルモノニシテ無比ノ良書ト稱セラル

植物構造學幷ニ分類學モ此時代ニ進歩セルガ殊ニ分類學ハ之ヲ研究スル學者尠ナカラズ米國人中ニテ第一流ト稱スベキハ Asa Gray 及 A. Wood ノ二氏トス

植物學中ノ諸分科ハ長足ノ進歩ヲナシタルガ爲終ニ植物記載學ハ從前ノ地位ヲ失フニ到レリ然レ𪜈之レガ爲ニ其價格ヲ減ジタルニアラズ

特ニ米國ノ植物學者幷ニ其著述ニ就テ論ズレバ最モ早ク北米ノ植物ヲ記載シタルハ Jac. Corunbus 氏ナルベシ氏ハ佛國人ニシテ曾テ米國ニ赴キタルヿナシト雖加奈陀ヨリ送致セラレタル標品ニ就テ米國ノ植物ヲ研究

セシナリ

John Josselyn 氏ハ千六百七十二年ニ New Englend Rarities ト題スル書ヲ著セリ此書中ニ大麥ハ退化シテ燕麥トナルヿ屢アリト論述シタルヲ以テ大ニ世ノ注意ヲ惹ケリ John Barton 氏ハ始メテ米國ニ植物園ヲ開ケリ且氏ハ多年植物ノ研究ヲ怠ラズシテ之ヲ記載シタルノ多キハ同時ノ學者中其比ヲ見ズ其他斯學ニ從事セル先輩中 Cadwallader Colden, John Mitchell, A. Garden 等ノ諸氏アリ Colden 氏ハ林娜氏ト其時ヲ同フセリ而シテ其女 Jane Colden 氏ハ米國ノ女子ニシテ植物學ヲ修メタル者ノ嚆矢トス B. S. Barton, Muhlenberg, Beauvots 等ノ諸氏ハ第十八世紀ノ終ニ方リ米國理學會報告中ニ有益ノ論説ヲ寄スルヿ屢アリ

千八百三年ニ方リ D. S. Barton 氏始メテ植物學初歩ノ著アリ此頃ニ於テ大統領 Jefferson 氏ハ探撿隊ヲ派出シ北米大陸ヲ横過シテ太平洋ニ達セシメタリ而シテ Clark 及 Lewis ノ二氏ハ之レガ指揮ノ任ニ當レリ此等ノ探撿者ガ得タル採集品ノ主要ナルモノハ後ニ傳ハラズト雖此探撿アリタルガ爲植物學者ハ是レ迄見聞シタルヿナキ多數ノ植物ヲ知ルヲ得タリ爾後 Nuttall, Nicolet, Fremont 等ノ諸氏ハ同一ノ地方ヲ探撿シテ米國ノ植物録中ニ新植物ノ數ヲ加フルヿ尠ナカラズ

千八百二十年頃ヨリ諸學校中ニ植物學ヲ教授シ始メタルモノ多シ是ニ於テ適當ナル教科書ノ必要起レリ而シテ許多ノ教科書中 Amos Eaton 氏ノ著ハセルモノ頗ル世ニ行ハレタリ千八百四十二年ニ Asa Gray 氏ノ教科書成リ千八百四十五年ニ Alphonso Wood 氏ノ教科書成レリ

米國ノ植物學者中ニハ新シキ研究ヲ爲シタルモノ尠ナカラスト雖此一事ニ於テハ米國人ハ歐洲人ニ一著ヲ輸スト謂ハザルヲ得ズ W. G. Farlow 氏ガ米國博物會ニ於テ朗讀セル文中ニモ亦此事實ヲ明言セリ氏ハオモヘ

ラク新研究ノ一點ニ於テ米國人ノ歐洲人ニ及バザルハ米人ノ智力ノ足ラサルニモアラズ又其嗜好ノ淺キニモアラズ元來米國ノ植物學者中秀逸ナル者ハ概ネ教員タリ而シテ米國ニ於テハ教員ノ負擔頗ル重クシテ新研究ニ從事スル餘力ヲ殘サズ之ニ反シ獨逸ニ於テハ實驗室內ノ指導ノ如キハ盡ク助手ニ委任シ教授ハ裕カニ重要ノ研究ニ從事シ之ニ因テ自己ノ知識ヲ進メ且己レノ屬スル學校ノ光輝ヲ發揚スルモノナリ米國ニ於テハ學理ニ就キテ新シキ研究ヲナス者ヲ保護スルノ必用ヲ覺ルヿ尙未ダ遍ネカラザルニ似タリ是故ニ米國ノ植物學者ガ解說スルニ便宜ナル問題ト雖却テ獨逸人又ハ他ノ歐洲人ノ解說スル所トナルニ至ルヿ往々アリ世人ヲ〆研究者ヲ保護スルノ必要ヲ覺ラシムルヿハ之ヲ勉メザル可ラザルナリト Farlow 氏ノ明言スル所實ニ斯ノ如シ

（以下次號）

筑前國植物俗名通知（第一回）

在筑前糟屋　長野菊次郎

	普通和名	地方名
毛茛科	キンポウゲ	ウシゼリ
	オキナグサ	ネコグサ
	シウメイギク	コウライギク
罌粟科	ヒナゲシ	ヒジンサウ
菫菜科	スミレ	キヤウノウマ又ハ スモトリバナ
	ハコベ	ヒヨコグサ チヨンチヨングサ
牻牛兒科	フウロサウ	ゲンノセウコ

	普通和名	地方名
	トリカブト	サンバサウ又ハ ナンバサウギク
	センニンサウ	タンザクバナ
木蘭科	シキミ	ハナシバ
	ムラサキケマン	ヤブニンジン
石竹科	ムシトリナデシコ	チゴザクラ
菩提樹科	ツナソ	イチビ
冬青科	イヌツゲ	ピンカヾリ

無患樹科	ゴンズイ	ミヅユス
	ゲンゲ	ホウヅウバナ
	ジヤケツイバラ	サルカケイゲ
	ヤハズエンダウ	クサエンダウ
	フユイチゴ	カンイチゴ
虎耳草科	ユキノシタ	キジンサウ
景天草科	マンネングサ	イツマデグサ
柳葉菜科	マツヨヒグサ	ツキミサウ、カシバナ
	キカラスウリ	クソゴウリ
	キヅタ、フユヅタ	コマ
忍冬科	ニンダウ、スヒカヅラ	スイスイバナ
	ニハトコ	タズ
	ハクテウゲ	バンテイシ
	タンポヽ	タンポコ
	ハヽコグサ	オコシゴメバナ
	ツリガネニンジン	フウリンサウ
	ネヂキ	カシヨウシギ

荳科	メドハキ	メンドウ
	クズ	クスマキカヅラ
	カハラケツメイ	ハマチヤ
薔薇科	サイフリボク	ヒイチヤウザクラ
	ボケ	カラウメ
	ガクバナ	ガクサウ
千屈菜科	ミソハギ	ソウハギ
胡蘆科	カラスウリ	ヒメゴウリ
五加科	ウド	シカ
	ヤツデ	オニノテシバ テングウチハ
	ハクサンボク	ヤマテラシ
茜草科	ヤエムグラ	モンツケグサ
菊科	サツマギク	マンザイギク
	モミヂガサ	ワタナ
桔梗科	ホタルブクロ	ツリガネサウ
石南科	シヤクナゲ	シヤクナンザウ
	アセビ	ヨシミシバ

櫻草科	クリンサウ	ヒチジウサウ又ヒチダンサウ
	イヅセンリヤウ	カツチウノムギ
白前科	フナバラサウ	テツパウサウ
玄參科	サギゴケ	チドリサウ
	ヂゴクノカマノフタ	イハガラミ
	エゴマ	エコ
莧科	ノゲイトウ	カハゲイトウ
	ミヅソハ	アマザケバナ
胡椒科	ドクダミ	ニフダウグサ
大戟科	トウダイグサ	オニノシコグサ
	アカヾシ	クマガシ
水鼈科	ミヅオホバコ	ミゾホヽヅキ
	ホクロ	ハクリ
石蒜科	キズイセン	オランダスイセン
	マンジユシヤケ	ステゴバナ又ヒカンバナ
	サルトリイバラ	ガメイゲ、ガメシバ
天南星科	ムサシアブミ	クチナハノカヒジヤクシ

紫金牛科	ヤブカウジ	タチバナ
齊墩果科	エゴノキ	コヤスノキ
旋花科	ヒルカホ	カジバナ
唇形科	ウツボグサ	カゴサウ
	チドリコサウ	スイスイバナ
車前科	オホバコ	オバコ
蓼科	オホケタデ	カブテコブラ
	マヽコノシリヌグヒ	ヒキノツラカキ
瑞香科	ミツマタ	エンサツノキ
殼斗科	マテバシヒ	マタジヒ
松柏科	ネズ	イラマツ
蘭科	ネヂバナ	モヂズリ
	ツチアケビ	シヤクジヤウ
	アマナ	ズベラ
百合科	キバウシ	サギサウ
鴨跖草科	ツユクサ	ハナダ又ウツシバナ

○濠州産バンクシア、オルナータノ話（東京植物學會ニ於テ談話セシ概略ナリ）

此奇妙ナル植物ノ果實ハ本年七月濠洲メルボルン府ノ植物大家 Baron Ferdinand von Mueller 氏カ我東京植物學會ニ向テ態々寄贈セル處ノモノニシテ我東京植物學會ハ深ク氏ノ好意ヲ謝セサルヲ得ス而メ我會ハ永ク之ヲ保存シテ此學ノ資料ニ供セサル可カラス予ハ今此會ノ幹事ナル重任ヲ帶フルカ故ニ之ヲ會員ニ通告スルト同時ニ植物ニ關スル二三ノ事實ヲ報スルノ義務アルモノト信ス

此植物ハ Proteaceae 竈木（カマノキ）科ニ屬スルモノナリ此科ノ植物ニシテ日本ニアルモノハ四國九州邊ニ生スル處ノやまもがし又かまのきノ一種アルノミ此植物ハ Siebold 氏及ヒ Zuccarini 氏カ初メテ兩氏ノ著書 Flora Japonica 第七十四葉ニ詳解ヲ記述セルモノニシテ學名ヲ Helicia lancifolia, Sieb. et Zucc. ト云フ De Candolle 氏ノ Prodromus ニ依レハ竈木科ハ分テ七 Tribe トナシ日本ノやまもがしハ第五 Grevilleae ニ屬シ此濠州産ノバンクシアハ第七 Banksieae ニ屬スドカンドール氏ハ Banksia 屬ニ五十八種ヲ記シ Bentham 氏ノ Flora Australiensis ニ依レハ五十六種ヲ記セリ共ニ皆濠州特有ノ植物ニシテ他ニ未タ嘗テ之ヲ見ス重ニ西部ニ産スト Mueller 氏寄贈ノ植物ハ學名 Banksia ornata, F. M. ト稱スルモノニシテ詳解ハ載セテ Mueller—Fragmenta Phytographiae Australiae vol VII. p. 56. Bentham—Flora Australiensis vol. V. p. 557. De Candolle—Prodromus vol. XII. p. 460 等ニアリ（詳解ハ略シテ記サス）全体此竈木科ハ凡ソ一千種ヲ包括スル處ノ一科ニシテ重ニ南半球即チ南アフリカ、濠州、タスマニヤ、ニ多ク産シニユージーランド、智利ニモ産ス北半球ニアリテハ甚タ稀ニシテ馬來群島幷ニ日本南方ニ産スル Helicia ノ一屬アルノミ斯ノ如ク分布ノ遍頗ナルト此ノ多數ノ種ヲ含ム處ノ一大科ニモ係ラス人間ニ應用ノ點ニ至リテハ殆ントアルナシ又一奇ト云フ可シ然レ𪜈其樹ノ

大ナルモノハ木理斑紋アリテ木匣ノ製作ニ供ス可シ此科ノ諸種ハ花ヲ開クヿ多クシテ有用ノ點ヨリモ寧ロ庭園ニ裝飾樹トシテ栽培セラル、バンクシア樹ハ其花蜜ヲ分泌スルコト多キヲ以テ濠州ニハ之ノ樹ヲ稱シテ Honey suckle ト云フ又濠州土人ハ此蜜ヲ食用ニ供ストス

堀　正太郎

附言　只今堀氏ノ御細說ガアリマシタアトニテ私ハ何モ別ニ申述ブル事ハ御座イマセン只此バンクシアナル植物ハ明治十一年頃ニ Mueller 氏ガ新宿ノ勸農局試驗場ヘ送リシヿガ有リマシタ尤モ當時ノハ今回ノトハ別種ト記臆致シテ居リマス其前其後同屬植物ガ本邦ニ渡來セシヿ有リシヤ否ヤハ存ジマセン多分今回ノガ第二回目ト存ジマス又此バンクシアナル屬名ハ有名ナルカール、フォン、リンネ氏ノ長男ガ英人 Sir Joseph Banks 氏ノ性ヲ以テ屬名トセシモノデアリマスバンクス氏ノ祖先ハ「スウヰデン」人種ニシテ千六百年代中ニ英國ヘ移住セシ由氏ハ千七百四十三年二月十三日ニ「ロンドン」府下「アルジールストリート」ニテ出生致シ（一說ニハ「リンコロンシーア」ニテ一月四日ニ生ルトイフ）千八百廿年六月十九日「ミッドルセキス」ニ於テ沒去シマシタ氏ハ「オクスフォールド」大學ニ入リ千七百六十三年 M. A. ノ學位ヲ得千七百六十六年ニ「ローヤルソサイチー」ノ會員ニ撰擧セラレ千七百六十八年ヨリ世界周遊ニ出仝七十一年ニ歸英此年「オクスフォールト」ヨリ D.C.L. ヲ受ク其翌年ドクトルソーランド氏ト共ニ「アイスランド」ニ到リ千七百七十八年「ローヤルソサイチー」ノ「プレシデント」ニ擧ゲラレ四十二年間仝會ノ「プレシデント」ヲ致サレマシタ千七百八十一年ニ「バロネット」ノ爵ヲ受ケ千七百九十五年ニ「ナイト、コンマンダー、ヲフ、バッス」ニ任セラレマシタ佛國戰爭中氏ハ大ニ理學者ヲ保護スルヿニ盡力サレマシタ佛國有名ノ大家クービエー氏ノバンクス氏ノ頌詞中佛國蒐集品ニシテ英國ノ爲メニ奪掠セラレタルモノ十回以上ニ及ベリ然レモ皆バンクス氏ノ盡力ニ依リ「パリー」ノ「ジルダンデュロワー」

ニ返送セラルヽコトヲ得タリトアリマス氏ハ「フヒロソフヒカール、トランサクション」其他「マガジン」等ニハ屢々有益ナル投書ヲナサレタルモ自出版セシ著書ハ A Short Account of the Cause Disease in Corn Called the Blight, the Mildew, and the Rust. ナル書ト「メリノーシープ」ノ事ヲ記セシモノヽ二書ノミテアリマス

大久保三郎

○本草字典

本書ハ松村任三氏カ嘗テ植物雜誌上ニ連載セル處英和對譯植物俗名ヲ基礎トシ之ヲ更正增補シ一小册子ニ編緝セルモノニシテ製本既ニ成リ本月中ニ發賣スル由發行ノ上ハ世人ヲ益スル少カラサル可シ予輩ハ指ヲ屈シテ俟ツノミ

○東京植物學會員ノ卒業論文

西田又二氏ハ本年七月農科大學林學科ヲ卒業セラレ左ノ邦語論文ヲ著サレタリ

殼斗科植物肉眼及ヒ顯微鏡的識別考

會員藤井健二郎氏ハ理科大學植物學科ヲ卒業セラレ左ノ論文ヲ著ハサレタリ

Determination of the Nature of the So-called "Chi-chi" of Ginkgo biloba, L. with some other Notes on the same Plant.

(以上二件土屈生報)

S. H. 生

○萬國理學家人名錄

本年米國ボストン府ノ The Cassino & Co. ヨリ出版セル "The Scientists' International Directory" ヲ見ルニ亞細亞ノ部ニハ左ノ邦國幷ニ人員ヲ錄セリ

Indian Empire	英領印度	74.
Japan	大日本帝國	44.
China	支那	11.
Russia (in Asia)	西べリア	6.
Ceylon	セーロン	5.
Turkey (in Asia)	トルコ(亞細亞領)	4.
Corea	朝鮮	1.
Dutch East Indies	和蘭領西印度	1.
Siam	シヤム	1.

左ノ表ニ依レハ日本ハ實ニ印度ニ亞テ理學ノ盛ナルヲ證ス可シ今一々人名ヲ轉載セント欲スルモ不明ノ點アルヲ以テ只東京植物學會員ニシテ其姓名ノ載アルモノヽミヲ列記セハ

石川千代松氏　藤井健二郎氏　五島清太郎氏　堀正太郎氏

田中延二郎氏　飯島魁氏　池田作二郎氏　池野成一郎氏

岩川友太郎氏　神保小虎氏　横山又二郎氏　波江元吉氏

松田定久氏　松村任三氏　宮部金吾氏　岡村金太郎氏

大久保三郎氏　齋田功太郎氏　白井光太郎氏　若林勝邦氏

計 二十名　（abc順）

四十四名中半數ハ東京植物學會員ナリ植物學會ハ本邦理學ノ隆盛ニ與テ功アリト謂フ可シ

○會員醫學博士猪子吉八氏ノ洋行

●猪子吉八君　其春秋を問へは僅に二十七、其閲歷を問へは只だ大學を卒て助敎授たるのみ、官位の以て大に人を眩するものなく西洋學位の以て世を欺くものなく而して醫學博士の榮位を得たるもの君か如き者眞に希れなり、君の博士に任せらるゝや夙に博士濫授の弊を嘆したるものも亦其人を得たるを認め以て博士の眞價を恢復するの機なりと云ふものあり君從來未た曾て西洋に遊ばず專ら心を和漢の毒物研究に致す、今者官君をして獨逸に赴かしめ三年間の官費留學を命せり又た毒物研究の爲めなりと云ふ、（日本新聞抄錄）

●寄送書目

大日本農會報告	自第百三十一號 至第百三十三號	三册	大日本農會	（東京）
北海道水産豫察調査報告		一册	北海道廳	（北海道）
東京人類學會雜誌	自第七十五號 至第七十六號	二册	東京人類學會	（東京）
日本蠶業雜誌	自第四十九號 至第五十一號	三册	日本蠶業雜誌社	（東京）
氣象集誌	自第十一年第四號 至仝上六號	三册	大日本氣象學會	（東京）
日本藥業新誌	自第二百三十二號 至第二百三十五號	三册	衛生社	（東京）
北水協會報告	自第七十二號 至第七十三號	二册	北水協會	（北海道）
大日本山林會報告	自第百十三號 至第百十六號	四册	大日本山林會	（東京）

動物學雜誌	自第四十四號至第四十六號	三冊	動物學會	（東京）
國本	自第十一號至第十二號	二冊	殖產社	（岡山）
牧畜雜誌	自第八十一號至第八十八號	八冊	牧畜雜誌社	（東京）
地學雜誌	自第四十一號至第四十四號	四冊	地學會	（東京）
東京醫學會雜誌	自第六號十號至仝上第十七號	八冊	東京醫學會	（東京）
農事新報	第四十六號	一冊	有隣堂	（東京）
千葉敎育會雜誌	第三號	一冊	千葉敎育會	（千葉）
日本園藝會雜誌	自第三十五號至第三十六號	二冊	日本園藝會	（東京）
釀造雜誌	第九十一號	一冊	釀造雜誌社	（東京）

Gardeners' Chronicle. vol. XI, No 287—288, vol. XII, No. 289—292

The Journal of Botany No. 353—355

Lager-catalog von Joseph Baer & Co. 296 Botanik.

Botanisher Lagercatalog von Oswald Weigel's Antiquarium. ab. II und III.

Geo. E. Stone—A simple self-registering auxanometer.

在獨逸國　三好　學君

●東京植物學會錄事

九月二十四日午後第二時ヨリ本鄉理科大學植物學敎室ニ於テ東京植物學會ヲ開ク來會員十七名左ノ演舌アリ

タリ

一奇形蓮花ノ説　藤井健次郎君

一旅行談

此蓮花ハ金澤ノ某寺ノ池中ニアルモノニシテ其花頭數多ニ分岐シ恰モ數本ノ蓮花ノ結合シタルモノヽ如シ然レモ花ノ形態學上ヨリシテ是ハ單ニ一本ノ蓮花カ分岐シタルモノニ過キスト變態學上(Telatology)ヨリ推論シ且本草圖譜ノ蓮花ノ圖等ヲ引證シテ結論セリ

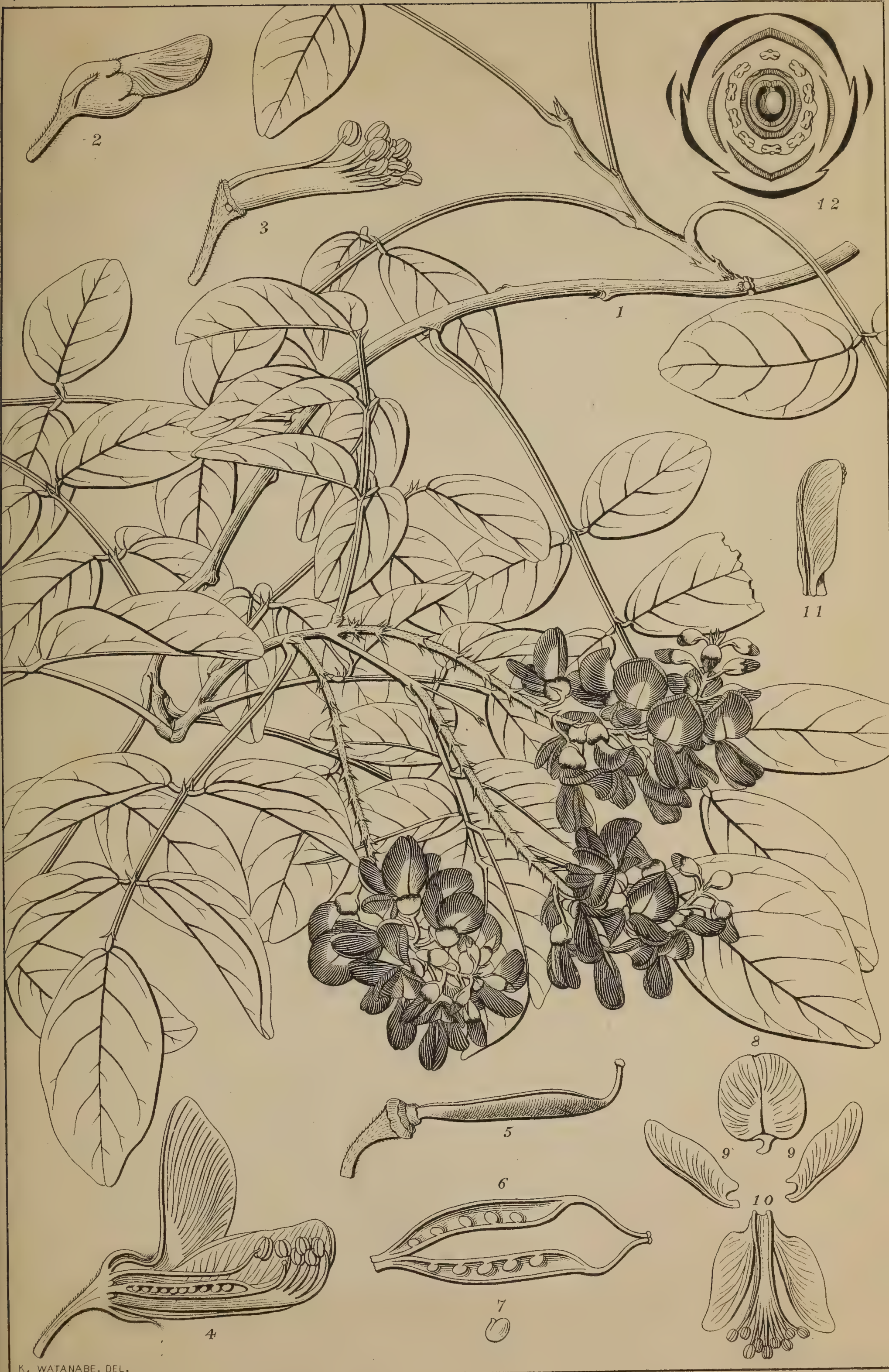
旅行談ニハ種々旅行中ノ實見説ヲ述ベ且ツ氏カ靜岡ニテ採集セルヒムロノ標品ヲ示シ此植物ハ未タ果實ヲ見サリシカ幸ニシテ這般採集シ得タルハ實ニ幸ナリキ何トナレハ此植物ハ植物學者種々ノ學名ヲ與ヘテ一定セス且此植物ハサハラノ栽培變種ナラントノ説ヲシテ益々確乎タラシメタリ云々

一濠洲產バンクシアノ話　堀正太郎君

此植物ノ果實ノ標品ヲ去ル七月中旬濠洲ノ植物大家ミユーレル氏カ態々東京植物學會ニ寄贈セラレタルモノニシテ此植物濠洲ニ特有ノ產他邦ニ之ヲ見サルモノナリ其效用ハ只庭園ノ裝飾樹トナスニ過キス云々

次ニ大久保三郎氏ハ「バンクシア」ナル學名ノ起元幷ニ Banks 氏ノ略傳ヲ演ヘタリ

第十二版 **Plate XII.**


1
2
3
4
5
6
7
8
9
9
10
11
12

K. WATANABE, DEL.

MILLETTIA PURPUREA, YATABE.

MURASAKI-NATSUFUJI. ムラサキナツフヂ

呉服町東京刷版社石印

植物學雜誌第六卷第六十九號　(明治二十五年十一月十日)

THE BOTANICAL MAGAZINE.

[Vol. VI.　November 10, 1892.　No. 69.]

New or Little Known Plants of Japan.

No. 28.

Ryōkichi Yatabe, Sc. D.

Millettia purpurea, nov. sp.

Nom. jap. Murasaki-natsufuji. ムラサキナシツフヂ.

(Order Leguminosæ.)

Plate XII.

An evergreen climbing shrub. Leaves odd-pinnate; stipules setaceous, $1\frac{1}{2}$ lines long. Leaflets 5—7, opposite, petiolulate, subcoriaceous, elliptical or ovate, entire, rounded or cordate at the base, emarginate at the apex, smooth on the upper, slightly hairy and with prominent veins on the under surface, 1—3 inches long, $\frac{1}{2}$ to more than $1\frac{1}{2}$ inches broad; petiolules $1-\frac{1}{2}$ lines long; stipels setaceous, about 1 line long. Racemes paniculate at the apex of branches, densiflorous, minutely pubescent, 2—3 inches long;

bracts subulate, 1 line long. Flowers nodding; pedicels minutely pubescent, 2 lines long; bracteoles in pairs, subulate, closely appressed to the base of the calyx, 1 line long. Calyx obliquely urceolate, more swollen on the upper than on the lower side, depressed, 5-toothed, greenish-white, 2 lines long, 2½ lines broad; teeth purplish, minutely hairy at the margin, the upper pair connate and very short, the lower ones distinct and ovate-deltoid. Petals purple, equal in length, 5 or 6 lines long. Standard with a greenish centre, broadly obovate or suborbicular, spreading at right angles to the rest of the flower, incurved at the upper margin, short-clawed, 5 lines broad; claw cuneate, curved, about 1 line long. Wings free, obiquely oblong or subfalcate, obtuse at the apex, somewhat auriculate at the base on the upper side, about 2 lines broad; claw slender, curved, about 1 line long. Keel incurved, obtuse; its petals falcate, cohering above the middle, claw about 1½ lines long. Vexillary stamen free, the rest connate to ¾ of their length and adherent to the keel at the base; filaments filiform, alternately somewhat longer and shorter; anthers equal, dorsifixed, oval. Ovary sessile, linear, smooth, surrounded at the base by a short annular disk, about 10-ovulate, 5 lines long; style inflexed, smooth, 2 lines long; stigma terminal, capitellate.

This figure was drawn from a specimen cultivated in the Botanic Garden of the Imperial University, where it was introduced from Luchu. It flowers in September in the Garden. It is also known as *Sakkō* among gardeners.

The present species belongs to the subgenus *Eumillettia*, Baker (Hooker's Fl. Brit. Ind., vol. ii., p. 104), the standard not being auricled at the base. Of the several Chinese species of *Millettia* I have not yet seen the description of *M. reticulata*, Benth., in Miquel's *Plantæ Junghuhnianæ* or its specimen; but from Dr. Hance's note under *M. cognata*, Hance, in the Journal of Botany (1880, p. 260), it seems that the leaflets of *M. reticulata* are of a blackish hue when dry, which is not the case with the present plant.

Plate XII. Fig. 1, branch with flowers; 2, flower-bud; 3, young flower with corolla and calyx removed; 4, flower cut vertically; 5 pistil surrounded by an annular disk at the base; 6, vertical section of pistil; 7, ovule; 8, standard; 9, wings; 10, keel-petals and coherent stamens; 11, side view of keel; 12, floral diagram:—*all except* 1 *enlarged.*

奇形蓮花 （第十一版圖） （前號ノ續キ）

藤井健次郎

雄蘂雌蘂幷花床肥大部ノ消滅及ヒ花床分岐ニ於ケル若シ他ニ比類ナカリセハ今其實際ニ泝リテ變態ノ順序ヲタダサヾレバ濫リニ解チ妄想ニ委スルハ其事ニ不忠ナルニ似タレドモ若シ他ノ花ニ於テ既知ノ近似現象アリトセバ之ニ據テ推考スルハ至當ノ事ナルベシ

雄蘂ノ一部或ハ全体ガ花瓣樣ト成ルノ例ハ甚ダ多ケレバ例證ノ要モナカルベシ雌蘂ニ於ケルモ亦其例少ナカ

ラズ今之ヲ蓮花其物ニ徵スルニマスタルス氏ハ既ニ其花ノ雄蘂變態シテ花瓣樣ヲ呈スル植物ノ表中ニ蓮ヲモ擧ゲタリ又本草圖譜ニ天上蓮ノ名ヲ以テ一蓮花（第五圖）ヲ圖シ其解ニ瓣皆小ク圓ク先ニ爪ノ如キ物アリ……中略……實ハ房ノ外ニ出テ並ヘリト云ヘリ且ツ尋常ノ蓮花ハ其瓣數概十六內外ナルニ此圖ニハ五十七瓣ヲ示シ就中十三瓣（第五圖リ）ハ各其末端ニ爪ノ如キモノヲ附セリ其ノ花瓣ノ著シキ增數及ヒ內部花瓣ノ殊更ニ小ナルハ以テ數多ノ雄蘂ノ變態シテ花瓣樣トナレルモノアルコトヲ想像セシメ又此十三個ノ奇形花瓣ノ花瓣樣部ハ其雄蘂ノ蘂絲全ク或ハ一部分ノ變態ニシテ爪ノ如キモノハ葯若シクハ蓮花殊種ノ葯隔ノ未ダ全ク變ゼズシテ其形ヲ存スルモノナルヿヲ見ルベク即チ雄蘂ガ花瓣樣トナル其中間期ニアルモノト知ルベシ

斯クマスタルス氏ノ記載及ヒ本草圖譜ノ圖ト解トヲ以テ推考スルモ雄蘂變態シテ花瓣樣トナレルハ蓮花其物ニ於テモ中間期ヲ呈スルモノダニ之レアリ又蓮花ニ近キ彼ノうゐーたりれーニモ此例甚ダ多シトス且ツ元來蓮花雄蘂ノ數ハ一定セズトイヘ圧四百乃至五百ヲ以テ通例トスルガ如シ然ルニ此奇形蓮花ニ於テハ一モ之ヲ見ルヿナク之レニ反シテ花瓣ノ數ハ一定セザルモ概五六百ヲ以テ最小數トス之レ此數多ノ花瓣ハ多ク漸次ニ雄蘂ノ變態シ來レルモノトナス所以ナリ去レ圧其花瓣ノ數ノ遙カニ尋常蓮花雄蘂ノ數ト尋常花瓣ノ數トノ加ニ超越スルヲ以テ見レバ只ニ變態ヨリ成レルモノヽミナラズ又別ニ增加セシモノ少ナカラザルベク是又變態花ニ往々見ル所ナリ

次ニ雌蘂ガ變態シテ花瓣樣トナルニ於ケル其中間ノ有樣モ屢々他花ニ見ル所ニシテ疑フベクモアラザレ圧元來蓮花ノ雌蘂ニ於テハ一葉成ノ子房夥多ノ圓楔形ヲ爲セル花床ノ小窩ニ陷入シ只其柱頭ヲ外ニ現ハスノミニシテ花床ヲ縱斷シテ始メテ其眞狀ヲ見ルベキナリ（第四圖）故ニ如此雌蘂ガ直チニ花瓣狀ニ變セリト云ヒタラン

ニハ人或ハ其變態ノ樣ヲ想像スルニ當テ奇異ノ感ヲ懷クヿアルベシ去レ𪜈蓮花花床ノ斯ク肥大セルハ其目的一ハ數多ノ子房ニ十分ノ席ヲ與ヘンガ爲メニアリ一ハ外物ヨリ之ヲ保護シテ其能ヲ全フセシムルニアリトセバ雌蘂ガ其子房ヲ爲サズシテ器官トシテハ退化シ前世ノ樣ニ歸着セシトセバ相伴フテ花床モ亦其肥大ヲ現ズル無キモ至當ノ事柄ナルベシ又其變態ノ中間期ヲ論ズレバ蓮花雌蘂花床ノ外ニ出シモノアリ前ニ記セシ如ク木草圖譜天上蓮（第五圖）ノ解ニモ實ハ房（花床）ノ外ニ出テ並ヘリトイヘリ又尋常蓮花雌蘂ノ數多キハ三十二個乃至五十ナレ𪜈天上蓮（第五圖ヌ）ニハ僅カニ九個ニ過ギズ本草圖譜西湖蓮ニハ八個ヲ畫キ（第八圖タ）又其解ニ實房ノ外ニ出デタリトイヘリ同白碧臺蓮ニハ子房ト見ユルモノハ僅カニ四個（第七圖ソ）ニシテ其周圍ニ只十一個ノ放射趺ヲ畫キ花床ト其色ヲ同フセリ其解ニ實ハ房ノ外ニ出テ菊花ニ似タリト云フ又同紅碧臺蓮ニハ一モ正然タル子房ヲ見ズ只細小ナル花床（第六圖チ）ノ末端ニ大小十二個ノ不規則ニ列セル放射趺（第六圖ル）ヲ見ルノミ又同書ニ大和錦トイヘル蓮花ノ圖中ニハ四個ノ雌蘂ヲ示シ同通絲紅蓮ト名ケタル圖中ニハ只三個ヲ圖シ其花床ハ三個ノ雌蘂全趺ヨリモ遙カニ細シ

彼是照參セバ以テ雌蘂ノ數ガ次第ニ滅シ花床ガ漸次ニ縮小セル樣ヲモ想成スルニ足レリ又此子房ガ花床ノ外ニ出デ獨生スルハ此點ニ於テ近族ノ蓴菜族ニ近似セリ如斯子房ニシテ既ニ花床ノ外ニ出デヽ獨生シ不必要ナル花床肥大部縮小ノ傾アルモノ等アリトセバ之等ヨリ淘汰シ雌蘂モ花床モ共ニ相伴フテ退化シ遂ニ全ク變態セルモノヲ現出センヿ難ニアラザルベシ去レ𪜈此ニ注意スベキハ此蓮花ハ必ズシモ是等ノ有樣ヲ經過シ來レルモノトナスベカラサルナリ

次ニ考究スベキハ彼ノ分岐セル花床ハ尋常ノ蓮花ノ如何ナル部ヨリ何ノ故ニカ變ジ來リシニアリ（未完）

莊內植物一班

龍膽科　ツルリンダウ　ミヤマリンダウ　リンダウ　イハイテフ　フデリンダウ　ハルリンダウ
紫草科　ミヅタビラコ
旋花科　ネナシカツラ
玄參科　ルリトラノヲ　ミゾホヽヅキ　キバナノシホガマキク　オホバミゾホヽヅキ　ヨツバノシホガマギク　ヒキヨモギ　ハンクワイシホガマ　シソバウリクサ
唇形科　ナミキサウ　トウバヤ　カメバサウ　イヌゴマ　ジヤコウサウ　クルマバナ　コトヂサウ　ミゾコウジユ　ヤマジソ　ヒメナミキ　ヒキオコシ　ミヤマウツボ（白紫色花兩品）
車前科　エゾオホバコ
蓼科　イタドリ　ウナギツカミ　タニソバ　イヌタデ
胡椒科　ドクダミ
蕁麻科　カラハナサウ　アカソ
蘭科　クモキリサウ　ヒトハラン　ミヅトンボ
石蒜科　キツネノカミソリ
百合科　バイケイサウ　キスゲ　マヒヅルサウ　イハシヨウブ　ホトヽギス
燈心草科　カウガヒゼキシヤウ　ヌカボシサウ　ヒメカウガヒセキシヨウ　マツバ井
莎草科　ヤマ井　カワヅスゲ　テンツキ　ミノボロスゲ　アゼテンツキ　ヒメカンスゲ　コアゼテンツキ　コヽメカヤツリ

禾本科	ノテンツキ	アヲスゲ	ヒデリコ	
	トダシバ	ヒメノガリヤス	エノコログサ	キンエノコロ
	チヾミザサ	トボシガラ	ヌカボ	コヌカグサ
	ナガハグサ	イヌアワ	ハイヌメリ	チゴザサ
	ウシノシツペ	アシボソ	ヌカキビ	ニハホコリ
	キツネガヤ			
石松科	トウゲシバ	スギラン	ヒカゲノカツラ	ミヤマヒカゲノカツラ
	タチクラマゴケ			
羊齒科	ハナワラビ	カウヤワラビ	イヌワラビ	ワウレンシダ
	クジヤクシダ	トラノヲシダ	シケシダ	イノデ
	リヤウメンシダ	シユモクシダ	ベニシダ	メシダ
	ヤハラシダ			

巴旦杏ト壽星桃

矢田部良吉

十數年前余ガ植物通解トイフ一書ヲ譯述スルニ當リ、あるもんどナル語ノ譯字ヲ穿鑿シタルヿアリ。之ヲ從前用ヒ來レルあめんどうトセンカ、此語ハ既ニ花戸等ニテ壽星桃ニ用フルヿトナリタレバ、疑似ノ嫌ナキニ非ズ。巴旦杏ナル語ヲ用ヒンカ、花戸既ニ此語ヲとがりすもゝニ用ヒタレバ、是亦紛ハシキヲ免レズ。故ニ扁桃ナル語ヲ用ヒタルコトアリ。然ルニ輓近あるもんどハ壽星桃ナリトスル人ナキニ非レバ、少シク陳腐ニ屬スレドモ聊カ此ニ辨ゼント欲ス。但シあめんどう（蘭語ノ Amandel ノ轉訛ト云フ）及ビ巴旦杏ナル語ハ元來あるもんどノ稱ニシテ、後世花戸之ヲ誤用シテ桃李ノ變形ニ用ヒタルニ過ギズ。故ニ余ハ此ニ此等ノ語ヲ正當ノ意義ニテ用フベシ。

偖壽星桃ハ桃ノ矮小ニシテ花多キ變形ナレバ、此ニ先ツ巴旦杏ト桃トノ差違ヲ明ニスベシ。Hooker 氏印度

植物誌(第二册三百十三頁)中ニ Baker 氏記シテ曰ク。

Prunus Amygdalus, Baill. (あめんどう) 葉ハ花ニ後レテ發シ、長橢圓状披針形、細鋸齒アリ。葉柄ハ腺アリ長サ葉ノ幅ニ等ク又ハ之ヲ超過ス。托葉ハ縁邊細裂ス。花ハ有梗。萼ハ鐘形。果皮ハ二瓣片ヲナス。

Prunus persica, Benth. et Hook. f. (もゝ) 葉ハ花ニ後レ又ハ花ト同時ニ發シ、長橢圓状披針形、鋸齒アリ。葉柄ハ腺アリ又ハナシ、長サ葉ノ幅ニ及バズ。托葉ハ縁邊細裂ス。花ハ無柄。萼ハ鐘形。果皮ハ全面。

斯ク桃ト巴旦杏トノ差異ハ、葉ノ形狀、花梗ノ有無、果實ノ性質等ナレドモ、果實ノ性質ヲ以テ最大差違トス、桃ノ果皮ハ肉質ニシテ食スベク、巴旦杏ノ果皮ハ成熟スレバ乾燥シテ少シク纖緯質トナリ、食スペカラズ。桃ノ核ハ甚堅硬ナレドモ、巴旦杏ノ核ハ桃ノ如ク堅硬ナラズ。其軟殼ナルモノニ至リテハ甚脆弱ニシテ、指ニテ容易ニ破毀スルヲ得ベシ。巴旦杏ノ食用ニ供スル部ハ核內ノ仁ニシテ、所謂苦巴旦杏ニテハ仁苦味ニシテ食フ可カラズト雖モ、甘巴旦杏ニテハ美味ナリ。又桃ト巴旦杏トハ其本產地ヲ異ニセリ。De Candolle 氏ノ說ニ據レバ (Origin of Cultivated Plants 二百十九頁二百二十一頁)、巴旦杏ハ地中海地方及ビ亞細亞ノ西部ニ自生シ、桃ハ支那ニ自生ス。Maximowicz 氏ノ所謂 Prunus persica, var. Davidiana ハ支那ニ自生シ且栽培スト云フ (Mélanges Biologiques 第十一册六百六十七頁)。

巴旦杏ト桃トノ差違ハ本邦本草家モ夙ニ識認シタル所ニシテ、巴旦杏ハ從前本邦ニ栽植シタルヿナキガ如シ。但シ輓近諸種ノ植物歐米ヨリ舶載シ來ルヿ頻繁ニシテ、殊ニ巴旦杏ハ米國加里福尼亞州ニ於テモ盛ニ栽植スレバ、本邦ヘ輸入シ栽植スルヿナキニ非ルベケレドモ、未ダ廣ク行ハレザルヿ疑ナシ。然ルニ桃ハ古來本邦ニ栽培シ、本草家ハ其形質ヲ知悉シタルハ勿論ナレバ、桃ノ一變形ナル壽星桃ト巴旦杏トノ形質ニ付キ本邦

昔時ノ本草家ハ如何ナル說アリシヤヲ研究セバ、必ズ得ル所アルベシ。

本草綱目啓蒙（卷ノ二十五第二葉）巴旦杏ノ條ニ外國語ヨリ轉訛シタルあめんどうすナル名稱ヲ載セ、杏榛、八丹杏、八達杏仁ナル異名ヲ記セリ。此條ニ曰ク。「和產ナシ。紅毛人持來ル杏核ナリ。ソノ仁ヲ採藥トシ果トス。……又別ニあめんどうト云アリ。小木ニシテ花實ヲ多ク生ズ。壽星桃ナリ。巴旦杏ノ類ニアラズ。」又花家ニ漢種ノ巴旦杏トヨブモノアリ。李類ニシテ眞ニアラズ。」又同書（卷ノ二十五第八葉）桃ノ條ニ曰ク。「からもゝアリ、一名江戶もゝ、あめんどう、西王母（同名アリ）。小木ニシテ、高サ五寸或ハ一尺許ナルモ花實アリ。大ナルハ三四尺ノ高サニ至ル。花多ク簇リ生ジ、千葉、單葉、紅色、白色、オヨビ二色アリ。葉ノ形細長クシテ多ク繁ル。コレ壽星桃（汝南圃史）ナリ。一名道州桃（同上）、矮桃（秘傳花鏡）、人面桃（八閩通誌）」。右記スル所ヲ以テミレバ。小野蘭山氏ハ巴旦杏ト壽星桃トヲ別物トシ、且ツ壽星桃ヲ桃ノ條下ニ置キ、桃ノ一種ト認メタルヿ明ナリ。又花家ニテ一種ノ李類ヲヨビテ巴旦杏ト稱スルヿヲモ認メタリ。是レとがりすもゝノ事ナルベシ。とがりすもゝハ巴旦杏ノ稱アレドモ李ノ一種ナルヿハ草木圖說後篇木ノ部（第四冊百三十九葉）ニモ見エタリ。

本草圖譜、巴旦杏ノ條（第六十一卷七、八、九葉）ニ其圖ヲ揭ゲ、匾桃、波淡樹ノ異名ヲモ記セリ。又同書、あめんどうノ條（第六十二卷、十二、十三葉）ニ其圖ヲ揭ゲ、孩兒桃、矮桃、道州桃、壽星桃ナル漢名ヲ記セリ。而シテ、「葉長クシテ繁密ナリ。西洋ノあまんどるノ形ノ如ク」。又「實尖リテ舶來ノ巴旦杏ニ似タリ」。ト記セリ。

岩崎常正氏モ亦巴旦杏ト壽星桃トヲ同一トセザリシヿ明ナリ。

花彙、壽星桃ノ條（木ノ部卷ノ二第十六葉）ニ其圖ヲ揭ゲ。せいわうぼ、からもゝ、あめんどうナル邦名ヲ記シ。

「樹矮短ナリ。一尺以來乃チ能ク花サキ實ノル」。「初秋實熟スルヿ毛桃ノ如シ。食ニ供スベシ」。ト記セリ。雍南氏モ亦壽星桃ノ果實ハ毛桃ト同樣トセシヿ知ルベシ。

右ニ記スル所ヲ以テミレバ、壽星桃ナルモノハ巴旦杏ニ非ズシテ桃ノ一變形ナルヿハ古人既ニ詳知シタルニモ拘ラズ。此二物ヲ混同スル人アルハ何ニ由ルカト云ヿニ。亦原因ナキニアラサルガ如シ。即チ壽星桃ニおめんどうノ稱アルガ故ナランカ Maximowicz 氏ハ東亞細亞 Prunus 屬編（Mélanges Biologiques 第十一册第六百七十頁）ニ於テ花彙ニ圖スル所ノモノヲ以テ巴旦杏トシタリ。是レ他人ヲシテ誤謬ニ陷ラシメタル原因ナランカ。以上論ズル所余ノ謬見ニ出デタルヤモ知ル可ラズ。讀者諸君別ニ所見アラバ垂教ヲ吝マザランヿヲ乞フ。

日本藥局方植物篇（前號ノ續キ）

會員　澤田駒次郎

醫治効用　苦扁桃ハ鎭靜ノ一藥ニシテ其効驗藏化水素ニ同シ故ニ之レト同一ノ場合ニ應用ス然レドモ苦扁桃中ニ含有スル藏化水素ノ量常ニ均等ナラザルニ因リ一定量ヲ用フルモ其効驗確實ナラス又大量ニ用フレバ往々中毒症ヲ發シ終ニ斃死スルコト有リ其症狀略ボ藏化水素中毒ニ均シ加之小量ヲ用フルモ惡心嘔吐瀉下疿疹ヲ發スル者アリ故ニ現今ハ專ラ藏化水素或ハ苦扁桃水ヲ用ヒ本藥ヲ用フル者少レナリ〇苦扁桃中ニ含有スル白色乳樣ノ液ハ禿瘡等皮膚病ニ洗藥トシ又其粉末ハ石灰ニ混和シテ防臭藥トス

本品ハ主モニ扁桃油ヲ製造スルノ原料トス但シ甘扁桃ヨリ製造シタル脂肪油ト苦扁桃ヨリ製造シタルモノト其性質ニ差異アルコトナシ

第四　苦扁桃油　Oleum Amygclalae amarae.

苦扁桃油ハ苦扁桃ノ種子ヨリ製シタル揮發油ニシテ合衆國藥局方ニハ藥用トス

性狀　苦扁桃油ハ苦扁桃中ニ存在セズ「エムルシン」及ビ水ノ作用ニ因リ「アミグダリン」ノ分解シテ生スルモノニシテ苦扁桃ヲ冷壓シテ脂肪油（扁桃油）ヲ製造シ其殘滓ニ水ヲ加ヘ蒸餾シテ得タルモノナリ Umney 氏ノ試驗成蹟ニ據レバ揮發油ノ含量一定ナラズ或ル時ハ〇、九二「ペルセント」ヲ得ルト雖𪜈或時ハ〇、四二「ペルセント」ニ減少スト

本品ハ藏化水素安息香「ベンヅアミツド」等種々ノ物質ヲ混淆ス故ニ之ヲ粗製苦扁桃油ト云フ合衆國藥局方ニテ藥用トスルモノハ此粗製苦扁桃油ナリト云フ

本品ハ澄明黃金色ノ揮發油ニシテ其異重ハ一、〇五二乃至一、〇八二トス然レドモ Umney 氏ハ其異重ヲ一、〇六一乃至一、〇六五トセリ

本品ハ藏化水素ヲ含有スルコト八「ペルセント」ヨリ十四「ペルセント」ニ至ル往時ハ粗製苦扁桃油ヨリ藏化水素ヲ製造シ其藏化水素ヲ含有セザルモノヲ純製苦扁桃油ト云フ Umney 氏ノ說ニ據レバ純製苦扁桃油ノ異重ハ一、〇四九トス又化學家ハ種々ノ方法ヲ以テ藏化水素ヲ除去シ純製苦扁桃油ヲ製スト雖𪜈鹽化加爾叟謨ヲ以テ水分ヲ吸收セシムルニアラザレバ直チニ酸化スト

本品ハ其性極メテ有毒ナリ

醫治効用　粗製苦扁桃油ハ藏化水素ト同一ノ目的ヲ以テ應用ス然レ𪜈藏化水素ノ含量一定セザルニ因リ現今之ヲ用フル者少レナリ合衆國ニテハ猶ホ內服及ビ外敷スト

第五　苦扁桃水　Aqua Amygdalae amarae.

苦桃扁水ハ苦扁桃ヲ水ト共ニ蒸餾シテ製造シタルモノナリ改正日本藥局方ニ云苦扁桃水、老利兒結兒斯水竝「バクチ」樹（Prunus macrophylla, Sieb. et Zucc.）ノ葉ヨリ製出セル餾水ニシテ其香氣竝藏化水素ノ含量本條ニ揭クル所ニ適合スルモノハ本品ニ代用スルコトヲ得」トアリ

苦扁桃水ニ特異ノ臭氣ヲ附與スル物質ハ藏化水素及ビ「ベンツアルデヒート」ニシテ此等ノ物質ハ苦扁桃中ニ存在スルニアラズシテ「アミグダリン」ト稱スル一種ノ配糖質ノ分解ニ因リ生ズルモノトス

性狀　製藥化學ニ云苦扁桃水ハ無色澄明或ハ微ニ溷濁ヲ有スル液ニシテ少シク酸性ノ反應ヲ呈シ桃葉ニ類スル爽快ノ香氣ヲ有ス多服スレバ中毒症ヲ發ス通例苦扁桃水中ニ於ケル藏化水素ノ一部分ハ「ベンツアルデヒード」ト化合シ（$C_6H_5CoH+HCN$）ナル重複化合体トナリテ存在スルモノナリ故ニ苦扁桃水ハ之ニ亞爾加里、酸化麻倔涅叟謨等ヲ加ヘテ其重複化合体ヲ分解セシムルノ後ニアラザレバ硝酸銀ニ逢フモ充分ニ藏化銀（$AgCN$）ヲ沈澱セズ

苦扁桃水ハ永ク之ヲ貯有スルノ際殊ニ其器ヲ充塡セスシテ貯フルトキハ多少分解シテ蟻酸安母紐謨、安息香酸「ベンツォイン」（$C_6H_5-COH)_2$等ナル然レ𪜈苦扁桃水ハ之ヲ硝子瓶中ニ充滿シ密栓シ冷處ニ貯フルトキハ三年ノ久シキヲ經ルモ變質セザルモノトス

撿查法　凡ソ良好ノ苦扁桃水ハ無色或ハ只微ニ溷濁ヲ有スル液ニシテ桃葉ニ類スル香氣ヲ有シ焦臭ヲ帶ブ可ラス而シテ之ニ硝酸銀ヲ加フルモ毫モ溷濁ヲ呈スルコトナク或ハ之レアルモ僅微ノ度ニ止マルヲ要ス已ニ變質シタル苦扁桃水或ハ水、藏化水素及ヒ苦扁桃油ヲ調和シテ擬造セルモノ又ハ鹽酸ヲ含有スルモノハ之ニ硝酸銀ヲ加フルトキハ著シク溷濁ヲ徵スベシ」云々トアリ

醫治效用　杏仁水ニ同シ

三十四　アンズ　杏

羅甸名　Prunus armeniaca, Linn.

薔薇科

落葉樹ニシテ高サ丈餘葉ハ類球形若クハ卵圓形ニシテ先頂尖リ邊緣細鋸齒ヲ具有シ裏面ハ其色稀薄ニシテ脉絡隆起シ葉柄ニハ大約六個ノ腺點ヲ有シ互生ス春時葉ニ先チテ花ヲ開ク形チ梅花ニ似テ稍々肥大ナリ蕚五片其色綠褐下部鱗片樣ノ苞葉アツテ屋瓦狀ニ並列ス花瓣五片倒卵圓形ニシテ淺紅色ヲ呈ス雄蘂許多蕚ノ上端ヨリ生ジ花絲糸狀ニシテ其葯細小花時分粉シテ花粉ヲ吐出ス雌蘂一個蕚ノ基底ヨリ生ジ實礎ハ單房ニシテ卵子ヲ有シ花柱々狀ニシテ柱頭微カニ膨脹シ花後石果ヲ結ブ形チ梅實ニ似タリ其稔熟スルトキハ淡橙黃色ニシテ紅色ヲ帶ブ間層即チ肉部ハ柔軟ニシテ石核ハ硬堅種子一個其膜赤褐色ヲ呈シ皺紋ヲ有シ形チ甘扁桃ノ種子ニ似テ細小子葉ハ肥大ニシテ殆ンド全ク胚乳ヲ有セズ

本植物ハ其果實甜酸美味ナルニ因リ現今諸國ニ於テ栽植スト雖モ之レヲ移植セシ年月等詳カナラズ又本邦ニ自生アルヲ聞カズ往時杏ノ字ヲ「カラモヽ」ト訓スルヨリ考フレバ恐ラクハ漢土ヨリ移植シ且ツ之ヲ貴重セシナラン伊勢國風土記曰安濃郡出云云杏柳栗内田鄉出梅杏柳栗等日向國風土記曰諸縣郡出杏大和國風土記曰平群郡貢杏加賀國風土記曰加賀郡小濱鄉貢杏橘駿河國風土記曰益頭郡貢梅桃櫻杏朝夷田貢松梅香栗トアルモ其一證ナラン

藥品　杏仁　Semen Pruni armeniacæ.

杏仁ハ本植物ノ種子ニシテ從來漢方醫家ハ之ヲ藥用トス改正日本藥局方ニハ本品ヲ以テ杏仁水ヲ製スルノ原料トス

性狀　杏仁ハ心臟形ニシテ稍々扁平長サ十五「ミリメートル」廣サ十二「ミリメートル」ニ至リ其基礎部均等ナラス赤褐色ヲ呈シ皺紋ヲ有シ褐色ノ粉末ヲ帶ブ此皺紋ハ脉管束ニシテ褐粉ハ表皮ヨリ生ズ此種子ヲ取リ暫時水中ニ浸セハ子皮ハ容易ク剝脫シ得ベシ而シテ子皮ハ內外ノ二膜ヨリ成リ內膜ハ無色若クハ類白色ニシテ二種ノ層ヨリ成リ外膜ハ褐色ニシテ三種ノ層ヨリ成ル子葉ハ肥大ニシテ根芽ハ先端ニ在リテ下端ヨリ莖芽ヲ生シ殆ント全ク胚乳ヲ有セス概言スレバ其性狀苦扁桃ニ均シ

成分　杏仁ハ苦扁桃油、藏化水素ヲ生スルコト苦扁桃ニ異ナルコト無シ醫科大學藥學部ニ於テ藥學士古屋恒次郎氏ノ實驗ニ據レハ杏仁ハ平均百分中「アミグダリン」三、六ヲ含有スト

（以下次號）

房州の海藻に就て

岡村金太郎

今年八月一日より三日間海藻採集の爲め房州に旅行せり斯く僅々兩三日の日數を以て旅行を企てたる所以は余嘗て房州の地を踏みたることなきを以て一度機を得て採集に赴かんと思ひ居しかども未だ嘗て好機を得ざりしが此度職を金澤第四高等中學校に奉じ八月中には是非共赴任すべかりしかば今年若し赴かざれば又暫くは行く能はさるべしと思ひ居る處に會々水產傳習所生徒數十名實地演習の爲め房州布良根本より天津地方へ旅行するものあるを以て共に俱に行くことを約し即ち一日館山に航し布良に一泊し翌二日布良より根本迄の間を採集し知人の潜水器を以て採鮑の業を營むものあるに據り之に依賴して數種を得翌三日根本より直に歸京し

たり左に掲ぐる數種は即ち倉卒一日の間に採集したるものなれば尤よく多かるべき筈なけれども幸に一二の珍種あり依て左に錄して他日研究の資となす

紅藻類

Griffithsia corallina Lightf.? 此種は十五尋の深處に生じたる Cladophora Wrightii Harv. の技に附着したるものにして甚だ矮少なり曩に余が相州三崎にて採集したるものと同種にして三崎にて得たるものは充分に實を結び居たれども此標品は甚だ幼少なり尤も三崎のものも僅に一「セ、メ」程の大さなりき其形狀の小なる故にや細胞の形狀充分に成長したる此種の標品と稍異なる所あるが如きを以て暫く疑を存す此種を得たるは今回を以て二回となす

Microcoelia chiloensis J. Ag. 此種は余嘗て明治二十三年八月中志州菅島に於て採集したることありしが當時之が學名を知るに由なく其儘に爲し置きし處先頃余が通信先なる伊太利國パドュア府大學植物園管理デ、トニー氏より之と近緣なる Polycoelia fastigiata Harv. を送り越せしを以て其が造搆を研究したるより不圖此種の學名を知ることを得今回又之を房州に獲たり因て考ふるに尙ほ駿遠相豆等にも產するや疑なし此種の書に記載あるものは Chili の產のみにして他所に產するを記せず蓋し此種の我那に產するは暖流の齎す所なるや知るべからず管島のものも此回のものも倶に囊果を熟するを以て見れば夏期實を結ぶものゝ如し

Gigartina tenella Harv. すぎのり　囊果を熟せり

Chondrus punctatus Sur. ツノマタ（房洲方言ろこまた）ツノマタの學名に就きては余嘗て之を確定するに苦しみしが從來研究する所に因て漸く此種なるを知れり此種は海水の深淺及び淡鹹兩水混和の度の如何に依て大に

其形狀色澤等を異にするものにして高潮線の岩上の怒濤の衝く所にあるものは綠色狹小にして表面反卷し溝狀をなし分岐多からされとも一二尋の所にあるものは巾廣く大にして稍暗紫色を帶び反卷彼の如く甚しからず分岐稍多し其高潮線の岩上にあるものは所により小タンバの方言あり又ツノマタの幼少なるものとなし或は之を以てツノマタとなせども其充分に熟したる囊果あるを以て幼者にあらざるを明かなり只位地の爲に形狀の異なれるのみ故に余は爾來ツノマタに附するに此學名を以てせんとす因に記す此二者の同一種にして只位置の爲に形狀の異なれることに就ては余曩に田中芳男氏に質したるに氏も余の說と同じかりき

Gymonogongrus pinnulatus Harv.　ヒラサイミ（新稱）大日本水產會出版重要水產動植物圖には此種に附するにツノマタの名を以てしたれども其ツノマタに非ざることは之が構造を以て明なり同圖にツノマタの名を附したるは如何なる性質に依り何等の點よりしたるものか詳ならす

Calophyllis sp. nov.?　此種の房相邊より志州邊に產することは余の採集に據り確實なれども尙は以南にも產するならん此種は余の考にては新種なるべしと思へども念の爲め先頃右トニー氏の元へ問合せ置きたれば氏の報道次第誌上に報ぜんとす

トサカノリ　此種の學名は余未だ之を詳らかにせず其構造を以てすれば Kalymenia に屬すべく其囊果の性質よりすれば然からずして殆と屬名を知るに苦しめり前記水產魚介圖には Kalymenia dentata の名を附したれども果して信なるか

Gracilaria Textori Sur.　カンバノリ又カバノリ房相地方より九州に至る迄產し又隱岐邊にも產す分布稍廣

く暖流のある所に產するものゝ如し余の採集したるものは充分に實を熟せり

Hypnea musciformis Lmx.　エゴモドキ（新稱）各地暖流のある所に產す枝端鈎狀をなし頗るエゴに類するを以て此新名を附せり

Laurencia paniculata Kütnz.　房相邊殊に多く暖地に產す伊豆諸島九州邊にもあり

Delisea pulchra Mont.　此種の房州に產するは余の友人等房州に遊ぶ毎に之を採集して余に送りたるを以現にて之あるを知れり余も亦始めて之を志州菅島に採集したるヿあるを以て別に奇とするに足らず此種は元とオーストラリアの產にして暖流の爲に我暖地に產するものゝ如し今回標品は十五尋の深所より獲たる鮑の殼上に附着したるものなれば其產所の深淺を知るを得たり結實期は八月中なり

Martensia Australis Harv.　此種の我產に產するを知りたるは明治二十年伊豆七島巡廻の時理科大學助敎授大久保三郎氏が大島にて採集したるを以て始めとす其標品は甚だ美麗にして今尙ほ我が大學に藏す此以前余も亦相州三崎にてホンダワラに附着したるものを採集したるヿありしが當時其何物たるを知らず其儘に打過ぎし處大久保氏の此種を得るに至て之と同種なるヿを知れり此種は元來オーストラリアの產にして吾邦に於ける他所の產未だ充分に詳ならざりしゆへ余の三崎にて採集したるものも或は大島邊のものが波の爲に流されたるものには非さるかと思ひ居し所其後水產傳習所の某氏が房州より採集し來りし海藻の內にホンダワラの枝に附着發生したる此種の小さき標品を得茲に漸く此種の房相邊にも產するヿを確めしに此夏三木貞守氏が三崎に旅行中城ケ島邊にて採集したる標品をアルコホールに漬けて寄贈せられ余も亦此回之を房州に得たり茲に於て漸く其大島の外專ら房相邊に產するヿを確信するを得たり尙ほ仔細に採集せ

ば或は駿豆等他の暖海にも產するか知るべからず此種の房相邊に產するは蓋し暖流の齎す所なればなり此種の形狀は大久保氏が伊豆諸島巡廻記中に鮮明なる圖あれば充分なれども之が構造は其內之を研究して紙上に報ずべし

褐藻類

Dictyota Kunthii Ag.　實群(ソーラス)を熟せり

Halyseris sp. nov.?　此種は多く房州に產し余も去る廿三年八月中出雲にて之を採集し昨年又遠州御前岬にて採集したることあり故に其間の沿岸並に尙は以西にも產するなるべし此種は余の考にては全く新種ならんと思はるれども尙ほ不確なるを以て伊國トニー氏の許に問合せ中なり若し果して新種なりとの報あらば余は此に Prolifera の名を附し更に其形狀を紙上に報ずべし

Halyseris sp. nov.?　形狀甚だ細くして巾一乃至二ミ、メ許未だ嘗て此の如き種を得たることなし然し實群なきを以て其全く成長したるものか否やを詳にせず故に暫く疑を存し他日研究の資に充つ

Ecklonia cava Kjellm.　かぢめ

綠藻類

Cladophora Wrightii Harv.　十五尋の處なる鮑の殼上より得たり

Caulerpa brachypus Harv.　此種は數年前既にライト氏が吾が日本にて之を採集しハーベー氏が之の學名を附したるものにして揭けて Harvey's New Algae from Japan にあり然れども余未だ此種を得たることなく地方通信者も未だ之を余に送りたることなかりしに此回計らず房州にて數多之を集採し其新鮮なるものに

就て此が構造を知るを得大に滿足せり此回の採集中之を以て第一の獲物とす

Codium tomentosum Stack. みる

C. latum Sur. ひらみる 房州より伊豆諸島遠州等にも產す余が今回獲たるものは三尺余ありたり

C. adherens Ag. はひみる 東海道沿岸小笠原島琉球等に產す

◎雜錄

植物學ノ進化（前號ノ續キ）

マ、サ、抄譯

植物學ノ諸分科即形態學解剖學及生理學ノ研究ハ次第ニ進歩シ進化ノ說、諸般ノ機器ノ成長及其模式ノ形狀ヨリ變化スル事、植物細肥成分ノ分子的造構、外圍ノ植物ニ及ボス影響、子房受胎ノ精細ナル研究化學ヲ應用シテ植物ノ藥用成分ヲ撿出分離スル事、遺傳及漸化ノ法則、某類ノ植物ニ就テハ一定ノ區域アル事及其原因、植物產地ト成分構造遺傳トノ關係、昆虫ト植物ノ形狀色彩トノ關係、現今ノ植物ノ移動ト地質學上ノ分布トノ比較等諸般ノ問題ハ目今研究セラルヽ所タリ隱花植物殊ニ菌蕈類ノ研究ハ大ニ進歩シ且植物ノ顯微鏡的ノ研究ハバクテリア學ヲ併セテ亦大ニ發達セリ植物ノ病理殊ニ有用植物ニ關スル病理ノ學及療治ノ術モ一般ニ注意セラルヽニ至レリ

是レ迄論述スル所ニ據リ吾人ハ左ノ諸件ヲ詳悉スルヲ得タルナリ即植物學ハ殆ト人類ノ認識力ト其紀元ヲ同フシ諸般ノ變更ヲ經テ現今ノ隆盛ニ達セル事、植物學ハ昔時ニアリテハ醫術ノ發育ニ從屬セシト雖後世ニ至リテハ醫學ノ發育ハ大ニ植物學ノ發育ニ從屬セル事植物記載學ハ其起ルヿ最モ早ク吾人ガ知リタル植物ノ數

ノ増加スルニ隨ヒ分類ノ必用起リ漸次種々ノ變改ヲ經テ現今ノ分類學ノ顯ハレタル事、顯微鏡ノ發見ハ植物學ニ利スルヿ多ク解剖學ハ之ニ因テ起リ解剖上ニ得タル知識ハ更ニ生理學ノ發達ヲ助ケタル事各國ニ人ヲ派遣シテ植物ヲ探検セシメ又大市街ニハ植物園ノ創設アリタルハ何レモ斯學ニ利スルヿ少ナカラズ又隱花植物學殭石植物學植物病理學等相幷ンデ起リ植物學ノ各分科今日ノ盛大ニ達セル事等ヲ詳悉セリ

是ニ因テ觀ルトキハ植物學ノ歴史ハ進化ノ法則ノ一例ヲ示スモノニシテ萬物進化ノ始メニアリテハ皆固定スル所ナクシテ連絡ヲ欠クトノ通理ハ古昔ニ於ケル植物學上ノ著述ノ錯雜ニシテ統一スル所ナキニ因テ之ヲ證スルヲ得ベシ實ニ Jussieu 氏ノ前ニアリテハ斯學ノ根柢ハ幾多ノ統一スル所ナキ事實ヨリ成立シタルモノニシテ恰モ植物ノ根ガ暗處ニ伏在スルガ如ク顯著トナルヿヲ得ザリシナリ氏ノ以後此根柢ヨリ莖幹生ジ枝葉發シ以テ植物學ハ有機的ニ連給セル一樹ノ觀ヲ呈スルニ至レリ

人爲分類法倒レテ自然分類法ノ起レルハ適者生存ノ通理ニ適合スルモノニシテ植物學ノ科學タル地位ニ進ミタルハ自然分類法ノ發達ニ因ルト稱スルモ可ナラン是其法タル各種植物ヲ其祖先ヨリ進化シ來リタル順序ニ適合スル如ク排列セント勉ムルモノニシテ其結果タル千種萬態ノ植物ヲシテ有機的ニ結合セル一大團体タラシムルモノナリ植物ニ關スル知識ノ増加スルニ隨ヒ之ヲ研究スル者ノ間ニ分業ノ法行ハルヽニ至レリ是亦萬物ガ單純ヨリ複雜ニ進ムト稱道スル通理ニ適合スルモノト謂フベシ

本編ヲ終ルニ臨ンデ植物學ガ吾人ニ必要ナル所以ヲ一言スベシ吾人ノ食物ノ大部吾人ノ被服其他安逸ニ供スル材料ハ農業的植物學ノ知識ニ基カザルハナク吾人ノ疾苦ヲ除去スル資料モ藥用植物學ノ知識ニ基カザルハナシ且植物學ハ吾人ノ生存安逸ニ必須ナルノミナラズ兼テ吾人ノ心性ヲ高尙優美ナラシムルニ於テモ預リテ

カアリト謂フベシ自然ノ美妙ヲ愛スル者ヲ滿足セシムルノ點ニ於テハ何レノ學モ斯學ニ一著ヲ輸サザルハナカルベシ請フ Alphonso Wood 氏ノ語ヲ借リテ之ヲ證シ併セテ讀者諸君ニ別ヲ告ゲン

氏ノ言ニ如何ナル學モ進歩ト快樂トヲ結合スルノ効能ハ植物學ニ及バザルベシ此學ハ之ヲ學ブ者ヲ誘ヒテ原野ノ間ニ逍遙セシメ春花ノ娟美秋草ノ幽艶總テ自然ノ貯蓄セル美妙ノ無盡藏ハ之ヲ探ラシメザルヿナク且其學者ヲシテ自ラ樂ンデ其心身ヲ活動セシムルノ益アリ而シテ其研究ノ材料タル單ニ眼目ヲ娛マシムルニ適スルノミナラズ併セテ趣味ヲ高雅ニシ心情ヲ優美ナラシムルニ適セルモノナリ　（完）

○茅慈菇

茅慈菇（Mow — Tsze — Koo）ハ蘭科植物ノ擬球根ニシテ多少卵圓形ヲ爲シ皺縮ヲ有シ透明角質ニシテ其長サ半「インチ」ヨリ一「インチ」半ノ差異アリ

○光菇

光菇（Kwung—Koo）ハ細小ナル球莖ニシテ形ヲ鬱金香ノ球莖ニ似テ長サ大約一「インチ」ノ十分ノ六平滑ニシテ淺黃色ヲ呈シ之ヲ剉截スレバ球莖ヲ被包スル菲薄ナル外膜ハ剝脫シ外部ノ鱗片ハ甚ダ厚重ノ觀ヲ呈ス

○川芎

川芎（Chuen — Keung）ハ繖形科ニ屬スル植物Angelica種類ノ根莖ニ似タル根塊ニシテ結節ヲ有シ其直徑一「インチ」ト四分ノ一ヨリ二「インチ」半ニ至リ表面均等ナラズ粗糙ニシテ褐色ヲ呈シ内面暗黃褐色ヲ呈シ多孔性ナリ本生藥ノ香氣ハ當歸根ニ似タリ支那ニテハ本生藥及ビ當歸ヲ煎劑ト爲シ産前ニ日々内服セシム之ヲ内

用スレバ難産スルコト少ナシトノ想像ニ基因ス

○當歸

當歸(Tang—Kwei)ハAralica edulis, S. et Z.ノ根ニシテ肉様分岐其大イサ、形狀、色澤等總テ徤智亞那根ニ似タリ内部ハ類白色味ハ芳香性ニシテ甘ク香氣ハ芹菜(Celery)及ビAngelicaニ均シ本品ハ支那西部ヨリ輸出スト云フVon Seibold氏ノ説ニ據レバ日本ニ於テ當歸ハ原野及ヒ圃地ニ栽培シ高サ三四尺ニ至リ第八月ニ開花シ第十一月ニ至リ淺藍黄色ノ漿果ヲ稔熟ス

本植物ハ根ヲ採收スル目的ヲ以テ貴重ス其根ハ「キバナノパラモンジン」(Scorzonera)ノ如ク食用トシ又若キ莖ハ好味ノ蔬菜トス（以上四件ダニエール、ハンブリー氏手記抄譯）

左ノ一文ハ植物細胞ノ研究ヲ以テ植物學ヲ一新シタル獨乙國ボン大學教授「ドクトル」エドワルド、ストラスブルゲル氏ガ同大學ノ「レクトル」ニ任ゼラレタルニ臨ミ演説シタルモノニシテ植物細胞論ノ沿革ヲ敍述シ恰モ之ヲ目前ニ觀ルガ如シ今之ヲ譯シテ本邦讀者ノ一覽ニ供ス

○原形質及ビ其感應性

池野成一郎

Das Protoplasma und die Reizbarkeit.

諸君

近世學者ガ生理學上ノ研究成蹟多キ其内ニテ尤モ重要ナルモノ、一ハ生活細胞ヲ充盈セル液体様ノ物質タル原形質ガ生活ノ本源ナリト云フコトコレナリ此發見アリテ吾人ガ學術上得ル所甚多シ此發見アリテ吾人ハ始

メテ生活ノ疑問ヲ解譯スベキ進路ヲ發見シタリト云フベシ然レ𪜈亦此發見アリタルニヨリ生活作用ヲ說明スルヿ至難トハナレリ蓋生活作用ヲ論ズルニ當リ從來ノ如ク簡單ニ說明スル能ハズ必ズヤ此解シ難ク考ヘ難ク恰モ數學上未解ノXノ如キ原形質ノ構造ト官能トヲ幷セ考ヘ以テ說明セザルベカラザレバナリ

原形質ハ生活上必須ノモノタルガ故ニ學者ノソノ構造ヲ研究スルモノ甚多シ而メ余ノ如キ亦此研究ニ從事スルモノナレバ今余ガ「レクトル」ト爲レル、ニ際シ原形質ノ構造及ビ性質ニ就キ今日吾人ガ知ル所ノ大略ヲ演述スルモ敢テ無用ニアラザルベシ

原形質ナル物質ガ存在スルヿヲ知リタルハ實ニ近來ノ事ナリ蓋動植物ガ細胞ヨリ成ルヿハ夙ニ人ノ知リタル所ナレ𪜈其含有物ヲ研究セルハ實ニ本世期以來トス細胞ノ含有物ハ之ヲ細胞体 — Zellkörper — ト稱シ甚適切ナル名稱ナレ𪜈細胞即 Zell 英語 Cell トイフ語ハ元來此ノモノヽ爲ニ特ニ作リタル名稱ニ非ズ抑細胞ヲ Zell ト云ヒタルハ千六百六十七年ニ始マリ英國ノ學者ロベルト、フツク（Robert Hooke）ニ依ルフツク氏ハ從來ノ複顯微鏡ヲ改良シ物体ヲ擴大シ之ヲ明瞭ニ見ル樣ニナシタリ氏ハ元來動植物學者ニ非ズシテ恐クハ物理學者ナリ故ニ其植物細胞ヲ書ニ記スルヤ植物ノ細胞ヲ世ニ示スヲ以テ主トスルニ非ズ其改良シタル顯微鏡ノ效用ヲ示サンガ爲種々ソノ顯微鏡ニテ見タル物ヲ記シ其内ニ植物ノ細胞ヲモ幷セ記シタルニ過ギズ氏ハコルクヲ檢シ數多ノ空室、隔壁ヲ以テ境スルヲ發見シ其ノ書ノ一章ヲ全クコルクノ構造ヲ記スルニ用ヰタリコルクノ空室ハ恰モ蜂窠ニ彷彿タリ故ニ之ヲ蜂窠即 Zell ト唱ヘリ此名傳ハリテ今ニ至ル氏ノ研究シタルコルクハ死シタル組織ニシテ其未ダ生活セル樹木ニ附着スルノ時ト雖モ其内ニハ含有物タル唯空氣アルノミ故ニコルクニハ眞ノ含有物ナク、フツク氏ノ觀タルハ唯細胞ノ隔壁ノミ加之其後數年ヲ經テ貴重ナル書ヲ世ニ公ニ

セル植物解剖學ノ眞ノ祖先ネヘミアス、グリユー(Nehemias Grew)及ビマルチエロ、マルピギー(Marcello Malpighi)ノ兩氏ト雖モ其植物組織ヲ研究スルヤ其論ズル所ハ唯細胞膜ノミ其觀察シタルハ植物組織ノ老イタル部分ニシテ其含有物ハ僅ニ細胞膜ノ緣邊ニ薄層ヲ爲セルモノノミ斯クノ如キ薄層ハ到底當時ノ不完全ナル器械ニテハ見ル能ハザルモノナリ然リト雖モ兩氏ガ學術上ノ效績タル偉大ナリト云ハザルベカラズ從來植物內部ノ搆造ノ如キ人ノ夢想ダモ爲サヾリシ所而〆兩氏深ク之ヲ研究ス其ノ效豈偉ナラズヤ況ヤ其研究ノ深奧ナル兩氏ノ後百年ノ星霜ヲ經ルニ非ザレバ之ト比肩スベキ良好ナル研究ノ出デザリシニ於テヲヤ夫レ斯ク深奧ナル研究ノ世ニ出ヅルニ至リシ源因ヲ尋ヌルニ之ヲ當時ノ特異ナル事情ニ歸スベシ勿論當時ノ事情如何ニ特異ナリトモ兩氏ニシテ非凡ノ英傑ニ非ザレバ斯クノ如キ研究ヲ爲シ能ハサラン故ニ當時ノ事情如何ヲ以テ兩氏ノ功ヲ沒スベキニ非ズ然レトモ當時ノ顯微鏡ニシテ以前ノ如ク不完全ナリセバ如何ニ非凡ノ兩氏ト雖モ其爲シタル所ハ僅々ニ止マラン兩氏ハ實ニ當時ノ有樣ニテ當時ノ最上ノ器械ヲ用ヰ爲シ得ベキ丈ノコトヲ爲シ盡シタリ卽兩氏ハ二百年前ニ於テ早ク既ニ用フル所ノ器械ノ良好ナルコトハ或ル學科ニハ極テ必要ニシテ器械愈々良好ナレバ得ル所愈々大ナルコトヲ示シタリ、蓋古來ノ有樣ヲ觀ルニ學者ハ數百年以來只管ギリシヤ國ノ碩儒ヲ迷信シ唯其言フ所ヲ注解スルヲ以テ必生ノ業トナシタリシニ今兩氏ノ出ヅルニ至リ植物內部ノ造搆ヲ自ラ研究スル如キ事ニ立至リシモノ抑原因ナクンバ非ズコレデツカルト及ビベーコンノ創立セル新哲學派ニ歸スベシ此哲學派ノ行ハレシヨリ人々自ラ考究シ自ラ實驗スルノ必要ヲ悟リタリ世ノ風潮斯クノ如クナルニヨリ英國王チヤーレス二世ハ千六百六十年ロンドン府ニ學會ヲ設立シ之ヲ Royal Society ト稱シ學術ヲ實驗的ニ撿究シ從來ノ理外ノ理ニ代フルニ理ニ協ヒタル智識ヲ世ニ擴メンコトヲ勉メタリ、グリユー、マルピギ

一兩氏ノ其研究成績ヲ提出セルハ即此會ニシテ且同年ナリキ Royal Society ヲ設立シタルノ效空シカラズ實驗學ハ早ク世ノ流行トハナレリマコーレーガ其英國史ニ記スル所ニ因レバ從來當時ノ政治問題ヲ口ニシタルモ今ハ血液ノ循環、大氣ノ壓力、或ハ水銀ノ凝固ヲ口ニシ從來完全無缺ノ政体ヲ夢想シタルモノ今ハロンドンノ高塔ヨリウエストミンステル寺迄一齊ニ飛行スベキ羽翼ヲ夢想シ或モノハ暴風ニ逢フモ決シテ轉覆スルノ患ナキ二龍骨ノ船艦ヲ夢想スルニ至レリ世人ハ貴賤ヲ問ハズ老若ヲ論ゼズ皆理學ニ熱中シタリケレバ今ヤ天地ノ秘蘊ハ悉皆發カレンカト人ヲシテ怪ヤシマシメリチヤーレス王ハ自ラホワイトホールニ實驗所ヲ設立シ學術研究ニ從事スルヿ其治下ノ民ヲ治ムルヨリ勉メタリト云フ當時苟クモ紳士ト呼バレゼントルマントト稱セラレント欲スルモノハ必ズ空氣ポンプ及ビ望遠鏡ノ使用法ニ習熟ゼザルベカラズ又貴婦人ハ或ハ磁石ノ針ヲ吸引スルヲ見テ樂ミ或ハ蚤ヲ顯微鏡下ニ撿シ其大ナルヿ雀ノ如クナルヲ見テ喜ベリト云フ斯クノ如ク理學ノ世ニ擴布スルニ隨ヒ其智識タル漸ク淺薄ニ陷ルノ患ナキニ非ザレ𪜈コレ從來古人ヲ迷信シ崇拜セル反動トモ云フベク當時大發見ノ多キモノ實ニ此反動與テ大ニ力アリト云フベシ

顯微鏡ノ發見アリテ而メ植物解剖學起ル顯微鏡ノ裝置愈々進歩シテ而メ當世期ニ於ケル細胞含有物ノ研究愈々進歩シタリト云フベシ顯微鏡ヲ改良シタルハ實ニ以太利國モデナ府ノジヨバニー、バッチスタ、アミチー(Giovanni Battista Amici) 氏トス氏ハ光學及ビ天文學ヲ以テ名アリ千八百二十七年一種ノ微顯鏡ヲ製作シ之ヲ佛都パリーニ携ヘ來レリ其顯微鏡ハ色消シノ二重レンズ及ビオクラールヨリ成リ球狀收差ハ大部分之ヲ除キ得ルモノトス、アミチー氏ガ千八百三十五年ニ造リタル顯微鏡ニ對シ本世期ノ央ニ於テハ此學ノ大家ト稱スベキウートレヒトノペー、ハルチンク (P. Harting) 氏曰コレ眞ニ良好ノ器械ト稱スベシト此顯微鏡ハ十

箇ノ色消シ二重レンズト五箇ノオクラールヲ有シ三百七十四倍ニ擴大スベク或ハ又千百二十倍ニモ擴大シ得ベキモノナリ此時ニ當リ他ノ器械師ノ製作ニカヽル顯微鏡モ三十年間ニ頓ニ増加シ隨テ其價モ低廉ナルニ至レリ

（未完）

◎東京植物學會錄事

○左ノ六氏ハ新ニ東京植物學會ニ入會セラレタリ

木梨延二郎君　原十太君　小川彦造君

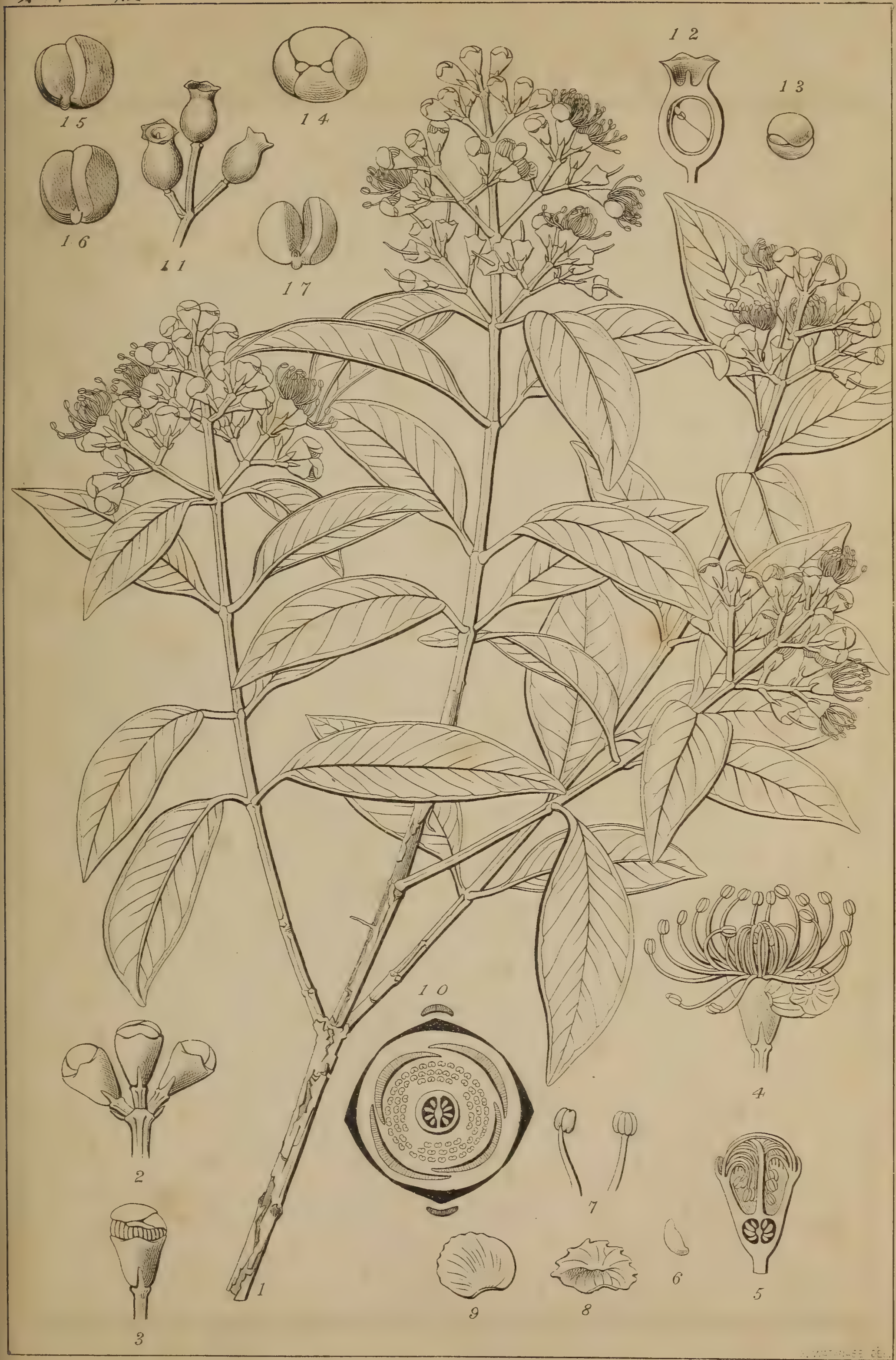
大森千藏君　吉永虎馬君　高千穗宣麿君

又植物學會ヲ退會セラレタルハ

若林勝邦君

○十月二十二日午後二時ヨリ東京植物學會ヲ本郷理科大學植物學敎室ニ於テ開ク來會員十六名左ノ講談アリタリ

藤井健二郎氏ハVolvoxノ標品ヲ以テ形態上ノ事實ヲ演ヘ次ニ下山順一郎氏ハ粳米、日本産烏頭（トリカブト）、ツハブキ、マンダラゲ、等ノ化學的性分ニ付キ新奇ノ事實ヲ演セラレタリ


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
[illegible] DEL.

EUGENIA CLEYERÆFOLIA, YATABE.
HIME-FUTOMOMO. ヒメフトモモ.

植物學雜誌第六卷第七十號 (明治二十五年十二月十日)

THE BOTANICAL MAGAZINE.

[Vol. VI. December 10, 1892. No. 70.]

New or Little Known Plants of Japan.

No. 29.

Ryôkichi Yatabe, Sc. D.

Eugenia cleyeræfolia, nov. sp.

Nom. jap. Hime-futomomo. ヒメフトモヽ.

(Order Myrtaceæ.)

Plate XIII.

A small evergreen tree. Branchlets tetragonous, with a dark-brown bark soon peeling off. Leaves opposite, petiolate, coriaceous, oval or oblong-oval, entire, glabrous, glossy on the upper surface, pellucid-punctate, 1-2 inches long, usually about 1½ inches long, 4-10 lines broad; lateral veins inconspicuous, uniting into a marginal one; petioles 2-3 lines long. Cymes terminal, trichotomous, 1-1½ inches long; bracts and bracteoles minute, subulate, soon turning black. Flowers pedicellate or almost sessile. Calyx-tube obconical, produced much above the inferior ovary, obscurely 4-lobed, 2 lines long and broad. Petals 4, alternate with the lobes of the calyx, imbricate, roundish, minutely, crenulate, concave, pellucid-punctate, greenish-white, caducous, $1\frac{1}{2}$ lines across, the outermost one reddish tinged at the margin and remaining attached longer than the rest. Stamens inserted at the edge of the disk lining the calyx-tube, numerous, in about 3 rows, obscurely forming 4 bundles and inflexed in bud; filaments filiform, about 3 lines long; anthers 2-celled, basifixed, each cell oblong. Ovary inferior, 2-celled; style filiform, bent at the middle in bud, 3 lines long; stigma terminal, minute. Fruit dry, ovoid, crowned with the persistent style and calyx-limb, 4 lines long, 3 lines broad. Seed 1, subglobose, exalbuminous; testa subcartilaginous; embryo 1-3 in each cell; cotyledons thick and fleshy; radicle short.

Living specimens of this plant were brought from the Bonin Islands a few years ago, and have been since kept in the Botanic Garden of the Imperial University. They flower in August in the Garden.

It is with some hesitation that I propose this plant as a new species of *Eugenia*. It is to be placed in the section *Syzygium*, Benth. et Hook.

Plate XIII. Fig. 1, branch with flowers; 2, flower-buds; 3, flower-bud opening; 4, flower; 5, vertical section of flower-bud; 6, ovule; 7, dorsal and ventral views of stamen; 8, inner petal; 9, outermost petal; 10,

floral diagram ; 11, fruit ; 12, vertical section of fruit ; 13, embryo ; 14, two embryos from the same seed ; 15, 16, two embryos from the same seed detached ; 17, one of the two embryos with the cotyledons separated showing the plumule :— *all except* 1 *and* 11 *enlarged.*

靜岡縣產植物錄（第六拾七號ノ續キ）

會員　小笠原利孝

駿河ノ低地ニ產スル植物ニハ敢テ稀品ト稱スベキモノナシ然レドモ種數少カラザルヲ以テ學校生徒ノ植物學研究ニハ却テ好都合ナリ今爰ニ此低地ノ植物ヲ記述ス其遺漏ハ後日詳細ナル調查ヲ遂グルニ從テ追加スベシ

顯花植物

毛莨科 Ranunculaceæ.

(1)	せんにんさう	Clematis paniculata, Thunb.	所在ニ自生シ八九月ノ頃花ヲ開ク
(2)	ぼたんづる	” apiifolia, DC.	吐月峯、宇都谷嶺等ニ自在ス
(3)	がざぐるま	” patens, Morr. et Decne.	庭園ニ栽植ス
(4)	てつせん	” florida, Thunb.	庭園ニ栽植ス
(5)	はんしやうづる	” japonica, Thunb.	庵原郡庵原、松野等ニ自生ス
(6)	からまつさう	Thalictrum aquilegifolium, L.	宇都谷嶺、庵原郡庵原、岩淵等ニ自生ス
(7)	のからまつさう	” simplex, L. var. affine, Regel.	庵原郡庵原ニ自生ス
(8)	あきからまつさう	Thalictrum minus, L.	宇都谷嶺、吐月峯等ニ自生シ九月頃花ヲ開ク

(9) おきなぐさ Anemone cernua, Thunb. 庵原郡松野、安倍郡藁科等ニ自生ス殊ニ松野ニ多シ

(10) しうめいぎく „ japonica, Sieb. et Zucc. 所在ニ自生シ十月花ヲ開ク

(11) いちりんさう „ nikoensis, Maxim. 庵原郡松野、安倍郡藁科等ニ自生ス

(12) ふくじゆさう Adonis amurensis, Regel, et Radd. 庭園ニ栽植シ又盆卉トス

(13) きつねのぼたん Ranunculus ternatus, Thunb. 所在ニ自生ス田野溝瀆ノ中ニ多シ

(14) きんぽうげ „ acris, L. 賤機山、吐月峯、宇都谷嶺等ニ自生シ四五月頃盛ニ花開ク

(15) たがらし „ sceleratus, L. 所在ニ自生ス田野溝瀆ノ中ニ多シ

(16) ひめうづ Isopyrum adoxoides, DC. 所在ニ自生ス四五月頃花ヲ開クモノ多シ

(17) むらさきをだまき Aquilegia atropurpurea, Willd. 多クハ盆卉トナス

(18) とりかぶと Aconitum Fischeri, Reich. 薩埵嶺、吐月峰、徳願寺山等ニ自生シ又庭園ニ栽植ス十月頃花ヲ開ク

(19) さらしなしようま Cimicifuga simplex, Wormsk. var. ramosa, Maxim. 庵原郡庵原、松野等ニ自生ス

(20) ぼたん Pæonia Mountan, Sims. 庭園ニ栽植ス

(21) しやくやく „ albiflora, Pall. 庭園ニ栽植ス

蠟梅科 Calycanthaceæ.

(22) らうばい Chimonanthus fragrans, Lindl. 庭園ニ栽植ス

木蘭科 Magnoliaceæ.

(23) しきみ Illicium religiosum, Sieb. et Zucc. 所在ニ自生シ又栽植ス

(24)	こぶし	Magnolia Kobus, DC.	庭園ニ栽植ス
(25)	はくもくれん	„ conspicua, Salisb.	庭園ニ栽植ス
(26)	ほゝのき	„ hypoleuca, Sieb. et Zucc.	庭園ニ栽植スルモノ多シ
(27)	たいさんぼく	„ grandiflora, L.	庭園ニ栽植ス

防己科 Menispermaceæ.

(28)	あをつゞらふぢ	Cocculus Thunbergii, DC.	所在ニ自生ス

小蘗科 Berberideæ.

(29)	むべ	Stauntonia hexaphylla, Decne.	所在ニ自生シ六月花ヲ開キ十月實熟ス兒童ハ好テ此實ヲ食フ
(30)	あけび	Akebia quinata, Decne.	所在ニ自生ス
(31)	みつばあけび	„ lobata, Decne.	所在ニ自生ス
(32)	めぎ	Berberis Thunbergii, DC.	賤機山、吐月峯、宇都嶺等ニ自生ス
(33)	へびのぼらず	„ vulgaris, L.	賤機山、吐月峯等ニ自生ス
(34)	なんてん	Nandina domestica, Thunb.	庭園ニ栽植スルモノ多シ
(35)	いかりさう	Epimedium macranthum, Morr. et Decne.	庵原郡岩淵、安倍郡藁科等ニ自生ス

睡蓮科 Nymphæaceæ.

(36)	じゆんさい	Brasenia peltata, Pursh.	安倍郡淺畑沼、鯨池等ニ自生ス
(37)	かはほね	Nuphar japonicum, DC.	所在ノ水中ニ自生ス

(38) ひつじぐさ Nymphæa tetragona, G. Bemerl. var. angusta, Casp. 所在ノ水中ニ自生ス

(39) はす Nelumbium speciosum, Willd. 所在ニ栽植ス

罌粟科 Papaveraceæ.

(40) けし Papaver somniferum, L. 所在ノ畑或ハ庭園ニ栽植ス

(41) ひなげし „ Rhœas, L. 庭園ニ栽植ス

(42) たけにぐさ Bocconia cordata, Willd. 所在ニ自生シ九、十月頃花ヲ開ク

(43) くさのわう Chelidonium majus, L. 所在ニ自生シ三、四月頃花ヲ開ク

(44) やぶけまん Corydalis incisa, Pers. 所在ニ自生シ三、四月頃花ヲ開ク

(45) きけまん „ Wilfordi, Regel. 所在ニ自生シ三、四月頃花ヲ開ク

(46) やぶゑんごさく „ decumbens, Pers. 吐月峯、德願寺山等ニ自生ス

十字科 Cruciferæ.

(47) みづたがらし Nasturtium officinale, R. Br. 所在ニ自生シ早春花ヲ開ク

(48) すがしたごばう „ palustre, DC. 所在ニ自生ス

(49) いねがらし „ montanum, Wall. 所在ニ自生ス甚多シ

(50) はたざほ Arabis perfoliata, Lam. 賤機山、吐月峯、德願寺山等ニ自生ス

(51) たねつけばな Cardamine hirsuta, L. var. sylvatica, Link. 所在ニ自生ス甚多シ

(52) いぬなづな Draba nemoralis, L. 所在ニ自生ス甚多シ

(53) なづな Capsella bursa-pastoris, Mœnch, 所在ニ自生シ早春花ヲ開ク

(54) はぼたん Brassica oleracea, L. 畑ニ栽植ス

(55) かぶら ,, campestris, L. 所在ノ畑ニ栽植ス

(56) なたね ,, chinensis, L. 所在ノ畑ニ栽植ス

(57) だいこん Raphanus sativus, L. 所在ノ畑ニ栽植ス

白花菜科 Capparideæ.

(58) ふうてうさう Cleome pungens, Willd. 庭園ニ栽植ス

菫菜科 Violarieæ.

(59) すみれ Viola Patrinii, DC. var. chinensis, Ging. 所在ニ自生ス甚多シ

(60) こすみれ Viora japonica, Langsd. 安倍郡藁科、益津郡城之腰等ニ自生ス

(61) たちつぼすみれ ,, sylvestris, Kit. var. grypoceras, A. Gray. 所在ニ自生ス

海桐科 Pittosporeæ.

(62) とべら Pittosporum Tobira, Ait. 所在ニ自生ス

遠志科 Polygaleæ.

(63) ひめはぎ Polygala sibirica, L. 所在ニ自生ス

石竹科 Caryophylleæ.

(64) かはらなでしこ Dianthus superbus, L. 所在ニ自生ス甚多シ

(65) からなでしこ 〃 chinensis, L. 庭園ニ栽植ス

(66) むしとりなでしこ Silene Armeria, L. 庭園ニ栽植ス

(67) なんばんはこべ Cucubalus bacciferus, L. var. japonica, Miq. 所在ニ自生ス

(68) せんのう Lychnis Senno, Sieb. et Zucc. 庭園ニ栽植ス

(69) がんぴせんのう 〃 grandiflora, Jacq. 庭園ニ栽植ス

(70) ふしぐろせんのう 〃 Miqueliana, Rohrb. 安倍郡牧ケ谷ニ自生ス

(71) みゝなぐさ Cerastium vulgatum, L. var. glandulosum, Koch. 所在ニ自生ス甚多シ

(72) はこべ Stellaria media, L. 所在ニ自生ス甚多シ

(73) のみのふすま 〃 uliginosa, Murr. 所在ニ自生ズ

(74) つめくさ Sagina Linnæi, Presl. 所在ニ自生ス甚多シ

馬齒莧科 Portulaceæ.

(75) すべりひゆ Portulaca oleracea, L. 所在ニ自生シ八月花ヲ開ク甚多シ

(76) まつばぼたん 〃 grandiflora, Hook. 所左ノ庭園ニ栽植ス

御柳科 Tamariscineæ.

(77) ぎよりう Tamarix chinensis, Lour. 所在ノ庭園ニ栽植ス

金絲桃科 Hypericineæ.

(78) びやうやなぎ Hypericum chinense, L. 庭園ニ栽植ス

(79)	きんしばい	〃 patulum, Thunb.	所在ノ庭園ニ栽植ス
(80)	おとぎりさう	〃 erectum, Thunb.	所在ニ自生ス

厚皮香科 Ternstrœmiaceæ.

(81)	もくこく	Ternstrœmia japonica, Thunb.	所在ノ庭園ニ栽植ス
(82)	さかき	Cleyera japonica, Thunb.	庭園ニ栽植スルモノ多シ
(83)	ひさかき	Eurya japonica, Thunb.	所在ニ自生ス
(84)	きぶし	Stachyurus præcox, Sieb. et Zucc.	所在ニ自生ス庵原郡ニ多シ
(85)	つばき	Camellia japonica, L.	庭園ニ栽植スルモノ多シ
(86)	さざんくわ	〃 Sasanqua, Thunb,	庭園ニ栽植スルモノ多シ
(87)	ちや	〃 theifera, Griff.	畑ニ栽植スルモノ多シ

* * *

奇形蓮花（第十一版圖）（前號ノ續キ）

藤井健次郎

此ニ尋常蓮花ノ花床ヲ略記スレバ上下ノ二部ニ分ツベクシテ上部（第四圖ヘ）ハ肥大シテ獨樂狀トナリ其上面ナル數多ノ小窩ハ內ニ各一個ノ子房ヲ護ス下部（第四圖ト）ハ之レニ比シテ甚ダ細ク略圓柱狀ニシテ數百ノ雄蕊其上方ニ居ヲ占メ數多ノ花瓣ハ其下方ニ輪生ス其狀ハ實ニ其任ニ適セリト云フノ外ナシ然ルニ今雌蕊カ其子房ヲ爲サス雄蕊カ其葯ヲ有セズ悉ク變ジテ花瓣樣トナレリトセバ子房ヲ支フベキ上部ノ縮少ト共ニ花瓣ヲ支フベキ下部ノ發育增長ハ至當ノヿナルベシ即チ此奇形蓮花ノ延長セル花床（第一、及二圖ハ）ハ尋常蓮花ノ花床ノ下部（第四圖ト）

ニ對スル部分ノ增長ヨリ生ゼルモノト知ルベシ而メ數多ノ雌蘂ヲ支ヘ其子房ヲ保護シ且ツ之レガ受精ニ便ナラシメンニハ花床ガ獨樂狀ニ肥大シテ其上面ニ廣ク雌蘂ヲ列セルモ亦其理ナレ𪜈既ニ雌蘂ヲ支フル爲ニ非ズトセバ花床ガ殊更ニ肥大シテ其上面ノミガ花瓣附着ニ具フルガ如キハ生理上不經濟ナルヿニシテ單ニ花瓣輪生ノ爲メニハ花床ハ圓柱狀ナランヿヲ要ス而メ蘂絲ニ比シテ幅、厚サ共ニ之レニ超越セル花瓣ノ數百ヲ附着セシメ而モ緻密ナル形ニシテ最小ノ容積最大ノ附着面ヲ得セシメンニハ其圓柱ノ分岐ハ已ムヲ得ザルニ出ヅルモノナリ若シ其形此ニ出デザレバ花床ハ細長シテ一本ノカヨワキ軸ヲ爲スベカリシナリ之レ樹木ノ枝葉ヲ生ズル樣ト一般ニシテ自然ノ妙爰ニ於テ亦觀ルベキモノアリ去レ𪜈此蓮花ハ人意淘汰ニヨリ是ニ至リシモノナレバ如斯自然淘汰的ノ事實ヲ以テ說明スルハ非ナリトノ感ヲ懷クモノナキヲ保セズ實ニ此分岐其物ハ此蓮花ニシテ初メテ現ゼシモノナレ𪜈其生理的經濟ノ要領ニ從ヒ其花ノ他部ノ變態ニ際シ花床ノ分岐スル傾ハ決シテ人意淘汰ガ始マリシ後ニ始メテ得タル蓮ノ性質ニアラズ生理上ノ經濟ヨリ多クノ植物ニ起リテ人意淘汰以前ニ既ニ具有セル傾向ナリ而メ人意ハ此傾向ヨリ現ハレタルモノヽ保存ヲ助ケタルニ外ナラザルナリ

說テ此ニ至レハ何ガ故ニ此奇形蓮花ヲ解スルニ數花ノ群トナサズシテ單ニ一花ノ變態セシモノトナスヤハ敢テ辯論ヲ要セザルベキモ若之ヲ數多ノ花ヨリ爲レリトセバ其各一個ノ花ト見ルベキモノヽ外部（第一、第二圖イ及ハ）ナル數多ノ輪生セル花瓣ハ苞ノ花瓣樣ニ變セシモノト見做スノ外ナカルベシ去レ𪜈蓮ニハ元來眞正ノ苞ナルモノナシ若シ强テ之ヲ求ムレハ水底ナル根莖ノ節葉柄ノ外ニ二個ノ Cataphyllary leaves アルノミ而メ之ヲ托葉トナス人サヘアルナリ花梗ハ葉柄ノ外托葉狀ノモノノ内ニ生シ一花梗一花ヲ支フヲ以テ常トス若シ之ヲ苞ト見做スモ一花只二個ノ苞アルノミ然ルニ今苞ト見做サレタル外位花瓣ノ數ハ百ニ近ク花瓣群ノ數ハ概ネ僅カ

ニ二三乃至九ニ過ギズ之レ是ヲ苞トシテ形態學上到底解シ難キ一ナリ又蕾ノ時期ニ於テ外位花瓣ノ外ニ接シテ正然トシテ四個ノ相對セル位置ヲ占メ綠色ヲ帶ビタルモノアリ一見其蕚片ナルヲ知ルベシ而〆蕚ノ上ニ苞アリト云ハヾ更ニ一層ノ奇聞ナルベシ之レニ反シテ此花ヲ一花ノ變態ト見ルトキハ外位花瓣ハ云フマデモナク其花床ノ延長ト云ヒ分岐ト云フモ皆ナ十分ノ意味アルヿニシテ他花ニ於テ此例屢之アリマスタァルス氏ニ依レバまぐのりや及ヒみをすらすニ於テ此例尠ナカラズト云ヒおらんだいちごニ於テハ花床ガ實ノ外ニ延ビテ葉ヲサヘ有スルヿアリト云フ又かめりあ及ビおねもねいノ千葉花ニ於テハ此蓮花ニ於ケルト等シク外位花瓣ノ内ニ於テ其花床數部ニ分岐シ其ノ各部ガ花瓣新群ノ中心トナルヿアリト云フ終リニ花床ハ元來何者ナリヤト問ハヾ花梗ノ一端花ノ各部ヲ頂クニ便宜ノ形ニ發育セルモノ即チ苗(spross)ノ性質ヲ具フルモノニシテ決シテ花床ハ花床丈ノ形態學上特別ノ根源ト地歩ヲ有スルモノニアラズ既ニ苗ノ性質ヲ具ヘリ時ニ分岐スルヿアルモ亦理ナリ

第十一版(第六十八號)圖解、Nelumbo nucifera Gaertn. ハス、

第一圖四個ノ花瓣群ヲ有スル蓮花自然大、第二圖九個ノ花瓣群ヲ有スル蓮花ニシテ其七個ヲ除去シ二ツヲ殘セルモノ自然大、第三圖一インチ許ノ蕾ノ中央ヲ縱斷シ左右不必要ノ部ヲ除キ二個ノ生長點ヲ示セルモノ四十倍、第四圖尋常蓮花ノ花床及ヒ花梗ノ縱斷面縮小圖、第五圖本草圖譜ノ天上蓮ヲ縮小シテ寫シタルモノ、第六圖同書ノ紅碧臺蓮ノ花床部縮小圖、第七圖同書白碧臺蓮子房及花床縮小圖、第八圖同書西湖蓮子房及ヒ花床部縮小圖、イ花瓣ノ附着セシ跡、ロ花瓣群ヲ除去セシ跡、ハ大ナル花瓣ノ附着セシ花床ノ下部增長部、ニ生長點、ホ維管束、ヘ花床ノ肥大上部ノ縱斷面、ト雄蘂及花瓣ノ附着セル花床下部、チ花梗縱斷面、リ花瓣ノ尖端

ニ葯ノ如キモノヲ有スルモノ、ヌ子房、ル花床若シクハ子房ノ變形躰、ヲ花床、ワ種子ヲ含メル花床ノ小窩、カ花床、ヨ花床ノ變形躰若シクハ雌蘂ノ花瓣樣トナレルモノ、タ子房、レ花床、

（完）

日本藥局方植物篇（前號ノ續キ）

澤田駒次郎

製劑　杏仁水　Aqua Pruni armeniacæ.

改正日本藥局方ニ據レハ其製法左ノ如シ

杏仁水ハ

杏仁　十二分

ヲ取リ搗碎シ熱ヲ加ヘスシテ壓搾シ脂肪油ヲ除キ細末トナシ蒸餾器ニ容レ

常水　八十分

ヲ混和シ密閉シ放置スルコト十二時間ノ後善ク冷却セル受器中ニ其十一分ヲ注意シテ餾取シ下ニ掲クル所ノ方法ニ由テ藏化水素ノ含量ヲ撿定シ蒸餾水ヲ加ヘテ其千分中藏化水素一分ヲ含ムノ度トナルニ至ル迄稀釋シ製スヘシ

本品二十五「センチメートル」ニ水五十立方「センチメートル」ヲ加ヘテ稀釋シ之ニ抱水酸化麻偏涅曳謨ヲ和シテ其液ノ不透明トナルニ至リ格羅謨酸加僧謨一二滴ヲ加ヘ十分定規硝酸銀液ヲ滴加シテ生スル所ノ赤色復タ消失セサルニ至ルヘシ玆ニ費シタル銀液立方「センチメートル」ノ數ニ〇、一一ヲ乘スレハ則チ杏仁水千分中ニ含有スル藏化水素ノ量ヲ知ルヘシ

本品ハ全ク或ハ殆ト澄明ニシテ著シク揮發苦扁桃油ノ香氣ヲ有スヘシ硝酸銀ヲ加ヘ振盪シテ藏化水素ヲ結合シタル後ト雖𪜈亦然リ（中略）注意シテ貯フヘシ」トアリ又日本藥局方註解ニ云（醫科大學教授藥學士下山順一郎氏著以下之ニ倣フ）杏仁水、苦扁桃水、「バクチ水及ヒ老利兒結兒斯水ハ各々之ヲ製造スルニ用ユル原質ヲ異ニスレ𪜈本條ニ揭クル如ク其千分中各々藏化水素一分ヲ含有スルモノハ互ニ換用シテ妨ケ無シ然レ𪜈老利兒結兒斯樹（Prunus Laurocerasus, L.）ハ本邦ニ產セス又海外ヨリ輸入セル老利兒結兒斯樹ノ乾葉ヨリハ「バクチ」葉ニ於ケル如ク藏化水素ヲ得サルガ故ニ本邦ニ老利兒斯水ト名稱シテ販賣スルハ「バクチ」葉ヨリ製造セル「バクチ」水又ハ苦扁桃水、杏仁水等ニ外ナラザルモノトス」日本藥局方ニ於テハ杏仁水ヲ製スルニ酒精ヲ加フルノ必要ナシトシテ改除シタレ𪜈之ヲ使用セサル𪜊ハ變敗シ易ク永久ニ保存セサルノ虞アリ故ニ前藥局方ニ於ケル如ク酒精ヲ添加シテ製造スルヲ適當トス」ト

性狀　日本藥局方注解ニ云杏仁水（苦扁桃水）ハ無色澄明或ハ微ニ溷濁ヲ有スル液ニシテ少シク酸性ノ反應ヲ呈シ桃葉ニ類スル爽快ノ香氣ヲ有ス多服スレハ中毒症ヲ發ス通例其中ニ含有スル藏化水素ノ一部分ハ「ベンツアルデヒトド」ト化合シ「ベンツアルデヒート」藏化水素（$C_6H_5-COH+HON$）ナル重複化体トナリテ存在スルモノナリ故ニ杏仁水ハ之ニ亞爾加重、酸化麻偪涅曳謨等ヲ加ヘテ重複化合体ヲ分解セシムルノ後ニ非ラザレバ硝酸銀ニ逢フモ充分ニ藏化銀（AgCN）ヲ沈澱セス

杏仁水ハ永ク之ヲ貯有スルノ際殊ニ其器ヲ充塡セスメ貯フル𪜊ハ多少分解シテ蟻酸安母紐莫、安息香酸「ベンツオイン」等トナル然レ𪜈苦扁桃水ハ之ヲ硝子瓶中ニ充滿シ密栓シ冷處ニ貯フル𪜊ハ三年ノ久シキヲ經ルモ變質セサルモノトス」トアリ

杏仁水ノ試驗法ハ日本藥局方註解ニ詳カナルニ因リ玆ニ之ヲ贅セズ

生理的作用　杏仁ハ其性有毒ナルニ因リ之ヲ食シテ中毒症ヲ發セシコトアリ明治十八年八月十九日山梨縣下小縣郡沖村貳拾番地農下村百助妻加津（三十一年一月）同人三女るき（三年二月）杏仁ヲ炒リ之ヲ食シ中毒症ヲ發シるきハ終ニ死亡シ加津ハ四肢厥冷脈搏斷絶死ニ垂ス翌廿日同村四番地醫師今川生庵小縣郡上武石村外七ヶ村戸長下村林太郎ノ兩氏ヨリ藤村山梨縣令ヘ宛差出シタル中毒患者死体檢案屆ニ據レバ右之者（るきヲ云フ）本月十九日午後三時頃母ト共ニ炒リタル杏仁ヲ凡五勺程食シ二時間程經過シ卒然トシテ眩暈シ腹中悶亂吐下五六度三時間程經テ六時頃終ニ死亡ス右死体ヲ檢スルニ兩眼ヲ閉シ腹中硬滿兩手ヲ伸シ拾指ヲ握リ兩足ヲ伸ヘ全身紫色ノ斑紋ヲ露シ其他異狀ナシ依之按スルニ杏仁ノ中毒症ト檢察致シ候依テ毒物現品相添此段御屆仕候又右之者（加津ヲ云フ）本月十九日午后三時頃見るきト共ニ炒リタル杏仁ヲ五夕餘食シ二時間ヲ經過シ卒然トシテ眩暈シ腹中煩悶シ吐下數回四肢厥冷脈絶既ニ死セントス依テ杏仁ノ中毒症ト診斷仕候ニ付毒物現品相添此段御屆仕候也トアリ

醫治効用　杏仁ハ往時ヨリ藥用トシテ貴重セシモノヽ如シ延喜式卷第三十七ニ曰典藥寮臘月御藥杏仁四兩雜給料杏仁二斤二兩諸司年料雜藥齋宮寮杏仁二兩三分二銖木工寮杏仁云々トアリ又福田方ニ云杏仁先ツ湯ニ浸メ皮ト尖（トカリ）ト双仁（フタゴサネ）ヲ去テ火ニテ炒テ黃赤色ニメ使ヘ急ノ時ハ炒テ皮尖ヲヒネリムキテ使ヘ別ニ硏テ糖ノ如ニナシテ使ヘ」トアリ又漢方醫家ハ從來杏仁ヲ用フ今二三ノ處方ヲ擧クレバ即チ左ノ如シ

人參養榮湯　治肺痿欬嗽、有痰午後熱、並聲嘶者

柴胡（二錢）　桑白皮　阿膠（蚧粉炒）　人參（去蘆）　桔梗　貝母　杏仁　枳實　茯苓（各一錢）　五味子（十兩）

右水二升、生姜三片、棗二牧、煎至一鍾、食遠服、

人參紫苑散　虛勞唾血、痰涎上盛、欬嗽喘重、寒熱往來、肩背拘急、勞倦少力、盜汁發渴、面目浮腫、

人參（去蘆頭）　紫苑（洗去蘆頭）　陳皮（去白各一兩）　桑白皮　五味子　貝母（去心已各二兩）　紫蘇葉（肆兩）　白茯苓（去皮）　杏仁（去皮尖麸炒）　甘草（炙已上各半兩）

右爲細末、每服參錢、水壹錢、生姜伍片、煎至　分、温服不拘時候

補肺人參湯　治肺藏氣虛、欬嗽少力、言語聲嘶、喫食減少日漸羸瘦方、

人參（一兩）　紫苑（去苗土半兩）　黃耆　鹿角膠（擣研炒黃）　桂枝（去麁皮各一兩）　白朮　紫蘇莖葉（各三分）　五味子　乾姜（炮各半兩）　乾地黃（一兩）　杏人（湯浸去皮尖雙人炒半兩）

右一十一味、麁擣篩、每服二錢匕、水一盞、棗三牧、擘破同煎至六分、去滓不計時候服、

又本草滙卷十四ニ云味甘苦、温、氣薄味厚、濁而沈墜降也、陰也、入二午太陰經一」散二肺經之風寒一、下二喘嗽之氣逆一、消二心下之急滿一、潤二大腸之氣秘一、（杏仁專入二肺經一乃利下之劑、）解二錫毒一、消二狗肉一、爛二索粉積一、楷二瘢斑瘀一、」本經治二欬逆上氣一者太陰爲二清肅之臟一邪客レ之而然也、杏仁潤レ下、欬自除矣、（其用有レ三、潤レ肺也、消二食積一也、散二滯氣一也、）按杏仁、散レ結潤レ燥、治二肺中風熱咳嗽一、下二滯氣一有功、因レ寒者用レ之爲レ宜、」第杏仁、下レ喘治レ氣、桃仁、療レ狂治レ血、俱治二大便秘一當下以二氣血一分上之晝便難、行レ陽氣也、夜便難行レ陰血也、故虛人便秘不レ可二過泄一、脉浮者屬レ氣、用二杏仁陳皮一、脉沉者屬レ血、用二桃仁陳皮一、陳皮入レ肺與二大腸一爲二表裏一、故並用爲レ使、」又考〔括蔞仁〕與二杏仁一、均能治レ痰、然杏仁主レ散痰、從二腠理中一發散而去、表虛者忌レ服、蔞仁斂レ痰從二腸胃中一滑潤而流、裏虛者忌レ服、若痰盛表裏俱實者、二味並用、」同二桑皮前胡薄荷桔梗蘇子貝母甘草五味橘紅紫菀一、治二風寒入レ肺咳嗽生ヲ痰、」陰虛咳嗽、肺家有二虛熱痰一者、忌レ之、風

寒外邪、非下壅二逆肺分一喘息氣促者上不レ得レ用、湯浸、去二皮尖一炒黄研細風寒肺病藥中、連二皮尖一用、取二其發散一也、作レ湯、如白沫不解者、食レ之氣壅、雙仁者、有レ毒、惡二黄芩黄芪葛根一得レ火良、トアリ

杏仁水ハ鎭痛及ヒ鎭痙ノ一藥トシ咳嗽等ニ應用ス其用量ハ〇、五瓦蘭謨ヨリ一、五瓦蘭謨時トシテハ五瓦蘭謨ヲ與フルコトアリ或ハ點眼藥トシ又焮衝ニ外敷シ尿道ノ注射藥トス

其他果實ハ甘酸美味ナルニ因リ生食シ或ハ煑熟シテ食スルハ普ネク世人ノ知ル所ナルヲ以テ茲ニ之ヲ贅セズ

（以下次號）

◎雜錄

福岡縣粕屋郡ニ於テ九月中ニ開花ヲ目擊シ得ベキ自生ノ植物

在大川高等小學校　長野菊次郎

余ハ明治二十二年以來地方植物ノ調査ニ從事セルモノナルカ本年九月植物採集ノ折ヲ以テ九月中ニ開花ヲ認ムベキモノヲ書キ記シヽニ月末ニ及ヒテ一百七十余種ニ及ビタリ乃チ之ヲ類別シテ同好ノ諸君ニ報ズルコトハナレリ一ハ地方植物分布ノ一端ヲ世ニ公ニシ一ハ標品交換ノ資トセントノ余ノ微意ニ出テシモノナリ

併シ之ヲ以テ九月中ノ開花植物ヲ盡セリト謂フニハアラズ此他余ノ現ニ採集シタルモ未ダ正確ノ學名ヲ知ル能ハザル爲メニ此中ニ漏レタルモノ尙十余種アリ他日正確ノ調査ヲ經バ又之ヲ報告スルノ折アルベシ

表中〇ヲ附スルモノハ山岳又ハ高地ニ產スルモノニシテ平地ニテハ見當リ難キモノ

	毛莨科
1 キンポウゲ	Ranunculus acris, L. var. japonica, Mx.
2 キツネノボタン	Ranunculus ternatus, Thunb.
3 センニンサウ	Clematis paniculata, Thunb.
	睡蓮科
4 ヒツジクサ	Nymphæa tetragona, G. Bemerl. var. angusta, Casp.
5 カハホネ	Nuphar japonica, DC.
	十字科
6 イヌガラシ	Nasturtium montanum, Wall.
	石竹科
7 カハラナデシコ	Dianthus superbus, L.
	馬齒莧科
8 スベリビユ	Portulaca oleracea, L.?
	金絲桃科
9 オトギリサウ	Hypericum erectum, Thunb.
	錦葵科
10 ムクゲ	Hibiscus syriacus, L. 移植? 然レドモ各所産スルヲ以テ之ヲ加フ

		牻牛兒科
11	フウロサウ	Geranium nepalense, Sweet.
12	カタバミ	Oxalis corniculata, L.
13	ムラサキツリフネサウ	Impatiens Textori, Miq.
		芸香科
14	イヌザンセウ	Zanthoxylum schinifolum, S. et Z.
15	○マツカゼサウ	Boenninghausenia albiflora, Reich.
		葡萄科
16	ノブタウ	Vitis heterophylla, Thunb.
17	ビンボウカヅラ	Vitis pentaphylla Thunb.
		漆樹科
18	フシノキ	Rhus semi-alata, Murr, var. Osbeckii, DC.
		荳科
19	カハラケツメイ	Cassia mimosoides, L.
20	ナンテンハギ	Vicia unijuga, A. Br.
21	ヤハズハギ	Lespedeza striata, Hook. et Arn.
22	ハギ	Lespedeza bicolor Turcz.

23	ネコハギ	Lespedeza pilosa, Sieb et Zucc.
24	ヌスビトハギ	Desmodium podocarpum, DC. var japonicum, Mx.
25	タンキリマメ	Rhynchosia volubilis, Lour.
26	タヌキマメ	Crotalaria sessiliflora, L.
27	クズ	Pueraria Thunbergiana, Benth.
28	コマツナギ	Indigofera tinctroia, L.
29	ヤブマメ	Amphicarpæa Edgeworthii, Benth var. japonica, Oliv.
30	ミヤコグサ	Lotus corniculatus, L. var japonicus, Regel.
31	ノサヽゲ	Dumasia truncata, Sieb. et Zucc.
32	ツルアヅキ	Phaseolus Mungo, L. var. pendula, Fr. et Sav.
33	ドヨウフヂ	Milletia japonica, A. Gr.
34	ヒメタンキリマメ（松村先生命名）	Rhynchosia sp.

薔薇科

35	ダイコンザウ	Geum japonicum, Thunb.
36	キンミヅヒキ	Agrimonia pilosa, Led. var. japonica, Miq.
37	ナカボノシロワレモカウ	Poterium tenuifolium, Fisch, var. album, Traut.

虎耳草科

38 ○クサアヂサヰ	Cardiandra alternifolia, S. et Z.
	千屈菜科
39 キカシグサ	Ammania peploides, Spr.
	蟻塔科
40 ホザキノフサモ	Myriophyllum spicatum, L.
	柳葉菜科
41 ミヅタマサウ	Circæa quadrisulcata, Mx.
42 アカバナ	Epilobium Hookeri, Clark.
	胡蘆科
43 ゴキツル	Actinostemma japonicum, Miq.?
44 スヾメノウリ?	
	蕃杏科
45 ザクロサウ	Mollugo stricta, L.
	繖形科
46 ノダケ	Peucedanum decursivum, Mx.
47 ムカゴニンジン	Sium Ninsi, L.
	五加科
48 ウド	Aralia cordata, Thunb.

49	フユヅタ	Hedera Helix, L.

茜　草　科

50	○アカネ	Rubia cordifolia, L. var. mungista, Miq.
51	ヘクソカツラ	Pæderia tomentosa, Bl.

敗　醤　科

52	オミナヘシ	Patrinia scabiosæfolia, Link.
53	ヲトコヘシ	Patrinia villosa, Juss.

菊　科

54	ヨメナ	Boltonia cantoniensis, DC.
55	アキノゲシ	Lacutuca brevirostris, Champ.
56	タカサブラウ	Eclipta alba, Hassk.
57	ヤクシサウ	Lacutuca denticulata, Max.
58	○ヤナギアザミ	Cnicus linearis, Benth et Hook.
59	○ヤマアザミ	Cnicus spicatus, Mx.
60	ノアザミ	Cnicus japonicus, Mx.
61	オニタビラコ	Crepis japonica, Benth.
62	○シウブンサウ	Rhynchospermum verticillatum, Reinv.

63	フヂハカマ	Eupatorium japonicum, Th.
64	ク	Eupatorium chinense, L.
65	ヤブタバコ	Carpesium abrotanoides, L.
66	サジガンクビサウ	Carpesium cernuum, L.
67	カウゾリナ	Picris japonica, Thunb.
68	ヨモギ	Artemisia vulgaris, L. var. indica, Mx.
69	シヲン	Aster tataricus, L.
70	シラヤマギク	Aster scaber, Thunb.
71	スヰラン	Hieracium Karameri, Fr. et Sav.
72	クマノギク	Wedelia calendulacea, Less.
73	○ヒメヒゴタイ	Saussurea japonica, DC.
74	○ヌマダイコン	Adenostemma viscosum. Forst.
75	ヲナモミ	Xanthium strumarium, L.
76	センダングサ	Bidens pilosa, L.
77	アレチノギク	Erigeron canadense, L.
78	○モミヂガサ	Senecio Zuccarinii, Mx.

桔梗科

79	キヽヤウ	Platycodon grandiflorum, DC.
80	○サハギヽヤウ	Lobelia sessiliflora, Lam.
81	アゼムシロ	Lobelia radicans, Th.
82	ヒナギヽヤウ	Wahlenbergia gracilis, A. DC.
83	ツルニンジン	Codonopsis lanceolata.
84	ツリガネニンジン	Adenophora verticillata, Fisch.
		櫻草科
85	ヌマトラノオ	Lysimachia Fortunei, Maxim.
		白前科
86	ガヾイモ	Metaplexis Stauntoni, Roem et Schult.
		龍膽科
87	○ツルリンダウ	Crawfurdia japonica, S. et Z.
88	○アケボノサウ	Swertia bimaculata, Ceark.
		旋花科
89	ヒルガホ	Convolvulus hederacea, Wall.
		茄科
90	ハダカホヽヅキ	Solanum anomalum, Fr. et Sav.

16 ヒヨドリジヤウゴ　Solanum lyratum, Thunb.

（未　完）

○原形質及ヒ感應性（前號ノ續キ）

池野成一郎

マイエン(Meyen)氏ノ Phytotomie（植物解剖學）ト云フ書ハ千八百三十年ノ出版ナルガ其中ニハ既ニ細胞含有物ニノミ一章ヲ用ヰタリ然𪜈未ダ生活セル含有物ニ付キテ記スルヿナシ唯其書中細胞ニ就キ記スルハ植物ノ幼若ナル時ニハ澄清ニシテ透明、無色若クハ有色ノ液、細胞ヲ充盈スノ語アルノミ彼ノ Spirogyra ト稱シ淡水ニ產シ其葉綠帶狀ヲ爲セルヲ以テ人ノ能ク知レル藻ノ細胞ニ細胞核アルコトハコレ亦其ノ其書中ニ記スル所ナリ然𪜈之ヲ以テ細胞液中ニ生活セル動物ト考定セリ曰秋時 Spirogyra princeps ヲ檢スルニ往々細胞ノ中央ニ平扁ナル球体アリ非常ニ微細ナル糸ニテ細胞膜ノ內面ニ懸垂ス此機關ハ長クシテ狹ク殆ド透明無色分枝セル細糸ニテ細胞ノ中央ニ懸垂スルノ狀恰モ蜘蛛ノ其網ニ懸垂スルガ如シトマイエンガ細胞核ヲ以テ細胞內ニ生活セル動物ト爲シタルハ實ノ寄生動物ガ其內ニ往々コレアルガ故ナリ眞ノ動物ガ寄生スルノ狀マイエン之ヲ見タリ而〆必ズ細胞內ニアル物体ヲ以テ之ヲ寄生動物ナリト爲シタルコトコレ其ノ誤解セル所以ナリ

細胞ノ含有物內ニ生活作用ノ本源アルベキカトノ疑念ヲ惹起サシメタルモノ實ニボナエンツラ、コルチー氏(Bonaventura Corti)トス氏ハ千七百七十二年輪藻ノ細胞ニ於テ汁液ノ循環ヲ發見シ其他、他ノ陸生植物ノ多數ヲ檢シソノ含有物ノ絕エズ運動スルヿヲ見タリ而〆其檢セル植物ノ種類極テ多カリシカバ此現象ハ全植物

界ニ有スルヤノ疑ヲ生ゼシメタリ此發見タル學術上極テ重要ナルモノナレ𪜈之ト提携スベキ發見當時之ナカリシヨリ其後久ク之ニ注目スルモノナカリキ然ルニ其後千八百〇七年ルードルフ、クリスチアン、トレヰラヌス(Rudolph Christian Treviranus)氏（余ニ先テボン大學ノ敎授タリシ人、千八百六十四年沒ス、齡八十五歲）再ビ輪藻其他ノ植物ニ於テ液ノ運動ヲ觀タリ、マイエン氏モ種々ノ水草ニ於テ之ヲ撿シタレ𪜈之ヲ以テ全植物界ニ普通ノ現象トナサズ又氏ハ此運動ヲ以テ汁液ニ固有ナル力ノ爲起ルモノト做シタリ曰吾人ハ運動ヲ見ル然レ𪜈此運動ヲ惹起ス所ノ機關ヲ見ル能ハズト氏ハ汁液ノ廻轉ヲ以テ遊星ガ大陽系ニ於ケル運動ニ比シタリ曰吾人ハ遊星ノ廻轉及自轉ヲ以テ其重力ニ歸ス今飜テ之ヲ細胞液ノ廻轉運動ニ適用スルニ更ニ不都合ノ點ヲ見ズ是ニ因テ之ヲ觀レバ生活ノ作用ハ恰モ吾人ガ大陽系ノ生活作用タル重力ニ比スベキモノナリ、トレヰラヌス氏ハ千八百三十五年出版ノ生理書ニ於テ其運動ハ内部ノ原因ニ基セル熱ノ不同ノ分布ニ歸スベキヿヲ說ケリ千八百三十一年英國ノ植物家ロベルト、ブラウン(Robert Brown)氏ハらん科植物ヲ研究セルニ際シ各細胞内ニ一個ノ小球ヲ發見シ之ヲ細胞核ト號シ、シユライデン(Schleiden)及ビネーゲリー(Nägeli)ノ兩氏ハ此ノ球体ノ植物細胞ニ一般ニ分布セルヤ否ヤヲ研究シタリ其後三十年ヲ經テシユライデン氏ハ植物細胞核ヲ研究シ、シユワン(Schwann)氏ハ動物細胞核ヲ研究シ孰レモ之ヲ以テ細胞造成ノ中點トナシタリ即細胞核ノ細胞内ニ新ニ生ズルハ恰モ結晶体ノ新ニ生ズルガ如ク而〆細胞ハ此核ヲ中點トシテ新ニ生ズト此ノ考案ハ今ヨリ見レバ誤解ナリ然レ𪜈コレ植物細胞學ニ一進路ヲ開キタリト云ベク後世研究ノ基トナルヿ蓋尠少ニアラザルナリ

斯クノ如ク細胞含有物及ビ細胞形成ノ研究盛ナリシト雖モ未ダ含有物ノ性質如何ニ就テハ學者ノ知ル所極テ

不完全ニシテシユライデン氏ノ如キ之ヲ以テでむトナシタリ、之ヲ以テ含窒素物ナリト認定セルモノ實ニネーゲリー氏ヲ以テ最始トス氏曰此ノ物質ハほもげんニシテ濃厚無色ナル粘質物ナリ幼若ナル植物細胞ヲ充盈シ老イタルモノニ於テハ唯其一部分ヲ充盈ス此粘質物ハ決テ純一物ニ非ズ、むで若クハ砂糖ノ如キ三素抱合物ト四素抱合物タルぷろていん質トノ混合物ナラント、フーゴー、フオン、モール(Hugo von Mohl)及ビネーゲリーノ兩氏ハ其總テ生活細胞内ニ存在スルヿヲ發見シモール氏ハ千八百四十六年之ニProtoplasma原形質ナル名稱ヲ下セリ

シユライデン氏ハ植物細胞ヲ研究シシユワン氏ハ動物細胞ヲ研究シ其成蹟大ニ類似スルモノアリ動植物ノ細胞論將ニ同一トナルノ傾キアリ千八百四十三年シユライデン及ビネーゲリー兩氏合著ノZeitschrift für Wissenschaftliche Botanik(理學的植物學雜誌)紙上ニ於テケーリケル(Kölliker)氏論ジテ曰ク植物學及ビ動物學ハ兩學者相協力シテ同一ノ方向ニ研究ヲ勉メ始メテ確實ニシテ迅速ナル進歩ヲ期スベク兩者互ニ他方ニ注意スルヿナケレバ其進歩到底期スベカラズトシユワン氏ハ其有名ナルMikroskopische Untersuchungen über die Uebereinstimmung in der Structur und dem Wachsthum der Thiere und Pflanzen(動植物ノ構造及ビ生長ノ相符合セルヿノ顯微鏡研究)ノ緒言ニ於テ、シユライデン氏ガ植物學上ノ研究ニヨリ大ニ自ラ益スル所アリタリトノヿヲ特筆シタリ又ケーリケル氏ハシユワン氏ノ書未ダ世ニ出デザル前高等ノ組織ト細胞トノ關係ノ明確ナラザリシヿヲ論ジ且シユワン氏ノ書出デ始メテ動物細胞學起リタリトノヿヲ論ジタリ先是人皆動物ト植物トノ間ニ判然タル境堺アルヿヲ信ジ啻ニエーレンベルク(Ehrenberg)氏ノミナラズフオンシーボルト(Von Siebold)氏ノ如キモ植物ト動物トハ全ク其性質ヲ異ニシ動物ニモ植物ニモ類似セルガ如キ中間物

之ナシト説キタリ氏曰植物ノ性タル常ニ不動ニシテ强固ナルニアリ然レ𪜈動物ハ其体ヲ收縮シ及ヒ膨脹スルノ力アリト此動物ノ收縮物質ニ就キジユジヤルダン(Dujardin)及ビエツケル(Ecker)ノ兩氏ハ記シテ曰ほもげん或ハ顆粒狀、透明、蛋白質樣、粘質而メ軟弱ナリ、强ク光線ヲ居折シ、凝固スベク又其内部ニ水ヲ以テ充盈セル空所ヲ形成スルノ力アリトジユジヤルダン氏ハ是物質ヲ Sarcode ト稱シ此空所ヲ Vacuole ト唱ヘタリ

ブレスラウノフェルヂナンド、コーン(Ferdinand Cohn)氏ハ Protococcus pluvialis ト稱スル奇ナル單細胞ノ藻ヲ研究シ動物 Sarcode ノ性質大ニ植物細胞ノ含有物ニ酷似スルヿヲ論ジタリコレ千八百五十年ナリコーン氏曰 Sarcode ガ有スル性質ハ植物生活作用殊ニ其内部ニ於ケル運動ノ源ナリト呼バル丶細胞内ノ物質原形質亦之ヲ有ス啻ニ其光學的化學的、性質ノ相似タルノミニアラズ Vacuole ヲ造ルノ力モ常ニ植物ノ原形質ハ之ヲ有スコレタヾ細胞内ノミナラズ生活セル細胞以外ニモ此力ヲ有ス是ニ因テ之ヲ觀レバ植物家ノ所謂原形質 Protoplasma ト動物家ノ所謂收縮物質 Sarcode トハ假令同一物ナラザルモ亦大ニ相類似セルモノタラザルベカラズト

十三年ヲ經テ千八百六十三年マックス、シュルツェ(Max Schultze)氏ハ其有名ナル Das Protoplasma der Rhizopoden und der Pflanzenzellen(根足虫及ビ植物細胞ノ原形質)ニ於テ之ト同樣ノ意見ヲ吐露シ而カモ動植物ノ生活細胞ノ含有物ノ相符合セルヿヲ主トシテ研究シタリ是時ニ當リ恰モアントン、デバリー(Anton de Bary)氏ノ Myxomycetes (粘液菌論)及ビエルンスト、ヘッケル(Ernst Häckel)氏ノ Rhizopoden (根足虫論)世ニ出デ愈此説ヲシテ明確ナラシメタリ茲ニ於テカマックス、シュルツェ氏ガ動物學上 Sarcode ト云フ語ニ代ヘ用ヰ

タル植物學上ノ語 Protoplasma ハ直ニ一般動物學上ニ用ヰラル丶ニ至リ Sarcode ナル語ハ今ヤ廢シテ之ヲ用ヰル人ナキニ至レリ

其後一年ヲ經テ千八百六十四年、キユーネ (W. Kühne) 氏ガ Untersuchungen über das Protoplasma und die Contractilität (原形質及ビ收縮性ノ研究) ニ於テハ筋肉ノ原形質、アミーバ、根足虫、粘液菌及ビ植物細胞ノ物質トヲ同一ニ論ゼリ、然レモ未ダ植物体内ニ於ケル生活作用ハ皆悉ク其源ヲ原形質ニ發スルヿハ人ノ知ラザル所ナリキサレバホフマイステル (Hofmeister) 氏ノ如キモ植物ノ種々ノ生活現象ヲ以テ外界ノ細胞膜ニ對セル影響ナリトシタリ、而ノ原形質ガ生活上眞正ノ必順物タルヿヲ明解シタルモノ實ニユリユース、サックス (Julius Sachs) 氏ノ偉效トス

（未完）

○ハムブリー氏及ヲリヴエル氏ノ生藥品及ビ經濟植物學ニ關スル穿鑿

（前號ノ續キ）

澤田駒次郎譯

支那安南及ヒリツプヒン諸島

大黄 (Rhubarb) 支那ノ西方諸省及ヒ其近邊ノ地ニ產スル大黄ノ眞正ナル根元猶ホ未ダ確定セズ此植物ノ生根及ヒ種子幷ニ善ク知ラレタル此生藥ヲ採集シテ之ヲ乾燥スルヿノ充分ナル解說ヲ得ンヿヲ要ス

樟腦 (Camphor) 貿易品トスルモノハ臺灣及ヒ日本ヨリ之ヲ得ウ本品ハ支那ニ產スルヤ又何レノ所ニ產スルヤ樟樹ノ支那中部諸州ニ繁殖スルヿハ善ク覺知セラレタリ艾ト稱シ「アルテミシア」(ウチルムウード)ノ種類ヨリ得ルト稱スル樟腦ハ如何ナルモノナルヤ其數磅ヲ得ンヿヲ要ス

China Root. 本生藥ハ廣東港ヨリ歐羅巴ヘ輸出ス此植物ハ河南、廣東及ビ廣西ノ諸省ニ產スト云ヘリ此良好ノ標本ヲ得ンヿヲ要ス又「グリン、パッチ」ト稱スル根ハ寧波ヨリ多量ニ輸出ス此レ馬兜鈴屬ノ一植物トス其種名ヲ確定スル爲メニ根及ヒ此臘葉ヲ得ンヿヲ要ス

Cassia bark. 支那南部ニ於テ此皮ヲ產出スル樹ノ標本ハ大イニ要求スル所ノモノトス植物學的標本ニハ總テ同種ノモノヨリ得タル若皮及ヒ老皮ノ好キ標本ヲ包括セザルベカラズ

Cassia buds. 本生藥ハ樟屬植物ノ未熟ノ果實トス本植物ヨリ樹皮ヲ產出スト想像ス

竹 (Bamboo) 支那人ガ茶箱ノ裏張リノ爲メ一集ニ縫合ハセル所ノ廣濶ナル葉ヲ生ズル竹ノ花ヲ有スル標本ハ其種ヲ決定スル爲メ之ヲ得ンヿヲ要求スルモノトス

大茴香 (Star Ains)支那南部ノ產物ナル此香料ニ關シ其報告ハ目擊セシ人ニ因テ蒐集セラレンヿヲ要ス本生藥ハホキエン一艙船ニテ廣東ノ市場ニ輸入スト云ヘリ其樹ノ植物學的標本ヲ得其實ノ採集ニ關シタル總テ特異ノ件々ヲ知ランヿヲ要ス

支那產薄荷油 (Chinese Oil of Peppermint) 此油ハ廣東ニ於テ蒸餾スト云フ之ニ使用スト見受タル植物ノ壓搾及ビ乾燥シタル植物ノ標本ハ其名稱ヲ決定スル爲メ英國ニ運輸セザルベカラザルモノトス

カルダモム (Cardamoms) 支那人ノ因テ Yang-Chun-Sha ト稱シ藥劑者ノ Hairy China Cardamon ト稱スル此「カルダモム」ノ根元ハ如何ナルモノナルヤ宜シク考究スベシ此レハ廣東ノ省ニ於テ生出スト而シテ之ヲ安南ノ土產ト謂テ可ナリ又形ヲ大イニシテ圓形ナル支那產アリ之ヲ大圓形支那產「カルダモム」ト稱ス而シテ支那人ノ Tsaou-Kow ト稱スル薑科屬植物ノ果實ハ其根元全ク知ラレザルモノトス又 Bitter-Seeded Cardamon, Yih-tsze 及ヒ Ovoid China Cardamon, Tsaou-Kow or qua-leu. モ之ニ同シ是等ハ蓋シ皆ナ支那南部及ヒ安南ノ產物タリ

St. Ignatius Beans 本品ハヒーリピイン諸島ニ於テ「コヤコイ」或ハ「ペーピタ、デ、カトバロガン」ト稱ス該植物ハ小林娜斯氏ガ「イクナチア、アマラ」ナル名稱ヲ附與セシ纏繞灌木ナリト云ヘリ蓋シ「ストリクノス」ノ一種ニシテ方今ノ植物家ニ知ラレザルモノトス此植物ハヒーリピイン諸島中バチサヤ群島ノボーホル及ヒセブ兩島ニ生育スルモノト信ズ本植物ハ大イニ貴重スベキモノヽ一ナルガ故ニ花ヲ有スル夥多ノ標本幷ニ完全ナル果實ノ乾燥シタルモノ酒精ニ浸シタルモノ兩樣共又表皮ヲ有シタル幹ノ小切レ若干個ヲ得ルノ機會アラバ決シテ之ヲ失フベカラズ

越列密（Elemi）此樹脂ハヒーリピインス諸林中ヨリ夥多ニ產出ス其所ニテ此樹脂ハ焚火ニ愉快ナル火燄ヲ附與スルヲ以テ遊歷人ハ屢バ其助ケ借ルヿ有リ又之ヲ藥品トシテマニルラヨリ輸出ス其之ヲ產出スル樹ハ多分 Canarium. ナルベケレドモ精密ニ其種類ヲ決定スル爲メニ花及ヒ酒精ニ浸シタル稔熟ノ果實ヲ包括セル完全ノ標本ヲ得ンヿヲ要求ス

（以下次號）

○花の黑色

蠡海集云、草木の花、雖レ曰二五色一、獨無二黑色一黑を水の色とす、母道也、母は但陰二育於中一、故不レ現也、按、蠶豆花のごとき白黑相雜るといへども、其黑色黯々墨のごとし、古人此色を紫といふものは甚非なり、唯此花此色をあらはす、いまだしらず、此他此色ある事を恨らくは不二純色一、雖レ然黑白相半、尤分明則化工之妙、不レ可二測識一矣

○附錄

「アイヌ」ト日本語對照北海道植物名一班

此表ハ神保小虎、明治廿一年ヨリ今日ニ至ル迄本道各地山川經歷ノ際實地ニ臨ミテ親カラ「アイヌ」ニ質問シ叉ハ實地標本ニ付キ土人ニ質シタル處ノ「アイヌ」語ノ植物名ナリトス故ニ不完全ナル日本ノ假名ヲ用ヒズ總テ羅馬字ニ依リ實音ニ符合セルヿヲ務メタリ宮部金吾ハ神保小虎ノ採集品ヲ識別シテ「ラテン」名並ニ和名ヲ附セリ此表ニ有ル者ノ外ニ尙多クノ「アイヌ」名有リト雖モ神保ガ親シク「アイヌ」ヨリ聞カザル者ハ大抵之ヲ除キ去レリ彼ノ舊來ノ「アイヌ」語學者ガ不完全ナル書キ方ニテ記セル者叉タ誤聽ノ疑アル者ハ總テ之ヲ省ク植物ノ名稱ハ部落ニ因リテ多少ノ差アリ(大ナル立木ニハ其例甚少シ)故ニ名ニ副ヘテ其部落ノ名ヲ附記ス（但シ便利ノ爲メ略字ヲ用フ(十)ハ十勝(石)ハ石狩(天)ハ天鹽(沙)ハ沙流ノ略ナリ）

此表ヤ單ニ學者ノ翫具ニ非ズ本道ニ來リテ山間ノ僻地ニ採集ヲ爲サントセバ多ク「アイヌ」ノ嚮導ヲ要ス而〆叉植物ノ辨別ニハ頗ル「アイヌ」ノ秀デタルヿヲ見ル可シ例バ「ヤナギ」ノ種類(Salix)モ「アイヌ」ハ之ヲ七種ニ分チ通常ノ(不注意ナル)日本人ハ單ニ「ヤナギ」ト總稱スルノミ故ニ此表ハ屢其要ヲ感ズルヿ有リ

「アイヌ」語中ノ通音等ハ爰ニ述サルト雖𪜈此表中ニ記載スル處ノ「アイヌ」語ニハ決シテ其發音ノ區々ナルヨリ生ズル處ノ混雜ヲ見ザル可シ

「アイヌ」語ハ神保ノ撰集ニ係リ稀レニ横山壯次郞氏ノ撰ニ係ルモノアリ(横山氏モ亦タ「アイヌ」ノ發音ヲ知レリ)其ノ學名並和名ハ宮部ノ識別撰定ニ因ル者ナリ爰ニ再言ス

明治廿五年壹月

宮部金吾
神保小虎

Ainu names of Hokkaido plants.

學名并ニ日本名	アイヌ名
Thalictrum aquilegifolium, L. カラマツサウ	Arikko. (十,沙,等)
Anemone flaccida, Fr. Schm. ガジヤウサウ	Pukusakina.
Caltha palustris, L. リウキンクワ○エンコウサウ	Pui.
Trollius patulus, Salisb. キツバイサウ	Katam. (十,等)
Aconitum Fischeri, Reich. トリカブト	Surugu.
Pœonia obovata, Maxim. ヤマシヤクヤク	Horap 又ハ Orap.
Cercidiphyllum japonicum, Sieb. et Zucc. カツラ	Rango.
Magnolia Kobus, DC. コブシ	Omaukushini, (十, 天, 石, 等.)又ハ Opkeni (沙等).
Magnolia hypoleuca, S. et Z. ホヽノキ	Pushini.
Schizandra chinensis, Bail. テウセンゴミシ	Repnihat, (沙, 十 等) 又ハ Hurehap (十,等).
Nuphar japonicum, DC. カハホネ	Kapato.
Chelidonium majus, L. クサノワウ	Otumpuikina. (沙等).横山氏ニ從フ
Corydalis ambigua, Cham. et Schlecht. エンゴサク	Toma.
Macropodium pterospermum, Fr. Schm. ハクサンナヅナ	Setaatane (十等)
Isatis tinctoria, L. エゾタイセイ	Setaatane (沙等)
Viola sylvestris, Kit. タチツボスミレ	Harikko(十) 横山氏ニ從フ
Cucubalus bacciferus, L. var. japonica, Miq. ナンバンハコベ	Paskuttara.
Actinidia arguta, Planch. コクハ○サルナシ	Kutchi-pungara. 其實ヲ Kutchi ト云フ.
Actinidia Kolomikta, Maxim. ミヤママタヽビ	Chikap-kutchi (十,等)
Tilia cordata, jill. var. japonica, Miq. シナノキ	Nibeshini, (十,沙,石等) 又ハ Kukerekepni (十.).
Tilia Miqueliana, Maxim. forma. オホハボダイジユ	Yainipeshi (沙等)

附錄

學名并ニ日本名	アイヌ名
Xanthoxylum piperitum, DC. サンセウ	Kanchi kamani (沙,等)
Phellodendron amurense, Rupr. キハダ○シコロ	Shikere beni
Picrasma ailanthoides, Planch. ニガキ	Shuni (沙,十等) 又ハ Yukraigeni (天)
Ilex crenata, Thunb. イヌツゲ	Aikashupni (十)
Evonymus oxyphylla, Miq. ツリバナ	Kongeni.
Evonymus europæa, L. var. Hamiltoniana, Maxim. マユミ	Kashupni
Celastrus articulata, Thunb. ツルムメモドキ	Haipungara (十等)
Vitis coignetiæ, Pulliat. ヤマブダウ	Hatpungara. 其果實チ Hat ト云フ
Acer pictum, Thunb. イタヤ	Shi-topeni.
Acer spicatum, Lam. var. ukuruduense, Maxim. オガラバナ	Iwa topeni (沙,十,天,等)
Acer japonicum, Thunb. メイゲツカヘデ	Iwa-topeni (十,等)
Acer palmatum, Thunb. ヤマモミヂ	Iwatopeni (十,等)
Acer Miyabei, Maxim. クロビイタヤ	Yaiwende-topeni (十) 又ハ Nitat'topeni (沙等)
Staphylea bumalda, S et Z. ミツバウツギ	Aibashikeni (十) ハナヒリノキ モ同シ名ニテ呼ブ
Rhus trichocarpa, Miq. ヤマウルシ	Ushini 又ハ Ushi-chikuni (沙)
Rhus Toxicodendron, L. var. radicans, Miq. ツタウルシ	Ushi-pungara.
Astragalus sp. ワウギノ一種(紅花ノモノ)	Ikapungara (十,等)
Lespedeza bicolor, Turcz. ハギ	Shingep.
Amphicarpæa Edgeworthii, Benth. var. japonica, Oliv. ヤブマメギンマメ	Eha (十,沙等) 又ハ Ehacha(膽振國ムカワ等).
Cladrastis amurensis, Benth. var. Buergeri, Maxim. イヌエンジユ	Chikubeni
Prunus Pseudo-Cerasus, Lindl. サクラ	Karimbani

附錄

學名幷ニ日本名		アイヌ名
Prunus Padus, L.	エゾノウハミヅザクラ	Kikinni (天,沙,等.)
Prunus Ssiori, Fr. Schm.	シウリ○ウハミヅザクラ	Shiuri
Spiræa salicifolia, L.	ホザキシモツケ	Nitat-shingep.
Sorbaria sorbifolia, A. Br.	ホザキナナカマド	Shuwashi.
Filipendula kamtschatica, Maxim.	オニシモツケ	Ishimekut (十等) 又ハ Yukkuttara (沙等)
Rubus crataegifolius, Bunge.	タチイチゴ	Yuk-emauri (沙等) 又ハ Kamuihurep (十).
Rubus Idaeus, L., var. strigosus, Maxim.	エゾイチゴ	Emauri (沙)
Rubus occidentalis, L., var. japonicus, Miyabe.	クロイチゴ	Kunne-emeuri (沙)
Rubus phoenicolasius, Maxim.	ウラジロイチコ	? Aenokanni (十)
Rosa rugosa, Thunb.	ハマナス	Mauni
Rosa acicularis, Lindl.	タカネバラ○コハマナス	Ponchikamau (根室國ベシッ宮部)
Pyrus Toringo, Sieb	ズミ	Setani.
Pyrus alnifolia, Koch.	アヅキナシ	Chikap-setani (十,沙,天,等.)
Pyrus aucuparia, Gærtn., var. japonica, Maxim,	ナナカマド	Iwa-kikinni.
Cratægus chlorosarca, Maxim.	エゾオホサンザシ	Abeni (天,石,十,等.)
Saxifraga fusca, Maxim.	クロクモサウ	Chikappui (十)
Hydrangea hortensia, Sm., var. acuminata, A. Gray.	アマチヤ	Iwa-rasupa(十,沙,等.)
Hydrangea paniculata, Sieb.	ノリノキ○サビタ	Rasupa.
Hydrangea scandens, Maxim.	ツルアヂサヰ	Yuk-pungara.
Trapa bispinosa, Roxb., var. incisa, Fr. et Sav.	ヒメビシ	Pekambe.
Cicuta virosa, L.	ドクゼリ	Kimun-opeu. (沙)

學名幷ニ日本名	アイヌ
Anthriscus sylvestris, Hoffm. シヤクヽコジヤク(方言)	Icharikina (沙等) 又ハ Huraruipittok.
Seseli Libanotis, Koch, var. sibirica, DC. イブキバウフウノ一種	Upeu 又ハ Opeu.
Angelica ursina, Maxim. エゾニウ	Porokutu (十) 又ハ Moshiukina (沙等)
Angelica sp. アマニウ	Chishue (沙, ムカワ等)
Heracleum lanatum, Pursh. ハナウド	Pittok.
Aralia racemosa, L., var. sachalinensis, Reg. ウド	Chimakina (十,沙等)
Aralia spinosa, L. タラノキ	Eningeni (沙等) 又ハ Shuatni (十)
Acanthopanax ricinifolium, S. et Z. センノキヽハリギリ	Ai-ushini (注意單ニ Ai-ushini ト云ヘバ Aiushini. Horokaaiushini 並ニ Shuatni ノ名トモナル)
Acanthopanax divaricatum, S. et Z. オニウコギ	Horka-aiushini (沙,千歳等) 又ハ Eningeni (石).
Cornus canadensis, L. ゴゼンタチバナ	Rehamushi.
Cornus macrophylla, Wall. ミヅキ	Utukanni.
Sambucus racemosa, L. ハトコ	Sokoni(沙)又ハ Ainani(十)
Viburnum furcatum, Bl. ムシカリ	Ritenni.
Lonicera coerulea, L. ヨノミ	Enumitanne.
Lonicera Maximowoiczii, Rupr. アカバナノヒヨウタンボク	Ponechi (北見.宮部)
Diervilla Middendorffiana, Carr. アヲバナハコネウツギ	Kamuni-aikarip.
Patrinia scabiosaefolia, Link. オミナヘシ	Tapkarakina.
Achillea Ptarmica, L. エゾノコギリサウ	Shirushinoya (十) 又ハ Retannoya. (十).
Artemisia vulgaris, L. ヨモギ	Noya.
Artemisia sacrorum, Ledeb. イハヨモギ	Nupunnoya.

學名并ニ日本爲	アイヌ名
Petasites japonicus, Miq. フキ	Korokoni;其葉ヲKoro云フ;又其臺ヲMakayoト云フ
Senecio sagittatus, Schultz Bip. ボウナ	Wakkakuttara (沙) 又 Wakkakut (十.)
Senecio palmatus, Pall. ハンゴンサウ	Oromun (沙.等); Pekambekuttara (石); Pekambekut (十.)
Cnicus sp. アザミノ類	Antsami (十等); Aiushikuttara, (石等)
Adenophora verticillata, Fisch. ツリガネニンジン	Mukekashi.
Glosocomia lanceolata, Sieb. et Zucc. ツルニンジ	Topmuk (鵡川)
Glossocomia ussurdensis, Rupr. et Max. バアソブ	Muki-itangi. (十)
Vaccinium hirtum, Thunb. スノキ	Aikarip (十.等.)
Vaccinium praestans, Lanb. イハツツジ	Echuchari (十.)
Vaccinium ciliatum, Thunb. ナツハゼ	Kamuipungara (十).
Leucothoe Grayana, Max. ハナヒリノキ	Aibashikeni (十等.)
Ledum palustre, L. イソツヽジ	Hashipo (十等.)
Rhododendron parvifolium, Ad. エゾムラサキツヽジ	Hashipokeushut (十).
Symplocos paniculata, Wall. サハフタギ	Nimakkani (天.)
Styrax Obassia, Sieb. & Zucc. ハクウンボク	Nimakkani (十.)
Syringa amurensis, Rupr., var. japonica, Max. ハシドイ	Pungau.
Fraxinus mandshurica, Rupr. ヤチダモ	Pinni.
Fraxinus longicuspis, Sieb. et Zucc. アヲダモ	Iwani (十,沙,等.)
Convolvulus japonicus, Thunb. ヒルガホ	Ken.
Veronica sibirica, L. クカイサウ	Setasara (千歲); Ummasara (沙); Moshoshbekut (十).

(以下次號)

Ainu names of Hokkaido plants.

學名竝ニ日本名	アイヌ名
Caryopteris divaricata, Max. カリガネサウ	Huraruimun (十)
Polygonum sachalinense, Fr. Schm. オホイタドリ	Ikokut 叉ハ Kuttara.
Daphne chinensis, Lam. var. カラスシキミ	Ketuhase (鵡川)
Elæagnus umbellata, Thunb アキグミ	Shusumauni (白老等)
Daphniphyllum humile, Max. エゾユヅリハ	Riyaham 叉ハ Riyahamushi.
Ulmus campestris, Sm. ニレ; アカダモ	Chikisani.
Ulmus montana, Sm., var. laciniata, Trautv. オヒヨウ	Atni.
Morus alba, L. クハ	Turepni (沙) 叉ハ Teshmani.
Humulus Lupulus, L. カラハナサウ	Ohurukotuibemun. (十)
Urtica dioica, L., var. platyphylla, Wedd. オホバイラクサ	Iririp (十, エトロフ 等)
Laportea bulbifera, Wedd. ムカゴイラクサ	Hai 叉 Kapai.
Elatostema sessile, Forst., var. cuspidatum, Wedd. ムカゴミヅ	Ninji (鵡川)
Juglans Sieboldiana, Max. オニグルミ	Neshikoni (十, 沙, 石等) 叉 Ninumni (十), 其實ヲ Ninum ト云フ
Betula alba, L. var. vulgaris, DC. シラカンバ	Kitat.
Betula alba, L. var. シラカンバノ一種ニシテ白皮厚ク赤味ヲ帶ブルモノ	Pettat (十, 沙 等)
Betula Ermani, Cham. タケカンバ	Kamuitat (十 等)
Betula Maximowicziana, Regel. サイバダカンバ	Shitat. Karimba-tat ハ其若キモノヲ云フ (十,沙等)
Alnus incana, Willd. ヤマハンノキ	Kene.
Alnus maritima, Nutt. ハンノキ	Nitatkene.

學名並ニ日本名	アイヌ名
Aluns viridis, DC., var. sibirica, Reg. ミヤマハンノキ	Horokeu kene (十, 石, 千歲等)
Carpinus cordata, Bl. サハシデ	Paseni.
Quercus dentata, Th. カシハ	Komni 又 Tunni.
Quercus crispula, Bl. オホナラ	Peroni.
Quercus grosseserrata, Bl. ミヅナラ	
Castanea vulgaris, Lam. var. japonica, DC. クリ	Yamni; Yam ハ其實ナリ
Salix Caprea, L. ヤマネコヤナギ	Chipnisusu (十, 等) Meraomani (天, 等)
Salix subfragilis, Anders. オホバヤナギ	Chipnisusu (十, 等) Shisusu (十, 等)
Salix cardiophylla, Trautv. et Mey. シカヤナキ	Toisusu (十, 等)
Salix acutifolia, Willd. エゾヤナギ	Shisusu (十, 等)
Salix stipularis, Sm. ナガバヤナギ	Shisusu (十, 等)
Salix viminalis, L. キヌヤナギ	Petsusu (十, 等) Yayaisusu (十, 等)
Salix sp. エゾノクロヤナギ	Rambara (十, 等)
Salix sp. イナウヤナギ	Inaonishusu (十, 等)
Salix. sp. カタヤナギ	Shitushikoro (十, 等)
Populus suaveolens, Fisch. ドロヤナギ	Yaini (沙, 鵡川等) Kurunni (十, 等)
Populus tremula, L. ハコヤナギ	Nupkurunni (十) 又ハ Kurunni.
Empetrum nigrum, L. ガンカウラン	Ichikimaimai.
Cephalotaxus drupacea, Sieb. et Zucc. イヌガヤ	Kanatni (十, 等); Anatni (沙 等) 又ハ Hanatni.
Taxus cuspidata, Sieb. et Zucc. ヲンコ	Rarumani 又ハ Raramani.
Pinus pentaphylla, Mayr. ゴエフマツ	Chikap-hup (十, 等)

學名並ニ日本名	アイヌ名
Pinus pumila, Regel. ハヒマツ	Henekkere (エトロフ等) Todonup (沙,石,十,天等)
Picea ajanensis, Fisch. エゾマツ	Shungu (並ニ Picea ノ總名) Shishungu.
Picea Glehni, Fr. Schm. アカエゾマツ	Chikap-shungu (沙,十等)
Abies sachalinensis, Masters. var. japonica, Maxim. トドマツ	Hup.
Larix dahurica, Turcz. クイマツ シコタンマツ	Kui (エトロフ, 樺太)
Iris sibirica, L. アヤメ	Chebeukute (十) Kepeu kotekina (千歲)
Asparagus schoberiodes, Kunth. キジカクシ	Tōpishikimun (十)
Polygonatum giganteum, Dietr., var. falcatum, Max. ナルコユリ	Etorurat'kip.
Convallaria majalis, L. キミカケサウ	Chironnupkina (十) Etorurat'kip (沙)
Funkia ovata, Spreng. ギバウシ	Ukurukina. Okurukina.
Allium victoriale, L. ギヤウジヤニンニク	Pukusa.
Lilium Glehni, Fr. Schm. オホウバユリ	Turep.
Fritillaria kamtschatensis, Gawl. クロユリ	Anrakoro.
Erythronium dens-canis, L. カタクリ	Eshkerimrim.
Clintonia udensis, Trautv. et Mey. ツバメオモト	Nimakikutu (十) Huppokushmun (白老)
Trillium kamtschaticum, Pall. シロバナノエンレイサウ	Korokaomap (十) Retarakina-emauri, (沙) 又ハ Emauri (釧路)
Trillium Smalli, Max. エンレイサウ	Kunnekina-emauri (沙) Kenashioromap (十)
Veratrum album, L. var. grandiflorum, Maxim.	

學名並ニ日本名	アイヌ名
バイケイサウ	Hoshikiteine (石,十等)
Typha japonica, Miq. ガマ	Shikina 又ハ Kina.
Arisaema japonicum, Bl. テンナンセウ	Raurau (沙等)
Lysichiton kamtschatensis, Schott. ミヅバセウ	Parakina. (沙)
Carex Buxbaumi, Wahl. チシマスゲ	Isepo-keremun, (十)
Carex cryptocarpa, C. A. Mey. ヤラメ	Petpaushi (十)
Carex vulgaris, Fr. アゼスゲ	Unchakina (是ハスゲ類ノ總名ナリ)
Setaria viridis, Beauv. エノコログサ	Setamunchiro (沙)
Oryza sativa, L. イネ	Amam.
Miscanthus japonicus, Benth. スヽキ	Rabembe (沙等) Nupkaushi (十,石等)
“ 一種大ナルモノ	Nupki.
Phragmites communis, Trin. ヨシ	Saraki (十等) Shupki.
Glyceria aquatica, Sm.? ヒロハノドジヨウツナギ?	Iseposaraki (十)
Elymus mollis, Trin. ハマニンニク	Muri.
Bambusa senanensis, Fr. et Sav. クマザヽ;スヽタケ	Aiushitop (沙,十等) Opnetop (千歲等)
Bambusa spiculosa, Miyabe. ヤダケ	Chichap (十等)
Bambusa kurilensis, Miyabe. チシマザサ	Yayantop (十等)
Equisetum hyemale, L. トクサ	Shipship.
Onoclea germanica, W. クサソテツ	Soroma.
Pteris aquilina, L. ワラビ	Tuwa.
Aspidium viridescens, Miq. コガネワラビ	Kamui-soroma.
Scolopendrium vulgare, Sm. コタニワタリ	Shutukerekina (十等) Ehurupeshi (鵡川)

(完)

顯花植物分科撿索表

緒言

一我ガ邦顯花植物ノ自然分科ヲ撿索スルノ書之ナキニ非ズト雖モ外國植物家ガ自國植物ノ分科撿索用ノ爲編輯セルモノヲ飜譯セルモノナルガ故ニ之ヲ風土ヲ異ニシ植物ヲ異ニセル我ガ邦ニ適用セントスレバ多少ノ不便ナキ能ハズ其不便概ネ左ノ如シ

第一　彼國ニ無クシテ我ガ邦ニ産スル植物ノ分科ヲ撿索シ能ハザルヿ

第二　分科ノ記載ハ彼國植物ノ標徵ニ依リタルモノナレバ同一ノ分科ト雖モ異類ノ植物ヲ含ム時ハ其ノ記載往々我ガ邦ノモノニ符合セザルヿ隨テ斯クノ如キ科ニ屬スル植物ノ分科ヲ撿索シ能ハザルヿ

一昨年春獨乙國出版ノ Franz Thonner 氏著 Anleitung zum Bestimmen der Familien der Phanerogamen ハ全世界顯花植物撿索ノ爲編輯セルモノナレバ斯クノ如キ不便アルヿナク如何ナル植物ト雖モ顯花部ニ屬シ且充分ナル機關ヲ備具セルモノナレバ撿索シ得ザルモノナシ今之ヲ邦語ニ譯シ植物學雜誌ニ出シ初學者ノ便ニ供ス

一此ノ書ハ一國ニ限ラズ廣ク全世界ノ顯花植物ニ係ハルモノナルガ故其ノ文章從來ノ書ニ於ケルガ如ク簡單ナル能ハズ却テ大ニ煩冗ニ渉ルノ嫌アリ故ニ今譯スルニ當リ稍々省略ヲ加ヘタレ共尚煩冗ヲ免レズコレ此ノ書ノ性質上止ムヲ得ザルナリ省略ニ過グレバ撿索ノ用ニ適セザルガ故ナリ

明治二十五年十一月十日發兌

一此ノ書ノ分科ハ英國出版 Bentham et Hooker, Genera Plantarum ニ依ルコレ古來ノ大著ニシテ此ノ書ノ如ク完備ナルモノ他ニコレアラザレバナリ但當時出版中ノ獨乙書 Engler und Prantl, Die natürlichen Pflanzenfamilien ハベ、フ兩氏ノ書ニ優ルヿ遙ニ數等ニ位スト雖モ惜哉未ダ其ノ出版ヲ了セル部僅ニ全部ノ三分二ニ過ギズ故ニ未ダ之ヲ用ヰル能ハズ同書全備ノ上此ノ書ニ倣ヒ改頁ヲ加ヘナバ今日進歩セル記載學ノ狀態ニ適セル好書トモナランカ

一分科記載ノ語ハ總テベ、フ兩氏ノ使用セルモノニ從ヒ方今進歩セル記載學ノ新語ヲ用ヰズ從來ノ語ハ慣用久シキガ故人之ヲ用ヰ新語ハ其ノ成リタルヨリ日尚淺ク未ダ人ノ目ニ慣レザルガ故ナリ

一分科ノ順序ハベ、フ兩氏ノ書ニ少ク異リ其ノ點左ノ如シ

第一　裸子類ハ双子葉類ノ内ニ入レズ獨立トナスヿ

第二　被子類ハ單子葉類ヨリ双子葉類ニ移ルヿ

一植物ノ科名ヲ唱フルニ漢名ヲ用ヰルヿ我ガ邦植物家ノ爲ス所ナリ例ヘバ蘇鐵科眼子菜科ノ如シ余ハ種々ノ理由ヨリシテ漢名ヲ用ヰルヿニ贊成スル能ハズ因テ世間ノ風潮ニ逆フノ嫌アルニモ拘ラズ唇形科或ハ繖形科ノ如キ植物名ヲ以テ呼バザルモノヽ外ハ一切漢名ヲ用ヰズ平假名ヲ以テ之ヲ示ス例ヘバそてつ科ひるむしろ科ノ如シ

一書中科ノ洋名ヲ記スルニ「イタリック」体ヲ用ヰタルモノハ我邦産ナキ植物ノ分科名トス邦産ノ有無判然セザルモノハ本体ヲ用フ

池野成一郎記ス

顯花植物 Phanerogamae.

(I)(a) 胚珠直ニ花軸上ニ生ズ或ハ心皮アルモ胚珠ヲ包圍スルヿナシ　裸子植物 Gymnospermæ.

(b) 心皮ハ胚珠ヲ包圍シ以テ子房ヲ爲ス　被子植物 Angiospermæ.

(II)(a) 維管束ハ莖ノ横斷面ニ不規則ニ散布ス葉ハ平行脉稀ニ網狀脉或ハ無葉、胚ハ一個ノ子葉ヲ有ス花ハ多ク三出　單子葉植物 Monocotyledones.

(b) 維管束ハ莖ノ横斷面ニ輪狀ニ排列ス葉ハ多ク網狀脉稀ニ一脉往々鱗片ニ化シ或ハ唯葉柄ノミニ變ジ或ハ全然欠如極テ稀ニ平行脉、胚ハ二個ノ子葉ヲ有ス花ハ多ク四―五出　双子葉植物 Dicotyledones.

(III)(a) 花被ニ萼花冠ノ區別ナク或ハ全然欠如稀ニ内外被少ク其色彩ヲ異ニスルヿアレバ其葉數五以上ニ上ルヿナシ　無瓣花類 Monochlamydeæ.

(b) 花被ニ萼花冠ノ區別アリ（單性花ニ於テハ少クモ雌雄花其一ニ於テ）稀ニ區別ナキヿアレバ其數五以上ナリ　IV

(IV)(a) 花瓣ハ全ク相分離シ稀ニ其頂點ニ合着スルヿアルモ其下部ハ必ズ分離ス（單性花ニ於テハ少クモ雌雄花ノ内其一ニ於テ）　多瓣花類 Polypetalæ.

(b) 花瓣ハ其基底ニ於テ或ハ上部ニ於テモ（往々全然）相合着ス　合瓣花類 Gamopetalæ.

裸子植物

(1)(a)葉ハ羽状複葉或ハ羽状裂、巨大、莖ノ頂上ニ密生ス莖ハ柱状或ハ塊状多クハ分枝セズ

そてつ科　Cycadaceæ.

(b)葉ハ深裂セズ稀ニ分裂或ハ欠如、小或ハ稍大(多クハ針状或ハ鱗状)、分枝セル莖ノ枝ニ散布ス極テ稀ニ莖ハ蕪菁状ニシテ初メ分裂セズシテ後ニ縦裂スル二個ノ巨大ナル葉ヲ有ス

2

(2)(a)花被アリ雌花ニ於テハ管状雄花ニ於テハ二分裂、稀ニ分裂セズ或ハ四深裂、葉ハ針状ニ非ズ

まわう科　*Gnetaceæ.*

(b)花被缺如(苞ハ多ク存ス)葉ハ多ク針状

まつ科　Coniferæ.

單子葉植物

(1)(a)水草、水中ニ沈ミ或ハ水上ニ浮ブ莖葉ノ區別判然セズ　うきくさ科　Lemnaceæ.

(b)陸生或ハ沼生稀ニ水生莖葉ノ區別アリ或ハ莖葉ノ內一ハ必ズ判然ス　2

(2)(a)葉ハ芽內ニ於テ摺襞ス羽狀或ハ掌狀ニ深裂シ或ハ少クモ二裂、花被六葉胚珠ハ一—七　しゆろ科　Palmæ.

(b)葉ハ分裂セズ又摺襞セズ稀ニ然ルヿアルモ花被四裂或ハ多齒或ハ欠如而テ胚珠ハ多數　3

(3)(a)花ハ肉穗花ヲナス　4

(b)花ハ肉穗花ヲナサズ　8

(4)(a)葉ハ摺襞シ廣ク掌狀、二—四裂（極テ稀ニ分裂セズ或ハ摺襞不明）花ハ一家、雌雄同一ノ肉穗花序中ニアリ各ハ雌花四個ノ雄花群ト交互シ或ハ雄花雌花各々別ニ横ニ列シ一列每ニ交互ス　*Cyclanthaceae.*

(b)葉ハ摺襞セズ花ハ完全或ハ一家、一家ノトキハ雌雄花同花序中ニアリ而メ雌雄花各々別群ヲ爲ス故ニ肉穗花ハ雄花ノ部ト雌花ノ部トヲ有ス極テ稀ニ雌雄花各々別ニ縱列シ二列每ニ交互ス　5

(5)(a)子房ハ三—六多クハ花被アリ稀ニ子房一個ノモノアルモ然ルトキハ海草ナリ　ひるむしろ科　Najadaceæ.

(b)子房一、陸生沼生或ハ淡水生　6

(6)(a) 花ハ多ク完全或ハ一家、一家ノ時ハ雌雄花同一ノ肉穗花序中ニアリ多クハ花被ナシ（稀ニコレアレバ葉ハ羽狀複葉）稀ニ二家、然ル時葉ハ廣ク且掌狀全裂—缺刻或ハ鳥足狀全裂或ハ缺刻雄蕋二—五、葯ハ頂端ニテ開キ胚珠ハ直生　てんなんせう科　Aroideæ.

(b) 花ハ二家、稀ニ一家、一家ノ時雌花雄花、肉穗花ヲ異ニス花被アリ葉ハ分裂セズ狹ク其基底ハ鞘ヲ爲ス平行脉雄蕋六以上、葯ハ縱裂、胚珠ハ倒生　7

(7)(a) 花被及ビ苞ハ欠如、木本稀ニ草本ニシテ無莖或ハ匍匐、葉ハ大抵刺或ハ鋸齒ヲ有ス胚珠ハ一—多數ニシテ上昇、胚甚細微　たこのき科　Pandaneæ.

(b) 花被ハ鱗狀或ハ絲狀水生或ハ沼生草本、莖ハ直立或ハ浮游、葉ハ全邊、無刺子房ハ各室ニ垂下胚珠一個ヲ、有ス胚ハ大ナリ　がま科　Typhaceæ.

(8)(a) 子房下位或ハ半下位　9

(b) 子房上位或ハ殆上位、花被ナキ時ハ裸出　18

(9)(a) 浮ミ或ハ沈メル水生植物、胚珠多數　とちかゞみ科　Hydrocharideæ.

(b) 陸生或ハ沼生植物　10

(10)(a) 成熟雄蕋一、二或ハ五多クハ花柱ト合着、花ハ多ク不整正　11

(b) 成熟雄蕋三或ハ六稀ニ六ヲ超過ス花柱ト合着セズ花ハ大抵整正　12

(11)(a) 成熟雄蕋一個ト不熟雄蕋二個或ハ稀ニ成裂雄蕋二個ト花瓣狀ノ不熟雄蕋一個、花柱ハ雄蕋ト合着、子房ハ一室多胚珠稀ニ三室ニシテ各室多胚珠然ル時ハ雄蕋二個ナリ種子ニ胚乳無シ

らん科 Orchideæ

(b)成熟雄蕋一個ト花瓣狀ノ不熟雄蕋一乃至五個稀ニ成熟雄蕊五個ト不熟雄蕊一個或ハ欠如、不熟雄蕊二個ノ𪜈ハ子房ハ各室ニ胚珠一個ナリ花柱ハ相分離シ或ハ僅ニ雄蕊ト合着（即頂點ニテ葯ト合シ或ハ基底ニテ雄蕊ノ管ト合ス）子房ハ一―三室各室胚珠一個或ハ三室ニシテ各室ニ胚珠三―多數、稀ニ一室ニシテ胚珠多數ナル𪜈ハ花瓣狀不熟雄蕊三個ニシテ花被ハ各々三裂セル蕚及ビ花冠ヨリ成ル　めうが科 Scitamineæ

(12)(a)花ハ單性、莖ハ纏繞或ハ匍匐ス葉ハ往々心臟形ニシテ網狀脈　やまのいも科 Dioscoreaceæ

(b)花ハ完全ナリ　13

(13)(a)雄蕊三個、花被ノ外裂片ニ對生ス、花被ハ六裂　いちはつ科 Irideæ

(b)雄蕊六以上稀ニ三ノ𪜈ハ花被ノ內裂片ニ對生シ或ハ花被三裂　14

(14)(a)花ノ三外片ハ蕚樣、三內片ハ花冠樣、內外ノ裂片ハ共ニ覆瓦樣子房三室、雄蕋六個　アナヽス科 *Bromeliaceæ*

(b)花被ニ蕚花冠ノ區別ナシ　15

(15)(a)子房一室、草本ニシテ葉ハ有柄、根生多クハ網狀脈、巨大、柱頭ハ三個、廣シ各々二裂、反捲ス　*Taccaceæ*

(b)子房三室稀ニ一室然ル𪜈ハ多クハ葉ハ鱗狀、稀ニ葉ノ發達スルヿアルモ柱頭ハ一個ニシテ分裂セズ　16

(16)
(a)子房一室稀ニ三室然ル𪜈ハ雄蕋三個葯ハ横ニ裂開ス花柱ハ三裂
ひるのしやくぢやう科 Burmanniaceæ
(b)子房三室稀ニ一室ノ𪜈ハ花柱及ビ柱頭ハ分裂セズ雄蕋六稀ニ三ナルヿアレバ花柱及ビ柱頭ハ分裂セズ葯ハ縦裂シ或ハ頂上ノ孔穴ヲ以テ裂開ス　17

(17)
(a)胚ハ胚乳ノ縁邊ニアリ然レ𪜈往々深ク其内ニ入ル雄蕋三或ハ六、六ノ𪜈ハ花被ノ裂片ハ多ク一列ニシテ鑷合様或ハ殆然リ、地下莖ハ根莖(決テ鱗莖ナシ)、地上莖ハ多ク葉アリ花ハ聚繖花、圓錐花、穗状花、總状花或ハ小頭花(決テ繖形花ヲナサズ)ヲナシ極テ稀ニ獨生
そくしんらん科 Haemodoraceæ
(b)胚ハ胚乳ニ圍繞セラル雄蕋六稀ニ之ヲ超過ス花被ノ裂片ハ明ニ二列、花ハ繖形花ヲナシ或ハ獨生多クハ無葉ノ花梗上ニアリ鱗莖アリ稀ニ穗状花、總状花或ハ圓錐花ヲナス
したまがり科 Amaryllideæ

(18)
(a)花被ニ萼花冠ノ區別アリ　19
(b)花被ニ萼花冠ノ區別ナク或ハ花被全然欠如ス　25

(19)
(a)花ニ多數ノ心皮アリ心皮ハ相分離シ極テ稀ニ其基底ニテ少ク合着ス、水生或ハ沼生、
おもだか科 Alismaceæ
(b)心皮一個或ハ多數アルモ合着シテ一個ノ子房ヲナス　20

(20)
(a)雄蕋三、子房一室多胚珠(*Xyrideæ* ニ於テハ子房ハ多ク不完全ニ三室然レ𪜈萼片二個ハ小ニシテ苞様一個ハ大ニシテ花瓣様ナリ)　21
(b)雄蕊六稀ニ六以下(つゆくさ科)然ル𪜈ハ子房二—三室(甚稀ニ三室ノ内一室ニ胚珠一個他ハ空虚)ニシテ

萼片ハ三、色彩相同ジ子房二－三室極テ稀ニ（殊ニ *Rapateaceae*）不完全ニ一室

(21)
(a)花瓣ハ分離ス雄蕋ハ花瓣ト合着セズシテ花托上ニアリ葯ハ雄蕋ノ基底ニ附着ス萼片三、色彩相同ジ濕地或ハ沼地ノモノハ匍匐或ハ横臥、淡水ニ生ズルモノハ浮游ス苔ノ如キ觀アリ莖ハ分枝シ葉ハ密生ス花ハ獨生或ハ繖形花ヲナス整正ナリ　*Mayacaceæ*

(b)花瓣ハ基底或ハ之ヨリ高キ點ニ於テ合着、雄蕋ハ花瓣ノ基底ニ附着シ葯ハ雄蕋ノ背部ニ附着ス萼ハ二個ノ小ナル苞様片ト多クハ一個ノ大ナル花瓣様片トヲ有ス草本、葉ハ根生、花梗ハ多ク無葉稀ニ少ク鞘ヲ有シ或ハ基底ニ唯一枚ノ葉ヲ有ス花ハ小頭花ヲナシ稍不整正ナリ　*Xyrideæ*

(22)
(a)胚珠ハ子房ノ各室ニ多數、雄蕋六、葯ハ縱裂開、花柱ハ三個ノ柱頭或ハ柱頭枝ヲ有ス、柱頭枝ハ往々螺旋狀ニ卷ク胚珠ハ倒生、果實ハ蒴、胞背裂開稀ニ漿果ナル𪜈ハ花柱ハ深ク三裂（或ハ大ナル柱頭三個）ニシテ葉ハ網狀脉ナリ　23

(b)胚珠ハ子房ノ各室ニ一－二或ハ三－一〇多クハ四－五、二ヲ超過スル時ハ雄蕋多クハ二－三或ハ葯ハ頂上ノ孔穴ヲ以テ裂開ス稀ニ胚珠一一－二〇ノ時ハ雄蕋二－三、花柱ハ不裂、柱頭ハ不裂或ハ二－三裂（二－三裂ノ𪜈ハ胚珠直生）葯ハ基底ヲ以テ附着ス果實ハ蒴、胞間裂開稀ニ閉果或ハ漿果（つゆくさ科）胚乳粉狀ナリ　24

(23)
(a)種子ノ胚乳ハ多肉質、地上莖ハ鱗莖ヨリ生ジ直立、葉ハ莖ニ散在シ若クハ直立莖ノ頂ニ網狀脉ノ葉三個輪生ス花ハ獨生或ハ僅少ノ花ヲ有スル花序ヲ爲ス　ゆり科　Liliaceæ

(b)種子ノ胚乳ハ粉狀、葉ハ平行脉、莖ノ基底或ハ頂上ニ集積ス稀ニ垂下セル莖ニ散在ス花ハ大抵穗狀花、

圓錐花、總狀花或ハ小頭花ヲナス

アナヽス科　*Bromeliaceæ*

(24)(a)花冠ハ合瓣、雄蕋ハ其咽喉ニ附着ス草本ニシテ花梗ハ分枝セズ葯ハ頂上ニ孔穴或ハ短キ裂目一個アリテ裂開ス胚珠ハ倒生或ハ臍ノ近傍ニアリ　*Rapateaceæ*

(b)多クハ花冠多瓣ニシテ雄蕋之ト合着セズ稀ニ花冠合瓣ニシテ雄蕋之ト合着スルヿアレバ分枝セル草本ナリ葯ハ二個ノ裂目ヲ以テ縱裂シ或ハ頂上ナル二個ノ孔穴ヲ以テ裂開ス胚珠ハ直生、胚ハ臍ヨリ遠シ

つゆくさ科　Commelynaceæ

(25)(a)草本、無葉、葉綠ナシ鱗片ヲ有ス地上ニ生シ腐敗セル物質（木材或ハ葉）上ニ生育ス色アリ（白、黃或ハ赤）花被ハ多少花冠樣、子房ハ多數、各子房ニハ胚珠一個アリ　*Triurideæ*

(b)綠色ニシテ多クハ葉アリ　26

(26)(a)種子ニ胚乳ナシ花ハ分離セル（極テ稀ニ其基底ニテ合セル）心皮多數ヲ有シ多ク花被アリ然ルトキハ大抵水草ナリ）稀ニハ花ニ唯一個ノ子房アリ然ルトキハ沼生植物ニシテ無苞ノ穗狀花若クハ總狀花ヲナシ花被ハ六裂、蕚樣、子房多室、胚珠直生若クハ沈メル淡水植物ニシテ花ハ無苞、獨生或ハ葉腋ニ叢生シ雄花ハ透明、管狀（不分裂或ハ四裂）ノ花被ヲ有シ雄蕋一個、雌花ハ花被ナク（或ハ密着セル花被ヲ有ス）子房一室然ラザレバ海水ニ沈メル植物ニシテ多クハ禾本類ノ如キ葉ヲ有ス

ひるむしろ科　Najadaceæ

(b)種子ニ胚乳アリ花ニハ心皮一個或ハ多數ナレバ相合シテ一個ノ子房ヲナス陸生、沼生或ハ淡水生、花ハ稀ニ無苞然ルトキハ大抵花被花冠樣或ハ花ハ圓錐花若クハ小頭花ヲナシ花被ハ欠如シ或ハ子房多室ナリ花

被六裂ノ𪜈ハ花冠樣或ハ多少乾燥シ或ハ花ハ有柄ノ小頭花ヲナス又雄蕋一個ニシテ子房一室ノ𪜈ハ花ハ穗狀ヲナシ花被鱗狀ニシテ管狀ナラズ 27

(27)(a) 花被ハ花冠樣ナリ 28

(b) 花被ハ蕚樣、時トシテ鱗片或ハ毛ニ變ズ或ハ全然欠如ス 33

(28)(a) 雄蕋四或ハ一、花被ノ裂片ハ四ナリ 29

(b) 雄蕋及ヒ花被ノ裂片ハ各三或ハ六、極テ稀ニ六ヲ超過ス 30

(29)(a) 雄蕋一個、花ハ不整正花被ノ內片ハ外片ヨリ極テ小、子房一室ニシテ胚珠ハ側膜胎坐ニ附着ス或ハ三室ナリ たぬきあやめ科 Philydraceæ

(b) 雄蕋四個、花ハ整正、花被片ニ大小ノ區別ナシ子房一室胚珠ハ其基底或ハ先端ヲ以テ附着ス びやくぶ科 Roxburghiaceæ

(30)(a) 花被三裂、苞ハ覆瓦樣、蕚片ノ內一個ハ多クハ大ニシテ花瓣樣ナリ *Xyrideæ*

(b) 花被ハ六—多裂 31

(31)(a) 胚乳粉狀花ハ穗狀、總狀稀ニ叢生稀ニ圓錐花ヲナシ或ハ獨生、花序ニ佛焰アリ水草稀ニ沼草、浮游或ハ直立 みづあふひ科 Pontederiaceæ

(b) 胚乳多肉、軟骨質或ハ角質、苞ハ多ク微細稀ニ佛焰樣然ル𪜈ハ花序ハ繖形ヲナス陸生稀ニ沼生ナリ 32

(32)(a) 胚ハ胚乳ノ縁邊ニアリ往々深ク其內ニ進入ス草本、往々有毛、根莖アリ短クシテ根塊狀、花被片ハ六個、

多クハ相合着、雄蕋ハ多ク花被ニ附着ス子房ハ多ク花托上ニアリ或ハ其基底ニテ花被管ト合着ス

(b)胚乳ハ胚ヲ圍繞ス花被ハ多少二列子房ハ上位、極テ稀ニ其基底ニテ花被ト少ク合着ス

そくしんらん科　Haemodoraceæ

ゆり科　Liliaceæ

(33)(a)子房一室、胚珠一個、直立或ハ上昇、倒生、葯ハ二個ノ裂ケ目ヲ以テ縦裂シ或ハ二個ノ孔穴ヲ以テ裂開ス花被ハ欠如シ或ハ鱗片狀ニシテ多ク不規則ニ列ス果實ハ裂開セズ　34

(b)胚珠ハ多ク二個以上稀ニ一個ノ時ハ垂生ニシテ直生且葯ハ一個ノ裂ケ目ニテ縦裂ス花被ハ蕚様（少クモ雄花及ビ完全花ニ於テハ）稀ニ欠如スル時ハ果實ハ蒴ナリ

(34)(a)莖葉及ビ内部ノ根生葉ノ鞘ハ合着シテ管ヲナス胚乳ハ其下部ヲ以テ胚ヲ圍繞ス莖ハ多ク稜角ヲ有シ結節ナク稀ニ空虛葉ハ狹隘多ク三列、葉鞘ハ稀ニ小舌ヲ有ス　かやつりぐさ科　Cyperaceæ

(b)葉ノ鞘ハ管ヲナサズ胚ハ胚乳ノ縁邊ニアリテ胚乳ニ圍繞セラルヽヿナシ莖ノ横斷面ハ圓形或ハ平扁結節アリ節間ハ多ク空虛、葉ハ多ク狹隘ニシテ二列葉鞘ニハ小舌アリ　禾本科　Gramineae

(35)(a)花被ハ欠如スレ𪜈多ク二—三個ノ苞アリ花ハ完全或ハ多家、雄蕋一個極テ稀ニ二個、花ハ獨生或ハ短キ穗狀ヲナシ極テ稀ニ小頭花ヲナス然ル時ハ苞ハ欠如シ雄蕋ハ一個ナリ　*Centrolepidaceæ*

(b)花被アリ裂片ハ多ク六稀ニ六以下ノ時ハ花ハ單性ナリ雄蕋三—六稀ニ二ノ時ハ花ハ單性ニシテ大抵小頭花ヲナス　36

(36)(a)雄蕋三個、花被ノ内片ニ對生ス稀ニ花被ノ裂片三個或ハ雄蕋二個、胚珠ハ直生、花（雄花ハ必ズ）ハ小穗

花ヲナシ小穗花ハ相集テ複花序ヲナス（極テ稀ニ雄性小穗花ハ小花ニ化ス）葉ハ鞘狀或ハ全然欠如極テ稀ニ根生葉アリ然ルトキハ子房ニ三個ノ分離セル花柱アリ葯ハ殆ド常ニ一室

Restiaceæ

(b)雄蕊三—六個、三個ノトキハ花ハ穗狀ヲナサズシテ（ゐ科ニ於テハ）雄蕊ノ花被ノ外片ニ對生シ且胚珠直生若クハ殆ド直生或ハ（ほしくさ科ニ於テハ）花ハ小頭花ヲナシ完全ナル葉アリ柱ハ一ニシテ分裂ス葯ハ殆常ニ二室 37

(37)(a)胚珠ハ直生ニシテ垂生、胚ハ臍ヨリ遠シ子房二—三室各室ニ胚珠一個花柱一個、分裂ス、花ハ密ナル小頭花ヲナシ一個ノ總苞アリ單性多クハ一家、果實ハ皮膚樣ノ蒴ナリ

ほしくさ科 Eriocauleæ

(b)胚珠ハ倒生或ハ殆ド然リ胚ハ臍ニ近シ子房二—三室ニシテ各室ニ胚珠一個ノトキハ花柱一個ニシテ分裂セズ或ハ花柱多數或ハ無柱々頭多數且花ハ完全或ハ二家稀ニ小頭花ヲナス胚珠直立或ハ側面ヲ以テ附着、果實ハ多クハ草質或ハ多肉質ナリ

(38)(a)果實ハ石果或ハ漿果、胚乳ハ粉狀、胚ハ其緣邊ニアリ子房三室、各室ニ胚珠一個、柱頭三個ニシテ無柱或ハ短キ花柱一個ニシテ柱頭三個、葯ハ直立其基底ニテ附着、花ハ完全極テ稀ニ二家ナルトキハ葉ハ有柄ニシテ多數ノ縱橫脉アリ

さんとう科 Flagellarieæ

(b)果實ハ蒴、胚乳ハ多少多肉、胚乳ハ胚ヲ圍繞ス子房三室ニシテ各室ニ胚珠一個ノトキハ花柱ハ分裂セズシテ柱頭ハ不分裂若クハ三齒、然ラザレバ葯ハ其背部ヲ以テ附着ス（而メ花ハ二家）葉ハ線形、禾本植物樣

或ハ鞘狀或ハ圓柱形

ゐ科 Juncaceae

無瓣花類

(1)(a)花時子房ハ下位或ハ半下位、花被ハ雌花及ビ完全花ニ於テハ必ズ(雄花ニ於テモ多クハ)存ス　2

(b)花時子房ハ上位、殆ド上位或ハ(花被ノ雌花及ビ完全花ニ欠如スル𪜊ハ)裸出　21

(2)(a)無葉、無葉緑ノ草本、寄生、多肉、色彩種々ナレ𪜈緑色ナラズ多クハ鱗片ヲ有シ往々唯一個ノ花ナリ　3

(b)木本或ハ緑色ニシテ多クハ葉ヲ有スル草本(びやくだん科ニ殊ニ無葉ニシテ緑色ノ草本アリ)　4

(3)(a)雄蕊一—六個、胚珠一—三個、花ハ有柄ノ穗狀花或ハ肉穗花ヲナス雄花ノ花被ハ鑷合樣或ハ欠如

つちとりもち科　Balanophoreæ

(b)雄蕊八個以上、胚珠無數、植物体ハ根ノ外唯一個ノ無柄若クハ殆無柄ノ花ヨリ成ル稀ニ鱗片ヲ具スル莖ト穗狀ヲ爲セル花トヨリ成ル𪜊ハ花被ハ覆瓦樣ナリ

Cytinaceæ

(4)(a)子房ハ完全ニ一室稀ニ(やどりぎ科)花時子房室及ビ胚珠共ニ區別シ難ク花後始テ完全ニ一室ナリ　5

(b)子房ハ完全若クハ不完全ニ多室稀ニ(殼斗科)花時子房室及ビ胚珠ノ區別ナク花後始テ完全若クハ不完全ニ多室ナリ　13

(5)(a)胚珠二個ヲ超過ス葉ハ鋸齒狀、鈍鋸齒狀、分裂、深裂或ハ羽狀複葉、花柱多數、分離、柱頭ハ其頂或ハ内部ニアレ𪜈其基底ヨリシテ柱頭ナルヿナシ　6

(b)胚珠一—二個稀ニ二個ヲ超過スルヿアレバ葉ハ全邊或ハ欠如ス花柱ハ一個分裂セズ柱頭ハ一個或ハ多數或ハ柱頭一個ニシテ無柱、稀ニ花柱分裂(さく科)或ハ無柱々頭多數(いらくさ科、くるみ科、あかざ科)　7

(6)(a)草本ニシテ葉ハ鈍鋸齒狀或ハ分裂、花柱ハ二—三個、分裂セズ　ゆきのした科　Saxifrageæ

(b)草本ニシテ葉ハ深裂或ハ羽狀複葉（唯上部ノ葉ハ分裂セズシテ鋸齒狀）ナリ或ハ木本ニシテ分裂セザル(鋸齒狀或ハ殆全邊)葉ヲ有ス花柱ハ三個ニシテ各々二裂或ハ四個　*Datisceæ*

(7)(a)托葉アリ花被萼樣、雄蕊ハ花被ノ裂片ト全數ニシテ之ト對生ス、稀ニ之ヨリ多ク或少シ、時トシテハ雄花ニハ花被ナシ　8

(b)托葉ハ欠如ス稀ニ存スレバ(さく科)花被ハ多少花冠樣且雄蕊ハ花被片ト全數ニシテ之ト互生ス（而メ葯ハ相合着ス）　9

(8)(a)花ハ單性、雄花ハ花被ナクシテ穗狀ヲナス柱頭ハ分裂セズ無柱或ハ殆然リ葉ハ對生

ちやらん科　Chloranthaceæ

(b)花ハ單性雌雄花共ニ花被アリ極テ稀ニ雄花ノ花被ハ苞樣或ハ欠如スレバ花ハ凹陷セル花托上ニアリ或ハ柱頭ハ二裂ナリ、葉ハ互生、稀ニ對生ナレバ花ハ凹陷セル花托上ニアリ或ハ團聚花ヲナス

いらくさ科　Urticaceæ

(9)(a)葉ハ奇數羽狀複葉、花冠ハ蕚樣、雄花ニ於テハ往々欠如ス花ハ穗狀或ハ葇荑花ヲナス葯ハ相分離ス木本ニシテ互生葉　くるみ科　Juglandeæ

(b)葉ハ單葉、多クハ分裂セズ、時トシテハ分裂或ハ淺裂、稀ニ深裂ナルヿアレバ花被ハ多少花冠樣、花ハ小頭花或ハ聚繖花ヲ爲シ且葯ハ相合着シ或ハ葉ハ根生若クハ對生ナリ　10

(10)(a)雄蕊ハ其數花被片ニ倍ス稀ニ之ニ等シケレバ葯ハ戸ヲ以テ開キ花被覆瓦樣ニシテ子房ハ唯胚珠一個ヲ有ス　しくんし科　*Combretaceae*

(b)雄蕊ハ其數、花被片ニ等シ葯ハ縱裂シ或ハ孔穴ヲ以テ開ク花被片ハ鑷合樣極テ稀ニ覆瓦樣ナルヿアレバ子房ニ二―四個ノ胚珠アリ　11

(11)(a)雌性花及ビ完全花ニ於テハ花柱必ズ二裂或ハ柱頭二裂（雄花ニ於テハ柱頭ハ多ク不裂）、子房下位、胚珠一個、葯相合着シ稀ニ全然分離ス　きく科　Compositæ

(b)花柱不裂或ハ欠如、柱頭不裂稀ニ二―三裂ナレバ子房ニ二―四個ノ胚珠アリ花時子房ト胚珠トノ區別ナク或ハ胚珠一個ニシテ子房ノ下半ハ花盤ニ挿入シ或ハ胚珠二―四個ナリ葯ハ相分離ス　12

(12)(a)子房下位、胚珠ハ一個ニシテ受精前ハ子房トノ區別判然セズ木本ニ寄生スル灌木柱頭ハ分裂セズ　やどりぎ科　Loranthaceæ

(b)子房ニハ胚珠二―四個稀ニ一個ノ時ハ子房ハ眞ノ下位ニアラズシテ唯其一半ヲ花盤ニ挿入ス草本或ハ地

上ニ生育スル木本稀ニ木本ニ寄生スル灌木ナレバ柱頭分裂ス　びやくだん科　Santalaceæ

(13)(a)雄花ニ花被ナシ若シコレアル𪜈ハ子房ハ各室ニ胚珠二個ヲ有ス托葉アリ、花被ハ萼樣、雄蕊ノ數ハ花被片ヨリ多ク稀ニ同數ナレバ花ハ穗狀花或ハ葇荑花ヲナス　殼斗科　Cupuliferæ

(b)花被アリ子房ノ各室ニハ一個若クハ三個以上ノ胚珠アリ稀ニ二個ノ𪜈ハ托葉ナシ托葉ハ多ク欠如ス若シコレアル𪜈ハ花被萼樣然ラザレバ雄蕊花被片ト同數ニシテ且花ハ獨生若クハ聚繖花、繖形花或ハ小頭花ヲナス　14

(14)(a)子房ノ各室(室ノ區別完全或ハ不完全ノ𪜈共)ニハ胚珠一個、雄蕊ノ數ハ花被片ニ同ク或ハ小、稀ニコレヨリ多數ナレバ花柱多數然ラサレバ柱頭無柱ニシテ托葉欠如シ且葯ハ內面(極テ稀ニ側面)ニテ裂開ス　15

(b)子房ノ各室ニ胚珠二個以上、雄蕊ハ花被片ヨリ多數、花柱分裂セズ稀ニ花柱多數ニシテ相分離シ若クハ其基底ニテ相合着(或ハ柱頭多數ニシテ無柱)スル𪜈ハ托葉アリ然ラザレバ葯ハ外面ニテ裂開ス　19

(15)(a)花被葉ノ子房ノ上ニ出ヅル部ハ相分離ス、胚珠ハ垂生、果實ハ蒴樣ナラズ子房ハ下位或ハ殆ド然リ子房ノ上ニ盤(時トシテハ此部分唯花柱ノ下部ノ增厚ニ止マル)アリ　16

(b)花被葉ハ子房ノ上ニ出ヅル部分モ合着ス稀ニ花被葉ト子房ト分離セル𪜈ハ胚珠直立且果實ハ蒴然ラザレバ子房ハ眞正ニ下位ニアラズシテ廣キ盤ニ圍繞セラレ唯其內ニ陷入セルノミ　17

(16)(a) 果實ハ二個ノ乾燥セル小堅果ニ分離シ小堅果ハ多ク果實ノ柄ニ附着ス盤ハ二裂、花柱ハ二個極テ稀ニ三個、子房ハ二室極テ稀ニ三室、葉ハ多ク深裂或ハ羽狀複葉葉柄ハ鞘ヲナス花ハ繖形花或ハ小頭花ヲナシ此等ノ繖花形或ハ小頭花數多相集テ亦繖形花或ハ圓錐花ヲナス

繖形科　Unbelliferæ

(b) 果實ハ漿果或ハ石果、盤ハ分裂セズ花柱ハ三個乃至多數（極テ稀ニ二個）或ハ花柱一個ニシテ柱頭三—多數子房ハ三—多（極テ稀ニ二）室、灌木或ハ喬木、花ハ繖形花或ハ小頭花ヲナシ此等ノ繖形、小頭花多ク相集テ總狀花、圓錐花或ハ繖形花ヲナス

うこぎ科　Araliaceæ

(17)(a) 灌木或ハ喬木、子房三室ニシテ花柱ハ一個不裂若クハ三裂、稀ニ子房二或ハ四室若クハ子房三室ニシテ花柱多數ナル𬼀ハ葉ハ互生ニシテ托葉アリ（而テ子房ハ盤內ニ陷入）胚珠直立

くろうめもどき科　Rhamneæ

(b) 草本或ハ半灌木、子房二室（花柱一乃至多數）稀ニ三—多室ニシテ花柱（分離シ或ハ殆分離セル）或ハ無柱々頭多數ナレバ胚珠ハ倒生ナリ、葉ハ互生ニシテ托葉ナシ或ハ對生若クハ輪生

18

(18)(a) 葉ハ互生、胚珠ハ垂生、葉ハ不分裂ニシテ厚質托葉ナシ

ざくろさう科　Ficoideæ

(b) 葉ハ輪生或ハ對生、枝ハ大抵四角、葉ハ不分裂、托葉ハ稀ニシテ其存スルハ對生葉ニ限ル

あかね科　Rubiaceæ

(19)(a) 托葉二個、花ハ一家極テ稀ニ多家、草本或ハ灌木、葉ハ多ク左右不同形

しうかいだう科　Begoniaceæ

(b)托葉欠如、花ハ完全或ハ多家　20

(20)
(a)花被全邊（或ハ殆ド然リ）單唇、兩唇或ハ三裂、葉ハ互生、子房ハ完全或ハ不完全ニ四―六室、草本或ハ灌木、葯ハ外面ニテ開ク、盤無シ　うまのすゞくさ科　Aristolochiaceæ

(b)花被ハ四―八裂或ハ帽狀ニ合着、極テ稀ニ殆ド全邊ナルトキハ葉ハ對生ニシテ子房二―三室、葉ハ互生或ハ輪生稀ニ互生ナレバ木本或ハ葯ハ内面ニテ開ク盤アリ然レトモ往々著大ナラズ葉ニ斑點アリ（互生葉ヲ有スル數種ヲ除キ）雄蕊無數、葯ハ二個ノ裂目ヲ以テ縱裂ス花被ハ大抵萼樣、木本或ハ灌木　ふともゝ科　Myrtaceæ

(21)
(a)心皮多數、全然相分離シ或ハ唯子房ノ基底ニテ相合シ或ハ唯花柱ノ先端（或ハ柱頭）ニテ合着ス　22

(b)心皮一個或ハ多數ニシテ相合着シ一個ノ不裂若クハ分裂セル子房ヲナス　25

(22)
(a)花被片ハ相分離ス托葉ハ稀ニ存ス、葉柄ノ基底ハ往々鞘ヲナス雄蕊無數、草本、稀ニ木樣ノ纏繞草本ナレバ葉ハ對生ニシテ花被ハ大抵鑷合樣　きんぽうげ科　Ranunculaceæ

(b)花被片ハ雌花及ビ完全花ニ於テハ必ズ合着ス然レトモ往々深ク分裂ス　23

(23)
(a)托葉欠如、葉ハ大抵對生　*Moniniaceæ*

(b)托葉アリ葉ハ互生　24

(24)(a)草本或ハ灌木、雄蕊ハ相分離ス、胚珠ハ垂生　ばら科　Rosaceæ

(b)木本、雄蕊ハ相合着ス胚珠ハ上昇或ハ横臥　あをぎり科　Sterculiaceæ

(25)(a)子房一室　26

(b)子房多室　61

(26)(a)胚珠一—二個　27

胚珠二個ヲ超過ス　50

(27)(a)花ニ花被ナシ(然レ𪜈一個ノ苞ト往々二個ノ小苞アリ小苞ハ往々相互ニ合着シ又花序ノ軸ト合着ス)花ハ穂狀或ハ總狀ヲ爲ス葯ハ基底ニテ附着、胚珠直生、果實ハ漿果(然レ𪜈往々殆乾燥)胚乳多量、花柱ハ不分裂或ハ欠如、柱頭一個或ハ多數(多ク三—四)花序ハ有柄　こせう科　Piperaceæ

(b)雌雄花共ニ或ハ少クモ其内一ニハ花被アリ稀ニ雌雄花共ニ花被無キトキハ小頭花或ハ繖形花ヲナシ或ハ廣マレル若クハ凹陷セル花托上ニアリ(あかざ科ニ屬スル少數ノ植物ニ於テハ花ハ獨生或ハ叢生或ハ穂狀ナリ然ルトキハ葯ハ其背部ヲ以テ附着シ胚珠ハ半倒生)　28

(28)(a)雄花ニ花被ナク(然レ𪜈苞一個及ビ多クハ小苞二個アリ)穂狀ヲナス灌木或喬木、花ハ單性雌雄花共ニ穂狀花或ハ葇荑花ヲナス胚珠ハ直立或ハ側面ニテ附着ス　29

(b)雄花及ビ完全花ニ花被アリ稀ニ花被ナケレバ花ハ小頭花、繖形花、團聚花ヲ爲シ或ハ凹陷セル花托上ニアリ　30

(29)
(a) 花柱及ビ柱頭各一個分裂セズ、胚珠ハ側面ニテ附着、半倒生、種子ニ薄キ胚乳アリ　*Leitneriaceæ*
(b) 花柱一個、短小、柱頭二個ニシテ長シ胚珠ハ基底ニテ附着、直生、種子ニ胚乳ナシ　やまもゝ科 Myricaceæ

(30)
(a) 胚珠二個、雄蕊七個以上葉ハ羽狀複葉、極テ稀ニ假葉ナレバ雄蕊無數ニシテ花被ハ鑷合樣ナリ花柱ハ子房ノ頂點ヨリ起ル　荳科 Leguminosæ
(b) 胚珠一個稀ニ二個ナレバ葉ハ單葉ニシテ分裂シ或ハ分裂セズ或ハ雄蕊一―五、尚又胚珠二個ナル𪜈ハ雄蕊一―十個若クハ花被覆瓦樣（若シ殆鑷合樣ナレバ花柱ハ子房ノ基底ヨリ起ル）　31

(31)
(a) 托葉アリ　32
(b) 托葉ナシ　38

(32)
(a) 葉ハ對生或ハ輪生（完全花ヲ有スル僅少ノモノヲ除キ）花ハ完全極テ稀ニ多家、花被ノ裂片ハ四―五、花柱多數或ハ一個ニシテ柱頭多數（多クハ小ナリ）、胚珠ハ倒生、半倒生或ハ彎生、雄蕊ハ多少子房周位、花被ノ裂片ト同數ニシテ對生ス、或ハ之ヨリ少ク極テ稀ニコレヨリ多シ　*Illecebraceæ*
(b) 葉ハ互生、稀ニ對生ナレバ花ハ單性然ラザレバ花被ノ裂片三或ハ六、花ハ單性、多家、或ハ完全、完全ノ𪜈ハ花柱ハ分裂セズシテ一個ノ柱頭ヲ有シ或ハ胚珠直生ナリ　33

(33)
(a) 花柱ハ二―四個相分離ス或ハ一部相合着シ柱頭ハ相分離ス稀ニ無柱柱頭三個、子房ニハ胚珠一個種子ニ

ハ多量ノ粉狀胚乳アリ　たで科　Polygonaceae

(b)花柱ハ一個、分裂セズ(多クハ極テ短小)、柱頭一個或ハ多數ニシテ共基底ヲ以テ連合ス或ハ無柱々頭一ー二個稀ニ花柱二ー三個若クハ無柱々頭三個ナレバ子房ハ二個ノ胚珠ヲ有シ或ハ幼時ニ於テ隔壁ヲ有ス、胚乳ハ全然欠如或ハ少量或ハ多量ニシテ多肉、稀ニ粉狀ナレバ花柱ハ分裂セズシテ一個ノ分裂セザル若クハ毛筆狀ノ柱頭ヲ有ス　34

(34)(a)花ハ完全、雄蕊ハ子房下位或ハ殆然リ子房ニハ胚珠一個、葉ハ單葉ニシテ分裂セズ花被ハ覆瓦樣、花ハ總狀花序ヲナス　やまごばう科　Phytolaccaceae

(b)花ハ單性、或ハ多家、稀ニ完全ナレバ(ばら科)雄蕊ハ子房周位ニシテ子房ニ二個ノ胚珠アリ若クハ葉ハ複葉若クハ花被鑷合樣(且花ハ獨生或ハ叢生)　35

(35)(a)花ハ完全、稀ニ單性或ハ多家ナレバ葉ハ複葉、雄蕊四個以上ニシテ莖ハ草本狀或ハ灌木狀なり、花被三ー十二裂、花柱ハ分裂セズ柱頭一個分裂セズ或ハ多裂シ多クハ毛筆狀ナリ　ばら科　Rosaceae

(b)花ハ單性或ハ多家、葉ハ單葉ニシテ分裂セズ或ハ淺裂稀ニ(いらくさ科)缺刻シ或ハ複葉ナレバ喬木ニシテ雄蕊一ー三個然ラザレバ草本ニシテ雄蕊五個且柱頭二個ニシテ雌花ノ花被ハ分裂セズ　36

(36)(a)珠孔及ビ胚ノ幼根ハ果實ノ基底ニ向ク、花ハ一家、雌雄花共ニ密集セル球狀ノ單性小頭花ヲ爲シ多肉ニシテ凸起セル球狀ノ花托上ニアリ、花被ナシ然レ𪜈花托ニハ微細ナル鱗片アリ且雌雄ノ小頭花ニハ必ズ小苞

アリ　Platanaceae

(b)珠孔及ビ胚ノ幼根ハ果實ノ頂部ニ向ク花被ハ雌雄花ノ內一ニハ存ス稀ニ雌雄花共ニ之ナキ𪜈ハ花ハ凹陷シ若クハ擴布セル花托上ニアリ或ハ雌雄花同一ノ小頭花中ニアリ叉花一家ニシテ雌雄花共ニ球狀ノ單性小頭花ヲ爲シ多肉ノ花托上ニアレバ雌花ハ花托內ニ陷入ス（いらくさ科）　37

(37)(a)胚珠ハ二個稀ニ一個ナレバ果實ハ蒴ニシテ葯ハ三—四個ノ裂目ヲ以テ開キ（稀ニ二個ノ裂目ヲ以テ開ク𪜈ハ子房ハ幼時隔壁ヲ有シ各室ニ胚珠二個アリ）且雄蕊ハ大抵花被片ヨリ多シ灌木或ハ喬木、花ハ單性、雌雄花共ニ花被アリ胚珠ハ垂生　たかとうだい科　Euphorbiaceae

(b)胚珠一個稀ニ幼時尚別ニ一個ノ胚珠ヲ有スレ𬼀直ニ消滅ス果實ハ裂開セズ葯ハ二個ノ裂目ヲ以テ開ク雄蕊ハ花被片ト同數ニシテ之ト對生ス或ハ之ヨリ少シ或ハ雄花ニ花被ナシ極テ稀ニ雄蕊ノ數花被片ヨリ大ナレバ花ハ多家或ハ草本ニシテ胚珠直立ナリ　いらくさ科　Urticaceae

(38)(a)葉ハ輪生ノ鱗片ニ化シ枝ノ結節ニアリ雄花ニハ雄蕊一個、花ハ單性、雌雄花ニ花被ナシ、喬木或ハ灌木　もくまわう科　*Casuarineae*

(b)葉ハ多ク完全ニ發達ス互生、根生、或ハ對生、稀ニ輪生ナレバ雄蕊三—無數稀ニ葉ガ互生或ハ對生（決テ輪生ナルヿナシ）ノ鱗片ニ化スルヿアレバ雄蕊三—無數或ハ花ハ完全若クハ多家ナリ雌花ニハ多クハ花被アリ稀ニ之ナケレバ雄蕊二—無數或ハ草本或ハ半灌木ナリ　39

(39)

(a) 葉ハ輪生、水中ニ沈メル草本、雄蕊十—二十個、花被ハ雌雄花共ニ六—十二裂、花柱及ビ柱頭ハ分裂セズ然レ𪜈多クハ花柱ノ下部ニ微細ノ平扁ナル附屬物アリ　さんぎよも科　Ceratophylleae

(b) 葉ハ互生、根生或ハ對生或ハ欠如、稀ニ輪生ナレバ陸生ニシテ雄蕊三—九個ナリ花被片ハ一—五個或ハ花被欠如稀ニ花被片六個以上ナレバ木本若クハ（たで科）花ニ多數ノ分離セル若クハ基底ヲ以テ合着セル花柱或ハ多數ノ無柱々頭アリ　40

(40)

(a) 花被ハ完全花及ビ雄花ニ於テ覆瓦樣極テ稀ニ（あかざ科、につけい科）欠如（雌花ニ於テハ殊ニ屢次欠如ス）　41

(b) 花被ハ完全花及ビ雄花ニ於テ鑷合樣（雌花ニ於テハ往々欠如）　45

(41)

(a) 葯ハ二個或ハ四個ノ下ヨリ上ニ向テ開ク所ノ戸ヲ以テ裂開ス花被片ハ六個以上稀ニ六ヨリ少（多クハ四個）ナレバ雄蕊ハ花被片ヨリ多シ然レ𪜈之ニ倍スルヿ稀ナリ（多クハ六個）極テ稀ニ花被ハ著シカラズシテ雄蕊九個以上ナリ花柱ハ分裂セズ一個ノ分裂セザル若クハ淺裂セル柱頭アリ種子ハ垂生、胚乳ナシ香氣アル木本ナリ　につけい科　Laurineae

(b) 葯ハ縦裂ス多クハ花被片五個或ハ之ヨリ少クシテ雄蕊ハ花被片ト同數或ハ倍數或ハ少數稀ニ（たで科、やまごぼう科）花被片六個或ハ雄蕊花被片ヨリ多ク其倍數ニ至ラザル𬼀ハ（多クハ花被片五—六個ニシテ雄蕊八—九）花柱多數ニシテ相分離シ或ハ基底ヲ以テ相合着シ（或ハ無柱々頭多數）種子ハ直立、胚乳アリ極テ稀ニ（あかざ科）花被ハ一個ノ小片ニ化シ或ハ全然欠如而シテ雄蕊ハ一—五個ナリ　42

(42)(a)雄蕊ハ花被片ヨリ多シト雖モ其倍數ニ至ラズ極テ稀ニ之ト同數或ハ之ヨリ少數ナレバ花被片六個ナリ花被ハ必ズ存ス

たで科　Polygonaceae

(b)雄蕊ハ花被片ト同數、倍數、或ハ小數或ハ花被欠如、花被片ハ五個或ハ之ヨリ少シ

43

(43)(a)雄蕊數ハ花被片ニ倍ス稀ニ之ト同數ニシテ互生シ若クハ之ヨリ少シ即雄蕊二個ニシテ花被片四個ナリ雄蕊ハ子房周位、四—五裂セル花被管ノ咽喉部若クハ上部ニ附着ス花柱ハ分裂セズ柱頭ハ一個、分裂セズ若クハ少ク先端凹形、胚ハ眞直、灌木或ハ喬木稀ニ草木或ハ半灌木ナレバ葉ハ互生或ハ雄蕊二—四個

ぢんてうげ科　Thymelaeaceae

(b)雄蕊ハ花被片ト同數ニシテ之ト對生シ或ハ少數或ハ花被欠如、雄蕊二個ニシテ花被片四個ナルトキハ雄蕊ハ子房下位或ハ花柱ニハ多數ノ柱頭アリ然ラザレバ多數ノ無柱々頭アリ胚ハ彎曲シ或ハ螺旋狀ニ回旋ス

44

(44)(a)花ニ三個ノ苞アリ胚ハ彎曲シ、或ハ輪狀、胚乳多量、花被及ヒ苞ハ多ク乾燥、花糸ハ多クハ多少合着ス

ひゆ科　Amarantaceæ

(b)完全花及ビ雄花ニハ多ク苞ナシ稀ニ一、二或ハ三個ノ苞アリ苞三個ノトキハ胚ハ螺旋狀ニ回旋シ且胚乳少量或ハ欠如ス、花被及ビ苞ハ多ク草様或ハ皮膚様、花糸ハ多ク分離ス

あかざ科　Chenopodiaceae

(45)(a)花糸ハ相合シテ一柱ヲナス柱ハ中央ニ位シ、子房下位、多ク極テ短小ナリ葯ハ柱上ニアリ相分離シ若クハ

相合着ス、喬本若クハ灌木ナリ柱頭一個、無柱或ハ殆無柱　にくづく科 *Myristicaceae*

(b) 花糸ハ相分離シ或ハ唯其基底ヲ以テ合着ス極テ稀ニ尚上部迄合着スルヿアレバ(きく科)草本或ハ半灌木ニシテ雌花ニ於テハ花柱ハ二裂若クハ柱頭二個ナリ　46

(46)

(a) 雄蕊ハ子房下位、花被ト合着セズ或ハ唯基底ヲ以テ少ク合着稀ニ尚上部迄合着スルヿアレバ草本ニシテ葉ハ對生且花ハ完全ニシテ薔薇色ナリ花被片ハ合着、三—五裂或ハ三—五齒或ハ殆ド全邊、葉ハ對生稀ニ互生ナレバ全邊、花糸ハ相分離シ若クハ基底ニテ合着　おしろいばな科 *Nyctagineae*

(b) 雄蕊ハ子房周位、稀ニ殆ド子房下位(花被ノ基底ニ附着)或ハ眞ニ下位ナレバ花被ハ殆ド其基底迄分裂或ハ(きく科)葉ハ互生ニシテ鋸齒狀或ハ分裂(而メ花糸ハ上部迄合着)灌木或ハ喬本稀ニ草木或ハ半灌木ナレバ葉ハ互生或ハ花ハ單性ニシテ白色ナリ　47

(47)

(a) 草本或ハ半灌木、花ハ一家(稀ニ多家ナレバ完全花ハ下位子房ヲ有ス)雄花ハ花被整正、雄蕊ハ花被片ト同數ニシテ之ト互生而メ花柱ハ分裂セズ雌花ニ花被ナシ然レ圧合葉ノ總苞ト二裂或ハ二柱頭ノ花柱アリ　きく科 Compositae

(b) 灌木或ハ喬木稀ニ半灌木(かまのき科)ナレバ雄蕊花被片ニ對生シ且花柱ハ分裂セズ、一個ノ柱頭アリ花ハ完全、多家或ハ二家、花ニハ總テ花被アリ　48

(48)

(a) 雄蕊花被片ト同數ニシテ之ト互生シ或ハ之ニ倍ス(四—八個)、種皮ハ堅硬或ハ硬脆ナリ　ぐみ科 Elaeagnaceae

(b) 雄蕊花被片ト同數ニシテ之ト對生シ或ハ之ヨリ少シ(三—五個)種皮ハ皮膚樣、革樣或ハ欠如

(49) (a) 種子ニ種皮ナシ、胚乳多量、花盤アリ子房周位、短小ナル花被管ト合着、子房ノ基底ハ花盤内ニ陷入ス胚珠一個、直立、極テ稀ニ二個垂生、柱頭無柱（極テ稀ニ花柱アレバ子房ハ幼時上位ニシテ花時半下位トナリ花後下位ナリ）　49　びやくだん科　Santalaceae

(b) 種子ニ種皮アリ胚乳ナシ子房ハ花盤ニ陷入セズ花盤ハ子房下位或ハ欠如極テ稀ニ花被管ノ下部ト合着スレバ花ニ四―八葉ノ總苞アリテ側面ニ附着スル胚珠一個アリ花柱アリ　かまのき科　Proteaceae

(50) (a) 草本、花ニ花被ナシ然レ𪜈多クハ二―三個ノ鱗片アリ雄蕊ノ外方ニ位ス花柱二個相分離シ或ハ基底ニテ相合着ス或ハ無柱々頭二個極テ稀ニ一個、胚珠ハ一個ノ中央胎坐或ハ二個ノ側膜胎坐ニ附着ス、水草ニシテ苔若クハ藻ノ如キ觀アリ　*Podostemaceae*

(b) 灌木若クハ喬木、稀ニ草本或ハ半灌木ナレバ花ハ四―八裂ノ花被ヲ有ス（僅小ノ荳科植物ニ於テハ側膜胎坐一個、花柱分裂セズ、柱頭頂生而メ花被ハ三裂ナリ）　51

(51) (a) 胚珠ハ子房ノ基底ニ附着シ或ハ中央胎坐ニ附着ス　52

(b) 胚珠ハ子房ノ側面ニ附着ス（側膜胎坐一個或ハ多數胚珠ハ唯其上部若クハ下部ニノミ附着ス）　54

(51) (a) 花ニ花被ナシ然レ𪜈雄花ハ一個ノ苞ヲ有シ雌花ハ多數ノ苞ヲ有ス、灌木或ハ喬木、花ハ二家ナリ　*Balanopseae*

(b) 花ニハ花被葉四—七個アリ草木或ハ半灌木稀ニ灌木或ハ喬木ナレバ花ハ完全ナリ花被葉ハ覆瓦樣、相分離シ若クハ其基底ニテ合着ス　53

(52) (a) 葉ハ對生、果實ハ蒴ニシテ二—五個ノ蒴片ニ裂開ス　せきちく科　Caryophylleae

(b) 葉ハ互生、果實ハ蓋果或ハ不規則ニ裂開シ或ハ全然裂開セズ、往々漿果樣ナリ　ひゆ科　Amarantaceae

(54) (a) 胚珠ハ一個ノ側膜胎坐ニ附着ス(即チ子房腔ノ一方ニ附着シ一—二列ヲナス)　55

(b) 胚珠ハ多數ノ側膜胎坐ニ附着ス　56

(55) (a) 雄蕊三—四個、托葉欠如、葉ハ分裂セズ或ハ羽狀裂、極テ稀ニ一回羽狀複葉ナリ　かまのき科　Proteaceae

(b) 雄蕊五個以上、極テ稀ニ三—四個ナレバ托葉アリ葉ハ羽狀複葉或ハ一葉、極テ稀ニ假葉或ハ欠如　荳科　Leguminosae

(56) (a) 花ニ一個ノ雄蕊アリ　*Lacistemaceae*

(b) 花ニ二個以上ノ雄蕊アリ　57

(57) (a) 花ハ二家、花被ナクシテ花盤アリ(或ハ花盤ナクシテ一—二個ノ鱗片アリ)或ハ花被アリテ花盤ナシ、葇荑狀ノ穗狀花或ハ總狀花ヲナス種子ニ胚乳ナシ　やなぎ科　Salicineae

(b) 花ハ完全稀ニ(ひとぎり科)單性ナレバ花ハ花被ト花盤トヲ有シ穗狀花或ハ葇荑花ヲナサズ(然レ圧多ク

ハ總狀花ヲナス）種子ニ胚乳アリ

(58)(a)雄蕊ハ花被ノ裂片ト同數、即四―六個、花柱ハ三―四個ニシテ相分離シ或ハ基底ニテ相合着シ柱頭ハ頭狀ナリ副冠一個管狀若クハ多數ノ糸ニ分裂シ雄蘂及ビ花盤ノ外部ニ位ス　とけいさう科　*Passifloreae*　58

(b)雄蘂ハ花被ノ裂片ヨリ多ク極テ稀ニ之ト同數ナレバ花柱ハ一個ニシテ分裂セズ若クハ欠如シ且柱頭ハ一個ナリ副冠ナシ然レ𪜈往々分裂シ若クハ分裂セザル花盤アリ且又往々不熟雄蘂モアリ、灌木若クハ喬木　59

(59)(a)子房ハ長柄ヲ有ス胚乳ハ少量或ハ欠如　ふうちやうさう科　Capparideae

(b)子房ハ無柄若クハ殆ド無柄、胚乳ハ多量ニシテ多肉ナリ　60

(60)(a)雄蘂ハ子房周位或ハ殆ド子房下位、子房下位ノ花ハ不熟雄蕊アリテ雄蕊ト同數ニシテ之ト互生ス然ラザレバ葉ハ對生ナリ花被葉ハ其下部ニテ相合着シテ短キ若クハ長キ管ヲナス稀ニ殆ンド相分離スレバ雄蕋六―十個或ハ對生葉ナリ　*Samydaceae*

(b)雄蕋ハ子房下位或ハ殆ド然リ外部ニ位スル雄蕋ニハ葯ナキモノ往々コレアルノ外別ニ不熟雄蕋ナシ、多クハ花盤アリ分裂セズ或分裂ス葉ハ互生花被葉ハ相分離シ或ハ唯基底ニテ少ク合着ス雄蕋十個以上、極テ稀ニ四―五個　いゝぎり科　Bixineæ

(61)(a)花ハ完全ナリ　62

(b)花ハ多家或ハ單性ナリ　70

(62)

(a) 胚珠ハ子房ノ各室ニ一個、灌木或ハ喬木　63

(b) 胚珠ハ子房ノ各室ニ二個以上稀ニ一個ナレハ（ざくろさう科、十字花科）草本若クハ半灌木ナリ　64

(63)

(a) 花柱一個、分裂セズ柱頭ハ分裂セズ若クハ不明瞭ニ二淺裂、花被ハ覆瓦樣、胚珠ハ垂生、托葉ハ欠如ス、子房ハ二室極テ稀ニ四－五室、葉アリ　ぢんてうげ科　Thymelaeaceae

(b) 花柱一個、分裂セズ、柱頭多數或ハ一個ニシテ三裂ナリ、或ハ花柱多數ニシテ相分離シ或ハ基底ニテ相合着ス、花被ハ鑷合樣、胚珠ハ直立、托葉ハ多クアリ極テ稀ニ欠如スレハ子房三室ニシテ葉ハ對生セル鱗片ニ化シ或ハ全然欠如ス雄蕊四－六個　くろうめもどき科　Rhamneæ

(64)

(a) 草本或ハ半灌木、花柱ハ多數ニシテ相分離シ、或ハ基底ニテ相合着ス、或ハ柱頭多數ニシテ無柱ナリ　65

(b) 灌木或ハ喬木稀ニ草本或ハ半灌木ナレハ花柱一個ニシテ分裂セズ柱頭ハ分裂セズ若クハ淺裂ス　66

(65)

(a) 水生植物、花被三裂或ハ微細ナル鱗片ニ化シ、或ハ全然欠如ス、種子ニ胚乳ナク胚ハ眞直ナリ　*Podostemaceæ*

(b) 陸生植物、花被四－五裂、種子ニ胚乳アリ胚ハ彎曲、子房室及ビ柱頭ハ各々二－五個、花ハ獨生、或ハ遠心的聚繖花序ヲナシ又往々總狀花或ハ繖形花ヲナス　ざくろさう科　Ficoideæ

(66)

(a) 雄蕊ハ明瞭ニ子房周位極テ稀ニ殆ト子房下位（みそはぎ科）ナレハ葉ハ對生ニシテ雄蕊四個或ハ八－十二

個ナリ　67

(b)雄蕊ハ子房下位或ハ殆ト然リ葉ハ互生稀ニ對生ナレハ葯ヲ有スル雄蕊ハ五—六個ナリ　68

(67)(a)雄蕊ハ花被ノ裂片ヨリ多ク(五個以上)稀ニ之ト同數ナレハ草本(或ル僅少ノモノハ草本ニ非ズ但雄蕊殆ト子房下位、胚珠無數)ナリ葯ハ運動スベシ柱頭ハ分裂セズ或ハ二裂、果實ハ蒴、二蒴片ニ裂開シ或ハ胞背裂開ニテ多蒴片ニ裂開ス或ハ漿果ナリ　みそはぎ科　Lythrarieæ

(b)雄蕊ハ花被片ト同數、四個、子房周位、四裂セル花被ノ咽喉部ニ附着ス灌木、胚珠ハ子房ノ各室ニ二—四個、葯ハ固着、柱頭ハ四裂、果實ハ蒴、胞間裂開ニテ四蒴片ニ裂開ス　*Penaeaceae*

(68)(a)雄蕊十個以上ナリ　ぼだいじゆ科　Tiliaceæ

(b)雄蕊二—六個ナリ　69

(69)(a)花被葉四個相分離シ、覆瓦樣、子房二室(極テ稀ニ三—四室)、胚珠ハ側膜胎坐ニ附着ス、種子ニ胚乳無シ　十字花科　Cruciferæ

(b)花被葉五個、基底ニテ相合着、鑷合樣、極テ稀ニ少シク覆瓦樣、子房三—七室、胚珠ハ中央胎坐ニ附着ス種子ニ胚乳アリ　あをぎり科　Sterculiaceæ

(70)(a)葉ハ其先端ニ蓋アル瓶子ヲ有ス、胚珠無數、上昇、柱頭ハ無柱、淺裂ス雄蕊ハ相合着シテ一柱ヲ爲シ葯モ相合着シテ柱上ニアリ纏繞シ若クハ横臥セル半灌木或ハ灌木、子房三—四室ナリ　*Nepenthaceae* (b)葉ニ瓶子ナシ胚珠ハ子房ノ各室ニ一—二個、稀ニ(ばだいじゆ科、おをぎり科、いゝぎり科)之ニ超過スレバ花柱アリ且胚珠下降ニシテ花絲分離(或ハ基底ニテ少ク合着)然ラザレバ喬木ニシテ子房五室ナリ　71

(71)
(a)雄蕊ハ明瞭ニ子房周位、四—五裂セル花被ノ咽喉部ニ附着ス花ハ多家、胚珠ハ子房ノ各室ニ一個、葉ニハ托葉アリ或ハ葉ハ對生セル鱗片ニ化シ或ハ全然欠和ス

くろうめもどき科　Rhamneæ

(b)雄蕊ハ子房下位或ハ殆ト然リ花ハ單性稀ニ多家ナレバ子房ノ各室ニ胚珠二個以上然ラザレバ葉ハ互生ニシテ托葉ナシ　72

(72)
(a)雄蕊二個、葉ハ對生、托葉ナシ胚珠ハ子房ノ各室ニ二個花柱ハ分裂セズ、柱頭ハ分裂セズ或ハ二裂

もくせい科　Oleaceæ

(b)雄蕊三個以上、或ハ一個稀ニ二個ナレバ葉ハ互生(或ハ對生ニシテ托葉アリ或ハ全然欠如ス)而シテ子房ノ各室ニ胚珠一個或ハ花柱多數、相分離ス或ハ花柱一個、三—多裂或ハ花柱分裂セズシテ柱頭三—多裂ナリ　73

(73)
(a)雌花ニ花被ナシ、多肉ナル圓錐形花序ヲナス胚珠ハ直立ナリ

Batideæ

(b)雌花ニ花被アリ稀ニ之ナケレバ雌花ハ圓錐形花序ヲナサズシテ胚乳ハ下降ナリ　74

(74)
(a)雌花ニ花被ナシ雄花ハ葇荑花ヲナシ懸垂シ全体ノ儘枯落ス子房二室、花柱二個相分離ス喬木或ハ灌木ナリ

殼斗科　Cupuliferæ

(b)雌花ニ花被アリ稀ニ之ナケレバ（たかとうだい科、ありのたう科）雄花ハ葇荑花ヲナサズ（往々穗狀花ヲナス）且子房室及ビ花柱枝（或ハ柱頭）ハ各々三個以上或ハ一個極テ稀ニ二個ニシテ草本ナリ　75

(75)(a)胚珠ハ下降或ハ垂生、胚珠ハ子房ノ各室ニ一—二個、中央胎坐ニ附着、花ハ單性ナリ

たかとうだい科　Euphorbiaceæ

(b)胚珠ハ上昇稀ニ平臥或ハ（むくろじ科）子房ノ各室ニ上昇及ヒ下降セル胚珠兩ナガラアリ　76

(76)(a)雄蕊二—三個、花被ノ裂片ヨリ少シ　がんかうらん科　Empetraceæ

(b)雄蕊四個以上、花被ノ裂片ト同數或ハ之ヨリ多數ナリ　77

(77)(a)花糸ハ其全体相合着シテ柱ヲナシ（柱ハ多ク子房柄ニ合着ス）、葯ハ其上ニアリ子房ハ五個、全部或ハ大部相分離シ、花柱ハ相合シテ一個ノ分裂セザル花柱ヲ爲シ、柱頭ハ分裂セズ或ハ淺裂ス托葉アリ葉ハ分裂セズ或ハ淺裂或ハ掌狀複葉、葯ハ十個或ハ十五個胚珠ハ子房ノ各室ニ二個以上ナリ

あをぎり科　Sterculiaceæ

(b)花糸ハ相分離シ或ハ唯基底ニテ相合着ス子房一個、分裂セズ或ハ淺裂シ花柱一個或ハ多數、托葉ナシ極テ稀ニ羽狀複葉ノ最下小葉ハ托葉狀ヲナス雄蕊四—十二個（多クハ八個）極テ稀ニ二十個以上ナリ雄蕊十個ノ時ハ子房二室或ハ各室ニ胚珠一個アリ子房ノ各室ニ胚珠一個ナレバ花ハ多家ニシテ葉ハ複葉（往々一葉）ナリ胚珠二個ナレバ花柱多數或ハ一個ニシテ柱頭多數ナリ　むくろじ科　Sapindaceæ

多瓣花類

(1)(a)子房ハ下位或ハ半下位　2

(b)子房ハ上位或ハ殆ド上位、極テ稀ニ裸出　31

(2)(a)花ニハ完全ナル雄蕊一―十個(不熟雄蕊ハ除ク)　3

(b)花ニハ完全ナル雄蕊十個ヲ超過ス　20

(3)(a)子房ノ各室ニ胚珠一個(一室若クハ室ノ區劃不完全ナル子房ニ於テハ子房全体ニ胚珠一個)　4

(b)子房ノ完全ナル室ニハ胚珠各々二個以上アリ　14

(4)(a)花柱多數、全然相分離ス稀ニ(ありのたう科、うこぎ科)柱頭多數ニシテ無柱ナリ　5

(b)花柱一個分裂セズ或ハ(ひやうたん科、くろうめもどき科、うこぎ科、*Bruniaceæ*)多少分裂スレドモ其基底迄分裂セズ稀ニ分裂セズ或ハ淺裂セル無柱々頭一個　8

(5)(a)草本或ハ半灌木、花瓣ハ二―四個、雌花ニ於テハ往々欠如ス　ありのたう科　Halorageæ

(b)草本(或ハ半灌木)ニシテ花瓣五個或ハ木本(喬木或ハ灌木)ナリ　6

(6)(a)果實ハ蒴、種皮ハ硬脆質或ハ骨質、黒色ニシテ光輝アリ胚乳少量、多肉、花盤ハ多ク欠如ス花ハ小頭花或ハ總状花ヲナス　まんさく科　Hamamelideæ

(b)果實ハ分裂果、石果或ハ漿果稀ニ瘦果樣、種皮ハ甚薄弱、胚乳ハ軟骨質或ハ多肉ニシテ多量、花盤ハ子房上

位ナリ(往々花盤ナクシテ僅ニ花柱ノ下部ノ增厚スルアルノミ)花ハ多ク繖形花チナス
7

(7)(a) 果實ハ分裂果、二個ノ乾燥セル小堅果ニ分裂ス小堅果ハ多ク其先端ニテ果實柄ニ固着ス花盤二裂
繖形科　Umbelliferæ

(b) 果實ハ石果或ハ漿果稀ニ乾燥ナレ𪜈二部ニ分裂スルヿナシ花盤ハ大抵分裂セズ
うこぎ科　Araliaceæ

(8)(a) 雄蕊ハ花瓣ト同數ニシテ之ニ對生ス胚珠ハ直立或ハ子房ト胚珠トノ區別明瞭ナラズ
9

(b) 雄蕊ハ花瓣ト同數ニシテ之ニ互生シ或ハ之ヨリ多ク或ハ少シ、胚珠ハ多ク垂生ナリ
10

(9)(a) 子房室、花柱及ビ柱頭ハ分裂セズ受精前ニハ子房ト胚珠トノ區別明瞭ナラズ
やどりぎ科　Loranthaceæ

(b) 子房二—四室、花柱ハ分裂セズシテ柱頭ハ淺裂ス、胚珠ハ直立
くろうめもどき科　Rhamneæ

(10)(a) 花瓣ノ發狀ハ回旋、蕚片ハ鑷合樣、各々二—四個、子房ハ下位、花盤ハ子房上位、花柱ハ分裂セズ、葉ハ分裂セズ托葉ナシ
つきみさう科　Onagrariæ

(b) 花瓣ノ發狀ハ鑷合樣、開展、或ハ覆瓦樣、覆瓦樣ノ𪜀ハ(*Bruniaceæ*)蕚ハ覆瓦樣、花瓣ハ大抵五個ニシテ子

房ハ大抵半下位然ラザレバ（うこぎ科）花柱ハ分裂シ、葉ハ大抵複葉ニシテ著シカラザル托葉ヲ有ス　11

(11) (a) 花瓣ノ發狀ハ覆瓦樣、葉ハ分裂セズ托葉ナシ果實ハ蒴或ハ瘦果ナリ　*Bruniaceæ*

(b) 花瓣ノ發狀ハ鑷合樣、或ハ開展稀ニ覆瓦樣（うこぎ科）ナレバ葉ハ複葉ニシテ著シカラザル托葉ヲ有シ且果實ハ石果或ハ漿果ナリ　12

(12) (a) 草本或ハ半灌木、花ハ單性、葉ハ互生、托葉欠如（然レ𪜈多クハ卷鬚アリ）種子ニ胚乳ナシ蕚ノ發狀ハ覆瓦樣、多クハ花瓣五個ニシテ雄蕊三個ナリ　ひやうたん科　Cucurbitaceæ

(b) 喬木或ハ灌木極テ稀ニ草本ナレバ花ハ完全或ハ多家ニシテ葉ハ對生若クハ托葉アリ種子ニ多量ノ胚乳アリ蕚ノ發狀ハ大抵鑷合樣或ハ開展、雄蕊ハ花瓣ト同數極テ稀ニ之ヨリ多シ葯ハ縱ニ裂開ス　13

(13) (a) 葉ハ複葉稀ニ單葉ナレバ子房ハ二―四室ニシテ多數ノ花柱アリ相合着スレ𪜈柱頭ニ至ラズ或ハ五―多室ナリ　うこぎ科　Araliaceæ

(b) 葉ハ單葉ニシテ分裂セズ或ハ淺裂ス子房ハ二―四室ニシテ花柱ハ分裂セズ柱頭ハ分裂セズ或ハ淺裂ス若クハ子房一室ナリ　さんしゆ科　Cornaceæ

(14) (a) 花瓣ノ發狀ハ鑷合樣、雄蕊ハ花瓣ト同數或ハ小數、花ハ單性、莖ハ纏繞或ハ匍匐、種子ニ胚乳ナシ　ひやうたん科　Cucurbitaceæ

(b) 花瓣ノ發狀ハ覆瓦樣或ハ回旋或ハ先端ニテ帽狀ニ合着稀ニ開展或ハ鑷合樣ナレバ雄蕊數ハ花瓣ニ倍ス

（ゆきのした科、しくんし科）稀ニ雄蕊數ハ花瓣數ニ同ク或ハ小ニシテ（ゆきのした科）花ハ完全ナリ（或ル種ハ之ヲ除ク此種ハ直立灌木ニシテ花瓣ノ發狀ハ開展、且種子ニ胚乳アリ）

(15) (a) 葉ニ斑點アリ對生或ハ互生、互生ノトキハ雄蕊數花瓣數ニ倍ス（尚又不熟雄蕊アリ）花柱ハ分裂セズ柱頭ハ分裂セズ或ハ淺裂ス花瓣ノ發狀ハ覆瓦樣、萼ハ若キ蕾ニ於テハ覆瓦樣、稀ニ殆ンド全邊ニシテ蕾ニ於テ開展ナリ子房ハ一室ニシテ二―十個ノ胚珠ヲ有シ、且胎坐ハ子房腔ノ基底ヨリ生シ（或ハ子房腔ノ基底ヨリ生ジ且少ク其側壁ニモ及ブ）或ハ子房腔ノ先端及ビ基底ニ附着ス若クハ子房二―三室ニシテ胚珠ハ中央胎坐ニ附着ス　15 ふともゝ科 Myrtaceæ

(b) 葉ニハ多ク斑點ナシ若シ斑點アレバ（しくんし科、ゆきのした科、*Samydaceæ*）萼ハ鑷合樣ニシテ胚珠ハ子房腔ノ頂端ヨリ垂生ス（しくんし科）或ハ柱頭ハ分裂ス或ハ花瓣ハ鑷合樣ナリ或ハ葉ハ互生ニシテ雄蘂花瓣ト同數ナリ　16

(16) (a) 子房一室、胚珠ハ二―六個、子房腔ノ頂端ヨリ垂生ス　しくんし科 *Combretaceæ*

(b) 子房一室ニシテ特生中央胎坐（のぼたん科）或ハ側膜胎坐（ゆきのした科、つきみさう科）アリ或ハ子房多室ナリ　17

(17) (a) 葯ハ頂端ニ一孔アリテ開ク（孔ハ稀ニ一―二個ノ裂目ニ通ズ）稀ニ二孔アリ若クハ一個ノ裂目アリテ開ク雄蕊ハ花瓣ノ倍數或ハ稀ニ之ト同數ニシテ之ニ互生ス　のぼたん科 Melastomaceæ

(b) 葯ハ二個ノ裂目ヲ以テ縱裂ス稀ニ一個ノ裂目ヲ以テ横裂スルヿアレバ雄蕊花瓣ヨリ少シ

18

(18)(a) 蕚ノ發狀ハ鑷合樣、子房ハ完全、或ハ不完全ニ四—五室、花柱ハ分裂セズ柱頭ハ分裂セズ或ハ四裂、花瓣ノ發狀ハ同旋、葯ハ大抵長シ　つきみさう科 Onagrarieæ

(b) 蕚ノ發狀ハ覆瓦樣稀ニ鑷合樣（ゆきのした科）ナレバ花柱分裂シ且花瓣ハ大抵鑷合樣ニシテ葯ハ大抵短シ或ハ子房ハ一—三室ニシテ葯ハ大抵短シ花瓣ノ發狀ハ覆瓦樣或ハ鑷合樣稀ニ同旋ナリ　19

(19)(a) 胚珠ハ子房ノ各室ニ二個、雄蕊ハ花瓣ト同數、葉ハ互生ナリ　*Bruniaceæ*

(b) 胚珠ハ子房ノ各室ニ三個以上極テ稀ニ二個ナレバ雄蘂ハ花瓣ニ倍シ葉ハ對生ナリ　ゆきのした科 Saxifrageæ

(20)(a) 托葉アリ　21

(b) 托葉ナシ　25

(21)(a) 葉ハ對生ナリ　たんがら科 Rhizophoreæ

(b) 葉ハ互生ナリ　22

(22)(a) 子房ハ一室ニシテ胚珠ハ三個以上、花柱ハ多數ニシテ相分離シ或ハ基底ニテ相合着ス果實ハ蒴ナリ喬木或ハ灌木蕚片ハ六—七個ナリ　*Samydaceæ*

(b) 子房ハ多ク多室稀ニ一室ナレバ（ふともゝ科、ばら科）胚珠ハ二個、花柱ハ大抵分裂セズ且果實ハ石果、漿果或ハ瘦果ナリ　23

(23)(a)子房多室ニシテ各室ニ胚珠一—二個稀ニ一室ナレバ各室ニ胚珠二個ナリ葉ニ斑點ナシ果實ハ大抵多肉、花瓣及ビ萼片ハ各々五個、覆瓦樣、種子ニ胚乳ナシ　ばら科 Rosaceæ

(b)子房多室ニシテ各室ニ胚珠三個以上稀ニ(ふともゝ科)一室ニシテ各室ニ胚珠二個ナレバ葉ニ斑點アリテ果實乾燥ナリ　24

(24)(a)花柱分裂セズ柱頭分裂セズ或ハ淺裂ス萼ハ全邊ナリ或ハ三—六裂ニシテ幼蕾ニ於テハ覆瓦樣ナリ或ハ蕾ニ於テハ閉鎖シ後ニ不規則ニ破壞ス花ハ完全或ハ多家ナリ　ふともゝ科 Myrtaceæ

(b)花柱ハ多數相分離シ或ハ基底ニテ相合着ス往々其全長柱頭樣ナリ萼片ハ雄花ニ於テハ二個、鑷合樣ナリ花ハ一家、極テ稀ニ多家　しうかいだう科 Begoniaceæ

(25)(a)花瓣ノ發狀ハ內向鑷合樣、子房ハ一室極テ稀ニ二—三室、葉ニ斑點ナシ *Loaseæ*

(b)花瓣ノ發狀ハ覆瓦樣稀ニ(ふともゝ科)其上部ハ帽狀ニ合着シ合着セルマヽ脫落シ且子房ニ隔壁アリテ葉ニ大抵斑點アリ　26

(26)(a)子房ハ一室、葉ハ大抵鱗片狀或ハ全然欠如極テ稀ニ大ナル無斑點ノ葉アリ莖ハ多肉、葉綠ヲ有ス(綠色)多ク木針及ビ疣アリ花ハ完全、花柱ハ分裂セズ柱頭ハ淺裂ス胚珠ハ無數、多數ノ側膜胎坐ニ附着ス　さぼてん科 *Cacteæ*

(b)子房ハ多室稀ニ一室(ふともゝ科)ナレバ灌木ニシテ葉ニ小斑點アリ且胚珠ハ二個(稀ニ三—十個)ニシテ胎坐ハ子房腔ノ頂端及ビ基底ニ附着シ或ハ子房腔ノ基底ヨリ生ジ往々少ク側壁ニ及ブ　27

(27)
(a) 水草ニシテ葉ハ根生、長柄アリ、水上ニ浮游シ、芽ニ於テ盤旋狀多クハ楯形ナリ胚珠ハ子房ノ側壁或ハ隔壁ニ附着ス果實ハ漿果胚ハ眞直ナリ　ひつじぐさ科　Nymphaeaceæ
(b) 陸生植物多クハ灌木或ハ喬木稀ニ半灌木(ざくろさう科、ふともゝ科)或は草本(ざくろさう科)ナリ草本ノ時ハ葉ハ多肉ニシテ大抵對生、胚珠ハ多少子房腔ノ基底ニ附着ス且果實ハ蒴ニシテ胚ハ彎曲ス　28

(28)
(a) 草本或ハ半灌木、花瓣ハ多數、果實ハ蒴、花柱ハ多數ニシテ相分離シ或ハ基底ニテ相合着ス(花柱ハ其內面往々柱頭狀ナリ)　ざくろさう科　Ficoideæ
(b) 灌木或ハ喬木稀ニ半灌木(ふともゝ科)ナレバ花瓣四—五個ニシテ果實ハ漿果ナリ花柱一個、分裂セズ柱頭分裂セズ或ハ淺裂ス　29

(29)
(a) 葉ハ對生(對生葉ノ內一個ハ他ノモノヨリ非常ニ小ナリ)斑點ナシ葯ハ頂點ニ一孔アリテ裂開ス稀ニ二孔或ハ一個ノ裂目アリ極テ稀ニ二個ノ裂目アリテ裂開ス　のぼたん科　Melastomaceæ
(b) 葉ハ互生稀ニ對生ナレバ斑點ナシ(ふともゝ科)葯ハ二個ノ裂目ヲ以テ縱裂ス稀ニ(ふともゝ科)二個ノ頂生孔穴ヲ以テ開ク　30

(30)
(a) 花盤ハ萼管ニ附着シ雄蕊ハ花盤ニ附着ス胚乳無シ或ハ極テ少量ナリ　ふともゝ科　Myrtaceæ
(b) 雄蕊ハ花瓣ノ基底ニ附着ス花盤ナシ胚乳多量ナリ　えごのき科　Styraceæ

(31)
(a) 完全ナル雄蕊ハ一—十個　32
(b) 完全ナル雄蕊ハ十一個以上　117

(32)(a)子房ハ一個一室或ハ不完全ニ多室（稀ニ數個ノ不熟雌蕊アレ𪜈殆ド唯花柱アルノミ或ハ雄花ニ於テハ多クノ不熟雄蕊アリテ雄花ニ一個ノ成熟子房アリ）　33

(b)子房一個ニシテ完全ニ多室或ハ多數ナリ　61

(33)(a)蕚片二個、相分離シ稀ニ基底ニテ相合着ス胚珠ハ子房ノ基底ヨリ起リ或ハ中央胎坐或ハ二個ノ側膜胎坐ニ附着ス花ハ整正然ラザレバ雄蕊四個或ハ六個ナリ　34

(b)蕚片或ハ蕚ノ裂片ハ三個以上或ハ一個或ハ蕚ハ多少全邊或ハ（荳科）蕚片ハ相合着シテ二淺裂ノ蕚ヲ爲セバ（蕚片ハ高ク相合着シ極テ稀ニ唯基底ニテ合着ス）胚珠ハ一個ノ側膜胎坐ニ附着シテ花ハ不整正且雄蕊ハ五個、九個或ハ十個ナリ　35

(34)(a)葉ハ分裂セズ花ハ整正雄蕊ハ花瓣ト同數ニシテ之ニ對生シ若クハ之ヨリ少數、子房下位ナリ胚珠ハ二個以上子房ノ基底ニ附着シ或ハ一個ノ中央胎坐ニ附着ス　すべりひゆ科　Portulaceæ

(b)葉ハ缺刻ス花ハ大抵不整正、花瓣ハ四個ニシテ距ア雄蕊六個極テ稀ニ四個ニシテ花瓣ニ對生ス胚珠ハ二個ノ側膜胎坐ニ附着ス（然レ𪜈往々胚珠一個ニシテ一個ノ胎坐ノ基底ニ附着シ、他ノ胎坐ニハ胚珠ナシ　けし科　Papaveraceæ

(35)(a)花柱多數全然相分離ス或ハ花柱一個ニシテ多少分裂シ柱頭ハ相分離ス稀ニ（せきちく科、たで科、とけいさう科）無柱々頭多數ナリ　36

(b)花柱一個、分裂セズ、柱頭分裂セズ或ハ淺裂ス或ハ柱頭多數ニシテ基底ニテ相合着ス稀ニ柱頭無柱ニシテ分裂セズ或ハ淺裂ス　45

(36)(a) 子房ニハ一個ノ胚珠アリ 37

(b) 子房ニハ二個以上ノ胚珠アリ 40

(37)(a) 花被ハ不明瞭ニ三個ノ萼片ト三個ノ花瓣トニ分離ス葉柄ノ基底ハ多ク擴大シ托葉ハ合シテ管ヲナス

たで科　Polygonaceæ

(b) 花被ハ一個或ハ四―七個ノ萼片ト同數ノ花瓣トヨリ成ル托葉ナシ 38

(38)(a) 雌花ニハ一個ノ萼片ト一個稀ニ二個ノ花瓣アリ雄花ノ花瓣ハ相合着ス（極テ稀ニ雌花ニハ三―五個ノ分離セル萼片ト同數ノ花瓣アリ雄花ニハ三―五個ノ花瓣ト倍數ノ分離セル萼片アリ花瓣萼片共ニ覆瓦樣而シテ葯ハ相合着シテ環ヲナス

かうもりかづら科　Menispermaceæ

(b) 萼片四―六個、基底ニテ或ハ尙高キ部迄相合着ス花瓣ハ之ト同數ナリ花ハ完全稀ニ多家或ハ一家ナレバ花盤ハ大抵アリ且花糸ハ相分離シ或ハ基底ニテ相合着シ花盤ト合着ス 39

(39)(a) 雄蕊ハ花瓣ト同數(五個)ニシテ之ニ對生ス花盤ナシ

いそまつ科　Plumbagineæ

(b) 雄蕊ハ花瓣ト同數ニシテ之ニ互生ス或ハ之ヨリ少ク或ハ多シ花盤ハ大抵アリ

うるし科　Anacardiaceæ

(40)(a) 胚珠ハ一個或ハ多數ノ中央胎坐若クハ基底胎坐（ぎよりう科ニ於テハ胎坐ハ往々側壁ニ少ク附着ス）ニ附着ス 41

(b) 胚珠ハ多數ノ側膜胎坐ニ附着ス 42

(41)
(a) 葉ハ對生、草本或ハ半灌木、種子ニ胚乳アリ胚ハ大抵彎曲ス　せきちく科　Caryophylleæ
(b) 葉ハ互生、灌木或ハ喬木、極テ稀ニ半灌木或ハ堅硬ナル草本、種子ニ大抵胚乳ナク胚ハ眞直ナリ　ぎよりう科　*Tamariscineæ*

(42)
(a) 蕚ノ基底或ハ咽喉部ニ管狀或ハ糸狀ノ副冠アリ稀ニ之ナキ𬻿ハ花ハ單性ナリ花盤ハ多クアリ雄蕊ハ花瓣ト同數稀ニ多數ナレバ灌木或ハ喬木ナリ蕚片ハ相合着ス種皮ニ溝或ハ格子狀ノ紋アリ多クハ卷鬚植物ナリ　とけいさう科　*Passifloræ*
(b) 花ニ副冠、不熟雄蕊及ヒ花盤ナシ然レ𪜈花瓣ハ往々其內面ニ鱗片ヲ有ス花ハ完全ナリ　43

(43)
(a) 葉ハ對生蕚片ノ發狀ハ內向鑷合樣、雄蕊ハ稀ニ花瓣ト同數多クハ六個花柱一個其先端ハ二─四個ニ分枝ス花ハ紅色或ハ紫色ナリ　*Frankeniaceæ*
(b) 葉ハ互生或ハ根生、蕚片ノ發狀ハ覆瓦樣、雄蕊ハ花瓣ト同數ニシテ四、五或ハ八個ナリ花柱ハ多數ニシテ相分離シ或ハ基底ニテ相合着ス　44

(44)
(a) 花瓣ハ花後脫落、芽ノ發狀ハ回旋蕚片ハ花後脫落葯ハ內面ニテ裂開ス胎坐ハ花柱ニ對生ス　*Turneraceæ*
(b) 花瓣ハ花後凋萎シ發狀ハ覆瓦樣、蕚ハ宿存、葯ハ外面ニテ裂開シ稀ニ側面ニテ裂開ス胎坐ハ花柱ト互生ス　もうせんおけ科　Droseraceæ

(45)
(a) 胚珠ハ二個或ハ多數ノ側膜胎坐ニ附着ス　46

(b)胚珠ハ一―二個或ハ多數ノ時ハ一個ノ側膜胎坐若クハ一個ノ中央或ハ基底胎坐ニ附着ス　50

(46)(a)花瓣ハ四個ナリ　47

(b)花瓣ハ五個ナリ　48

(47)(a)雄蕊六個、四强雄蕊ナリ稀ニ六個ニ至ラズ然ル時ハ子房ハ幼時一室ナレ𪜈花後（果實ニ於テモ）二室ナリ果實ハ長角完全若クハ不完全ニ二室多クハ二裂片ニ裂開ス稀ニ裂開セズ或ハ多數ノ裂片ニ横裂ス

十字花科　Cruciferæ

(b)雄蕊六個、皆同長或ハ殆同長、四强雄蕊ニアラズ稀ニ六個以上若クハ以下ナリ果實ハ一室ノ長角狀蒴或ハ漿果ナリ

ふうちやうさう科　Capparideæ

(48)(a)葉ハ羽狀複葉、花瓣及ビ雄蕊ハ子房周位、葯ハ一個ノ裂目ヲ以テ縱裂ス

Moringeæ

(b)葉ハ單葉、分裂セズ、稀ニ（すみれ科）缺刻、雄蘂及ビ花瓣ハ子房下位或ハ殆下位、葯ハ二個ノ裂目ヲ以テ縱裂シ或ハ(*Ochnaceæ*)頂點ノ孔穴ヲ以テ裂開ス　49

(49)(a)托葉アリ子房ハ三―五個ノ僅ニ突出セル胎坐ヲ有ス胚ハ大、胚乳ハ多肉、雄蕊ハ五個、葯ハ縱裂ス

すみれ科　Violarieæ

(b)托葉ナシ子房ハ二個（稀ニ二個ヲ超過ス）ノ胎坐ヲ有ス胎坐ハ突出シテ子房內ニ不完全ナル隔壁ヲ成ス稀ニ胎坐ハ僅ニ突出ス胚ハ極テ微小胚乳ハ硬固葉ハ互生、蕚ハ覆瓦樣、相分離シ或ハ基底ニテ相合着ス、

雄蕊ハ五個ナリ　　とべら科　Pittosporeæ

(50)(a)花被ハ三個ノ萼片ト三個ノ花瓣トヨリ成ル葉ハ單葉ニシテ分裂セズ或ハ淺裂シ或ハ欠如ス葯ハ二－四個ノ下ヨリ上ニ向テ開ク所ノ戸ニテ裂開ス雄蕊ハ子房周位、胚珠ハ一個垂生、稀ニ別ニ倘一個ノ胚珠アレ𪜈直ニ凋萎ス　　につけい科　Laurineæ

(b)花被片ハ多クハ六個ヲ超過ス稀ニ萼片及ビ花瓣各々三個(荳科、へんるうだ科、及ビ僅少ノうるし科)ナレバ葉ハ複葉(極テ稀ニ單葉或ハ欠如シ且雄蕊ハ子房下位或ハ子房ニハ多數ノ胚珠側胎膜坐ニ附着ス)ナリ葯ハ裂目或ハ孔穴ヲ以テ開キ稀ニ戸ヲ以テ開ケバ(めぎ科)花被片ハ十二個以上ニシテ雄蕊ハ子房下位ナリ　51

(51)(a)草本(或ハ半灌木)、萼片及ビ花瓣ハ各々四個、萼片ハ相分離ス雄蕊ハ子房下位、六個、四強雄蕊稀ニ六個ニ至ラズ葉ハ單葉(往々缺刻)或ハ欠如ス葉ハ整正稀ニ少ク不整正(即二個ノ外花瓣ハ二個ノ內花瓣ヨリ大ナリ然レ𪜈同形)　　十字花科　Cruciferæ

(b)稀ニ草本(或ハ半灌木)ニシテ萼片及ビ花瓣ハ各々四個雄蕊ハ大抵子房周位ニシテ萼片ハ多少相合着ス稀ニ雄蕊ハ子房下位ニシテ萼片相分離スレバ葉ハ複葉或ハ花ハ蝶形花ニシテ雄蕊九－十個ナリ　52

(52)(a)花被ハ十二個以上ノ相分離セル花瓣様片ヨリ成ル花瓣様片ハ各々六個ノ萼片及ビ花瓣ニ不明瞭ニ分ル花被ノ內片(花瓣)ハ覆瓦様、雄蕊ハ之ト同數ニシテ對生ス子房下位ナリ　　めぎ科　Berberideæ (b)花被葉（萼片花瓣共）ハ多ク十個或ハ之ヨリ少シ十二個以上ナレバ萼片ハ大抵多少相合着シ且花瓣ハ鑷合樣或ハ雄蕊ハ花瓣ヨリ多ク或ハ少ク或ハ同數ナレバ之ト互生シ或ハ子房周位ナリ　53

(53)(a)花ハ不整正、葉ハ單葉、分裂セズ、花瓣及ビ雄蕊ハ子房下位、雄蕊ハ八個稀ニ四個ナリ

ひめはぎ科　Polygaleæ

(b)花ハ整正稀ニ不整正（荳科、ばら科、僅少ノうるし科及ビ *Connaraceæ*）ナレバ葉ハ複葉或ハ花瓣及ビ雄蕊ハ子房周位或ハ雄蕊九ー十個ナリ　54

(54)(a)子房ハ不完全ニ二室、各室ニ胚珠二個、胚珠ハ基底ニテ附着ス、花瓣ハ四ー五個、發狀ハ鑷合樣雄蕊ハ花瓣ト同數ニシテ之ニ對生ス卷鬚アリ多ク纏繞スル灌木ナリ

ぶだう科　Ampelideæ

(b)子房ハ完全ニ一室或ハ不完全ニ三室（極テ稀ニ四ー五室）三ー四ー五室ノトキハ（ほろ〳〵のき科、にでのき科）各室ニ一個ノ垂生胚珠アリ或ハ雄蕊ハ花瓣ノ倍數即十個ナリ花瓣ノ發狀ハ覆瓦樣、稀ニ鑷合樣ナレバ雄蕊ハ花瓣ニ倍ス或ハ胚珠ハ一ー三個ナリ（極テ稀ニ三個ヲ超ユレバ草本或ハ喬木ナリ）　55

(55)(a)花瓣ハ四ー六個、發狀ハ鑷合樣、葉ハ單葉、分裂セズ、托葉ナシ、喬木或ハ灌木、極テ稀ニ半灌木ナリ

ほろ〳〵のき科　Olacineæ

(b)花瓣ノ發狀ハ覆瓦樣或ハ回旋或ハ（荳科）唯一個ノ花瓣アリ稀ニ花瓣鑷合樣ナレバ葉ハ複葉ナリ（僅少ノばら科ニ於テハ單葉ナレ𪜈托葉アリ且草本ナリ）　56

(56)(a) 胚珠ハ圓キ中央胎坐ニ附着ス雄蕊ハ花瓣ト同數（四－五個）ニシテ之ニ對生シ且之ニ附着ス葉ハ單葉、分裂セズ托葉ナシ　やぶかうじ科 Myrsineæ

(b) 胚珠ハ子房ノ側壁或ハ基底ニ附着シ或ハ子房室ノ先端ヨリ垂生ス雄蕊ハ稀ニ花瓣ト同數ニシテ之ニ對生ス然ルトキハ葉ハ複葉然ラザレバ單葉ニシテ托葉アリ　57

(57)(a) 雄蕊ハ花瓣ト同數、子房下位、胚珠ハ二個、花ハ多家或ハ單性、托葉欠如或ハ葉柄上ノ腺ト化ス花絲ハ相分離ス　へんるうだ科 Rutaceæ

(b) 雄蕊ハ稀ニ花瓣ト同數ニシテ且子房下位然ルトキハ胚珠一個若クハ三個以上或ハ花ハ完全或ハ托葉アリ　58

(58)(a) 子房ニハ胚珠一個、花ハ整正極テ稀ニ少ク不整正、托葉ナシ然レ𪜈複葉ノ下部ノ小葉ハ往々托葉狀ナリ雄蕊ノ內部ニハ多ク輪狀ノ花盤アリ稀ニ雄蕊ノ外部ニアリ或ハ全然欠如ス花盤雄蕊ノ外部ニアリ若クハ全然欠如スルトキハ葉ハ單葉ニシテ大抵全邊ナリ花絲ハ相分離シ或ハ基底ニテ相合着ス種子ニ假種皮ナシ　うるし科 Anacardiaceæ

(b) 子房ニ二個以上ノ胚珠アリ稀ニ（荳科、ばら科）胚珠一個ナレバ花ハ大抵多少不整正ニシテ蝶形花或ハ僅ニ不整正若クハ全然整正ナレバ托葉アリ　59

(59)(a) 花柱ハ子房ノ基底或ハ稀ニ側邊ヨリ起リ或ハ殆ド其頂點ヨリ起ル側邊或ハ頂點ヨリ起ルトキハ葉ハ單葉ニシテ蕚ハ覆瓦樣ノ五裂片ヲ有シ第五ノ裂片ハ枝ニ對ス或ハ草本ニシテ花瓣ハ鑷合樣且雄蕊ハ一－四個ナリ　ばら科 Rosaceæ

(b) 花柱ハ子房ノ頂點ヨリ起リ或ハ殆ド頂點ヨリ起ル葉ハ單葉ニシテ蕚ニ五個ノ覆瓦樣ノ裂片アルトキハ（荳科）第五ノ裂片ハ枝或ハ莖ト反對ノ位置ニアリ又草本ニシテ花瓣鑷合樣ナルトキハ（荳科）雄蕊ハ五個以上ナリ　60

(60) (a) 胚珠ハ直生、二個、相並ンデ上昇、托葉ナシ　*Connaraceæ*

(b) 胚珠ハ倒生或ハ半倒生、多ク一個ノ側膜胎坐ニ相重リテ附着ス托葉ハ大抵アリ然レ𪜈往々極テ微細ニシテ脱落性ナリ　荳科 Leguminosæ

(61) (a) 花ハ單性ナリ　62

(b) 花ハ完全或ハ多家ナリ　67

(62) (a) 子房ハ多數、相分離シ花柱モ全然相分離ス、三個（稀ニ六個以上）ノ子房ニハ各々胚珠一個アリ　かうもりかづら科 Menispermaceæ

(b) 子房ハ一個、分裂セズ或ハ淺裂ス極テ稀ニ（にがき科、へんるうだ科）子房多數ニシテ全然相分離スルモ花柱ハ少クモ一部分ハ相合着ス　63

(63) (a) 雌花ニハ花被ナシ（唯子房ヨリ成ル然レ𪜈多ク苞ト雜ル）、多肉ナル毬果ヲナス柱頭無柱、不明瞭ニ二裂、胚珠ハ直立ナリ　*Batideæ*

(b) 花ニ花被アリ極テ稀ニ（たかとうだい科）雌雄花ノ内一ニハ花被ナキトキハ花ハ毬果ヲナサズシテ花柱或ハ柱頭ハ分裂シ胚珠ハ下降ナリ　64

(64) (a) 葉ハ羽狀複葉、互生、斑點ナシ花瓣ハ覆瓦樣稀ニ鑷合樣ナレバ喬木ナリ雄蕊ハ花盤ノ外ニアリテ共基底

ニ附着ス花柱ハ明瞭ニ淺裂シ若クハ分裂セル柱頭ヲ有ス或ハ花柱欠如スレハ多數ノ無柱々頭アリ（極テ稀ニ柱頭及ビ花柱共ニ分裂セズ然ルトキハ子房ハ五室ニシテ各室ニ胚珠一個アリ）子房ノ各室ニハ胚珠一―二個、下降ナリ

にがき科　Simarubeæ

(b)葉ハ單葉或ハ掌狀複葉或ハ欠如ス稀ニ羽狀複葉ナレバ葉ハ對生シ（へんるうだ科、ひらぎ科）或ハ雄蕊ハ花盤ノ內部ニ位シ極テ稀ニ其裂片間ニ位ス（むくろじ科）或ハ灌木ニシテ卷鬚アリ且花瓣ハ鑷合樣ニシテ花柱ハ分裂セズ或ハ欠如シ柱頭ハ少ク淺裂シ各子房室ニハ二個ノ上昇胚珠アリ　65

(65)(a)胚珠ハ垂生或ハ下降ナリ

たかとうだい科　Euphorbiaceæ

(b)胚珠ハ直立或ハ上昇稀ニ平臥、葉ハ單葉、分裂セズ斑點ナシ　66

(66)(a)葉ハ對生、托葉アリ蕚ノ裂片ハ二―四個、發狀ハ鑷合樣、花瓣ハ四個、種子ニ胚乳ナシ

Salvadoraceæ

(b)葉ハ互生、托葉ナシ蕚片三個、發狀ハ覆瓦樣或ハ開展、花瓣ハ三個種子ニ多量ノ胚乳アリ

がんかうらん科　Empetraceæ

(67)(a)花柱ハ多數ニシテ相分離シ或ハ唯上部ニテ相合着シ基底ニテ相分離ス或ハ花柱一個ニシテ分裂シ柱頭モ相分離ス或ハ無柱々頭多數ナリ　68

(b)花柱一個、分裂セズ柱頭分裂セズ或ハ淺裂ス或ハ多數ノ柱頭其下端ヲ以テ相合ス或ハ一花ニ一個ノ分裂セル或ハ淺裂セル無柱々頭アリ　83

(68)(a) 完全花及ビ雌花ニ於テハ子房多數相分離ス稀ニ基底ニテ相合着スルコアルモ其中點迄相合着スルコナシ花柱或ハ無柱々頭ハ全然相分離ス 69

(b) 完全花及ビ雌花ニ於テハ子房一個ニシテ分裂セズ或ハ淺裂シ花柱ハ全然或ハ一部相分離ス或ハ子房多數ニシテ花柱ハ一部（基底若クハ先端）相合着ス 73

(69)(a) 托葉アリ葉ハ互生、雄蕊ハ子房周位、蕚ハ四―五淺裂、五淺裂ニシテ覆瓦樣ナレバ蕚ノ第五裂片ハ枝或ハ莖ニ對ス花柱ハ子房ノ眞ノ頂點ヨリ起ラズ ばら科 Rosaceæ

(b) 托葉ナシ 70

(70)(a) 木本（灌木）ニシテ葉ハ對生或ハ輪生、子房ニハ胚珠一個、花瓣及ビ雄蕊ハ子房下位、蕚片及ビ花瓣ハ各々五個ナリ どくうつぎ科 Coriarieæ

(b) 多ク木本ニシテ葉ハ互生或ハ草本ナリ稀ニ（へんるうだ科、べんけいさう科）木本ニシテ葉ハ對生ナレバ子房ニ二個以上ノ胚珠アリ 71

(71)(a) 草本或ハ半灌木稀ニ灌木ナレバ子房ニ三個以上ノ胚珠アリ べんけいさう科 Crassulaceæ

(b) 灌木或ハ喬木、子房ニ二個ノ胚珠アリ 72

(72)(a) 胚珠ハ下降、倒生、雄蕊及ビ不熟雄蕊ハ併セテ三―八個子葉ハ葉狀ニシテ平扁或ハ摺襞ス葉ニハ大抵腺點アリ へんるうだ科 Rutaceæ

(b) 胚珠ハ上昇、直生、雄蕊及ビ不熟雄蕊ハ併セテ十個極テ稀ニ五個ナレバ子葉ハ巴旦杏狀ナリ *Connaraceæ*

(73)(a) 雄蕊ハ子房下位或ハ殆ド然リ花盤欠如然レドモ往々多數ノ相分離セル腺アリ（殊ニぬめごま科及ビふうろさう科）或ハ花絲管ハ花盤ニ彷彿ス（殊ニあをぎり科）（雄蕊ハ子房ノ下ニアリ凸起セル或ハ小ニシテ平扁ナル花托ニ附着ス）　74

(b) 雄蕊ハ明瞭ニ子房周位或ハ多少子房下位ナレバ花盤アリテ輪狀、枕狀或ハ碗狀ニシテ分裂セズ或ハ淺裂シ完全シ或ハ唯一方ニアリ（雄蕊ハ萼ノ上部若クハ中部ニ付着シ或ハ萼管ニ附着スル凹形ノ花盤ノ上緣ニ附着シ或ハ萼ニ附着セザル花盤ノ上部若クハ下部ニ附着ス）　78

(74)(a) 葉ハ對生或ハ輪生、托葉アリ胚珠ハ子房ノ各室ニ三個以上ナリ　みぞはこべ科 Elatineæ

(b) 葉ハ多ク互生或ハ托葉ナシ稀ニ對生（或ハ輪生）ニシテ托葉アレバ胚珠ハ子房ノ各室ニ一－二個ナリ　75

(75)(a) 萼ノ發狀ハ鑷合樣或ハ閉鎖、葉ハ互生、花絲ハ少クモ其基底ニテ相合着ス極テ稀ニ相分離スレバ其內五個ニノミ葯アリ　あをぎり科 Sterculiaceæ

(b) 萼ノ發狀ハ覆瓦樣稀ニ鑷合樣（*Malpighiaceæ.* ふうろさう科）ナレバ葉ハ對生或ハ雄蕊八－十個ニシテ花絲ハ相分離ス　76

(76)(a) 子房ハ一個ニシテ分裂セズ或ハ僅ニ淺裂ス花ハ整正、葉ハ互生稀ニ對生ナレバ胚珠ハ子房ノ各室ニ二個ナリ萼片及ビ花瓣ハ各々四－五個、花ハ完全、草本（或ハ半灌木）ニシテ雄蕊ハ花瓣ト同數、而シテ同數ノ不熟雄蕊アリ或ハ木本ニシテ雄蕊ハ花瓣ニ倍ス花絲ハ其基底ニテ相合着シテ輪ヲナシ或ハ短キ管ヲナス短キ管ニハ多ク五個ノ腺アリ花柱ハ多數、相分離シ或ハ一部相合着ス

ぬめでま科　Lineæ

(b)子房多數ニシテ相分離ス或ハ子房一個ニシテ深ク(胎坐ニ至ル)分裂シ稀ニ分裂セズ或ハ僅ニ淺裂スル時ハ花ハ不整正ニシテ多ク距アリ或ハ葉ハ對生ニシテ且胚珠ハ子房ノ各室ニ一個ナリ　77

(77)(a)子房ハ二ー三室ニシテ胚珠ハ各室ニ一個、灌木或ハ喬木稀ニ半灌木ナレバ葉ハ對生ナリ葉ハ單葉、分裂セズ或ハ淺裂ス萼ノ裂片ハ五個ナリ

Malpighiaceæ

(b)子房ハ五室稀ニ三室ナレバ胚珠ハ各室ニ二個或ハ草本ニシテ葉ハ互生ナリ、草本或ハ半灌木稀ニ灌木或ハ喬木ナレバ雄蕊ハ花瓣ヨリ多ク或ハ子房ノ各室ニ胚珠三個以上或ハ花ハ不整正ニシテ托葉アリ

ふうろさう科　Geraniaceæ

(78)(a)雄蕊ハ花瓣ト同數ニシテ之ニ對生ス子房ハ二ー四室分裂セズ或ハ僅ニ淺裂シ各室ニ胚珠一個アリ花柱ハ基底ニテ相合着スレドモ上部ニテ相分離ス花瓣ノ發狀ハ鑷合樣或ハ開展ナリ

くろうめもどき科　Rhamneæ

(b)雄蕊ハ花瓣ト同數ニシテ之ト互生ス或ハ花瓣ヨリ多ク或ハ少シ　79

(79)(a)胚珠ハ子房ノ各室ニ三個以上草本ニシテ花柱ハ全然相分離ス或ハ木本ニシテ雄蕊八ー十個ナリ

ゆきのした科　Saxifrageæ

(b)胚珠ハ子房ノ各室ニ多クハ一ー二個稀ニ之ヨリ多ケレバ草本ニシテ花柱ハ基底ニテ相分離シ上部ニテ全然相合着ス(へんるうだ科)或ハ木本ニシテ雄蕊三ー五個ナリ(むくろじ科、まゆみ科)

80

(80)(a)葉ハ分裂セズシテ托葉アリ胚珠ハ子房ノ各室ニ二個花瓣ハ萼片ヨリ少ク長シ胚珠ハ埀生ナリ
Chailletiaceæ

(b)葉ハ複葉或ハ托葉ナシ極テ稀ニ單葉ニシテ托葉アレバ胚珠ハ子房ノ各室ニ一個アリ
81

(81)(a)葉ニ腺點アリ雄蕊ハ花盤ノ外部ニ附着ス　へんるうだ科 Rutaceæ

(b)葉ニ稀ニ斑點アリ然ルトキハ雄蕊ハ花盤ノ内部ニ附着ス　82

(82)(a)雄蕊ハ花盤ノ内部（花盤ト子房ノ間）ニ附着ス稀ニ其外部或ハ縁邊ニ附着スレバ胚珠ハ子房ノ各室ニ二個
以上、胚珠ハ上昇ナリ　むくろじ科 Sapindaceæ

(b)雄蕊ハ花盤ノ外部ニアリテ其基底極テ稀ニ其縁邊ニ附着ス胚珠ハ子房ノ各室ニ一個、胚珠ハ下降、子房
ハ深ク分裂ス極テ稀ニ分裂セズ或ハ僅ニ淺裂スレバ葉ハ分裂セズ或ハ灌木ニシテ漿果アリ葉ハ互生複葉
極テ稀ニ單葉ナレバ子房ハ三室ナラズ　にがき科 Simarubeæ

(83)(a)草本或ハ半灌木、萼片四個相分離ス花瓣四個、雄蕊六個、四强雄蕊、子房下位、稀ニ六個ノ内或ル者ハ
不熟或ハ欠如ス胚珠ハ側膜胎坐ニ附着ス　十字花科 Cruciferæ

(b)稀ニ草本或ハ半灌木ニシテ萼片及ビ花瓣ハ各々四個然ルトキハ雄蕊ハ大抵八個極テ稀ニ之ヨリ少キトキハ
（みそはぎ科）萼ハ合萼、雄蕊ハ子房周位且胚珠ハ中央胎坐ニ附着ス　84

(84)(a)萼片及ビ花瓣ノ發狀ハ鑷合樣、雄蕊ハ花瓣ニ倍ス（六－十個）子房ハ二室分裂セズ或ハ僅ニ淺裂ス小灌木ニ

シテ葉ハ分裂セズ且斑點ナシ　*Tremandreæ.*

(b) 稀ニ萼片及ビ花瓣ハ鑷合樣且雄蕊ハ花瓣ニ倍シ且子房ハ二室ナリ然ルトキハ（へんるうだ科、かんらん科、せんだん科）葉ハ複葉或ハ斑點アリ（斑點アルトキハ半灌木若クハ子房ハ深ク分裂ス）　85

(85) (a) 胚珠ハ子房ノ各室（或ハ各裂片）ニ一個アリ　86

(b) 胚珠ハ子房ノ各室（或ハ各裂片）ニ二個以上アリ　97

(86) (a) 雄蕊ハ花瓣ト同數ニシテ之ニ對生、子房周位ナリ花瓣ハ萼ノ咽喉部ニ附着シ發狀ハ鑷合樣或ハ開展、子房ハ二—四室、分裂セズ或ハ少ク淺裂ス　くろうめもどき科　Rhamneæ.

(b) 雄蕊ハ花瓣ト同數ニシテ之ニ互生ス或ハ花瓣ヨリ多ク或ハ少シ極テ稀ニ同數ニシテ對生スルモ（*Malpighiaceæ.*）雄蕊ハ子房下位ニシテ花瓣ノ發狀ハ覆瓦樣、且子房ハ三個ニシテ相分離シ或ハ單ニ軸部ニ於テ會合ス　87

(87) (a) 雄蕊ハ花盤ノ内部ニ附着ス　むくろじ科　Sapindaceæ.

(b) 雄蕊ハ花盤ノ外部（其基底）ニ附着シ或ハ其緣邊（或ハ其裂片間）ニ附着ス或ハ花盤ハ全然欠如ス　88

(88) (a) 花ハ不整正、子房ハ二室ナリ　ひめはぎ科　Polygaleæ.

(b) 花ハ整正稀ニ不整正ナルモ子房ハ三—多室ナリ　89

(89) (a) 草本ナリ雄蕊五個ニシテ子房周位ナリ　*Stackhousieæ.*

(b)喬木或ハ灌木稀ニ草本或ハ半灌木ナルモ雄蕊ハ六個以上或ハ子房周位ナリ　90

(90)(a)草本ナリ萼ニ距アリ雄蕊ハ八個ナリ　ふうろさう科　Geraniaceæ.

(b)喬木或ハ灌木稀ニ草本或ハ半灌木(*Malpighiaceæ.* はまびし科)ナルモ萼ニ距ナク且雄蕊二―六個或ハ十個ナリ　91

(91)(a)花絲ハ相合着ス葉ハ羽狀複葉或ハ三葉複葉ナリ　せんだん科　Meliaceæ

(b)花絲ハ相分離ス稀ニ相合着スルモ葉ハ分裂セズ或ハ淺裂ス極テ稀ニ一葉複葉ナリ　92

(92)(a)葉ニ腺點アリ複葉(然レ𪜈多クハ一葉複葉ニシテ葉柄ニ不明瞭ナル結節アリ)ニシテ大抵互生ナリ花盤アリ　へんるうだ科　Rutaceæ

(b)葉ニ斑點ナシ極メテ稀ニ緣邊或ハ下面ニ斑點アルモ(*Malpighiaceæ*)葉ハ單葉ニシテ對生且花盤ハ著シカラズ　93

(93)(a)雄蕊ハ花瓣ト同數、四―五個ナリ子房ハ分裂セズ或ハ僅ニ淺裂ス胚珠ハ直立、花盤アリ葉ハ分裂セズ托葉ハ多クアリ稀ニ欠如スルモ葉ハ對生ナリ　まゆみ科　Celastrineæ

(b)雄蕊ハ大抵花瓣ヨリ多ク稀ニ之ト同數或ハ少シ花瓣ト同數ナルトキハ(*Malpighiaceæ* にがき科)子房ハ多數ニシテ相分離シ或ハ單ニ其軸部ニ於テ會合シ(深ク分裂スル子房ヲナス)胚珠ハ垂生或ハ垂生セル珠柄ヨリ上昇ス(且花盤ハ顯著ナラズ若クハ葉ハ複葉ナリ)　94

(94)(a) 葉ハ對生或ハ輪生極テ稀ニ互生ナルモ花瓣ハ五個雄蕋ハ四個ニテ內二個ハ不成熟ナリ葉ハ分裂セズ或ハ淺裂ス　*Malpighiaceæ*

(b) 葉ハ互生雄蕋ハ花瓣ト同數或ハ之ニ倍ス極テ稀ニ(にがき科)唯雄花ニ於テノミ花瓣ニ倍シ完全花ニ於テハ少數ナルモ喬木ニシテ葉ハ羽狀複葉ナリ　95

(95)(a) 托葉アリ子房ハ四―六室ナリ　*Ochnaceæ*

(b) 托葉ナシ稀ニ之アルモ子房ハ二室ナリ　96

(96)(a) 葉ハ分裂セズ花瓣ハ五個、雄蕋ハ十個、子房ハ三―五室分裂セズ或ハ少ク淺裂ス托葉ナシ花瓣ノ發狀ハ覆瓦樣或ハ回旋、種皮ハ軟弱、胚乳ト判然區別シ難シ　*Cyrilleæ*

(b) 葉ハ複葉稀ニ單葉ニシテ分裂セザルモ花瓣及ヒ雄蕋ハ各三―四個或ハ子房二室(且托葉アリ)或ハ子房多數相分離シ單ニ花柱ニ因テ相會合ス(且花瓣ハ鑷合樣)種皮ハ皮膚樣ナリ　にがき科　Simarubeæ

(97)(a) 葉ナク葉綠ナク黃色、白色或ハ赤色(綠色ナラズ)ニシテ鱗片アル草本ナリ　ゆうれいさう科　Monotropeæ

(b) 喬木、灌木、半灌木或ハ綠色ニシテ葉アル草本ナリ　98

(98)(a) 花ハ明瞭ニ不整正多クハ距アリ葉ハ對生或ハ輪生、分裂セズ子房ハ三室ナリ　*Vochysiaceæ*

(b) 花ハ多ク整正稀ニ不整正ナルモ葉ハ互生或ハ複葉或ハ子房ハ二室或ハ五室ナリ

(99) (a) 雄蕊ハ花瓣ト同數ニシテ之ニ對生ス花瓣ハ鑷合樣ナリ　99 ぶだう科 Ampelideæ

(b) 雄蕊ハ花瓣ト同數ニシテ之ニ互生ス或ハ之ヨリ多ク或ハ少シ極テ稀ニ（あをぎり科、あわぶき科）花瓣ト同數ニシテ之ニ對生スルモ花瓣ハ覆瓦樣或ハ回旋ナリ　100

(100) (a) 雄蕊及ビ多ク花瓣ハ子房下位稀ニ雄蕊ハ子房下位ナル花瓣ノ基底ニ附着ス花盤ナシ然レ𪜈往々分離セル腺アリ　101

(b) 雄蕊及ヒ花瓣ハ子房周位（蕚ニ附着ス）或ハ子房下位、子房下位ノ時ハ花盤（輪狀、枕狀或ハ碗狀）アリ　108

(101) (a) 花絲ハ其中部或ハ尙上部迄（多クハ葯ニ至ル迄）相合着ス花ハ整正、托葉ナシ蕚ハ覆瓦樣稀ニ鑷合樣ナルモ葉ハ羽狀複葉ナリ　せんだん科 Meliaceæ

(b) 花絲ハ相分離シ或ハ基底ニテ少ク相合着ス（僅少ノふうろさう科ニ於テハ花不整正ニシテ花絲ハ同時ニ基底及ビ先端ニ於テ合着ス然レ𪜈中央部ニテ合着スルヿナシ）稀ニ花絲ハ高キ部迄相合着スルモ（あをぎり科）托葉アリ且蕚ハ鑷合樣或ハ閉銷且葉ハ單葉或ハ掌狀複葉ナリ　102

(102) (a) 子房二室、雄蕊ハ花瓣ト同數或ハ之ヨリ少シ、二―五個ナリ　103

(b) 子房ハ多ク三―多室稀ニ二室ナルモ雄蕊ハ花瓣ヨリ多ク六―十個ナリ　104

(103) (a) 葉ハ對生、花瓣ハ四個發狀ハ內向鑷合樣稀ニ二―三個ナリ雄蕋ハ二個稀ニ四個、胚珠ハ子房ノ各室ニ二個、垂生或ハ下降ナリ　もくせい科 Oleaceæ

(b)葉ハ互生、花瓣ハ五個ニシテ其發狀ハ覆瓦樣、雄蕋五個、胚珠ハ子房ノ各室ニ三個以上、中央胎坐ニ附着シ平臥ナリ花ハ獨生或ハ團聚花、繖形花、繖房花或ハ圓錐花ヲナス、柱頭ハ分裂セズ或ハ僅ニ鋸齒アリ

とべら科　Pittosporeæ

(104)(a)葉ニ腺點アリ托葉ナシ灌木或ハ喬木ナリ

へんるうだ科　Rutaceæ

(b)葉ニ稀ニ斑點アリ然ルトキハ(僅少ノふうろさう科及ビ極テ僅少ノぬめでま科及ビふうちやうさう科)托葉アリ或ハ草本或ハ半灌木ナリ　105

(105)(a)托葉ナシ雄蕋十個極テ稀ニ八個、葉ハ互生或ハ根生胚珠ハ子房ノ各室ニ多數アリ

しやくなげ科Ericaceæ

(b)托葉アリ稀ニ欠如スレバ成熟雄蕋五個極テ稀ニ八—十個ニシテ葉ハ對生且胚珠ハ子房ノ各室ニ二個ナリ　106

(106)(a)萼ノ裂片ハ鑷合樣或ハ閉鎖、花絲ハ多ク相合着ス稀ニ相分離スルモ其内五個ニノミ葯アリ

あをぎり科　Sterculiaceæ

(b)萼ノ裂片ハ覆瓦樣或ハ開展稀ニ鑷合樣ナルモ成熟雄蕋六—十個アリテ花絲ハ相分離ス　107

(107)(a)柱頭ハ分裂セス極テ稀ニ僅ニ淺裂ス托葉アリ子房ハ無柄或ハ短柄ヲ具フ萼片ノ發狀ハ覆瓦樣ナリ

はまびし科　Zygophylleæ

(b)柱頭ハ深ク(其基底迄)分裂ス稀ニ單ニ鋸齒アルノミナルモ托葉ナシ(且萼ニ距アリ)

(99)(a) 雄蕊ハ花瓣ト同數ニシテ之ニ對生ス花瓣ハ鑷合樣ナリ　99　ぶだう科 Ampelideæ

(b) 雄蕊ハ花瓣ト同數ニシテ之ニ互生ス或ハ之ヨリ多ク或ハ少シ極テ稀ニ(あをぎり科、あわぶき科)花瓣ト同數ニシテ之ニ對生スルモ花瓣ハ覆瓦樣或ハ回旋ナリ　100

(100)(a) 雄蕊及ビ多ク花瓣ハ子房下位稀ニ雄蕊ハ子房下位ナル花瓣ノ基底ニ附着ス花盤ナシ然レ𪜈往々分離セル腺アリ　101

(b) 雄蕊及ヒ花瓣ハ子房周位(蕚ニ附着ス)或ハ子房下位、子房下位ノ時ハ花盤(輪狀、枕狀或ハ碗狀)アリ　101

(101)(a) 花絲ハ其中部或ハ尙上部迄(多クハ葯ニ至ル迄)相合着ス花ハ整正、托葉ナシ蕚ハ覆瓦樣稀ニ鑷合樣ナルモ葉ハ羽狀複葉ナリ　108　せんだん科 Meliaceæ

(b) 花絲ハ相分離シ或ハ基底ニテ少ク相合着ス(僅少ノふうろさう科ニ於テハ花不整正ニシテ花絲ハ同時ニ基底及ビ先端ニ於テ合着ス然レ𪜈中央部ニテ合着スルヿナシ)稀ニ花絲ハ高キ部迄相合着スルモ(あをぎり科)托葉アリ且蕚ハ鑷合樣或ハ閉銷且葉ハ單葉或ハ掌狀複葉ナリ　102

(102)(a) 子房二室、雄蕊ハ花瓣ト同數或ハ之ヨリ少シ、二—五個ナリ　103

(b) 子房ハ多ク三—多室稀ニ二室ナルモ雄蕊ハ花瓣ヨリ多ク六—十個ナリ　104

(103)(a) 葉ハ對生、花瓣ハ四個發狀ハ內向鑷合樣稀ニ二—三個ナリ雄蕊ハ二個稀ニ四個、胚珠ハ子房ノ各室ニ二個、垂生或ハ下降ナリ　もくせい科 Oleaceæ (b)葉ハ互生、花瓣ハ五個ニシテ其發狀ハ覆瓦樣、雄蕋五個、胚珠ハ子房ノ各室ニ三個以上、中央胎坐ニ附着シ平臥ナリ花ハ獨生或ハ團聚花、繖形花、繖房花或ハ圓錐花ヲナス、柱頭ハ分裂セズ或ハ僅ニ鋸齒アリ

とべら科　Pittosporeæ

(104)(a)葉ニ腺點アリ托葉ナシ灌木或ハ喬木ナリ

へんるうだ科　Rutaceæ

(b)葉ニ稀ニ斑點アリ然ルトキハ(僅少ノふうろさう科及ビ極テ僅少ノぬめでま科及ビふうちやうさう科)托葉アリ或ハ草本或ハ半灌木ナリ　105

(105)(a)托葉ナシ雄蕋十個極テ稀ニ八個、葉ハ互生或ハ根生胚珠ハ子房ノ各室ニ多數アリ

しやくなげ科Ericaceæ

(b)托葉アリ稀ニ欠如スレバ成熟雄蕋五個極テ稀ニ八ー十個ニシテ葉ハ對生且胚珠ハ子房ノ各室ニ二個ナリ　106

(106)(a)萼ノ裂片ハ鑷合樣或ハ閉鎖、花絲ハ多ク相合着ス稀ニ相分離スルモ其内五個ニノミ葯アリ

あをぎり科　Sterculiaceæ

(b)萼ノ裂片ハ覆瓦樣或ハ開展稀ニ鑷合樣ナルモ成熟雄蕋六ー十個アリテ花絲ハ相分離ス　107

(107)(a)柱頭ハ分裂セス極テ稀ニ僅ニ淺裂ス托葉アリ子房ハ無柄或ハ短柄ヲ具フ萼片ノ發狀ハ覆瓦樣ナリ

はまびし科　Zygophylleæ

(b)柱頭ハ深ク(其基底迄)分裂ス稀ニ單ニ鋸齒アルノミナルモ托葉ナシ(且萼ニ距アリ)

ふうろさう科 Geraniaceæ

(108)

(a) 葯ヲ具スル雄蕋二―三個稀ニ五個ナルモ花瓣ト同數ニシテ之ニ對生ス葉ハ互生、子房ハ二―三室（往々二―三裂）ナリ　あわぶき科 Sabiaceæ

(b) 葯ヲ具スル雄蕋多クハ四―十個、五個ノ𪜈ハ花瓣ト互生シ若クハ花瓣ハ三個ナリ稀ニ完全ナル雄蕋二―三個ナル𪜈ハ（まゆみ科、へんるうだ科、みそはぎ科）葉ハ對生若クハ子房四―五室ナリ　109

(109)

(a) 葉ニ腺點アリ胚珠ハ子房ノ各室ニ二個稀ニ三個以上ナレバ草本或ハ半灌木ナリ　へんるうだ科 Rutaceæ

(b) 葉ニハ多ク斑點ナシ稀ニ之アルモ木本（喬木或ハ灌木）ニシテ胚珠ハ子房ノ各室ニ三個以上アリ　110

(110)

(a) 葉ハ單葉ニシテ分裂セズ　111

(b) 葉ハ淺裂、分裂或ハ複葉ナリ　114

(111)

(a) 雄蕊ハ三―五個、不熟雄蕊ナシ（極テ稀ニ雄蕊五個ニシテ内二―三個ノミ成熟ス）灌木或ハ喬木ナリ　まゆみ科 Celastrineæ

(b) 雄蕊ハ六―十個稀ニ三―五個ナルモ同數ノ不熟雄蕊アリ若クハ草本或ハ半灌木ナリ　112

(112)

(a) 雄蕊及ビ花瓣ハ子房下位ナリ　しやくなげ科 Ericaceæ

(b) 雄蕊及ビ花瓣ハ子房周位ナリ　113

(113)
(a) 葯ノ先端ニハ一個ノ孔穴アリ裂開ス稀ニ二—四個ノ孔穴アリ或ハ一個ノ裂ケ目アルモ果實ハ漿果ナリ蕚ノ裂片ハ覆瓦樣稀ニ開展、帽狀ニ閉鎖シ或ハ殆ド鑷合樣ナリ　のぼたん科 Melastomaceæ

(b) 葯ハ二個ノ裂ケ目ヲ以テ縦裂ス果實ハ蒴ナリ蕚ノ裂片ハ鑷合樣然レ𪜈往々附屬ノ齒片（蕚片ノ托葉）其間ニアリ　みそはぎ科 Lythrariæ

(114)
(a) 托葉アリ葉ハ對生稀ニ互生ナルモ草本ナリ蕚片ノ發狀ハ覆瓦樣或ハ開展雄蕊八—十個（極テ稀ニ之ヨリ少キモ草本ナリ）子房下位、花盤ノ外部ニアリテ其基底ニ附着ス　はまびし科 Zygophylleæ

(b) 托葉ハ多ク欠如ス稀ニ之アルモ木本ニシテ葉ハ互生（且蕚ノ裂片ハ鑷合樣或ハ雄蕊ハ花盤ノ內部ニ附着ス）極テ稀ニ木本ニシテ葉ハ對生ナルモ雄蕊五個ニシテ子房周位ナリ　115

(115)
(a) 雄蕊ハ花盤ノ內部ニ附着ス稀ニ其外部或ハ緣邊ニ附着スルコアルモ葉ハ對生ナリ　むくろじ科 Sapindaceæ

(b) 雄蕊ハ花盤ノ外部ニ附着ス稀ニ（かんらん科）其緣邊ニ附着ス葉ハ互生ナリ　116

(116)
(a) 花絲ハ相分離ス稀ニ花盤ニテ相合着スルモ柱頭ハ無柱ナリ胚珠ハ子房ノ各室ニ二個、子房ハ特生ス、果實ハ石果樣ナレ𪜈往々其外果皮裂開ス　かんらん科 *Burseraceæ*

(b) 花絲ハ多少相合着ス（多クハ葯ニ至ル迄）稀ニ全然相分離スルモ胚珠ハ子房ノ各室ニ三個以上（或ル僅少ノ種ニ於テハ胚珠ハ子房ノ各室ニ二個ナレ𪜈子房ハ其一部花盤內ニ嵌入シ且之ト合着シ又果實ハ蒴或ハ

漿果ナリ）花柱アリ　せんだん科　Meliaceæ

(117)(a) 子房ハ多數相分離シ或ハ唯基底ニテ相合着スレ𪜈其中點迄相合着スルヿナシ柱及ビ柱頭ハ全然相分離ス　118

(b) 子房一個、分裂セズ或ハ淺裂ス（花柱或ハ無柱々頭一－多數）稀ニ子房多數ニシテ相分離シ或ハ基底ニテ相合着スルモ花柱一個或ハ花柱多數ニシテ一部分相合着ス　124

(118)(a) 雄蕊ハ子房周位草本（或ハ半灌木）ニシテ托葉アリ或ハ木本ナリ　119

(b) 雄蕊ハ子房下位稀ニ子房周位（べんけいさう科及ビ僅少ノきんぱうげ科）ナルモ草本（或ハ半灌木）ニシテ托葉ナシ　120

(119)(a) 托葉アリ雄蕊ハ輪狀ニ排列ス葯ハ內面ニテ裂開ス　ばら科　Rosaceæ

(b) 托葉ナシ雄蕊（及ビ花被葉）ハ螺旋狀ニ排列ス葯ハ外面ニテ裂開ス花被葉（萼片及ビ花瓣）ハ多數、凹陷セル花托ノ上緣及ビ其外面ニ附着ス種子ニ胚乳ナシ　らうばい科　Calycanthaceæ

(120)(a) 灌木或ハ喬木、葉ハ互生、花被ハ多ク三個（稀ニ二個）ノ萼片ト六個以上ノ二－多列（稀ニ三個）ノ花瓣ヨリ成ル稀ニ（もくれん科）花被ハ九個以上ニシテ萼及ビ花冠ノ區別ナキ三－多列ノ葉片ヨリ成ルモ萼片ハ脫落性ニシテ種子ニ假種皮ナシ（然レ𪜈外種皮ハ往々多肉ナリ）　121

(b) 草本、或ハ半灌木稀ニ灌木或ハ喬木ナルモ葉ハ對生（きんぱうげ科）或ハ（*Dilleniaceæ*）花被ハ五個（稀ニ四個或ハ六個ニシテ一列）ノ萼片ト五個（稀ニ一－四個或ハ六個）ノ一列ノ花瓣ヨリ成ル然ル𪜈萼片ハ宿存ニシテ種子ニ假種皮アリ　122

(121) (a) 種子ノ胚乳ハ糜爛狀ヲナス蕚片ハ大抵鑷合樣、托葉ナシ　*Anonaceæ*

(b) 胚乳ハ糜爛狀ヲナサズ蕚片ハ大抵覆瓦樣、托葉ハ多クアリ　もくれん科　Magnoliaceæ

(122) (a) 雄蕊ハ花瓣ニ倍ス二輪ニ排列ス一輪ノ雄蕊ハ花瓣ニ對生シ一輪ノ雄蕊ハ花瓣ニ互生ス稀ニ花瓣ト同數ニシテ之ニ互生ス蕚ノ裂片ハ六個以上、宿存、多肉ナル草本或ハ半灌木、果皮ハ種子多數ヲ有ス種皮ハ皮膚樣或ハ革樣ナリ　べんけいさう科　Crassulaceæ

(b) 雄蕊ハ花瓣ヨリ少ク或ハ多ク或ハ其倍數ヨリ多ク或ハ少シ稀ニ之ト同數或ハ倍數ナルモ雄蕊ハ多列或ハ螺旋狀或ハ不整正ニ(多クハ一方ニ偏シテ)排列ス蕚片五個稀ニ六個以上ナルモ或ハ脫落性或ハ灌木或ハ喬木ナリ種皮ハ硬脆性或ハ海綿狀稀ニ革樣ナルモ果皮ニハ種子一個アリ　123

(123) (a) 種子ニ假種皮アリ蕚ハ宿存、葉ハ互生、分裂セズ極テ稀ニ羽狀ニ淺裂或ハ缺刻ス多クハ木本ナリ　*Dilleniaceæ*

(b) 種子ニ假種皮ナシ蕚片ハ脫落性極テ稀ニ宿存ナルモ葉ハ掌狀淺裂或ハ缺刻ナリ草本稀ニ半灌木或ハ木質ノ纏繞植物ナレバ葉ハ對生ナリ　きんぽうげ科　Ranunculaceæ

(124) (a) 子房ハ一室往々不完全ナル隔壁ヲ有ス　125

(b) 子房ハ完全ニ多室ナリ　140

(125) (a) 胚珠ハ三個以上、多數ノ側膜胎坐ニ附着シ或ハ長ク突出セル側膜胎坐ガ造成スル所ノ不完全ナル隔壁ニ附着ス　126

(b)胚珠ハ一個ノ側膜胎坐若クハ一―多數ノ中央胎坐或ハ子房ノ基底ヨリ起ル所ノ胎坐ニ附着ス或ハ胚珠ハ一―二個ニシテ子房腔ノ基底ヨリ上昇シ或ハ子房腔ノ頂點ヨリ埀生ス　133

(126)(a)花被ハ二個ノ萼片及ビ四個ノ花瓣ヨリ成ル極テ稀ニ三個ノ萼片及ビ六個ノ花瓣ヨリ成ル草本ナリ

けし科　Papaveraceæ

(b)萼片或ハ萼ノ裂片ハ三―八個、三個ノ時ハ花瓣ハ五個或ハ灌木或ハ喬木ナリ　127

(127)(a)葉ハ對生或ハ輪生、花柱ハ多數相分離ス極テ稀ニ基底ニテ相合着ス柱頭ハ頂生ニシテ相分離ス

おとぎりさう科　Hypericineæ

(b)葉ハ互生稀ニ對生ナルモ(*Cistineæ.* ふうちやうさう科)花柱ハ一個ニシテ分裂セズ或ハ無柱々頭一個ナリ　128

(128)(a)草本ナリ子房ハ多數ノ無柱々頭或ハ短キ花柱ヲ有シ多クハ柱頭或ハ花柱間ニ穴アリ

レセダ科　Resedaceæ

(b)灌木或ハ喬木稀ニ草本ナルモ(*Cistineæ*及ビ僅少ノふうちやうさう科)子房ハ一個ノ分裂セザル花柱若クハ一個ノ分裂セザル無柱々頭ヲ有ス　129

(129)(a)花絲ハ其全部相合着シテ管ヲナシ葯ハ管ノ外面ニ附着ス　*Canellaceæ*

(b)花絲ハ相分離ス或ハ唯基底ニテ相合着スルモ上部ハ相分離ス　130

(130)(a)葉ハ對生或ハ少クモ其下部ノ葉ハ然リ子房ニ柄ナシ胚珠ハ直生、胚乳ハ粉狀或ハ殆ト軟骨狀、胚ハ大ニ

屈曲シ摺疊シ或ハ卷旋ス　*Cistineæ*

(b)葉ハ互生極テ稀ニ對生ナルモ子房ニ柄アリ（ふうちやうさう科）、胚珠ハ倒生或ハ半倒生、胚乳ハ多肉或ハ欠如ス胚ハ多ク（有柄子房ヲ具スル僅少ノふうちやうさう科ヲ除ク）眞直或ハ唯僅ニ屈曲ス　131

(131)(a)子房ハ無柄或ハ殆ド無柄、分裂セズ多クハ球狀極テ稀ニ柱頭淺裂ス稀ニ明瞭ニ認識シ得ベキ花柱アレバ草本ナリ花ハ完全稀ニ多家、胚乳僅少或ハ全然欠如ス　ふうちやうさう科　Capparideæ

(b)子房一個或ハ花柱多數稀ニ無柱々頭多數極テ稀ニ一個ノ不明瞭ニ淺裂セル無柱々頭アリ然ル時ハ花ハ二家ナリ喬木或ハ灌木種子ニ多量ノ胚乳アリ　132

(132)(a)花瓣ハ革質ノ萼ノ裂片ニ類似シ宿存ス子房ノ各胎坐ニハ多數ノ胚珠アリ極テ稀ニ胚珠少數ナルモ花瓣六—八個ニシテ子房ニ多數ノ花柱アリ花瓣及ビ雄蕊ハ多少子房周位ナリ　*Samydaceæ*

(b)花瓣ハ多ク皮膚樣、萼片ヨリ大ニシテ脱落性ナリ稀ニ花瓣、萼樣ナルモ子房ノ各胎坐ニ唯少數ノ胚珠アリ且花瓣ハ三—五個或ハ（六個以上ノ時）花柱一個ニシテ分裂セズ花瓣及ビ雄蕊ハ子房下位或ハ殆ド然リ　ひゝぎり科　Bixineæ

(133)(a)花柱多數ニシテ相分離ス　ぎよりう科　Tamariscineæ

(b)花柱一個ニシテ分裂セズ且柱頭一個或ハ多數稀ニ無柱々頭一個ニシテ分裂セズ或ハ淺裂ス　134

(134)(a) 蕚片二個、發狀ハ覆瓦様ナリ草本或ハ半灌木、胚珠ハ基底胎坐或ハ中央胎坐ニ附着ス　すべりひゆ科　Portulaceæ

(b) 蕚片三個以上稀ニ二個ナルモ（荳科）喬木ニシテ蕚ノ發狀ハ閉鎖且胚珠ハ側膜胎坐ニ附着ス　135

(135)(a) 葯ハ下ヨリ上ニ向テ開ク所ノ戸ヲ以テ裂開ス胚珠一個、埀生（極テ稀ニ幼若ナル片ハ別ニ尚一個ノ胚珠アレ𪜈後ニ不熟トナル）木本ニシテ單葉（分裂セズ或ハ淺裂ス）托葉ナシ　につけい科　Laurineæ

(b) 葯ハ縦裂ス稀ニ頂上ノ孔穴ヲ以テ裂開ス胚珠二個以上稀ニ一個ニシテ大抵直生或ハ上昇極テ稀ニ（ばら科）一個ニシテ埀生ナルモ草本（或ハ半灌木）ニシテ複葉、托葉アリ　136

(136)(a) 葉ハ對生或ハ輪生、花瓣及ビ雄蕊ハ子房下位蕚片ノ發狀ハ覆瓦様ナリ　とうわう科　Guttiferæ

(b) 葉ハ互生或ハ根生稀ニ（みそはぎ科及ビ僅少ノばら科）對生或ハ輪生ナルモ花瓣及ビ雄蕊ハ子房周位（雄蕊ハ往々殆ド子房下位）ニシテ且蕚ノ裂片（蕚ノ裂片間ニハ往々附屬ノ小葉存ス）ハ發狀鑷合様ナリ　137

(137)(a) 花瓣及ビ雄蕊ハ子房下位、蕚片ノ發狀ハ覆瓦様、葉ハ分裂セズ花ハ獨生或ハ圓錐花ヲ爲ス灌木或ハ半灌木稀ニ喬木、蕚片宿存、種子ニ假種皮アリ　*Dilleniaceæ*

(b) 花瓣及ビ雄蕊ハ子房周位稀ニ殆ト子房下位（荳科）ナルモ蕚ノ發狀ハ閉鎖或ハ鑷合様（極テ稀ニ開展或ハ

殆ト欠如）且羽狀複葉ニシテ一葉複葉或ハ假葉ナリ（假葉ノトキハ花ハ穗狀花或ハ小頭花ヲナス）　138

(138)(a)胚珠ハ三個以上、基底胎坐或ハ中央胎座ニ附着ス稀ニ唯二個ニシテ柱狀ノ中央胎坐ニ附着ス（且子房ハ幼若ナルトキハ不同ナル二室ヲ有シ雄蕋ハ十一個ナリ）托葉ナシ　みそはぎ科 Lythrarieæ

(b)胚珠ハ三個以上ニシテ一個ノ側膜胎坐ニ附着ス或ハ一―二個ニシテ子房ノ基底或ハ側壁ヨリ起リ或ハ子房腔ノ頂端ヨリ垂下ス托葉ハ多クアリ　139

(139)(a)胚珠ハ一個或ハ二個ニシテ相並列ス極テ稀ニ二個以上ニシテ一個ノ側膜胎坐ニ相重リテ附着スルモ花瓣ハ四―六個覆瓦樣、莖ハ草本狀、半灌木狀或ハ灌木狀、花ハ整正、子房ハ無柄或ハ殆ド無柄且雄蕋ハ大抵廿一個以上ナリ　ばら科 Rosaceæ

(b)胚珠ハ二個以上、一個ノ側膜胎坐ニ相重リテ附着シ一―二列ヲナス花瓣ハ一―三個、三個ヲ超過スレバ多ク鑷合樣稀ニ花瓣四―六個ニシテ覆瓦樣ナルモ喬木ニシテ花ハ稍不整正、子房ハ有柄且雄蕋ハ大抵廿個ニ至ラズ　荳科 Leguminosæ

(140)(a)胚珠ハ子房ノ側壁或ハ隔壁ニ附着ス、子房ノ各室ニ三個以上アリ灌木、或ハ喬木　ふうちやうさう科 Capparideæ

(b)胚珠ハ中央胎坐ニ附着ス或ハ子房ノ基底ヨリ起リ或ハ子房腔ノ頂點ヨリ垂下ス（然ルトキハ各室ニ一―二個アリ）　141

(141)(a)花ハ單性、胚珠ハ子房ノ各室ニ一―二個下降ス　たかとうだい科 Euphorbiaceæ (b)花ハ完全或ハ多家稀ニ單性（殊ニとうわう科）ナルモ胚珠ハ上昇或ハ子房ノ各室ニ二個以上アリ　142

(142)(a)雄蕊ハ子房周位ナリ　143

(b)雄蕊ハ子房下位ナリ　147

(143)(a)葉ニ脂液ヲ分泌スル腺點若クハ透明ナル腺點アリ　ふともゝ科　Myrtaceæ

(b)葉ニ腺點ナシ　144

(144)(a)葉ハ對生（對生葉ノ一葉ハ往々他ノ一葉ヨリ小ナリ）稀ニ輪生或ハ互生、互生ノ時ハ蕚ノ裂片（及ビ大抵花瓣モ）六個以上ナリ托葉ナシ　145

(b)葉ハ互生、蕚ノ裂片及ビ花瓣ハ各四―五個、托葉ハ多クアリ　146

(145)(a)葯ニハ頂點ニ一孔アリテ裂開ス極テ稀ニ二個ノ孔穴或ハ一個ノ裂ケ目ヲ以テ裂開スルモ果實ハ漿果ニシテ子房ハ二―六室ナリ蕚ノ裂片ハ發狀覆瓦樣稀ニ開展或ハ殆ド鑷合樣ナリ　のぼたん科　Melastomaceæ

(b)葯ハ二個ノ裂ケ目ヲ以テ縱裂ス果實ハ蒴極テ稀ニ漿果ナルモ子房ハ多室ナリ蕚ノ裂片ハ發狀鑷合樣然レ𪜈往々各裂片間ニ附屬ノ鋸齒片アリ　みそはぎ科　Lythrarieæ

(146)(a)花柱ハ多數相分離シ或ハ基底ニテ相合着ス稀ニ花柱一個ニシテ分裂セザルモ胚珠ハ子房ノ各室ニ一個アリ子房ハ大抵五室若クハ二室、花瓣及ビ雄蕊ハ大抵明瞭ニ子房周位且花瓣ハ發狀覆瓦樣ナリ　ばら科　Rosaceæ

(b) 花柱一個、分裂セズ胚珠ハ子房ノ各室ニ二個アリ子房ハ大抵三室、花瓣及ビ雄蕊ハ大抵僅ニ子房周位、花瓣ハ發狀回旋ナリ　*Dipterocarpeæ*

(147)
(a) 蕚ノ裂片ハ發狀鑷合樣稀ニ開展、閉鎖或ハ欠如ス托葉アリ然レ𪜈往々極テ微細ニシテ脱落性ナリ花絲ハ基底ニテ或ハ往々尚上部迄相合シテ一個ノ管ヲ爲ス　148

(b) 蕚ノ裂片ハ發狀覆瓦樣、（稀ニぼだいじゆ科及ビ僅少ノへんるうだ科、せんだん科及ビとうわう科）鑷合樣、開展、閉鎖或ハ欠如スルモ托葉欠如ス或ハ花絲相分離シ或ハ（ぼだいじゆ科數種）基底ニテ合着シテ多數ノ花絲束ヲナス　149

(148)
(a) 葯一室ナリ　ぜにあふひ科　Malvaceæ

(b) 葯二室ナリ　あをぎり科　Sterculiaceæ

(149)
(a) 蕚ノ裂片ハ發狀鑷合樣稀ニ覆瓦樣或ハ開展ナルモ花瓣ハ鑷合樣或ハ木本ニシテ無斑點ノ互生葉ヲ有シ花盤アリテ且子房ノ各室ニ二個ノ胚珠アリ葉ハ互生稀ニ對生或ハ殆ド然ルモ胚珠ハ子房ノ各室ニ二個アリテ上昇（且花ハ總狀花ヲナス）或ハ三個以上ナリ　ほだいじゆ科　Tiliaceæ

(b) 蕚ノ裂片ハ發狀覆瓦樣稀ニ開展或ハ閉鎖（*Dipterocarpeæ* ニ於テハ往々幼蕾ニ於テ覆瓦樣ニシテ後ニ鑷合樣若クハ開展トナル）、花瓣ハ覆瓦樣或ハ回旋ナリ胚珠ハ子房ノ各室ニ一—二個稀ニ多數ナルモ草本ナリ若クハ葉ハ對生或ハ斑點アリ若クハ蕚片三個若クハ花盤欠如ス　150

(150)
(a) 葉ハ對生或ハ輪生、草本ニシテ托葉ナシ或ハ木本ナリ葉ハ單葉、花ハ完全、多家或ハ單性、完全ノ者ハ花柱多數ニシテ相分離ス或ハ花柱一個ニシテ少クモ其頂點ニ於テ分裂ス極テ稀ニ花柱一個ニシテ分裂セ

ザルモ子房ハ二室ナリ　151

(b) 葉ハ互生或ハ根生稀ニ對生(ふうろさう科、もくこく科)ナルモ草本ニシテ托葉アリ或ハ複葉ナリ或ハ完全ニシテ子房三—六室且花柱分裂セズ　152

(151) (a) 花柱多數絲狀、相分離ス或ハ唯基底ニテ相合着ス托葉ナシ花ハ完全、子房三—五室、胚ニ二個ノ子葉アリ　おとぎりさう科　Hypericineæ

(b) 花柱一個分裂セズ或ハ唯頂點ニテ分裂ス或ハ無柱柱頭一—多數アリ或ハ多數ノ相分離セル短厚ナル花柱アリ稀ニ多數ノ相分離セル絲狀ノ花柱アルモ托葉アリ花ハ單性或ハ多家稀ニ完全ナルモ子房二室或ハ胚ハ分裂セズ　とうわう科　Guttiferæ

(152) (a) 葉ハ管狀、草本ナリ、花柱ノ頂點ハ五裂多クハ五個ノ稜角ヲ有スル若クハ五淺裂ノ傘狀ヲナス胚珠ハ子房ノ各室ニ多數アリ　*Sarraceniaceæ*

(b) 葉ハ管狀ナラズ喬木或ハ灌木稀ニ草本或ハ半灌木ナルモ花柱多數ニシテ相分離シ若クハ花柱一個ニシテ分裂セズ且柱頭ハ分裂セズ或ハ二—三裂ナリ稀ニ柱頭五裂ナルモ(ふうろさう科)胚珠ハ子房ノ各室ニ二個アリ　153

(153) (a) 托葉アリ胚珠ハ子房ノ各室ニ一個且上昇ナリ葉ハ分裂セズ萼片五個稀ニ三—四個ナリ　*Ochnaceæ*

(b) 托葉ハ多ク欠如ス稀ニ之アルモ胚珠ハ子房ノ各室ニ二個以上稀ニ一個ニシテ葉ハ掌狀若クハ羽狀複葉(むくろじ科、もくこく科)或ハ萼片六個ニシテ胚珠ハ垂生ナリ(ぬめでま科)

(154) (a) 花盤(輪狀、碗狀或ハ一方ニ)アリテ雄蕊ノ外部ニ位ス 154

(b) 花盤欠如ス(然レ𪜈往々分離セル腺アリ)稀ニ(へんるうだ科、*Humiriaceae*)花盤アルモ雄蕊ノ内部ニ位ス 155

(155) (a) 胚珠ハ子房ノ各室ニ一個アリ花ハ多家、種子ニ胚乳ナシ萼片四—六個極テ稀ニ三個ナルモ葉ハ羽狀複葉ナリ むくろじ科 Sapindaceæ

(b) 胚珠ハ子房ノ各室ニ二個以上、花ハ完全、種子ニ胚乳アリ萼片三個、葉ハ分裂セズ *Chlaenaceae*

(156) (a) 花柱多數相分離ス稀ニ中部ニテ少ク相連合スルモ基底部ハ相分離ス葯ハ相合着ス子房ハ深ク分裂ス胚ハ極テ微細ナリ喬木或ハ灌木(極テ稀ニ半灌木)ニシテ葉ハ分裂セズ稀ニ多年草ニシテ葉ハ分裂セズ或ハ羽狀淺裂—缺刻ナルモ花瓣ハ萼片ト互生シ心皮ハ不規則ニ裂開シ且種子ニ假皮アリ萼片ハ宿存ナリ *Dilleniaceae*

(b) 花柱一個分裂セズ或ハ頂點ニテ分裂ス或ハ無柱々頭一個分裂セズ或ハ淺裂ス稀ニ花柱多數ニシテ全然或ハ殆ド全然相分離スルモ(もくこく科)葯ハ運動スベシ(丁字形)子房ハ分裂セズ若クハ僅ニ淺裂シ且胚ハ稍大ナリ 157

(157) (a) 花盤アリ然レ𪜈往々基底ニ至ル迄十裂ス子房五—八室ニシテ胚珠ハ子房ノ各室ニ一—三個ナリ花柱分裂セズ柱頭分裂セズ或ハ微細ナル鋸齒ヲ具ス *Humiriaceae*

(b)花盤ナシ子房ハ多ク二ー四室稀ニ五ー多室ナルモ各室ニ四個以上ノ胚珠アリ或ハ花柱一個分裂セズ或ハ多數ニシテ相分離ス　158

(158)

(a)胚珠ハ子房ノ各室ニ二個アリ種子ハ厚シ葯ハ直立多クハ花絲ニ固着ス花瓣ノ發狀ハ回旋、花柱ハ分裂セズ柱頭ハ分裂セズ或ハ三淺裂、萼ハ花後長大シ爲ニ萼ノ裂片ノ或ルモノハ多クハ翼狀ヲナス然レ𪜈往々僅ニ長大スルノミ然ル㕝ハ花ハ獨生或ハ團聚花或ハ圓錐花ヲナス種子ハ一個胚乳ナシ子葉ハ大ニシテ厚シ　*Dipterocarpeæ*

(b)胚珠ハ子房ノ各室ニ三個以上稀ニ一個極テ稀ニ二個ナルモ種子ハ扁平ニシテ葯ハ運動スベク且花瓣ハ發狀覆瓦樣ニシテ花柱五裂ナリ若クハ花瓣ハ發狀回旋ニシテ不等邊而シテ花ハ總狀花ヲナス萼ハ花後長大セズ種子ニハ種々アリ一個ニシテ胚乳ナケレバ花柱分裂セズ或ハ子葉微細或ハ扁平ナリ

もくこく科　Ternstroemiaceæ

合瓣花

(1)(a) 子房ハ下位或ハ半下位ナリ	2
(b) 子房ハ上位或ハ殆ド上位ナリ	21
(2)(a) 雄蕊ハ十一個以上稀ニ五－十個ナルモ其數ハ花冠ノ裂片數ヨリ大ナリ無葉ノ多液草本若クハ葉ノ分裂セザル木本ナリ	3
(b) 雄蕊一－十個花冠ノ裂片ト同數或ハ少數ナリ	6
(3)(a) 雄蕊ハ八個或ハ十個葯ハ其頂點一－二個ノ管ヲ爲シテ裂開ス子房上位ナル花盤アリ	こけもゝ科 Vacciniaceæ
(b) 雄蕊は十一個以上極テ稀ニ（にでのき科）八－十個ナルモ葯ハ縱裂シ且花盤ナシ	4
(4)(a) 子房ハ一室、多液ナル草本、莖ハ厚強、多肉ニシテ刺アリ葉ハ退縮ス極テ稀ニ木本ニシテ充分發育セル多肉葉アリ	さぼてん科 *Cacteae*
(b) 子房ハ多室、木本ニシテ其有樣さぼてんノ如クナラズ	5
(5)(a) 雄蕊ハ萼管ニ附着スル所ノ子房上位ナル花盤ニ附着ス胚乳ハ極テ少量或ハ全然欠如ス葉ニハ大抵斑點アリ	ふともゝ科 Myrtaceæ
(b) 花盤ナシ雄蕊ハ花瓣ノ基底ニ附着ス胚乳多量、葉ニ斑點ナシ	にでのき科 Styraceæ
(6)(a) 雄蕊ハ花冠ノ裂片ト同數ニシテ之ニ對生ス子房ハ完全ニ一室ナリ	7

(b)雄蕊ハ花冠ノ裂片ト同數ニシテ之ニ互生シ或ハ（ひやうたん科）同數ニシテ不規則ニ排列シ或ハ花冠ノ裂片ヨリ少數ナリ　8

(7)(a)胚珠一個、受精前ニハ子房ト區別シ難シ花冠ノ裂片ハ瓣狀鑷合様ナリ　やどりぎ科 Loranthaceæ

(b)胚珠ハ多數、花冠ノ裂片ハ瓣狀覆瓦様、灌木ナリ不熟雄蕊ナク果實ハ裂開セズ　やぶかうじ科 Myrsineæ

(8)(a)子房二個相分離ス然レ𪜈其背部ハ一半萼管ニ着生ス花冠ハ相合着ス　けうちくとう科 Apocynaceæ

(b)子房一個分裂セズ（一―多室）花柱一―多數ナリ　9

(9)(a)花絲ハ花柱ト相合着シテ一個ノ柱ヲナシ二個ノ葯ハ柱上ニ位ス　*Stylideæ*

(b)花絲ハ花柱ト相合着セズ　10

(10)(a)子房一室、胚珠一個アリ葯ハ相合着ス（全然或ハ基底ニ於テ）花冠ノ瓣狀ハ鑷合様或ハ開展、花柱ニハ一―二個ノ柱頭アリ被片ナシ（極テ稀ニ一株ノ植物ノ花ノ内或ルモノニ限リ柱頭三個アリテ胚珠ハ直立ス）種子ハ垂生或ハ無胚乳ナリ　11

(b)子房ハ多ク多數ノ胚珠ヲ有ス稀ニ胚珠一個ナルモ葯ハ相分離ス（且花冠ハ多ク覆瓦様）或ハ花柱ニ三個ノ柱頭アリ（且胚珠ハ垂生）或ハ柱頭ニハ碗狀若クハ二唇ノ被片アリテ之ヲ被フ（且種子ハ直立ニシテ胚乳アリ）　12

(11)(a)花柱ハ完全花及ビ雌花ニ於テハ二裂或ハ柱頭二裂胚珠ハ直立種子ニ胚乳ナシ　きく科 Compositæ (b)花柱及ビ柱頭ハ分裂セズ胚珠ハ垂生、種子ニ胚乳アリ　*Calycereae*

(12)(a)子房ニハ一個ノ胚珠アリ(一室若クハ多室ニシテ一室ノミ成熟ス)雄蕊一—四個、花冠ハ發狀覆瓦樣、葉ハ對生、輪生或ハ根生、胚珠ハ垂生　13

(b)子房ニハ多ク多數ノ胚珠アリ稀ニ(ひやうたん科、すひかづら科、あかね科、くさとべら科)胚珠一個ナルモ雄蕊五個或ハ花冠ノ發狀ハ鑷合樣(花冠鑷合樣ノトキハ葉ハ互生ナリ或ハ胚珠ハ直立ナリ)　14

(13)(a)各花ノ直下ニハ合葉ノ管狀小總苞アリ花ハ小頭花極テ稀ニ聚繖花ヲナス子房ニハ一室アリ花柱及ビ柱頭ハ分裂セズ種子ニハ胚乳(多量或ハ少量)アリ

まつむしさう科 Dipsaceæ

(b)花ニハ小總苞ナク苞アリ然レ𪜈小苞ナシ(極テ稀ニ一個ノ小苞アリ)、聚繖花ヲナス子房ハ三室然レ𪜈二室ハ空虛ニシテ往々單ニ隆起ヲ爲スノミ然ルトキハ花柱二—三裂若クハ分裂セズシテ二—三淺裂ノ柱頭ヲ具ス種子ニ胚乳ナシ或ハ少量ノ胚乳アリ

をみなへし科 Valerianeæ

(14)(a)托葉アリ極テ稀ニ欠如スルモ葉ハ輪生ニシテ花冠ハ整正、四淺裂ナリ子房上位ナル花盤アレ𪜈往々顯著ナラズ葉ハ對生或ハ輪生、單葉、分裂セズ多ク全邊、極テ稀ニ羽狀裂、乾燥スレバ多ク黑變ス

あかね科 Rubiaceæ

(b)托葉ハ稀ニアリ若シ之アルトキハ葉ハ互生或ハ羽狀複葉、或ハ花盤欠如ス花盤欠如スルモ葉ハ黑變セズシテ多ク鋸齒アリ葉ハ根生、互生或ハ對生極テ稀ニ輪生(きゝやう科、いはたばこ科)ナルモ花冠ハ不整正ニシテ五裂ナリ　15

(15) (a) 花ハ單性極テ稀ニ多家ナルモ草本ニシテ子房一室或ハ三室ナリ　ひやうたん科 Cucurbitaceæ

(b) 花ハ完全稀ニ多家(きゝやう科、うこぎ科)ナルモ喬木或ハ灌木ナリ或ハ子房二室ナリ　16

(16) (a) 葉ハ互生或ハ根生極テ稀ニ(きゝやう料)輪生或ハ對生、對生ナルトキハ雄蕊ハ花冠ニ附着セズ雄蕋ハ花冠ノ裂片ト同數ナリ花冠ノ發狀ハ鑷合樣或ハ閉鎖、葯ハ縱裂ス　17

(b) 葉ハ對生稀ニ互生(いはたばこ科)ナルモ完全ナル雄蕋ハ花冠ノ裂片ヨリ少シ雄蕋ハ花冠ニ附着ス(然レ𪜈往々基底ニ近キ部ニ於テ附着ス)　19

(17) (a) 花瓣ハ其全長帽狀ニ相合着シ豫メ相分離スルコトナクシテ枯落ス灌木或ハ喬木ナリ胚珠ハ子房ノ各室ニ一個且垂生ナリ　うこぎ科 Araliaceæ

(b) 花瓣ハ唯其下部ニ於テ相合着シ其先端ハ相分離ス稀ニ數種ノ草本ニ於テハ基底及ビ先端ハ少ク相連結スレ𪜈中部ハ相分離ス子房ノ各室ニハ直立胚珠一個或ハ往々二個以上ノ胚珠アリ　18

(18) (a) 花柱ノ先端ニハ碗狀若クハ二唇ノ被片アリテ之ヲ被フ草本ニシテ乳狀液ナシ　くさとべら科 Goodenovieæ

(b) 花柱ニ被片ナシ多クハ乳狀液アル草本ナリ　きゝやう科 Campanulaceæ

(19) (a) 完全ナル雄蕋ハ五個極テ稀ニ四個ナルモ子房ハ三室ナリ　すひかづら科 Caprifoliaceæ

(b) 完全ナル雄蕋二個或ハ四個、子房ハ不完全ニ二室或ハ四室ナリ　20

(20)(a) 葯室一個ニシテ波狀ニ屈曲シ且分裂セズ或ハ不同ナル區劃ニ分割ス花盤ナシ木本ニシテ對生葉、雄蕋二個果實ハ四片ニ裂開スル蒴果ナリ種皮ハ平滑、胚ハ微細ナリ　*Columelliaceae*

(b) 葯室二個ニシテ波狀ニ屈曲セズ其先端ニ於テハ往々會合シテ一室トナル花盤ハ多クアリ之ナキ時ハ草本ナリ若クハ葉ハ互生ナリ若クハ雄蕚四個ナリ果實ハ二片ニ裂開シ若シクハ一個ノ裂ケ目ヲ以テ裂開スル蒴果ナリ種子ニハ線條或ハ格子狀ノ斑紋アリ胚ハ稍大ナリ　いはたばこ科 Gesneraceæ

(21)(a) 雄蕊ハ花冠ノ裂片ト同數ニシテ之ニ對生シ或ハ之ヨリ多數ナリ　22

(b) 雄蕊ハ花冠ノ裂片ト同數ニシテ之ニ互生シ或ハ之ヨリ少數ナリ　41

(22)(a) 子房多數、相分離シ或ハ基底ノミニテ相合着ス花托ハ全然相分離ス(或ハ無柱々頭ハ全然相分離ス)　23

(b) 子房ハ分裂セズ或ハ淺裂スル時ハ(ぜにあふひ科、あをぎり科、へんるうだ科、しやくなげ科)花托ハ全然或ハ一部相合着ス　24

(23)(a) 蕚ノ裂片ハ三個、花冠ノ裂片ハ六個稀ニ三個、雄蕊ハ多數、花冠ノ裂片ノ倍數ナラズ果實ハ漿果ナリ灌木或ハ喬木ナリ　*Anonaceae*

(b) 蕚ノ裂片ハ四個以上、花冠ノ裂片モ之ニ同ジ雄蕋ハ之ニ倍ス果實ハ蓇葖、草本或ハ半灌木ナリ極テ稀ニ灌木ナル時ハ蕚及ビ花冠ノ裂片ハ各五個ナリ胚珠ハ各心皮ニ多數種子ニ多肉ノ胚乳アリ　べんけいさう科 Crassulaceæ

(24)(a) 子房ハ完全ニ一室ナリ(すべりひゆ科數種ニ於テハ幼稚ナル時完全若クハ不完全ニ數室ナルモ後ニ完全

ニ一室トナル）　25

(b)子房ハ完全ニ稀ニ（えびのき科、ぶだう科、もくこく科）不完全ニ多室ナリ　29

(25)(a)萼片ハ二個、胚珠ハ二個以上、花柱ニ多數ノ柱頭アリ果實ハ蒴ナリ　すべりひゆ科 Portulaceæ

(b)萼片或ハ萼ノ裂片ハ三個以上、胚珠一個或ハ二個以上ノ時ハ花柱、々頭共ニ分裂セズ　26

(26)(a)花柱多數相分離シ或ハ其下部相合着ス或ハ花柱一個分裂セスシテ多數ノ柱頭アリ子房ニ一個ノ胚珠アリ
花ハ完全、萼ノ裂片、花冠ノ裂片、雄蕊、花柱或ハ柱頭ハ各五個ナリ　いそまつ科 Plumbagineæ

(b)花柱一個分裂セズ柱頭分裂セズ或ハ（やぶかうじ科）柱頭ハ不明瞭ニ淺裂ス子房ニ二個以上ノ胚珠アリ　27

(27)(a)胚珠ハ側膜胎坐ニ附着ス複葉、稀ニ假葉、或ハ欠如ス　荳科 Leguminosæ

(b)胚珠ハ特立中央胎坐ニ附着ス單葉、分裂セズ、或ハ淺裂ス極テ稀ニ（浮游セル水草數種ニ於テ）缺刻ス　28

(28)(a)草本ナリ果實ハ二—多種子ヲ有スル蒴（極テ稀ニ瘠果）ナリ葯ハ内面ニテ裂開ス　さくらさう科 Primulaceæ

(b)喬木或ハ灌木極テ稀ニ半灌木、果實ハ裂開セズ多クハ一種子稀ニ二—多種子ナルモ葯ハ外面ニテ裂開ス　やぶかうじ科 Myrsineæ

(29)(a)草本、葉ナク葉綠ナシ、鱗片ヲ有ス黃色、紅色或ハ白色ナリ　ゆうれいさう科 Monotropeæ

(b)木本或ハ綠色ニシテ葉アル草本ナリ　30

(30)(a)花ハ單性、托葉アリ、花盤アレモ往々相分離セル腺トナル　たかとうだい科 Euphorbiaceæ

(b)花ハ完全稀ニ多家或ハ(こくたん科及ビ僅少ノもくこく科)二家ナルモ托葉及ビ花盤ナシ　31

(31)(a)花ハ不整正、子房ハ二室ニシテ各室ニ胚珠一―四個アリ極テ稀ニ三―五室ニシテ各室ニ胚珠一個アリ花盤ナシ花柱ハ分裂セズ柱頭ハ分裂セズ或ハ二―四淺裂、萼片ハ五個、雄蕊ハ八個、極テ稀ニ四―五個ナルモ葉ハ互生ナリ　ひめはぎ科 Polygaleæ

(b)花ハ整正稀ニ少ク不整正ナルモ子房四室或ハ多室ニシテ各室ニ胚珠二個以上且花盤アリ若クハ花柱或ハ柱頭ハ五裂ナリ　32

(32)(a)雄蕊ハ花冠ノ裂片ト同數、花冠ノ裂片ハ發狀鑷合樣ナリ　ぶだう科 Ampelideæ

(b)雄蕊ハ多ク花冠ノ裂片ヨリ多數、稀ニ之ト同數ナルモ花冠ノ裂片ハ發狀覆瓦樣或ハ回旋ナリ　33

(33)(a)葉ハ羽狀複葉、互生、無斑點、無托葉、花冠ノ裂片ハ發狀鑷合樣、花絲ハ高キ部迄相合着ス果實ハ蒴ナリ　せんだん科 Meliaceæ

(b)葉ハ分裂セズ或ハ淺裂シ或ハ分裂ス稀ニ缺刻シ或ハ掌狀複葉ナルモ對生シ若クハ腺點アリ若クハ托葉アリ且(掌狀複葉ニシテ有斑點ナル葉ヲ有スル僅少ノへんるうだ科ヲ除キ)花冠ノ裂片ハ發狀覆瓦樣ナリ

34

(34)

(a)花ハ單性或ハ多家、胚珠ハ子房ノ各室ニ一—二個、花冠ノ裂片ハ發狀回旋、托葉ナシ葯ハ二室ナリ

こくたん科 Ebenaceæ

(b)花ハ完全稀ニ單性或ハ多家ナルモ（にごのき科、もくこく科）胚珠ハ子房ノ各室ニ三個以上ニシテ花冠ノ裂片ハ發狀回旋ナラズ（鑷合樣或ハ覆瓦樣）若クハ（ぜにあふひ科）托葉アリテ葯ハ一室ナリ

35

(35)

(a)雄蘂ハ花冠ノ裂片ト同數或ハ倍數或ハ少數ナリ托葉欠如ス稀ニ之アルモ萼ノ裂片ハ發狀覆瓦樣ナリ

36

(b)雄蘂ハ花冠ノ裂片ノ倍數ヲ超過ス稀ニ小ナル時ハ托葉アリ且萼ノ裂片ハ發狀鑷合樣ナリ

38

(36)

(a)雄蘂ハ花冠ノ裂片ト同數稀ニ多數ナルモ喬木ニシテ雄蘂ハ大抵十一個以上、胚珠ハ子房ノ各室ニ一個ナリ

あかてつ科 Sapotaceæ

(b)雄蘂ハ花冠ノ裂片ヨリ多シ胚珠ハ子房ノ各室ニ二個以上稀ニ一個ナルモ灌木ニシテ雄蘂ハ四—十個ナリ

37

(37)

(a)子房ハ完全或ハ不完全ニ三室ナリ花冠ハ五裂、雄蘂ハ十個ナリ

えごのき科 Styraceæ

(b)子房ハ四—二十室稀ニ二—三室ナルモ花冠ハ二—四裂ニシテ雄蕊ハ四—八個、花冠ハ子房下位、葉ハ分裂

セズ互生或ハ輪生稀ニ對生ナルモ直立若クハ横臥セル灌木ニシテ蕚ハ分裂シ花冠ハ五淺裂シ或ハ發狀回旋ナリ　しやくなげ科 Ericaceæ

(38)(a) 蕚ノ裂片ハ發狀覆瓦樣(數種ノ *Dipterocarpeae* ニ於テハ幼若ナル時ノミ覆瓦樣ニシテ後ニ鑷合樣或ハ開展トナル)　39

(b) 蕚ノ裂片ハ發狀鑷合樣稀ニ開展或ハ閉鎖(相合着ス)　40

(39)(a) 花冠ノ裂片ハ發狀回旋ナリ胚珠ハ子房ノ各室ニ二個、托葉アレドモ顯著ナラズ葉ハ分裂セズ蕚ハ花後增大ス(往々其裂片ハ翼狀ヲナス)　*Dipterocarpeae*

(b) 花冠ノ裂片ハ發狀覆瓦樣或ハ帽狀ニ相合着ス稀ニ回旋ナルモ胚珠ハ子房ノ各室ニ三個以上極テ稀ニ一個ナリ托葉欠如ス稀ニ之アルモ葉ハ掌狀複葉ナリ蕚ハ花後增大セズ　もくこく科 Ternstroemiaceæ

(40)(a) 葯ハ一室極テ稀ニ二―三室ナルモ葉ハ掌狀複葉ニシテ蕚ハ全邊或ハ淺裂シ不熟雄蕊欠如シ若クハ花絲管ノ下部ニ於テ其外部ニ位シ且種子ニ毛アリ子房ハ無柄ナリ　ぜにあふひ科 Malvaceæ

(b) 葯ハ二―三室極テ稀ニ一室ナルモ子房ニ柄アリ(且花絲管ハ子房柄ニ合着ス)葉ハ分裂セズ或ハ淺裂ス稀ニ掌狀複葉ナルモ蕚ハ分裂シ且不熟雄蕊ハ花絲管ノ頂點(葯間ニ)ニ附着ス種子ニ毛ナシ　あをぎり科 Sterculiaceæ

(41)(a) 成熟雄蕊ハ花冠ノ裂片ヨリ少數稀ニ之ト同數ナレバ二個ナリ　42

(b) 成熟雄蕊ハ花冠ノ裂片ト同數ニシテ三個以上ナリ　59

(42)(a) 子房一個、一室或ハ不完全ニ多室ナリ胚珠ハ三個以上　43

(b)子房一個完全ニ多室或ハ子房多數相分離ス　46

(43)(a)子房ハ完全ニ一室、一個ノ特生中央胎坐アリ　たぬきも科 Lentibularieæ

(b)子房ハ完全ニ一室ニシテ多數ノ側膜胎坐ヲ有ス或ハ不完全ナル數室ヲ有ス　44

(44)(a)葉ナク葉綠ナキ（然レ𪜈多クハ鱗片ヲ有スル）草本ナリ　はまうつぼ科 Orobanchaceæ

(b)葉アル綠色ノ草本ナリ　45

(45)(a)喬木（極テ稀ニ纏繞半灌木、羽狀裂ノ葉アリ）、雄蕊四個、蕾ニ於テハ後部ノ花冠裂片ハ外部ニアリテ前部ノ裂片ハ內部ニアリ種子（羽狀裂ノ葉ヲ具スル數種ヲ除ク）ハ增大スル所ノ軟弱ナル胎坐ニ嵌入ス　のうぜんかづら科 Bignoniaceæ

(b)草本或ハ灌木稀ニ喬木ナルモ成熟雄蕊ハ二個ナリ葉ハ分裂セズ蕾ニ於テハ後部ノ花冠裂片ハ大抵內部ニアリ種子ハ極テ微細、胎坐內ニ嵌入セズ　いはたばこ科 Gesneraceæ

(46)(a)胚珠ハ子房ノ各室ニ一個ナリ　47

(b)胚珠ハ子房ノ各室ニ二個以上ナリ　50

(47)(a)雄蕊ハ五—八個、花冠ノ裂片ハ十五—二十四個ナリ　あかてつ科 Sapotaceæ

(b)雄蕊ハ二—四個、花冠ノ裂片ハ四—五個ナリ　48

(48)(a)葉ハ互生（最下部ノ葉ハ往々對生）或ハ根生、胚珠ハ垂生、花ハ頂生穗狀花ヲナス葯ハ多ク最初ヨリ一室稀ニ兩葯室相連合シテ一室トナルヿアルモ然ルトキハ雄蕊ハ二個ナリ　*Selagineae*

(b) 葉ハ對生或ハ輪生稀ニ(くまつゞら科)互生ナルモ胚珠ハ上昇ナリ　49

(49) (a) 子房ハ四裂稀ニ四淺裂ナルモ果實ハ四個ノ乾燥セル小堅果ニ分離ス　唇形科 Labiatæ

(b) 子房ハ分裂セズ極テ稀ニ僅ニ四淺裂ナルモ果實ハ石果狀ニシテ子房ハ幼若ナル𬼀ハ一室ナリ
　くまつゞら科 Verbenaceæ

(50) (a) 葉ハ對生或ハ輪生ナリ　51

(b) 葉ハ互生、根生或ハ欠如ス　55

(51) (a) 雄蕊ハ二個、二個ノ心皮ト互生ス、花ハ整正ナリ　もくせい科 Oleaceæ

(b) 雄蕊ハ四個稀ニ二個ナルモ心皮ト規則正シク互生セズ(雄蕊五個アルベキ所前部或ハ後部ノ二雄蕊ノミ完全ニシテ他ノ雄蕊ハ不完全或ハ全然欠如ス)且花ハ多ク不整正ナリ　52

(52) (a) 胚珠ハ子房ノ各室ニ二個アリテ相並列ス果實ハ分裂果、石果或ハ瘠果ナリ花冠ノ裂片ハ蕟狀覆瓦樣ナリ
　くまつゞら科 Verbenaceæ

(b) 胚珠ハ子房ノ各室ニ二個ニシテ相重ル或ハ三個以上稀ニ二個ニシテ相並列スルモ果實ハ胞間裂開ニシテ花冠ノ裂片ハ蕟狀大抵回旋ナリ　53

(53) (a) 葉ハ複葉稀ニ單葉ニシテ分裂セザルモ子房各室ノ二胎坐ハ花後隔壁ノ成長スルニヨリ相遠ザカルニ至ル且蕚ハ大抵蕟狀閉鎖ナリ柱頭ハ二淺裂種子ニ翼アリ(然レトモ往々翼ハ狹隘或ハ毛トナル)胚乳ナシ
　のうぜんかづら科 Bignoniaceæ

(b) 葉ハ單葉或ハ欠如ス、分裂セズ淺裂シ或ハ分裂ス稀ニ缺刻スルモ柱頭ハ分裂セズ且種子ニ翼ナシ胎坐ハ

子房ノ各室ニ一個稀ニ二個相並列スルモ花後相遠カザルヿナシ蕚ハ發狀覆瓦樣鑷合樣或ハ開展、種子ニハ多ク翼ナシ稀ニ（でまのはぐさ科）翼アルモ胚乳アリ且柱頭分裂セズ　54

(54)(a) 種子ハ多ク强剛ニシテ長キ珠柄ニ附着ス稀ニ斯ノ如キ珠柄之ナキ片ハ花冠ハ發狀回旋ニシテ蕚ハ全邊或ハ多齒若クハ柱頭二淺裂ニシテ蕚ハ基底ニ至ル迄分裂ス果實ハ蒴、胞背裂開ニシテ種子ヲ有スル胎坐ハ蒴ノ裂片上ニ殘留ス　れぞのつめ科 Acanthaceae.

(b) 種子ハ無柄或ハ小ナル珠柄ニ附着ス花冠ハ發狀覆瓦樣、蕚ハ二—五個ノ裂片ヲ有ス、柱頭ハ分裂セズ稀ニ二淺裂ナルモ蕚ハ鋸齒ヲ有シ或ハ淺裂ス或ハ（蕚分裂スル片ハ）果實ハ裂開セズ或ハ胞背裂開或ハ胞背裂開ニシテ裂片ハ殘留スル胎坐ヨリ分離ス子房ハ二室、胚珠ハ各室ニ三個以上稀ニ二個ナルモ柱頭ハ分裂セズ種子ニ胚乳アリ　でまのはぐさ科 Scrophularineae

(55)(a) 子房ハ二—三室ナリ（然レトモ柱頭ノ分裂セザルはまぢんちやう科數種ニ於テハ花後往々四室トナル）　56

(b) 子房ハ四—五室、柱頭ハ淺裂ス　58

(56)(a) 胚珠ハ子房ノ各室ニ二—八個、灌木或ハ喬木、葉ハ分裂セズ雄蕋四個、果實ハ石果或ハ瘠果ニシテ一種子室或ハ一種子ノ石核ヲ有ス　はまぢんちやう科 Myoporineae

(b) 胚珠ハ子房ノ各室ニ多數稀ニ少數ナルモ草本或ハ半灌木或ハ複葉或ハ二雄蕋ナリ果實ハ蒴ニシテ多種子室ナリ　57

(57)(a) 花冠ノ裂片ハ發狀鑷合樣或ハ摺襞シテ且稍覆瓦樣ナリ　なす科 Solanaceae

(b) 花冠ノ裂片ハ覆瓦樣ナレ𪜈摺疊セズ葉ハ單葉然レ𪜈往々缺刻ス缺刻スル𬼂ハ柱頭分裂セズ萼ハ發狀覆瓦樣、鑷合樣或ハ開展、種子ニハ稀ニ翼アリ然ル𬼂ハ柱頭分裂セズ或ハ單ニ先端凹形ナリ（先端凹形ナル𬼂ハ萼ノ裂片ハ發狀覆瓦樣）胎坐ハ子房ノ各室ニ一個或ハ二個ニシテ並列シ花後相遠ザカルヿナシ種子ニ胚乳アリ　ごまのはぐさ科 Scrophularineae

(58) (a) 柱頭ハ分裂セズ或ハ五裂、胚珠ハ子房ノ各室ニ二個種子ニハ少量ノ胚乳ト旋卷セル子葉トアリ　へんるうだ科 Rutaceae

(b) 柱頭ハ二裂、胚珠ハ子房ノ各室ニ三個以上、種子ニ胚乳ナク子葉ハ扁平ナリ　ごま科 Pedalineae

(59) (a) 胚珠ハ子房ノ完全若クハ不完全ナル各室ニ（完全ニ一室ナル子房ニ於テハ子房全体ニ於テ）一—二個ナリ　60

(b) 胚珠ハ各室ニ三個以上ナリ　76

(60) (a) 葉ハ對生或ハ輪生ナリ　61

(b) 葉ハ互生、根生或ハ欠如ス　66

(61) (a) 雄蕊ハ花冠ニ附着セズ葯ハ頂生ノ戸扉或ハ孔穴ヲ以テ裂開ス低キ灌木ニシテ輪生葉アリ花冠ノ發狀ハ回旋、雄蕊ハ四個ナリ　しやくなげ科 Ericaceae

(b) 雄蕊ハ花冠ニ附着ス葯ハ縱裂ス　62

(62) (a) 子房ハ四室、四裂稀ニ四淺裂ナルモ果實ハ四個ノ乾燥セル小堅果ニ分離ス雄蕊四個、花柱ハ先端二裂、稀

ニ分裂セザルモ花冠ハ不整正ニシテ二唇ナリ　唇形科 Labiatae

(b)子房ハ一ー三室稀ニ四室ナルモ子房ハ分裂セズ且果實ハ石果、瘠果或ハ蓋果ナリ　63

(63)(a)花柱ハ唯先端ノ直下ノミ柱頭狀ナリ花冠ノ發狀ハ回旋、花ハ整正ナリ　けうちくとう科 Apocynaceae

(b)花柱ハ先端若クハ先端ノ裂片間ニ於テ柱頭狀ヲナス花冠ノ發狀ハ覆瓦樣或ハ鑷合樣極テ稀ニ（おぎのつめ科）回旋ナルモ花ハ不整正ナリ　64

(64)(a)花冠ノ裂片ハ發狀鑷合樣極テ稀ニ覆瓦樣ナルモ花柱ハ二裂ニシテ各枝ハ各々二個ノ柱頭枝ニ分裂ス葉ハ托葉狀ノ鞘或ハ少クモ一個ノ横線ヲ以テ相連結ス　まちん科 Loganiaceae

(b)花冠ノ裂片ハ發狀覆瓦樣或ハ回旋花柱ハ分裂セズ且柱頭ハ分裂セズ或ハ二淺裂（極テ稀ニ三ー五淺裂）若クハ花柱二裂ニシテ二個ノ分裂セザル柱頭枝アリ托葉ナシ　65

(65)(a)果實ハ蒴、胞間裂開、種子ハ長キ剛強ナル珠柄ニ附着ス　おぎのつめ科 Acanthaceae

(b)果實ハ石果、瘠果或ハ分裂果、種子ニ長キ剛強ナル珠柄ナシ　くまつゞら科 Verbenaceae

(66)(a)草本、葉ナク葉綠ナク鱗片ヲ有シ莖ハ厚クシテ直立ス子房ハ扁平球狀、子房室ハ十二ー二十八個、中央ナル太キ軸ノ周圍ニ配列ス胚珠ハ横臥或ハ下降、花冠ハ五ー八淺裂、發狀ハ覆瓦樣ナリ萼ハ五ー十裂ナリ　*Lennoaceae*

(b)草本ニシテ葉アリ稀ニ（ひるがほ科）葉ナク葉綠ナキ草本ナレバ莖ハ細クシテ纏繞ス（且子房ハ一ー二室）子房室ハ一ー十個稀ニ十一個以上ナレバ子房ハ深ク分裂シ胚珠ハ直立且花冠ニ五稜角アリ發狀ハ摺襞ス

(いぬつげ科)　67

(67)(a) 二回羽狀複葉ニシテ托葉アリ子房ハ一室ナリ　荳科 Leguminosæ

(b) 單葉、分裂セズ或ハ淺裂或ハ分裂稀ニ(はなしのぶ科、ひるがほ科)缺刻スレバ草本或ハ半灌木ニシテ托葉ナク花冠ノ裂片發狀鑷合樣或ハ回旋ニシテ葯ハ背部ヲ以テ附着シ且子房ハ分裂セズシテ多室ナリ　68

(68)(a) 葯ハ一個ノ裂ケ目ヲ以テ縱裂ス　69

(b) 葯ハ二個ノ裂ケ目ヲ以テ縱裂ス　70

(69)(a) 花ハ多少不整正、雄蕋四個、二強雄蕋ナリ　*Selagineæ*

(b) 花ハ整正、雄蕋五個極テ稀ニ四個ニシテ皆同長ナリ(但花冠ハ鑷合樣ナリ)　*Epacrideæ*

(70)(a) 子房一個、完全ニ一室ナリ胚珠ハ垂生或ハ下降ナリ　ぼろ〲のき科 Olacineæ

(b) 子房多數ニシテ相分離シ或ハ一個ニシテ多室ナリ極テ稀ニ(おほばこ科、ひるがほ科)一個ニシテ一室ナルモ胚珠ハ直立或ハ上昇ナリ　71

(71)(a) 雄蕋四個、草本或ハ半灌木、花ハ整正、花柱及ビ柱頭ハ分裂セズ　おほばこ科 Plantagineæ

(b) 雄蕋五個稀ニ六個以上或ハ四個、四個ノ時ハ灌木若クハ喬木若クハ花不整正(花冠傾斜)若クハ花柱二—四裂ナリ　72

(72)(a) 葯ハ基底ニテ附着ス、先端或ハ側部ニテ裂開ス花冠ハ淺裂、發狀ハ回旋ナリ

こくたん科 Ebenaceæ

(b)葯ハ背部ニテ附着ス稀ニ（いぬつげ科）基底ニテ附着スルモ内面ニテ裂開シ且花冠ハ分裂シ發狀覆瓦樣ナ
リ　73

(73)(a)柱頭三個、花柱ハ分裂セズ或ハ三裂ス花冠ハ發狀回旋ナリ　はなしのぶ科 Polemoniaceæ

(b)柱頭一、二、四、或ハ五個以上極テ稀ニ（ひるがほ科）三個ナルモ花冠ハ發狀摺疊シ、或ハ鑷合樣ナリ　74

(74)(a)灌木或ハ喬木花冠ハ發狀覆瓦樣、子房ハ分裂セズ完全ニ四－十八室、花柱ハ分裂セズ、或ハ欠如シ柱頭
ハ頂生分裂セズ或ハ四－十八裂ナリ　いぬつげ科 Ilicineæ

(b)草本、或ハ半灌木稀ニ灌木或ハ喬木ナルモ花冠ハ發狀摺疊シ或ハ內面鑷合樣若クハ花柱二－四裂若クハ
花柱分裂セザルモ先端下ニ於テ其外面ハ柱頭狀ナリ　75

(75)(a)珠孔及ヒ幼根ハ上部ニアリ稀ニ側部（軸ノ方）ニアルモ子房ハ四裂（稀ニ二－四淺裂）ニシテ花柱分裂セス
且花冠ノ發狀ハ覆瓦樣或ハ回旋ナリ多クハ剛毛アル草本ナリ　むらさき科 Boragineæ

(b)珠孔及ヒ幼根ハ下部ニアリ子房ハ分裂セズ或ハ五－多裂稀ニ二裂或ハ四裂ナルモ二個ノ花柱アリ花冠ハ
發狀摺疊シ或ハ內面鑷合樣稀ニ覆瓦樣ナルモ葉ナク葉綠ナキ草本ナリ若クハ花柱二裂ナリ胚珠直立、多
ク纏繞スル草本ニシテ剛毛アルヿ稀ナリ　ひるがほ科 Convolvulaceae

(76)(a)一－二室ノ子房一個若クハ分離セル子房二個アリ　77

(b)三室或ハ多室ノ子房一個若クハ分離セル子房三個以上アリ　88

(77)(a)二回羽狀複葉、子房一個一室、胚珠ハ一個ノ側膜胎坐ニ附着ス　荳科 Leguminosæ (b)單葉ナレ𪜈往々缺刻ス極テ稀ニ掌狀複葉、子房二個相分離ス若クハ一個ニシテ一－二室、然ル𬼀ハ胚珠ハ一個ノ基底胎坐或ハ中央胎坐若クハ二個（稀ニ三個以上）ノ側膜、基底、中央或ハ特生中央胎坐ニ附着ス 78

(78)(a)花柱ノ先端ハ多ク毛ナシ稀ニ毛アルモ乳頭狀突起ナシ花柱ハ先端下ニ於テ外面柱頭狀ヲナス多クハ二個ノ分離セル子房アリ（然レ𪜈花柱或ハ柱頭ハ往々相合着ス） 79

(b)花柱ハ先端ニ於テ若クハ裂片間ニ於テ柱頭狀ヲナス子房一個、分裂セズ或ハ僅ニ淺裂ス 80

(79)(a)花柱二個、柱頭ノ下迄相分離スレ𪜈柱頭ハ相合着ス柱頭ノ緣邊ニハ五個ノ多クハ有色ノ腺狀体アリ柱頭ノ緣邊ニ粘着シ且葯ト互生ス花粉粒ハ相團集シテ花粉塊ヲ爲シ腺狀体ニ懸垂ス

たうわた科 Asclepiadeæ

(b)花柱ハ一個或ハ二個ニシテ基底ニ於テ相分離スレ𪜈上部ニ於テ相合着ス、柱頭ニ腺狀体ナシ而〆往々葯ノ附屬物ハ葯上ニ殘留スレ𪜈葯ニ對生シ花粉其上ニ懸垂セズ

けうちくとう科 Apocynaceæ

(80)(a)雄蕊ハ花冠ニ附着セズ 81

(b)雄蕊ハ花冠ニ附着ス 82

(81)(a)花冠ノ裂片ハ發狀鑷合樣、花絲ハ相合着ス胚ハ中部ニ位ス草本ニシテ乳液ヲ含ム柱頭ヲ被フ所ノ被片ナシ

きゝやう科 Campanulaceæ

(b)花冠ノ裂片ハ發狀覆瓦樣、花絲ハ相分離ス胚ハ極テ微細、側部ニ位ス、花柱一個、分裂セズ柱頭分裂セズ或

ハ少鋸齒アリ胚珠ハ側膜或ハ特生中央胎坐ニ附着シ横臥ヽ種子ニ胚乳アリ　とべら科 Pittosporeæ

(82)(a)花柱二裂(二個ノ頂生柱頭アリ)葉ハ互生或ハ根生稀ニ對生ナルモ淺裂若クハ缺刻ス花冠ハ發狀覆瓦樣或ハ回旋ナリ　はろぎく科 Hydrophyllaceæ

(b)花柱ハ分裂セズ(柱頭ハ分裂セズ或ハ分裂ス)稀ニ二—四裂ナルモ葉ハ對生ニシテ分裂セズ稀ニ互生ナルトキハ花冠ハ發狀鑷合樣或ハ褶襞ス　83

(83)(a)子房ハ一室、葉ハ互生、草本ニシテ五稜角アリ若クハ五淺裂スル花冠アリ或ハ纏繞灌木ニシテ花冠五裂ナリ胚珠四個アリ　ひるがほ科 Convolvulaceæ

(b)子房一—二室、一室ノトキハ葉ハ對生ナリ稀ニ互生ナルモ草本ニシテ花冠ハ分裂シ胚珠五個以上アリ　84

(84)(a)葉ハ對生或ハ輪生或ハ鱗片(多クハ對生ナル)ニ化ス稀ニ根生或ハ互生ナルモ子房一室ニシテ側膜胎坐アリ花冠ハ整正稀ニ少ク傾斜ス葉ニ斑點ナシ　85

(b)葉ハ互生(然レ𪜈往々一所ヨリ二葉出ヅ)或ハ根生稀ニ(ごまのはぐさ科)對生、輪生或ハ鱗片ニ化スルヿアルモ花冠ハ二唇若クハ葉ニ斑點アリ子房二室極テ稀ニ一室ニシテ中央胎坐アリ　86

(85)(a)子房一室或ハ不完全ニ二室(不完全ニ二室ナルトキハ往々胎坐ハ子房ノ中央ニ於テ相接觸スルヿアレトモ決シテ相合着スルヿナシ)稀ニ完全ニ二室ナルモ草本ニシテ花冠ハ發狀回旋ナリ草本稀ニ灌木ニシテ花

柱ハ分裂セズ柱頭ハ二裂ス　りんだう科 Gentianeæ

(b)子房ハ完全ニ二室稀ニ不完全ナル隔壁アルモ木本ニシテ花柱及ビ柱頭ハ分裂セズ若クハ花柱二裂ニシテ二個ノ柱頭ハ二裂ナリ灌木或ハ喬木稀ニ草本或ハ半灌木ナルモ花冠ノ發狀ハ鑷合樣或ハ覆瓦樣ニシテ回旋ナラズ　まちん科 Loganiaceæ

(86)(a)雄蕋四個草本或ハ半灌木、花冠ハ發狀覆瓦樣、整正ナリ蕚ハ四裂、葉ハ根生或ハ互生、斑點ナシ　おほばこ科 Plantagineæ

(b)雄蕋ハ五個以上稀ニ四個ナルモ灌木或ハ喬木或ハ花冠ノ發狀ハ摺疊若クハ鑷合樣或ハ花冠不整正（二唇極テ稀ニ殆ド整正ニシテ且蕚ハ五裂若クハ葉對生ニシテ斑點アリ）　87

(87)(a)花冠ハ發狀鑷合樣或ハ摺疊シ且往々覆瓦樣稀ニ覆瓦樣ニシテ摺疊セザルモ果實ハ漿果或ハ蓋果ニシテ胚ハ（灌木ナル數種ヲ除ク）大ニ屈曲ス葉ハ互生然レ圧往々二葉一所ヨリ生ス（84ノbヲ見ヨ）　なす科 Solanaceæ

(b)花冠ハ發狀覆瓦樣ニシテ摺疊セズ果實ハ蒴ニシテ胞間或ハ胞背裂開、胚ハ眞直或ハ少ク屈曲ス草本或ハ半灌木稀ニ灌木ナルモ葉ハ輪生或ハ對生ナリ　ごまのはぐさ科 Scrophularineæ

(88)(a)子房三個以上相分離シ或ハ基底ニテ相合着ス花柱ハ子房ト同數ニシテ全然相分離ス　べんけいさう科 Crassulaceæ

(b)子房一個ニシテ分裂セズ或ハ淺裂ス（極テ稀ニ分裂ス）花柱一個ニシテ分裂セズ或ハ先端ニテ分裂ス　89

580.552
.B74
Bot

1893

明治二十六年十月十日發兌

(89)(a) 花冠ハ發狀鑷合樣或ハ摺襞ス雄蕊ハ花冠ニ附着ス胚珠ハ子房ノ各室ニ五個以上、中央胎坐ニ附着ス
なす科 Solanaceæ

(b) 花冠ハ發狀覆瓦樣或ハ回旋稀ニ鑷合樣ナルモ雄蕊ハ花冠ニ着生セズ　90

(90)(a) 子房五室、花冠整正、果實ハ胞間裂開ノ蒴稀ニ瘠果葯ハ一個ノ裂ケ目ヲ以テ縱裂シ其背部ニテ附着ス花柱ハ細絲狀、分裂セズ葉ハ分裂セズ萼ハ四—五裂ニシテ覆瓦樣、花絲ハ相分離ス
Epacrideæ

(b) 子房ハ三—四室稀ニ（しやくなげ科）五—二十室ナルモ花冠ハ多少不整正、果實ハ胞背裂開ノ蒴ニシテ葯ニハ先端ニ二個ノ孔穴アリテ裂開ス　91

(91)(a) 雄蕊ハ花冠ニ着生セズ多クハ子房五—二十室ニシテ葯ニハ先端ニ二個ノ孔穴アリテ裂開ス稀ニ子房三—四室ニシテ葯ハ先端ヨリ中央部ニ連亘スル縱ノ裂ケ目ヲ以テ裂開スルモ葉ハ輪生ニシテ雄蕊四個ナリ
しやくなげ科 Ericaceæ

(b) 雄蕊ハ花冠（花冠管或ハ花冠ノ咽喉部）ニ着生ス子房三室、葯ハ二個ノ裂ケ目ヲ以テ縱裂或ハ横裂ス葉ハ根生、互生若クハ對生ナリ雄蕊ハ五個アリ　92

(92)(a) 花冠ハ發狀覆瓦樣、花絲ハ太シ花柱ハ分裂セズ柱頭ハ多少明瞭ニ三裂、幼根ハ長シ
いはうめ科 Diapensiaceæ

(b) 花冠ハ發狀回旋、花絲ハ細絲狀、花柱ハ先端短ク三裂、其枝ハ先端若クハ内面柱頭狀ヲナス幼根ハ短シ
はなしのぶ科 Polemoniaceæ

顯花植物分科撿索篇終

3- 2911

SMITHSONIAN
LIBRARY